

StorageTek Enterprise Library Software

コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス

MSP 用

Release 7.2

E76965-01

2016 年 6 月

StorageTek Enterprise Library Software

コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス
MSP 用

E76965-01

Copyright © 2013, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	49
対象読者	49
ドキュメントのアクセシビリティについて	49
関連ドキュメント	50
表記規則	50
表記上の規則	50
構文規則	50
フロー線	50
必須選択	51
1つのオプション選択	51
デフォルト	51
繰り返し	52
キーワード	52
変数	52
代替値	52
オプション	52
区切り文字	52
範囲	52
リスト	54
空白スペース	55
制御文の構文規則	55
新機能	57
1. ELS コマンドインタフェース	59
統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート	59
SMC コマンドインタフェース	60
コンソールからの SMC コマンドの発行	60

SMC コマンド接頭辞を使用したコマンドの発行	60
MSP Modify コマンドを使用した SMC コマンドの発行	61
キーワードパラメータ	61
SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指 定	62
JOBname、STEPname、および PROCstep を指定する SMC コマンド	63
ユーティリティからの SMC コマンドの発行	63
HSC および VTCS コマンドインタフェース	64
コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行	64
コマンド接頭辞を使用した HSC および VTCS コマンドの発行	64
MSP Modify コマンドを使用した HSC および VTCS コマンドの 発行	65
キーワードパラメータ	65
ユーティリティからの HSC および VTCS コマンドの発行	66
PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行	67
HSC サービスレベル	68
Base サービスレベルの機能	68
Base サービスレベルの動作中にインターセプトされたマウ ント要求	69
Full サービスレベルの機能	69
2. SMC コマンド、ユーティリティ、および制御文	71
ALLOCDef	71
説明	71
構文	71
パラメータ	72
オプションパラメータ	73
ALLOCJob	78
説明	78
構文	78
パラメータ	79
オプションパラメータ	79

CMDDef	82
説明	82
構文	82
パラメータ	82
COMMtest	83
説明	83
構文	83
パラメータ	84
DISMount	85
説明	85
構文	86
パラメータ	86
Display DRIve	86
説明	87
構文	87
パラメータ	87
Display POLicy	89
説明	89
構文	89
パラメータ	90
Display RC	90
説明	90
構文	90
パラメータ	91
Display SERVer	91
説明	92
構文	92
パラメータ	92
Display SMC	93
説明	93
構文	93
パラメータ	93

Display STORMNGR	93
説明	94
構文	94
パラメータ	94
Display TAPEPlex	95
説明	95
構文	95
パラメータ	95
Display Volume	96
説明	96
構文	96
パラメータ	97
DRIVemap	97
説明	97
構文	98
パラメータ	98
オプションパラメータ	99
Help	99
説明	99
構文	99
パラメータ	100
HTTP	100
説明	101
構文	101
パラメータ	102
チューニングパラメータ	103
LIMIT	104
説明	104
構文	105
パラメータ	106
LlSt	108
説明	108

構文	108
パラメータ	109
LOG	110
説明	110
構文	110
パラメータ	111
オプションパラメータ	112
METAdatA	113
説明	113
構文	114
パラメータ	114
MONitor	115
説明	115
構文	116
パラメータ	116
モニターパラメータ	116
MOunt	118
説明	119
構文	119
パラメータ	119
MOUNTDef	120
説明	120
構文	121
パラメータ	121
オプションパラメータ	122
MSGDef	125
説明	126
構文	126
パラメータ	126
オプションパラメータ	127
MSGJob	128
説明	128

構文	128
パラメータ	129
オプションパラメータ	129
POLicy	131
説明	131
構文	132
パラメータ	134
名前付きポリシーパラメータ	136
READ	140
説明	140
構文	140
パラメータ	140
RESYNChronize	142
説明	142
構文	143
パラメータ	143
Route	143
説明	144
構文	144
パラメータ	144
SERVer	145
説明	145
構文	146
パラメータ	146
指定された SERVer パラメータ	147
SIMulate	149
説明	149
構文	150
パラメータ	151
例	152
STORMNGR	153
説明	153

構文	153
パラメータ	154
TAPEPlex	155
説明	155
構文	156
パラメータ	157
指定された TAPEPlex パラメータ	158
TCPIP	159
説明	160
構文	160
パラメータ	160
TCPIP のパラメータ	161
TRace	162
説明	162
構文	163
パラメータ	164
ジョブ名/コンポーネントのパラメータ	165
TREQDef	166
説明	167
構文	167
パラメータ	167
TAPEREQ 制御文	169
構文	169
パラメータ	170
TAPEREQ 定義の無効化	175
UEXit	175
説明	176
構文	176
パラメータ	177
UNITAttr	177
説明	178
構文	179

パラメータ	180
デバイス属性	180
USERMsg	181
説明	181
構文	182
パラメータ	182
VMSG	182
説明	183
構文	183
パラメータ	183
XCLIENT	185
説明	185
構文	186
パラメータ	186
XUDB	187
説明	188
構文	188
パラメータ	188
XUDB セキュリティデータセット	189
3. HSC コマンド、ユーティリティ、および制御文	191
ACTivities	191
説明	191
構文	192
パラメータ	192
JCL の追加の要件	194
追加のソート制御カード	195
ACTMVCgn	195
説明	195
構文	196
パラメータ	196
JCL の追加の要件	197

ARCHive	197
説明	198
構文	198
パラメータ	198
例	199
ARCHive レポート (MOVEVTV の指定なし)	199
フィールド	200
フィールド (MVC レポート)	201
ARCHive MOVEVTV レポート (MOVEVTV の指定あり)	201
AUDit	202
説明	202
構文	203
パラメータ (実ボリュームの監査)	204
オプションパラメータ (ALL または ACS)	205
オプションパラメータ (ACS のみ)	206
パラメータ (仮想ボリューム監査)	208
パラメータ (仮想ボリューム監査)	209
監査レポート	209
AUDit レポートのメッセージ	210
BACKup	213
説明	214
構文	214
パラメータ	214
JCL の追加の要件	215
CANcel	215
説明	215
構文	215
パラメータ	215
CAPPref	216
説明	216
構文	217
パラメータ	217

CDs	220
説明	220
構文	220
パラメータ	221
CDSCEat	222
説明	222
構文	222
パラメータ	223
JCL の追加の要件	225
CDSData	225
説明	225
構文	226
パラメータ	226
CDSDEF	227
説明	227
構文	227
パラメータ	228
CLean	230
説明	230
構文	230
パラメータ	231
COMMPath	231
説明	231
構文	232
パラメータ	232
CONFIg	234
説明	234
構文	235
パラメータ	235
CONFIg CLINK 文	237
構文	237
パラメータ	238

CONFIg CLUSTER 文	240
構文	240
パラメータ	240
CONFIg GLOBAL 文	241
構文	241
パラメータ	242
CONFIg HOST 文	250
構文	251
パラメータ	251
CONFIg MVCVOL 文	252
CONFIg RECLAIM 文	252
構文	252
パラメータ	252
CONFIg RTDpath 文	254
構文	255
パラメータ	256
CONFIg STORMNGR 文	257
構文	258
パラメータ	258
CONFIg TAPEPLEX 文	259
構文	259
パラメータ	259
CONFIg VTD 文	261
構文	261
パラメータ	261
VTD ユニットアドレスの指定	262
CONFIg VTSS 文	263
構文	263
パラメータ	264
CONFIg VTVVOL 文	267
CONSolid	267
説明	268

構文	268
パラメータ	268
CONSolid レポートメッセージ	269
DBSERVer	270
説明	270
構文	271
パラメータ	271
DEComp	272
説明	272
構文	272
パラメータ	272
出力	273
FLATDD パラメータの出力	273
SLSPRINT の出力	273
DELETSCR	274
説明	274
構文	274
パラメータ	275
DELETSCR レポート	276
DIRBLD	277
説明	277
構文	278
パラメータ	278
DISMount	278
説明	278
構文	279
パラメータ	279
Display	280
Display ACS	282
説明	283
構文	283
パラメータ	283

出力	283
Display ACTive	284
説明	284
構文	284
パラメータ	284
出力	285
フィールド	285
Display ALI	292
説明	292
構文	292
パラメータ	293
Display Cap	293
説明	293
構文	293
パラメータ	293
出力	294
Display CDS	296
説明	296
構文	296
パラメータ	296
出力	296
Display CLInk	297
説明	297
構文	297
パラメータ	298
出力	298
フィールド	299
Display CLUster	300
説明	300
構文	301
パラメータ	301
出力	301

フィールド	301
Display CMD	303
説明	303
構文	304
パラメータ	304
Display COMMPath	304
説明	304
構文	305
パラメータ	305
Display CONFIG	305
説明	306
構文	306
パラメータ	306
出力	306
フィールド	307
Display DRives	309
説明	309
構文	309
パラメータ	310
Display DRIVE_INFO	312
説明	312
構文	313
パラメータ	313
Display EXceptns	315
説明	315
構文	315
パラメータ	316
出力	316
Display LINKSto	318
説明	318
構文	318
パラメータ	318

出力	319
Display LMUPDEF	319
説明	320
構文	320
パラメータ	320
Display LOCKs	320
説明	320
構文	320
パラメータ	321
出力	321
フィールド	321
Display Lsm	322
説明	322
構文	323
パラメータ	323
出力	324
Display Message	324
説明	324
構文	325
パラメータ	325
Display MGMTDEF	325
説明	326
構文	326
パラメータ	326
Display MIGrate	326
説明	326
構文	326
パラメータ	327
出力 (Display Migrate)	327
フィールド	328
出力 (Display Migrate DETail)	328
フィールド	328

出力 (Display MIGrate AUTO)	329
出力 (Display MIGrate DELAY)	330
Display MNTD	330
説明	330
構文	330
パラメータ	330
Display MONitor	331
説明	331
構文	331
パラメータ	331
Display MVC	332
説明	332
構文	332
パラメータ	332
出力	332
フィールド	333
Display MVCPool	338
説明	338
構文	339
パラメータ	339
出力	340
フィールド	341
Display OPTion	342
説明	342
構文	342
パラメータ	342
Display PATH	342
説明	343
構文	343
パラメータ	343
出力	344
フィールド	344

Display Queue	345
説明	345
構文	345
パラメータ	346
出力	346
Display REPLICat	346
説明	346
構文	347
パラメータ	347
出力	347
フィールド	347
Display Requests	348
説明	348
構文	348
パラメータ	348
Display RTD	348
説明	349
構文	349
パラメータ	349
出力	349
フィールド	350
出力	352
フィールド	353
Display SCRAtch	353
説明	353
構文	354
パラメータ	354
出力	356
Display SEN	357
説明	358
構文	358
パラメータ	358

サポートされている HSC SEN イベント	359
サポートされている VTCS SEN イベント	359
Display SERVER	360
説明	360
構文	360
パラメータ	360
出力	360
Display SRVlev	361
説明	361
構文	361
パラメータ	361
Display Status	361
説明	362
構文	362
パラメータ	362
出力	362
Display STORCLas	363
説明	363
構文	363
パラメータ	363
出力	364
Display STORMNgr	365
説明	365
構文	365
パラメータ	365
出力	365
フィールド	366
Display TASKs	367
説明	367
構文	367
パラメータ	367
出力	367

フィールド	368
Display THReshld	369
説明	369
構文	369
パラメータ	370
出力	371
Display Volser	372
説明	372
構文	372
パラメータ	372
出力	373
Display VOLume_Info	374
説明	375
構文	375
パラメータ	375
Display VSCRatch	376
説明	376
構文	376
パラメータ	376
出力	377
フィールド	377
Display VTD	377
説明	378
構文	378
パラメータ	378
出力	378
フィールド	379
Display VTSS	380
説明	381
構文	381
パラメータ	381
出力	381

フィールド	381
Display VTSS DETail の出力	383
フィールド	383
Display VTV	385
説明	385
構文	386
パラメータ	386
出力	386
フィールド	386
DRAin	389
説明	390
構文	390
パラメータ	390
DRCHKPT	391
説明	391
構文	391
パラメータ	391
DRMONitr	391
説明	392
構文	392
パラメータ	392
DRTEST	395
DRTEST CREATE	395
説明	396
構文	396
パラメータ	397
JCL の追加の要件	398
DRTEST PRIMEprd	400
説明	400
構文	401
パラメータ	401
DRTEST RESET	402

説明	402
構文	403
パラメータ	403
DRTEST START	403
説明	404
構文	404
パラメータ	404
DRTEST STOP	404
説明	405
構文	405
パラメータ	405
EEXPORT	406
説明	406
構文	406
パラメータ	407
EJect	408
説明	409
構文	409
パラメータ	410
オプション 1 のパラメータ	411
オプション 2 のパラメータ	412
ENter	414
説明	415
構文	415
パラメータ	415
EXECParm	416
説明	416
構文	417
パラメータ	417
EXPORT	418
説明	418
構文	418

パラメータ	419
JCL の追加の要件	420
FMTLOG	421
説明	421
構文	421
パラメータ	421
JCL の追加の要件	422
IMPORT	422
説明	422
構文	422
パラメータ	423
JCL の追加の要件	425
INITialize	425
説明	426
構文	426
パラメータ	427
JCL の追加の要件	428
INVENTORY	429
説明	429
構文	430
パラメータ	430
リターンコード	432
インベントリレポート	432
LIBGen	432
説明	433
構文	433
パラメータ	433
JCL の追加の要件	434
出力	434
LMUPDEF	435
説明	436
構文	436

パラメータ	436
LMUPATH 制御文	438
構文	438
パラメータ	438
LOGUTIL	439
説明	440
構文	440
パラメータ	441
LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文	442
構文	442
パラメータ	442
LOGUTIL GENAUDIT 文	443
構文	443
パラメータ	443
LOGUTIL LOCATE_VTV 文	444
構文	444
パラメータ	444
LOGUTIL UNDELETE 文	445
構文	445
パラメータ	446
MEDVERfy	446
説明	447
構文	447
パラメータ	447
MEDVERfy レポート	449
MERGEcds	449
説明	450
構文	450
パラメータ	450
JCL の追加の要件	452
SLSMERGE 制御文	452
構文	453

パラメータ	453
パラメータ (実ボリューム)	453
パラメータ (仮想データを含む CDS)	454
パラメータ (ポールドータを含む CDS)	454
MERGMFST	455
説明	455
構文	455
パラメータ	455
JCL の追加の要件	456
METAdat	456
説明	456
構文	456
パラメータ	457
生成されるタグ	457
MGMTDEF	458
説明	458
構文	459
パラメータ	459
MGMTclas 制御文	460
構文	460
パラメータ	461
MIGRSEL 制御文	471
構文	471
パラメータ	472
MIGRVTV 制御文	474
構文	474
パラメータ	474
MVCATTR 制御文	476
構文	476
パラメータ	476
STORclas 制御文	477
構文	478

パラメータ	478
動的リクレイムの使用	481
STORMNGR パラメータと ACS パラメータの相互作用	483
FROMLST パラメータの使用方法	483
STORLST 制御文	485
構文	485
パラメータ	486
STORSEL 制御文	486
構文	486
パラメータ	487
VTSSLST 制御文	488
構文	489
パラメータ	489
VTSSSEL 制御文	490
構文	491
パラメータ	491
MIGrate	493
説明	494
構文 (フォーマット 1)	494
パラメータ (フォーマット 1)	494
構文 (フォーマット 2)	496
パラメータ (フォーマット 2)	496
MNTD	496
説明	496
構文	497
パラメータ	497
MODify	502
説明	502
構文	503
パラメータ	504
MOUNT	507
説明	508

構文	508
パラメータ	509
パラメータ (特定のボリュームをトランスポートにマウントする には)	509
スクラッチボリュームをトランスポートにマウントするには	509
VTV を VTD にマウントし、オプションで管理クラスを VTV に 割り当てるには	510
MOVE	511
説明	511
構文	511
パラメータ	512
MVCDRain	514
説明	514
構文	514
パラメータ	515
MVCMMAINT	517
説明	517
構文	517
パラメータ	518
JCL の追加の要件	521
リターンコード	521
MVCMMAINT レポート	522
MVCPLRPT	522
説明	523
構文	523
パラメータ	523
名前付き MVC プールのレポート	524
フィールド	525
MVCRPt	529
説明	529
構文	529
パラメータ	529

MVC レポート	530
MVC サマリーレポート	531
フィールド	531
MVC 詳細レポート	536
フィールド	537
OFFload	538
説明	539
構文	539
パラメータ	539
JCL の追加の要件	540
OPTION TITLE 制御文	540
構文	541
パラメータ	541
OPTion	541
説明	541
構文	541
パラメータ	542
RECall	545
説明	545
構文	545
パラメータ	546
RECLaim	547
説明	548
構文	548
パラメータ	548
RECONcil	550
説明	550
構文	551
パラメータ	551
RECONcil レポート	553
RECONcil レポート (MOVEVTV を指定しなかった場合)	553
フィールド	554

MVC レポートのフィールド	555
RECONcil MOVEVTV レポート	555
RECOVer	556
説明	556
構文	557
パラメータ	557
RELease	557
説明	558
構文	558
パラメータ	558
REPLaceall	559
説明	559
構文	559
パラメータ	559
REStore	560
説明	560
構文	560
パラメータ	560
JCL の追加の要件	560
SCRAtch	561
説明	561
構文	561
パラメータ	561
SCREdist	562
説明	562
構文	563
パラメータ	564
SCRPT	566
説明	566
構文	566
パラメータ	567
SCRPT レポート	567

フィールド	567
SENter	568
説明	569
構文	569
パラメータ	569
SET	569
SET CLNPRFX	571
説明	571
構文	571
パラメータ	572
SET CLNPRFX の手順	572
SET COMPREFX	572
説明	573
構文	573
パラメータ	573
SET DRVHOST	575
説明	575
構文	576
パラメータ	576
SET EJCTPAS	576
説明	576
構文	576
パラメータ	577
SET EJCTSKP	577
説明	578
構文	578
パラメータ	578
SET FREEZE	578
説明	579
構文	579
パラメータ	579
SET HOSTID	580

説明	581
構文	581
パラメータ	581
SET HSCLEVel	582
説明	582
構文	582
パラメータ	583
SET LOGFILE	583
説明	583
構文	584
パラメータ	584
SET MAJNAME	585
説明	585
構文	585
パラメータ	585
SET MIGOPT	586
説明	586
構文	586
パラメータ	587
SET NEWHOST	587
説明	588
構文	588
パラメータ	588
SET RMM	589
説明	589
構文	589
パラメータ	589
SET SCRLABL	590
説明	590
構文	590
パラメータ	591
SET SLIDRIVS	591

説明	591
構文	592
パラメータ	592
HSC がアクティブな状態での SET SLIDRIVS の実行	595
SET SLIDRIVS の手順	596
9310 および 9740 の場合:	596
SL3000 および SL8500 の場合:	596
SET SLISTATN	597
説明	597
構文	597
パラメータ	597
SET SMF	598
説明	598
構文	598
パラメータ	599
SET TAPEplex	599
説明	599
構文	599
パラメータ	600
SET TCHNIQE	600
説明	600
構文	600
パラメータ	601
SET TCHNIQE の手順	601
SET VAULT	602
説明	602
構文	602
パラメータ	603
SET VAULTVOL	604
説明	605
構文	605
パラメータ	605

SET VOLPARM	606
説明	606
構文	607
パラメータ	607
JCL の追加の要件	608
SET VOLPARM を使用した POOLPARM/VOLPARM の無効化	608
POOLPARM 制御文	608
構文	609
パラメータ	610
TYPE(SCRATCH) のサブパラメータ	611
TYPE(CLEAN) のサブパラメータ	612
TYPE(MVC) のサブパラメータ	612
TYPE(EXTERNAL) のサブパラメータ	615
VOLPARM 制御文	616
構文	616
パラメータ	617
SET VOLPARM UPDATE	618
説明	619
構文	619
パラメータ	619
JCL の追加の要件	620
POOLPARM Change 制御文	620
構文	620
パラメータ	621
VOLPARM Change 制御文	621
構文	622
パラメータ	622
SET VOLPARM JOIN	622
説明	623
構文	623
パラメータ	623
JCL の追加の要件	623

SRVlev	623
説明	624
構文	624
パラメータ	624
STOPMN	625
説明	625
構文	625
パラメータ	625
SWitch	626
説明	626
構文	627
パラメータ	627
例	630
TRace	630
説明	631
構文	631
パラメータ	631
TRACELKP	633
説明	633
構文	633
パラメータ	633
UEXIT	634
説明	634
構文	635
パラメータ	636
UNSCratch	637
説明	637
構文	637
パラメータ	637
UNSElect	637
説明	638
構文	638

パラメータ	639
Vary	639
説明	639
構文	639
パラメータ	640
Vlew	643
説明	643
構文	643
パラメータ	644
VLEMAINT	648
説明	649
構文	649
パラメータ	649
オプションパラメータ (VLEMAINT COPYMVC)	651
VOLPCONV	651
説明	652
構文	652
パラメータ	652
JCL の追加の要件	652
VOLRpt	653
説明	653
構文	653
パラメータ	655
JCL の追加の要件	662
ボリュームレポート	662
フィールド	663
合計レポート	665
ボリュームレポート合計	665
サブプール合計	665
VTVMaint	665
説明	666
構文	666

パラメータ	666
リターンコード	669
VTVMAINT レポート	669
VTVRPt	670
VTVRPt BASIC	670
説明	670
構文	671
パラメータ	671
VTV レポート (基本)	672
フィールド	673
VTVRPt COPIES	675
説明	675
構文	675
パラメータ	676
VTV レポート (COPIES)	677
フィールド	678
VVAUDIT	679
説明	679
構文	679
パラメータ	679
Warn	680
説明	680
構文	680
パラメータ	681
4. SMC ユーティリティ	683
SMC ユーティリティのリターンコードおよびメッセージ	684
統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUUI)	684
JCL の例	685
パラメータ	686
必須データセット定義 (DD) 文	687
UUIIN データセット	688

構文規則	688
制御文	688
STDOUT データセット	691
出力データセット定義 (DD) 文	691
リモート UII 入力および出力	692
リモート UII 入力	693
リモート UII 出力	693
SDD コマンド	693
構文	693
パラメータ	694
CONFIG コマンドの例	695
IMPORT コマンドの例	697
EXPORT コマンドの例	698
MERGMST コマンドの例	699
POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティー (SMCUTRQ)	700
JCL の例	700
制御カード	701
入力例	702
例 1	703
例 2	703
例 3	703
出力例	703
テープ管理抽出ユーティリティー (SMCUDBX)	704
SMC スクラッチ抽出ユーティリティーの実行	706
CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUDBX の使用	707
構文	708
パラメータ	709
日付関連パラメータ	709
JCL の要件	710
出力の説明	711
SMC UII シミュレーションユーティリティー (SMCUSIM)	711
フェーズ 1 での処理	712

フェーズ 2 での処理	713
JCL の例	714
パラメータ	714
必須データセット定義 (DD) 文	717
UIIIN データセット	717
構文規則	717
制御文	718
STDOUT データセット	718
SMCUSIM ユーティリティーの CSV 例	718
トレースフォーマットユーティリティー (SMCUGTF)	719
JCL の例	719
VSM コンソール SMF オフロードユーティリティー (SMCUSMF)	719
JCL の例	719
パラメータ	720
必須データセット定義 (DD) 文	721
SMCUSMF の使用法	721
5. HSC スタンドアロンユーティリティー	723
ユーティリティー管理者 (SLUADMIN)	723
SLUADMIN の呼び出し	723
SLUADMIN 実行パラメータ	724
SLUADMIN 定義文	726
一般的な定義文	726
CDS 定義文	727
UII の出力定義文	728
SLUADMIN 出力の要求	728
XML 出力の要求	729
CSV 出力の要求	729
CSV コマンド	729
SLUADMIN プログラムのリターンコード	733
ユーティリティーコマンドで作成されるレポート	734
レポートの見出し	734

SLICREAT	734
制御データセット初期化 JCL の作成	735
DD 文	736
SLICREAT プログラムの実行	737
SLICREAT EXEC 文	737
SLICREAT プログラムの正常な完了の検証	738
カートリッジ容量の計算 - SL8500 および SL3000	738
SLICREAT を使用したスタンバイ CDS のみの作成	738
スタンバイ CDS を作成する SLICREAT EXEC 文	739
SLICREAT を使用した DASD スペースの計算	739
スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB)	739
入力形式	740
キーワード形式	741
構文	741
パラメータ	741
位置形式	744
構文	744
パラメータ	745
日付関連パラメータ	746
JCL の要件	747
JCL の例	748
出力の説明	749
6. VTCS スタンドアロンユーティリティ	751
RTV ユーティリティ	751
構文	751
パラメータ	752
JCL の要件	755
RTV ユーティリティレポートメッセージ	755
RTV LISTONLY の一覧表示	760
RTV 圧縮解除の一覧表示	761

A. MEDia、RECtech、および MODel の値	763
メディアタイプ (MEDia)	763
記録技法 (RECtech)	767
モデルタイプ (MODel)	771
B. ライブラリの識別	773
ACSid	773
LSMid	773
CAPid	773
CAP 番号	773
パネル、行、列	775
パネル	775
行	776
列	777
C. テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチン	781
SLUDRCA1	781
SLUDRRMM	782
SLUDRTLm	782
SLUDRSMC	783
SLUDRZAR	783
索引	785

表の一覧

3.1. Display のオプション	280
3.2. Display EXceptns のエラーメッセージ	316
3.3. HSC SEN イベント	359
3.4. VTCS SEN イベント	359
3.5. DRTEST のオプション	395
3.6. LIBGEN 出力のラベル	435
3.7. MGMTclas の ACSlist/DUPlex のシナリオ	465
3.8. IMMDELAY および IMMEDmig と同等の値	467
3.9. 有効な MVC メディア名および互換性のある SWAPTO RTD のデバイスタイプ	477
3.10. STORSEL の機能	487
3.11. VTSSSEL の機能	491
3.12. 有効なワイルドカード	495
3.13. SET のオプション	570
3.14. コマンド接頭辞コードと文字との対応関係	574
3.15. HSC の状態/SET SLIDRIVS の動作	595
3.16. LSM ID とライブラリ ID	629
3.17. TRace のコンポーネント	631
3.18. TRACELKP のルックアップ名	634
3.19. VTVRPt のオプション	670
4.1. SLUADMIN リターンコード	684
4.2. 制御カード 1 の情報	701
4.3. 制御カード 2 の情報	701
4.4. 制御カード 3 の情報	702
4.5. テープ管理サブシステム抽出ファイルの形式	706
6.1. RTV ラベルタイプ	753
A.1. メディアタイプ	763
A.2. メディアタイプのデフォルト	766
A.3. 記録技法	767
A.4. 記録技法のデフォルト	770

A.5. モデルタイプ 771

例の一覧

1.1. PARMLIB の順次データセットを定義する JCL	67
1.2. PARMLIB のパーティション分割されたデータセットを定義する JCL	68
2.1. SIMulate コマンドの出力 - テープポリシー未適用	153
3.1. ARCHive レポート (MOVEVTV の指定なし)	199
3.2. ARCHive MOVEVTV レポート	201
3.3. 監査レポート	209
3.4. DEComp FLATDD の出力	273
3.5. DEComp SLSPRINT の出力	274
3.6. DELETSCR レポート	276
3.7. Display ACS の出力	284
3.8. Display ACTive の出力 (詳細なし)	285
3.9. Display Active DETail の出力	285
3.10. Display Cap の出力	294
3.11. Display CDS の出力	296
3.12. Display CLink の出力 (パラメータなし)	298
3.13. Display CLink の出力 (FROMvtss の指定あり)	298
3.14. Display CLUster の出力	301
3.15. Display CONFIG の出力	306
3.16. Display LINKSto の出力	319
3.17. Display LOCKs の出力	321
3.18. Display MIGrate の出力	327
3.19. Display MIGrate DETail の出力	328
3.20. Display MIGrate AUTO の出力	329
3.21. Display MIGrate DELAY の出力	330
3.22. Display MVC の出力	333
3.23. Display MVCPool の出力 (NAME が POOL1)	340
3.24. Display MVCPool の出力 (NAME が指定されていない場合)	340
3.25. Display PATH の出力	344
3.26. Display Active の出力 (詳細なし)	346
3.27. Display REPlicat の出力	347

3.28. Display RTD の出力	349
3.29. Display RTD の出力 (Display RTD Queued)	352
3.30. Display SCRatch の出力 (すべて)	356
3.31. Display SCRatch の出力 (subpool)	356
3.32. Display SCRatch の出力 (ACS)	357
3.33. Display SCRatch の出力 (LSM)	357
3.34. Display SERVER の出力	361
3.35. Display STORCLas の出力	364
3.36. Display STORMNgr の出力	366
3.37. Display TASKs の出力	367
3.38. Display THReshld コマンドの出力	371
3.39. Display VSCRatch の出力	377
3.40. Display VTD の出力	379
3.41. Display VTSS の出力	381
3.42. Display VTSS Detail の出力	383
3.43. Display VTV の出力	386
3.44. SLSSTATN ファイル	399
3.45. SLSVTSS ファイル	399
3.46. INVENTORY レポート	432
3.47. MEDVERfy レポート (1/2)	449
3.48. MEDVERfy レポート (2/2)	449
3.49. MVCMAINT レポート	522
3.50. 名前付き MVC プールのレポート	524
3.51. MVCRPt MVC サマリーレポート	531
3.52. MVCRPt の MVC 詳細レポート (追加フィールド)	536
3.53. RECONcil レポート (MOVEVTV を指定しなかった場合)	553
3.54. RECONcil MOVEVTV レポート	556
3.55. SCRPT レポート	567
3.56. VOLRpt レポート	662
3.57. VTVMAINT レポート	669
3.58. VTVRPt BASIC レポート	672
3.59. VTVRPt COPIES レポート	677

4.1. SMCUUUI ユーティリティーを実行する JCL	686
4.2. SMCUTRQ ユーティリティーを実行する JCL	700
4.3. SMCUTRQ ユーティリティーの出力	703
4.4. スクラッチ抽出ユーティリティーの JCL 例	711
4.5. スクラッチ抽出ユーティリティーの出力メッセージ例	711
4.6. SMCUSIM ユーティリティーを実行する JCL	714
4.7. SMCUGTF ユーティリティーを実行する JCL	719
4.8. SMCUSMF ユーティリティーを実行する JCL	720
5.1. SLUADMIN を呼び出す JCL	724
5.2. MVC RPT コマンドの CSV 出力	733
5.3. SLICREAT JCL	735
5.4. アクティブな HSC で TMS データベースを処理する JCL	748
5.5. HSC CDS DDname で TMS データベースを処理する JCL	748
5.6. DFSMSrmm データベースを処理する JCL	749
5.7. SMC 抽出ファイルを処理する JCL	749
5.8. SMC からリモート TapePlex までを処理する JCL	749
5.9. スクラッチ変換ユーティリティーの出力 (LIBONLY も TAPEPLEX もない 場合)	750
5.10. スクラッチ変換ユーティリティーの出力 (LIBONLY または TAPEPLEX が ある場合)	750
6.1. RTV LISTONLY の一覧表示	760
6.2. RTV 圧縮解除の一覧表示	761

はじめに

このドキュメントでは、ELS の基本ソフトウェア製品である SMC、HSC、VTCS、および CDRT によって提供されるコマンド、制御文、およびユーティリティーについて説明します。

このソフトウェアソリューションは次の基本ソフトウェアで構成されます。

- Oracle の StorageTek ストレージ管理コンポーネント (SMC)
(以前 StorageTek HTTP Server と呼ばれていた製品を含みます)
- Oracle の StorageTek ホストソフトウェアコンポーネント (HSC)
- Oracle の StorageTek 仮想テープ制御ソフトウェア (VTCS)
- Oracle の StorageTek 並行障害回復テスト (CDRT)

対象読者

このドキュメントは、ELS の構成および保守を担当するストレージ管理者、システムプログラマ、およびオペレータを対象としています。

このドキュメントで説明しているタスクを行うには、次の事項についての知識が必要です。

- MSP/EX オペレーティングシステム
- JES
- エンタープライズライブラリソフトウェア (ELS)

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?>

[ctx=acc&id=info](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

StorageTek ライブラリ、テープドライブ、および関連するソフトウェアやハードウェアに関するドキュメントにアクセスするには、次の URL にある Oracle Technical Network (OTN) にアクセスしてください。

<http://docs.oracle.com>

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用しています。

表記上の規則

次のような表記上の規則があります。

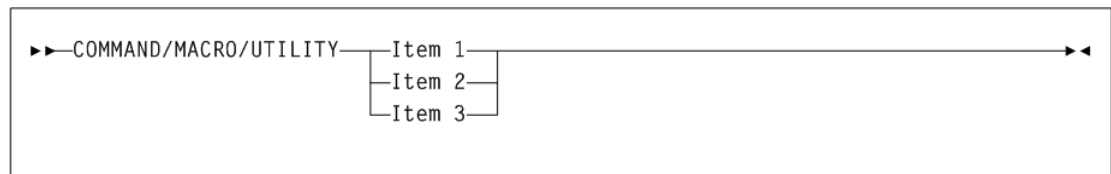
表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

構文規則

構文フローダイアグラムでは、次の表記法を使用します。

フロー線

構文ダイアグラムは、水平の基本線と、水平/垂直の分岐線、コマンドを表すテキスト、制御文、マクロ、またはユーティリティーで構成されます。ダイアグラムは、左から右、上から下へ読み取ります。矢印はフローと方向を示しています。例:



必須選択

分岐線(矢印を繰り返し使用しないもの)は、1つを選択する必要があることを示します。選択項目の1つが基線上にある場合は、選択項目をいずれか1つ必ず選択してください。例:



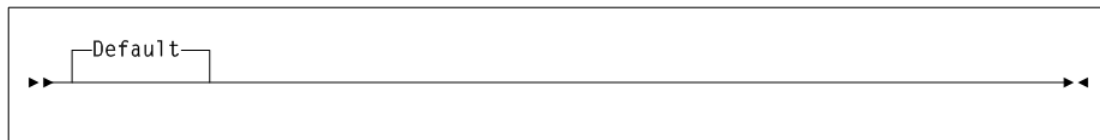
1つのオプション選択

最初の選択項目が基線より下にある場合は、項目の1つをオプションとして選択できます。例:



デフォルト

デフォルト値およびパラメータは、基本線より上に表示されます。例:



一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値が含まれている場合、選択対象のキーワードと値は基本線より下に表示され、これらのキーワードと値がオプションであることが示されます。デフォルト値は、キーワード線より上に表示されます。例:



繰り返し

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。次の例では、繰り返しの区切り文字としてカンマを使用する必要があることを示しています。例:



キーワード

コマンドキーワードは、すべて大文字で表記するか、大文字と小文字を組み合わせで表記します。コマンドの大文字/小文字が区別されていない場合は、大文字と小文字の組み合わせが使用され、この場合の略字表記には小文字が除外されます。

変数

イタリック体は、変数を表します。

i

代替値

パラメータの代替値は、垂直バー (|) で区切ります。

オプション

大括弧 [] は、コマンドパラメータがオプションであることを示します。

区切り文字

構文図で、項目とともにカンマ (,) やセミコロン (;) などの区切り文字が示されている場合は、文の一部としてこれらの区切り文字を入力する必要があります。

範囲

範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する2つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、必ず2番目の要素より小さくしなければなりません。

16進数の範囲は、2つの16進数で表します (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。

10進法の範囲は、10進の数字の組み合わせで構成されます (たとえば、1-9、または 010-094)。先行0は不要です。10進数の部分は増分域です。増分部分の文字位置は

2つの範囲要素で一致していなければなりません。増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。

数字の VOLSER 範囲 (vol-range) は、1桁から6桁の10進数部分を含む一対の VOLSER 要素で構成されます (たとえば、ABC012-ABC025 または X123CB-X277CB)。10進数の部分は増分域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は2つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が111AAAの場合、2番目の要素で112AABと指定することはできません。
- VOLSER 範囲で10進数が2か所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分域として有効です。例:
 - A00B00 - 指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99。
 - A0B0CC - 指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9CC。
 - 000XXX - 指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX。

アルファベットによる VOLSER 範囲 (vol-range) は、増分する1-6文字のアルファベットを伴う2つの VOLSER 要素で構成されます (例: 000AAA-000ZZZ または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分は増分域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は2つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が111AAAの場合、2番目の要素で112AABと指定することはできません。
- VOLSER 範囲のアルファベット部分は、A-Zと定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字がZまで増分します。たとえば、ACZはAAA-AMM範囲内にあります。次の例を参照してください。
 - A00A0-A99A0

VOLSERはA00A0 - A09A0まで増分し、そのあと、A10A0 - A99A0まで増分します。

- 9AA9A-9ZZ9A

VOLSERは9AA9A - 9AZ9Aまで増分し、そのあと9BA9A - 9ZZ9Aまで増分します。

◦ 111AAA-111ZZZ

VOLSER は 111AAA - 111AAZ まで増分し、そのあと 111ABA - 111ZZZ まで増分します

◦ 999AM8-999CM8

VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します

◦ A3BZZ9-A3CDE9

VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します

◦ AAAAAA-AAACCC

VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します

◦ CCCN NN-DDDNNN

VOLSER は CCCNNN - CCCNNZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる VOLSER 範囲のボリューム数は、VOLSER 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での A - Z 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

- A-Z は 26^1 (26) 個のボリュームと同じです。
- AA-ZZ は 26^2 (676) 個のボリュームと同じです。
- AAA-ZZZ は 26^3 (17,576) 個のボリュームと同じです。
- AAAA-ZZZZ は 26^4 (456,976) 個のボリュームと同じです。
- AAAAA-ZZZZZ は 26^5 (11,881,376) 個のボリュームと同じです。
- AAAAAA-ZZZZZZ は 26^6 (308,915,776) 個のボリュームと同じです。

リスト

リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素を指定する場合は、各要素をカンマまたは空白スペースで区切り、リスト全体を括弧で囲みます。

空白スペース

キーワードパラメータおよび値の区切りには、任意の数の空白スペースを使用できます。

制御文の構文規則

通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 - 列 72 のみです。列 73 - 80 は無視されます。
- パラメータの区切りには、1 つまたは複数の空白スペースまたはコンマを使用できます。
- パラメータと値の関連は、イコール (=) 記号で示すか、値を括弧で囲み、パラメータの直後に連結させて示します。
- 実際の制御文では、大文字/小文字は区別されません。
- 次行に続く文の場合は、プラス (+) 記号を前行の末尾に加えます。文が続かない場合、制御文は終了します。
- ジョブストリームのコメントを囲むには、/* および */ を使用します。HSC PARMLIB メンバーと定義データセットは次の形式でコメントを指定する必要があります。
 - 任意の PARMLIB メンバーの最初の制御文としてのコメントは必要ありません。
 - コメントは複数行に渡って追加できますが、入れ子にはできません。
- 制御文の最大長は 1024 文字です。

新機能

このリビジョンには、次の更新が含まれています。

- 新しい *SET VOLPARM UPDATE* コマンドは、サーバーコンプレックスのボリュームおよびプール情報に対する変更を定義します。

[「SET VOLPARM UPDATE」](#) を参照してください。

- 新しい *POOLPARM* 変更制御文は、特定のタイプの指定されたプールの形式でサーバーコンプレックスの新しいプール情報を定義します。

[「POOLPARM Change 制御文」](#) を参照してください。

- 新しい *VOLPARM Change* 制御文は、*POOLPARM UPDATE* 制御文に関連付けられた特定の *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義または削除します。

[「VOLPARM Change 制御文」](#) を参照してください。

- 新しい *SET VOLPARM JOIN* ユーティリティーコマンドは、複数の *VOLPARM* 文で定義された連続したボリューム範囲を 1 つの新しい *VOLPARM* 文にマージします。

[「SET VOLPARM JOIN」](#) を参照してください。

- *STORMNGR* と *ACS* パラメータの両方を指定して、指定された *ACS* 番号を持つリモート TapePlex 内のライブラリに *MVC* の選択を制限できることを示すように、*STORclas* 制御文を更新しました。

[「STORclas 制御文」](#) を参照してください。

- *Display RTD* 出力は、*vRTD* を含むストレージマネージャーへのパスを持つ *VTSS* を、新しい関連ステータス値とともに表示するように拡張されました。

[「Display RTD」](#) を参照してください。

- *SET VOLPARM* コマンドの *APPLY(YES)* パラメータが、*CDS* に日時を格納するように拡張されました。この情報は、*Display CDS* コマンドにより出力されます。

[「SET VOLPARM」](#) を参照してください。

- *MGMTDEF CONTGT* パラメータの説明を更新しました。

[「MGMTDEF」](#) を参照してください。

- *CONFIg CLINK IPIF* パラメータ値を更新しました。

「[CONFIg CLINK 文](#)」を参照してください。

- VTV および MVC の 6 桁の数値範囲に対する数字およびアルファベットでの *VOLSER* 範囲の表記規則を更新しました。「[範囲](#)」を参照してください。

第1章 ELS コマンドインタフェース

この章では、ELS コマンドの発行に使用できるさまざまなインタフェースについて説明します。次のセクションから構成されています。

- 統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート
- SMC コマンドインタフェース
- HSC および VTCS コマンドインタフェース

統合ユーザーインタフェース (UUI) のサポート

このドキュメントで説明している特定の SMC、HSC、および VTCS コマンドには、ELS UUI (統合ユーザーインタフェース) のサポートが含まれています。

UUI インタフェースは、内部インタフェースと外部インタフェースの両方を SMC、HSC、および VTCS の機能に標準化するように設計されています。UUI を使用すると、次の操作を実行できます。

- ユーティリティーからコマンドを実行する。
- プログラムインタフェースからコマンドを呼び出す。
- テキスト、XML、またはカンマ区切り値 (CSV) 形式での出力を要求する。
- リモートクライアントから HSC サーバーにコマンドを呼び出す。

ELS では、以前には HSC *PGMI* とバッチ API インタフェースでサポートされていたすべての機能が含まれるように、UUI インタフェースから利用できるコマンドが拡張されました。今後のリリースで既存のインタフェースのサポートがいつまで続けられるかは未定ですが、新しいデータ項目を追加するように、これらのインタフェースが強化されることはありません。

注:

- UUI の詳細は、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。
 - UUI でサポートする SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブから発行するために使用される *SMCUUI* ユーティリティの詳細は、「統合ユーザーインタフェースユーティリティ (*SMCUUI*)」を参照してください。
-

SMC コマンドインタフェース

このセクションの内容は次のとおりです。

- [コンソールからの SMC コマンドの発行](#)
- [SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定](#)
- [JOBname、STEPname、および PROCstep を指定する SMC コマンド](#)
- [ユーティリティからの SMC コマンドの発行](#)

コンソールからの SMC コマンドの発行

このセクションでは、コンソールから SMC コマンドを発行する方法について説明します。

SMC コマンド接頭辞を使用したコマンドの発行

SMC コマンド接頭辞を使用して、SMC コンソールからコマンドを発行します。

接頭辞を定義するには、*SMCPARMS* データセットで *PREFIX* パラメータを付けて *SMC CMDDef* コマンドを指定します。

次の例では、コマンド接頭辞は *B@F\$* と定義されています。

```
CMDDEF PREFIX(B@F$)
```

注:

PREFIX パラメータは、*SMCPARMS* データセットでのみ指定できます。*CMDDef* コマンドの詳細は、「[CMDDef](#)」を参照してください。

コマンド接頭辞を使用して SMC コマンドを発行するには、次の形式を使用します。

```
PREFIXcommand-name [parameter]
```

- *PREFIX* はコマンド接頭辞です。
- *command-name* は SMC オペレータコマンドを示します。
- *parameter* は、オプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

コマンドは、接頭辞文字の直後に (連結して) 表示される必要があります。

コマンド接頭辞文字として NULL 文字を指定できます。この場合、コマンドを発行するには、MSP *Modify* コマンドを使用する必要があります。「[MSP Modify コマンドを使用した SMC コマンドの発行](#)」を参照してください。

MSP Modify コマンドを使用した SMC コマンドの発行

MSP *Modify* (*F*) コマンドを使用して MSP コンソールから SMC コマンドを発行するには、次のコマンド形式を使用します。

```
F started-task-name,command-name [parameter]
```

- *F* は、MSP *Modify* コマンドを示します。
- *started-task-name* は、SMC により開始されたタスク名を示します。
- *command-name* は SMC オペレータコマンドを示します。
- *parameter* は、オプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

注:

- 開始されたタスク名とコマンド名はカンマで区切る必要があります。サブシステム名とコマンド名の上にスペースは使用できません。
- パラメータと値は、任意の数のスペースで区切ることができ、オプションで等号 (=) を含められます。値は括弧で囲むこともできます。

次のコマンドは同等のコマンドです。

```
F SMC1MSP,MSGDEF LVL 4
F SMC1MSP,MSGDEF LVL=4
F SMC1MSP,MSGDEF LVL(4)
```

キーワードパラメータ

ユーザー入力値を必要とする、または許可するキーワードパラメータは、次のいずれかの形式で指定できます。

- ユーザー入力値 (複数可) を括弧で囲み、キーワードに続けます。例:

```
MINLVL(minlevel)
```

- ユーザー入力値 (複数可) を等号でキーワードに連結します。例:

```
MINLVL=minlevel
```

注:

- 特に指定のないかぎり、ユーザー入力値のリストは、括弧で囲む必要があります。リストの指定の詳細は、43 ページの「リスト」を参照してください。
- 特に記されていないかぎり、パラメータはカンマまたは空白で区切ることができます。これらのいずれかの区切り文字に続く連続した空白は無視されます。
- コマンドとパラメータは、大文字と小文字を任意に組み合わせて入力できます。
- コマンドの応答は常に、発行側のコンソールに送信されますが、マウントおよびマウント解除などのいくつかの場合では、テープライブラリコンソールやテーププールコンソールなどのほかのコンソールにルーティングされます。

SMCCMDS または SMCPARMS データセットでの SMC コマンドの指定

SMCPARMS または *SMCCMDS* データセットで指定された SMC オペレータコマンドは、起動時に自動的に処理されます。

SMCCMDS データセットは、SMC がアクティブな間に変更できるユーザー構成の設定を指定します。コンソールから *READ* コマンドを発行して、いつでも *SMCCMDS* データセットを再処理できます。

次に、*SMCCMDS* メンバーのエントリの例を示します。

```
MSGDEF CASE(MIXED) LVL(4)
TAPEPLEX NAME(HSCPLEX) LOCSUB(HSC0)
READ DSN('MY.PARMLIB(POL)')
TREQDEF DSN('MY.PARMLIB(TREQ)')
RESYNCHRONIZE
```

SMCPARMS データセットは、SMC がアクティブの間は変更できないユーザー構成項目を指定します。*SMCPARMS* は *READ* コマンドを使用して再処理することはできません。

次に、*SMCPARMS* メンバーのエントリの例を示します。

```
CMDDEF PREFIX(B@F$)
```

注:

- *SMCPARMS* データセットには、*CMDDef PREFIX* および *USERMsg ID* パラメータ設定だけを含めることをお勧めします。ほかのコマンドはすべて *SMCCMDS* データセットで指定してください。
 - *SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットでコマンドを指定するときに使用する構文規則については、43 ページの「制御文」を参照してください。
-

JOBname、STEPname、および PROCstep を指定する SMC コマンド

SMC ALLOCJOB、*MSGJOB*、および *TRACE* コマンドでは、*JOBname*、*STEPname*、または *PROCstep* の指定が可能です。これらのコマンドは、もっとも特定されているジョブ名からもっとも特定されていないジョブ名の順に、SMC によって評価されます。したがって、コマンドは任意の順序で入力できます。次の例を考えてみましょう。

次の 2 つの *ALLOCJob* コマンドが入力されています。

```
ALLOCJOB JOBNAME=NOALLOC* MINLVL=4
ALLOCJOB JOBNAME=NOALLOC1 MINLVL=3
```

これらのコマンドを入力した順序とは無関係に、ジョブ名 *NOALLOC1* がジョブ名 *NOALLOC** よりも特定されているため、このジョブが *MINLVL 3* で処理されます。

注:

- *JOBname*、*STEPname*、または *PROCstep* だけを指定して *SMC ALLOCJOB* または *MSGJOB* コマンドを入力した場合、コマンドは *LIST* も指定されているものとして解釈されます。
 - 上記の動作は *TAPEREQ* 文には適用されません。この文は、常に、*TREQDEF DD* に表示される順序で評価されます。
-

ユーティリティーからの SMC コマンドの発行

UI でサポートする SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブで発行するには、*SMCUUI* ユーティリティーを使用します。これらのコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

SMCUUUI ユーティリティーは、プレーンテキスト、構造化 XML、カンマ区切り値 (CSV) などの複数のタイプの出力を生成できます。

SMCUUUI ユーティリティーの詳細は、「[統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUUI\)](#)」を参照してください。

注:

SMC コマンドは、ユーティリティー管理者 (*SLUADMIN*) からは発行できません。

HSC および VTCS コマンドインタフェース

このセクションの内容は次のとおりです。

- [コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行](#)
- [ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行](#)
- [PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行](#)
- [HSC サービスレベル](#)

コンソールからの HSC および VTCS コマンドの発行

MSP Modify コマンドまたはコマンド接頭辞のどちらかを使用して、HSC および VTCS オペレータコマンドを発行できます。

コマンド接頭辞を使用した HSC および VTCS コマンドの発行

コマンド接頭辞を使用して、コンソールから HSC または VTCS コマンドを発行します。この接頭辞は、*LIBGEN* プロセス中に割り当てられます。たとえば「.」や「#」です。

新しい接頭辞を定義するには、*SET COMPREFX* コマンドを使用します。このコマンドは、コマンド接頭辞を表す 2 文字の 16 進数コードを指定します。

- HSC または VTCS システムが再起動されるまで、コマンド接頭辞は有効になりません。
- 各コードに関連付けられた文字のリストについては、*SET COMPREFX* コマンドの下の表 3.14 「[コマンド接頭辞コードと文字との対応関係](#)」を参照してください。
- *SET COMPREFX* コマンドと接頭辞の制限事項の詳細は、「[SET COMPREFX](#)」を参照してください。

コマンド接頭辞を使用してコマンドを発行するには、次の形式を使用します。

```
PREFIX command-name [parameter]
```

- *PREFIX* はコマンド接頭辞です。
- *command-name* は HSC または VTCS オペレータコマンドを示します。
- *parameter* は、オプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

コマンドは、接頭辞文字の直後に (連結して) 表示される必要があります。

コマンド接頭辞文字として NULL 文字を指定できます。この場合、コマンドを発行するには、MSP *Modify* コマンドを使用する必要があります。

注:

VT コマンド接頭辞は、VTCS コマンドには必要なくなりました。入力しても無視されます。

MSP *Modify* コマンドを使用した HSC および VTCS コマンドの発行

MSP *Modify* (F) コマンドを使用して MSP コンソールからコマンドを発行するには、次のコマンド形式を使用します。

```
F started-task-name,command-name [parameter]
```

- F は MSP *Modify* コマンドを示します
- *started-task-name* は、HSC のサブシステム名テーブル内のエントリを示します。

システムプログラマが、*SYS1.PARMLIB* 内の *IEFSSNxx* エントリに要素を追加することにより、この 1 から 4 文字の HSC サブシステム名を指定します。たとえば、*SLS0* です。

- *command-name* は HSC または VTCS オペレータコマンドを示します。
- *parameter* は、オプションまたは必須のコマンドパラメータを示します。

キーワードパラメータ

ユーザー入力値を必要とする、または許可するキーワードパラメータは、次のいずれかの形式で指定できます。

- ユーザー入力値 (複数可) を括弧で囲み、キーワードに続けます。例:

HOSTID(host-id)

- ユーザー入力値 (複数可) を等号でキーワードに連結します。例:

HOSTID=host-id

注:

- 特に指定のないかぎり、ユーザー入力値のリストは、括弧で囲む必要があります。リストの指定の詳細は、43 ページの「リスト」を参照してください。
- 特に記されていないかぎり、パラメータはカンマまたは空白で区切ることができます。これらのいずれかの区切り文字に続く連続した空白は無視されます。
- コマンドとパラメータは、大文字と小文字を任意に組み合わせて入力できます。
- コマンドの応答は常に、発行側のコンソールに送信されますが、マウントおよびマウント解除などのいくつかの場合では、テープライブラリコンソールやテーププールコンソールなどのほかのコンソールにルーティングされます。

ユーティリティーからの HSC および VTCS コマンドの発行

HSC および VTCS には、ライブラリリソースの管理に役立つように設計されたユーティリティー機能が含まれています。特定の HSC および VTCS コマンドによってこれらのユーティリティーを起動します。これらのコマンドは、ユーティリティー管理者 (*SLUADMIN*) を使用して指定されます。

さらに、*SMCUUI* ユーティリティーを使用して、UUI がサポートする SMC、HSC、および VTCS コマンドをバッチジョブで発行できます。これらのコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

SLUADMIN と *SMCUUI* はどちらも、プレーンテキスト、構造化 XML、カンマ区切り値 (CSV) などの複数のタイプの出力を生成できます。

注:

- *SWSADMIN* と *SWUADMIN* は、*SLUADMIN* の別名であり、引き続き使用されます。
 - *SLUADMIN* ユーティリティーの詳細は、「[ユーティリティー管理者 \(SLUADMIN\)](#)」を参照してください。
 - *SMCUUI* ユーティリティーの詳細は、「[統合ユーザーインタフェースユーティリティー \(SMCUUI\)](#)」を参照してください。
-

PARMLIB からの HSC および VTCS コマンドの発行

HSC が初期化されるときに処理されるユーザー定義の順次データセットまたは単一のパーティション分割したデータセット (PDS) メンバーで、特定の HSC または VTCS コマンドを定義できます。これらのコマンドを使用すると、ユーザー自身の要件を満たす HSC 起動オプションを作成できます。

特に指定されていないかぎり、コンソールから対応するオペレータコマンドを発行することによって、このユーザー定義の *PARMLIB* データセットで定義されたオプションを、通常の操作中に動的に変更できます。

PARMLIB コマンドは、起動プロシージャの入力パラメータに対して *MEMBER(xx)* または *M(xx)* を指定することによって呼び出されます。接尾辞「xx」が *SLSSYS* に続くことで名前が構成されます。名前は起動プロシージャで *ddname* として使用されます。

- *SLSSYSxx DD* で指定されたデータセットが、パーティション分割されたデータセット (PDS) である場合、コマンドの含まれるメンバー名を指定する必要があります。
- *SLSSYSxx DD* が順次データセットである場合、データセット名 (DSN) だけを指定する必要があります。
- 起動プロシージャで *ddname* が指定されていない場合は、*SYS1.PARMLIB* データセットが動的に割り当てられ、メンバー名の検索はそのデータセット内で行われます。

HSC は初期化されるときに *PARMLIB* データセットを読み取って、その動作パラメータを取得します。

注:

SYS1.PARMLIB で *PARMLIB* コマンドを定義できますが、*SYS1.PARMLIB* 以外のユーザー定義のデータセットを使用することをお勧めします。

HSC 実行に関する次の JCL の例には、*PARMLIB* コマンド定義を含むデータセットとメンバーを定義する DD 文が含まれています。

例1.1 *PARMLIB* の順次データセットを定義する JCL

```
//IEFPROC EXEC PGM=SLSBINIT,  
// TIME=1440,  
// REGION=2000K,  
// DPRTY=(7,5),
```

```
// PARM='E(E086) F(23) M(00)'  
//*  
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.SEALINK  
//*  
//SLSSYS00 DD DISP=SHR,DSN=parmlib0data set  
//SLSSYS01 DD DISP=SHR,DSN=parmlib1data set  
//SLSSYS02 DD DISP=SHR,DSN=parmlib2data set
```

例1.2 PARMLIB のパーティション分割されたデータセットを定義する JCL

```
//IEFPROC EXEC PGM=SLSBINIT,  
// TIME=1440,  
// REGION=2000K,  
// DPRTY=(7,5),  
// PARM='E(E086) F(23) M(00)'  
//*  
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.SEALINK  
//*  
//SLSSYS00 DD DISP=SHR,DSN=parmlib0data set(member)  
//SLSSYS01 DD DISP=SHR,DSN=parmlib1data set(member)  
//SLSSYS02 DD DISP=SHR,DSN=parmlib2data set(member)
```

注:

- HSC の起動時に、'*M(nn)*' 起動パラメータを指定することによって、特定の *PARMLIB* メンバーを任意に指定できます。
 - サンプルの *SLSSYSxx* コマンドストリームと *PARMLIB* コマンドは、*ELS SAMPLIB* のメンバー *SLSSYS00* に含まれます。
-

HSC サービスレベル

HSC サブシステムは、*BASE* または *FULL* のどちらかのサービスレベルで動作できます。

Base サービスレベルの機能

BASE サービスレベルは、HSC サブシステムの中核に当たります。これは、オペレーティングシステムの拡張として実行するために必要な機能をもたらし、実行時に動作環境によって定義された要件を満たします。

BASE サービスレベルで実行している HSC ですべての HSC コマンドを発行できます。ただし、ライブラリハードウェアを含むコマンドは、その機能を完全に実行することはできません。

VTCS コマンドは、*BASE* サービスレベルで実行している HSC では発行できません。

Base サービスレベルの動作中にインターセプトされたマウント要求

HSC が *BASE* サービスレベルで動作している間に、SMC によってインターセプトされたマウントメッセージは、HSC に送信されず、HSC が *FULL* サービスレベルに達するまで保留されます。

HSC が *FULL* サービスレベルに達したことを SMC が認識すると、マウントは再処理されます。これらのマウントメッセージは、SMC の介入で生じ、続いて HSC が *FULL* サービスレベルに達すると再処理され、そのサブプールの指定が適用されます。

Full サービスレベルの機能

HSC の *FULL* サービスレベルの動作は、完全なライブラリ操作の呼び出しおよび維持に利用できる必要なすべての機能を提供します。これらの機能は次のとおりです。

- マウント/マウント解除処理
- CAP 処理
- カートリッジとセルインベントリの管理
- LMU アクセス
- ライブラリリソースの回復
- すべてのライブラリユーティリティーのサポート
- すべての HSC および VTCS コマンドのサポート

注:

すべての VTCS コマンドには、HSC が *FULL* サービスレベルで実行している必要があります。

第2章 SMC コマンド、ユーティリティー、および制御文

この章には、SMC コマンドおよび制御文に関するリファレンス情報が記載されています。

SMC ユーティリティーについては、[4章「SMC ユーティリティー」](#)を参照してください。

ALLOCDef

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

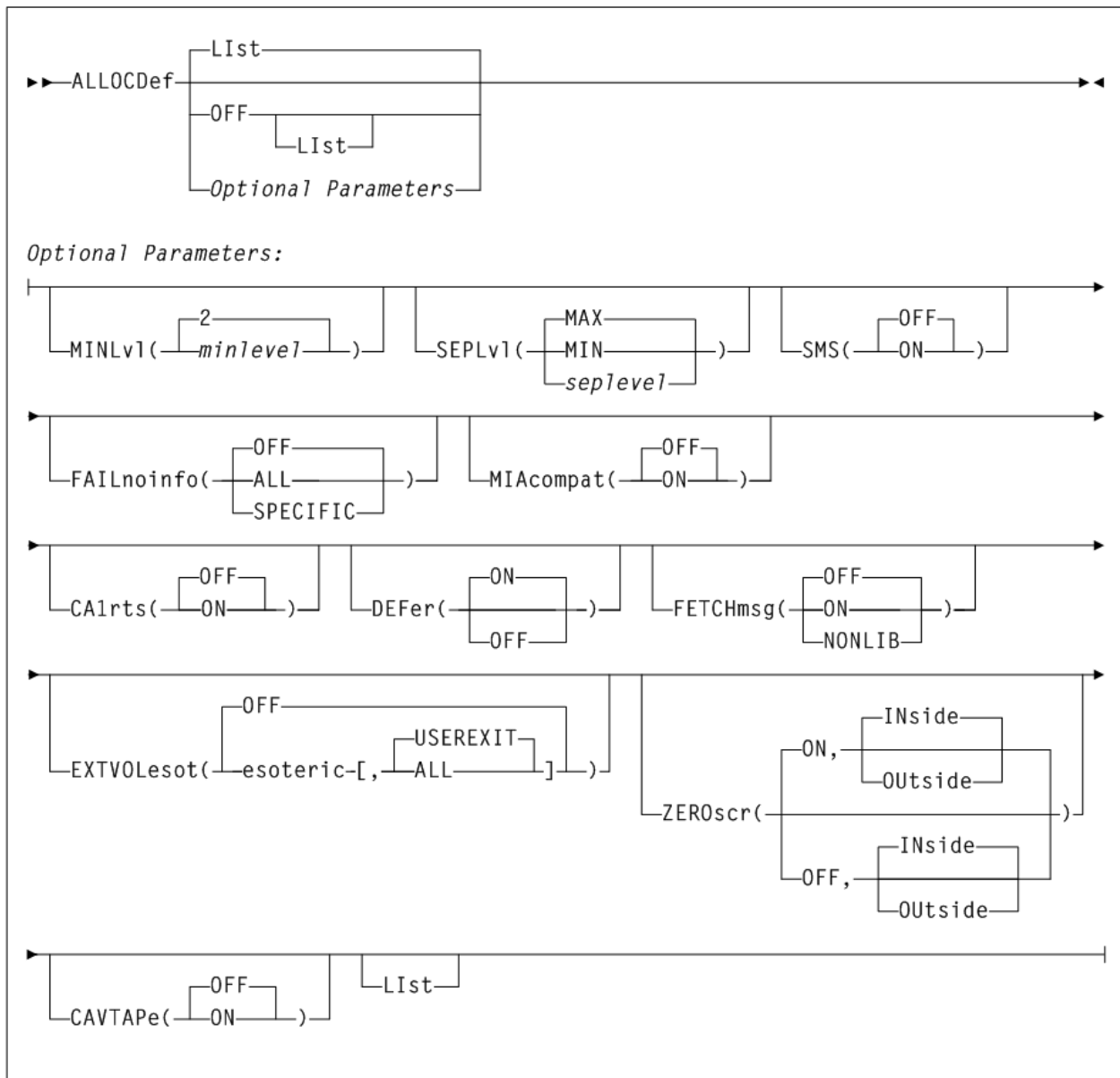
説明

SMC *ALLOCDef* コマンドは、SMC サブシステムのデフォルトの割り当て設定を指定します。

構文

[図2.1「ALLOCDef コマンドの構文」](#)は、*ALLOCDef* コマンドの構文を示しています。

図2.1 ALLOCDDef コマンドの構文



パラメータ

図2.1 「ALLOCDDef コマンドの構文」 に示すように、ALLOCDDef コマンドには次のパラメータが含まれます。

LlSt

オプションで、現在のデフォルトの割り当て設定を一覧表示します。

- *ALLOCDf* コマンドでパラメータが指定されないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LIst* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、デフォルトの割り当て値をすべて元の SMC のデフォルト設定にリセットします。これらの設定の一覧を表示するには、*LIst* をこのパラメータとともに指定します。

オプションパラメータ

MINLvl(minlevel)

オプションで、ドライブ除外の最小レベルを指定します。ジョブが最小除外レベルで割り当てできない場合、SMC は引き続き最小レベルのドライブを除外し、ジョブの失敗を許可します。

minlevel は、最小の割り当て除外レベルを指定します。有効な値は 0-8 です。2 がデフォルトです。

MINLVL=0 は、デバイスと特定のボリュームに互換性がない場合でも、SMC でジョブを失敗させないことを指定します。*MINLVL=0* を使用すると、「外部の」テープカートリッジが既存のライブラリまたは仮想ボリュームと同じボリュームシリアル番号を持っている場合でも、SMC で割り当ての成功を許可するように強制できます。

特定のジョブステップに対してメッセージ SMC0045 または SMC0091 が発行されていないかぎり、*minlevel* を増やしても効果はありません。

SMC の除外レベルの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

SEPLvl

オプションで、アフィニティーと GDG チェーンが分離される除外レベルを指定します。

次のいずれかの値を指定します。

seplevel

最小レベルと最大レベルの間の除外レベル。十分なドライブが存在する場合、SMC はこのレベルでチェーンの分離を試みます。この値は、*minlevel* の値より小さくすることはできません。

MAX

十分なドライブが使用可能な場合は常に、競合する除外条件でアフィニティーと GDG チェーンを分離します。これがデフォルトです。

MIN

最小レベルを超えてアフィニティーと GDG チェーンを分離しません。

以前に HSC 割り当てで *UNITAFF(NOSEP)* および *GDGALL(NOSEP)* を指定した場合は、デフォルトの SMC 除外テーブルで *SEPLVL=3* を指定することにより、異なるメディアタイプを含むスクラッチアフィニティーチェーンの既存の動作を維持できます。

SMC の除外レベルの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

SMS

オプションで、DFSMS インタフェースを有効または無効にします。DFSMS インタフェースが有効になっている場合、SMC は DFSMS ACS ルーチンを呼び出します。返される構造体は、データセットのデバイス割り当てに影響を与えるために使用されます。特定の SMS 機能の使用については、156 ページの「SMSDef」を参照してください。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

DFSMS インタフェースを無効にします。これがデフォルトです。

ON

DFSMS インタフェースを有効にします。

FAILnoinfo

オプションで、通信障害のため TapePlex からボリューム情報を取得できない場合、または使用可能な TapePlex がない場合、割り当て時に SMC でジョブステップを失敗させるかどうかを指定します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

SMC はジョブステップを失敗させません。これがデフォルトです。

ALL

SMC はすべてのデバイスを不適格としてマークし、ジョブステップを失敗させます。

SPECIFIC

特定のボリュームのボリューム検索処理中に通信障害が発生した場合、または使用可能な TapePlex がないときにステップに特定のボリュームの割り当てが含まれている場合、SMC はすべてのデバイスを不適格としてマークし、ジョブステップを失敗させます。

ジョブステップにスクラッチ割り当てのみが含まれている場合、そのジョブステップは続行でき、SMC テープポリシーの指定のみに基づいて割り当てが行われます。

MIAcompat

オプションで、MSP/EX および OS/390 製品向けの Computer Associates の Unicenter CA-MIA Tape Sharing と互換性を保つために、SSI24 時に EDL を更新するかどうかを指定します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

EDL を更新しません。これがデフォルトです。

ON

EDL を更新します。Unicenter CA-MIA を使用する場合は、この値を指定してください。

CA1rts

オプションで、Computer Associates の CA-1 テープ管理システムの Real Time Stacking 機能と互換性を保つために、SSI24 時に DEFER 処理を実行するかどうかを指定します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

DEFER ステータスを更新しません。これがデフォルトです。

ON

DEFER ステータスを更新します。CA-1 の Real Time Stacking 機能を使用する場合は、この値を指定してください。

DEFer

オプションで、ライブラリマウントの遅延マウント処理を有効または無効にします。遅延マウントが有効になっている場合、ライブラリ常駐ボリュームは、データセットが開かれたときにマウントされます。データセットが開られない場合、カートリッジはマウントされないため、ロボットはほかの作業を実行できます。ただし、データセットが開かれると、ジョブはカートリッジがマウントされるまで待機します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

遅延マウント処理を無効にし、ユーザーの JCL の指定に従います。

ON

遅延マウント処理を有効にします。このパラメータはユーザーの JCL をオーバーライドし、データセットが開かれるまですべての ACS マウントを持ち越します。これがデフォルトです。

EXTVOLesot

オプションで、特定の外部ボリューム (TapePlex 内にはないボリューム) を割り当てるときに指定のエソテリックを使用するよう、SMC に指示します。このエソテリックがいつ使用されるかは、エソテリックのあとに指定された修飾子の値の設定によって、また、指定されたエソテリックが有効 (元のエソテリックの指定と交差する) かどうかによって異なります。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

EXTVOLesot 処理を無効にします。可能な場合は、特定の外部ボリュームを割り当てるときにライブラリ外ドライブを選択します。これがデフォルトです。

esoteric,USEREXIT

「特定ボリュームの使用」(UX08)または「ライブラリドライブの使用」(UX13)リターンコードが指定されたときは、エソテリックを使用して特定の外部ボリュームを割り当てるように指定します。特定ボリュームのユーザー出口がこのDDに対して「特定ボリュームの使用」(UX08)または「ライブラリドライブの使用」(UX13)リターンコードを返す場合は、指定されたエソテリック内のドライブのうち、元のエソテリックと交差するものすべてが割り当て用に選択されます。これは、エソテリックが指定されている場合のデフォルトです。

esoteric,ALL

外部ボリュームを割り当てるときは常に、指定されたエソテリック内のドライブを選択します。

ZEROscr

オプションで、スクラッチボリュームを持たない TapePlex がある場合の除外アクション (*ON* または *OFF*)、または、複数 ACS 環境の TapePlex 内に、スクラッチボリュームを持たない ACS が 1 つ以上ある場合の除外アクション (*Inside* または *Outside*) を指定します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

SMC POLICY オブジェクトが割り当てイベントに適用されている場合、ユーザー出口 02 およびユーザー出口 08 はアクティブであっても呼び出されません。SMC POLICY オブジェクトは、そのようなインスタンスの SMC テープポリシーのすべてを提供します。これがデフォルトです。

- *Inside* は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリドライブが存在するときは、すべてのライブラリ外ドライブが除外されることを指定します。これがデフォルトです。
- *Outside* は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリ外ドライブが存在するときは、すべてのライブラリドライブが除外されることを指定します。

ON

これがデフォルトです。ON は次のいずれかを指定します。

- スクラッチサブプールが使用されていない場合で、スクラッチボリュームを持たない ACS が 1 つ以上あるときは、それらの ACS 内のドライブは適格デバイスのリストから除外されます。

- スクラッチサブプールが (*TAPEREQ* またはユーザー出口 02/04 を介して) 要求されている場合で、要求されたサブプールのスクラッチボリュームを持たない ACS が 1 つ以上あるときは、それらの ACS 内のドライブは適格デバイスのリストから除外されます。

Inside は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリドライブが存在するときは、すべてのライブラリ外ドライブが除外されることを指定します。これがデフォルトです。

Outside は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリ外ドライブが存在するときは、すべてのライブラリドライブが除外されることを指定します。

OFF

すべての ACS 内のすべてのドライブが、選択に適格とみなされます。

Inside は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリドライブが存在するときは、すべてのライブラリ外ドライブが除外されることを指定します。これがデフォルトです。

Outside は、スクラッチボリュームを持たない ACS がある場合で、割り当てに適格なライブラリ外ドライブが存在するときは、すべてのライブラリドライブが除外されることを指定します。

CAVTAPe

オプションで、割り当てイベントに適用される SMC POLICY オブジェクトが見つかった場合に、スクラッチユーザー出口 02 または特定のユーザー出口 08 が呼び出されるかどうかを指定します。

次のいずれかの値を指定します。

OFF

SMC POLICY オブジェクトが割り当てイベントに適用されている場合、ユーザー出口 02 およびユーザー出口 08 はアクティブであっても呼び出されません。SMC POLICY オブジェクトは、そのようなインスタンスの SMC テープポリシーのすべてを提供します。これがデフォルトです。

ON

SMC POLICY オブジェクトが割り当てイベントに適用される場合、スクラッチユーザー出口 02 または特定のユーザー出口 08 が呼び出され、競合しないユーザー出口ポリシーが、同じ割り当てイベントに適用されます。

注:

- この設定が推奨されるのは、CA-Vtape をインストールしているお客様が、デフォルトの SMC POLICY オブジェクトを使用しているが CA-Vtape で提供されるユーザー出口を必要としている場合だけです。
 - 競合しないユーザー出口ポリシーのみが適用されます。したがって、SMC ポリシーがエソテリックまたは TapePlex 名を指定し、ユーザー出口 02 またはユーザー出口 08 もエソテリックまたは TapePlex 名を指定している場合は、SMC ポリシーが適用されます。SMC と CA-Vtape の相互作用の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。
-

ALLOCJob

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、SMCCMDS データセット、または SMCPARMS データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティーに入力可

説明

SMC *ALLOCJob* コマンドを使用すると、SMC のデフォルトの割り当てパラメータをジョブ名、ステップ名、および PROC ステップによってオーバーライドできます。

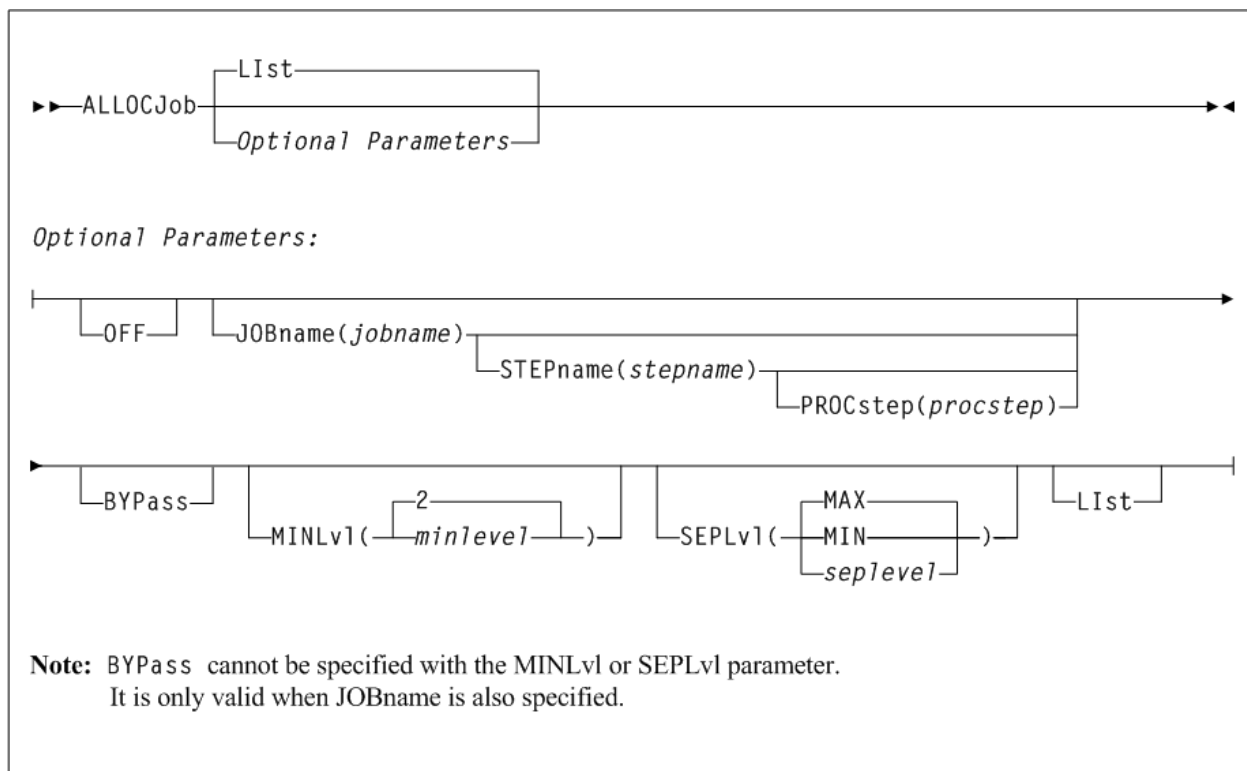
注:

このコマンドでは、SMS パラメータはサポートされなくなりました。必要に応じて、ジョブ名を選択するための SMS ACS ルーチンを作成してください。

構文

[図2.2 「ALLOCJob コマンドの構文」](#) は、*ALLOCJob* コマンドの構文を示しています。

図2.2 ALLOcJob コマンドの構文



パラメータ

図2.2「ALLOcJob コマンドの構文」に示すように、ALLOcJob コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIsT

オプションで、現在のデフォルトの割り当て設定と、ジョブ名、ステップ名、および PROC ステップによるオーバーライド設定を (処理される順序で) 一覧表示します。

- ALLOcJob コマンドでパラメータが指定されないときには、LIsT がデフォルトとなります。
- LIsT はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、LIsT は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

オプションパラメータ

OFF

オプションで、ジョブ名、ステップ名、および PROC ステップによる割り当てオーバーライドをすべて削除します。

- ほかのパラメータが指定されていない場合は、すべてのジョブの割り当てオーバーライドが削除されます。
- *JOBname* のみが指定されている場合は、そのジョブ名の *ALLOCSJob* エントリすべてに対して割り当てオーバーライドが削除されます。
- *JOBname*、*STEPname*、および *PROCstep* が指定されている場合は、指定されたエントリに対してのみ割り当てオーバーライドが削除されます。

グローバルな割り当て設定は、このパラメータの影響を受けません。

JOBname(jobname)

オプションで、ジョブ名を指定します。 *L1st* または *OFF* が指定されていない場合、このパラメータは必須です。

jobname はジョブ名を指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。最後の文字としてアスタリスク (*) を入力すると、ワイルドカードとして使用できます。 *ALLOCSJob* は、ジョブ名がアスタリスクの前の文字に一致するすべてのジョブに対して設定されます。

STEPname(stepname)

オプションで、ステップ名を指定します。このパラメータは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

stepname はステップ名を指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。最後の文字としてアスタリスク (*) を入力すると、ワイルドカードとして使用できます。

PROCstep(procstep)

オプションで、*PROC* ステップを指定します。このパラメータは、*JOBname* と *STEPname* も指定されている場合にのみ有効です。

procstep は *PROC* ステップを指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。最後の文字としてアスタリスク (*) を入力すると、ワイルドカードとして使用できます。

BYPass

オプションで、指定のジョブ (*jobname*、*stepname*、または *procstep*) に対しては *SMC* の割り当て操作が実行されないことを指定します。

このパラメータは、*MINLV1*、*SEPLV1*、または *SMS* パラメータとともに指定することはできません。これは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

注:

マウントが実行されない場合 (つまり、*IEFBR14* ジョブ) を除き、*BYPASS* の代わりに *MINLV=0* を使用することをお勧めします。

MINLvl(minlevel)

オプションで、希望するドライブ除外の最小レベルを指定します。ジョブが最小除外レベルで割り当てできない場合、SMC は引き続き最小レベルのドライブを除外し、ジョブの失敗を許可します。

このパラメータは、*BYPass* パラメータとともに指定することはできません。これは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

minlevel は、希望する最小の割り当て除外レベルを指定します。有効な値は 0-8 です。0 は、レベル 1 の除外処理ですべてのドライブが除外されるような場合でも、SMC でどのドライブも除外しないことを指定します。デフォルトは、*ALLOCDEF MINLVL* 設定の現在の値です。SMC の除外レベルの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

MINLVL=0 は、デバイスと特定のボリュームに互換性がない場合でも、SMC でジョブを失敗させないことを指定します。*MINLVL=0* を使用すると、「外部の」テープカートリッジが既存のライブラリまたは仮想ボリュームと同じボリュームシリアル番号を持っている場合でも、SMC で割り当ての成功を許可するように強制できます。

特定のジョブステップに対してメッセージ SMC0045 または SMC0091 が発行されていないかぎり、*minlevel* を増やしても効果はありません。

SEPLvl

オプションで、アフィニティーと GDG チェーンが分離される除外レベルを指定します。このパラメータは、*BYPass* パラメータとともに指定することはできません。これは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

次のいずれかの値を指定します。

seplevel

最小レベルと最大レベルの間の除外レベル。十分なドライブが存在する場合、SMC はこのレベルでチェーンの分離を試みます。SMC の除外レベルの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。*seplevel* の値は、*minlevel* の値より小さくすることはできません。

MIN

最小レベルを超えてアフィニティーと GDG チェーンを分離しません。

MAX

十分なドライブが使用可能な場合は常に、競合する除外条件でアフィニティーと GDG チェーンを分離します。これがデフォルトです。

CMDDef

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

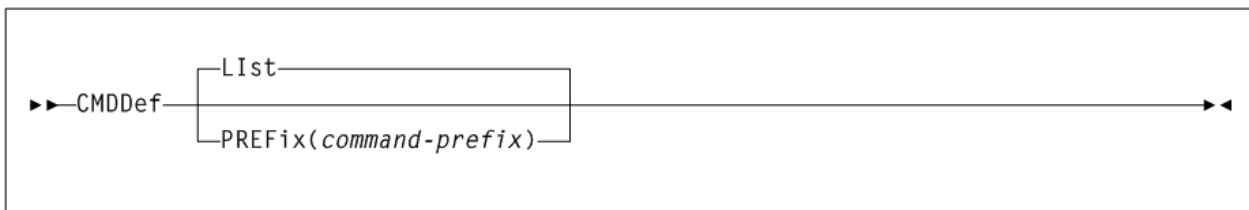
説明

SMC *CMDDef* コマンドは、SMC コマンドの接頭辞を指定します。

構文

図2.3 「CMDDef コマンドの構文」は、*CMDDef* コマンドの構文を示しています。

図2.3 CMDDef コマンドの構文



パラメータ

図2.3 「CMDDef コマンドの構文」に示すように、*CMDDef* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LlSt

オプションで、現在のコマンド接頭辞を表示します。

これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。ほかのパラメータとともに指定することはできません。

PREFix(command-prefix)

オプションで、SMC サブシステムのコマンド接頭辞を指定します。このパラメータは、*SMCPARMS* データセットでのみ指定できます。

command-prefix は、コマンド接頭辞を指定します。入力値は、1 から 8 文字の長さで、次の要件を満たす必要があります。

- 有効な文字は A-Z 0-9 @ ¢ \$ # , . / ' () < > * & + - = | ! ; : " % _ ? です
- コマンド接頭辞に、コマンド文字列、コマンドの略語、またはコマンドを呼び出すどの文字列も含めることはできません。
- コマンド接頭辞に、同じ文字で始まる既存の接頭辞のサブセットまたはスーパーセットである文字列を含めることはできません。

注:

MSP コマンド *DISPLAY OPDATA* は、すべてのアクティブなコマンド接頭辞とそれに対応するサブシステム名を表示します。

COMMtest

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *COMMtest* コマンドは、SMC と定義されている TapePlex または VLE の間でエンドツーエンドの通信テストを実行します。このコマンドは、すべての TapePlex へのすべてのパスに、それらのステータスに関係なく要求を生成できます。*COMMtest* コマンドでは、エラー統計やパスのステータスは更新されませんが、通信結果を示すメッセージが表示されます。

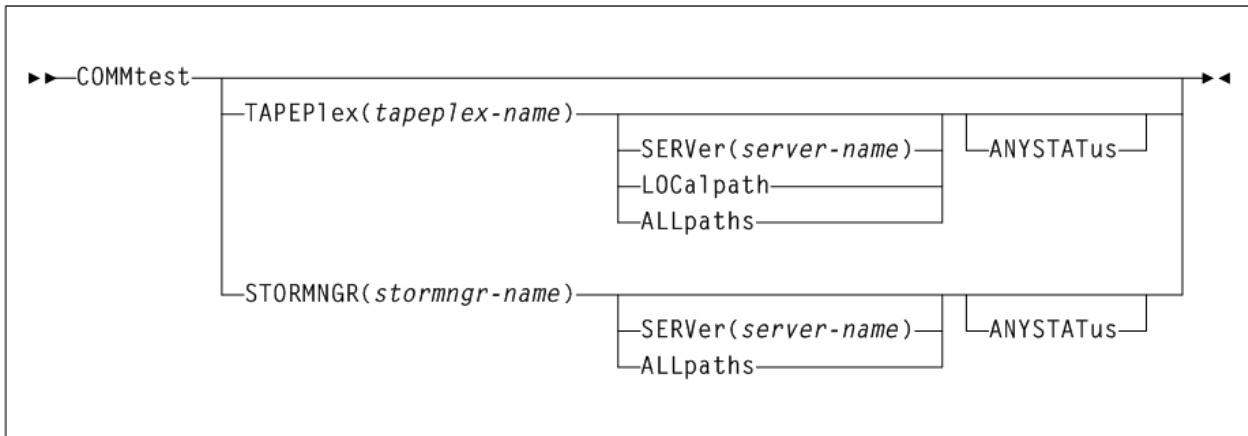
注:

HSC TapePlex または VLE のみが *COMMtest* コマンドの対象となります。

構文

図2.4 「*COMMtest* コマンドの構文」は、*COMMtest* コマンドの構文を示しています。

図2.4 COMMtest コマンドの構文



パラメータ

図2.4「COMMtest コマンドの構文」に示すように、*COMMtest* コマンドには次のパラメータが含まれます。

TAPEPLEX(*tapeplex-name*)

オプションで、指定された TapePlex への通信を制限します。デフォルトでは、定義されているすべての TapePlex との通信が試行されます。

tapeplex-name は、SMC *TAPEPLEX* コマンドで定義されている TapePlex 名を指定します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

TAPEPLEX と *STORMNGR* は相互に排他的です。

STORMNGR(*stormngr-name*)

オプションで、指定された VLE への通信を制限します。デフォルトでは、定義されているすべての VLE との通信が試行されます。

stormngr-name は、SMC *STORMNGR* コマンドで定義されている VLE 名を指定します。

TAPEPLEX と *STORMNGR* は相互に排他的です。

SERVer(server-name)

オプションで、指定されたサーバーパスへの通信を制限します。このパラメータを指定する場合は、*TAPEPLEX* または *STORMNGR* も指定する必要があります。デフォルトでは、すべてのサーバーパスとの通信が試行されます。

server-name は、*SMC SERVER* コマンドで定義されているサーバーパス名を指定します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

LOCAlpath

ローカルサーバーパスがある場合は、それがテストされます。デフォルトでは、定義されているリモートサーバーパスのみがテストされます。

ALLpaths

ローカルとリモートの両方のすべてのサーバーパスがテストされます。

ANYSTATus

オペレータコマンドまたは *SMC* によって無効にされていたパスも含め、すべての通信パスで通信が試行されます。デフォルトでは、通信テストは、アクティブ、非アクティブ、またはアクティブになったことのない、任意の通信パスで実行されます。*ANYSTATus* を指定すると、無効になっている通信パスも含まれません。

DISMount

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな *SMC* が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

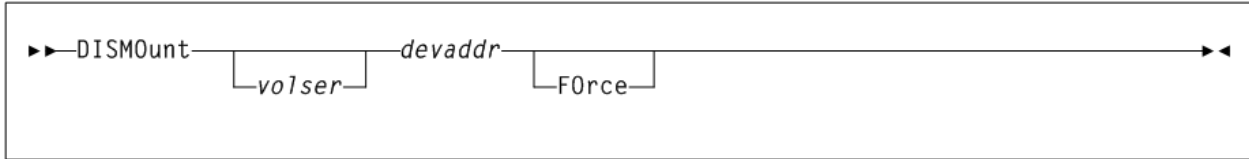
説明

SMC DISMount コマンドは、ドライブからボリュームをマウント解除するよう要求します。

構文

図2.5「DISMOunt コマンドの構文」は、*DISMount* コマンドの構文を示しています。

図2.5 DISMOunt コマンドの構文



パラメータ

図2.5「DISMOunt コマンドの構文」に示すように、*DISMount* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser

オプションで、マウント解除するボリュームを指定します。ドライブ上のボリュームが指定の *volser* に一致している場合にのみ、ボリュームがマウント解除されます。*volser* が省略されている場合は、ドライブ上の任意のボリュームがマウント解除されます。

devaddr

ボリュームをマウント解除する MSP デバイスのアドレス。デバイスは、SMC に認識されている TapePlex によって定義されている必要があります。

この値は必須です。

注:

volser が省略されている場合は、デバイスアドレスの前にコンマが必要です。

FOrcce

オプションで、ドライブにロードされたボリュームが見つかった場合は、要求されたマウント解除を試行する前に、巻き戻しとアンロードを行うように指定します。このパラメータは、仮想ドライブではサポートされません。

Display DRive

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *Display DRive* コマンドは、SMC ドライブ属性と TapePlex 所有権情報を表示します。

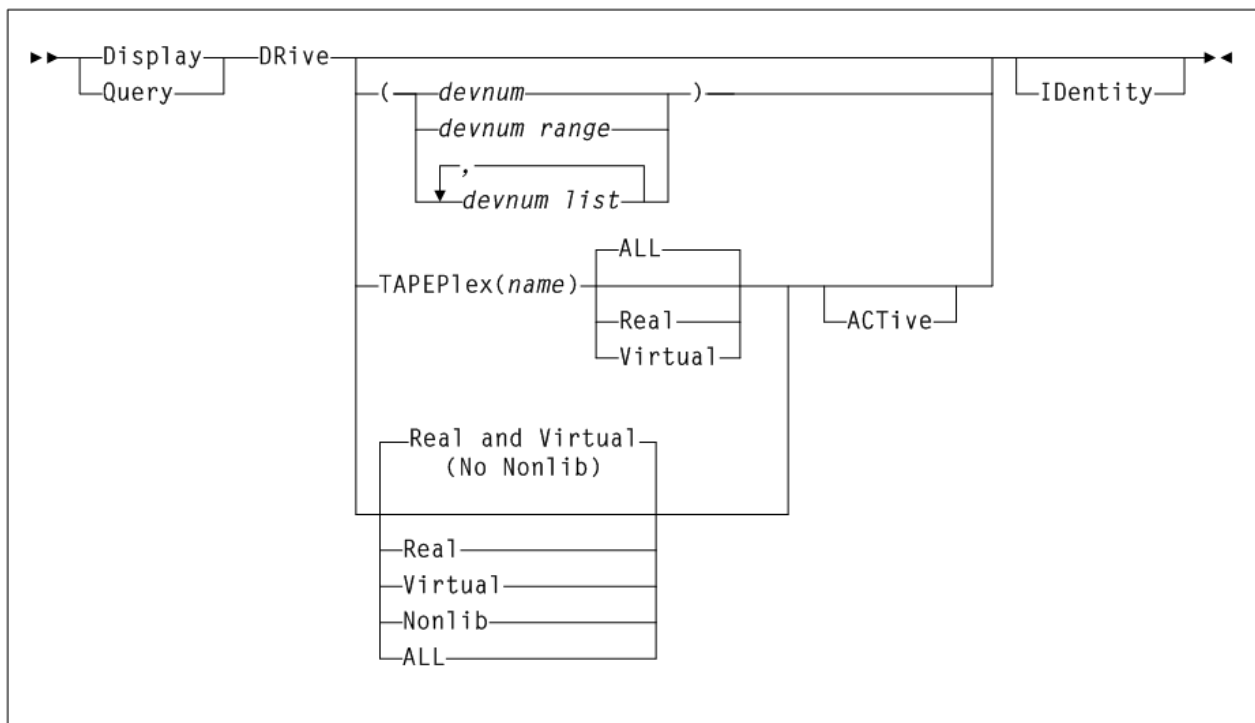
注:

TapePlex ドライブ情報は、SMC *Route* コマンドを使用して HSC *Display DRives* コマンドを発行することによっても取得できます。

構文

図2.6 「[Display DRive コマンドの構文](#)」は、*Display DRive* コマンドの構文を示しています。

図2.6 Display DRive コマンドの構文



パラメータ

図2.6 「[Display DRive コマンドの構文](#)」に示すように、*Display DRive* コマンドには次のパラメータが含まれます。

devnum、devnum-range、または devnum-list

処理対象となるデバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリスト。指定された場合は、指定されたすべてのデバイスアドレスが表示されます。*Display DRive* コマンドの *devnum* 形式は、定義済みデバイスが TapePlex に属していないか *SMC UNITAttr* コマンドで定義されていない場合に、それらを表示できる唯一の方法です。

devnum、*devnum-range*、および *devnum-list* は、ほかのすべての *Display DRive* パラメータと相互に排他的です。

TAPEPlex(name)

オプションで、指定された TapePlex に所有されるデバイスのみを一覧表示します。

name は、TapePlex 名を示します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

Real

オプションで、指定された TapePlex に所有される「実」(仮想でない)デバイスのみを一覧表示します。

Virtual

オプションで、指定された TapePlex に所有される仮想デバイスのみを一覧表示します。

ALL

オプションで、指定された TapePlex に所有されるすべてのデバイスを一覧表示します。これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

Real

オプションで、SMC で定義された TapePlex に所有される「実」(仮想でない)デバイスのみを一覧表示します。

Virtual

オプションで、SMC で定義された TapePlex に所有される仮想デバイスのみを一覧表示します。

Nonlib

オプションで、SMC で定義されたどの TapePlex にも所有されていないが、*UNITATTR* 文が定義されている、「実」デバイスのみを一覧表示します。

ALL

オプションで、SMC で定義された TapePlex に所有されるすべてのデバイスを一覧表示します。

ACTive

オプションで、SMC の内部データによると現在マウントされているかマウントを待機しているドライブのみを一覧表示します。

注:

Display DRive コマンドをパラメータなしで発行すると、デフォルトでは、SMC で定義された TapePlex に所有される、すべての実デバイスおよび仮想デバイスが一覧表示されます。

IDentity

オプションで、ドライブシリアル番号を識別する情報メッセージ SMC0178 を表示します。

Display POLicy

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

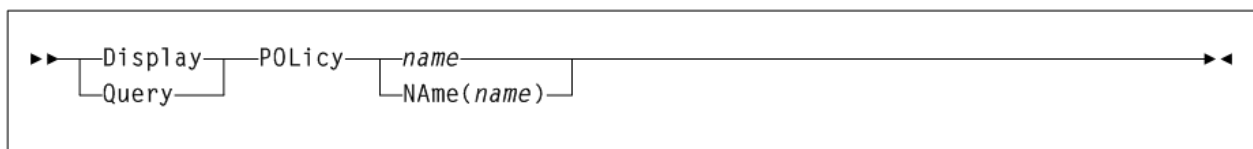
説明

SMC *Display POLicy* コマンドは、指定されたポリシーの情報を表示します。このコマンドは、SMC *POLicy* コマンドに *LIst* キーワードを指定した場合と同じ出力を提供します。

構文

図2.7 「Display POLicy コマンドの構文」は、*Display POLicy* コマンドの構文を示しています。

図2.7 Display POLicy コマンドの構文



パラメータ

図2.7 「Display POLicy コマンドの構文」に示すように、*Display POLicy* コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または NAmE(name)

オプションで、*TAPEREQ* または *DFSMS ACS* ルーチンの管理クラスで指定された名前と一致する、ポリシーの名前を指定します。

name は、キーワード *NAmE* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAmE* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

この値は必須です。

Display RC

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

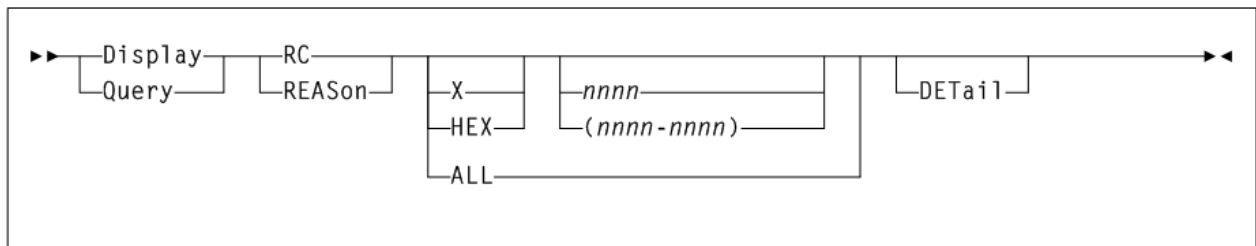
説明

SMC *Display RC* コマンドは、SMC リターンコードや理由コード、あるいは HSC または VTCS UI の理由コードの意味に関する情報を表示します。

構文

図2.8 「Display RC コマンドの構文」は、*Display RC* コマンドの構文を示しています。

図2.8 Display RC コマンドの構文



パラメータ

図2.8「Display RC コマンドの構文」に示すように、*Display RC* コマンドには次のパラメータが含まれます。

X または HEX

オプションで、理由コードまたはリターンコードの値または範囲が 16 進数として指定されることを指定します。

nnnn または nnnn-nnnn

オプションで、説明を表示するリターンコードのリストを指定します。

- X または HEX が指定された場合、値には 16 進数文字 0-9 および A-F を含めることができます。
- X または HEX が指定されない場合、値には数字のみを含めることができます。

コンソールから指定された範囲に含まれる値の最大数は 16 です。

ALL

オプションで、定義されているすべてのリターンコードまたは理由コードが一覧表示されることを示します。ALL は、ユーティリティからのみ許可されます。ALL は、H または HEX と相互に排他的です。

DETail

オプションで、要求されたコードについての詳細情報が表示されることを示します。

Display SERVER

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、SMCCMDS データセット、または SMCPARMS データセット
- UI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM コーティリティーに入力可

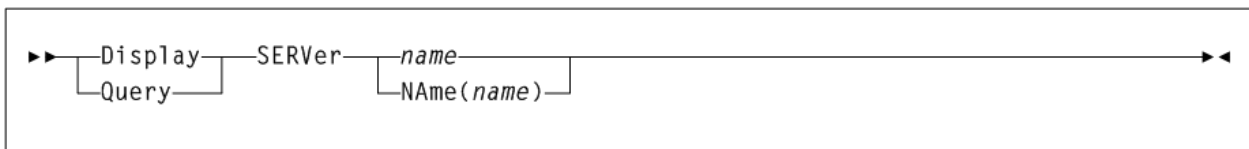
説明

SMC *Display SERVER* コマンドは、指定されたサーバーの情報を表示します。このコマンドは、SMC *SERVER* コマンドに *List* キーワードを指定した場合と同じ出力を提供します。

構文

図2.9「Display SERVER コマンドの構文」は、*Display SERVER* コマンドの構文を示しています。

図2.9 Display SERVER コマンドの構文



パラメータ

図2.9「Display SERVER コマンドの構文」に示すように、*Display SERVER* コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または NAmE(name)

定義、変更、または一覧表示するサーバーの名前を指定します。この値は必須です。

name は、キーワード *NAmE* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAmE* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は1文字から8文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

Display SMC

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

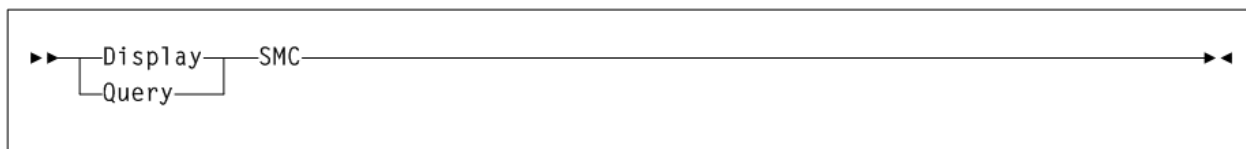
説明

SMC *Display SMC* コマンドは、開始時間、リリース、ホスト情報などの SMC ステータス情報を表示します。

構文

図2.10 「Display SMC コマンドの構文」は、*Display SMC* コマンドの構文を示しています。

図2.10 Display SMC コマンドの構文



パラメータ

なし。

Display STORMNGR

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティーに入力可

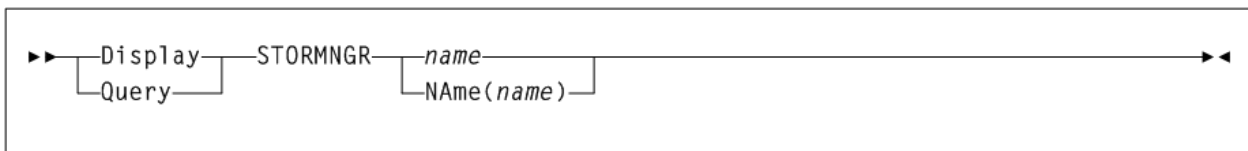
説明

SMC *Display STORMNGR* コマンドは、指定された VLE の情報を表示します。このコマンドは、SMC *STORMNGR* コマンドに *LISt* キーワードを指定した場合と同じ出力を提供します。

構文

図2.11 「Display STORMNGR コマンドの構文」は、*Display STORMNGR* コマンドの構文を示しています。

図2.11 Display STORMNGR コマンドの構文



パラメータ

図2.11 「Display STORMNGR コマンドの構文」に示すように、*Display STORMNGR* コマンドには次のパラメータが含まれます。

name* または *NAmE(name)

定義、変更、または一覧表示する VLE を指定します。この名前は VTCS に対しても定義され、最初は VLE GUI によって定義されます。*name* が指定されていない場合は、すべての VLE が一覧表示されます。

name は、キーワード *NAmE* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAmE* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。

- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

Display TAPEPlex

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

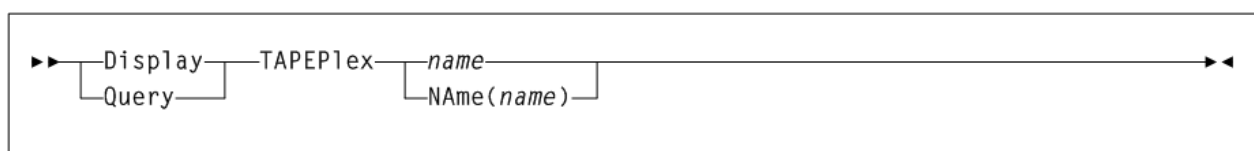
説明

SMC *Display TAPEPlex* コマンドは、指定された TapePlex の情報を表示します。このコマンドは、SMC *TAPEPlex* コマンドに *LIsT* キーワードを指定した場合と同じ出力を提供します。

構文

図2.12 「Display TAPEPlex コマンドの構文」は、*Display TAPEPlex* コマンドの構文を示しています。

図2.12 Display TAPEPlex コマンドの構文



パラメータ

図2.12 「Display TAPEPlex コマンドの構文」に示すように、*Display TAPEPlex* コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または **NAme(name)**

追加、変更、または一覧表示する TapePlex の名前を指定します。この値は必須です。

name は、キーワード *NAme* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAme* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

Display Volume

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *Display Volume* コマンドは、ボリューム属性と TapePlex 所有権情報を表示します。

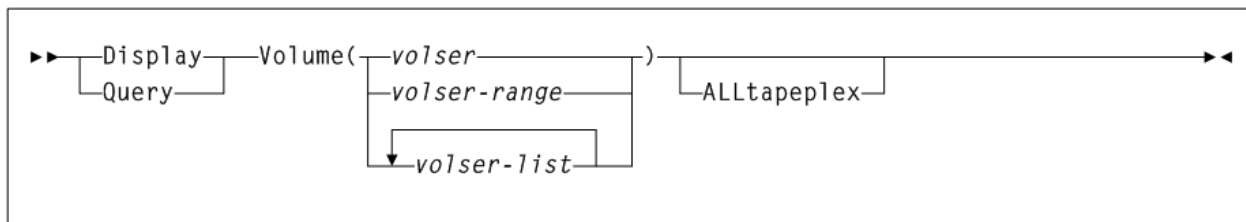
注:

- TapePlex ボリューム情報は、SMC *Route* コマンドを使用して HSC *Display Volume* コマンドを発行することによっても取得できます。
 - サーバーが ACSLS の場合、このコマンドでは、*MEDIA* および *RECTECH* に *NONE* が表示されます。
-

構文

図2.13 「[Display Volume コマンドの構文](#)」は、*Display Volume* コマンドの構文を示しています。

図2.13 Display Volume コマンドの構文



パラメータ

図2.13「Display Volume コマンドの構文」に示すように、*Display Volume* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser、volser-range、または volser-list

処理する *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リストを指定します。複数のボリュームが指定されている場合は、最初の 100 件のみが照会されます。この値は必須です。

ALLtapeplex

オプションで、指定された *volser*、*volser-range*、または *volser-list* について、すべてのアクティブな TapePlex に照会することを指定します。指定された場合、*volser* が複数の TapePlex で定義されていると、同じ *volser* に対して複数の表示行が一覧表示される可能性があります。

このパラメータが指定されていない場合、*Display Volume* コマンドは、定義されている順に TapePlex に照会し、ボリュームが最初に見つかったものだけを表示します。

DRIVemap

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *DRIVemap* コマンドは、クライアントのドライブアドレスをサーバーのドライブアドレスにマップします。このコマンドを使用すると、ユーザーは、クライアン

ト/サーバーモードの同じ TapePlex または仮想ドライブに対して、ホストごとに異なる MSP デバイスアドレスを指定できます。

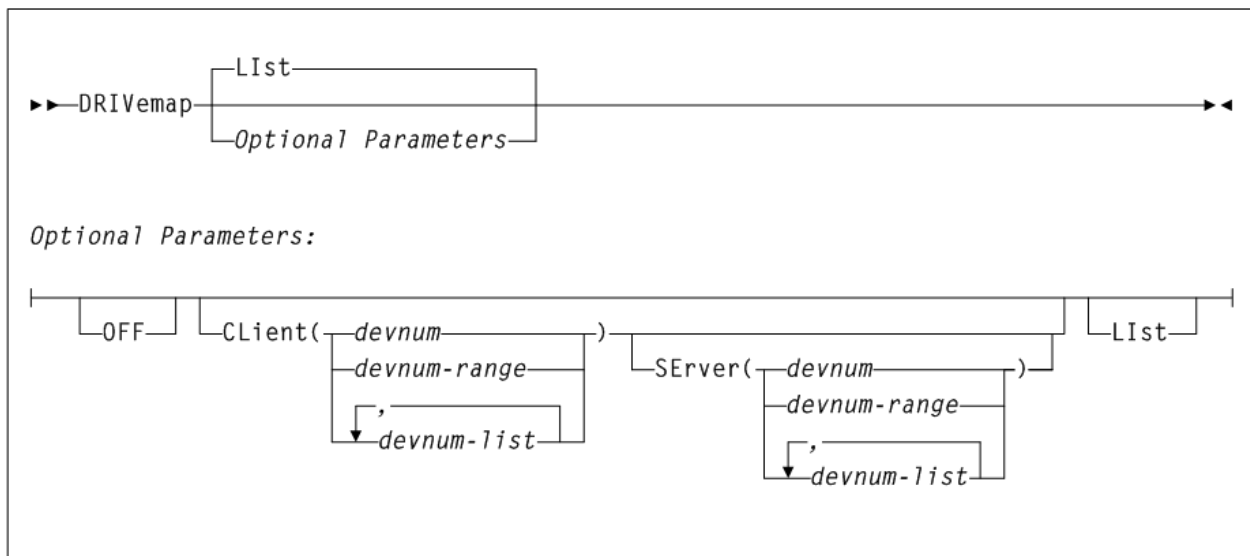
注:

ドライブマッピングの詳細、およびクライアントとサーバーのアドレスが異なる場合の *DRIVemap* コマンドと HSC *DRVHOST* パラメータの使用については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

構文

図2.14 「*DRIVemap* コマンドの構文」は、*DRIVemap* コマンドの構文を示しています。

図2.14 *DRIVemap* コマンドの構文



パラメータ

図2.14 「*DRIVemap* コマンドの構文」に示すように、*MNTD* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、現在のすべての *DRIVemap* マッピングを一覧表示します。

- *DRIVemap* コマンドでパラメータが指定されないときには、*List* がデフォルトとなります。この場合、すべての *DRIVemap* エントリが一覧表示されます。
- *List* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*List* は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

オプションパラメータ

OFF

オプションで、現在のすべての *DRIVemap* マッピングを削除します。*CLient* とともに指定された場合、このパラメータは、*CLient* パラメータで指定された *DRIVemap* の範囲を削除します。

CLient(devnum、devnum-range、または devnum-list)

オプションで、*DRIVemap* コマンドによってマッピングされたデバイス番号を指定します。

devnum、*devnum-range*、または *devnum-list* は、デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストを指定します。

SERver(devnum、devnum-range、または devnum-list)

オプションで、HSC サーバー上で定義されているデバイス番号を指定します。

devnum、*devnum-range*、または *devnum-list* は、デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストを指定します。

範囲およびリストは、*CLient* パラメータ内のものと一致する必要があります。

例:

- *CL(AA0-AA2) SE(BA0-BA2)* は有効です。
- *CL(AA0-AA2) SE(BA0, BA1, BA2)* は無効です。

Help

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC Help コマンドは、SMC コマンドおよびメッセージの情報を表示します。

構文

図2.15 「[Help コマンドの構文](#)」は、*Help* コマンドの構文を示しています。

図2.15 Help コマンドの構文



パラメータ

図2.15「Help コマンドの構文」に示すように、*Help* コマンドには次のパラメータが含まれます。

注:

Help コマンドをパラメータなしで入力すると、使用可能なすべての SMC コマンドの情報が表示されます。

command-name

オプションで、SMC のコマンド名を指定します。

nnnn

オプションで、SMC メッセージ識別子の 4 桁の数値部分を指定します。先行 0 は不要です。

nnnn-nnnn

オプションで、メッセージ識別子の 4 桁の数値部分を使用して指定された SMC メッセージの範囲を指定します。

SMCnnnn

オプションで、完全な SMC メッセージ識別子を指定します。

SMCnnnn-SMCnnnn

オプションで、完全なメッセージ識別子を使用して指定された SMC メッセージの範囲を指定します。

HTTP

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UI サポート: すべて (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

説明

SMC *HTTP* コマンドは、制限付きで HTTP 機能のサブセットをサポートする SMC ソケットリスナーコンポーネントを起動し、ほかのホスト上の SMC クライアントサブシステムに対して HTTP サーバーとして機能するためにローカル SMC サブシステムを有効にします。HTTP サーバーコンポーネントがアクティブになっているこの SMC にほかの SMC クライアントサブシステムから送信された要求は、ローカル HSC によって処理されます。

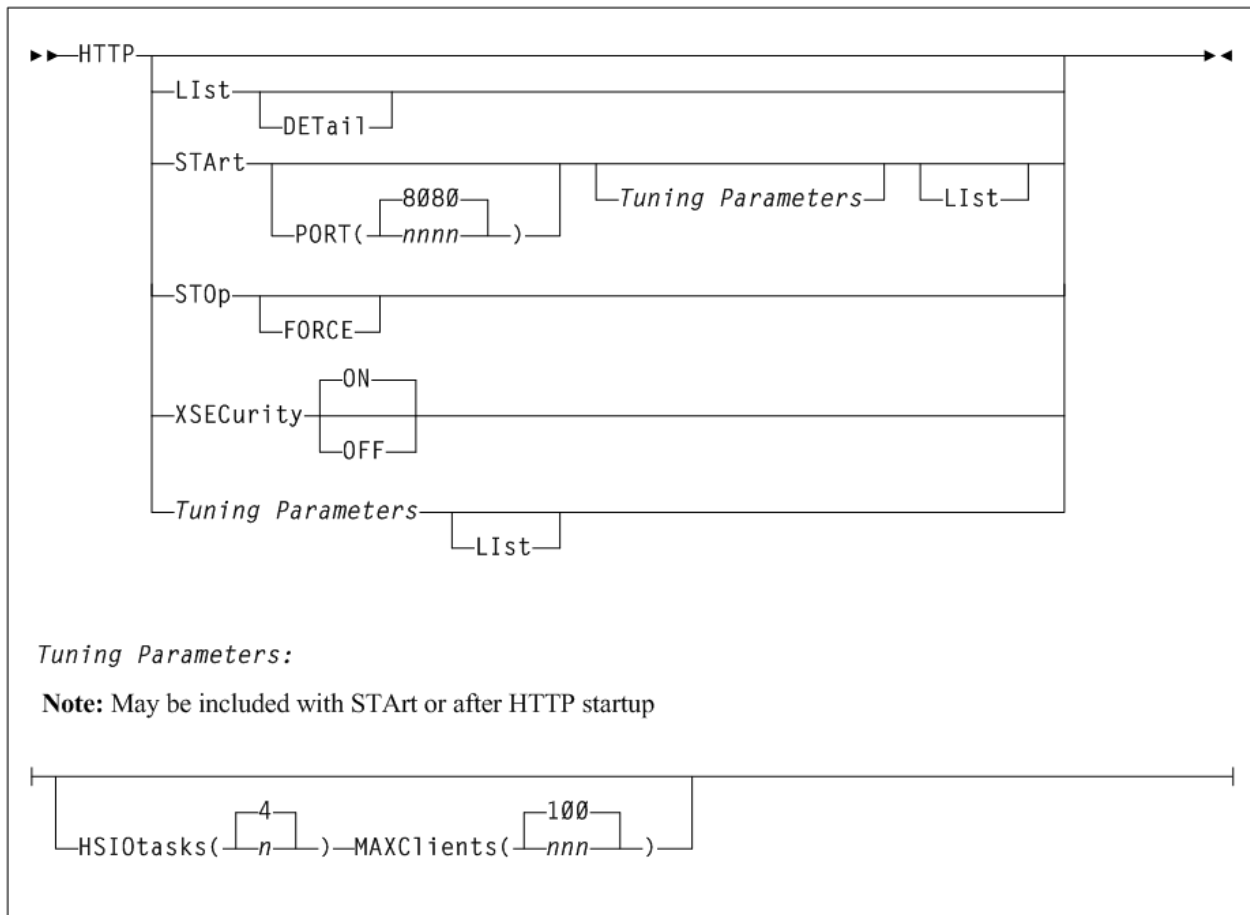
SMC *HTTP* コマンドは、HSC サブシステムが実行されているホスト上でのみ実行するようにしてください。それ以外の場合は、*HTTP* コマンドによって動作上の利点は得られません。

HTTP サーバーコンポーネントがアクティブになっているこのローカル SMC にとってクライアントとなる、ほかのホスト上の SMC サブシステムは、SMC *SERVER* コマンドを使用してこのホストへの通信パスを定義する必要があります。

構文

図2.16 「[HTTP コマンドの構文](#)」は、*HTTP* コマンドの構文を示しています。

図2.16 HTTP コマンドの構文



パラメータ

図2.16「[HTTP コマンドの構文](#)」に示すように、*HTTP* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、SMC HTTP サーバーのステータス情報および間隔の統計情報を表示します。

DETail

オプションで、*LIst* コマンドで表示される情報のほかに、I/O、エラー、許可、および拒否の数と、CGI モジュールの使用回数の情報を一覧表示します。

STArt

オプションで、SMC HTTP サーバーを起動します。

PORT(*nnnn*)

オプションで、着信する要求を待機するポートの番号を指定します。

nnnn は TCP/IP ポート番号を指定します。既知の TCP/IP ポート番号は指定しないことをお勧めします。指定しない場合、デフォルトは *8080* です。

STOp

オプションで、SMC HTTP サーバーを停止します。

FORCE

オプションで、SMC HTTP サーバーのステータスがアクティブでない場合でも *HTTP STOp* コマンドを処理するよう、SMC に指示します。HTTP サービスタスクの回復不能な終了が発生したときに、通常の *SMC HTTP STOp* コマンドが拒否された場合に限り、このパラメータを使用してください。

XSECurity

オプションで、この HTTP サーバーで処理される要求に対して、XAPI ユーザーパスワードのセキュリティープロトコルをグローバルに適用するかどうかを指定します。

ON

XAPI セキュリティープロトコルをこのサーバーに適用することを指定します。これがデフォルト設定です。

OFF

XAPI セキュリティープロトコルをこのサーバーに適用しないことを指定します。

FORCE

オプションで、SMC HTTP サーバーのステータスがアクティブでない場合でも *HTTP STOp* コマンドを処理するよう、SMC に指示します。HTTP サービスタスクの回復不能な終了が発生したときに、通常の *SMC HTTP STOp* コマンドが拒否された場合に限り、このパラメータを使用してください。

チューニングパラメータ

次のパラメータは、*STArt* とともに、または HTTP の起動後に入力できます。Oracle StorageTek ソフトウェアサポートから指示がないかぎり、これらのパラメータのデフォルト値を変更しないことを強くお勧めします。

HSIOtasks(*n*)

オプションで、開始する SMC HTTP ソケット I/O タスクの最大数を指定します。

n は、I/O タスクの数を指定します。

注:

HSIOtasks パラメータは、HTTP サーバーの起動後に指定することはできず、*HTTP START* コマンドの一部として指定する必要があります。ただし、残りのチューニングパラメータ *MAXClients*、*SQUELEN*、および *WQUELEN* は、SMC HTTP サーバーの起動が完了したあとで変更できます。

MAXClients(*nnn*)

オプションで、同時に許可される接続要求の最大数を指定します。

nnn は、要求の数を指定します。この値は、1 から 300 の間にする必要があります。デフォルト値は 100 です。

LIMIT**インタフェース:**

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。*SMCUSIM* ユーティリティーに入力不可。

説明

SMC *LIMIT* コマンドを使用すると、SMC サブシステム内のリソースの使用を制限できます。このコマンドにより、Sx78 タイプの異常終了の可能性を制限できます。

デフォルトでは、SMC サブシステムは、新しい要求が受信されたが使用可能な空き SMC 作業タスクがない場合は常に、新しい SMC 作業タスクを開始します。*LIMIT* のデフォルト設定である *LIMIT AUTO OFF* および *LIMIT MAXTASKS OFF* を使用すると、このデフォルトの動作になります。

ただし、SMC サブシステムは、その作業負荷に応じて、SMC サブシステムの使用可能なリソースの限度を超えて作業タスクを開始しようとする場合があります。これにより、仮想メモリの制約のために Sx78 タイプの異常終了が発生する場合があります。このような異常終了は、誤った割り当て、マウント状態の消失、または SMC サブシステム全体の消失につながる可能性があります。

LIMIT AUTO ON または *LIMIT MAXTASKS nnn* を指定して SMC サブシステムのデフォルトの動作をオーバーライドした場合、計算されたまたは指定された SMC 作業タスクの制限に達したときに SMC は新しい作業の要求をキューに入れます。

- *LIMIT AUTO ON* により、SMC は SMC サブシステムの可用性に基づいて計算される作業タスクの制限を使用します。

- *LIMIT MAXTASKS nnn* により、SMC は指定された作業タスクの制限を使用します。

計算されたまたは指定された SMC 作業タスクの制限には、新しい要求の処理を遅くする働きがあります。たとえば、計算されたまたは指定された SMC 作業タスクの制限が 200 で、すでに 200 個の SMC 作業タスクがアクティブになっているときに、新しい要求が受信された場合、既存の SMC 作業タスクがその処理を完了するか、または *LIMIT MAXIDLE nnn* 時間が経過するまで、新しい要求はキューに入れられて待機します。

LIMIT MAXIDLE nnn 時間が経過したとき、既存のどの SMC 作業タスクもその処理を完了していない場合、SMC は新しい要求を処理するために新しい作業タスクを開始します。ただし、作業タスクの数は、計算されたまたは指定された作業タスクの制限を超えることとなります。したがって、計算されたまたは指定された作業タスクの制限は、「弱い」制限です。

デフォルトの *LIMIT MAXIDLE* 時間は 10 秒です。したがって、既存の作業タスクがその処理を完了するまでは、計算されたまたは指定された作業タスクの制限を超えて追加される SMC 作業タスクの数は、10 秒ごとに 1 個に制限されます。

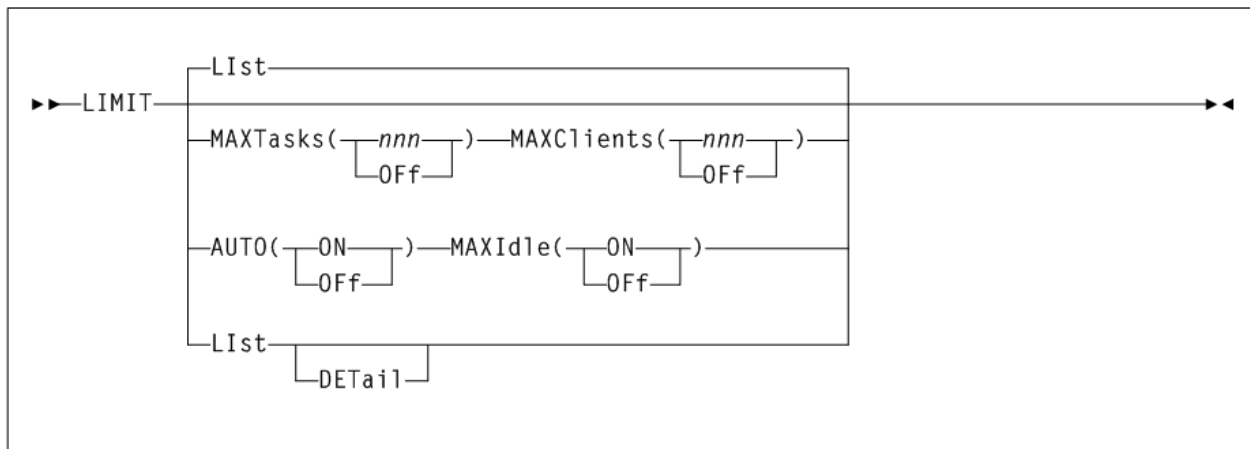
注:

SMC サブシステムで Sx78 タイプの異常終了が発生している場合に限り、*LIMIT* コマンドを使用してデフォルトの *LIMIT* 設定を変更することをお勧めします。

構文

図2.17 「*LIMIT* コマンドの構文」は、*LIMIT* コマンドの構文を示しています。

図2.17 LIMIT コマンドの構文



パラメータ

図2.17 「LIMIT コマンドの構文」に示すように、LIMIT コマンドには次のパラメータが含まれます。

MAXTasks

SMC サブシステム内の作業タスクの数を制限します。作業タスクは、オペレータコマンド、割り当て照会、マウントおよびマウント解除要求、リモートホストへの TCP/IP 接続、およびその他のシステムプロセスを処理します。通常、これらの要求の存続期間は短く、そのリソースは再利用可能です。

nnn

16 から 500 までの、SMC サブシステムの作業タスクの最大数。

Off

MAXTasks 制限を指定しません。デフォルト値は Off で、これは作業タスク数の最大の MAXTasks 制限である 500 を意味します。

MAXClients

オプションで、一度にリモートサーバーに接続できる SMC サブシステム内の作業タスクの数を制限します。これらの作業タスクは MAXTASKS のサブセットです。

LIMIT MAXClients コマンドは、HTTP MAXCLIENTS コマンドとは次のように異なります。

- LIMIT MAXClients は、クライアント/サーバーのクライアント側でクライアント接続の数を制限します。
- HTTP MAXClients は、クライアント/サーバーのサーバー側でクライアント接続の数を制限します。

nnn

1 から 500 までの、SMC サブシステムのソケット I/O 作業タスクの数。

OFF

MAXClients 制限を指定しません。デフォルト値は **OFF** で、これは SMC 作業タスク数の最大の **MAXCLIENTS** 制限である 500 を意味します。

MAXIdle

オプションで、SMC サブシステムが新しい要求を受信したときに、計算されたまたは指定された作業タスクの制限を超えて新しい作業タスクを開始するまでの待機時間を制限します。

nnn

0 から 2400 までの秒数。デフォルトは 10 秒です。

OFF

デフォルト値の 10 秒に戻します。

AUTO

オプションで、SMC サブシステムが使用可能なリソースの量に基づいて自動的に **MAXTasks** 制限を設定するかどうかを指定します。

ON

MAXTasks 制限が **MAXTasks** パラメータでオーバーライドされていない場合は、SMC サブシステムで自動的に制限を設定することを指定します。

OFF

SMC サブシステムで自動的に **MAXTasks** 制限を設定しないことを指定します。

OFF

オプションで、すべての **LIMIT** 設定をデフォルト値にリセットします。

Lst

オプションで、現在の **LIMIT** パラメータの設定を一覧表示します。**LIMITS** コマンドをパラメータなしで入力すると、**Lst** が実行されます。

DETail

オプションで、SMC のリソース使用状況およびサポートされる作業サブタスクの計算された最大数を一覧表示します。

注:

- *LIMIT AUTO ON* が指定された場合、SMC はサポートできる SMC 作業タスクの最大数を計算します。この計算は、SMC が新しい作業タスクを開始すると SMC 作業タスク数が新しい最高値となる場合に常に実行されます。
 - SMC 作業タスクの最大数の計算は、さまざまなサブプール内のストレージ使用量に基づいています。ただし、実際にサポートできる SMC 作業タスクの実際の最大数は、要求のタイプとタイミング、および全般的なシステム作業負荷に基づきます。計算の結果は大まかな推定にすぎず、新しいサブタスクが開始されるにつれて変化する可能性があります。
 - *LIMIT MAXTASKS nnn* は、*LIMIT AUTO ON* または *LIMIT AUTO OFF* 設定をオーバーライドします。したがって、*LIMIT MAXTASKS 190* と *LIMIT AUTO ON* の両方が指定されている場合は、SMC サブシステムでの最大作業タスク数の計算に関係なく、SMC 作業タスクの数が 190 に到達すると SMC の制限処理がトリガーされます。
 - *LIMIT MAXCLIENTS* は *HTTP MAXCLIENTS* とは異なります。*LIMIT MAXCLIENTS* は、クライアント/サーバーのクライアント側で TCP/IP ソケット接続に制限を適用します。これに対し、*HTTP MAXCLIENTS* は、クライアント/サーバーのサーバー側で TCP/IP ソケット接続に制限を適用します。
-

Llst

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

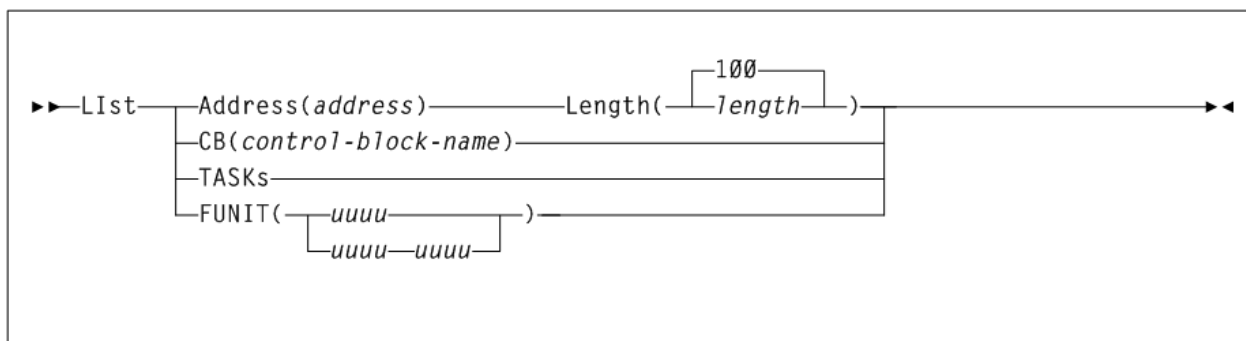
SMC *Llst* コマンドは、SMC によって開始されたタスクのアドレス空間からアクセス可能なストレージを表示します。

このコマンドは、主に Oracle StorageTek ソフトウェアサポートの指示に従って使用するように意図されています。出力は、デバッグおよびサポートのために使用されます。

構文

図2.18 「[Llst コマンドの構文](#)」は、*Llst* コマンドの構文を示しています。

図2.18 List コマンドの構文



パラメータ

図2.18 「List コマンドの構文」に示すように、*List* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Address(*address*)

オプションで、SMC メモリーの内容の一覧表示を開始するアドレスを指定します。

address はアドレスを指定します。入力値は、有効な 16 進数アドレスでなければなりません。

Length(*length*)

オプションで、一覧表示する SMC メモリーの長さ (バイト数) を指定します。*Address* を指定した場合、*Length* は必須です。

length は、入力値が 1 から FFFF までの有効な 16 進数値でなければならないことを指定します。*Address* パラメータで指定された位置からメモリーが一覧表示されます。デフォルト値は 100 (10 進数の 256) です。

CB(*control-block-name*)

オプションで、一覧表示する内部の SMC 制御ブロックを指定します。

control-block-name は制御ブロック名を指定します。

SMC 制御ブロックが診断目的のために一覧表示されます。Oracle StorageTek ソフトウェアサポートによって指導された場合のみ *control-block-name* を指定してください。

TASKs

オプションで、SMC サブシステムのアドレス空間内のタスクを一覧表示します。

FUNIT(*uuuu* または *uuuu-uuuu*)

オプションで、指定されたユニットアドレスに関連付けられた SMC 制御ブロックを一覧表示します。

uuuu または *uuuu-uuuu* は、1つのユニットアドレスまたはユニットアドレスの範囲を指定します。

LOG

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

説明

SMC *LOG* コマンドは、次のいずれかまたはすべてからのデータ通信を記録します。

- SMC ライブラリインタフェースコンポーネント
- SMC クライアント構成コンポーネント
- SMC HTTP サーバーコンポーネント
- SMC オペレータコマンドコンポーネント

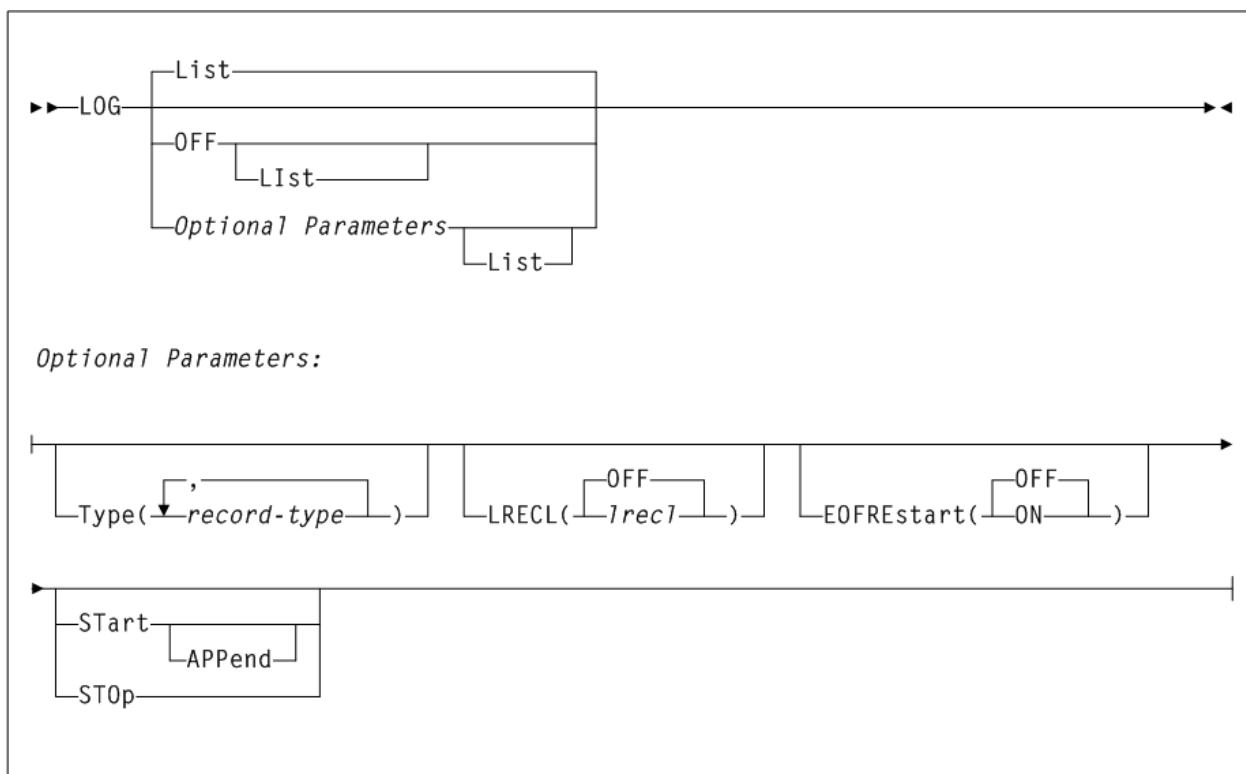
これらの通信のトランザクションが SMC ログファイルに記録されます。

このコマンドは、主に Oracle StorageTek ソフトウェアサポートの指示に従って使用するように意図されています。

構文

[図2.19 「LOG コマンドの構文」](#) は、*LOG* コマンドの構文を示しています。

図2.19 LOG コマンドの構文



パラメータ

図2.19 「LOG コマンドの構文」に示すように、LOG コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、HTTP サーバーのステータス情報および間隔の統計情報を表示します。

- LOG コマンドでパラメータが指定されないときには、LIst がデフォルトとなります。
- LIst はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、LIst は、ほかのパラメータが処理されたあとに適用されます。

OFF

オプションで、すべての LOG 設定を元の SMC のデフォルト設定にリセットします。OFF は、ログを閉じ、すべてのレコードタイプをオフにし、LRECL を 0 に設定します。OFF コマンドのあとに LOG START コマンドが発行された場合、特定のログタイプが指定されるまで、レコードは記録されません。

オプションパラメータ

Type(record-type)

オプションで、記録するレコードタイプを指定します。

record-type は、次のレコードタイプのいずれかを指定します。

LLS

SMC ライブラリインタフェースコンポーネントから送信された、ローカルの *LIBTRANS XML* トランザクション

LLR

SMC ライブラリインタフェースコンポーネントによって受信された、ローカルの *LIBTRANS XML* 応答

CLS

SMC クライアント通信コンポーネントから送信された、リモートの *LIBTRANS XML* トランザクション

CLR

SMC クライアント通信コンポーネントによって受信された、リモートの *LIBTRANS XML* 応答

CUS

SMC クライアント通信コンポーネントから送信された、リモートの *UUI* トランザクション

CUR

SMC クライアント通信コンポーネントによって受信された、リモートの *UUI* 応答

CER

SMC クライアント通信コンポーネントによって検出されたすべてのエラー

SAS

SMC HTTP サーバーコンポーネントによってアウトバウンドに送信されたすべてのデータ

SAR

SMC HTTP サーバーコンポーネントによってインバウンドに受信されたすべてのデータ

SER

SMC HTTP サーバーコンポーネントによって検出されたすべてのエラー

CMD

SMC オペレータコマンドコンポーネントによって受信されたすべてのオペレータコマンド

ALL

すべてのタイプを *ON* に設定します。

OFF

すべてのタイプを *OFF* に設定します。

LRECL

オプションで、ログファイルに書き込まれる行の長さを指定します。

lrecl

論理行の長さを制限するために使用される、80 から 32767 までの値。

送信または受信したデータが、指定された *LRECL* を超える場合は、複数の行が書き込まれます。*LRECL* が指定されている場合、ログの日付とタイムスタンプは別個のログレコードとして書き込まれます。この値が *DCB LRECL* を超える場合は、*DCB LRECL* が使用されます。

OFF

行の最大長は *DCB LRECL* によって制御されます。ログレコードは、ログの日付とタイムスタンプの後ろに追加されます。これがデフォルトです。

EOFREstart

オプションで、ログファイルがファイルの終わり (EOF) に達したときの対応を指定します。

OFF

ロギングは EOF で停止します。

ON

EOF でログファイルを閉じてから再度開き、ロギングを続行します。

STArt

オプションで、ロギングを開始します。

APPend

オプションで、ロギングの開始時にデータを現在のログファイルの末尾に追加することを指定します。指定しない場合、データはログファイルの先頭からログファイルに追加され、現在ログファイル内にあるデータはすべて失われます。*APPend* は、*STArt* も指定する場合にのみ指定できます。

STOp

オプションで、ロギングを停止します。現在の *LOG* 設定は保持されます。

METAdata

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

説明

SMC *METAdata* コマンドは、XML 出力を生成する関数に関連付けられている XML タグを表示します。

注:

METAdata コマンドはテキスト出力を生成しません。XML または CSV の出力が要求されていない場合、このコマンドは出力を生成しません。

構文

図2.20 「METAdata コマンドの構文」は、METAdata コマンドの構文を示しています。

図2.20 METAdata コマンドの構文

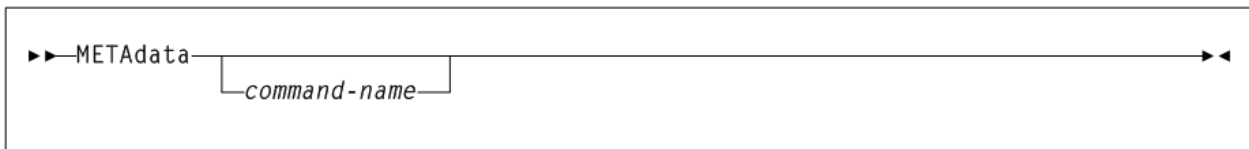
**パラメータ**

図2.20 「METAdata コマンドの構文」に示すように、METAdata コマンドには次のパラメータが含まれます。

command-name

メタデータを生成するコマンド。

コマンドに「2つの部分」が含まれている (*Display Volume* など) 場合は、両方の部分を入力してください。METAdata コマンドでは、コマンド自体と同じ省略形が *command-name* に使用されます。次に例を示します。

```
METAdata D V
```

METAdata コマンド自体はメタデータをサポートしていません。

METAdata コマンドは、次のタグを生成します。

<command_name>

コマンドのフルネーム。

<security_level>

必要なセキュリティレベル (コマンドの承認が有効な場合)。値は *QUERY*、*SET*、および *ADMIN* です。

<command_tags>

すべての XML タグのヘッダータグ。

要求されたコマンドの各 XML タグに対して、次のタグが生成されます。

<tag_data>

各 XML タグのヘッダータグ。

<tag_name>

XML タグ名 (たとえば、volser)。

<tag_type>

値は、ヘッダー (ヘッダー XML タグ)、データ (XML データタグ。通常は値に関連付けられます)、およびトレーラ (ヘッダータグに関連付けられているトレーラタグの位置を示します) です。

<occurrences>

複数回発生する可能性があるタグの予想される最大発生数。これは数値または *unlimited* になります。

data-type タグに対してのみ、次のタグが生成されます。

<data_type>

タグ値に予期されるデータのタイプを示します。データタグの場合にのみ生成されます。値は *char*、*numeric*、*flag*、*hex*、*date*、*time* などです。

<maximum_size>

出力データの最大サイズを示します。

MONitor

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

- アクティブな SMC が必要
- *SMCUSIM* ユーティリティーに入力不可

説明

SMC *MONitor* コマンドは、SMC のモニタリングに関連するパラメータを定義します。

注:

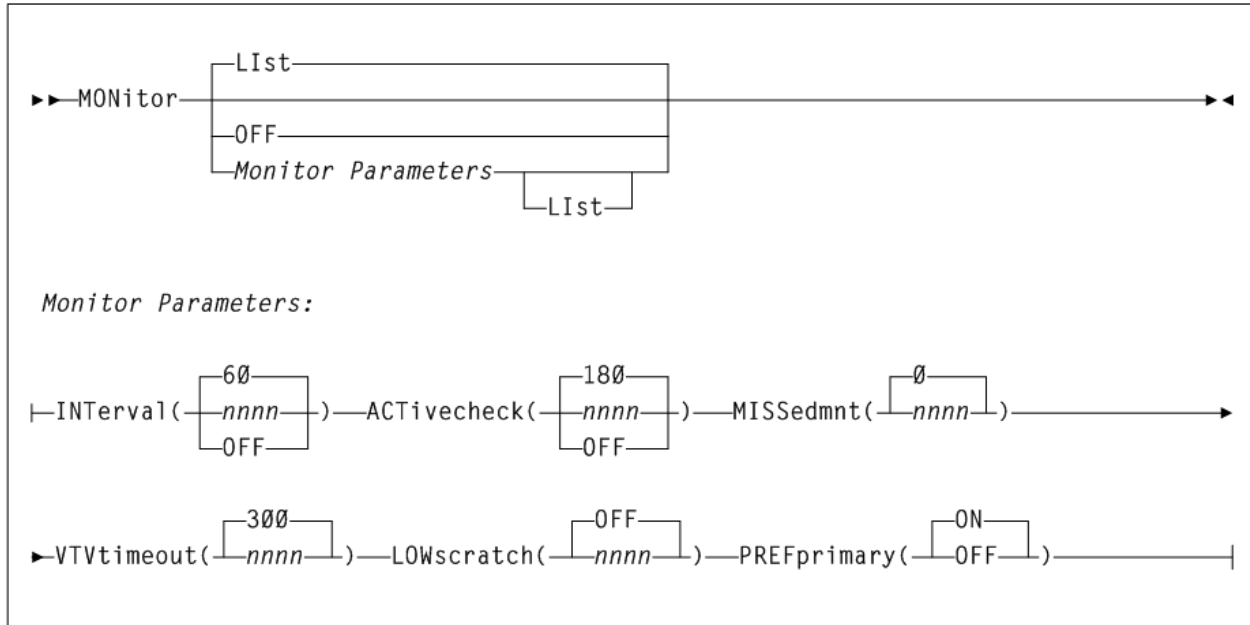
次のいずれかの条件が存在する場合、SMC は保留中のマウントを検出できません。

- *ALLOCDEF DEFER(OFF)* が指定されている。
 - SMC が初期化される前にマウントが要求され、そのマウント要求で *DEFER* オプションが指定されていないかった。
-

構文

図2.21 「MONitor コマンドの構文」は、*MONitor* コマンドの構文を示しています。

図2.21 MONitor コマンドの構文



パラメータ

図2.21 「MONitor コマンドの構文」に示すように、*MONitor* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Lst

オプションで、現在の *MONitor* コマンドの設定を一覧表示します。

OFF

オプションで、すべての *MONitor* パラメータをデフォルト値にリセットします。

モニターパラメータ

INTerval

オプションで、基本の SMC モニタースキャン間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は 60 です。

各モニター間隔で、SMC は次のアクションを実行します。

1. SMC は、アクティブでない TapePlex またはストレージマネージャーのアクティブな通信パスを検出しようとします。

2. *PREFprimary(ON)* が設定されている場合、SMC はその通信パスを非プライマリパスからプライマリサーバーに変更しようとします。
3. SMC は、SMC *IEFJFRQ* 出口がアクティブであることをチェックして、SMC がテープ割り当てに影響を与えていることを確認します。
4. SMC は孤立したタスクトークンをクリアします。
5. SMC は、保留中のマウントを再処理しようとします。

注:

MONitor INTERVAL を 0 または *OFF* に設定しないことを強くお勧めします。これらの値が設定されている場合、SMC では、保留中のマウントの再処理、*PREFprimary* 設定の自動適用、または *IEFJFRQ* 出口がアクティブであることの確認ができません。

ACTivecheck(nnnn)

オプションで、前回のアクティブチェック以降にアクティビティーがなかったアクティブな通信パス上で、通信がまだアクセス可能かどうかを SMC が確認する間隔を秒単位で指定します。

nnn は間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は 180 で、つまり *INTERVAL* 値の 3 倍です。

ACTivecheck が 0 または *OFF* に設定されている場合、SMC はアクティブな通信パスをモニターしません。*ACTivecheck* 間隔が基本の *INTERVAL* の倍数でない場合は、*INTERVAL* 値の倍数となる秒数に切り上げられます。

MISSedmnt(nnnn)

オプションで、未処理のマウントが保留中であることを示すメッセージを SMC が発行する間隔を秒単位で指定します。マウントが未処理のままの場合は、メッセージが間隔ごとに繰り返されます。

nnnn は間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は 0 で、メッセージが表示されないことを意味します。

MISSedmnt 間隔が基本の *INTERVAL* の倍数でない場合は、*INTERVAL* 値の倍数となる秒数に切り上げられます。この間隔は少なくとも 600 (10 分) に設定することをお勧めします。これにより SMC マウントモニター処理では、未処理のマウントの定期的なメッセージを生成する前に、未処理のマウントの再処理を試みることができます。

VTVtimeout(nnnn)

オプションで、SMC が SMC0231 メッセージを発行して VTV のマウント要求の再処理を試みる時間を秒単位で (*nnnn*) 指定します。

nnnn は時間を秒単位で指定します。デフォルト値は 300 秒 (5 分) です。

VTVtimeout 値が基本の *INTERval* の倍数でない場合は、*INTERval* 値の倍数となる秒数に切り上げられます。

VTVtimeout の最小値は 300 秒、最大は 1800 秒です。

LOWscratch(*nnnn*)

オプションで、しきい値を下回っているサーバスクラッチサブプールについて SMC が報告を行う間隔を秒単位で指定します。

nnnn は間隔を秒単位で指定します。デフォルト値は *OFF* です。

スクラッチサブプール 0 を除き、*LOWSCRatch* は、サブプール名に関連付けられていないスクラッチ不足については報告しません。

LOWSCRatch が 0 または *OFF* に設定されている場合、SMC はスクラッチのしきい値チェックを実行しません。

LOWSCRatch 間隔の値が基本の *INTERval* の倍数でない場合は、*INTERval* 値の倍数となる秒数に切り上げられます。

PREFprimary

オプションで、TapePlex に対して最初に定義されているサーバーではないサーバー上で通信が現在アクティブになっているときに、SMC がより高い優先順位のサーバーパス上で通信の確立を試みるかどうかを指定します。デフォルト値の *ON* は、最初に定義されているパスが現在アクティブなパスではない場合、SMC がそのパスでの通信を *MONitor INTERval* 間隔ごとに試みることを指定します。

PREFprimary が *OFF* に設定されている場合、SMC は、アクティブなパスより前に定義されているパスが使用可能になっても、アクティブなパス上で通信を続行します。

PREFprimary 設定は、*RESYNChronize* コマンドの動作も制御します。*PREFprimary(ON)* が設定されている場合、*RESYNChronize* は、最初に定義されているサーバーへの通信を試みます。*PREFprimary(OFF)* が設定されている場合、*RESYNChronize* は、現在アクティブな通信パスがあればそれを変更しません。

MOunt

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

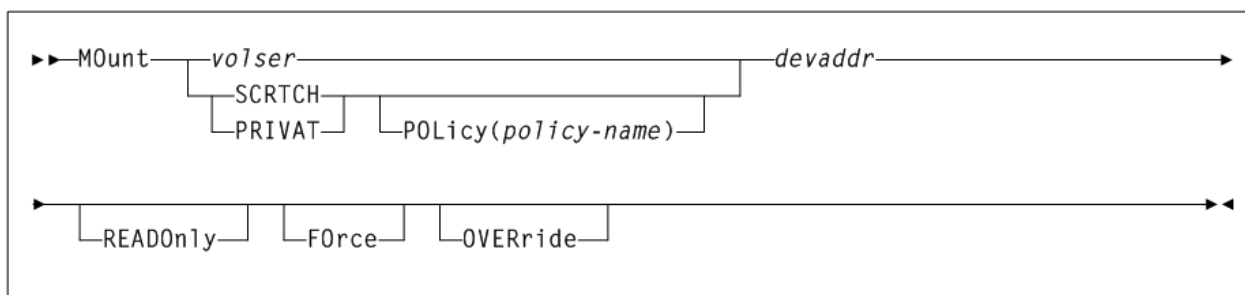
説明

SMC *MOUNT* コマンドは、特定のボリュームまたはスクラッチボリュームをテープデバイスにマウントするよう要求します。

構文

図2.22 「*MOUNT* コマンドの構文」は、*MOUNT* コマンドの構文を示しています。

図2.22 *MOUNT* コマンドの構文



パラメータ

図2.22 「*MOUNT* コマンドの構文」に示すように、*MOUNT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser

マウントするボリュームのボリュームシリアル番号。

SCRTCH または PRIVAT

スクラッチマウントを指定します。

POLICY(policy-name)

オプションで、ボリュームが *SCRTCH* (または *PRIVAT*) として指定されている場合に、スクラッチマウントに適用するサブプール名および管理クラス名 (該当する場合) を定義する SMC ポリシーの名前を指定します。

policy-name はポリシー名を指定します。

devaddr

ボリュームをマウントする MSP デバイスのアドレス。デバイスは、SMC に認識されている TapePlex によって定義されている必要があります。この値は必須です。

READOnly

オプションで、書き込み保護を有効にしてボリュームをマウントするように指定します。

FOrce

オプションで、ドライブにロードされたボリュームが見つかった場合は、要求されたマウントを試行する前に、巻き戻しとアンロードを行うように指定します。FOrce は仮想ドライブではサポートされません。

OVERride

オプションで、SMC がそのドライブに対して保留中のマウントを検出した場合に、保留中のマウントで指定されたボリュームを、MOUNT コマンドで指定されたボリュームでオーバーライドするように指定します。

MOUNTDef

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、SMCCMDS データセット、または SMCPARMS データセット
- UI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティーに入力可

説明

SMC MOUNTDef コマンドを使用すると、以前 HSC MNTD コマンド、HSC 入力パラメータ、および LIBGEN オプションによって制御されていたメッセージ処理オプション (マウントまたはマウント解除) を制御できます。MOUNTDef コマンドは VTV にも適用されます。

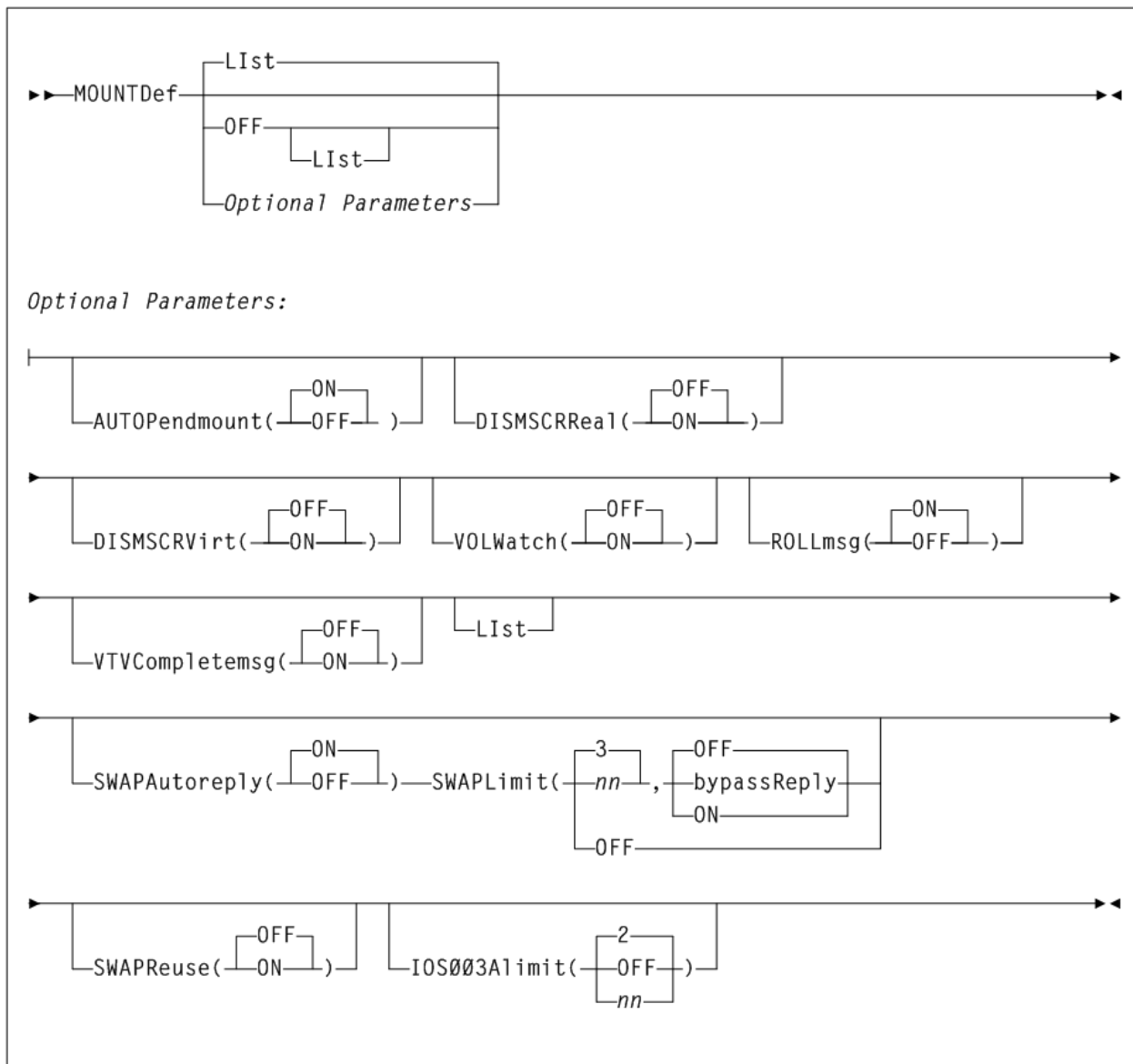
これらのオプションは、次のことを制御します。

- 保留中のマウントの自動処理
- マウント解除時の削除処理
- マウントおよびマウント解除メッセージが発行されるかどうか
- マウントメッセージをコンソール外へスクロールするタイミング
- スワップ処理の動作

構文

図2.23 「MOUNTDef コマンドの構文」は、MOUNTDef コマンドの構文を示しています。

図2.23 MOUNTDef コマンドの構文



パラメータ

図2.23 「MOUNTDef コマンドの構文」に示すように、MOUNTDef コマンドには次のパラメータが含まれます。

LlSt

オプションで、現在の SMC *MOUNTDef* 設定を一覧表示します。

- *MOUNTDef* コマンドでパラメータが指定されないときには、*LlSt* がデフォルトとなります。
- *LlSt* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LlSt* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、すべての *MOUNTDef* 設定を元の SMC のデフォルト設定にリセットします。これらの設定の一覧を表示するには、*LlSt* をこのパラメータとともに指定します。

オプションパラメータ

AUTOPendmount

オプションで、SMC がはじめて初期化され、所有している TapePlex がはじめてアクティブになったときに、見つかったライブラリまたは仮想ドライブに対する保留中のマウントを自動処理するかどうかを指定します。

ON

保留中のマウントが自動処理されます。これがデフォルトです。

OFF

保留中のマウントが自動処理されません。

注:

AUTOPendmount が *OFF* である場合、TapePlex がはじめてアクティブになったときに検出された保留中のマウントを完了するには、*HSC MOUNT* コマンドを発行する必要があります。

DISMSCRReal

オプションで、実 (仮想でない) ボリュームのマウント解除メッセージの削除処理を SMC がどのように解釈するかを指定します。

注:

DISMSCRReal および *DISMSCRVirt* パラメータは、*HSC LIBGEN SLIBRARY* マクロの *DELDISP=* パラメータに代わるものです。

OFF

MSP がマウント解除メッセージで削除処理を指定したとき、実カートリッジは非スクラッチとして保持されます。これはデフォルトであり、*CA-1* または *CA-TLMS* ユーザーが *CA-1* および *CA-TLMS* 猶予期間中にボリュームを一貫性のある非スクラッチステータスのままにしておく場合に推奨されません。

ON

MSP がマウント解除メッセージで削除処理を指定したとき、実カートリッジはスクラッチされます。

DISMSCRVirt

オプションで、VTV のマウント解除メッセージの削除処理を SMC がどのように解釈するかを指定します。

注:

DISMSCRReal および *DISMSCRVirt* パラメータは、HSC *LIBGEN SLILIBRY* マクロの *DELDISP=* パラメータに代わるものです。

OFF

MSP がマウント解除メッセージで削除処理を指定したとき、VTV は非スクラッチとして保持されます。これがデフォルトです。

ON

MSP がマウント解除メッセージで削除処理を指定したとき、VTV はスクラッチされます。

VOLWatch

オプションで、ライブラリボリュームがライブラリ外ドライブにマウントされる場合に SMC メッセージを発行するかどうかを指定します。

OFF

ライブラリボリュームがライブラリ外ドライブにマウントされる場合にメッセージは発行されません。

ON

ライブラリボリュームがライブラリ外ドライブにマウントされる場合にはコンソールメッセージが発行されます。

ROLLmsg

オプションで、マウント要求が満たされる前に、SMC によって処理されるマウントメッセージをオペレータコンソール外へスクロールしてもよいかどうかを指定します。

ON

マウントメッセージは、マウント要求が満たされる前にコンソール画面外へスクロールすることが許可されます。これがデフォルトです。

メッセージに *xxxxRCDC* (Request to Change Descriptor Codes) のフラグワード *xxxxRFB1* を事前に設定することにより、特定のマウントメッセージ (たとえば、*TMS007*) のスクロールを制限できます。*SAMPLIB* には、*xxxxRCDC* フラグを事前設定するサンプル *MPF USEREXIT* が含まれています。

OFF

マウントメッセージは、マウント要求が満たされるまでコンソール画面上に残ります。

VTVCompletemsg

オプションで、VTV のマウントおよびマウント解除メッセージを発行するかどうかを指定します。

OFF

VTV マウント (SLS5075I) および VTV マウント解除 (SLS5076I) メッセージは、サーバーが稼働しているホスト上では発行されません。これがデフォルトです。

ON

VTV マウント (SLS5075I) および VTV マウント解除 (SLS5076I) メッセージは、サーバーが稼働しているホスト上で発行されます。

SWAPAutoreply

オプションで、互換性のあるスワップ対象デバイスが見つからない場合に、SMC 拡張スワッププロセスが *IBM IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'* メッセージに対して自動的に *NO* と応答するかどうかを指定します。

ON

SMC は、互換性のあるデバイスを検出できなかった場合、独自の *SMC0108 No compatible drive found for SWAP processing* メッセージを発行したあと、*IBM IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'* メッセージに対して自動的に *NO* と応答します。これがデフォルトです。

OFF

SMC は、互換性のあるデバイスを検出できなかった場合、*IBM IGF500D - REPLY 'YES' DEVICE OR 'NO'* メッセージに対して自動的に応答しません。

SWAPLimit

オプションで、システムによって開始され SMC の影響を受ける、同じジョブステップおよびボリュームシリアルに対するスワップの最大数を指定します。

nn

スワップ値 0-99 または *OFF*。

- 指定された値が 0 または *OFF* である場合、SMC は、スワップに無制限に影響を与えようとし続けます。
- 値が指定されていない場合、デフォルト値は 3 です。
- SWAPLimit* 値が 0 または *OFF* 以外の場合、SMC は、同じジョブステップおよびボリュームシリアルに対するスワップに影響を与えることを、*nn* 回試行したあと停止します。

注:

オペレータによって開始された *SWAP* コマンドは、*SWAPLimit* 値に適用されません。

bypassReply

bypassReply は、次の値のいずれかに置き換えてください。

- ON* は、オプションで、スワップ試行が *SWAPLIMIT* 回に達したあとでさらに別のスワップ試行が検出された場合、SMC はシステムメッセージ *IGF509D* に応答すべきでないことを指定します。

- **OFF** は、オプションで、*nn* 回のスワップ試行後、SMC は *IGF509D* メッセージに対して **NO** という応答を生成することを指定します。これがデフォルトです。

SWAPReuse

オプションで、以前に使用されたスワップ対象デバイスを、現在のジョブステップおよびボリュームシリアルに使用可能なスワップ対象デバイスとして除外するかどうかを指定します。

OFF

以前に使用されたスワップ対象デバイスは、現在のジョブステップおよびボリュームシリアルに使用可能なスワップ対象デバイスとして除外されます。適格なデバイスが見つからない場合、SMC はメッセージ *SMC0108* を発行します。さらに、*MOUNTDef SWAPAutoreply* が **ON** に設定されている場合は、*IGF500D* または *IGF509D* メッセージに **NO** と応答します。これがデフォルトです。

ON

以前に使用されたスワップ対象デバイスは、現在のジョブステップおよびボリュームシリアルに使用するのに適格です。

OS03Alimit

オプションで、*IOS003A* メッセージで失敗したマウント要求を再処理する最大試行回数を指定します。

OFF

特定のドライブに対する *IOS003A* メッセージのあと、特定のドライブに対するマウント要求の再処理を、回数に制限なく試行します。

nn

マウント要求を再処理する最大試行回数。有効な値は 0 - 99 です。デフォルトは 2 です。値 0 は *IOS003Alimit(OFF)* と同等です。

MSGDef

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

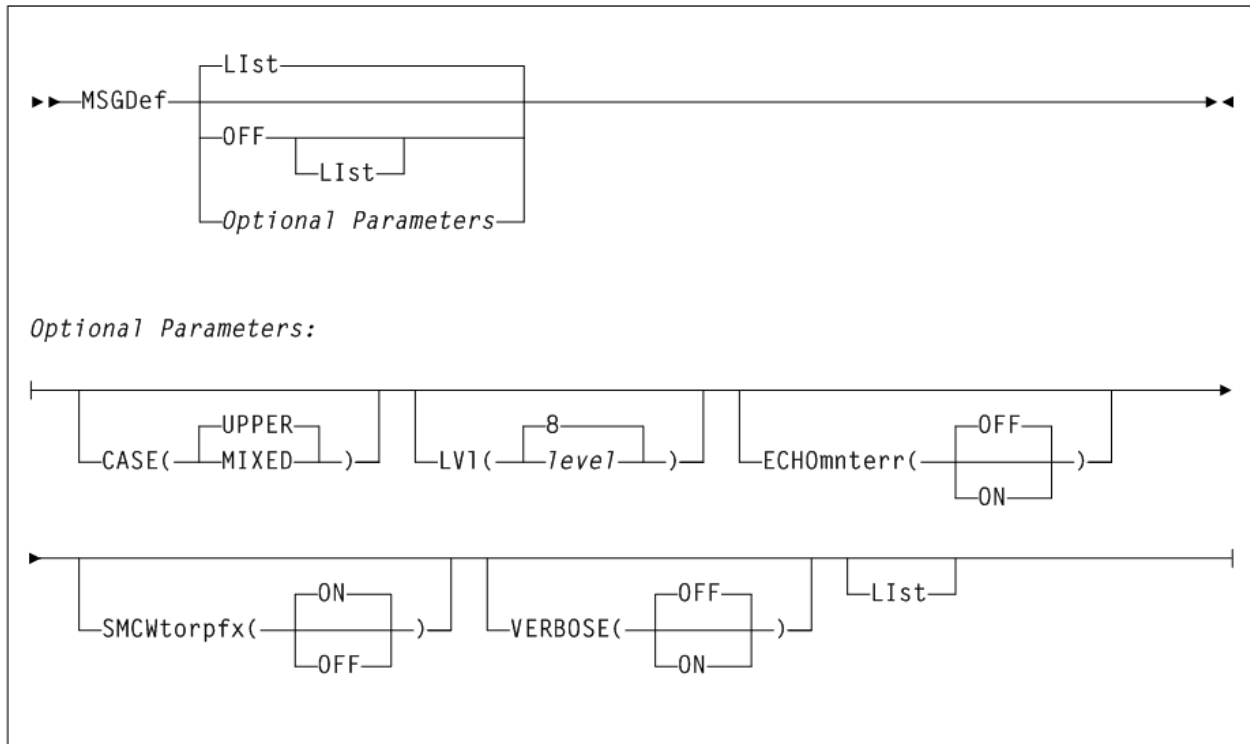
説明

SMC *MSGDef* コマンドは、SMC システムメッセージの外観を定義し、どのメッセージが表示され、表示されないかを制御します。

構文

図2.24 「MSGDef コマンドの構文」は、*MSGDef* コマンドの構文を示しています。

図2.24 MSGDef コマンドの構文



パラメータ

図2.24 「MSGDef コマンドの構文」に示すように、*MSGDef* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Llist

オプションで、現在のデフォルトの SMC メッセージ設定を一覧表示します。

- *MSGDef* コマンドでパラメータが指定されないときには、*Llist* がデフォルトとなります。
- *Llist* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*Llist* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、すべての *MSGDef* 値を元の SMC のデフォルト設定にリセットします。これらの設定の一覧を表示するには、*LlSt* をこのパラメータとともに指定します。*MSGDef* をほかのパラメータとともに指定することはできません。

オプションパラメータ

CASE

オプションで、メッセージの大文字小文字を指定します。有効な値は、*UPPER* または *MIXED* です。

UPPER

大文字を指定します。これがデフォルトです。

MIXED

大文字と小文字を混在させることを指定します。

LVI

オプションで、どの SMC メッセージが表示、または非表示にされるかの制御に使用されるデフォルトレベルを指定します。

level

デフォルトレベル。有効な値には次のものがあります。

- 0 - エラーメッセージのみを表示します。
- 4 - SMC サブシステムからのエラーおよび警告メッセージを表示します。
- 8 - すべての SMC サブシステムメッセージおよび割り当てジョブログ警告メッセージが表示されます。これは *MSGDef* パラメータが指定されない場合のデフォルトです。

注:

8 よりも高いレベルは診断の目的に使用されるため、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートによって指示された場合にのみ指定してください。

ECHOmnterr

オプションで、HSC によって生成されたマウントエラーが SMC クライアントのコンソールに直接エコーされるかどうかを指定します。

ON

HSC によって生成されたマウントエラーが SMC クライアントのコンソールにエコーされます。このパラメータは、ローカルサーバーとリモートサーバーの両方に有効です。

OFF

HSC によって生成されたマウントエラーは、SMC クライアントのコンソールにエコーされません。これがデフォルトです。

SMCWtorpfx

オプションで、*TAPEplex* コマンドの *WTORDEST(CLIENT)* によって生成される HSC WTOR メッセージに SMC0137 接頭辞を表示するかどうかを指定します。

ON

SMC0137 接頭辞が表示されます。これがデフォルトです。

OFF

SMC0137 接頭辞は表示されません。

VERBOSE

オプションで、SMC 設定が変更されたとき、常に *SMC0190* および *SMC0191* メッセージが表示されるかどうかを指定します。

ON

SMC0190 および *SMC0191* メッセージが表示されます。

OFF

SMC0190 および *SMC0191* メッセージは表示されません。

MSGJob

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

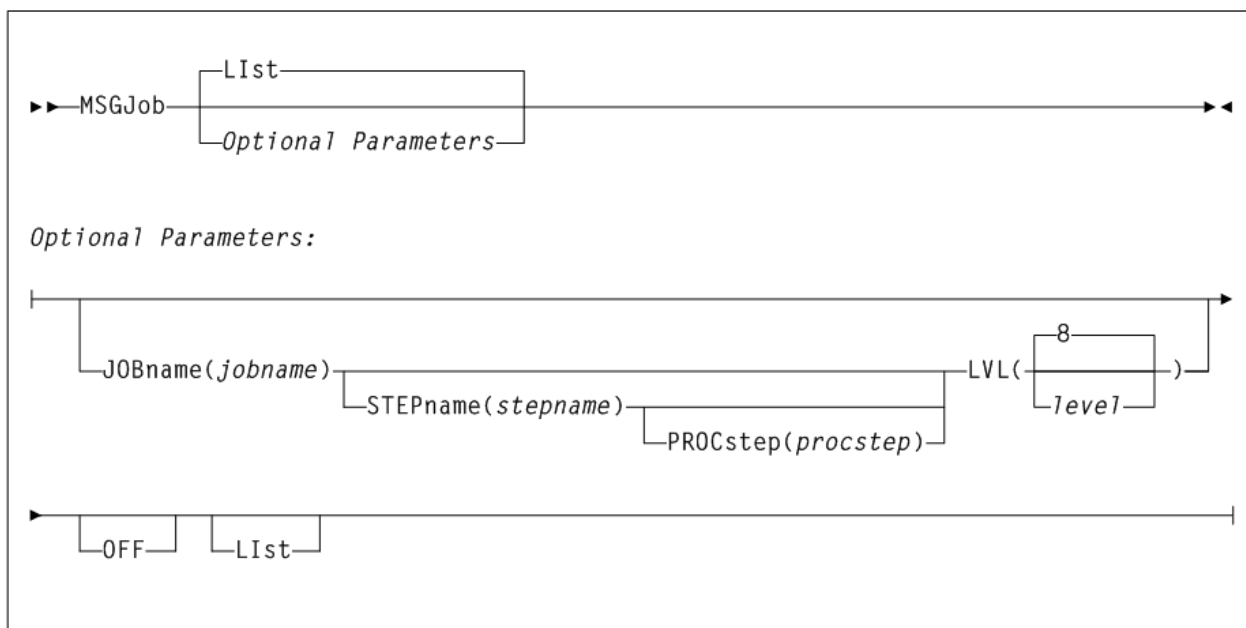
説明

SMC *MSGJob* コマンドを使用すると、デフォルトのメッセージレベルをジョブ名、ステップ名、および *PROC* ステップによってオーバーライドできます。

構文

[図2.25 「MSGJob コマンドの構文」](#) は、*MSGJob* コマンドの構文を示しています。

図2.25 MSGJob コマンドの構文



パラメータ

図2.25 「MSGJob コマンドの構文」に示すように、`MSGJob` コマンドには次のパラメータが含まれます。

LList

オプションで、現在のデフォルトの SMC メッセージ設定と、ジョブ名、ステップ名、`PROC` ステップによる例外 (評価の順序で) を一覧表示します。

- `MSGJob` コマンドでパラメータが指定されないときには、`LList` がデフォルトとなります。
- `LList` はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、`LList` は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

オプションパラメータ

JOBname(jobname)

オプションで、ジョブ名を指定します。

`jobname` はジョブ名を指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。最後の文字としてアスタリスク (*) を入力すると、ワイルドカードとして使用できます。この場合、メッセージレベルは、ジョブ名がアスタリスクの前の文字に一致するすべてのジョブに対して設定されます。

STEPname(stepname)

オプションで、ステップ名を指定します。これは、*JOBname* も指定されている場合 (*JOB=** も可) にのみ有効です。

stepname はステップ名を指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。このパラメータは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

PROCstep(procstep)

オプションで、PROC ステップを指定します。これは、*JOBname* と *STEPname* も指定されている場合にのみ有効です。

procstep は PROC ステップを指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。このパラメータは、*JOBname* と *STEPname* も指定されている場合にのみ有効です。

LVL(level)

オプションで、どの SMC メッセージが表示されるかの制御に使用されるデフォルトレベルを指定します。*JOBname* が指定されている場合、このパラメータは必須です。

level はデフォルトレベルを指定します。有効な値には次のものがあります。

- 0 - エラーメッセージのみを表示します。
- 4 - SMC サブシステムからのエラーおよび警告メッセージを表示します。
- 8 - すべての SMC サブシステムメッセージおよび割り当てジョブログ警告メッセージが表示されます。これは *MSGDef* パラメータが指定されない場合のデフォルトです。

注:

8 よりも高いレベルは診断の目的に使用されるため、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートによって指示された場合にのみ指定してください。

OFF

オプションで、*MSGJob* オーバーライドを削除します。

- ほかのパラメータが指定されていない場合は、すべてのジョブの *MSGJob* オーバーライドが削除されます。
- *JOBname* のみが指定されている場合は、そのジョブ名の *MSGJob* エントリすべてに対して *MSGJob* オーバーライドが削除されます。
- *JOBname*、*STEPname*、および *PROCstep* が指定されている場合は、指定されたエントリに対してのみ *MSGJob* オーバーライドが削除されます。

グローバルな *MSGJob* は、このパラメータの影響を受けません。

POLicy

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML と CSV をサポート)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *POLicy* コマンドは、すべてのテープポリシー指定を単一の名前付きポリシーオブジェクト内に指定します。SMC *TAPEREQ* 文または SMC *DFSMS* ルーチンと組み合わせると、名前付きポリシーを割り当てイベントまたはマウントイベントに関連付けることができます。さらに、*POLicy VALIDate* オプションを使用してポリシーオブジェクトを検証できます。

注:

SMC ポリシーの使用の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

SMC *POLicy* コマンドを使用して定義されたポリシーから、SMC ポリシーオブジェクトが作成されます。これらは、*TAPEREQ POLicy* パラメータを使用して SMC *TAPEREQ* 制御文から名前参照できます。ポリシー名は次の 2 つのポリシーオブジェクトに関連付けられている可能性があります。指定の名前を持つスクラッチポリシーと、指定の名前を持つ特定のポリシーです。SMC *TAPEREQ* 制御文から参照されるポリシーは、*TAPEREQ* 制御文を処理する *TREQDEF* コマンドを実行する前に定義されている必要があります。

デフォルトでは、SMC *POLICY* コマンドはスクラッチボリュームにのみ適用されます。特定ボリュームのポリシーを設定する場合は、*VOLTYPE(SPECIFIC)* を指定する必要があります。スクラッチボリュームと特定ボリュームの両方に適用するポリシーを指定する場合は、同じポリシー名を使用して 2 つの個別の *POLICY* コマンドを指定する必要があります。

SMC に追加されるポリシーにポリシー指定エラー (*VOLTYPE(SPECIFIC)* でスクラッチサブプール名を指定するなど) が含まれている場合でも、SMC はポリシーオブジェクトを作成してそれが見つかるようにします。ポリシーがエラーとしてマークされている場合、ポリシーは空になり、このポリシー名を指定しているイベントにはデフォルトのテープポリシー属性が適用されます。

SMC ポリシーを更新するには、新しい SMC *POLicy* コマンドを、そのポリシーの *Name* と *VOLType* で入力します。新しい *POLicy* コマンドは、既存のスクラッチポリシーオブジェクトまたは特定のポリシーオブジェクトを置き換えることに注意してください。したがって、ポリシー更新するときは、保持したいすべての値を入力する必要があります。

たとえば、元のスクラッチポリシーオブジェクトが次のように定義されているとします。

```
POLICY NAME(POL1) VOLTYPE(SCRATCH) MEDIA(VIRTUAL) MGMTCLAS(MGMT1)
```

このポリシーにサブプールを追加するには、次のように入力する必要があります。

```
POLICY NAME(POL1) VOLTYPE(SCRATCH) MEDIA(VIRTUAL) MGMTCLAS(MGMT1)  
SUBPOOL(SUBP1)
```

この動作を利用すると、ファイル内で1つ以上の *POLicy* コマンドを変更し、SMC *READ* コマンドを使用してすべてのポリシーを再ロードできます。SMC *READ* コマンドを使用して SMC *POLICY* ファイルを再ロードするときは、元の定義内に存在する *POLICY* コマンドが新しい定義内に存在しない場合に通知を受信するために、*REPlacepolicy* オプションを指定することをお勧めします。

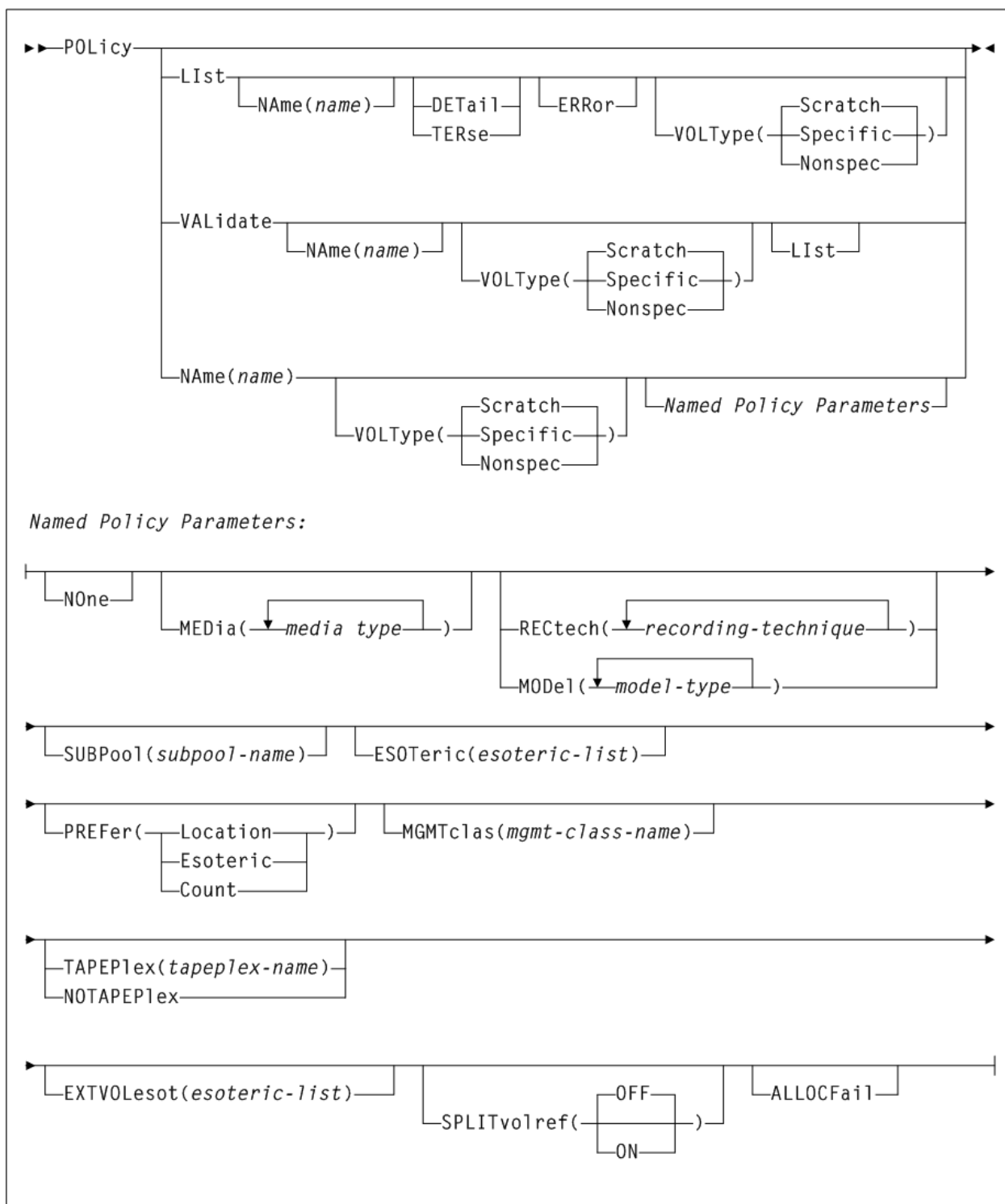
更新される SMC ポリシーにポリシー指定エラー (*VOLType(Specific)* でスクラッチサブプール名を指定するなど) が含まれている場合、SMC は既存のポリシーオブジェクトのどの部分も更新しません。ポリシーオブジェクトはエラーとしてマークされず、更新全体が破棄されます。

DEVTPREF はこのコマンドではサポートされていません。ただし、エソテリックリストを使用して、さまざまなデバイスタイプの優先度を指定できます。

構文

図2.26 「*POLicy* コマンドの構文」は、*POLicy* コマンドの構文を示しています。

図2.26 POLicy コマンドの構文



パラメータ

図2.26「POLicy コマンドの構文」に示すように、POLicy コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、すべてのポリシー情報を表示します。追加のパラメータを使用すると、一覧表示するポリシーを制限でき、表示する詳細の量を制限できます。

名前も指定されている場合は、指定された名前または汎用名に一致するポリシーのみが一覧表示されます。名前が指定されていない場合は、すべてのポリシーが一覧表示されます。

注:

一致するポリシーは、SMC に定義された順序に関係なく、アルファベット順に一覧表示されます。ほかのパラメータとともに指定された場合、L**I**st は、ほかのパラメータが処理されたあとに実行されます。

Name(*name*)

オプションで、TAPEREQ または DFSMS ACS ルーチンの管理クラスで指定された名前と一致する、ポリシーの名前を指定します。キーワード *N*ame が省略されている場合は、POLicy コマンドに続く最初のパラメータがポリシー名であると見なされます (そのパラメータが有効なキーワードでない場合)。

name はポリシー名を指定します。

DEtail

オプションで、最終更新の日付、時間、ソースなどの、ポリシーに関する監査の詳細情報を表示します。DEtail と TERse は相互に排他的です。

TERse

オプションで、ポリシー名のみと、各ポリシー名がスクラッチ割り当て、特定の割り当て、またはすべての割り当てに適用されるかどうかを一覧表示します。TERse と DEtail は相互に排他的です。

ERRor

オプションで、エラーステータスの各ポリシーを表示します。

SMC に追加されるポリシーにポリシー指定エラー (*VOLTYPE(SPECIFIC)* でスクラッチサブプール名を指定するなど) が含まれている場合でも、SMC はポリシーオブジェクトを作成します。ただし、SMC はこのポリシーオブジェクトをエラーとしてマークすることにより、指定されたポリシーオブジェクトへのどの参照でもそれがわかるようにします。ただし、返されるポリシー

は空になり、イベントにはデフォルトのテープポリシー属性が適用され
ます。 *ERROR* は、エラーが含まれているポリシーのみを一覧表示し
ます。

VOLType

オプションで、リストがスクラッチポリシータイプまたは特定のポリ
シータイプに適用されるかどうかを指定します。

SCratch または Nonspec

スクラッチ (不特定) ポリシーのみを一覧表示します。これがデフォ
ルトです。

SPecific

特定のポリシーのみを一覧表示します。

VALidate

オプションで、現在の TapePlex 環境に対してポリシー情報を検証し、
一覧表示します。追加のパラメータを使用すると、検証するポリ
シーを制限でき、すべての結果を表示するか警告とエラーだけ
を表示するかを制限できます。

NAMe(name)

オプションで、検証するポリシーの名前を指定します。

最後の文字がアスタリスク (*) である場合は、接頭辞で始まる
すべてのポリシーが表示されます。たとえば、*POL VAL NA V** では、
「V」で始まるすべてのポリシーが検証され
ます。 *Name* パラメータが省略されている
場合は、*POLicy* コマンドに続くキーワード
ではないパラメータが *NAME* と見な
されます。

name はポリシー名を指定します。

VOLType

オプションで、リストがスクラッチポリシータイプまたは特定のポリ
シータイプに適用されるかどうかを指定します。

SCratch または Nonspec

スクラッチ (不特定) ポリシーのみを一覧表示します。これがデフォ
ルトです。

SPecific

特定のポリシーのみを一覧表示します。

LISt

オプションで、警告とエラーだけを一覧表示するか、またはテストされ
たすべてのポリシーを一覧表示するかを指定します。指定されてい
ない場合は、警告またはエラーメッセージを生成したポリシーだけ
が、それぞれ 1 行に表示
されます。

NAMe(name)

オプションで、ポリシーの名前を指定します。 *name* は、キー
ワード *NAME* とともに指定するか、
キーワードなしで指定することが
できます。キーワード *NAME*
を指定しない場合、*name* を指定
するときは、最初のパラメータ
として指定する必要があります。

ポリシー名は、*TAPEREQ* または *DFSMS ACS* ルーチンの管理クラスで指定された名前と一致する必要があります。

name はポリシー名を指定します。

ポリシーを追加または更新するとき以外は、ポリシー名に汎用名を使用できません。たとえば、*POLICY V** では、*V* で始まるすべてのポリシーの情報が一覧表示されます。

VOLType

オプションで、ポリシーがスクラッチ割り当てまたは特定の割り当てに適用されるかどうかを指定します。

Scratch または Nonspec

ポリシーはスクラッチ (不特定) 割り当てにのみ適用されます。これがデフォルトです。

Specific

ポリシーは特定の割り当てにのみ適用されます。

許可されるまたは許可されない *VOLType* の制限については、個々のパラメータを参照してください。

注:

スクラッチボリュームと特定ボリュームの両方に適用するポリシーを指定する場合は、同じポリシー名を使用して2つの個別の *POLicy* コマンドを指定する必要があります。1つには *VOLType(Scratch)* を指定し (または未指定で)、もう1つには *VOLType(Specific)* を指定します。

名前付きポリシーパラメータ

新しいポリシーが追加される場合、デフォルトの *VOLType* は *Scratch* (または *Nonspec*) です。 *Scratch* と *Specific* の両方の *VOLType* に同じポリシー名を追加できます。

次のパラメータには、*name* または *NAmE(name)* パラメータが必須です。

None

オプションで、名前付きポリシーに関連付けられたすべてのポリシーパラメータを削除します。ポリシーに *None* を指定することは、デフォルトの動作 (たとえば、任意のメディアや記録技法、サブプール 0 など) を適用することを意味します。

MEDia(media-type)

オプションで、作成されるデータセットの希望のメディアタイプを指定します。メディアタイプをコンマで区切ったリストを入力できます。リストは、そこから選択が行われる汎用的なプールを指定します。暗黙の優先順位はありません。

media-type は、メディアタイプを示します。有効な *media-type* 値のリストについては、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

このパラメータが指定されていない場合、デフォルトは *RECtech* パラメータの値に基づいて選択されます。*MEDia* パラメータが省略されている場合に使用されるデフォルト値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

NOTAPEplex パラメータが指定されていないかぎり、*MEDia* と

VOLType(Specific) は相互に排他的です。メディアタイプと記録技法の両方が省略されている場合は、使用可能なすべてのデバイスタイプが割り当てに適格となります。

RECtech(recording-technique)

オプションで、目的のデータセットについて、テープ面にデータトラックを記録するための方法を指定します。記録技法のリストを入力できますが、それらはコンマで区切る必要があります。リストは、そこから選択が行われる汎用的なプールを指定します。暗黙の優先順位はありません。

recording-technique は、記録技法を示します。有効な *recording-technique* 値のリストについては、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

MODEl(model-type)

オプションで、トランスポートのモデル番号を指定します。コンマで区切られたモデルのリストを入力できます。リストは、そこから選択が行われる汎用的なプールを指定します。暗黙の優先順位はありません。

MODEl は *RECtech* と同じタイプの情報を提供しますが、ユーザーには記録技法より、トランスポートモデルを指定する方が便利な場合もあります。*MODEl* と *RECtech* は相互に排他的です。

model-type は、モデルタイプを示します。有効な *model-type* 値のリストについては、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

SUBPool(subpool-name)

オプションで、スクラッチ要求を満たすために使用されるサブプールを指定します。*SUBPool* と *VOLType(Specific)* は相互に排他的です。

subpool-name はサブプール名を示します。

ESOTeric(*esoteric-group-name* または *esoteric-list*)

オプションで、デバイスエソテリックグループの名前またはデバイスグループのリストを指定して、テープ要求を満たすために使用される適格なトランスポートのリストを定義します。

esoteric-group-name または *esoteric-list* は、エソテリックグループの名前を指定します。指定される名前は、1 から 8 文字の英数字または各国語キラルクタ (#, @, \$) で構成されます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

エソテリックリストに、現在適格デバイスリストにはないデバイスが含まれている場合、SMC 割り当てでは、デバイスをリストに追加することはできませんが、指定されたエソテリックに含まれていないデバイスを除外できます。ドライブを除外している間、リスト内の任意のエソテリックのデバイスが追加されます。ドライブ優先度を決定している間、エソテリックリストの位置に従ってデバイスの順序が示されます。

PREFer

オプションで、エソテリックリストの相対値および追加の優先度情報を指定します。*PREFer* は、エソテリックのリストが指定された場合にのみ有効です。

Location

ドライブの優先度は、特定ボリュームの LSM 位置に基づきます。これは、特定ボリュームの場合のデフォルトです。*Location* は、*VOLType (SPecific)* でのみ有効です。

Esoteric

ドライブの優先度は、エソテリックリストに指定された順序に基づきます。これは、スクラッチ割り当ての場合のデフォルトです。

Count

ドライブの優先度は、LSM 内のスクラッチ数に基づきます。*Count* は *VOLTYPE (SPecific)* と相互に排他的です。

MGMTclas(*name*)

オプションで、VTCS *MGMTclas* 制御文で定義されている管理クラスを指定します。詳細は、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

name は、管理クラスの名前を指定します。

TAPEPlex(*name*)

オプションで、SMC に定義されている TapePlex の名前を指定します。SMC は、指定された TapePlex 名を使用して、割り当て要求の所有者を判別します。指定された TapePlex 名だけが、特定ボリュームの情報またはスクラッチの可用性を判定するために照会されます。

name は、TapePlex 名を示します。これは、*TAPEPlex* コマンドで指定された TapePlex 名でなければなりません。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

指定される TapePlex は、*POLICY* コマンドが処理される前に *TAPEPlex* コマンドで定義されている必要があります。*TAPEPlex* と *NOTAPEPlex* は相互に排他的です。

NOTAPEPlex

オプションで、SMC はボリューム情報を取得するために TapePlex 検索を実行しないことを指定します。*NOTAPEPlex* と *TAPEPlex* は相互に排他的です。

EXTVOLesot(esoteric-list)

オプションで、デバイスエソテリックグループの名前またはデバイスグループのリストを指定して、特定ボリュームがライブラリ外にあることが検出されたときにテープ要求を満たすために使用される適格なトランスポートのリストを定義します。*EXTVOLesot* は、*VOLTYPE=SPECIFIC* も指定されている場合にのみ指定できます。

esoteric-list はエソテリックのリストを指定します。リスト内の各エソテリックグループ名は、1 から 8 文字の英数字または各国語キャラクタ (#, @, \$) で構成されます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

SPLITvolref

オプションで、*VOL=REF* チェーンを分離するかどうかを指定します。*SPLITvolref* と *VOLType(Specific)* は相互に排他的です。

OFF

VOL=REF チェーンは切断されません。これがデフォルトです。

ON

VOL=REF チェーンは切断され、*LABEL* データセットの順序番号が 1 に設定されます。

ALLOCFail

オプションで、ポリシーに一致したジョブステップを SMC 割り当て中に失敗させるように指定します。このパラメータを指定した場合、SMC 割り当てプロセスによって、ポリシーに一致したジョブステップのすべてのデバイスに不適格のマークが付けられ、これによりジョブは失敗します。*ALLOCFail* は、*NAmE*、*LISt*、*VALidate*、および *VOLType* を除き、ほかのすべてのパラメータと相互に排他的です。

READ

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

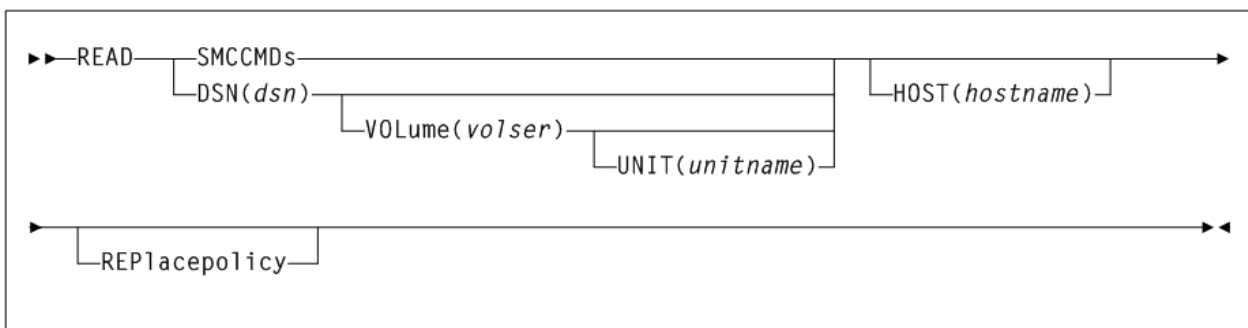
説明

SMC *READ* コマンドを使用すると、コンソールコマンドの代わりに入力データセットを使用して一連のコマンドを入力できます。

構文

図2.27 「[READ コマンドの構文](#)」は、*READ* コマンドの構文を示しています。

図2.27 *READ* コマンドの構文



パラメータ

図2.27 「[READ コマンドの構文](#)」に示すように、*READ* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SMCCMDS

オプションで、SMC *START* プロシージャの *SMCCMDS* DD 文で指定されたデータセットに含まれるコマンドを再処理します。

DSN(dsn)

オプションで、指定したデータセットに含まれるコマンドを処理します。

dsn はデータセット名を示します。

注:

DSN パラメータでメンバー名が指定されている場合、データセット全体を一重引用符で囲む必要があります。

VOLume(*volser*)

オプションで、データセットが置かれている DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。データセットがカタログ化されていない場合は、このパラメータを指定してください。

volser は、データセットが置かれているボリュームシリアル番号を示します。

UNIT(*unitname*)

オプションで、カタログ化されていないデータセットについて、指定した *VOLume* のユニット名を指定します。*VOLume* も指定する必要があります。

unitname は、ユニット名を示します。指定しない場合、*SYSALLDA* のユニット名はデフォルトになります。

HOST(*hostname*)

オプションで、この *READ* コマンドが有効であるホスト名を指定します。このパラメータを指定した場合、*READ* コマンドは、指定した *hostname* が *MSP* ホストに一致するときのみ処理されます。このパラメータを指定しない場合、*READ* コマンドは *MSP* ホストとは無関係に処理されます。

hostname はホスト名を示します。

HOST は、*READ* コマンドを *MSP* コンソールから入力した場合には無効です。

次の例に示すように、*HOST* パラメータを指定することにより、複数の *MSP* ホストにわたって単一の *SMC* パラメータファイルセットを共有できます。

your.parmlib(COMMCMS)

```
MSGDEF CASE(MIXED)
...other common SMC parameter settings...
READ DSN('your.parmlib(MSP1CMS)') HOST(MSP1)
READ DSN('your.parmlib(MSP2CMS)') HOST(MSP2)
```

your.parmlib(MSP1CMS)

```
DRIVEMAP CL(AB0-AB7) SE(BB0-BB7)
```

your.parmlib(MSP2CMS)

DRIVEMAP CL(CB0-CB7) SE(BB0-BB7)

ファイル *COMMCMDs* には、すべてのホストに適用可能な SMC パラメータ設定と、使用している MSP ホストに応じた *HOST* の指定を伴う *READ* コマンドが含まれます。ファイル *MSP1CMDs* には、MSP ホスト *MSP1* 専用の SMC 指定が、ファイル *MSP2CMDs* には、MSP ホスト *MSP2* 専用の SMC 指定が含まれます。

REPlacepolicy

オプションで、指定したデータセット (または、指定した *READ* データセットによって引き続き読み取られるデータセット) 内で見つかった *POLICY* 文で、すべての SMC *POLICY* オブジェクトを置き換えるように指定します。

REPlacepolicy を指定しない場合、*READ* コマンド内の個々の *POLICY* 文は、参照される *POLICY* 文だけを更新または追加し、参照されない *POLICY* 文には影響しません。

注:

- *READ REPlacepolicy* コマンドを実行したあとで、すべての *TAPEREQ POLICY* 参照が再検証されます。その後、いずれかの *TAPEREQ POLICY* 参照がエラーであるとわかった場合、無効な *TAPEREQ* 文はアクティブなままですが、「NULL」*POLICY* (つまり *POLICY NAME(name) NONE* と指定した場合と同等) を参照します。
- すべての SMC テープポリシーを同時に再検証するために *READ REPlacepolicy* コマンドを実行するときは常に、*TREQDEF* コマンドを含めることで *TAPEREQ* 文をリロードすることをお勧めします。

RESYNChronize

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDs* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *RESYNChronize* コマンドは、すべての TapePlex からドライブ構成情報を取得するために、定義されているすべての TapePlex への接続を再確立します。

このアクションは、SMC が TapePlex への新しいパスを最初にアクティブ化する
とき、HSC サブシステム (ローカルまたはリモート) が構成変更を報告するとき、ま
たは MSP 割り当てまたはマウントイベント中に TapePlex へのアクティブなローカ
ルパスにアクセスするときに、自動的に実行されます。ただし、次のような場合に
は、*RESYNChronize* コマンドを発行する必要があります。

- ユーザーが、新しくアクティブ化した TapePlex に対してマウント遅延を自動化
し、MSP 割り当てまたはマウントイベントが再接続をトリガーするまで待機しな
い場合。
- ハードウェアまたは通信のエラーが原因で失われた可能性のある未処理マウント
を再処理しようとする場合。

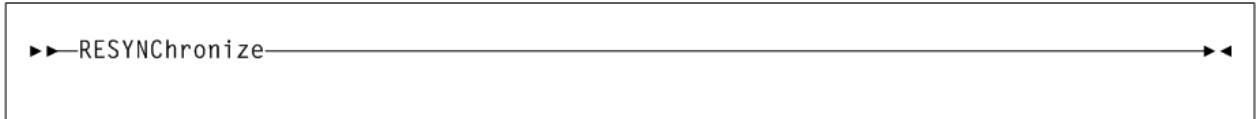
注:

インターセプトされた最初の割り当てまたはマウントの前に TapePlex との通信を初期化す
るために、*SMCCMDS* ファイルの末尾 (すべての *TAPEPlex* および *SERVer* コマンドのあと) に
RESYNChronize コマンドを含めることをお勧めします。

構文

図2.28 「*RESYNChronize* コマンドの構文」は、*RESYNChronize* コマンドの構文を示
しています。

図2.28 *RESYNChronize* コマンドの構文



パラメータ

なし。

Route

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* デー
タセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

説明

SMC *Route* コマンドは、SMC から定義済みの TapePlex または VLE にコマンドトランザクションをルーティングします。次だけがサポートされています。

- VTCS のコマンド
- UUI がサポートされている HSC のコマンド (*VOLRPT* を除く)。

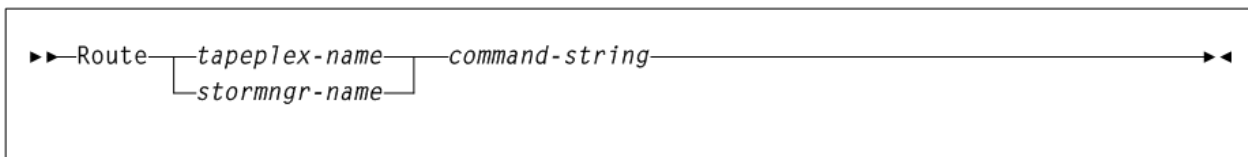
注:

- HSC *MOUNT*、*DISMOUNT*、*ENTER*、および *MOVE* コマンドは、*ROUTE* コマンドを通じて SMC から発行できるようになりました。
- 現在、VLE で受け入れられ処理されるコマンドは *QUERY SERVER* コマンドだけです。
- *Route* コマンドを使用して、VM Client から ACSLS XAPI サーバーにさまざまなコマンドを発行することもできます。詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『ACSL S サーバーへの XAPI Client インタフェースのリファレンス』を参照してください。

構文

図2.29 「Route コマンドの構文」は、*Route* コマンドの構文を示しています。

図2.29 Route コマンドの構文



パラメータ

図2.29 「Route コマンドの構文」に示すように、*Route* コマンドには次のパラメータが含まれます。

tapeplex-name

SMC *TAPEPLEX* コマンドで定義された TapePlex 名を指定します。SMC は、現在アクティブな TapePlex パスを使用して、指定した TapePlex に要求をルーティングします。ローカルまたはリモートの HSC TapePlex のいずれかにコマンドを送信できます。

stormngr-name

SMC *STORMNGR* コマンドで定義された VLE 名を指定します。SMC は、現在アクティブな VLE パスを使用して、指定した VLE に要求をルーティングします。ローカルまたはリモートの HSC TapePlex または VLE のいずれかにコマンドを送信できます。

command-string

要求された TapePlex にルーティングするコマンド文字列を指定します。

VTCS コマンドには接頭辞 *VT* を付けないでください。HSC UII インタフェースは、*VT* 接頭辞が付いていない VTCS コマンドを正しい機能プロセッサにルーティングします。コマンド文字列は、HSC UII または VTCS コマンド (*DISPLAY MSG* および *DISPLAY CMD* を除く) でサポートされているコマンドにする必要があります。この値は必須です。

SERVer

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UII サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *SERVer* コマンドは、リモートライブラリサーバー、つまり別のホスト上で実行している HSC サブシステムへの指定されたパスを定義します。*SERVer* コマンドは、HTTP サーバーへの通信パスについて記述します。

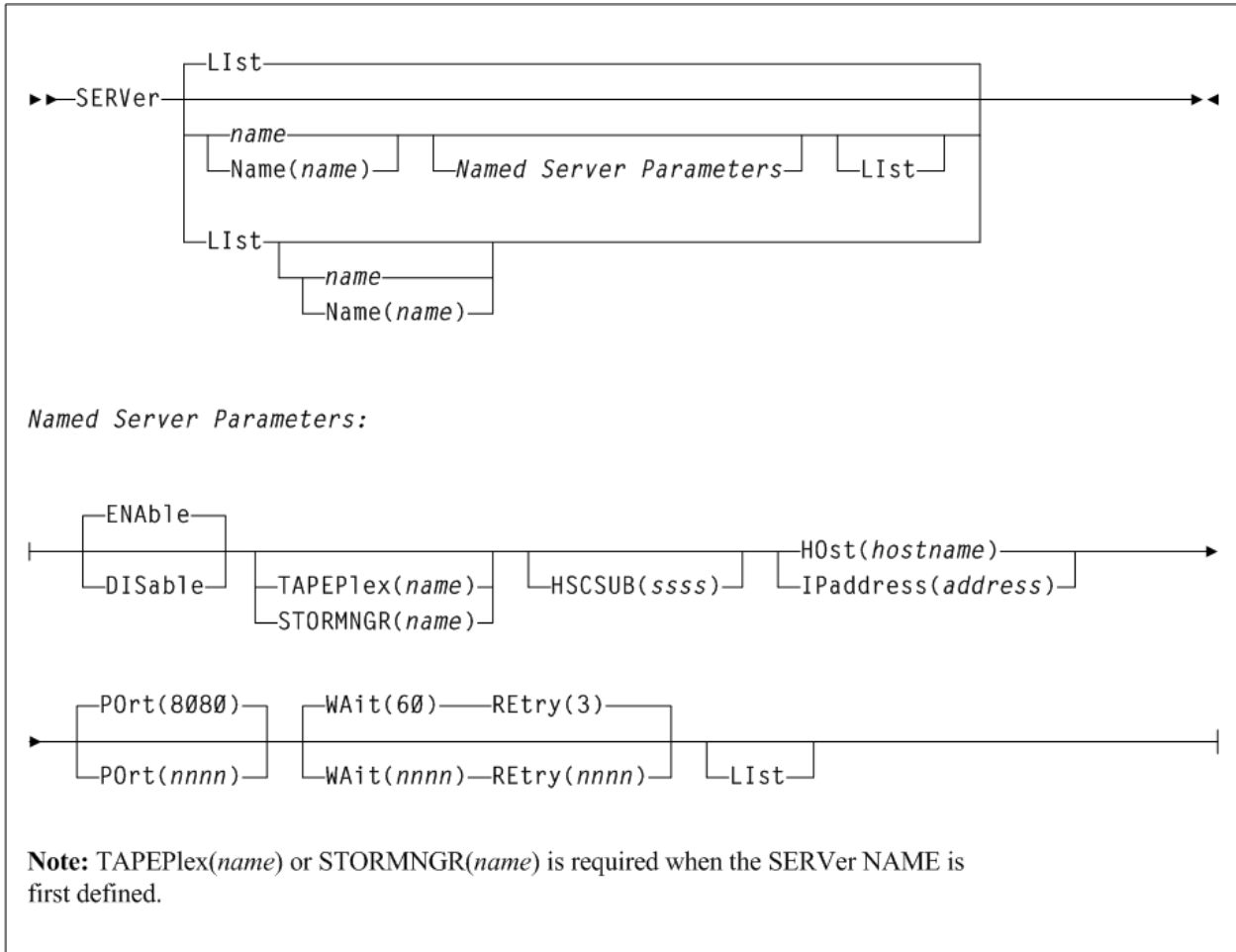
注:

- *SERVer* を定義する前に、*TAPEPLEX* コマンドを使用して、参照する TapePlex を定義する必要があります。*SERVer* に関連付けられた TapePlex 名は変更できません。詳細は、「[TAPEPLEX](#)」を参照してください。
- 同様に、*SERVer* を定義する前に、*STORMNGR* コマンドを使用して、参照する VLE を定義する必要があります。*SERVer* に関連付けられた VLE 名は変更できません。詳細は、「[STORMNGR](#)」を参照してください。

構文

図2.30 「SERVer コマンドの構文」は、SERVer コマンドの構文を示しています。

図2.30 SERVer コマンドの構文



パラメータ

図2.30 「SERVer コマンドの構文」に示すように、SERVer コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または NAmE(name)

オプションで、定義、変更、または一覧表示されるサーバー名を指定します。

name は、キーワード **NAme** とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード **NAme** を指定しない場合、name を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

注:

SMC HTTP サーバーコンポーネントを使用している場合、単一の TapePlex 構成に対し、*NAME* で指定された複数のサーバーパスが存在する可能性があります。詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

LlSt

オプションで、TapePlex サーバーパスのステータス情報を表示します。

名前も指定されている場合は、指定した TapePlex サーバーパスのみが一覧表示されます。*name* を指定しない場合、すべての TapePlex サーバーパスが一覧表示されます。

注:

- *SERVer* コマンドでパラメータが指定されていないときには、*LlSt* がデフォルトとなります。この場合、すべてのライブラリサーバーパスが一覧表示されます。
 - *LlSt* はそのほかのパラメータとともに指定できます。*NAme* 以外のパラメータとともに指定すると、ほかのパラメータが処理されたあとに、*LlSt* が生成されます。
-

指定された SERVer パラメータ

次のパラメータには、名前または *NAme(name)* パラメータが必要です。

ENable

オプションで、指定したサーバーパスを割り当てまたはマウント要求用に選択できるようにします。

DISable

オプションで、指定したサーバーパスを無効にします。これが TapePlex への唯一のパスである場合、TapePlex を割り当てまたはマウント要求に使用できなくなります。

TAPEPlex(name)

オプションで、SMC *TAPEPlex* コマンドで定義された実際の ACS ハードウェア構成に関連付けられた TapePlex 名を指定します。新しいサーバーを最初に定義するときには、*TAPEPlex* パラメータを指定する必要があります。

name は、TapePlex 名を示します。この名前は、TapePlex エラーメッセージで報告されます。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

STORMNGR(name)

オプションで、SMC *STORMNGR* コマンドで定義された VLE 名を指定します。新しいサーバーを最初に定義するときには、*STORMNGR* パラメータを指定する必要があります。*TAPEPlex* と *STORMNGR* は相互に排他的です。

name は、SMC *STORMNGR* コマンドで定義された VLE 名を指定します。この名前は、VLE エラーメッセージで報告されます。

HSCSUB(ssss)

オプションで、サーバーに関連付けられている TapePlex を表す HSC サブシステムの名前を指定します。このパラメータは、サーバーホストで実行している複数の HSC サブシステムがある (HSC が *MULT* モードで実行している) 場合にのみ必要となります。

ssss は HSC サブシステム名を示します。

HOst(hostname)

オプションで、リモート HSC サブシステムが存在する IP リゾルバホスト名を指定します。*HOst* および *IPaddress* は相互に排他的です。

hostname は、リモートホストの名前を示します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

IPaddress(address)

オプションで、リモート HSC サブシステムのサブシステム IP アドレスを指定します。*IPaddress* および *HOst* は相互に排他的です。

address は IP アドレスを示します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。

- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

PORt(nnnn)

オプションでサーバーポートを指定します。nnnn はサーバーポートを示します。デフォルトは 8080 です。

WAit(nnnn)

オプションで、通信またはサーバーの問題があると SMC が判断するまでに、ネットワーク上で行われた単一の要求を待機する最大の待機時間を指定します。

nnnn は秒単位の待機時間を示します。デフォルトは 60 です。

注:

- 指定した WAIT 時間が 600 秒を超える場合は、マウントまたはマウント解除要求に対するデフォルトは、10 分 (600 秒) 以上になります。
- HSC CDS バックアップジョブが指定の待機時間よりも長時間実行している場合は、CDS バックアップジョブの通常の実行時間に一致するように待機時間を設定してください。

REtry(nnnn)

オプションで、タスクの再開が許可され、失敗が記録されるまでの、1 つの要求に対する再試行の数を指定します。

nnnn は再試行回数を示します。デフォルトは 3 です。

SIMulate

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、SMCCMDS データセット、または SMCPARMS データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティに入力可

説明

SMC SIMulate コマンドは、所与の一連のジョブステップ特性を持つ単一の DD ジョブステップを、SMC が処理する方法をシミュレートします。SIMulate コマン

ドは、SMC 処理の割り当ての影響 (SSI24) 部分をシミュレートしますが、マウント処理はシミュレートしません。

シミュレートするキーワードジョブステップパラメータを指定すると、コマンドは、SMC 割り当て、ポリシー検索、およびボリューム検索を呼び出します。*SIMulate* 出力にはシミュレーション結果が表示されます。

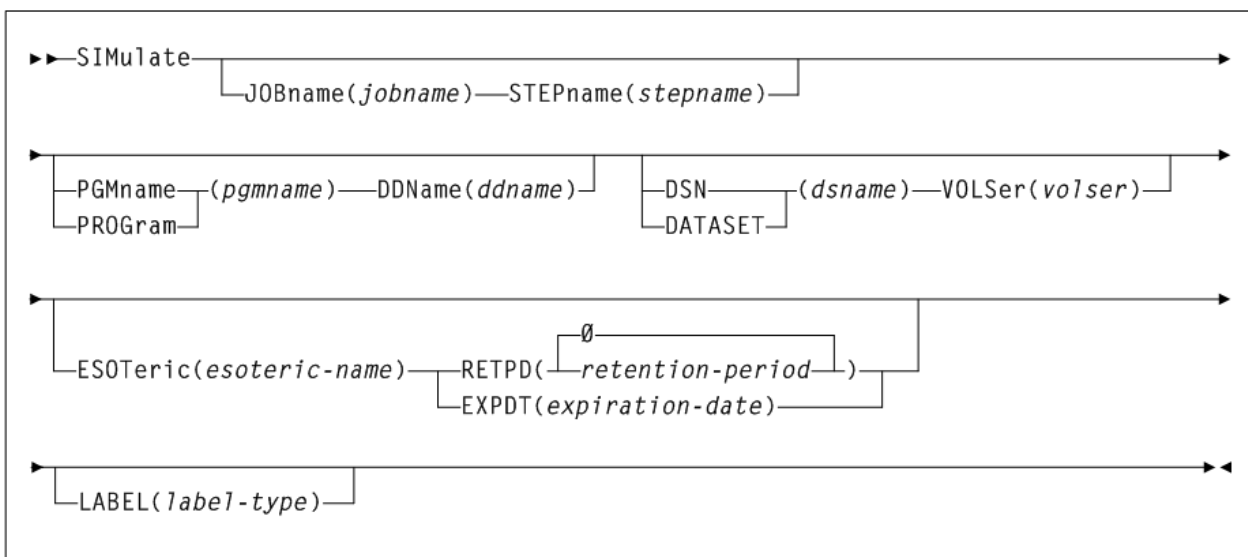
SIMulate は、特定のジョブステップ特性 (複数ユニット、アフィニティー分離、volref 属性など) をシミュレートしませんが、*TAPEREQ* および *POLICY* コマンド、ユーザー出口、および *TAPEREQ* や *SERVER* の変更など、SMC ポリシーでの変更が本番ジョブにどのような影響を与えるかをテストする強力なツールを備えています。

アクティブな SMC サブシステムに対して、または *SMCUSIM* ユーティリティーを通じて、*SIMulate* コマンドを発行できます。*SMCUSIM* ユーティリティーは、*SIMulate* コマンドと連動して、ジョブがどのように処理されるかを比較するための前後のレポートを生成する、CSV として操作できる XML 出力を生成します。*SMCUSIM* ユーティリティーの詳細は、「[SMC UUI シミュレーションユーティリティー \(SMCUSIM\)](#)」を参照してください。

構文

図2.31 「*SIMulate* コマンドの構文」は、*SIMulate* コマンドの構文を示しています。

図2.31 *SIMulate* コマンドの構文



パラメータ

図2.31「SIMulate コマンドの構文」に示すように、SIMulate コマンドには次のパラメータが含まれます。

JOBname(jobname)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたジョブステップのジョブ名を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、「(any)」が使用され、これにより、SMS ACS ルーチンまたは TAPEREQ 制御文で指定された汎用でないジョブ名に一致することがなくなります。

jobname はジョブ名を指定します。

STEPname(stepname)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたジョブステップのステップ名を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、「(any)」が使用され、これにより SMS ACS ルーチンまたは TAPEREQ 制御文で指定された汎用でないステップ名と一致することがなくなります。

stepname はステップ名を指定します。

PGMname(pgmname) または PROGRAM (pgmname)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたジョブステップのプログラム名を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、「(any)」が使用され、TAPEREQ 制御文で指定された汎用でないプログラム名と一致することがなくなります。

pgmname はプログラム名を示します。

DDName(ddname)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたデータセットの DD 名を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、「(any)」が使用され、これにより TAPEREQ 制御文で指定された汎用でない DD 名と一致することがなくなります。

ddname は DD 名を示します。

DSN(dsname) または DATASET(dsname)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたデータセットのデータセット名を指定します。形式は PDS メンバーでない MSP 標準に準拠する必要があります。指定しない場合、「(any)」が使用され、TAPEREQ 制御文で指定された汎用でないプログラム名と一致することがなくなります。

dsname はデータセット名を示します。

VOLSer(volser)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたデータセットのボリュームシリアル番号を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定

しない場合、「*SCRTCH*」が使用され、スクラッチマウントをシミュレートしません。

volser は、ボリュームシリアル番号を示します。

ESOTeric(esoteric-name)

オプションで、テープ要求を満たすために使用される一連の適格なトランスポートを定義するデバイスエソテリックグループの名前を指定します。指定するエソテリックは、定義済みの MSP エソテリックである必要があります。指定しない場合、*SIMulate* コマンドは、すべての TapePlex の既知のライブラリ内デバイス、ライブラリ外デバイス、および仮想デバイスすべてから構成される元のエソテリックをシミュレートします。デフォルトのエソテリックが使用される場合、定義済みの MSP エソテリックに対応していない可能性があります。

esoteric-name はエソテリック名を示します。

RETPD(retention-period)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたデータセットの保持期間を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、0 が使用されます。

retention-period は保持期間を示します。

EXPDT(expiration-period)

オプションで、テスト対象のシミュレートしたデータセットの有効期限を指定します。形式は MSP 標準に準拠している必要があります。指定しない場合、現在の日付が使用されます。

expiration-period は有効期限を示します。

LABEL(label-type)

オプションで、ポリシーを選択するために使用するラベルタイプを指定します。

label-type はラベルタイプを示します。次のいずれかを指定します。

- *SL* は、標準ラベルのテープを示します。これは、このパラメータが省略されている場合のデフォルトです。
- *AL* は、ANSI ラベルのテープを示します。
- *NL* は、ラベルなしのテープを示します。
- *NSL* は、非標準ラベルのテープを示します。

例

SMC *SIMulate* コマンド出力には、シミュレートしたジョブ特性と、適用される SMS、*TAPEREQ*、および SMC ポリシーを示したポリシーセクションとが表示されます。

次の例では、SMC テープポリシーが適用されなかった「最小」の出力を示しています。

例2.1 SIMulate コマンドの出力 - テープポリシー未適用

```
SMC0222 SIMULATE command results:      ---- Jobstep characteristics ----
      JOBNAME=(any), STEPNAME=(any), PROGRAM=(any), DDNAME=(any)      DSN-SMCINT
.BT1.TEST, RETPD=0      VOLSER=SCRTCH, ESOTERIC=(any)      ---- Volume lookup
results ----      Owing TAPEPLEX=HSCQ      MEDIA=STANDARD, ECART, STK2P
      RECTECH=LONGITUD, STK2P      ---- List of eligible drives ----      0AA0
TAPEPLEX=HSCQ, ACS=00, LSM=00, 18TRACK, pref=1      0AA1 TAPEPLEX=HSCQ, ACS=00,
LSM=00, 18TRACK, pref=1      remainder of drives
```

STORMNGR

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *STORMNGR* コマンドは SMC に対して VLE を定義します。

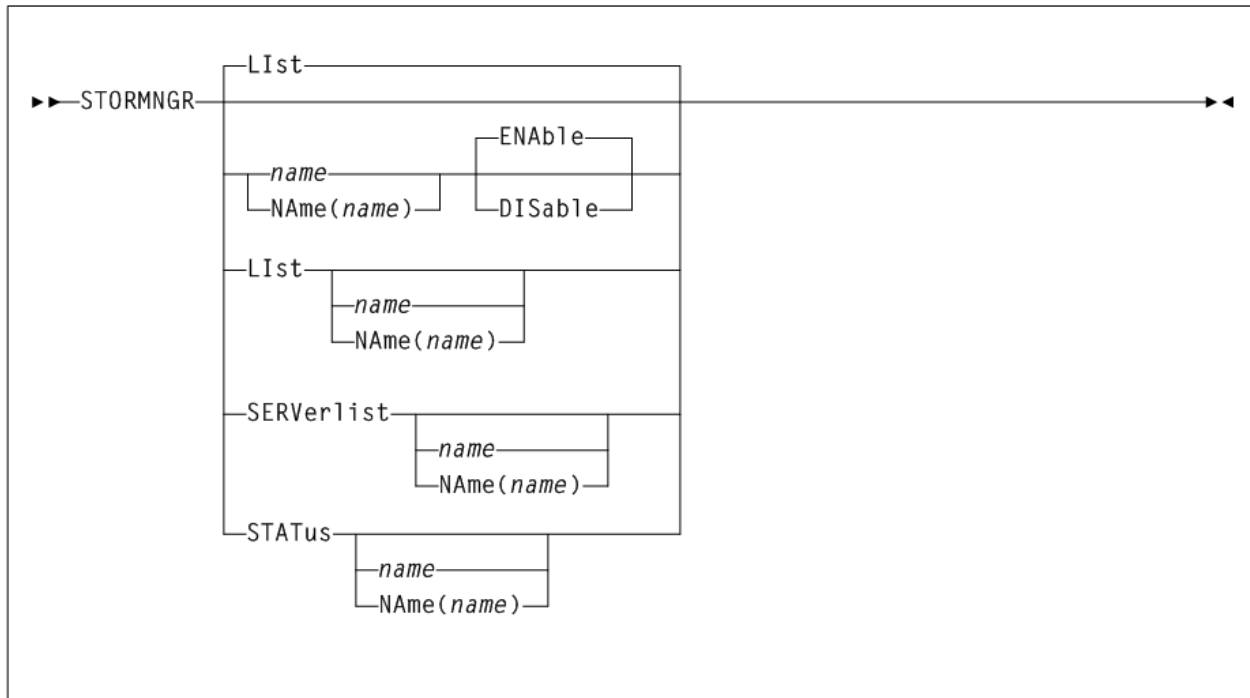
注:

VLE にアクセスするには、*STORMNGR* および *SERVER* コマンドが必要になります。*STORMNGR* コマンドは、SMC が通信しようとしている VLE を一覧表示し、そのステータスを報告することもできます。

構文

図2.32 「*STORMNGR* コマンドの構文」は、*STORMNGR* コマンドの構文を示しています。

図2.32 STORMNGR コマンドの構文



パラメータ

図2.32 「STORMNGR コマンドの構文」に示すようにSTORMNGR コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または NAmE(name)

定義、変更、または一覧表示する VLE を指定します。この名前は VTCS に対しても定義され、最初は VLE GUI によって定義されます。*name* が指定されていない場合は、すべての VLE が一覧表示されます。

name は、キーワード *NAme* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAme* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

ENable

指定した VLE を有効にします。これが、新しい VLE を追加したときのデフォルトになります。

DISable

指定した VLE を無効にします。

List

オプションで、VLE 情報を一覧表示します。

name も指定した場合、指定した VLE だけが一覧表示されます。*name* が指定されていない場合は、すべての VLE が一覧表示されます。

SERVerlist

オプションで、定義済みの VLE、その属性、および関連したサーバーが一覧表示されます。

name も指定した場合、指定した VLE だけが一覧表示されます。*name* が指定されていない場合は、すべての VLE が一覧表示されます。

STATus

オプションで、すべての VLE または指定された 1 つの VLE の現在のステータスを一覧表示します。

name も指定した場合、指定した VLE だけが一覧表示されます。*name* が指定されていない場合は、すべての VLE が一覧表示されます。

TAPEPlex

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *TAPEPlex* コマンドは、通常 1 つの CDS で表現される特定の Oracle StorageTek テープハードウェア構成である TapePlex を定義します。*TAPEPlex* コマンドはまた、SMC が通信しようとしている TapePlex を一覧表示し、そのステータスを報告することもできます。

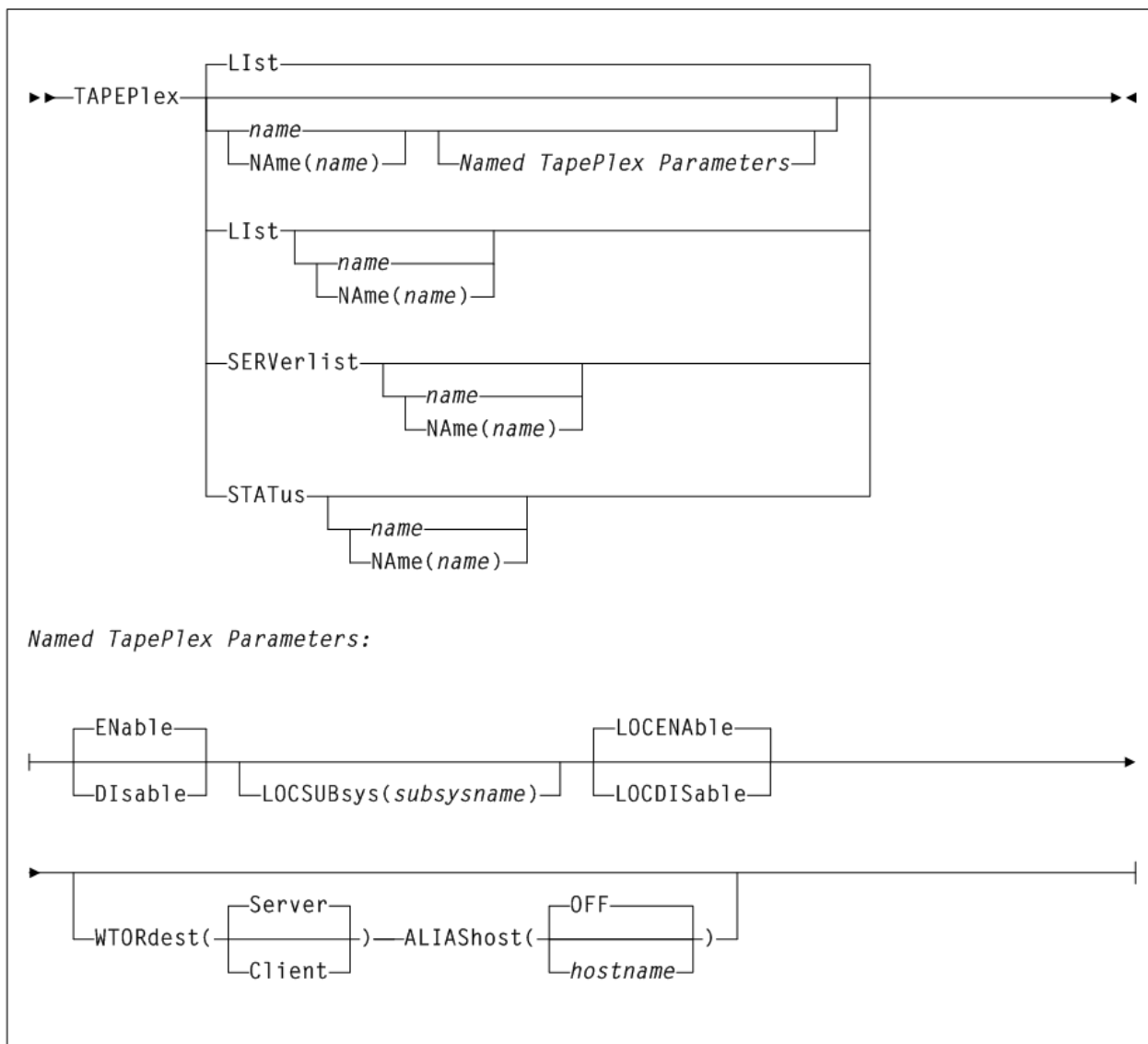
注:

- リモート HSC TapePlex にアクセスするには、*TAPEPlex* および *SERVER* コマンドが必要になります。
 - SMC が初期化できるように少なくとも 1 つの TapePlex が定義されている必要があります。
-

構文

[図2.33 「TAPEPlex コマンドの構文」](#) は、*TAPEPlex* コマンドの構文を示しています。

図2.33 TAPEPlex コマンドの構文



パラメータ

図2.33「TAPEPlex コマンドの構文」に示すように、TAPEPlex コマンドには次のパラメータが含まれます。

name または NAME (name)

追加、変更、または一覧表示する TapePlex 名を指定します。

name は、キーワード *NAmE* とともに指定するか、キーワードなしで指定することができます。キーワード *NAmE* を指定しない場合、*name* を指定するときは、最初のパラメータとして指定する必要があります。

次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初と最後の間の任意の文字は、英字、数字、またはハイフンのいずれかである必要があります。

List

オプションで、TapePlex 情報を一覧表示します。

name も指定した場合、指定した TapePlex だけが一覧表示されます。*name* を指定しない場合、すべての TapePlex が一覧表示されます。

TAPEPlex コマンドでパラメータが指定されていないときには、*List* がデフォルトとなります。この場合、すべての TapePlex が一覧表示されます。*List* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、指定した TapePlex は、ほかのパラメータが処理されたあとに一覧表示されます。

SERVerlist

オプションで、定義済みの TapePlex、その属性、および関連付けられているサーバーを一覧表示します。

name も指定した場合、指定した TapePlex サーバーだけが一覧表示されます。*name* を指定しない場合、すべてのサーバーが一覧表示されます。

STATus

オプションで、すべての TapePlex、または 1 つの指定した TapePlex の現在のステータスを一覧表示します。TapePlex ステータスは、TapePlex がアクティブであるか、非アクティブであるか、または無効になっているかを示します。アクティブな TapePlex の場合、ステータスには、現在のサーバーまたはローカルサブシステムの名前が一覧表示されます。

name も指定した場合、指定した TapePlex のステータスだけが一覧表示されます。*name* を指定しない場合、すべての TapePlex のステータスが一覧表示されます。

指定された TAPEPlex パラメータ

次のパラメータには、*name* または *NAmE(name)* パラメータが必須です。

ENable

オプションで、指定した TapePlex を割り当てまたはマウント要求で選択できるようにします。

DISable

オプションで、指定した TapePlex を無効にします。TapePlex は割り当てまたはマウント要求で使用されません。

LOCSUBsys(subsysname)

オプションで、ローカル HSC サブシステムを指定します。

subsysname はサブシステム名を示します。

LOCENable

オプションで、指定した HSC サブシステムを TapePlex へのローカルパスとして使用できるようにします。

LOCDISable

オプションで、指定した HSC サブシステムを無効にします。*LOCDISable* を使用して、SMC がローカルサブシステムを無視して、リモートサーバーから TapePlex にアクセスするように強制できます。

WTORdest

オプションで、メッセージが送信されるコンソールを指定します。適用されるメッセージについては、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

Client

リモート HSC は、WTOR メッセージを発行せずに、選択された WTOR を SMC クライアントに返します。SMC クライアントは続いて、SMC が実行しているシステムのオペレータに対して WTOR を発行します。SMC は、WTOR 応答を提供するサーバーへマウントまたはマウント解除要求を再送信します。

Server

WTOR メッセージは、HSC サーバーコンソール上で発行されます。これがデフォルトです。

ALIASHost

オプションで、HSC TapePlex との通信に使用するホストの別名を指定します。

hostname

1-8 文字のホスト名です。

OFF

ネイティブの SMF ホスト名が HSC ライブラリとの通信で使用されます。これがデフォルトです。

TCPip

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

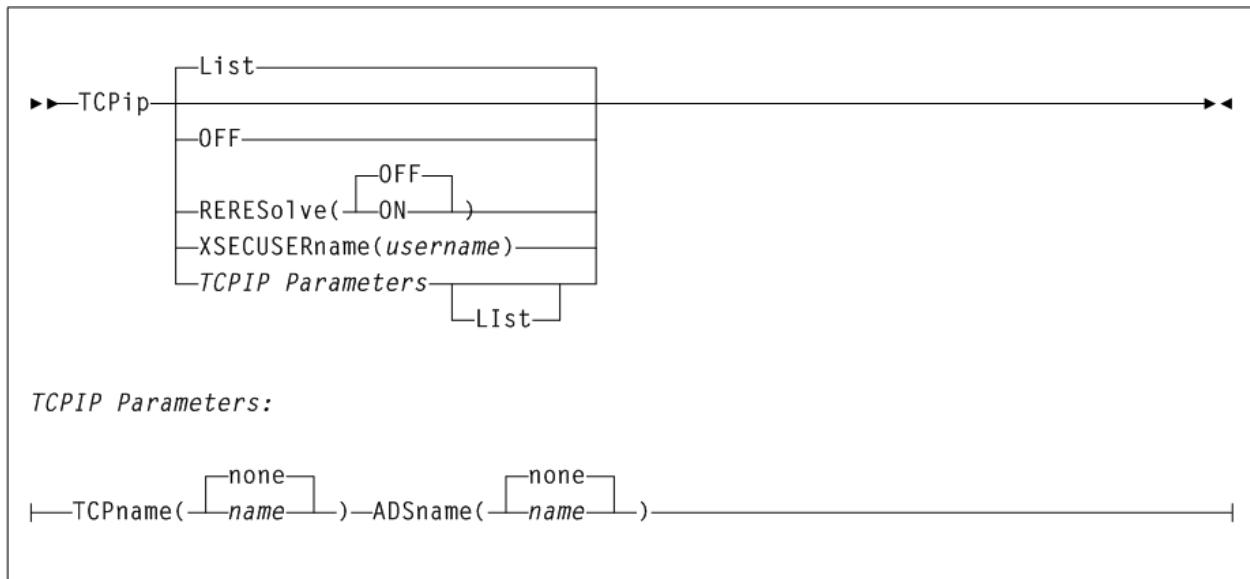
説明

SMC *TCPip* コマンドを使用すると、TCP/IP 通信環境における現在の *TCPNAME* および *ADSNAME* のデフォルトの変更または一覧表示、あるいはその両方を行えます。このコマンドを使用して、TCP/IP 要求を MSP ホスト上の特定の TCP/IP スタックに転送できます。

構文

図2.34 「TCPip コマンドの構文」は、*TCPip* コマンドの構文を示しています。

図2.34 TCPip コマンドの構文



パラメータ

図2.34 「TCPip コマンドの構文」に示すように、*TCPip* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、*TCPNAME* および *ADSNAME* の現在の設定を一覧表示します。

- *TCPip* コマンドでパラメータが指定されていないときには、*List* がデフォルトとなります。
- *List* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*List* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

OFF

オプションで、クライアント TCP/IP 通信にシステムのデフォルトを使用するように指定します。

RERESolve

オプションで、通信障害後に、SMC が *SERVER HOST* 名の再解決を試みるかどうかを指定します。

OFF

SMC はサーバーホスト名の再解決を試みません。これがデフォルトです。

ON

SMC はサーバーホスト名の再解決を試みます。

SMC は、*SERVER RETRY* パラメータの指定に従って、最初に再試行を試みます。エラーで IP アドレスが利用できない可能性があることが示されており、*RERESolve* パラメータが ON になっている場合、SMC は、*HOST* 名の再解決を試み、新しい IP アドレスが生成される場合はトランザクションを再試行します。

XSECusername(username)

オプションで、このクライアントから開始されたすべてのトランザクションに関連付けられた XAPI ユーザー名を指定します。このユーザー名は、ターゲットサーバーからログインチャレンジが発行されたときにのみ使用されます。

username は XAPI ユーザー名を示します。

注:

XUDB コマンドを使用して、クライアントとサーバーの両方で同じ *USER* を定義する必要があります。詳細は、「[XUDB](#)」を参照してください。

TCPIP のパラメータ

これらのパラメータは、*OFF* または *RERESolve* と相互に排他的です。

TCPname(name)

オプションで、MSP ホスト上の特定の TCP/IP スタックに対する *TCPNAME* 値を指定します。*TCPNAME* は MSP TCP/IP スタックの名前です。*TCPNAME* の詳細は、富士通のドキュメント、MSP アプリケーションプログラミングインターフェースの *TCP/IP* リファレンスを参照してください。デフォルトは *none* です。

name は *TCPNAME* 値を示します。デフォルトは *none* です。

- サブシステム名を指定する場合、1 から 4 文字の英数字または各国語 (#、@、\$) キャラクターを含め、最初の文字をアルファベットか各国語文字にする必要があります。
- アドレス名を指定する場合、1 から 8 文字の英数字または各国語文字から構成する必要があります。

ADSname(name)

オプションで、MSP ホスト上の特定の TCP/IP スタックに対する *ADSNAME* 値を指定します。*ADSNAME* は TCP/IP 起動ジョブのジョブ名です。*ADSNAME* の詳細は、富士通のドキュメント、*MSP* アプリケーションプログラミングインターフェースの *TCP/IP* リファレンスを参照してください。

name は *ADSNAME* 値を示します。

TRace

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC *TRace* コマンドは、GTF トレース機能を使用する SMC トレースを有効にし、オプションで、制御ブロックの変更前後にアドレス空間のスナップダンプを実行します。

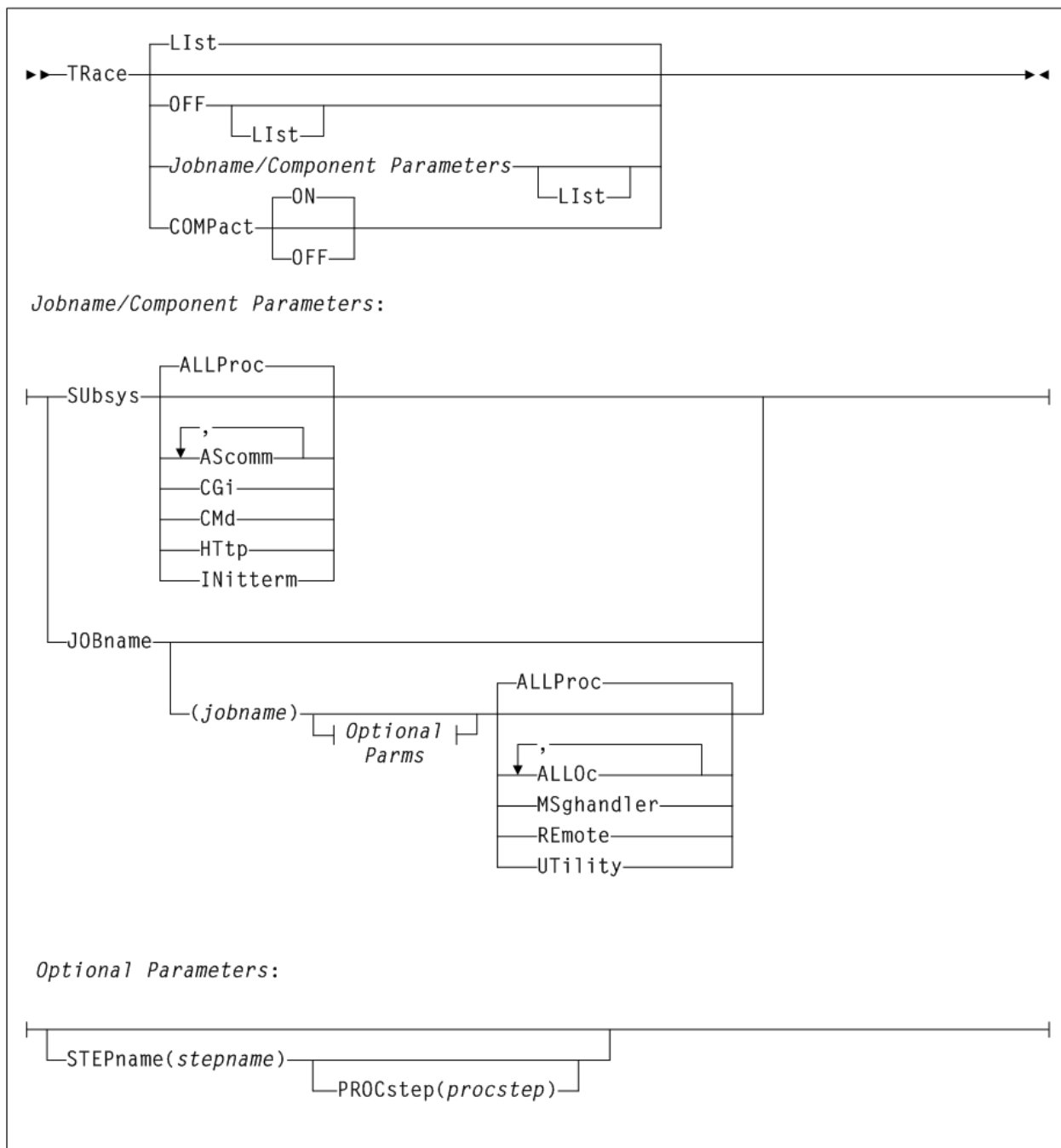
注:

- SMC *TRace* 処理はシステムのパフォーマンスに影響を及ぼすことがあります。Oracle StorageTek ソフトウェアサポートの指導を受けた場合にのみ使用してください。
 - *TRace* *JOBname(jobname)* を実行すると、*jobname* が HSC サブシステム名に一致したときに、HSC または VTCS サブシステムアドレス空間によって発行された UUI コマンドに対して SMC トレースが生成されます。UUI トレースは非常に大きな負荷を CPU にかけるので、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートから指示された場合にのみ使用してください。
-

構文

図2.35 「TRace コマンドの構文」は、TRace コマンドの構文を示しています。

図2.35 TRace コマンドの構文



パラメータ

図2.35「TRace コマンドの構文」に示すように、TRace コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、SMC サブシステムと SMC コンポーネントの現在の SMC トレース設定を、ジョブ名、ステップ名、および PROC ステップごとに一覧表示します。

- TRace コマンドでパラメータが指定されていないときには、LIst がデフォルトとなります。
- LIst はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、LIst は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。
- JOBname を指定しない場合、SMC コンポーネントがトレースされているすべてのジョブが一覧表示されます。
- JOBname を指定した場合、SMC コンポーネントがトレースされているジョブで、ジョブ JOBname に一致するジョブ名を持つジョブだけが一覧表示されます。

OFF

オプションで、SMC トレースを無効にします。

- ほかのパラメータを指定していない場合、すべてのジョブに対してトレースが無効になります。
- JOBname だけを指定した場合、そのジョブ名のすべてのエントリに対して、トレースが無効になります。
- JOBname、STEPname、および PROCstep を指定した場合、指定したエントリに対してのみトレースが無効になります。

COMPact

オプションで、SMC トレース出力を「コンパクト」形式で生成するかどうかを指定します。

GTF トレース出力がこの形式で生成される場合、SMC ユーティリティプログラム SMCUGTF を使用して、トレースを元の SMC トレース形式に変更できます。「[トレースフォーマットユーティリティ \(SMCUGTF\)](#)」を参照してください。

ON

SMC トレース出力は、GTF データセット領域を保存する形式で生成されます。これがデフォルトです。

OFF

SMC トレース出力は、人が読み取れる形式で生成されます。

ジョブ名/コンポーネントのパラメータ

SUbsys

オプションで、SMC サブシステムの1つ以上のコンポーネントまたはサブタスクに対して SMC トレースを有効または無効にします。

ALLProc

オプションで、SMC サブシステムのすべてのコンポーネントおよびタスクに対してトレースを有効にします。これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

AScomm

オプションで、SMC サブシステムの *ASCOMM* コンポーネントのすべてのタスクに対してトレースを有効にします。

CGi

オプションで、接続しているすべてのクライアント要求について、SMC サブシステムのすべての CGI モジュール処理に対してトレースを有効にします。個々のクライアント要求に対する CGI モジュールの実行をトレースするには、適切な SMC クライアント上で *TRace JOBname REMOTE* コマンドを発行します。

CMd

オプションで、SMC サブシステムのオペレータコマンドコンポーネントのすべてのタスクに対してトレースを有効にします。

HTtp

オプションで、SMC サブシステムの HTTP サーバーコンポーネントのすべてのタスクに対してトレースを有効にします。

INit

オプションで、SMC サブシステムの開始/終了コンポーネントのすべてのタスクに対してトレースを有効にします。

JOBname(jobname)

オプションで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名に一致した、イニシエータの1つ以上のイニシエータコンポーネントに対して SMC トレースを有効または無効にします。指定しない場合、すべてのジョブに対するトレース情報が表示されます。

jobname は特定のジョブ名です。入力値は1から8文字の長さにする必要があります。最後の文字としてアスタリスク(*)を入力すると、ワイルドカードとして使用できます。この場合、アスタリスクに先行する文字に一致するジョブ名を持つすべてのジョブが、トレースまたは一覧表示されます。すべてのジョブをトレースするには、*TRACE JOB(*)* と指定します。

STEPname(stepname)

オプションで、ステップ名を指定します。

stepname はステップ名を指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。このパラメータは、*JOBname* も指定されている場合にのみ有効です。

PROCstep(procstep)

オプションで、*PROC* ステップを指定します。

procstep は *PROC* ステップを指定します。入力値は 1 から 8 文字の長さにする必要があります。このパラメータは、*JOBname* と *STEPname* も指定されている場合にのみ有効です。

ALLProc

オプションで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名に一致する、イニシエータで実行しているすべての SMC イニシエータコンポーネントに対してトレースを有効にします。これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

ALLOc

オプションで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名に一致する、イニシエータ内で実行するすべての SMC 割り当てタスクに対してトレースを有効にします。

MSghandler

オプションで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名に一致する、イニシエータ内で実行しているすべての SMC メッセージハンドラコンポーネントタスクに対してトレースを有効にします。

REmote

オプションで、リモート SMC HTTP サーバーで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名から発信された要求に対してトレースを有効にします。

リモートトレースは、SMC クライアント上でアクティブになっている GTF トレースに依存しませんが、GTF トレースは対応する SMC HTTP サーバー上でアクティブになっている必要があります。

UTility

オプションで、指定した *jobname*、*stepname*、および *procstep* 名に一致する、イニシエータ内で実行しているすべての SMC ユーティリティーコンポーネントタスクに対してトレースを有効にします。

TREQDef

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット

- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティーに入力可

説明

SMC *TREQDef* コマンドは、テープ要求 (*TAPEREQ*) パラメータ文を含む定義データセットを指定してロードします。

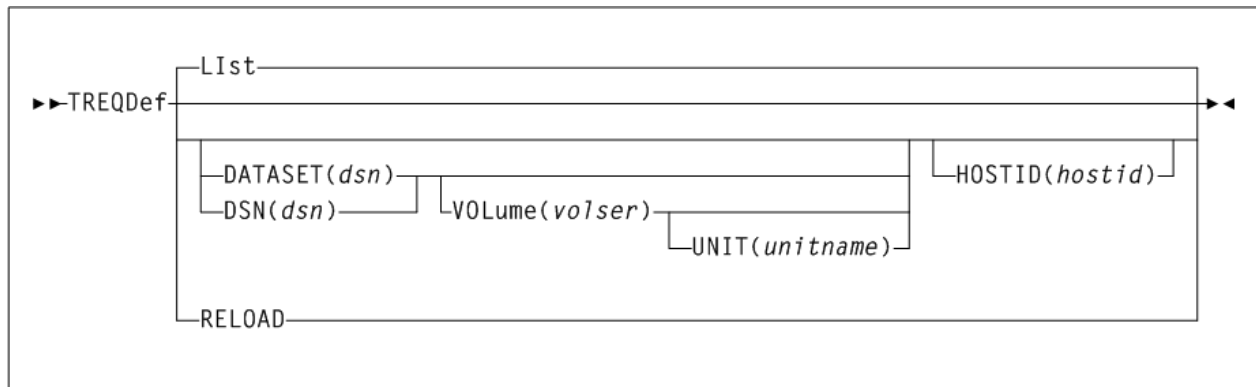
注:

既存の HSC *TREQDEF* 制御文は無効になっていませんが、リモート SMC 6.0 クライアントシステムに対してのみ処理されます。

構文

図2.36 「*TREQDef* コマンドの構文」は、*TREQDef* コマンドの構文を示しています。

図2.36 *TREQDef* コマンドの構文



パラメータ

図2.36 「*TREQDef* コマンドの構文」に示すように、*TREQDef* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

現在ロードされている *TAPEREQ* 制御文を含む定義データセットに関する情報を一覧表示します。次の情報が含まれます。

- データセット名

- メンバー名
- 識別文字列 (データセットに *OPTION TITLE* 文が含まれている場合)
- パラメータがロードされた日付と時間

TREQDef コマンドでパラメータが指定されていないときには、*List* がデフォルトとなります。

DATASET(*dsn*) または DSN(*dsn*)

オプションで、処理対象の *TAPEREQ* 制御文を含むデータセットの名前を指定し、オプションで、*OPTION TITLE* 制御文を指定します。

dsn はデータセット名を示します。このデータセットは、固定長 80 バイトの順次データセットにすることも、固定長 80 バイトの PDS メンバーにすることもできます。データセット名にメンバー名が含まれる場合、データセット名を引用符で囲む必要があります。例:

```
DATASET('YOUR.PDS.DSN(MEMBER)')
```

VOLume(*volser*)

オプションで、データセットが置かれている DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。データセットがカタログ化されていない場合は、このパラメータを指定してください。

volser は、ボリュームシリアル番号を示します。

UNIT(*unitname*)

オプションで、カタログ化されていないデータセットについて、指定した *VOLume* のユニット名を指定します。*VOLume* も指定している必要があります。

unitname は、ユニット名を示します。指定しない場合、*SYSALLDA* のユニット名はデフォルトになります。

HOSTID(*hostid*)

オプションで、この制御文の実行元である *hostid* を指定します。このパラメータは、複数の *TAPEREQ* 制御文メンバーを含む 1 つの *parmlib* メンバーを複数のシステムで共有できるように、*PARMLIB* で使用する場合にのみ有効です。

hostid は、この制御文の実行元であるホスト名を示します。複数のホスト名はカンマで区切る必要があります。

RELOAD

オプションで、現在ロードされている *TAPEREQ* 制御文を同じデータセットからリロードします。このパラメータは、*TREQDEF DSN(*dsn*)* コマンドが発行されたあとで、データセットの内容が変更された可能性があるときに使用できます。

TAPEREQ 制御文

SMC *TAPEREQ* 制御文では、特定のジョブ名、ステップ名、プログラム名、データセット、またはデータセットのグループに適用される指定 *POLicy* を指定します。

TAPEREQ 文は、SMC *TREQDEF* コマンドで指定された定義データセット (*DDname*) に記されます。SMC 割り当ては、これらの *TAPEREQ* 文を呼び出して、要求を満たすために正しいメディアタイプが使用されており、カートリッジが適切なデバイスにマウントされていることを確認します。*TAPEREQ* 文は定義データセット内に記す必要があります。これをオペレータコマンドとして発行することはできません。

SMC *POLicy* コマンドを使用すると、指定した単一のオブジェクトですべてのテーブルポリシー仕様を指定できます。これは *TAPEREQ* 文または *SMS* とともに使用され、指定ポリシーを割り当てまたはマウントイベントに関連付けます。

TAPEREQ POLicy パラメータは、SMC *POLicy* コマンドで定義されている関連の SMC ポリシーを参照するように SMC に指示します。詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

次のいずれかの条件が存在する場合、*MEDia* および *RECtech* または *MODEl* パラメータは未定義に設定され、すべての要求に適合します。使用可能なすべてのデバイスが割り当ての対象になります。

- 要求に適合する *TAPEREQ* 制御文が定義データセットで指定されていない。
- *MEDia*、*RECtech*、または *MODEl* パラメータを指定した、適合する *Policy* コマンドでない。
- ロードされている定義データがない。

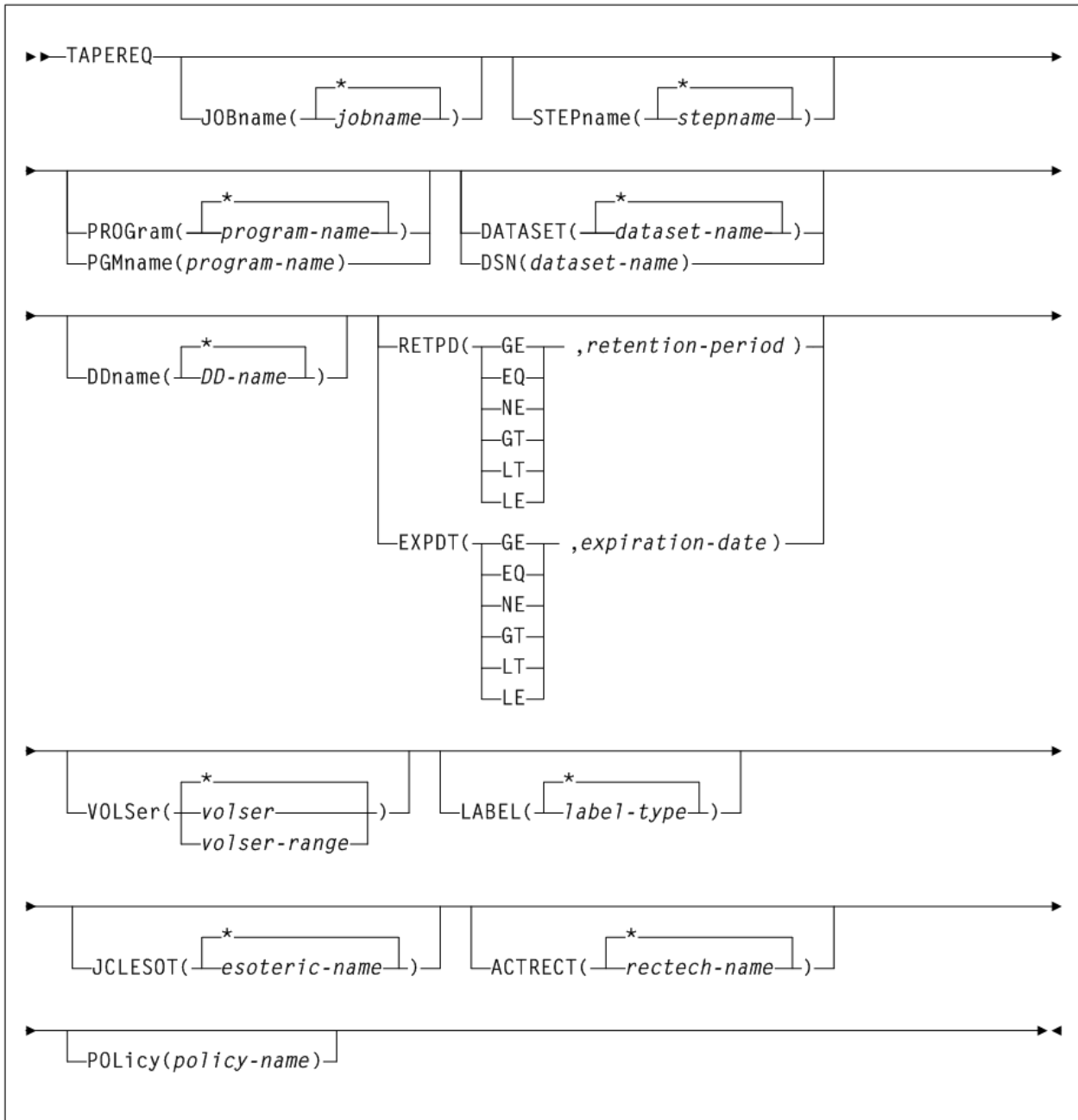
注:

- 以前のソフトウェアリリースでは、*TAPEREQ* パラメータはテーブル属性の定義に使用されてきました。このような従来のパラメータの詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『ELS レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
 - *TREQDEF* コマンドの詳細は、「[TREQDef](#)」を参照してください。
-

構文

図2.37「[TAPEREQ 制御文の構文](#)」は、*TAPEREQ* 制御文の構文を示しています。

図2.37 TAPEREQ 制御文の構文



パラメータ

図2.37 「TAPEREQ 制御文の構文」に示すように、TAPEREQ 制御文には次のパラメータが含まれます。

注:

JOBname、*STEPname*、*PROG*ram、および *DATASET* パラメータ値では、次のワイルドカード文字を使用できます。

- % または ? は、空白以外の単一の任意の文字を示します。
- * は、1つの修飾レベルを超えない任意の文字列 (0 から 8 文字) を示します。たとえば、*A.B.** は *A.B* と *A.B.C* に適合しますが、*A.B.C.D* には適合しません。
- ** は、*DATASET* でのみ使用され、任意の数の修飾子を示します (ゼロ以上)。修飾子内ではほかの文字とともに使用することはできません。たとえば、*A.B.*** は *A.B*、*A.B.C*、*A.B.C.D*、*A.B.C.D.E* などに適合します。

***JOBname*(*jobname*)**

オプションでジョブ名を識別します。*JOBname* を指定しない場合、デフォルト値は * です。

jobname は、*TAPEREQ* 制御文が処理されるジョブの名前を示します。

指定した *jobname* が要求内のジョブ名に一致したときのみ、*TAPEREQ* 制御文が使用されます。

注:

DFHSM の *TAPEREQ* 文をコーディングする場合は、選択条件として *JOBname* を指定する必要があります。*DATASET (DSN)* を使用すると、予期しない結果が発生することがあります。

***STEPname*(*stepname*)**

オプションでステップ名を指定します。*STEPname* パラメータが指定されていないときには、デフォルト値は * になります。

stepname は、*TAPEREQ* 制御文が処理されるステップの名前を示します。*TAPEREQ* 制御文は、指定された *stepname* が要求内のステップ名に一致するときのみ使用されます。

***PROG*ram(*program-name*) または *PGM*name(*program-name*)**

オプションでプログラム名を指定します。

使用されるプログラム名はジョブステップのプログラム名です。デフォルト値は * です。

program-name は、*TAPEREQ* 制御文が処理されるプログラム名を示します。

TAPEREQ 制御文は、指定した *program-name* が要求内のプログラム名に一致したときのみ使用されます。

DATASET(dataset-name) または DSN(dataset-name)

オプションでデータセット名を指定します。デフォルト値は ** です。

dataset-name は、*TAPEREQ* 制御文が処理されるデータセット名を示します。

TAPEREQ 制御文は、指定された *dataset.name* が要求内のデータセット名に一致したときにのみ使用されます。*RACF* および *SMS* の拡張汎用命名の規則が適用されます。

DFHSM の *TAPEREQ* 文をコーディングする場合は、選択条件として *JOBname* を指定する必要があります。*DATASET (DSN)* を使用すると、予期しない結果が発生することがあります。

このパラメータで指定する名前は、DD 文の *DSN* パラメータにコーディングされた値と異なっている場合があります。次に例を示します。

DSN=ABC

データセットが一時的なものである場合、DD 文ではこのようにコーディングされていることがあります。ただし、実際のデータセット名は *ABC* ではありません。同様に、*DSN* パラメータが以前の DD 文を参照する場合、データセット名は参照先のデータセットに解決されます。したがって、*TAPEREQ* 制御文を処理するには、参照されるデータセット名を *DATASET* パラメータにコーディングする必要があります。

DDname

オプションで、データセットの DD 名を指定します。

DD-name は DD 名を示します。

RETPD

オプションで、保存期間と、存在する必要がある関係性を指定します。*RETPD* と *EXPDT* のどちらも指定しない場合、デフォルト値は *RETPD(GE,0)* になります(どの有効期限でもこの条件に適合します)。

- *EQ* - 等しい。
- *NE* - 等しくない。
- *GT* - より大きい。
- *GE* - 以上。
- *LT* - 未満。
- *LE* - 以下。

retention-period は、データセットの保存期間を日数で示します。日数は、1 から 4 桁の 10 進数で指定してください。

EXPDT

オプションで、有効期限と、存在する必要がある関係性を指定します。

- *EQ* - 等しい。
- *NE* - 等しくない。
- *GT* - より大きい。
- *GE* - 以上。
- *LT* - 未満。
- *LE* - 以下。

expiration-date は、*YYDDD* または *YYYY/DDD* の形式でデータセットの有効期限を示します。

VOLser(volser または volser-range)

オプションで、特定のボリューム ID または *volser* の範囲を識別します。*VOLSer* を省略した場合、デフォルト値は * (任意のボリューム) になります。

TAPEREQ 文と *POLicy* コマンドを組み合わせて使用すると、特定ボリュームのシリアル番号に基づいて割り当てポリシーを指定できます。詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

volser または *volser-range* は、ボリューム ID またはボリュームの範囲を示します。

VOLSer では、*POLicy* パラメータも指定する必要があります。

LABEL(label-type)

オプションで、ポリシーを選択するために使用するラベルタイプを指定します。

label-type はラベルタイプを示します。次のいずれかを指定します。

- *SL* は、標準ラベルのテープを示します。これは、このパラメータが省略されている場合のデフォルトです。
- *AL* は、ANSI ラベルのテープを示します。
- *NL* は、ラベルなしのテープを示します。
- *NSL* は、非標準ラベルのテープを示します。

LABEL は、*POLicy* も指定されている場合にのみ有効です。

JCLESOT(esoteric-name)

オプションで、*JCL* で (または *IDAXESOT* を通じて) 与えられたエソテリックに一致するデバイスエソテリックグループの名前を指定します。

esoteric-name はエソテリックグループ名を示します。

これは、1 から 8 文字の英数字または各国語 (#、@、\$) 文字で構成できます。スラッシュ (/) またはハイフン (-) も有効です。

JCLESOT は、*POLicy* も指定されている場合にのみ有効です。*JCLESOT* は、*SSI55* (*IDAX*) または *SSI24* (割り当て) の処理時にのみ一致するので、*SUBPOOL* および *MGMTCLAS* を含む *POLICY* はこのパラメータで選択されません。

次に、*JCLESOT* および *ACTRECT* パラメータの使用例を示します。

```
TAPEREQ DSN(V047970.JCLESOT.*) JCLESOT(HVTSS11) POLICY(POL1)
TAPEREQ DSN(V047970.JCLESOT.*) ACTRECT(V) POLICY(POL1)
TAPEREQ DSN(**) POLICY(POL2)
```

```
POLICY NAME(POL1) MED(V) REC(V) MGMT(HSCX400) SUBP(SUBP1)
POLICY NAME(POL2) MED(ECART)
```

この例では、*UNIT=HVTSS11* (一致する *DSN* を使用) を指定するジョブに、*SSI55/SSI24* の処理時に *VIRTUAL* メディアおよび記録技法が割り当てられます。ほかのすべてのデータセットには、*ECART* のメディアが割り当てられます。マウントメッセージ時に、割り当てられたドライブの記録技法が、一致する *DSN* に対して仮想である場合は、*POL1* の管理クラスおよびサブプールが割り当てられます。それ以外の場合、サブプールも管理クラスも割り当てられません。

ACTRECT(*rectech-name*)

オプションで、マウントが要求されたドライブが以前に選択したポリシーと矛盾している場合、または以前にポリシーを選択していない場合、マウント時にポリシーを決定するために使用する記録技法を指定します。

たとえば、*JCL* エソテリックが、ポリシー記録技法またはエソテリック置換の選択を妨げている場合、マウントが要求されたドライブと矛盾するスクラッチサブプールが、選択されたポリシーに存在する可能性があります。

また、*JCLESOT* などのマウント時に利用できない条件をポリシー選択に使用する場合、*SMC* マウント処理で、*SUBPOOL* や *MGMTCLAS* などのマウントパラメータを割り当てるポリシーが利用できないことがあります。*ACTRECT* を指定するとデフォルトをオーバーライドできます。

rectech-name は、記録技法名を示します。

ACTRect は、*POLicy* も指定されている場合にのみ有効です。

POLicy(policy-name)

オプションで、割り当てまたはマウント要求に関連付けられているポリシーの名前 (SMC *POLicy* コマンドによって定義) を指定します。

policy-name はポリシー名を指定します。

SMC は、このポリシー名を使用して、割り当てまたはマウント要求に関連付けられているすべてのポリシー情報を特定します。

指定ポリシーは、*TREQDEF* コマンドが処理される前に、*POLicy* コマンドを使用して定義する必要があります。

SMC *POLicy* コマンドの詳細は、「**POLicy**」を参照してください。既存の *TAPEREQ* 文に基づいた新しい *POLicy* 定義の作成の詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『*SMC* の構成および管理』を参照してください。

TAPEREQ 定義の無効化

TAPEREQ 定義を無効にするには、次の手順を使用します。

1. 現在の *TAPEREQ* 制御文を含む定義データセットを編集します。
2. 無効にする *TAPEREQ* 制御文のパラメータを削除するか、*TAPEREQ* 制御文を削除します。
3. *TREQDEF* オペレータコマンドを発行し、定義データセットをリロードします。

すべての *TAPEREQ* 定義を無効にするには、パラメータが指定されていない *TAPEREQ* 制御文を 1 つだけを含む定義データセットをロードしてください。

注:

いずれかの個別の *TAPEREQ* 制御文でエラーが発生した場合、セット全体が破棄されます。

UEXit

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、SMCUSIM ユーティリティーに入力可

説明

SMC UEXit コマンドは、特定のユーザー出口に対して呼び出されるロードモジュールを定義し、ユーザー出口が有効であるか無効であるかを指定します。

1、2、4、8、9、10、11、12、および 13 のユーザー出口が SMC によって呼び出され、管理されます。

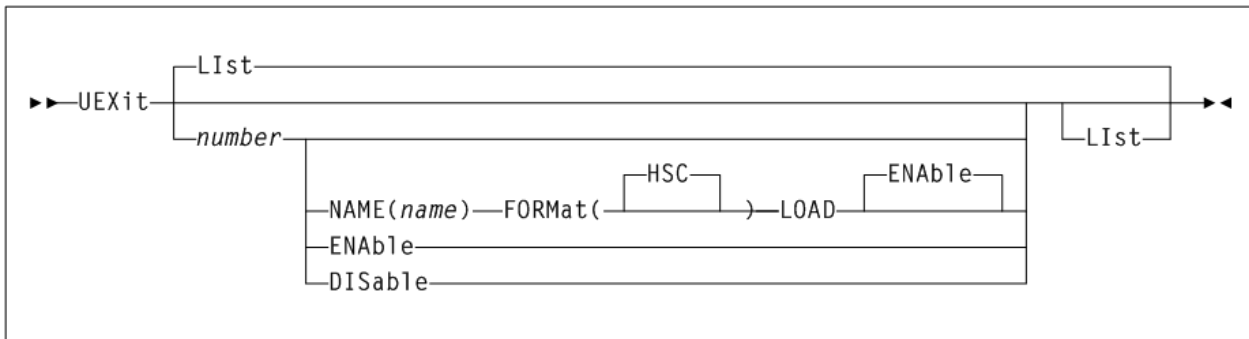
注:

- このコマンドを使用して、使用する各ユーザー出口をロードします。ユーザー出口はロードしていないと、呼び出されません。
- すべてのユーザー出口は、ライブラリサーバーが置かれている場所とは無関係に、SMC が存在するホスト上で実行されます。
- SMC が対話する TapePlex の数とは無関係に、所定のユーザー出口の 1 つの形式だけを呼び出すことができます。目的の形式 (HSC) は *FORMat* パラメータを使用して指定します。
- HSC ユーザー出口 7 (*SLSUX07*) はサポートされなくなりました。
- これらのユーザー出口は、サブシステムにアクセス可能なライブラリ内に存在する必要があります。
- SMC *POLicy* が割り当てまたはマウントに適用されるときに、ユーザー出口情報は適用されません。
- ユーザー出口の詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『ELS レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

構文

図2.38 「UEXit コマンドの構文」は、UEXit コマンドの構文を示しています。

図2.38 UEXit コマンドの構文



パラメータ

図2.38「UEXit コマンドの構文」に示すように、*UEXit* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、すべてのユーザー出口のステータス情報を表示します。

- *UEXit* コマンドでパラメータが指定されていないときには、*LIst* がデフォルトとなります。
- *LIst* はそのほかのパラメータとともに指定できます。この場合、*LIst* は、ほかのパラメータが処理されたあとに生成されます。

number

オプションで、ユーザー出口番号を指定します。有効な値は 1、2、4、8、9、10、11、12、および 13 です。

NAME(name)

オプションで、ユーザー出口のロードモジュール名を指定します。

name は、ロードモジュール名 (たとえば、*SLSUX01*) を示します。

FORMat

オプションで、有効または無効にするユーザー出口のフォーマットを指定します。

HSC

HSC ユーザー出口のフォーマットです。

LOAD

オプションで、指定したユーザー出口をロードし、使用できるようにします。

ユーザー出口はロードしていないと、呼び出されません。同じユーザー出口に対してモジュールを続けてロードすると、使用回数がゼロに達したときに、ロードモジュールの現在アクティブなコピーが削除されます。

ENAbLe

オプションで、以前に問題が生じたために無効になっていたユーザー出口を有効にします。

DISAbLe

オプションで、問題の解決を図るためにユーザー出口を無効にします。

UNITAttr

インタフェース:

- コンソールまたは *SMCCMDS* データセット

- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティーに入力可

説明

SMC では、MSP/EX オペレーティングシステムと ELS ライブラリ制御システム (TapePlex) の両方からドライブタイプ情報を取得します。ELS ライブラリ制御システムの場合、構成照会から返された HSC データは、ライブラリ制御のデバイスについてオペレーティングシステムから返された情報を補足するために使用されます。

SMC *UNITAttr* コマンドを使用すると、デバイスアドレスおよび属性を指定して、ライブラリ外の制御デバイスに関するオペレーティングシステム情報を補足でき、複数の TapePlex で同じデバイスアドレスが定義されたときに、指定したデバイスに関する TapePlex からの構成情報を事実上無視できます。SMC *UNITAttr* コマンドを使用すると、次の操作を実行できます。

- このホストで利用できないデバイスアドレスに *MODEL=IGNORE* を設定します。
- このホストのライブラリ外デバイスのモデルタイプを指定します。
- 複数の TapePlex に対して定義されているライブラリ外デバイスアドレスまたは範囲に対して *NOTAPEPlex* を指定します。このホストがない場合、接続されているデバイスは指定した TapePlex に属します。
- SMC の開始後、TapePlex が初期化される前に、マウントによって参照される可能性のあるデバイスに TapePlex 所有権とモデルを指定します。

UNITAttr コマンドを使用する必要がある構成、またはこのコマンドを使用することで利点のある構成の詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

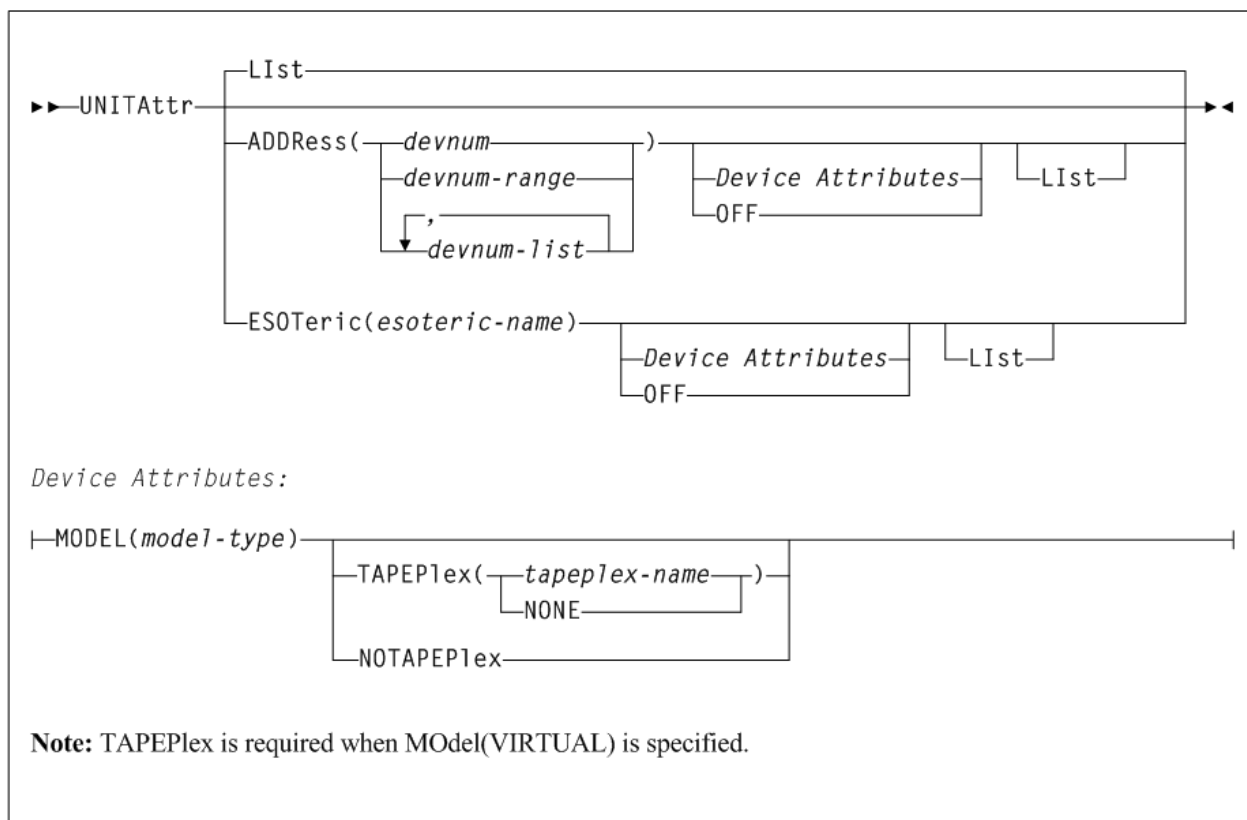
注:

- 既存の HSC `UNITATTR` 制御文は無効になりません。ただし、ライブラリ外デバイスと `MODEL (IGNORE)` デバイスに対する `UNITATTR` 文は、リモート SMC 6.0 クライアントシステムに対してのみ処理されます。ライブラリドライブおよび仮想ドライブに対する HSC `UNITATTR` 文は、リリース 6.0 以降のどの HSC 処理でも使用されません。
- SMC は `UNITDEF` コマンドをサポートしません。各 `UNITATTR` コマンドは、個別に解析され処理されます。
- HSC ライブラリ外および `MODEL=IGNORE UNITATTR` 文は、構成照会でも SMC に返されなくなります。したがって、`UNITAttr` を使用して、割り当て用にデバイスをバイパスするか、ライブラリ外ドライブのデバイスタイプを定義する場合、これらの `UNITATTR` コマンドを SMC サブシステムに定義する必要があります。

構文

図2.39 「`UNITAttr` コマンドの構文」は、`UNITAttr` コマンドの構文を示しています。

図2.39 `UNITAttr` コマンドの構文



パラメータ

図2.39「UNITAttr コマンドの構文」に示すように、UNITAttr コマンドには次のパラメータが含まれます。

ADDRESS(devnum、 devnum-range、 devnum-list)

オプションで、UNITAttr デバイス属性が割り当てられるデバイス番号を指定します。

devnum、*devnum-range*、または *devnum-list* は、デバイス番号、デバイス番号の範囲、またはデバイス番号のリストを指定します。

ESOTeric(esoteric-name)

オプションで、UNITAttr デバイス属性が割り当てられるエソテリックを指定します。デバイス特性を変更すると、指定したエソテリック内のすべてのデバイスが変更されます。

esoteric-name は MSP エソテリック名を示します。この名前は MSP に対して定義する必要があり、SMC が認識しているテープデバイスだけを含む必要があります。

OFF

オプションで、ADDRESS パラメータまたは ESOTeric パラメータによって指定されたデバイス番号のモデルタイプが、デバイス UCB から特定されるように指定します。以前に MODEL=IGNORE に設定されていたデバイスの場合は、ライブラリサーバーからの MODEL 情報を復元されるように指定します。

List

ADDRESS パラメータまたは ESOTeric パラメータによって指定されたデバイス番号の UNITAttr モデル情報を一覧表示します。

デバイス属性

MODEL(model-type)

オプションで、ADDRESS パラメータによって指定されたデバイス番号が割り当てられるトランスポートのモデルタイプを指定します。

model-type は、モデルタイプを示します。

有効な *model-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODEL の値」](#)を参照してください。

TAPEPlex

オプションで、通信を確立する前にドライブに関連付けられる TapePlex の名前を指定します。

MModel(VIRTUAL) が指定されている場合、*TAPEPlex* が必要です。*MModel(VIRTUAL)* ドライブは、「ライブラリ外」デバイスとして存在することはできません。

tapeplex-name

TapePlex 名。

指定した場合、この名前は、*TAPEPlex* コマンドで定義された TapePlex 名に一致する必要があります。

NONE

オプションで、指定したデバイスアドレスから TapePlex 関連付けを削除します。

NOTAPEPlex

オプションで、ELS ライブラリ制御システムからの構成照会によって、デバイスがライブラリによって制御されていることが示された場合でも、指定したアドレスまたはアドレス範囲がライブラリ外デバイスであるように指定します。ローカルのライブラリ外デバイスアドレスが、ホストからアクセスできない、TapePlex に属するデバイスと重なるときのこのパラメータを使用します。

注:

- *TAPEPlex* とともに *MModel* が指定されている場合、TapePlex から返された構成照会モデル情報は「実際」のモデルまたは「正しい」モデルと想定され、*UNITAttr* コマンドで指定されたすべての *MModel* をオーバーライドします。
- アドレスに対して *TAPEPlex* が指定されているが、そのアドレスがその TapePlex の構成照会から返されていない場合、エラーメッセージが発行されますが、誤った TapePlex オーナーシップが指定したデバイスアドレスに残ります。その結果、指定したデバイスアドレスに対するマウントは自動化されず、指定した TapePlex によって拒否されます。

USERMsg

インタフェース:

- コンソールまたは *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *USERMsg* コマンドを使用すると、インターセプトされ、ライブラリサブシステムのユーザー出口 01 へ渡されるメッセージの追加メッセージ識別子を指定できま

す。また、このコマンドを使用して、*USERMsg* コマンドを使用して定義されているメッセージのメッセージ識別子を一覧表示することもできます。

構文

図2.40「*USERMsg* コマンドの構文」は、*USERMsg* コマンドの構文を示しています。

図2.40 *USERMsg* コマンドの構文



パラメータ

図2.40「*USERMsg* コマンドの構文」に示すように、*USERMsg* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Lst

オプションで、顧客定義のメッセージテーブルにメッセージ識別子を一覧表示します。これは、パラメータが指定されていない場合のデフォルトです。

ID(msgid)

オプションで、顧客定義のメッセージテーブルに追加するメッセージを指定します。このメッセージはユーザー出口 01 に渡されます。

msgid は、追加されるメッセージのメッセージ識別子を示します。

注:

このパラメータは、*SMCPARMS* データセットでのみ指定できます。

VMSG

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティー、*SMCCMDS*、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい (XML/CSV 出力なし)

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要

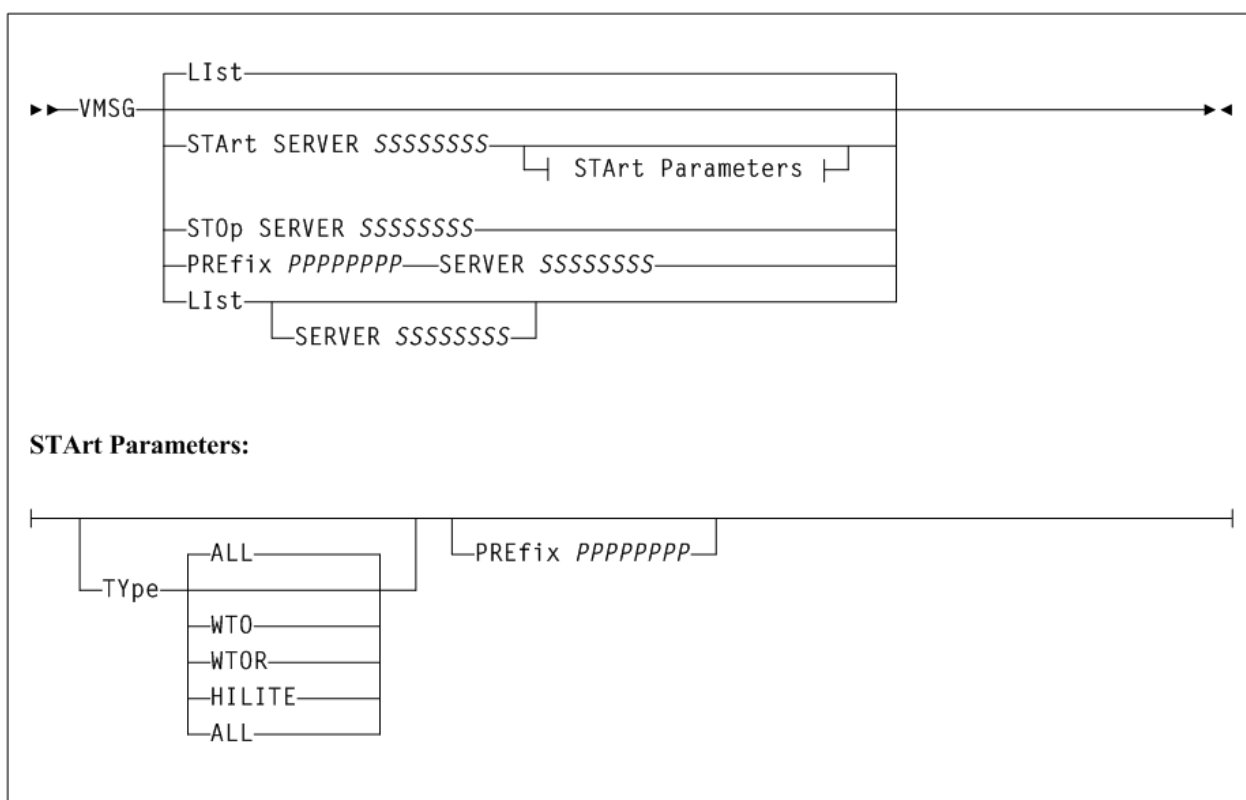
説明

SMC *VMSG* コマンドを使用すると、仮想ストレージマネージャコンソール (VSMc) メッセージプロセッサクライアントを開始または停止できます。VMSG メッセージプロセッサクライアントは、リモート VSM コンソールサーバーによって発行されたメッセージの受信と返信をローカル SMC サブシステムで行えるようにします。

構文

図2.41 「VMSG コマンドの構文」は、*VMSG* コマンドの構文を示しています。

図2.41 VMSG コマンドの構文



パラメータ

図2.41 「VMSG コマンドの構文」に示すように、SMC *VMSG* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LlSt

オプションで、*VMSG* タスクステータス情報を表示します。

SERVER SSSSSSSS

オプションで、指定したサーバーの VMSG プロセッサだけを一覧表示します。

SSSSSSSS はサーバー名を示します。指定した場合、指定のサーバーは、SMC SERVer コマンドによって以前に定義されている必要があります。

*L*ist は、*ST*Art、*ST*Op、または *PRE*fix キーワードを指定していない場合のデフォルトです。

STArt

オプションで、VMSG メッセージプロセッサクライアントを開始します。

SERVER SSSSSSSS

VMSG プロセッサのサーバー名を指定します。

SSSSSSSS はサーバー名を示します。サーバー名は必須であり、SMC SERVer コマンドによって以前に定義されている必要があります。

TYpe (*type-list*)

オプションで、VMSG クライアントが受信するメッセージの 1 つ以上のタイプを含むタイプリストを定義します。

カンマを使用して値を区切りながら *type-list* で次の 1 つ以上を指定します。

ALL

すべてのメッセージを受信します。これがデフォルトです。ALL を指定する場合は、ほかのメッセージタイプとともに指定することはできません。これがデフォルトです。

HILITE

強調表示された WTO メッセージを受信します。

WTO

強調表示されない WTO メッセージを受信します。

WTOR

返信が必要なメッセージを受信します。

PREfix PPPPPPPP

オプションで、SMS サブシステムログでこの VSM コンソールサーバーからのメッセージを識別するメッセージ接頭辞識別子を指定します。指定しない場合、指定した *server* 名がメッセージ接頭辞として使用されます。

PPPPPPPP は、メッセージ接頭辞識別子です。接頭辞は、最大 8 文字の長さに設定でき、次のどの組み合わせでも含められます。

- A - Z
- 0 - 9

- @#\$,.,()+-=<|!;%>?:

STOp

オプションで、VMSG メッセージプロセッサクライアントを停止させます。

SERVER SSSSSSSS

VMSG プロセッサのサーバー名を指定します。

SSSSSSSS はサーバー名を示します。サーバー名は必須であり、SMC *SERVER* コマンドによって以前に定義されている必要があります。

PREfix Pppppppp

オプションで、SMS サブシステムログでこの VSM コンソールサーバーからのメッセージを識別するメッセージ接頭辞識別子を指定します。指定しない場合、指定したサーバー名がメッセージ接頭辞として使用されます。

PPpppppp は、メッセージ接頭辞識別子を示します。接頭辞は、最大 8 文字の長さに設定でき、次のどの組み合わせでも含まれます。

- A - Z
- 0 - 9
- @#\$,.,()+-=<|!;%>?:

SERVER SSSSSSSS

VMSG プロセッサのサーバー名を指定します。

SSSSSSSS はサーバー名を示します。サーバー名は必須であり、SMC *SERVER* コマンドによって以前に定義されている必要があります。

XCLIENT

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい、XML と CSV をサポートします

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *XCLIENT* コマンドを使用すると、デフォルトのサーバー XAPI セキュリティプロトコルとは異なるプロトコルバージョンを使用する XAPI クライアントを定義できます。

注:

- *XCLIENT* コマンドは、「セキュアでない」古いプロトコルを使用するクライアントを定義するためのみ必要です。*XCLIENT* コマンドで定義されていないクライアントから XAPI 要求が発信された場合、XAPI ログイン資格証明の生成が要求されます。
- ELS 7.3 SMC HTTP サーバーと通信している古い ELS または ELS 以外のクライアントがある場合、*XCLIENT* コマンドで、プロトコルバージョン 0 のクライアントとしてこれらを定義する必要があります。
- 完全な *XCLIENT* コマンドは、SMC0000 メッセージでエコーされません。

XCLIENT (抑制) は、すべての *XCLIENT* コマンドについてエコーされます。

- 完全な *XCLIENT* コマンドは、SMC LOG コマンドがアクティブな場合、ログに記録されません。

XCLIENT (抑制) は、すべての *XCLIENT* コマンドについてログに記録されます。

- *XCLIENT* コマンドは、どの HTTP または *SERVER* コマンドよりも前に指定する必要があります。

構文

図2.42 「*XCLIENT* コマンドの構文」は、*XCLIENT* コマンドの構文を示しています。

図2.42 *XCLIENT* コマンドの構文

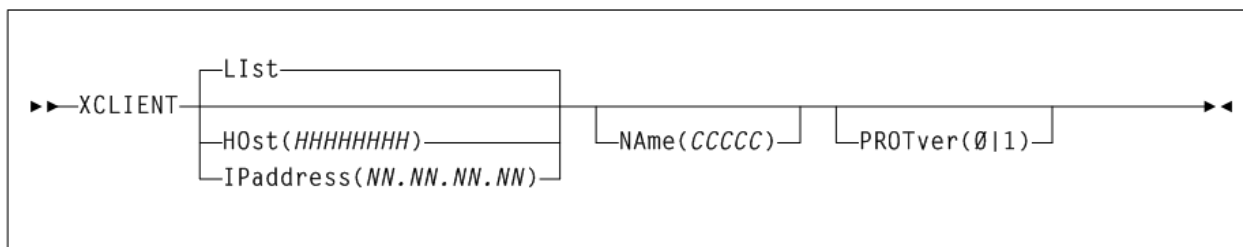
**パラメータ**

図2.42 「*XCLIENT* コマンドの構文」に示すように、*XCLIENT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、すべての *XCLIENT* 設定を表示します。*XCLIENT* コマンドでパラメータが指定されていないときには、*List* がデフォルトとなります。

Host(HHHHHHHH)

オプションで、クライアントが存在する IP リゾルバホスト名を指定します。

HHHHHHHH は、クライアントの名前を示します。*Host* 名は、*TCP_IP* 名テーブルで解決可能な名前である必要があります。次の規則が適用されます。

- この値は1文字から8文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字はアルファベットか数字にする必要があります。
- 最後の文字はアルファベットか数字にする必要があります。
- 最初と最後の間の文字は、アルファベット、数字、ハイフン、またはピリオドにする必要があります。

IPaddress(NN.NN.NN.NN)

オプションで、クライアントのIPアドレスを指定します。

NN.NN.NN.NN はTCP/IPアドレスを示します。

注:

IPaddress および *Host* は相互に排他的です。

Name(CCCCC)

オプションで、クライアントの名前を指定します。クライアントがSMC/MSPである場合、指定された *Name* は、*client_subsystem_name* として返された名前にする必要があります。それ以外の場合、指定した *Name* は、*client_name* で返される名前にする必要があります。 *Name* が「*」と指定されている場合、指定した *Host* または *IPaddress* からのすべての要求は、指定したプロトコルバージョンを使用しているものとして定義されます。

CCCC はクライアントの名前を示します。

PROTver

オプションで、プロトコルバージョンを指定します。デフォルトは0です。

- 0 は、「セキュアでない」古いプロトコルバージョンを示します。
- 1 は、XAPI セキュリティプロトコルバージョンを示します。

XUDB

インタフェース:

- コンソール、ユーティリティ、*SMCCMDS* データセット、または *SMCPARMS* データセット
- UUI サポート: はい、XML と CSV をサポートします

サブシステムの要件:

アクティブな SMC が必要。または、*SMCUSIM* ユーティリティに入力可

説明

SMC *XUDB* コマンドを使用すると、XAPI セキュリティーユーザーの追加、更新、削除、および一覧表示を行えます。

XAPI セキュリティーユーザーリストは、クライアントとサーバーの両方によって維持されます。クライアントとサーバーが同じホスト (つまり SMC/MSP) に存在している場合、*XUDB* ユーザーリストは共有されます。

注:

- クライアントとサーバーの両方で、同じ *USER* を定義する必要があります。
- *USER* は *SERVER* ごとに一意です。同じ SMC HTTP サーバーで複数の TapePlex が稼働している場合、定義済みのユーザーはすべての TapePlex にアクセスできます。
- 完全な *XUDB* コマンドは、*SMC0000* メッセージでエコーされません。

XUDB (抑制) は、すべての *XUDB* コマンドについてエコーされます。

- 完全な *XUDB* コマンドは、*SMC LOG* コマンドがアクティブな場合、ログに記録されません。

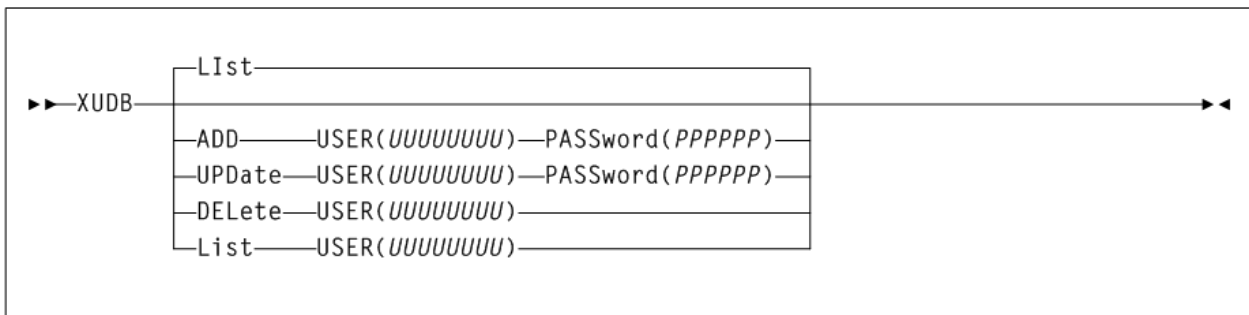
XUDB (抑制) は、すべての *XUDB* コマンドについてログに記録されます。

- *XUDB* コマンドは、あらゆる *HTTP*、*SERVER*、*TCPip* コマンドの前に指定する必要があります。

構文

図2.43 「*XUDB* コマンドの構文」は、*XUDB* コマンドの構文を示しています。

図2.43 *XUDB* コマンドの構文



パラメータ

図2.43 「*XUDB* コマンドの構文」に示すように、*XUDB* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIsT

XAPI セキュリティーリストに指定したユーザーを表示します。XUDB コマンドでパラメータが指定されていないときには、LIsT がデフォルトとなります。この場合、すべてのユーザーが一覧表示されます。

USER (UUUUUUUU)

一覧表示するユーザー名を指定します。UUUUUUUU はユーザー名を示します。

ADD

指定したユーザー名またはパスワードが XAPI セキュリティーリストに追加されるように指定します。

USER (UUUUUUUU)

追加するユーザー名を指定します。UUUUUUUU はユーザー名を示します。

PASSword (PPPPPP)

ユーザーパスワードを指定します。PPPPPP はパスワードを示します。

UPDate

指定したユーザー名またはパスワードが XAPI セキュリティーリストで更新されるように指定します。

USER (UUUUUUUU)

追加するユーザー名を指定します。UUUUUUUU はユーザー名を示します。

PASSword (PPPPPP)

ユーザーパスワードを指定します。PPPPPP はパスワードを示します。

DELeTe

指定したユーザー名/パスワードが XAPI セキュリティーリストから削除されるように指定します。

USER (UUUUUUUU)

追加するユーザー名を指定します。UUUUUUUU はユーザー名を示します。

XUDB セキュリティーデータセット

XAPI セキュリティーユーザーリストの XUDB ADD エントリを含めるように、XAPI セキュリティーユーザーリストを順次データセットで保持することをお勧めします。

SMC 起動パラメータで、XAPI セキュリティーデータセットの SMC READ コマンドを含めます。

XUDB ADD/UPDATE/DELETE コマンドは、操作可能な SMC/MSP で XAPI セキュリティーユーザーリストを変更するために使用できます。変更はすべて、XAPI SECURITY データセットで反映する必要があります。

XAPI セキュリティーデータセットは、SAF(RACF) 権限でセキュリティ保護されます。

第3章 HSC コマンド、ユーティリティー、および制御文

この章には、HSC および VTCS コマンドと制御文に関する参照情報が含まれています。

注:

- オペレータコマンドによってロードされる制御文は、そのコマンドとともに説明されています。その他の制御文 (*PARMLIB* データセットで指定されるものを含む) は、個別に説明されています。
 - 特定の HSC および VTCS コマンドは、『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』で説明されています。これらのコマンドは ELS より前のソフトウェアリリースで導入され、その機能は ELS で置き換えられました。これらのコマンドは ELS によってサポートされますが、このサポートは将来のリリースで終了する予定です。
-

ACTivities

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

ACTivities コマンドは、ボリュームグループによるライブラリリソースロードの統計レポート (スクラッチと非スクラッチとの比較、パススルーアクティビティー、マウント、マウント解除、挿入済み、取り出し済みなど) を生成します。このレポートは、ライブラリリソースと使用状況のモニタリングに役立つ情報を提供します。

このユーティリティーにはまた、要求された期間の SMF データも必要です (「[SET SMF](#)」を参照)。カートリッジ移動の SMF レコードが指定された期間内に記録されるように選択されていることを前提にしています。また、SMF レコードが次の順序になっていることも前提にしています。

- SMF ID
- 日付
- 時間 (早い順)。

重複したレコードや順序どおりになっていないレコードがあると、このユーティリティーは終了し、SMF レコードがソートされていないことを示すメッセージを表示します。この状況を回避するために指定できるソート文については、「[追加のソート制御カード](#)」を参照してください。

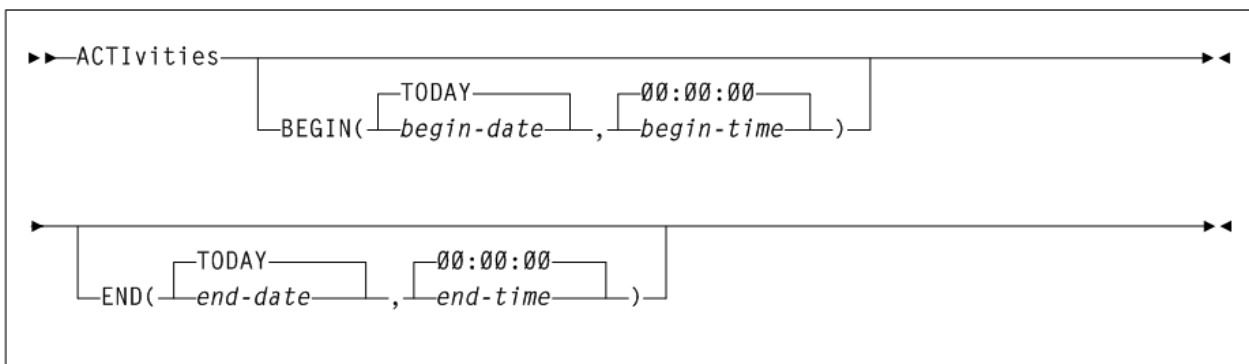
注:

定期的なパフォーマンス統計は、SL8500 ライブラリには使用できません。ボリューム移動の統計 (挿入、取り出し、マウント、マウント解除、移動を含む) は、すべてのライブラリタイプについて生成されます。

構文

[図3.1 「ACTivities コマンドの構文」](#) は、*ACTivities* コマンドの構文を示しています。

図3.1 ACTivities コマンドの構文



パラメータ

[図3.1 「ACTivities コマンドの構文」](#) に示すように、*ACTivities* コマンドには次のパラメータが含まれます。

BEGIN(begin-date または TODAY),begin-time)

オプションで、アクティビティー分析のための期間の開始を指定します。

begin-date または TODAY

分析の開始日。

- *mm/dd/yy* または *yyyymmdd* 形式の日付を指定します。

この形式を使用している場合、20 世紀 (19xx) の日付を示すには 71 以上の *yy* 値を指定します。21 世紀 (20xx) の日付を示すには 70 以下の *yy* 値を指定します。混乱を避けるために、*yyyymmdd* の日付の形式を使用することをお勧めします。

- *TODAY* は、デフォルトの日付として指定します。

begin-time

hh:mm:ss 形式で表された 1 日の開始時間 (24 時間値)。

begin-time および *end-time* パラメータの許容範囲は 00:00:00 から 24:00:00 までです。デフォルト値は 00:00:00 です。

次の各例で、アクティビティーレポートは 2008 年 10 月 27 日の真夜中に開始されます。

```
BEGIN(10/27/08,00:00:00)
```

```
BEGIN(20081027,00:00:00)
```

```
BEGIN(TODAY,00:00:00)
```

```
BEGIN(,00:00:00)
```

END(end-date または TODAY),end-time)

オプションで、アクティビティー分析のための期間の開始を指定します。

end-date または TODAY

分析の終了日。

- *mm/dd/yy* または *yyyymmdd* 形式の日付を指定します。

この形式を使用している場合、20 世紀 (19xx) の日付を示すには 71 以上の *yy* 値を指定します。21 世紀 (20xx) の日付を示すには 70 以下の *yy* 値を指定します。混乱を避けるために、*yyyymmdd* の日付の形式を使用することをお勧めします。

begin-date が指定されている場合は、*end-date* も同じ形式である必要があります。

- *TODAY* は、デフォルトの日付として指定します。

end-time

hh:mm:ss 形式で表された 1 日の終了時間 (24 時間値)。

begin-time および *end-time* パラメータの許容範囲は 00:00:00 から 24:00:00 までです。デフォルト値は 23:59:59 です。

例:

```
END(10/27/08,18:00:00)
```

```
END(20081027,11:30:00)
```

```
END(TODAY,23:29:00)
```

```
END(,23:59:59)
```

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*ACTivities* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSSMF

このユーティリティーが報告する対象となる SMF データ。これは、もっとも古いものから最新のものまで連結された複数のデータセットである可能性があります。これは、SMF ダンプユーティリティー *IFASMFDP* によって作成されたアクティブな SMF データセットのオフロードされたコピーです。

HSC に対して定義されている SMF レコードタイプは、*ACTivities* によって使用される唯一の SMF レコードです。*ACTivities* の実行時間を短縮するには、*IFASMFDP* ユーティリティーを使用して、HSC に対して定義されている SMF レコードタイプのみを含む新しい SMF データセットを作成します。次の例を使用すると、HSC のみの SMF データセットを作成できます。

```
//jobcard
//SMFCOPY EXEC PGM=IFASMFDP
//MAN DD DISP=SHR,DSN=input.smf.data
//DUMPOUT DD DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UNIT=your_esoteric,
// SPACE=(CYL,(500,500),RLSE),DSN=hsc.only.data
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
INDD(MAN,OPTIONS(DUMP))
OUTDD(DUMPOUT,TYPE(your_HSC_SMF_record_number))
```

Note - A DISPLAY CDS command can be issued to find your_HSC_SMF_record_number.

追加のソート制御カード

SMF レコードが確実にソートされるようにするには、*SYELSORT JCL* の *SYSIN* 部分で追加の制御カードをいくつか指定する必要があります。

```
//SYSIN DD#  
  INCLUDE COND=(6,1,BI,EQ,X'xx')  
  SORT  FIELDS=(15,4,CH,A,11,4,PD,A,7,4,BI,A)  
  SUM  FIELDS=NONE
```

注:

INCLUDE COND 文で、(上で *X'xx'* として示されている) SMF タイプの設定はユーザーが指定します。デフォルト設定は *FF* (SMF タイプ 255) です。

ACTMVCgn

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は、*MVCPPOOL* パラメータを指定する場合にのみ必要です

説明

ACTMVCgn コマンドは、*CDRT* 機能を備えた *VSM* 環境で使用されるオプションコマンドです。*ACTMVCgn* は、*SLUSMVON* および *SLUSMVOF* DD 文によって指定された 2 つのファイルに出力される 2 組の *MVCMAINT* 文を生成します。

ACTMVCgn の実行後は、次のようになります。

- *SLUSMVON* には、*READONLY(ON)* キーワードを含む 1 組の *MVCMAINT* 文が含まれています。
- *SLUSMVOF* には、*READONLY(OFF)* キーワードを含む 1 組の *MVCMAINT* 文が含まれています。

ACTMVCgn が正常に実行されると、*SLUSMVON* と *SLUSMVOF* の両方のデータセット内に等しい数の *MVCMAINT* 文が生成されます。

注:

このユーティリティ関数の使用例については、Oracle の ELS のドキュメント『ELS 障害回復およびオフサイトデータ管理ガイド』を参照してください。

構文

図3.2 「ACTMVCgn コマンドの構文」は、ACTMVCgn コマンドの構文を示しています。

図3.2 ACTMVCgn コマンドの構文

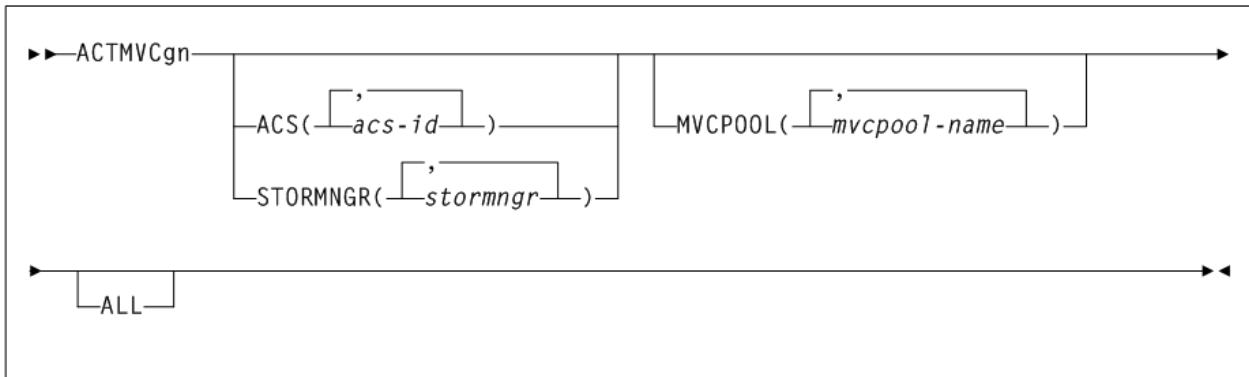
**パラメータ**

図3.2 「ACTMVCgn コマンドの構文」に示すように、ACTMVCgn コマンドには次のパラメータが含まれます。

ACS(*acs-id*)

オプションで、CSV ベースの出力がフィルタリングされる対象となる ACS を指定します。

acs-id は、2 文字の ACS ID を示します。空白は有効ではありません。複数の ACS を指定するには、各 ACS ID をコンマで区切ります。ACS が指定されていない場合、デフォルトはすべての ACS です。

STORMNGR(*stormngr-name*)

オプションで、CSV ベースの出力がフィルタリングされる対象となる STORMNGR を指定します。

stormngr-name は、STORMNGR の名前を示します。この名前には最大 8 文字を含めることができます。空白は有効ではありません。STORMNGR の複数の名前を指定するには、各名前をコンマで区切ります。

MVCPPOOL(*mvcpool-name*)

オプションで、CSV ベースの出力がフィルタリングされる対象となる *MVCPPOOL* を指定します。

mvcpool-name は、*MVCPPOOL* の名前を示します。この名前には最大 13 文字を含めることができます。空白は有効ではありません。複数の *MVCPPOOL* を指定するには、*MVCPPOOL* の各名前をコンマで区切ります。

注:

MVCPPOOL パラメータを指定し、HSC サブシステムがアクティブでない場合、このユーティリティーは完了できず、8 のリターンコードが発行されます。

ALL

オプションで、空でないすべての MVC に対して *READONLY(ON)* および *READONLY(OFF)* 制御文が生成されることを要求します。ALL が指定されていない場合、完全な MVC に対して *READONLY* 制御文は生成されません。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*ACTMVCGN* JCL には次の定義文が適用されます。

SLUSMAUD

選択された MVC を監査するための *SLUADMIN* ユーティリティー制御文の形式をした出力。この文はオプションです。これが存在する場合は、*EXPORT* ステータスにあるものを除く、空でないすべての MVC に対して *AUDIT* ユーティリティー制御文が生成されます。

SLUSMVON

READONLY(ON) キーワードを含む *MVCMAINT* ユーティリティー制御文の形式をした *ACTMVCGN* 出力。

SLUSMVOF

READONLY(OFF) キーワードを含む *MVCMAINT* ユーティリティー制御文の形式をした *ACTMVCGN* 出力。

ARCHive**インタフェース:**

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

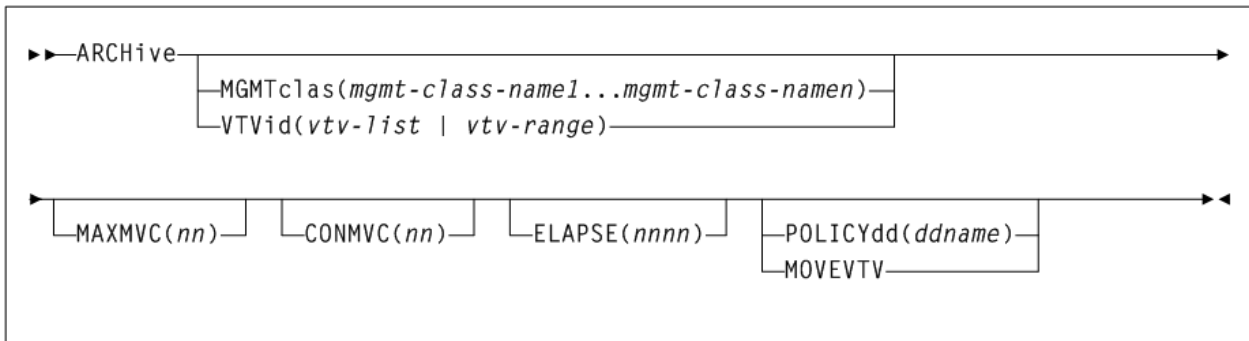
説明

ARCHive コマンドは VTV をアーカイブし、それらを別のストレージクラス内の MVC に移動します。

構文

図3.3「ARCHive コマンドの構文」は、*ARCHive* コマンドの構文を示しています。

図3.3 ARCHive コマンドの構文



パラメータ

図3.3「ARCHive コマンドの構文」に示すように、*ARCHive* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MGMTclas(mgmtclas-name1...mgmtclas-namen)

オプションで、アーカイブ管理ポリシーを定義する 1 つ以上の管理クラスを指定します。

mgmtclas-name1...mgmtclas-namen は、1 つ以上の管理クラスを示します。

VTVID(vtv-list または vtv-range)

オプションで、VTV のリストまたは範囲を指定します。このパラメータは、*MGMTclas* と相互に排他的です。

注:

MGMTclas または VTV の値を指定しない場合、VTCS はすべての VTV をスキャン (または処理) します。

MAXMVC(nn)

オプションで、1 つのアーカイブタスクによって処理される MVC の最大数を指定します。

nn は、MVC の最大数を示します。

CONMVC(*nn*)

オプションで、以降のリコールおよび移行操作中に VTCS が同時に処理する MVC の最大数 (*nn*) を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。指定されていない場合は、*CONFIG RECLAIM* 値 (またはデフォルト) が使用されます。*MOVEVTV* が指定されていない場合、このパラメータは無視されます。

ELAPSE(*nnnn*)

オプションで、アーカイブの最大時間 (*nnnn*) を分単位で指定します。最大時間が過ぎると、VTCS はメッセージ *SLS6682I* を発行します。*ELAPSE* 値に達したときに、現在マウントされている MVC が存在しない場合、アーカイブは停止します。*ELAPSE* 値に達したときに、いずれかの MVC が現在マウントされている場合、アーカイブはマウントされている MVC を処理してから停止します。

有効な値は 1 - 1440 です。指定されていない場合、アーカイブプロセスに時間制限はありません。*MOVEVTV* が指定されていない場合、このパラメータは無視されます。

POLICYdd(*ddname*)

オプションで、代替 *MGMTclas* 文を含むファイルの *ddname* を指定します。このパラメータは、*MOVEVTV* と相互に排他的です。

MOVEVTV

オプションで、*MGMTclas* または *VTV* によって指定された *VTV* に適用される *MGMTclas* 文によって指定されている現在アクティブな管理ポリシーごとに *VTV* をアーカイブします。*MOVEVTV* を指定しない場合は、レポートのみが生成されます (*VTV* は移動されません)。このパラメータは、*POLICYdd* と相互に排他的です。

例

次の例は、次の ARCHive レポートの例を示しています。

ARCHive レポート (MOVEVTV の指定なし)

次の例は、ARCHive レポート (MOVEVTV の指定なし) の例を示しています。

例3.1 ARCHive レポート (MOVEVTV の指定なし)

```

SLUADMIN (7.2.0)                STORAGE TEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
SSYS=HSCI          PAGE 00002

TIME 15:50:09                    ARCHIVE VTV REPORT
DATE 2012-06-17

VTV      SIZE      %COMP      <-----CREATION----->      MGMT

```

VOLSER MVC4	(MB)		DATE	TIME	CLASS	MVC1	MVC2	MVC3
Y00001 02253	1.62	39	2008JAN15	04:11:18	MJ4	02250	02251	02252
Y00002 02253	1.62	39	2008JAN15	04:03:57	MJ4	02250	02251	02252
Y00003	1.62	39	2008JAN15	03:50:59	MJ3	02254	02255	
Y00004	1.62	39	2008JAN15	03:45:04	MJ2	02256	02257	02268
Y00005	0.01	0	2008JAN17	23:56:00	MJ1	02259		
Y00006	0.01	0	2008JAN17	23:41:37	MJ1	02259		
Y00007 02253	1.62	39	2008JAN05	06:15:46	MJ4	02250	02251	02252
TOTAL VTVS=23			TOTAL SIZE=29.32MB					

TIME 15:50:09

ARCHIVE MVC REPORT

DATE 2012-06-17

MVC VOLSER	MEDIA TYPE	MEDIA SIZE(MB)	STORAGE CLASS	LOCATION (ACS ID)	CANDIDATE VTVS	TOTAL VTV SIZE(MB)
022550 4.86	9840	20000	SC1	00	3	
Y00001	Y00002	Y00007				
022551	9840C	40000	SC3		3	4.86
Y00001	Y00002	Y00007				
022559 18.50	9940A	60000	SC4		17	
Y00005	Y00006	Y00015	Y00027	Y00042	Y00048	Y00053
Y00059 Y00123	Y00061	Y00067	Y00073	Y00078	Y00084	Y00088
					Y00084	Y00101

フィールド

次の一覧では、ARCHive VTV レポートの各フィールドについて説明します。レポートのこのセクションのあとに、候補 VTV の数と、リコールおよび再移行される M バイト単位のサイズを示す合計行が出力されます。

VTV Volser

VTV volser。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポートが実行されたときに VTV がマウントされたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示される場合は、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

Comp %

達成された VTV の圧縮率。これは、VTV の非圧縮サイズのパーセンテージとして表された、VTV の非圧縮サイズと圧縮サイズの違いです。たとえば、100M

バイトの VTV が 40M バイトに圧縮された場合、圧縮率は 60% と表示されます。0% の圧縮は、VTV 上で圧縮が不可能であったことを示します。

Creation Date および Time

VTV が作成された日付と時間。

MGMT Class

指定された VTV の管理クラスの名前。

MVC1、MVC2、MVC3、MVC4

この VTV を含む MVC。これらのすべてのフィールドが空である場合、この VTV は移行も統合もされていません。これらのフィールドの 1 つ以上に MVC volser が表示されている場合、この VTV はこれらの各 MVC に移行されました。

フィールド (MVC レポート)

次の一覧では、ARCHive MVC レポートの各フィールドについて説明します。MVC ごとのデータのあとに、1 つ以上の VTV volser が MVC 上のコピーとともに出力されます。レポートのこのセクションのあとに、候補 MVC の数と、リコールおよび再移行される M バイト単位のサイズを示す合計行が出力されます。

MVC volser

MVC volser。

MVC Media Type

MVC タイプ。

Media Size (MB)

MVC のサイズ (M バイト)。これは、VTCS が MVC を使用したあとにのみ決定されます。VTCS が VTV を MVC に移行するまで、このフィールドには UNKNOWN が表示されます。

Storage Class

MVC のストレージクラス。

Candidate VTVs

MVC 上の候補 VTV の数。

Total VTV Size (MB)

MVC 上のすべての候補 VTV の M バイト単位のサイズ。

Location (ACS ID)

MVC が存在する ACS。空白の場合、この MVC は現在 ACS 内に存在しません。

ARCHive MOVEVTV レポート (MOVEVTV の指定あり)

次の例は、ARCHive MOVEVTV レポートの例を示しています。

例3.2 ARCHive MOVEVTV レポート

TIME 10:07:10

ARCHIVE MOVEVTV REPORT

DATE 2015-03-31

Move VTV - MVC 022705 ignored, MAXMVC reached
Move VTV - VTV X04898 ignored, all MVC copies rejected
Move VTV - 4 MVCs selected for processing
Move VTV - 5 VTVs selected for processing
Move VTV - 5 VTV copies to be processed
Move VTV - 0 VTV copies not matched to request
Move VTV - 1 VTV copies rejected by MAXMVC limit
Move VTVs - MVC 023484 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022628 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022631 selected and contains 2 VTVs
Move VTVs - MVC 022608 selected and contains 1 VTVs

Recall from MVC 022628 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022628
SLS6644I VTV X99909 recalled from MVC:022628 Block:25401431
SLS6637I Recall from MVC 022628 completed

Recall from MVC 023484 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 023484
SLS6644I VTV X04897 recalled from MVC:023484 Block:02402581
SLS6637I Recall from MVC 023484 completed

Recall from MVC 022608 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022608
SLS6637I Recall from MVC 022608 completed

Migrate to storage class HBVTSS16 from VTSS HBVTSS17
SLS6681I VTV X99909 migrated to MVC:022589 Block:01400025 StorCl:HBVTSS17 MgmtCl:SIMPLEX
SLS6636I Demand migration to MVC 022589 completed

Recall from MVC 022631 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 2 VTVs issued to MVC 022631
SLS6644I VTV X99910 recalled from MVC:022631 Block:03400141
SLS6644I VTV X99908 recalled from MVC:022631 Block:05400281

AUDit

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- MVC または VTSS が指定されている場合は、はい

サブシステムの要件:

- アクティブな HSC/VTCS (AUDit MVC、VTSS、または INVLDMIR)
- FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC (その他のすべて)

説明

AUDit コマンドは、次のものに対するボリュームインベントリ監査を実行します。

- ACS または LSM
- ACS 内の 1 つ以上の指定された LSM
- LSM 内の 1 つ以上のパネル
- パネル内の 1 つ以上の行
- 行内の 1 つ以上の列 (セル)
- 1 つ以上の VTSS
- 1 つ以上の MVC

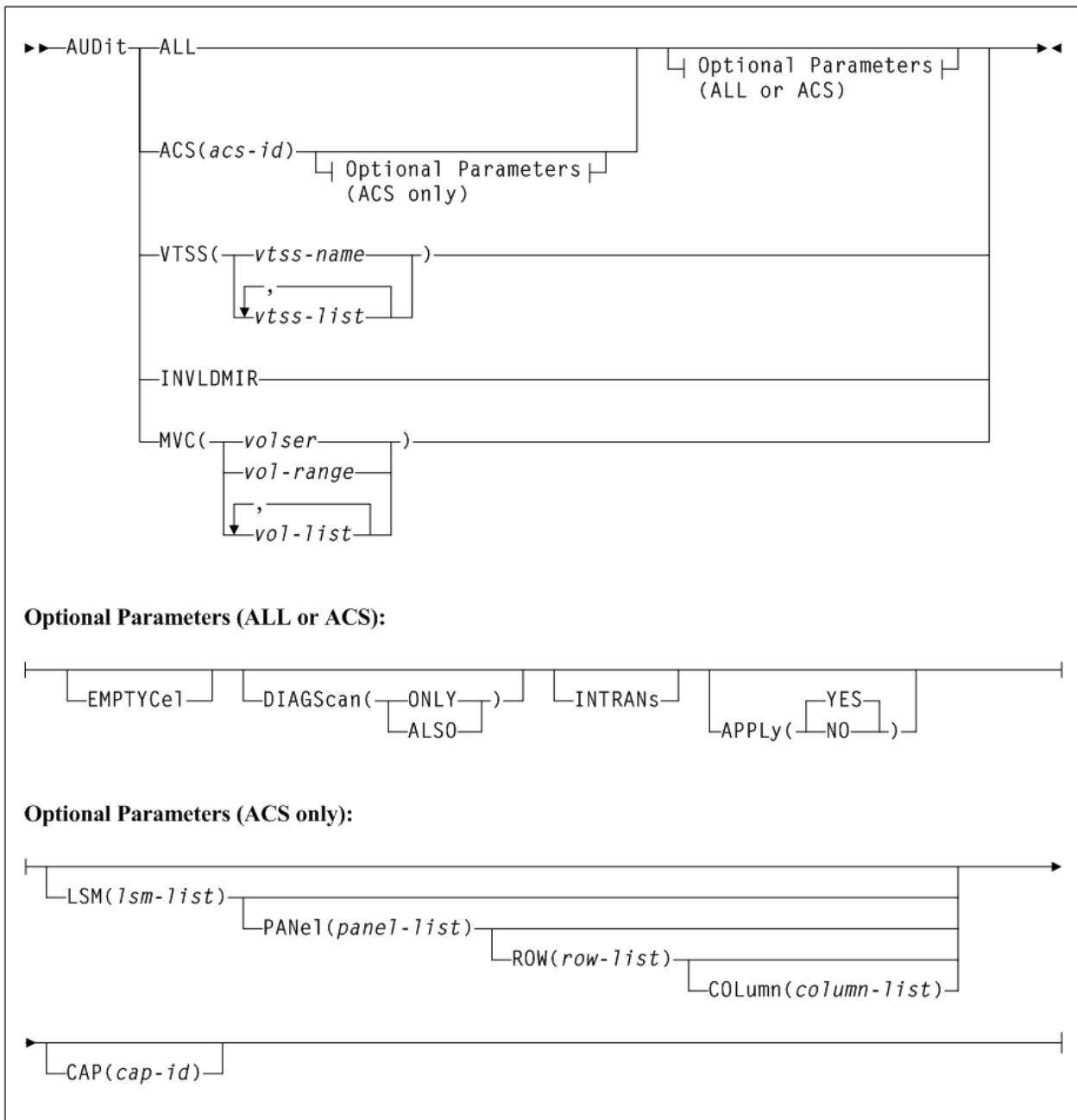
オプションパラメータを使用すると、次のことを実行できます。

- 観察されたカートリッジを反映するようにライブラリ制御データセットを更新する。
- 矛盾リストを生成し、制御データセットを更新しない。

構文

図3.4 「AUDit コマンドの構文」は、AUDit コマンドの構文を示しています。

図3.4 AUDit コマンドの構文



パラメータ (実ボリュームの監査)

図3.4「AUDit コマンドの構文」に示すように、`AUDit` コマンドには次のパラメータが含まれます。

ALL

オプションで、ライブラリ全体が監査されるように指定します。

ACS(*acs-id*)

オプションで、ライブラリ内の特定の ACS のみが監査されるように指定します。

acs-id は、1 桁または 2 桁の 16 進数 ACS 識別子を示します。

注:

LSM パラメータなしで ACS パラメータが指定されている場合は、ACS 内のすべての LSM に対して同時に監査が実行されます (マルチタスク)。ACS 内の特定の LSM のみを監査するには、LSM または LSM のリストを使用して LSM パラメータをコーディングする必要があります。

オプションパラメータ (ALL または ACS)

次のパラメータは、ALL または ACS とともに指定できます。

EMPTYCel

オプションで、空のセルのみが監査されるように指定します。このパラメータを AUDit のパラメータ *DIAGScan(ONLY)* と組み合わせて使用することはできません。

空のセルのみを監査することによって得られる主な利点は、監査を実行するために必要な時間の短縮です。

注:

監査を実行するための時間が大幅に短縮されるわけではないため、SL8500 ライブラリに対して空のセルの監査を実行することはお勧めしません。

ユーザーは通常、このパラメータを次の場合に指定する可能性があります。

- LSM を挿入し、新しいカートリッジを空のセルに配置した場合、または
- 空のセルに手動で移動したライブラリボリュームのカートリッジの場所に関する情報を修正する必要が発生した場合。

どちらの場合も、*APPLY(YES)* が指定されている場合、CDS はこれらのセルが空ではなくなっていることを反映するように更新されます。

注意:

どちらの場合も、*APPLY(YES)* が指定されている場合、CDS はこれらのセルが空ではなくなっていることを反映するように更新されます。

DIAGScan

オプションで、診断セルがスキャンされるように指定します。HSC は、これらのセルを一度に1つずつスキャンし、*AUDIt* ユーティリティーのレポートに各セルの内容を表示します。*DIAGScan* は、*ROW* および *COLumn* と相互に排他的です。その他のすべての *AUDIt* パラメータとは組み合わせて使用できます。

ONLY

診断セルのみがスキャンされるように指定します。このパラメータを *EMPTYCe1* パラメータと組み合わせて指定することはできません。

ALSO

AUDIt ユーティリティーの通常の操作に加えて、診断セルもスキャンされるように指定します。

注:

診断セルと通常のストレージまたは CAP セルの間のカートリッジ移動が LMU によってサポートされていないため、報告できるのは診断セルの内容だけです。

INTRANs

オプションで、LSM 内の移動中のカートリッジが処理されるように指定します。次の注に記載されているものを除き、移動中のすべてのカートリッジが *AUDIt* ユーティリティーの操作の一部として読み取られ、取り出されません。*INTRANs* は、*APPLY(NO)* と相互に排他的です。

- 移動中の監査では、9310 プレイグラウンド内の最初の 2 つのセル (列 0 と 1) にしかアクセスできません。9310 プレイグラウンド内のその他のセル位置 (列 2 から 5) にあるカートリッジを移動中の操作で取り出すことはできません。
- 9740 診断セルを監査でスキャンすることはできません。

APPLY

オプションで、制御データセットが更新されるかどうかを指定します。

YES

監査操作で、重複したボリュームシリアル番号、読み取り不可能または不正な外部メディアラベル、あるいは新しいカートリッジの読み取り不可能な外部ラベルを持つカートリッジを取り出し、ストレージセルの物理的な内容が反映されるように制御データセットへの修正アクションを実行するように指定します。*YES* がデフォルトです。

NO

矛盾リストが生成され、制御データセットが更新されないように指定します。

オプションパラメータ (ACS のみ)

次のパラメータは、ACS とともにのみ指定できます。

LSM(*lsm-list*)

オプションで、指定された ACS 内の特定の LSM のみが監査されるように指定します。

lsm-list は 1 つの LSM 番号か、または LSM 番号のリストです。LSM 番号は 16 進数値 (00-17) です。LSM の範囲は許可されません。リストが指定されている場合は、各要素が空白またはコンマで区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

PANel(*panel-list*)

オプションで、LSM 内の特定のパネルのみが監査されるように指定します。このパラメータが指定されている場合、*LSM* パラメータには 1 つの LSM 番号しか含めることができません。

panel-list は 1 つのパネルか、またはパネルのリストです。パネルの範囲は許可されません。リストが指定されている場合は、各要素が空白またはコンマで区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。*panel-list* 要素は、LSM タイプに固有の 1 桁または 2 桁の 10 進数です。有効な値のリストについては、「[パネル](#)」を参照してください。

SL3000 ライブラリには、完全に構成されたライブラリ上でいちばん左のバックパネル (パネル 0) から始まり、いちばん右のフロントパネル (パネル 23) で終わる静的なパネル番号があります。パネル番号は、唯一の必要なモジュールである BDM (パネル 12 と 13) から始まり、左および右の外側に向けて付けられます。

パネル 0 (CAP パネル) と 1 (ドライブパネル) は SL8500 の監査で許容可能なエントリですが、この場合、これらのパネル上にストレージセルが見つからないため、HSC には条件コード 0 が表示されます。

ROW(*row-list*)

オプションで、指定された LSM パネル内の特定の行のみが監査されるように指定します。このパラメータが指定されている場合、*LSM* および *PANel* パラメータには 1 つの要素しか含めることができません。

row-list は 1 つの行か、または行のリストです。範囲は許可されません。リストが指定されている場合は、各要素が空白またはコンマで区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。*row-list* 要素は 1 桁または 2 桁の 10 進数であり、LSM タイプに固有です。有効な値のリストについては、「[行](#)」を参照してください。

COLumn(*column-list*)

オプションで、LSM パネル行内の特定の列 (セル) のみが監査されるように指定します。このパラメータが指定されている場合、*LSM*、*PANel*、および *ROW* パラメータには 1 つの要素しか含めることができません。

column-list は 1 つの列か、または列のリストです。範囲は許可されません。リストが指定されている場合は、各要素が空白またはコンマで区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。*column-list* 要素は 1 桁または 2 桁の 10 進数であり、LSM タイプに固有です。有効な値のリストについては、「[列](#)」を参照してください。

- 列のリストが指定されている場合は、行のリストを指定できません。
- 行のリストが指定されている場合は、列のリストを指定できません。
- SL3000 の列はすべて (左から右に) 0-5 の番号が付けられます。

CAP(*cap-id*)

オプションで、監査操作中の必要なすべてのカートリッジ取り出しに使用される特定のカートリッジアクセスポートを指定します。

cap-id は、1 つ以上の CAP を識別します。形式は *AA:LL:CC* です。ここで、*AA:LL* は LSM ID を示し、*CC* は CAP を示します。有効な値のリストについては、「[CAP 番号](#)」を参照してください。

注:

- CAP が指定されていない場合は、識別された ACS 内の CAP が *CAPPref* オペレータコマンドに基づいて選択されます。詳細は、「[CAPPref](#)」を参照してください。
 - 複数 ACS 監査では、CAP パラメータを指定できません。CAP 設定値に基づいて ACS ごとに CAP が選択されます。
-

パラメータ (仮想ボリューム監査)

図3.4「[AUDit コマンドの構文](#)」に示すように、*AUDit* コマンドには、仮想ボリューム監査のための次のパラメータが含まれます。

VTSS(*vtss-name* または *vtss-list*)

オプションで、1 つ以上の VTSS の監査を指定します。

vtss-name または *vtss-list* は、1 つ以上の VTSS の名前を示します。

INVLDMIR

オプションで、無効な MIR を持つ MVC の監査を指定します。

MVC(*volser*、*vol-range*、または *vol-list*)

オプションで、1 つ以上の MVC の監査を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list* は、処理される MVC の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リストを示します。

パラメータ (仮想ボリューム監査)

図3.4「AUDit コマンドの構文」に示すように、AUDit コマンドには、仮想ボリューム監査のための次のパラメータが含まれます。

VTSS(*vtss-name* または *vtss-list*)

オプションで、1つ以上の VTSS の監査を指定します。

vtss-name または *vtss-list* は、処理される 1つ以上の VTSS の名前を示します。

INVLDMIR

オプションで、無効な MIR を持つ MVC の監査を指定します。

MVC(*volser*、*vol-range*、または *vol-list*)

オプションで、1つ以上の MVC の監査を指定します。

volser、*vol-range* または *vol-list* は、処理される MVC の *volser*、*volser* 範囲、または *volser* リストを示します。

監査レポート

例3.3「監査レポート」に示すように、監査レポートは、CDS で一覧表示されるものとは異なる VTV や MVC を一覧表示します。この例では、レポートはすべての MVC または VTV を CDS 内の新しいエントリとして表示しています。これは、CDS のすべてのコピーを失ってから回復手順を実行したあとに実行された VTCS 監査の出力としては一般的な内容です。

例3.3 監査レポート

```
AUDIT REPORT FOR MVC EVT500
X28955 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:00000000)
X20000 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:0940044D)
===== AUDIT OF MVC EVT500 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR MVC EVT501
X28956 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:00000000)
X20007 VTV ADDED AS PRIMARY COPY (BLOCK:0940044D)
X20010 VTV ADDED AS SECONDARY COPY (BLOCK:11400899)
X20069 VTV NOT CURRENT (BLOCK:1A400CE5)
X20067 VTV NOT CURRENT (BLOCK:334016AB)
===== AUDIT OF MVC EVT501 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR VTSS HBVTSS17
X20000 VTV VALID
X20002 VTV VALID
X20005 VTV VALID
X20006 VTV VALID
X20007 VTV VALID
X30052 VTV VALID
X30053 VTV VALID
X30054 VTV VALID
```

===== AUDIT OF VTSS HBVTSS17 COMPLETED SUCCESSFULLY =====

AUDIT REPORT FOR VTSS HBVTSS16

X20183 VTV VALID

X20185 VTV VALID

X20188 VTV VALID

X20190 VTV VALID

X20191 VTV VALID

X20194 VTV VALID

X41091 VTV VALID

X41093 VTV VALID

===== AUDIT OF VTSS HBVTSS16 COMPLETED WITH 1 WARNING =====

AUDIT EXCEPTION REPORT

VTSS HBVTSS16: 1 WARNINGS REPORTED

SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET

注:

監査ではまた、次のものも生成されます。

- MVC サマリーおよび詳細レポート
- *Display VTSS* サマリーおよび詳細出力
- VTSS に常駐しているすべての VTV について、VTV volser、M バイト単位のサイズ、および管理クラス

AUDit レポートのメッセージ

MVC または VTSS 上で見つかったすべての VTV について、監査レポートは次のいずれかを一覧表示します。

VVVVV VTV possibly corrupt (Block:BBBBB)

説明: 監査中に、監査されている MVC 上のブロック *BBBBBB* にある VTV *VVVVV* で I/O エラーが発生しました。

VVVVV VTV not found [, no MVC copies left]

説明: 監査で、監査されている MVC または VTSS 上に VTV *VVVVV* が見つかりませんでした。no MVC copies left が表示されている場合は、その VTV のコピーを含む MVC が存在しません。

VVVVV VTV not found on CDS (Block:BBBBB)

説明: 監査で、監査されている MVC または VTSS 上に VTV *VVVVV* が見つかりませんでした。no MVC copies left が表示されている場合は、その VTV のコピーを含む MVC が存在しません。

WWWWW VTV not current (Block:BBBBBB)

説明: 監査で、監査されている MVC または VTSS 上に VTV *WWWWW* が見つかりませんでした。no MVC copies left が表示されている場合は、その VTV のコピーを含む MVC が存在しません。

WWWWW VTV not current (Block:BBBBBB)

説明: 監査で、監査されている MVC または VTSS 上に VTV *WWWWW* が見つかりませんでした。no MVC copies left が表示されている場合は、その VTV のコピーを含む MVC が存在しません。

WWWWW VTV not current (Block:BBBBBB)

説明: 監査で、監査されている MVC または VTSS 上に VTV *WWWWW* が見つかりませんでした。no MVC copies left が表示されている場合は、その VTV のコピーを含む MVC が存在しません。

WWWWW VTV Added as secondary copy (Block:BBBBBB)

説明: 監査で、監査されている MVC のブロック *BBBBBB* に VTV *WWWWW* の 2 番目に新しいコピーが見つかりました。監査では、この場所がその VTV のセカンダリ MVC コピーとして CDS に追加されました。

WWWWW Duplicate copy ignored (Block:BBBBBB)

説明: 監査で、ブロック *BBBBBB* に VTV *WWWWW* の重複コピーが見つかり、このコピーが無視されました。

WWWWW Link to old version on MVC MMMMMM removed

説明: 監査で、新しいバージョンの VTV が見つかり、古いバージョンへのリンクが CDS から削除されました。

WWWWW Old VTV version deleted from VTSS SSSSSSSS

説明: 監査で、古いバージョンの VTV が見つかり、それが VTSS から削除されました。

WWWWW Old version of VTV retained [VTSS SSSSSSSS]

説明: 監査で、唯一のコピーである古いバージョンの VTV が見つかり、このバージョンが保持されました。VTSS SSSSSSSS が表示されている場合は、監査で、監査されていたものとは異なる VTSS 上に VTV が見つかりました。

WWWWW Version older than MVC copies [VTSS SSSSSSSS]

説明: 監査で、MVC 上のコピーより古いバージョンの VTV が見つかりました。VTSS SSSSSSSS が表示されている場合は、監査で、監査されていたものとは異なる VTSS 上に VTV が見つかりました。

WWWWW Newer version of VTV found [on VTSS SSSSSSSS]

説明: 監査で、新しいバージョンの VTV が見つかり、CDS がこの場所に更新されました。on VTSS SSSSSSSS が表示されている場合は、監査で、監査されていたものとは異なる VTSS 上に VTV が見つかりました。

WWWWW VTV discovered [VTSS SSSSSSSS]

説明: 監査で、予期しなかった場所にある VTSS 上に現在のバージョンの VTV が見つかり、CDS がこの場所に更新されました。on VTSS SSSSSSSS が表示されている場合は、監査で、監査されていたものとは異なる VTSS 上に VTV が見つかりました。

WWWWW VTV valid [VTSS SSSSSSSS]

説明: 監査で、有効なバージョンの VTV が見つかり、CDS がこの場所に更新されました。VTSS SSSSSSSS が表示されている場合は、監査で、監査されていたものとは異なる VTSS 上に VTV が見つかりました。

**** WWWW no access to VTSS SSSSSSSS ****

説明: 監査で、ホストからアクセスできない VTSS 上にある有効なバージョンの VTV が見つかりました。

MVC MMMMM STATUS CHANGED FROM EXPORT TO CONSOLIDATE VOLUME

説明: 監査で、VTV または管理クラスによるエクスポートによって作成されたエクスポート MVC 上に現在の VTV が検出されました。監査では、その MVC ステータスがエクスポートから統合に変更され、MVC とその VTV を追加するように CDS が更新されました。

EXPORT MVC MMMMM IS NOW MADE EMPTY IN THE CDS

説明: 監査で、VTV または管理クラスによるエクスポートによって作成されたエクスポート MVC 上に現在の VTV が検出されませんでした。監査では、その MVC が空としてマークされました。

WARNING MVC MMMMM IS AN OUTPUT MVC FROM AN EXPORT OPERATION - FORCING READONLY

説明: 監査で、エクスポート MVC MMMMM に読み取り専用ステータスが強制的に設定されました。

Audit terminated.Unable to determine the position of the end of VTV VVVVVV on MVC MMMMM

説明: VTCS が、監査されている MVC 上の VTV の位置と volser を特定するために Inventory MVC ECAM 要求を発行しました。VTSS は、ECAM 応答で、VTV の最後の位置を特定できないことを示しました。VTCS はその情報を MVC 上の次の VTV の位置を特定するために必要としているため (まだテープの最後に達していないと仮定しています)、VTCS は RC=8 で監査を終了する必要がありました。MVC は監査ステータスのままになっています。この状態を解決するには、MVC をドレインします。MVC をドレインできない場合は、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

BACKup

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

注:

テープへのバックアップはサポートされていません。

説明

BACKup コマンドは、ライブラリ制御データセット (CDS) のバックアップを生成します。

このユーティリティーは、指定された *CDS* DD 文、またはシステム上のアクティブな HSC によって使用される CDS の順序に基づいて、プライマリ CDS コピーを自動的に選択します。

CDS の 1 つの特定のコピーをバックアップする場合は、バックアップするファイルを指し示す 1 つの DD 文 *SLSCNTL* を指定できます。ただし、一般には、プライマリ CDS のみをバックアップするようにしてください。HSC *RESTORE* ユーティリティーは、実行時に、正しい数の CDS コピーを自動的に作成します。

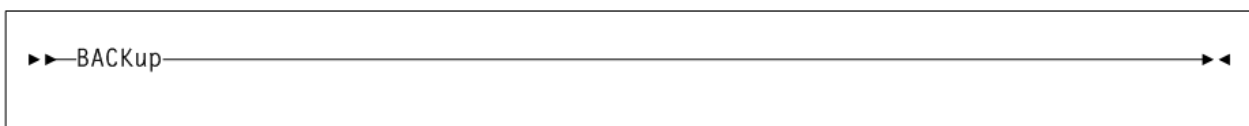
注:

CDS のコピーが異なる場所に存在する場合の *BACKup* の使用については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

構文

図3.5「*BACKup* コマンドの構文」は、*BACKup* コマンドの構文を示しています。

図3.5 *BACKup* コマンドの構文



パラメータ

なし。CDS のコピーが異なる場所に存在する場合の *BACKup* の使用については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*BACKup* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSBKUP

作成されるバックアップデータセットを指定します。このデータセットの *LRECL* と *BLKSIZE* は、デフォルトで 4096 になります。

CANcel

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

CANcel コマンドは、RTD を使用するアクティブなプロセスやキューに入れられたプロセスを停止します。

構文

[図3.6 「CANcel コマンドの構文」](#) は、*CANcel* コマンドの構文を示しています。

図3.6 CANcel コマンドの構文



パラメータ

[図3.6 「CANcel コマンドの構文」](#) に示すように、*CANcel* コマンドには次のパラメータが含まれます。

ID(process-id)

取り消すプロセスを指定します。

process-id は、プロセス ID を示します。

Type

オプションで、取り消すプロセスのタイプを指定します。

ALL

すべてのプロセスを取り消します。

MIGrate

すべての移行プロセスを取り消します。

RECALL

すべてのリコールプロセスを取り消します。

RECLaim

すべてのリクレイムプロセスを取り消します。

CAPPref

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB*
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

CAPPref コマンドは、1つ以上の指定された CAP に設定値を割り当て、CAP を自動または手動モードにします。

いくつかの HSC コマンドおよびユーティリティーでは CAP を使用する必要があり、使用する CAP を指定するか、または HSC による CAP の自動選択を許可するかを選択できます。HSC による選択を許可した場合は、可用性と CAP 設定値に基づいて CAP が選択されます。

CAP 設定値を割り当てると CAP の順序付きリストが確立され、HSC はそこから、0 以外の最高の設定値を持つ使用可能な CAP を選択します。CAP の設定値は、*CAPPref* コマンドによって変更されるまで 0 です。設定値が 0 の CAP が HSC によって自動的に選択されることはありませんが、ユーザーはそれを明示的に要求できます。

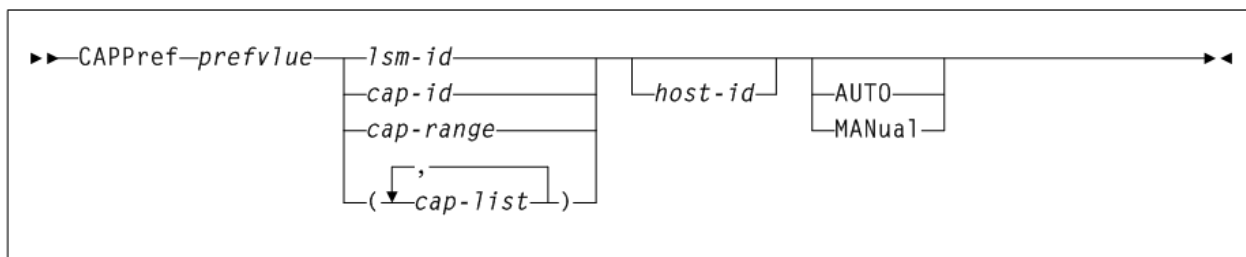
注:

- CAP 設定値は、このコマンドを実行するホスト上でのみ有効です。
- CAP モード (自動または手動) は、CAP ごとにシステム全体のすべてのホスト上で有効です。ホストごとに個別に設定することはできません。

構文

図3.7 「CAPPref コマンドの構文」は、CAPPref コマンドの構文を示しています。

図3.7 CAPPref コマンドの構文



パラメータ

図3.7 「CAPPref コマンドの構文」に示すように、CAPPref コマンドには次のパラメータが含まれます。

prefvlu

一覧表示されたすべての CAP に割り当てられる設定値を指定します。設定値は 0-9 の範囲にある 10 進数です。

9 の設定値を持つ CAP は最高の優先順位を持ち、使用可能な場合は常に最初に選択されます。最高の設定値を持つ使用可能な CAP が ACS 内に 2 つ以上存在する場合は、もっとも低い CAPid を持つものが選択されます。

PCAP の設定値は 0 である必要があります。PCAP は、ユーザーから明示的に要求された場合にのみ使用されます。HSC が PCAP を自動的に選択することはありません。

CAPPref コマンドを使用して PCAP を *AUTO* または *MANua1* モードにするには、0 の *prefvlu* を指定します。

lsm-id

LSM を識別します。lsm-id の形式は AA:LL です。ここで、AA は ACSid (10 進数 00-99) を示し、LL は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

注:

指定された LSM に複数の CAP が存在する場合にこのパラメータを入力すると、エラーメッセージが生成されます。

cap-id、cap-range、または cap-list

1 つ以上の CAP を識別します。cap-id の形式は AA:LL:CC です。ここで、AA:LL は LSMid を示し、CC は CAP を示します。有効な値のリストについては、「CAPid」を参照してください。

注:

- SL3000 ライブラリ CAP が存在しない場合、HSC はそれを「not installed」として報告します。これにより、新しい CAP が追加されたときに CAP アドレスが変更されなくなります。
 - SL3000 および SL8500 ライブラリには PCAP が含まれていません。
-

cap-range は、複数セル CAP の包括的範囲を識別します。PCAP はこの範囲から除外されます。範囲内の開始値と終了値は有効な CAPid である必要があり、どちらの CAPid も PCAP を指定できません。範囲を指定するための規則が適用されます。

PCAP は、CAPPref コマンドで明示的に指定する必要があります。

例 1:

```
00:00:00-00:03:00
```

この例では、LSM 00:00、00:01、00:02、および 00:03 内のすべての CAP (PCAP を除く) がこの範囲に含まれます。

例 2:

```
00:00:00-00:03:01
```

この例では、CAPid 00:00:00 は標準 CAP またはマガジンスไตล์ CAP のどちらかです。CAPid 00:03:01 はマガジンスไตล์ CAP です。LSM 00:01 および 00:02 内のすべての CAP (PCAP を除く) がこの範囲に含まれます。

各 cap-list 要素は、1 つの CAPid または CAPid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

host-id

オプションで、`host-id` パラメータが、発行しているホストの識別子 (JES の SMF システム識別子) に一致している場合にのみ CAPPref コマンドが実行されるように指定します。

- CAPPref が `PARMLIB` から発行され、`host-id` が指定されている場合、このコマンドは一致する ID を持つホストによってのみ実行されます。
- CAPPref が `PARMLIB` から発行され、`host-id` が指定されていない場合、このコマンドは `PARMLIB` にアクセスする各ホストによって実行されます。

`PARMLIB` の詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC および VTCS の管理*』を参照してください。

AUTO

オプションで、指定された CAP を自動モードにすることを示します。自動モード CAP は、未使用時はロック解除されたままになります。`AUTO` は、`PCAP` の初期設定です。

CAP が自動モードにある場合は、`ENter` コマンドを発行せずに挿入操作を開始できます。これを行うには、CAP ドアを開き、1 つまたは複数のカートリッジを中に入れ、CAP を閉じます。挿入が処理されている間、CAP はロックされ、そのあとふたたびロック解除されます。

自動モード CAP は、次のどちらかを行うことによって取り出し処理に使用できます。

- `EJect` コマンドまたは `EJECT` ユーティリティで `CAPid` を指定するか、または
- 設定値を割り当て、HSC による CAP の自動選択を許可する

自動モードにある CAP は、取り出しが完了するまでこの CAP に対して挿入操作が行われないように、取り出し操作のために選択された場合は常にロックされます。

注:

自動モードにある CAP では (特に、マルチホスト環境では)、HSC の終了は遅くなります。

MANual

オプションで、指定された CAP が未使用時にロックされることを示します。`MANua1` は、すべての複数カートリッジ CAP の初期設定です。

AUTO または *MANual* 設定は LMU ブroadcastを使用してホスト間で送信され、このステータスは制御データセット内に保持されます。このため、CAP モードを頻繁に変更しないようにすることをお勧めします。

CAPPref コマンドを使用して PCAP を *AUTO* または *MANual* モードに設定する場合は、0 の *prefv1ue* を指定する必要があります。

CDS

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB*
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

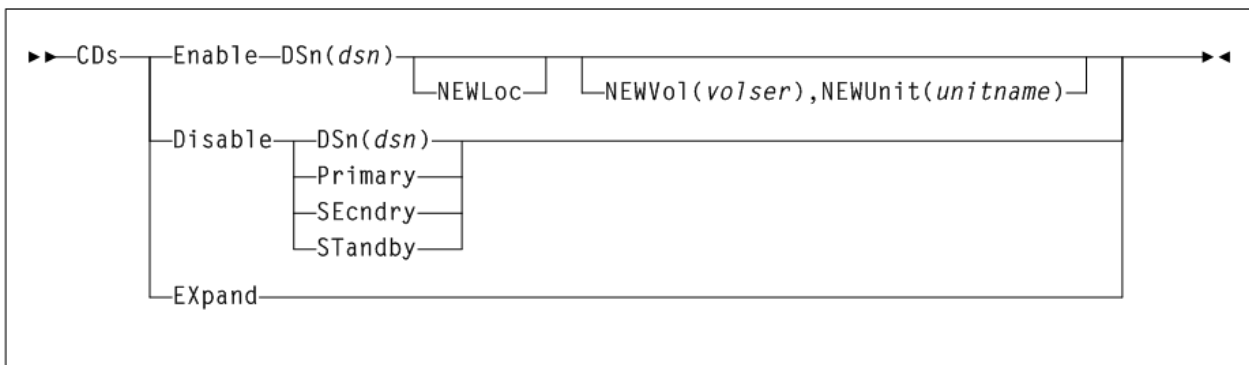
説明

CDS コマンドは、通常のテーププロセスを停止または大幅に中断することなく、アクティブな HSC 上 (または、マルチホスト環境内、すべてのアクティブなホスト上) の制御データセットを有効または無効にしたり、再配置したり、拡張したりします。

構文

図3.8 「*CDS* コマンドの構文」は、*CDS* コマンドの構文を示しています。

図3.8 *CDS* コマンドの構文



パラメータ

図3.8「CDS コマンドの構文」に示すように、CDS コマンドには次のパラメータが含まれます。

Enable

DSn パラメータによって指定された既存の CDS、名前が変更された CDS、または新しい CDS を割り当ててアクティブ化します。*CDS Enable* コマンドは、*NEWLoc* パラメータが指定されている場合、新しい場所に存在する CDS を既存のデータセット名または新しいデータセット名に割り当ててアクティブ化できます。*NEWVol* または *NEWUnit* パラメータが指定されていない場合は、ボリュームおよびユニット定義を解決するために MSP カタログサービスが使用されます。

指定された制御データセットは、*PARMLIB* 内の *CDSDEF* 制御文で指定されている必要があります。

DSn(*dsn*)

すべてのホストで割り当てる制御データセット名を指定します。*dsn* は、データセット名を示します。このパラメータは必須です。

NEWLoc

オプションで、*DSn* パラメータによって指定された CDS に対して再配置アクティビティが発生したことを示します。MSP は、カタログ機能を使用して、再配置された CDS のボリューム位置を特定します。

NEWVol(*volser*)

オプションで、再配置された CDS コピーのボリュームを指定します。MSP では、新しい CDS コピーがカタログ化されていない場合、このパラメータは必須です。*NEWVol* は指定されているが、*NEWUnit* が指定されていない場合、*NEWUnit* はデフォルトで *SYSALLDA* になります。

volser は、ボリュームを示します。

NEWVol は、ユーザーがこのコマンドを HSC VM 環境で実行している場合には必須です。

NEWUnit(*unit-name*)

オプションで、再配置された CDS コピーのユニット名を指定します。これが省略され、*NEWVol* が指定されている場合、このパラメータはデフォルトで *SYSALLDA* になります。

unitname は、ユニット名を示します。

NEWUnit は、ユーザーがこのコマンドを HSC VM 環境で実行している場合には必須です。

Disable

指定された CDS の割り当てを解除します (非アクティブにします)。CDS *Disable* コマンドでは、制御データセットの最後のアクティブなコピーは無効にしません。

DSN(*dsn*)

オプションで、すべてのホストで割り当てを解除する制御データセット名を指定します。*dsn* は、データセット名を示します。

Primary

オプションで、現在のプライマリ制御データセットを無効にすることを示します。

SEcndry

オプションで、現在のセカンダリ制御データセットを無効にすることを示します。

STandby

オプションで、現在のスタンバイ制御データセットを無効にすることを示します。

EXpand

有効になっているすべての CDS を、その CDS に割り当てられた物理領域に収まる 4096 ブロックの最大数に拡張します。4096 ブロックの最大数は、最小の CDS コピーによって決定されます。

CDSCREat

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

なし。

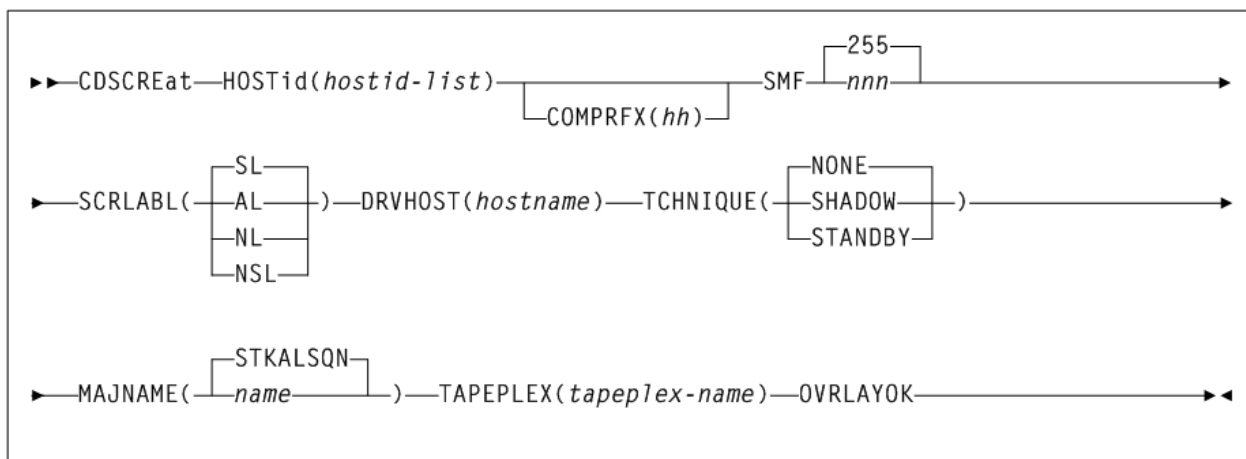
説明

CDSCREat ユーティリティーは、少数のパラメータのセットを使用して、テープレス構成のための CDS を定義します。テープレス構成には VLE ハードウェアを含めることができますが、定義された ACS や実テープドライブを含めることはできません。

構文

図3.9「[CDSCREat コマンドの構文](#)」は、*CDSCREat* コマンドの構文を示しています。

図3.9 CDSCREat コマンドの構文



パラメータ

図3.9「CDSCREat コマンドの構文」に示すように、CDSCREat コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTid(hostid-list)

このシステムを実行できる SMF ホスト ID のリストを指定します。このパラメータは必須です。

hostid-list は、1つ以上のホスト ID を示します。最大 16 のホスト ID を指定できます。

COMPREFX(hh)

オプションで、サブシステムへのコマンドを入力するために使用されるコマンド接頭辞の 2 文字の 16 進表現を指定します。このパラメータが省略されているか、または null 値 (40) に設定されている場合は、MSP MODIFY コマンドを使用してサブシステムに要求を送信する必要があります (たとえば、F HSC0, D CDS)。有効な値については、SET COMPREFX コマンドの表3.14「コマンド接頭辞コードと文字との対応関係」を参照してください。

hh は、2 文字の 16 進数値を示します。

SMF(nnn)

オプションで、SMF データセットに書き込まれる統計データの SMF ID を指定します。

nnn は、SMF ID を示します。この値は 128 から 255 までの範囲にある必要があります。

このパラメータが省略されている場合、この値は 255 に設定されます。

SCRLABL

オプションで、スクラッチのデフォルトとして使用されるラベルタイプを指定します。次のいずれかを指定します。

- *SL* は、標準ラベルのテープを示します。これは、このパラメータが省略されている場合のデフォルトです。
- *AL* は、ANSI ラベルのテープを示します。
- *NL* は、ラベルなしのテープを示します。
- *NSL* は、非標準ラベルのテープを示します。

DRVHOST(hostname)

オプションで、ドライブアドレスの「マスター」値として使用されるホスト ID を指定します。ドライブアドレスがホストごとに異なる場合は、SMC がクライアントのドライブアドレスを固定されたサーバーのドライブアドレスにマップできるように、*DRVHOST* を設定するようにしてください。

host-name は、「マスター」ホスト ID を示します。

TCHNIQUE

オプションで、システムによって作成および使用される回復手法 (CDS コピーの数) を指定します。

- *NONE* は、1 つの CDS コピーを指定します。これは、このパラメータが省略されている場合のデフォルトです。
- *SHADOW* は、2 つの CDS コピーを指定します。
- *STANDBY* は、3 つの CDS コピーを指定します。

このパラメータが省略されている場合、デフォルト値は *NONE* です。*CDSCREAT* ユーティリティーは、指定された (または、暗黙的に指定されている) 手法が、指定された *CDS DD* 文の数に一致していることを検証します。

MAJNAME(name)

オプションで、*ENQ/DEQ/RESERVE QNAME* を指定します。*name* は、1-8 文字の *QNAME* を示します。

このパラメータが省略されている場合、デフォルト値は *STKALSQN* です。

TAPEPLEX(tapeplex-name)

オプションで、HSC/VTCS システムの TapePlex 名を指定します。*tapeplex-name* は、1-8 文字の TapePlex 名です。これは、SMC *TAPEPlex* の名前に一致している必要があります。

このパラメータが省略されている場合、これは SMC が最初に HSC/VTCS と通信したときに自動的に設定されます。

OVRLAYOK

オプションで、入力 CDS ファイルが既存の CDS データセットである可能性があること、および作成プロセスによってオーバーレイされる可能性があることを指定します。このパラメータが省略され、いずれかの CDS ファイルが既存の CDS ファイルである場合、*CDSCREAT* プロセスは失敗します。

JCL の追加の要件

このユーティリティを実行するには、*TCHNIQE* パラメータ (または、*TCHNIQE* パラメータが省略されている場合はただ 1 つの DD 文) によって示される CDS コピーごとに DD 文を指定する必要があります。

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*CDSCREAT* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSCNTL

プライマリ CDS を指定します。

SLSCNTL2

オプションで、セカンダリ CDS を指定します。

セカンダリ CDS が存在する場合は、切り替えが発生してセカンダリ CDS がアクティブになったら、CDS を並べ替えることによってデータベースの整合性を維持できるように、この文を含めます。

SLSSTBY

オプションで、スタンバイ CDS を指定します。

CDSData**インタフェース:**

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

CDSData コマンドは、*VOLPARM* 制御文から、ライブラリ構成やボリュームおよびプール定義のための XML 出力データを生成します。

注:

このコマンドではテキスト出力が生成されないため、このコマンドからの出力を作成するには、*SLUADMIN* 実行に *SLSXML DD* 文を含める必要があります。詳細は、「出力データセット定義 (DD) 文」を参照してください。

構文

図3.10「CDSData コマンドの構文」は、*CDSData* コマンドの構文を示しています。

図3.10 CDSData コマンドの構文

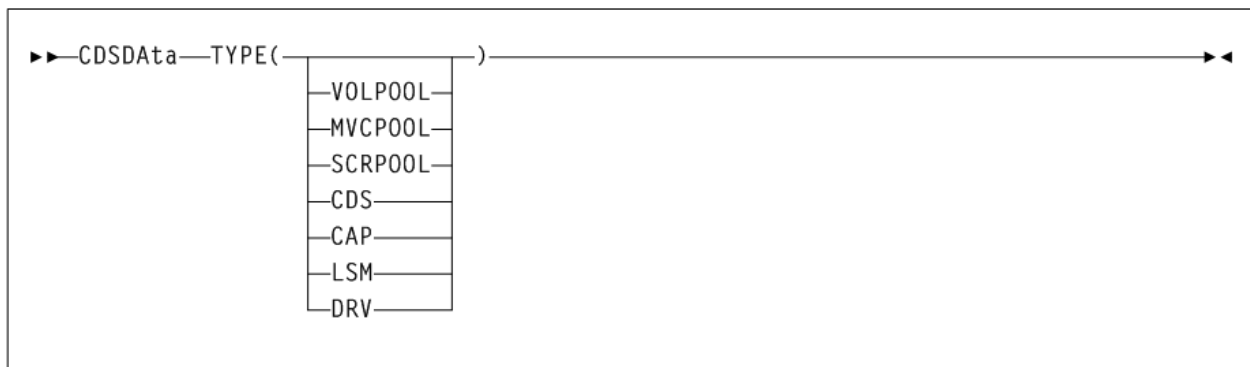
**パラメータ**

図3.10「CDSData コマンドの構文」に示すように、*CDSData* コマンドには次のパラメータが含まれます。

TYPE

出力が生成される対象となる CDS データのタイプを指定します。*TYPE* は定位置のキーワードであり、したがってオプションです。示されているタイプのいずれかを指定する必要があります。

VOLPOOL

VOLPARAM VOLUME プール定義のための XML データを生成します。

MVCPOOL

VOLPARAM MVC プール定義のための XML データを生成します。

SCRPOOL

VOLPARAM SCRATCH プール定義のための XML データを生成します。

CDS

XML CDS データを生成します。

CAP

XML CAP データを生成します。

LSM

XML LSM データを生成します。

DRV

XML ドライブデータを生成します。

TYPE

出力が生成される対象となる CDS データのタイプを指定します。*TYPE* は定位置のキーワードであり、したがってオプションです。示されているタイプのいずれかを指定する必要があります。

- *VOLPOOL* は、*VOLPARM VOLUME* プール定義のための XML データを生成します。
- *MVCPPOOL* は、*VOLPARM MVC* プール定義のための XML データを生成します。
- *SCRPOOL* は、*VOLPARM SCRATCH* プール定義のための XML データを生成します。
- *CDS* は、XML CDS データを生成します。
- *CAP* は、XML CAP データを生成します。
- *LSM* は、XML LSM データを生成します。
- *DRV* は、XML ドライブデータを生成します。

CDSDEF

インタフェース:

- *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

なし。

説明

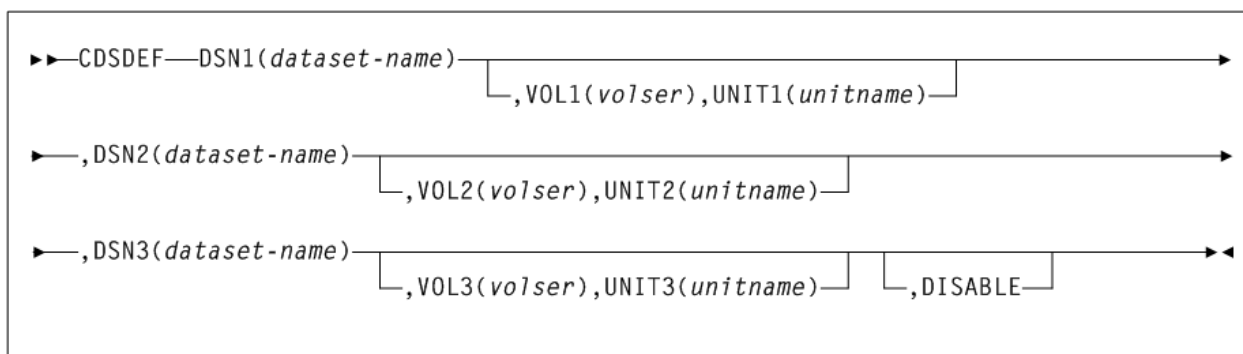
CDSDEF コマンドは、制御データセットの名前、場所、および実行する制御データセットの数を指定します。これらの情報は、初期化中に HSC によって使用されます。

CDSDEF は必須のコマンドです。

構文

図3.11 「*CDSDEF* コマンドの構文」は、*CDSDEF* コマンドの構文を示しています。

図3.11 CDSDEF コマンドの構文



パラメータ

図3.11 「CDSDEF コマンドの構文」 に示すように、*CDSDEF* コマンドには次のパラメータが含まれます。

DSN1(dataset-name)

プライマリ CDS を指定します。*dataset-name* は、HSC 制御データセットの名前を示します。

DSN パラメータは少なくとも 1 つを指定する必要があり、最大 3 つを指定できます。2 つのデータセットが指定されている場合は、両方のコピーのボリュームインベントリ情報が最新の状態に保持され、これらの 2 つのデータセットはプライマリ CDS およびセカンダリ CDS と呼ばれます。

3 つがすべて指定されている場合は、2 つのコピーが最新の状態に保持され、3 番目のデータセットは、デフォルトの状態として有効になるスタンバイ CDS です。このスタンバイ CDS は、*DISABLE* パラメータで無効にできます。CDS のスタンバイコピーが使用されている場合は、3 つの CDS のうちのどの 2 つがプライマリおよびセカンダリコピーであるかを指定する必要はありません。HSC は、制御データセットサービスの初期化中に、どの 2 つが使用するべき正しいコピーであるかを最後の使用に基づいて判定します。

,VOL1(volser)

オプションで、指定された CDS が存在する DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。データセットがカタログ化されていない場合は、これを指定する必要があります。

省略されている場合、ボリュームおよびユニット情報は MSP カタログから決定され、*VOL1* パラメータは無視されます。

,UNIT1(*unit-name*)

オプションで、SVC99 動的割り当てパラメータリスト内のユニットパラメータを指定します。省略されている場合は、*SYSALLDA* が使用されます。

unit-name には、IBM で定義された汎用名 (3390 など)、システムで構築されたエソテリック (*SYSALLDA* など)、ユーザー定義のエソテリック、または特定のデバイス番号を指定できます。最大限の柔軟性を可能にし、またアクティブな CDS との整合性を維持するための *CDSDEF* 更新の必要性を減らすために、*SYSALLDA* の一般的な値を指定する (またはデフォルトに設定する) ことをお勧めします。

DSN2(*dataset-name*)

オプションで、セカンダリ CDS を指定します。*dataset-name* は、HSC 制御データセットの名前を示します。

,VOL2(*volser*)

オプションで、セカンダリ CDS が存在する DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。データセットがカタログ化されていない場合は、これを指定する必要があります。

,UNIT2(*unit-name*)

オプションで、SVC99 動的割り当てパラメータリスト内のユニットパラメータを指定します。省略されている場合は、*SYSALLDA* が使用されます。

unit-name には、IBM で定義された汎用名 (3390 など)、システムで構築されたエソテリック (*SYSALLDA* など)、ユーザー定義のエソテリック、または特定のデバイス番号を指定できます。最大限の柔軟性を可能にし、またアクティブな CDS との整合性を維持するための *CDSDEF* 更新の必要性を減らすために、*SYSALLDA* の一般的な値を指定する (またはデフォルトに設定する) ことをお勧めします。

DSN3(*dataset-name*)

オプションで、スタンバイ CDS を指定します。*dataset-name* は、HSC 制御データセットの名前を示します。

,VOL3(*volser*)

オプションで、スタンバイ CDS が存在する DASD ボリュームのボリュームシリアル番号を指定します。データセットがカタログ化されていない場合は、これを指定する必要があります。

,UNIT3(*unit-name*)

オプションで、SVC99 動的割り当てパラメータリスト内のユニットパラメータを指定します。省略されている場合は、*SYSALLDA* が使用されます。

unit-name には、IBM で定義された汎用名 (3390 など)、システムで構築されたエソテリック (*SYSALLDA* など)、ユーザー定義のエソテリック、または特定のデバイス番号を指定できます。最大限の柔軟性を可能にし、またアク

タイプな CDS との整合性を維持するための *CDSDEF* 更新の必要性を減らすために、*SYSALLDA* の一般的な値を指定する (またはデフォルトに設定する) ことをお勧めします。

,DISABLE

オプションで、スタンバイ CDS を無効にします。このパラメータが指定されていない場合は、デフォルトで HSC 初期化時にスタンバイ CDS を有効にします。

DISABLE が指定されている場合は、初期化でデータセットを割り当て、開いたあと、読み取ることによってスタンバイ CDS を検証します。そのあとスタンバイ CDS は閉じられ、割り当て解除されます。このプロセスでは、制御データセットの切り替え処理中のスタンバイ CDS の使用を手動で制御できるようにします。

スタンバイ CDS が有効になっている場合、HSC はそれを切り替えのために自動的に使用します。無効になっている場合は、使用されません。*CDSDEF* は有効な状態がデフォルトであるため、それを有効にするパラメータは存在しません。

CLean

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB*
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

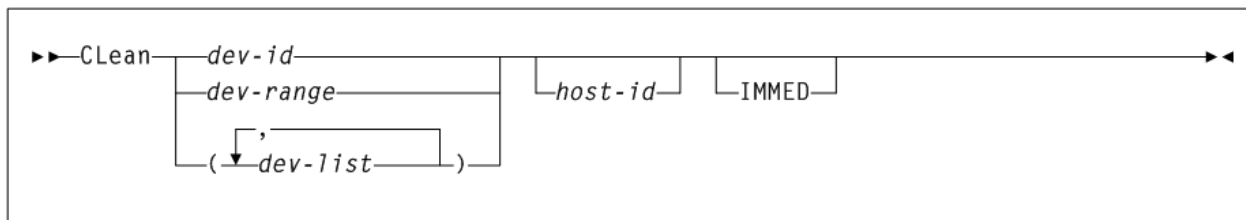
説明

CLean コマンドは、クリーニングカートリッジをライブラリで制御されるトランスポートにマウントされるようにスケジュールします。指定されたトランスポートには制御データセットのフラグが付けられ、クリーニングカートリッジは次のボリュームマウントの前にマウントされます。

構文

図3.12 「*CLean* コマンドの構文」は、*CLean* コマンドの構文を示しています。

図3.12 CLean コマンドの構文



パラメータ

図3.12「CLean コマンドの構文」に示すように、*CLean* コマンドには次のパラメータが含まれます。

dev-id、*dev-range*、または *dev-list*

クリーニングがスケジュールされる対象となるデバイスアドレス、デバイスアドレスの範囲、またはアドレスのリストを指定します。各 *dev-list* 要素は、1つのデバイスアドレスまたは範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素がコマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

host-id

オプションで、クリーニングが、指定されたホスト (JES の SMF システム識別子) のデバイスアドレスに対して実行されることを示します。

IMMED

オプションで、ドライブがアイドル状態にある場合はデバイスの即座のクリーニングが実行されるように指定します。これは、*MNTD AutocIn* 設定には関係なく実行されます。デバイスがアイドル状態にない場合、このデバイスは、現在マウントされているボリュームのマウント解除のあとにクリーニングされるようにスケジュールされます。

COMMPath

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

COMMPath コマンドは、次のことを実行するためにマルチホスト環境で使用されます。

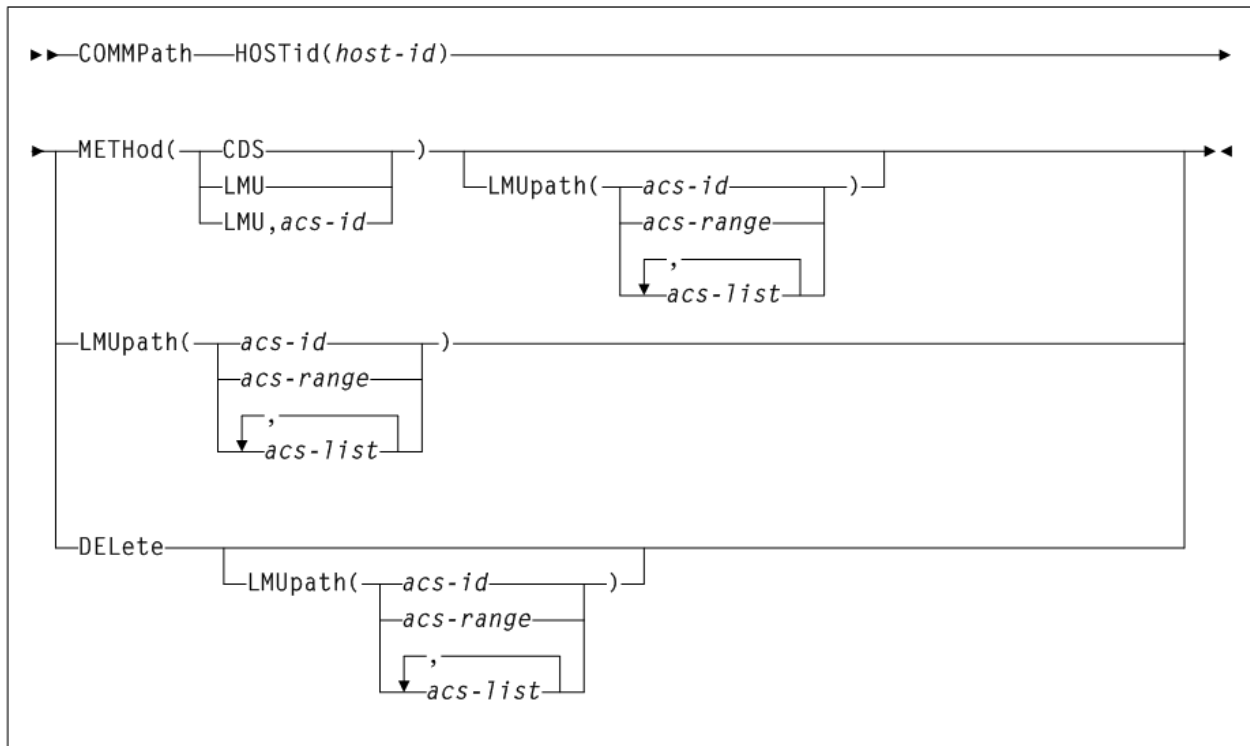
- HSC を停止することなくいつでも変更できる、HSC ホスト間の階層化通信サービスを設定する。
- ほかのホストと通信するために各ホストで使用可能な方法の階層を定義する。
- ホストの現在の通信方法を確立する (または、ある方法から別の方法に切り替える)。

起動時に *PARMLIB* でホスト間通信を定義することをお勧めします。通信パスの切り替えまたは削除を行うには、コンソールから *COMMPath* コマンドを発行します。

構文

図3.13 「COMMPath コマンドの構文」は、*COMMPath* コマンドの構文を示しています。

図3.13 COMMPath コマンドの構文



パラメータ

図3.13 「COMMPath コマンドの構文」に示すように、*COMMPath* コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTid(host-id)

このコマンドでパラメータを設定または変更する対象となるホストを指定します。

host-id は、ホスト識別子 (JES の SMF システム識別子) を示します。このパラメータは必須です。

METHod

オプションで、指定されたホストで使用される現在の通信方法を指定します。このパラメータを使用すると、より高い、より低い、または同等 (*LMU* の場合のみ) レベルの通信方法に切り替えることができます。

CDS

通信が制御データセット経由になることを示します。*CDS* は、HSC ホスト間通信の初期設定です。

LMU

通信が LMU 経由になることを示します。

acs-id は、アクティブな(または現在の) *LMU* になる *LMU* 定義を示します。*acs-id* を指定しない場合は、*LMU* 定義のリストで指定されている最初の *LMU* がアクティブになります。

LMU (*acs-id*、*acs-range*、または *acs-list*)

ホスト間通信に使用できる 1 つ以上の LMU パスを指定します。LMU は、ライブラリを共有するほかの HSC に接続されている場合は、ホスト間通信に適切に使用できます。

acs-id または *acs-range* または *acs-list* は、1 つ以上の特定の LMU を指定します。各 *acs-list* 要素は、1 つの ACSid または ACSid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

複数の適格な LMU が指定されている場合、HSC は、リスト内の最初の *acs-id* から使用可能な通信パスの検索を開始します。この検索は、パスを確立できるか、またはリストの最後に達するまで続行されます。

LMU 定義は累積されます。つまり、コマンドで指定されている定義が現在の定義のリストに追加されます。現在のリストに LMU パスを挿入するには、挿入する LMU パスに続けて、そのあとに来る LMU パスを指定します。*COMMPath* コマンドがリストですでに定義されている LMU パスを指定している場合は、そのパスが現在の位置から削除され、コマンドで指定されているリストの最後に追加されます。

たとえば、現在の定義が (02, 03, 04) であるとします。LMU(01, 03, 04) を指定することによって、LMU path 01 を 02 のあとに挿入できます。ここで、現在のリストは (02, 01, 03, 04) として表示されます。また、現在の定義が (02, 01, 03, 04) であり、このコマンドが LMU(01, 02) を指定している場合、リストは (03, 04, 01, 02) になります。

注:

LMU が一時的に停止したときに、その LMU の LMU path 定義の削除は必要ではありませんが、望ましい場合があります。その LMU がふたたび使用可能になったら、現在の定義を追加することによって、それを通信サービスに対して再度定義します。

DELeTe

オプションで、LMU path パラメータまたは VTAM path パラメータによって指定された定義を削除するように指定します。

LMU が現在の方法でない場合は、(acs-id を指定せずに) DELeTe LMU path を指定することによって、すべての LMU path 定義を削除できます。現在の方法が LMU である場合は、アクティブな LMU path を削除できません。

現在の方法が VTAM である場合は、VTAM path 定義を削除できません。

CONFIg

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要なく、CONFIg RESET の実行中にはすべてのホスト上で停止している必要があります。

説明

CONFIg コマンドは、HSC CDS に格納されている VSM 構成を定義または変更します。CONFIg コマンドとその入力文を含む 1 つのファイルを作成します。

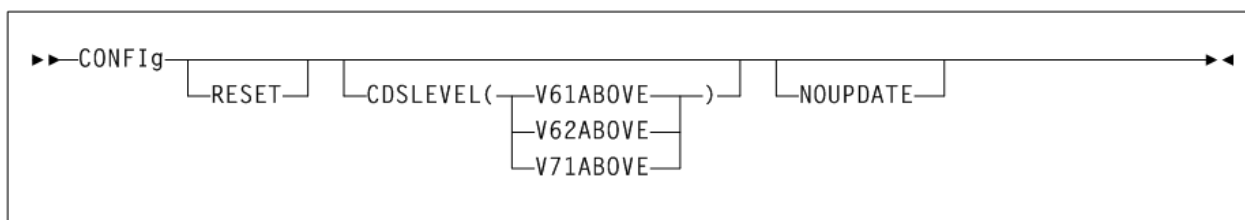
注:

- *CONFIg GLOBAL* 文は、VTCS グローバル値を指定します。この文は必須です。「[CONFIg GLOBAL 文](#)」を参照してください。
- 動的リクレイムには、H レベルの CDS が必要です。

構文

図3.14 「[CONFIg コマンドの構文](#)」は、*CONFIg* コマンドの構文を示しています。

図3.14 *CONFIg* コマンドの構文



パラメータ

図3.14 「[CONFIg コマンドの構文](#)」に示すように、*CONFIg* コマンドには次のパラメータが含まれます。

RESET

オプションで、CDS 内の VSM 構成をリセットします。

RESET は、次の場合に指定します。

- CDS をより低いレベルに変更する場合。
- 以前は *LOCKSTR=structure-name* を使用していなかった CDS に (*CONFIg GLOBAL* を使用して) *LOCKSTR=structure-name* を追加する場合。
- CDS から (*CONFIg GLOBAL* を使用して) *LOCKSTR=structure-name* を削除する場合。
- 32 RTD のサポートを削除する (つまり、32 の RTD をサポートしていた CDS からサポートしていない CDS に移動する) 場合。

次の場合は、*RESET* を指定しないでください。

- CDS を F から G に、または G から H に変更する場合。
- ロック構造名を (たとえば、*LOCKSTR=VTCSL1* から *LOCKSTR=VTCSL2* に) 変更する場合。

- VSM ボリュームを変更する場合 (VTV や MVC の追加など)。

VTV および MVC ボリュームは、*RESET* やその他のどの VTCS ユーティリティでも削除できません。VTV および MVC ボリュームを削除するには、新しい CDS の定義と *MERGEcds* の使用が必要です。

- VSM ポリシーを変更する場合 (*AMT* 値の変更など)。

注:

- *CONFIG RESET* を実行するときは、すべてのホスト上で HSC が停止している必要があります。RTD 定義に加えた変更は、HSC を再起動したときに有効になります。
 - 一部の変更は HSC/VTCS を再起動しなくても、*CONFIG* を実行することによって動的に実行できる場合がありますが、追加のリソースを使用するには追加のパラメータ変更が必要になる可能性があります。
 - *CONFIG* を *RESET* とともに実行すると、ステータスフラグがリセットされ、メッセージ *SLS6746E* が消えます。*CONFIG* を (*RESET* とともに) 実行したときに VTSS がオフラインであった場合は、VTSS を監査することを忘れないでください。
-

CDSLEVEL

オプションで、次のいずれかの CDS レベルを指定します。

V61ABOVE

次の拡張機能を提供する「F」レベルの CDS を作成します。

- VSM4 の完全なサポート
- 4つの MVC コピー
- 800M ビットの VTV
- NCO (Near Continuous Operations)
- 双方向クラスタリング
- CDS の I/O パフォーマンスの向上 - 仮想スクラッチサブプールの管理に必要な I/O の削減

V62ABOVE

次の拡張機能を提供する「G」レベルの CDS を作成します。

- 400M ビット/800M ビット/2G ビット/4G ビットの VTV
- 標準/大規模の VTV ページ
- 1 MVC あたり 65000 個の VTV

V71ABOVE

次の拡張機能を提供する「H」レベルの CDS を作成します。

- 動的リクレイム

- 自律型デバイスのサポート

NOUPDATE

オプションで、構成がチェックされ、該当するメッセージが出力されますが、CDS に対する更新が行われられないように指定します。

CONFig CLINK 文

CONFig CLINK 文は、クラスタ内の 2 つの VTSS 間のチャンネルインタフェースを定義し、ユーザーが VTV の IP CLINK 経由のレプリケーションをサポートするために IP インタフェース上に CLINK を定義できるようにします。

VTSS は、次の 3 つのモードのいずれかになります。

- プライマリセカンダリ。この場合は、2 つの VTSS が存在し、プライマリに対してのみ CLINK 文を記述します。
- ピアツーピア。この場合は、2 つの VTSS が存在し、双方向 VTV レプリケーションを有効にするために両方の VTSS に対して CLINK 文を記述します。
- エニーツーエニー。この場合は、クラスタ内に 3 つ以上の VTSS が存在し、CLINK 文によって個々の関係が定義されます。

さらに、別の TapePlex への電子エクスポートを実行するために、CLINK は VTSS から定義できます。これらは、リモート TapePlex 内の同じ VTSS へのリンクである必要はありません。

各 VTSS は、最大 2 つの異なる TapePlex に接続することも、1 つの TapePlex とクラスタ内のパートナー VTSS に接続することもできます。

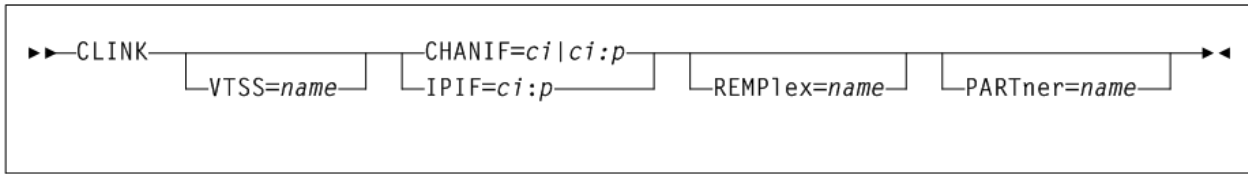
電子エクスポート接続は、常に複数の VTSS への接続にできます。クラスタ接続は、CONFig CLUSTER 文が 3 つ以上の VTSS メンバーを指定している場合にのみ、複数の VTSS への接続にできます。

例については、Oracle の ELS のドキュメント『ELS 障害回復およびオフサイトデータ管理ガイド』を参照してください。

構文

図3.15 「CONFig CLINK 文の構文」は、CONFig CLINK 文の構文を示しています。

図3.15 CONFig CLINK 文の構文



パラメータ

図3.15「CONFig CLINK 文の構文」に示すように、*CANcel* 文には次のパラメータが含まれます。

VTSS=name

オプションで、CLINK を所有する VTCS の名前を指定します。これは、VTV がレプリケートまたはエクスポートされる元の VTSS です。

このパラメータが省略されている場合、デフォルトでは、CLINK は定義されている現在の VTSS に接続されます。

CLINK 文で指定する VTSS 名は VTCS に認識されている必要があります。つまり、この VTSS 名は CDS ですすでに定義されているか、または現在の CONFig 文のセット内にすでに存在する VTSS 文で指定されている必要があります。たとえば、次は有効です。

```

VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5 CLINK VTSS=VTSS1
CHANIF=0A
  
```

次は、VTSS1 が CDS ですすでに定義されていないかぎり有効ではありません。

```

CLINK VTSS=VTSS1 CHANIF=0A VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3
RETAIN=5
  
```

CHANIF=ci または ci:p

RTD と通信する VTSS 上のチャンネルインタフェースを指定します。ここでは:

- *c* は、VTSS ストレージクラス番号 (0 または 1) を示します。
- *i* は、インタフェース番号 (A、C、E、G、I、K、M、または O) を示します。
- *p* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) を示します。

VSM 5 の場合、この値は実際の FICON インタフェース値に一致している必要があります。VSM 6 の場合、これは VTSS ごとに一意である必要があります、VSM 6 FICON ポート上の実際の値には対応しません。

最大 32 RTD の機能が有効になっているかどうかには関係なく、VTSS に 16 を超える RTD を接続していない場合は、「古い」アドレス指定スキーム (*CHANIF=ci*) を使用できます。

ただし、最大 32 RTD の機能が有効になっており、VTSS に 16 を超える RTD を接続している場合は、「新しい」アドレス指定スキーム (*CHANIF=ci:p*) を使用する必要があります。

詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC および VTCS の構成*』を参照してください。

IPIF=ci:p

オプションで、2つのネイティブ IP (IFF3 カード) ポートの Ethernet 接続を有効にします。ここで、*ci:p* 値は、IFF Ethernet ポートごとの「IFF IP Configuration Status」画面の各「Target IP Address」の前に括弧で示されています。*c:ip* の有効な値は次のとおりです。

- *c* は、VTSS ストレージクラスタ番号 (0 または 1) を示します。
- *i* は、インタフェース番号 (A または I) を示します。
- *p* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) を示します。

VSM5 の場合、この値は「**VSM5 IFF Configuration Status Screen**」で指定されている値に一致している必要があります。VSM 6 の場合、これは VTSS ごとに一意である必要があります、VSM 6 TCP/IP ポート上の実際の値には対応しません。

詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC および VTCS の構成*』を参照してください。

注:

CLINK 文には、*CHANIF* パラメータと *IPIF* パラメータの両方ではなく、そのどちらかが含まれている必要があります。

REMPlex=name

オプションで、VTV のコピーを受信する *CLINK* の受信側の端にある TapePlex の名前を指定します。リンクの検証中、この名前は、リモートシステム構成内の *THISPLEX* 定義と比較されます。

REMPlex パラメータは、この *CLINK* が電子エクスポートに使用されることを示します。このパラメータがない場合は、この *CLINK* がクラスタ接続に使用されることを示します。

PARTner=name

オプションで、VTVのコピーを受信する CLINK の受信側の端にある VTSS の名前を指定します。

このパラメータは、電子エクスポートに使用される CLINK には、またはクラスタが3つ以上の VTSS で構成されている場合には必須です。

リンクの検証中、この名前は、CLINK のもう一方の端にある VTSS の名前と比較されます。

CONFig CLUSTER 文

CONFig CLUSTER 文は、クラスタ内の VTSS を定義します。

構文

図3.16 「CONFig CLUSTER 文の構文」は、CONFig CLUSTER 文の構文を示しています。

図3.16 CONFig CLUSTER 文の構文

```
▶▶—CLUSTER—NAME=nnnnnnnn—VTSSs(vtss-list)—◀◀
```

パラメータ

図3.16 「CONFig CLUSTER 文の構文」に示すように、CONFig CLUSTER 文には次のパラメータが含まれます。

NAME=nnnnnnnn

クラスタの1-8文字の識別子を指定します。

このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。

VTSSs(vtss-list)

クラスタ内の VTSS の名前を指定します。少なくとも2つの VTSS を指定する必要があります。3つ以上の VTSS が指定されている場合、ダウンレベルのホストは機能しません。

各 VTSS の関係は、CONFig CLINK 文によって定義されます。詳細は、「CONFig CLINK 文」を参照してください。

このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。

CLUSTER 文で指定する VTSS 名は、VTCS に認識されている必要があります。つまり、この VTSS 名は CDS ですでに定義されているか、または現在の *CONFIg* 文のセット内にすでに存在する VTSS 文で指定されている必要があります。たとえば、次は有効です。

```
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
VTSSNAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1,VTSS2)
```

次は、*VTSS1* と *VTSS2* が CDS ですでに定義されていないかぎり有効ではありません。

```
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1,VTSS2)
VTSSNAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
VTSSNAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
```

DEComp ユーティリティーは、区切り文字としてコンマの代わりに空白を含む *CLUSTER* 文を出力します。これは、*CONFIg* に対しても有効な入力です。たとえば、*DEComp* は次を出力します。これは、*CONFIg* に対して有効な入力です。

```
CLUSTER NAME=CLUSTER1 VTSSs=(VTSS1 VTSS2)
```

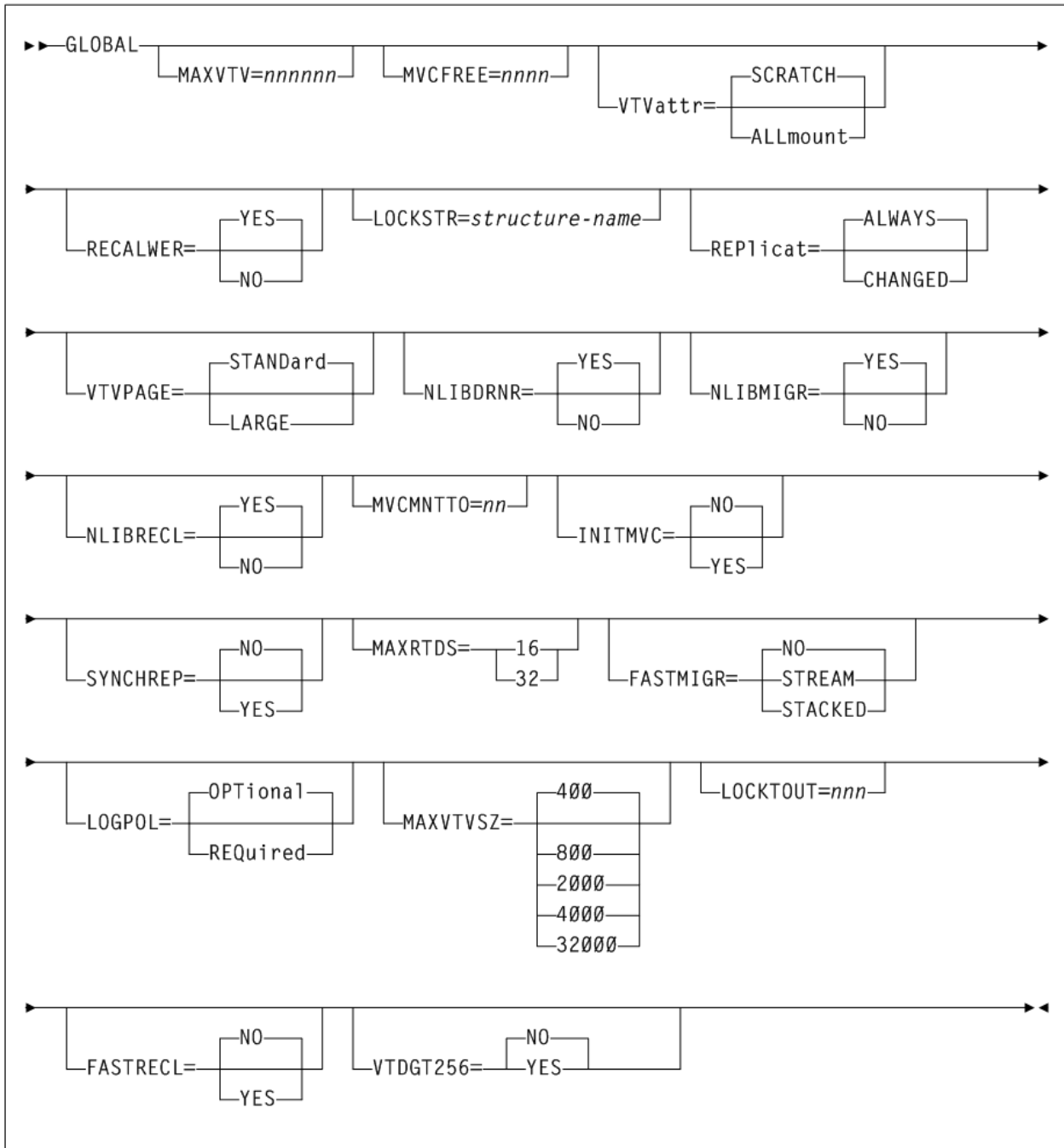
CONFIg GLOBAL 文

CONFIg GLOBAL 文は、VTCS グローバル値を指定します。この文は必須です。

構文

図3.17「*CONFIg GLOBAL* 文の構文」は、*CONFIg GLOBAL* 文の構文を示しています。

図3.17 CONFIg GLOBAL 文の構文



パラメータ

図3.17「CONFIg GLOBAL 文の構文」に示すように、CONFIg GLOBAL 文には次のパラメータが含まれます。

MAXVTV=nnn

オプションで、1つのMVCに移行できるVTVの最大数を指定します。デフォルトはD、E、またはFレベルのCDSでは32000、GレベルのCDSでは65000です。有効な値は次のとおりです。

- D、E、またはFレベルのCDSでは4 - 32000
- GレベルのCDSでは4 - 65000

CDSレベルの詳細は、「[CONFig](#)」を参照してください。

MVCFREE=nnn

オプションで、MVCプール内の空きMVCの最小数を指定します。空きMVCには100%使用可能な領域があり、移行されたVTVは含まれていません。有効な値は0 - 255です。デフォルトは40です。

空きMVCがこの値以下である場合、VTCSはメッセージ *SLS6616I* を発行し、自動スペースリクレ임을開始します。

注:

MVCFREE=0 を設定した場合、VTCSは、実際にはデフォルト値(40)を使用します。

VTVattr

オプションで、VTCSがいつVTVに管理クラスを割り当てるかを指定します。

SCRATCH

VTCSがVTVのスクラッチマウントを実行した場合にのみ管理クラスを割り当てます(デフォルト)。

ALLmount

VTCSがVTVをマウントするたびに管理クラスを割り当てます。

注意:

VTCSがVTVをマウントするたびにVTCSが管理クラスを割り当てるように指定した場合、これらの属性は変更される可能性があります。これにより、好ましくない結果または予期しない結果が発生する場合があります。

たとえば、アプリケーションが *PROD* の管理クラスを使用して *VTV100* にデータセット *PROD.DATA* を書き込んだあと、*TEST* の管理クラスを使用して *VTV100* にデータセット *TEST.DATA* を書き込んだ場合は、VTV(および両方のデータセット)の管理クラスが *TEST* になります。同様に、同じデータセットに(たとえば、ジョブ名に基づいて)異なる管理クラスを割り当てる *TAPEREQ* 文または *SMS* ルーチンを記述できます。これも、VTVの管理クラスが変更される原因になる場合があります。

RECALWER

オプションで、VTCSが読み取りデータチェックを使用してVTVをリコールするかどうかを指定します(リコールおよびドレイン操作に適用されます)。

YES

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールします (デフォルト)。

NO

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールしません。

LOCKSTR=structure-name

オプションで、VTCS ロックデータを保持するカップリングファシリティ構造を指定します。structure-name は 16 文字以下であり、かつカップリングファシリティ構造に名前を付けるための IBM の標準に準拠している必要があります。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『ELS のインストール』を参照してください。

注意:

以前は LOCKSTR=structure-name を使用していなかった CDS に LOCKSTR=structure-name を追加したり、CDS から LOCKSTR=structure-name を削除したりするには、CONFIG RESET が必要です。ロック構造名を (たとえば、LOCKSTR=VTCSL1 から LOCKSTR=VTCSL2 に) 変更するには、CONFIG RESET は必要ありません。

REplicat

オプションで、VSM がいつ VTV をレプリケートするかを指定します。

ALWAYS

VTV がマウントされている間に変更されたかどうかには関係なく、VTV がマウント解除されるたびにレプリケート要求が VTCS レプリケーションキューに追加されます (デフォルト)。

CHANGED

次のいずれかが発生した場合は、レプリケート要求が VTCS レプリケーションキューに追加されます。

- VTV がマウントされている間に変更された。
- VTV はマウントされている間に読み取られたただだが、予期された数より少ない VTV の MVC コピーが存在する。

予期された数の MVC コピーが存在する場合、レプリケーションは実行されません。

CONFIG GLOBAL REplicat 設定には関係なく、レプリケーションでは次のことも必要です。

- レプリケーションをサポートする VTSS 内で VTV がマウント解除されている必要があります、またクラスタ内のもう一方の VTSS 内に VTV の同一コピーは存在できません。
- レプリケーションを実行するには、CONFIG GLOBAL REplicat 値に加えて、VTV の管理クラスで REplicat(YES) を指定する必要があります。

VTVPAGE

オプションで、VTSS 内および MVC 上で VTV データを格納するために使用されるページサイズを指定します。この設定は、400 および 800M バイトの VTV にのみ適用されます。*MGMTclas* 文または *CONFIG GLOBAL* 文のどちらにも *VTVPAGE* が指定されていない場合、デフォルトは *STANDARD* です。

STANDARD

標準のページサイズ。これは、すべての VSM3 または VSM4 モデルおよびマイクロコードレベルと互換性があります。

LARGE

大きなページサイズ。これは VTSS 内、および移行やリコールのためのパフォーマンスの向上を提供できます。大きなページサイズには、G レベルの CDS が必要です。CDS レベルの詳細は、「[CONFig](#)」を参照してください。2 および 4G バイトの VTV (*MAXVtvsz* 2000 または 4000) の場合は、*LARGE* の *VTVPAGE* 設定が常に使用されます。

VTVPAGE は、VSM2 には適用されません。*VTVPAGE(LARGE)* には、VSM4 または VSM5 マイクロコード *D02.02.00.00* あるいは VSM3 マイクロコード *N01.00.77.00* が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。

MGMTCLAS VTVPAGE (指定されている場合) は、*CONFIG GLOBAL VTVPAGE* 値をオーバーライドします。*MGMTclas* 文または *CONFIG GLOBAL* 文のどちらにも *VTVPAGE* が指定されていない場合、デフォルトは *STANDARD* です。

次の点を考慮してください。

- VTV のページサイズは、VTV のスクラッチマウントでのみ変更できます。以前 VTSS に常駐していたスクラッチ VTV には、追加の制限も適用される可能性があります。
- *LARGE* を指定したが、CDS レベルまたは VTSS マイクロコードが *LARGE* をサポートしていない場合、VTCS は警告メッセージを発行し、*VTVPAGE* はデフォルトで *STANDARD* になります。
- 2 または 4G バイトの VTV に対して *STANDARD* を指定した場合、VTCS は警告メッセージを発行し、デフォルトで *LARGE* になります。
- 大きなページを含む VTV を作成すると、大きな VTV ページをサポートしていない構成ではこれらの VTV が読み取り不可能になります。

NLIBDRNR

オプションで、VTCS がドレインまたはリクレイム処理で非ライブラリ常駐 MVC をどのように処理するかを指定します。

YES

VTCS は、非ライブラリ MVC のマウントを要求します。これがデフォルトです。

NO

VTCS はマウントを抑制し、要求を削除します。

次の点に注意してください。

- リクレイムの場合、処理のために選択できるのはライブラリ常駐 MVC だけで、非ライブラリ常駐 MVC は選択できません。ただし、ライブラリ常駐 MVC が選択されてから実際に処理されるまでの間に、取り出されることによって非常駐になっている可能性があります。
- ドレインの場合は、非ライブラリ常駐 MVC を選択できます。

NLIBMIGR

オプションで、非ライブラリ常駐 MVC が移行処理のために選択されるかどうかを指定します。

YES

非ライブラリ常駐 MVC が選択されることを許可します (デフォルト)。

NO

非ライブラリ常駐 MVC が選択されることを許可しません。

NLIBRECL

オプションで、非ライブラリ常駐 MVC が *Recall* 処理のために選択されるかどうかを指定します。

YES

非ライブラリ常駐 MVC が選択されることを許可します (デフォルト)。

NO

非ライブラリ常駐 MVC が選択されることを許可しません。

MVCMNTTO=*mn*

オプションで、MVC のマウントがタイムアウトする分単位の値を指定します。有効な値は 5 - 30 分です。デフォルトは 15 です。

INITMVC

オプションで、初期化されていない MVC が最初にマウントされたときに初期化されるかどうかを指定します。

NO

初期化されていない MVC は初期化されません。これがデフォルトです。

YES

初期化されていない MVC は初期化されます。

SYNCHREP

オプションで、VTV 同期レプリケーション機能が有効になるかどうかを指定します。

NO

同期レプリケーションは有効になりません (デフォルト)。

YES

同期レプリケーションは有効になります。

注:

SYNCHREP=YES は、同期レプリケーションを有効にするだけです。同期レプリケーションを実際にも実装するには、*REPLiCat=YES_SYNC* を指定する管理クラスを作成する必要があります。詳細は、「**MGMTclas 制御文**」を参照してください。

MAXRTDS

オプションで、サポートされる RTD の最大数を指定します。

16

最大 16 の RTD がサポートされます。

32

最大 32 の RTD がサポートされます。

FASTMIGR

オプションで、スタックまたはストリーミングされた移行機能が、この機能をサポートするすべての VTSS で有効になるかどうかを指定します。

STREAM

ストリーミングの方法を移行に使用するように指定します。VTCS は RTD からの応答をモニターし、それを使用して VTV がいつ移行されたかを判定します。この方法のすべての利点は、移行実行時のスループットを向上させるための RTD 内のバッファから来ています。

このオプションではまた、*STACKED* 機能の使用も暗黙的に指定されます。

STACKED

スタックの方法を移行に使用するように指定します。VTCS は、VTSS への要求の小さなキューを保持しています。この方法の利点は、移行実行時のスループットを向上させるための VTSS および RTD 内のさまざまなバッファから来ています。下位互換性のために、値 *YES* は *STACKED* と同等です。

NO

スタック移行を無効にします (デフォルト)。

FASTMIGR=STREAM または *STACKED* には、次の前提条件があります。

- *FASTMIGR=STACKED*: VSM4/VSM5 マイクロコード *D02.05.00.00* 以降。このレベルのマイクロコードが構成内のすべての VTSS にインストールされていない場合、スタック移行は、それがインストールされている VTSS に制限されます。
- *FASTMIGR=STREAM*: VSM4/VSM5 マイクロコード *D02.15.xx.00* 以降。このレベルのマイクロコードが構成内のすべての VTSS にインストールされていない

場合、ストリーミング移行は、それがインストールされている VTSS に制限されます。

- PTF を含む ELS 7.0 以降。
- CDS レベル G 以上。
- FICON RTD および CLINK 用の FICON ポート。

スタック移行機能が有効になるには、すべてのホストがこれらの前提条件を実行している必要があります。そうでない場合は、次のようになります。

- ホストがアクティブであり、スタック移行をサポートまたは許容していない場合、*CONFIg* ユーティリティーはエラーを返します。
- ホストが起動されており、この機能をサポートまたは許容していない場合、そのホストは停止します。

LOGPOL

オプションで、VTCS CDS ロギングがオプションであるか必須であるかを指定します。

OPTional

ロギングはオプションです。これがデフォルトです。このモードは、7.1、7.2、およびそれより低いレベルのホストを含む構成に必要です。

REQuired

ロギングは、CDS を共有するすべてのホスト上のすべてのイベントに対して有効になります。これには、すべてのホストがレベル 7.0 以上であることが必要です。次のイベントがログに記録されます。

- 新しいバージョンの VTV
- インポートされた VTV
- MVC の最初の使用または再利用
- インポートされた MVC
- MVC への VTV の追加
- インポートされた MVC 上の VTV
- MVC からの VTV のリンク解除
- MVC からの VTV のリクレイム
- MVC EOT の後方リセット
- VTV の電子エクスポート

MAXVTVSZ

オプションで、VTV の作成中に使用される可能性のあるデフォルトの最大圧縮 VTV サイズ (M バイト) を指定します。このパラメータの有効な値は、該当する VTSS の CDS レベルとマイクロコードレベルの両方によって異なります。

400

400M バイト。これがデフォルトです。

800

800M バイト。CDS が E レベル以上である必要があります。

2000

2G バイト。CDS が G レベル以上である必要があります。

4000

4G バイト。CDS が G レベル以上である必要があります。

次の点に注意してください。

- VTV のサイズは、スクラッチサイクルを実行したあとにのみ変更されます。そのため、管理クラスと *DISP=MOD* を変更しても、引き続き元のサイズが保持されます。
- 構成によってサポートされていない VTV サイズを指定した場合、VTCS は警告メッセージを発行し、*MAXVtvsz* はデフォルトで、構成によってサポートされる最大の VTV サイズになります。
- *MAXVtvsz* は、VSM2 には適用されません。
- *MAXVTVSZ(2000)* または *MAXVTVSZ(4000)* には、VSM4 または VSM5 マイクロコード *D02.02.00.00* あるいは VSM3 マイクロコード *N01.00.77.00* が必要です。インストールされたオプションは必要ありません。

CONFig GLOBAL および *MGMTCLAS MAXVTVSZ* パラメータは、次のように相互に作用します。

- *MGMTCLAS* で *MAXVTVSZ* が指定されている場合、この値は *CONFig GLOBAL MAXVTVSZ* 値をオーバーライドします。
- *MGMTCLAS* で *MAXVTVSZ* が指定されておらず、*CONFig GLOBAL MAXVTVSZ* 値が指定されている場合は、その値が使用されます。それ以外の場合、*MAXVTVSZ* はデフォルトで 400M バイトになります。
- *MGMTCLAS* または *CONFig GLOBAL* で *MAXVTVSZ* が指定されていない場合、*MAXVTVSZ* はデフォルトで 400M バイトになります。

LOCKTOUT=nnn

オプションで、メッセージ *SLS6946E* が発行される前にリソースがロックされる最小分数を指定します。

有効な値は 0、または 5 から 240 までの任意の値です。0 が指定されている場合、必要なリソースがロックされていると、メッセージ *SLS6946E* は発行されません。このパラメータが指定されていない場合は、10 分の現在のデフォルトが保持されます。

注:

LOCKTOUT は、「F」レベルの CDS (V61ABOVE) 以上でのみサポートされます。

FASTRECL

オプションで、VTCS が ETTFB (Early Time to First Byte) (並行テープリコール/マウントとも呼ばれます) を、この機能をサポートするすべての VTSS で実行するかどうかを指定します。このパラメータは、RTD からのリコールおよび VLE からのリコールに適用されます。

NO

ETTFB 機能を無効にします。これがデフォルトです。

YES

ETTFB 機能を有効にします。この機能をグローバルに有効にした場合は、*CONFIg VTSS NOERLYMT* パラメータを使用して、それを個々の VTSS に対して無効にできます。詳細は、「[CONFIg VTSS 文](#)」を参照してください。

VTDGT256

オプションで、256 を超える VTD が使用されるかどうかを指定します。

NO

最初の 256 の VTD のみが使用されるように指定します。最初の 256 の VTD は、*x0000 - x0F0F* の VDID アドレスを持つ VTSS の制御ユニット *00 - 0F* 上にあります。NO がデフォルトです。

YES

VTSS 内の構成されているすべての VTD を使用できるように指定します。これは、VTSS が 256 を超えるデバイスをサポートしている場合にのみ有効です。この機能はグローバルに有効になり、256 を超えるデバイスをサポートするすべての VSM に適用されます。この機能は、*CONFIG VTSS NOGT256* パラメータを使用して個々の VTSS に対して無効にできます。詳細は、「[CONFIG VTSS NOGT256](#)」を参照してください。

注:

VTDGT256 (YES) は、VSM モデル 6 以降でのみ有効です。

CONFIg HOST 文

CONFIg HOST 文は、MSP ホスト、およびオプションで *NOMIGRAT* または *NORECLAM* パラメータを定義するオプション文です。

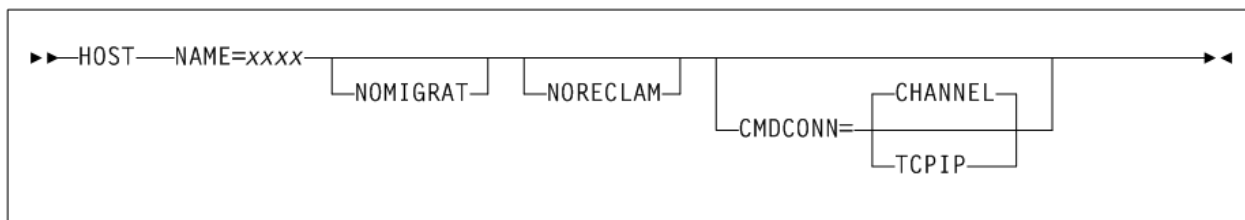
指定される場合、*HOST* 文は、そのホストに接続されている VTSS の *VTSS* 文のあとに指定する必要があります。

すべてのホスト定義を指定するか、または何も指定しないかのどちらかにする必要があります。VTSS に接続されている一部のホストのみを指定した場合、VTCS はエラーを発行します。

構文

図3.18 「CONFIg HOST 文の構文」は、*CONFIg HOST* 文の構文を示しています。

図3.18 CONFIg HOST 文の構文



パラメータ

図3.18 「CONFIg HOST 文の構文」に示すように、*CONFIg HOST* 文には次のパラメータが含まれます。

NAME=xxxx

LIBGEN で設定されたホスト名を指定します。xxxx は、ホスト名を示します。

NOMIGRAT

オプションで、このホストが、そのホストがアクセスする VTSS からの VTV または管理クラスによる移行、統合、またはエクスポートを実行できないように指定します。*NOMIGRAT* は、自動と要求の両方の移行および統合を制御します。このパラメータはオプションです。

次の点に注意してください。

- *NOMIGRAT* を指定すると、*NORECLAM* も設定されます。
- *IMMEDmig KEEP* および *IMMEDmig DELETE* は、*CONFIG HOST NOMIGRAT* と相互に排他的です。両方を指定した場合は、*IMMEDmig* 値が *NOMIGRAT* をオーバーライドし、VTCS はこのオーバーライドに関するメッセージを発行しません。

NORECLAM

オプションで、このホストが、そのホストがアクセスする VTSS を使用して自動または要求リクレーム処理を開始できないように指定します。このホストは、*MVCDRain*) を使用して、引き続き MVC ドレインを実行できます。このパラメータはオプションです。

CMDCONN

オプションで、次のいずれかの VTSS アクセス方法を指定します。

CHANNEL

ESCON または FICON チャンネルアクセスを示します。これがデフォルトです。

TCPIP

TCP/IP アクセスを示します。TCPIP には、有効な *CONFig VTSS IPCONN=(name-list)* 値が必要です。

CONFig MVCVOL 文

CONFig MVCVOL 文は、VTCS で使用可能な MVC の範囲を定義します。

VTCS CONFig で VTV と MVC の範囲を定義するには *SET VOLPARM* を使用することをお勧めします。

- *SET VOLPARM* 文の詳細は、「[SET VOLPARM](#)」を参照してください。
- *CONFig* で *VTWVOL* および *MVCVOL* 文を使用してボリュームを定義する方法については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS レガシーインタフェースリファレンス*』を参照してください。

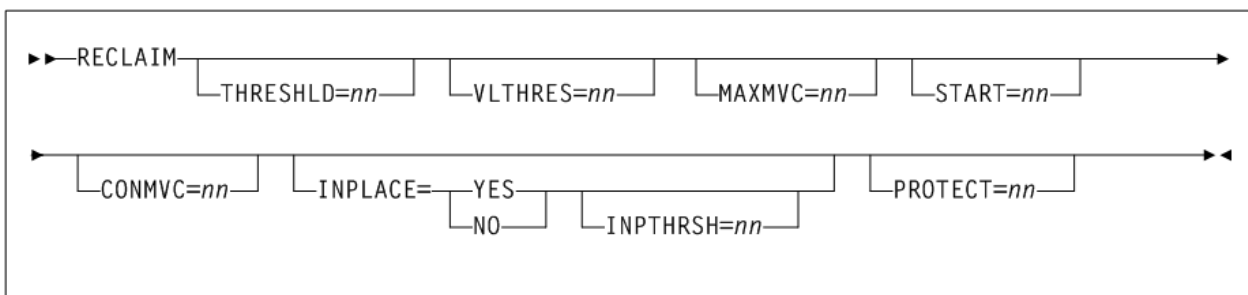
CONFig RECLAIM 文

CONFig RECLAIM 文は、要求と自動の MVC および VMVC スペースリクレ임을制御します。

構文

[図3.19 「CONFig RECLAIM 文の構文」](#) は、*CONFig RECLAIM* 文の構文を示しています。

図3.19 CONFig RECLAIM 文の構文

**パラメータ**

[図3.19 「CONFig RECLAIM 文の構文」](#) に示すように、*CONFig RECLAIM* 文には次のパラメータが含まれます。

THRESHLD=nn

オプションで、MVC を要求または自動リクレイムの対象にする断片化された領域のパーセンテージ (*nn*) を指定します。有効な値は 4 - 98 です。デフォルトは 75 です。

VLTHRES=nn

オプションで、仮想 MVC (VMVC) を要求または自動リクレイムの対象にする断片化された領域のパーセンテージ (*nn*) を指定します。有効な値は 4 - 98 です。デフォルトは 35 です。

注:

VMVC 上のリクレイムは、単純にその VMVC からの期限切れ VTV イメージの削除で構成されます。つまり、VTV のリコールや再移行は必要ありません。そのため、VMVC リクレイムは MVC リクレイムよりはるかに高速であり、*THRESHLD* より低い (より思い切った) *VLTHRES* を設定できます。

MAXMVC=nn

オプションで、1 つのスペースリクレイムタスクによって処理される MVC の最大数を指定します。

nn は、MVC の最大数を示します。有効な値は 1 - 98 です。デフォルトは 40 です。

自動スペースリクレイムが開始されるには、適格な MVC の数 (*THRESHLD* パラメータによって決定されます) も *MAXMVC* 値を超えている必要があります。

START=nn

オプションで、(すべての ACS についてグローバルにではなく) ACS ごとに自動スペースリクレイムが開始されるレベルを指定します。パーセンテージ値を指定します。これは、次に等しくなります。

$$\text{Reclaim Candidates} / (\text{Reclaim Candidates} + \text{Free MVCs}) * 100$$

ここでは:

- *Reclaim Candidates* は、*CONFIG RECLAIM THRESHLD* パラメータによって決定されるリクレイム候補の数を示します。
- *Reclaim Candidates + Free MVCs* は、リクレイム候補の数に空き MVC の数を加えた値に等しくなります。有効な値は 1 - 98 です。デフォルトは 35 です。

CONMVC=nn

オプションで、ドレインとリクレイムの両方で VTCS が同時に処理する MVC の最大数を指定します。

有効な値は 1 - 99 です。デフォルトは 1 です。

INPLACE

オプションで、VTCS 内の動的リクレイムのサポートを有効または無効にします。デフォルトはありません。ただし、*INPLACE* がない場合は、動的リクレイムのサポートが有効になっていないことを示します。

YES

すべての適格な MVC をグローバルに (すべてのストレージクラスについて) パーティション分割済みとしてフォーマットおよび処理することによって、動的リクレイムを有効にします。

NO

動的リクレイムを無効にします。このオプションは、*STORCLAS* レベルのオーバーライドを伴う可能性があります。

次の点に注意してください。

- *INPLACE* が受け入れられて、動的リクレイムのサポートが有効になるには、CDS が H レベルにある必要があります。*INPLACE* が指定され、CDS が H レベルにない場合は、構成が失敗し、エラーメッセージが表示されます。
- 動的リクレイムでは、T1000B メディアのみがサポートされます。Sport ボリュームは、パーティション分割されたフォーマットではサポートされません。

INPTHRSH=*nn*

オプションで、パーティション分割されたフォーマットの MVC を動的リクレイム処理の対象にする断片化された領域のパーセンテージを指定します。

nn は、3 から 97 までのパーセンテージです。この値は、*THRESHLD* 値未満である必要があります。デフォルトは、*THRESHLD* 値の半分 (切り上げ) です。

次の点に注意してください。

- *INPLACE* なしで *INPTHRSH* を指定することはできません。
- *INPTHRSH* が指定されている場合は、*THRESHLD* も指定する必要があります。*INPTHRSH* と *THRESHLD* はどちらも、動的リクレイムでパーティション分割されたフォーマットの MVC を処理する場合に機能します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。

PROTECT=*nn*

オプションで、MVC がドレインまたはリクレイムされたあとに再利用されないようにする (または保護する) ための時間 (時間単位) を指定します。有効な値は 1 - 99 です。

CONFIg RTDpath 文

VTCS *CONFIg RTDpath* 文は、次のいずれかへのパスを定義します。

- ローカル TapePlex の下で動作している RTD。ローカル RTD 接続は、*STORMNGR* パラメータなしで、*DEVNO* および *CHANIF* パラメータを使用して定義されます。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。
- リモートライブラリ。リモートライブラリ接続は、*DEVNO*、*CHANIF* および *STORMNGR* パラメータを使用して定義されます。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。
- *STORMNGR* および *IPIF* パラメータのみを使用して定義された、VTSS に接続されている VLE。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*VLE* 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

テープレス環境の場合を除いて、*CONFIg RTDpath* は必須であり、デバイスが接続される VTSS を定義する VTSS 文のあとに指定する必要があります。

接続できる各デバイスタイプの最大数は次のとおりです。

- VSM2 または VSM3 の場合は、8 つの RTD。
- VSM4 の場合は、16 の RTD。
- VSM5 または VSM6 の場合は、32 の RTD。
- VSM5 または VSM6 の場合は、4 つの VLE アプライアンス。

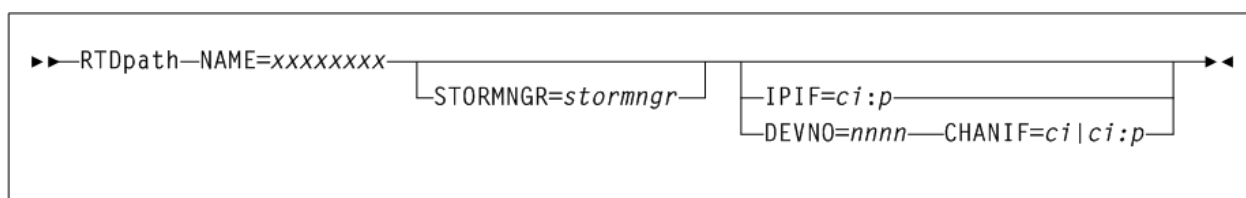
注:

VTCS が *V61ABOVE* より低い CDS レベルで実行されている場合、RTD 定義を変更するには *RESET* パラメータを指定する必要があります。詳細は、「[CONFIg](#)」を参照してください。初期の RTD 定義で、VTSS LOP に表示されている RTD 名がすべて空白でない場合は、*RESET* も指定する必要があります。

構文

図3.20 「[CONFIg RTDpath 文の構文](#)」は、*CONFIg RTDpath* 文の構文を示しています。

図3.20 CONFIg RTDpath 文の構文



パラメータ

図3.20「CONFig RTDpath 文の構文」に示すように、*CONFig RTDpath* 文には次のパラメータが含まれます。

NAME=xxxxxxx

RTD または VLE アプライアンスの 1-8 文字の識別子を指定します。

- RTD の場合は、*RTD NAME* パラメータを使用して RTD 識別子のみを設定または変更します。それを行うには、VTSS LOP または DOP に表示されている RTD 識別子がすべて空白である必要があります。
- VLE またはリモートライブラリの場合は、意味のある任意の 1-8 文字の識別子を使用します。

このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。

STORMNGR=stormngr

次のいずれかを指定します。

- VLE サブシステム名
- リモートライブラリ

stormngr は、ストレージマネージャー名を示します。

- VLE の場合、この値は VLE サブシステム名に一致する必要があります。
- リモートライブラリの場合、この値は *SMC TAPEPLEX NAME* パラメータで定義されている TapePlex 名に一致する必要があります。

詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

IPIF=ci:p

ci:p 形式の VTSS から VLE ポートへの接続ごとの IPIF 値。ここでは:

- *c* は、VTSS ストレージクラスタ番号 (0 または 1) を示します。
- *i* は、インタフェース番号 (A または I) を示します。
- *p* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) を示します。

VSM5 の場合、この値は「VSM5 IFF Configuration Status Screen」で指定されている値に一致する必要があります。VSM 6 の場合、これは VTSS ごとに一意である必要があり、VSM 6 TCP/IP ポート上の実際の値には対応しません。

DEVNO=nnnn

RTD またはリモートライブラリのユニットアドレスを指定します。*CHANIF* では、このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。

CHANIF=ci または ci:p

RTD と通信する VTSS 上のチャンネルインタフェースを指定します。ここでは:

- *c* は、VTSS ストレージクラスタ番号 (0 または 1) を示します。
- *i* は、インタフェース番号 (A、C、E、G、I、K、M、または O) を示します。
- *p* は、インタフェース上のデバイス番号 (0、1、2、または 3) を示します。

VSM5 の場合、この *CHANIF* 値は実際の FICON インタフェース値に一致している必要があります。VSM 6 の場合、これは VTSS ごとに一意である必要があり、VSM 6 FICON ポート上の実際の値には対応しません。リモートライブラリ接続の場合、この値はライブラリごとに一意である必要があり、RTD の *ci:p* 規則のあとに指定する必要があります。

最大 32 RTD の機能が有効になっているかどうかには関係なく、VTSS に 16 を超える RTD を接続していない場合は、「古い」アドレス指定スキーム (*CHANIF=ci*) を使用できます。

ただし、最大 32 RTD の機能が有効になっており、VTSS に 16 を超える RTD を接続している場合は、「新しい」アドレス指定スキーム (*CHANIF=ci:p*) を使用する必要があります。

詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。

注意:

RTD の場合、デバイスへのマウントおよびマウント解除コマンドの処理はバージョンによって異なります。リモート HSC サーバーが V6.2 を実行している場合は、あたかもジョブであるかのように、MSP メッセージをトラップし、マウント/マウント解除を HSC サーバーに転送するローカル SMC に依存します。リモート HSC サーバーが V7 以上を実行している場合、これは自動的に検出され、VTCS がマウント/マウント解除要求を直接リモート HSC サーバーに送信します。SMC パラメータが、これらのいずれか 1 つのタイプのサーバーにのみコマンドを送信することが重要です。

CONFig STORMNGR 文

CONFig STORMNGR 文は、VTCS に対して VLE を定義します。

注:

- ダウンレベルのホストがアクティブである場合は、この文を指定しないでください。*CONFIg STORMNGR* が指定されると、ダウンレベルのホストは機能しなくなります。
- この文には、CDS レベル *V62ABOVE* 以上が必要です。
- この文は、*CONFIg TAPEPLEX* 文の代わりになります。つまり、*CONFIg TAPEPLEX* で VLE のリストを指定することも、*CONFIg STORMNGR* を使用して各 VLE を個別に指定することもできます。*CONFIg STORMNGR* 文をコーディングする場合は、それを *CONFIg STORMNGR* 文が適用される *CONFIg TAPEPLEX* 文の直後に指定する必要があります。
- VTCS 7.2 の場合は、*VLEDEV* パラメータを使用して、追加のエミュレート対象 VLE RTD を定義できます。詳細は、Oracle の VLE のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

構文

図3.21 「*CONFIg STORMNGR* 文の構文」は、*CONFIg STORMNGR* 文の構文を示しています。

図3.21 *CONFIg STORMNGR* 文の構文

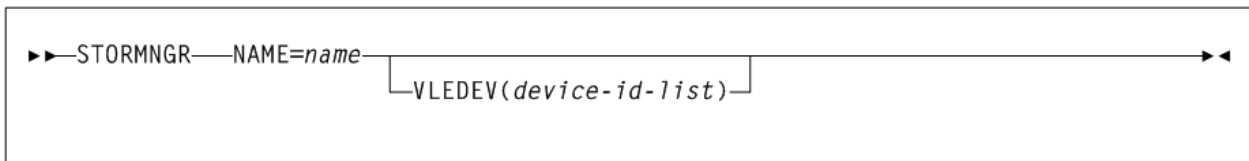
**パラメータ**

図3.21 「*CONFIg STORMNGR* 文の構文」に示すように、*CONFIg STORMNGR* 文には次のパラメータが含まれます。

STORMNGR

直前の *TAPEPLEX* 文に接続されている VLE のサブシステム名を指定します。

NAME=name

VLE のサブシステム名。これは、VLE インストールスクリプトによって設定されます。

VLEDEV(device-id-list)

オプションで、VLE の論理デバイス ID を指定します。このパラメータは *CONFIG CDSLEVEL=V71ABOVE* (CDS レベル H) を必要とし、VLE 1.2 に適用されます。

device-id-list は、デバイス ID のリストまたは範囲であり、その形式は「S」接頭辞のあとに 3 桁の 16 進文字列が続きます。これらの ID は MSP デ

バイスアドレスに似ていますが、MSP 名前空間とは重複しません。1 VLE あたり最大 96 のデバイス ID を指定でき、このとき各 VLE に 96 のエミュレート対象デバイスが定義されます。これにより、VTCS は VLE ごとに最大 96 のプロセスをスケジュールできます。

CONFig TAPEPLEX 文

CONFig TAPEPLEX 文は、Cross-TapePlex Replication (CTR) または VLE へのレプリケーションのための VTCS に対する値を定義します。

- ダウンレベルのホストがアクティブである場合は、この文を指定しないでください。CONFig TAPEPLEX が指定されると、ダウンレベルのホストは機能しなくなります。
- この文には、CDS レベル V61ABOVE 以上が必要です。
- Cross-Tape Replication の詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の管理』および『ELS 障害回復およびオフサイトデータ管理ガイド』を参照してください。

構文

図3.22 「CONFig TAPEPLEX 文の構文」は、CONFig TAPEPLEX 文の構文を示しています。

図3.22 CONFig TAPEPLEX 文の構文



パラメータ

図3.22 「CONFig TAPEPLEX 文の構文」に示すように、CONFig TAPEPLEX 文には次のパラメータが含まれます。

THISPLEX=name

この構成の TapePlex 名を指定します。この名前は、Cross-TapePlex Replication によってほかの TapePlex にエクスポートされたすべての VTV コピーに関連付けられています。

name は、TapePlex 名を示します。この名前は、ローカル SMC で定義されている SMC *LIBRARY* または *TAPEPLEX* コマンドで指定された名前に一致している必要があります。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

RECVPLEX(*tapeplex-list*)

オプションで、VTV コピーを (Cross-TapePlex Replication から) 受信するときの送信元ができる TapePlex のリストを指定します。ホストが、このリストに含まれていない TapePlex からの VTV コピーを送信またはスクラッチしようとしても拒否されます。

tapeplex-list は、TapePlex 名のリストを示します。次の規則が適用されます。

- この値は 1 文字から 8 文字までの長さである必要があります。
- 最初の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最後の文字は、英字または数字のどちらかである必要があります。
- 最初の文字と最後の文字の間にある文字はすべて、英字、数字、ハイフンのいずれかである必要があります。

注:

RECVPLEX は、受信側 TapePlex で指定します。また、送信側 TapePlex で *RECVPLEX* を指定して、この TapePlex で受信側 TapePlex からの VTV をリコールできるようにすることもできます。

STORMNGR(*stormngr-list*)

オプションで、この TapePlex に接続されている VLE のサブシステム名を指定します。

stormngr-list は、VLE サブシステム名のリストを示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

CONFIg VTD 文

CONFIg VTD 文は、VTSS 内の VTD の MSP ユニットアドレスの範囲を定義します。この文は必須であり、その VTD が存在する VTSS 文のあとに指定する必要があります。

注:

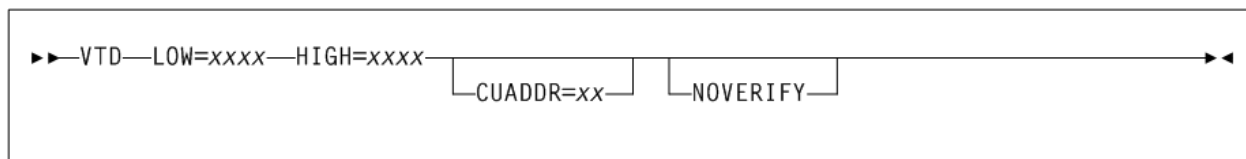
VSM2 と VSM3 では、1 VTSS あたり 64 の VTD が存在できます。VSM4 以降のモデルでは、1 VTSS あたり 256 の VTD が存在できます。

VTD ユニットアドレスは、すべてのホストに適用するためか、または特定のホストでどの VTD を使用できるかを定義するために指定できます。詳細は、「[VTD ユニットアドレスの指定](#)」を参照してください。

構文

図3.23 「CONFIg VTD 文の構文」は、CONFIg VTD 文の構文を示しています。

図3.23 CONFIg VTD 文の構文



パラメータ

図3.23 「CONFIg VTD 文の構文」に示すように、CONFIg VTD 文には次のパラメータが含まれます。

LOW=xxxx

VTD の範囲の開始として 4 文字の有効な MSP ユニットアドレス (xxxx) を指定します。

HIGH=xxxx

VTD の範囲の最後として 4 文字の有効な MSP ユニットアドレス (xxxx) を指定します。

CUADDR=xx

オプションで、IOCP 内のその値に一致する制御ユニット識別子 (xx) を指定します。有効な値は、VSM4 の場合は 0 - 15、VSM2 または VSM3 の場合は 0 - 3 です。この文は、ホストに対して VTD の部分的な範囲が指定され、そのホストにそれらの VTD へのパスが存在しない場合にのみ必要です。

NOVERIFY

オプションで、VTD の検証を抑制します。

VTCS は通常、仮想テープドライブに関連付けられた予測されるすべての VTD 識別子の検証を試みます。これを行うには、関連付けられたホストが ECAM-T 要求 *Virtual_Device_Identify* を発行できるように、各 MSP I/O アドレスが使用可能である必要があります。ECAM は、VTCS が VTSS をオンラインにしたり、レプリケーションや移行をスケジュールしたりするときに VTSS と通信するために使用する方法です。

特定のケースでは (たとえば、VTCS がリモートクライアントホストに対するサポートを提供しているとき)、そのリモートクライアントのサーバーとして機能しているローカルホストに MSP I/O アドレスへのパスが存在しない場合があります。これらの場合は、予測される VTD 識別子を検証しようとしてもすべて失敗し、エラーメッセージがオペレータに送信されます。*NOVERIFY* は検証を抑制し、これらの失敗を回避します。

デバイスまたはデバイスの範囲に対して *NOVERIFY* が指定されている場合は、次のことが行われます。

- MSP から VTV をマウントできるように、そのデバイスが SMC に報告されます。
- VTCS は、そのデバイスを ECAM I/O に使用しません。ECAM I/O に使用できるように、少なくとも 1 つのデバイスを *NOVERIFY* なしで残しておく必要があります。

VTD ユニットアドレスの指定

VTD アドレスを指定するには、次のいずれかを行います。

- *VTSS* 文のあとの *VTD* 文で VTD ユニットアドレスを指定し、*VTSS* 文のあとに *HOST* 文を指定しません。VTSS に物理的に接続されているすべてのホストが、*VTD* 文で指定されているデフォルトのアドレスで VTD にアクセスできます。
- *VTSS* 文のあとの *VTD* 文で VTD ユニットアドレスを指定しません。代わりに、以前に定義された VTSS への接続を定義するホストについてのみ *HOST* 文のあとに *VTD* 文を配置します。この VTSS に接続しないすべてのホストについて、プレースホルダ (*VTD* パラメータのない *HOST NAME*) を指定する必要があります。

VTSS から作成された VTV および最初に書き込まれた MVC は、その VTSS のリソースであるとみなされます。そのため、VTSS にアクセスできるホストのみが、

その VTV と MVC にアクセスできます。このタイプの「制限付き」アクセス構成では、各ホストのスクラッチカウントが正確であることを保証するために、各ホストに個別の VTV スクラッチプールが存在します。同様に、ホストが接続されている VTSS に関連付けられた MVC について、各ホストで空き MVC および MVC リクレイムカウントが報告されます。

ホストごとに異なるアドレス範囲を指定できますが、操作の一貫性のために、すべてのホストで同じアドレス範囲を指定することをお勧めします。ホストごとに異なるアドレス範囲を指定する場合は、`HSC SET DRVHOST` および `SMC DRIVEMAP` 文を使用します (クライアント/サーバー構成が存在する場合)。すべての MSP ホスト上にある、overgenned デバイスすべて (VTD を含む) に対して `UNITATTR MODEL (IGNORE)` コマンドを含める必要があります。

注意:

マルチホスト、複数 VTSS の構成では、この VTD アドレス指定方法を使用して、ホストが物理的に接続されている VTSS へのアクセスを拒否できます。ただし、この方法を使用して、VTSS に物理的に接続されていないホストからのアクセスを拒否する必要があります。アクセスを拒否しないと、VTSS に物理的に接続されていないホスト上の VTCS が、その他のすべてのホスト上で VSM 操作が停止されている間に VTSS と通信しようとして待機する可能性があります。

CONFIg VTSS 文

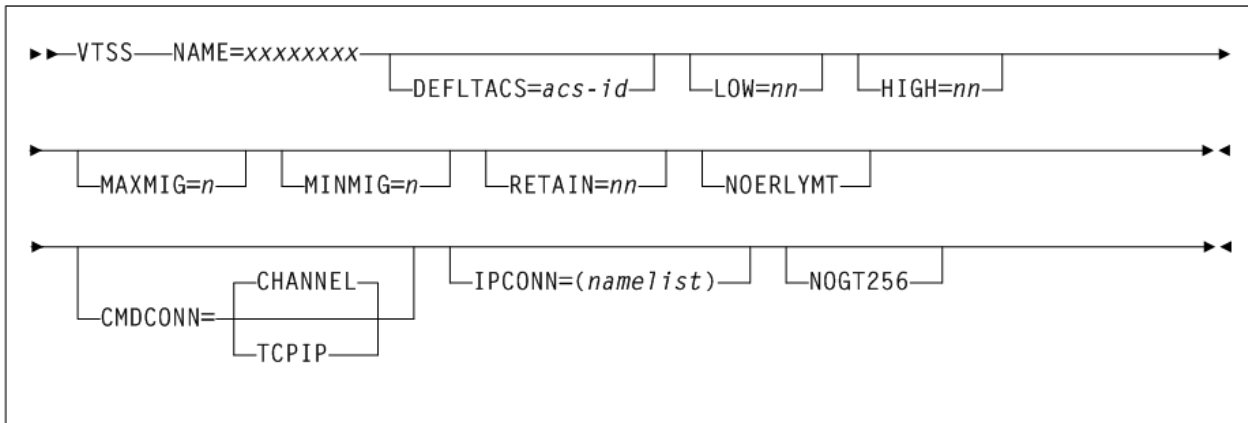
`CONFIg VTSS` 文は VTSS を定義し、その動作値を設定します。この文は必須です。

新しい VTSS を定義する場合は、その定義を既存のどの VTSS 定義よりもあとに配置します。これらの VTSS 定義は、その元の順序に保持される必要があります。

構文

図3.128 「`OPTION TITLE` 制御文の構文」は、`CONFIg VTSS` 文の構文を示しています。

図3.24 CONFig VTSS 文の構文



パラメータ

図3.24「CONFig VTSS 文の構文」に示すように、CONFig VTSS 文には次のパラメータが含まれます。

NAME=xxxxxxx

VTSS 名 (xxxxxxx) を指定します。このパラメータは必須です。デフォルト値はありません。VTSS 名は、「A-Z」、「0-9」、「@」、「\$」、および「#」の各文字で構成できます。

VTSS 名は、NAME パラメータでのみ指定します。このパラメータは、その VTSS 名を VTSS マイクロコード (LOP または VOP の「Subsystem Name」フィールドに表示されます) と HSC CDS の構成領域の両方に設定します。VSM が稼働状態になると、この VTSS 名は CDS 内の各 VTV レコードにも格納されます。各 VTV レコードには、その VTV が常駐している VTSS 名が含まれています。VTV が移行された場合、VTV レコードには、その VTV の移行元の VTSS 名が含まれます。

NAME パラメータを使用して VTSS 名を設定したあと、HSC CDS 内のこの識別子を変更することはできません。つまり、CONFig ユーティリティでは初期設定のあとに NAME パラメータを変更できず、LOP または VOP の「Subsystem Name」フィールドを使用して VTSS 名を変更しても HSC CDS 内の VTSS 名を変更できません。

注意:

VTV (VTSS 常駐の VTV や移行された VTV を含む) 上のデータが含まれている VTSS の名前を変更しようとししないでください。

初期設定でのみ (変更を除きます)、*NAME* パラメータで VTSS 名を設定できるのは、VTSS マイクロコード内の VTSS 名の値が次のいずれかである場合だけです。

- 出荷時の設定 (すべて空白)。
- 99999999 (9 が 8 個) の値。

そのため、初期設定でのみ、VTSS マイクロコード内の名前がすべて空白または 99999999 でない場合は、Oracle StorageTek ハードウェア担当者が VTSS LOP または VOP を使用して VTSS 名を 99999999 に設定する必要があります。これにより、*NAME* パラメータを使用して VTSS 名を希望する値に設定できるようになります。

DEFLTACS=*acs-id*

オプションで、VTCS は複数 VTSS の確認をサポートし、各 VTSS への複数の ACS の接続をサポートします。VTSS が複数の ACS に接続されている構成では、*DEFLTACS* パラメータを使用して、MVC が移行、統合、およびリクレーム処理のために選択されるデフォルトの ACS (*acs-id*) を指定します。*MGMTclas MIGpo1* パラメータから最大 4 つの VTV コピーを (*MGMTclas* 文ごとに) 個別の ACS に移行できます (また、下で説明されているように *DEFLTACS* パラメータを無視します)。

DEFLTACS を指定しない場合、デフォルト値は *x'FF'* です。これにより、VTCS は任意の ACS から MVC を選択できます。

DEFLTACS パラメータを指定し、次のいずれかを行なった場合、VTCS は *DEFLTACS* 値を無視します。

- *MGMTclas* 文の *ACSlist* パラメータを指定する。
- ストレージクラスを使用する。

LOW=*nn*

オプションで、この VTSS での自動移行の低しきい値 (LAMT) を指定します。*nn* は、しきい値を示します。

有効な値は 5 - 95 であり、*HIGH* のデフォルトのしきい値未満である必要があります。デフォルトは 70 です。

HIGH=*nn*

オプションで、この VTSS での自動移行の高しきい値 (HAMT) を指定します。*nn* は、しきい値を示します。

有効な値は 6 - 95 であり、*LOW* のデフォルトのしきい値を超えている必要があります。デフォルトは 80 です。

MAXMIG=*n*

オプションで、この VTSS での同時処理する自動移行、即時移行、および限界値までの移行タスクの最大数を指定します。

n は、タスクの数を示します。有効な値は 1 から VTSS に接続されている RTD の数までです。デフォルトは、VTSS に接続されている RTD の数の半分です。

MINMIG=*n*

オプションで、この VTSS での同時処理する自動移行、即時移行、および限界値までの移行タスクの最小数を指定します。

n は、タスクの数を示します。有効な値は 1 から MAXMIG 設定までです。デフォルトは 1 タスクです。

RETAIN=*nn*

オプションで、移行またはリコールのあとに VTCS が RTD 上の MVC をアイドルモードに保持する分数を指定します。MVC を保持すると、MVC マウントが削減される場合があります。

nn は、分数を示します。有効な値は 1 - 60 です。デフォルトは 15 です。

アイドル状態の RTD 上の MVC は、RETAIN 時間が経過するまでマウント解除されません。ただし、その RTD が必要であり、かつその他のどの「同様の RTD」(同じ ACS、LSM、およびデバイスタイプ) も空いていない場合を除きます。

その RTD に対する最後の操作がジョブによって開始されたりコールであったか、または「MVC がいっぱいになっている」状態が発生した場合は、この動作の例外が発生します。この場合は、VTCS がその RTD は現在必要ないが、空いている「同様の」RTD がほかに存在しないことを確認すると、MVC はアイドル状態の MVC からマウント解除されます。

NOERLYMT

オプションで、この VTSS での ETTFB (Early Time to First Byte) (並行テープリコール/マウント機能とも呼ばれます) を無効にします。このパラメータは、CONFig GLOBAL FASTRECL=YES の場合にのみ適用されます。このパラメータは、RTD からのリコールおよび VLE からのリコールに適用されます。

CMDCONN

オプションで、VTSS アクセス方法を指定します。

CHANNEL

ESCON または FICON チャンネルアクセスを示します。これがデフォルトです。

TCPIP

TCP/IP アクセスを示します。これには、有効な CONFig VTSS IPCONN=(name-list) 値が必要です。

IPCONN=(name-list)

オプションで、TCP/IP 接続を定義するために使用される 1-4 個の IP アドレスのコンマ区切りリストを IP アドレスとして明示的に、または IP アドレスに解決される名前で暗黙的に指定します。

name-list は、IP アドレスまたは名前を示します。リストに入力された値は、VTCS システムがそれらを使用するために初期化されるまで検証できません。これらは、次の要件を満たしている必要があります。

- IPv4 値はすべて、形式 *nnn.nnn.nnn.nnn* で指定される必要があります。ここで、各バイトは 1-4 桁の 16 進文字列です。4 バイト存在する必要があります、小数点を除き数値のみです。
- IPv6 値はすべて、形式 *x.x.x.x.x.x.x.x* で指定される必要があります。ここで、各バイトは 0-255 です。4 バイト存在する必要があります: 0-9、A-F (または a-f)。IPv6 の省略形は許可されません。8 つの部分アドレスをすべて指定する必要があります。
- 名前を指定する場合は、最大 60 文字を指定できます。名前は、文字 A-Z、a-z、0-9、「-」、または「.」のみを含む任意の有効な *DNSname* にできます。

NOGT256

オプションで、この VTSS での 256 を超える VTD のサポートを無効にします。このパラメータは、*CONFIG GLOBAL VTDGT256=YES* が指定されている場合のみ適用されます。

CONFIg VTVVOL 文

CONFIg VTVVOL 文は、VTV の範囲を定義します。

VTCS *CONFIg* で VTV と MVC の範囲を定義するには、*SET VOLPARM* を使用することをお勧めします。

- *SET VOLPARM* 文の詳細は、「[SET VOLPARM](#)」を参照してください。
- *CONFIg* で *VTVVOL* および *MVCVOL* 文を使用してボリュームを定義する方法については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

CONSolid**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

CONSolid コマンドは、MVC 上の VTV を統合します。

構文

図3.25 「CONSolid コマンドの構文」は、CONSolid コマンドの構文を示しています。

図3.25 CONSolid コマンドの構文

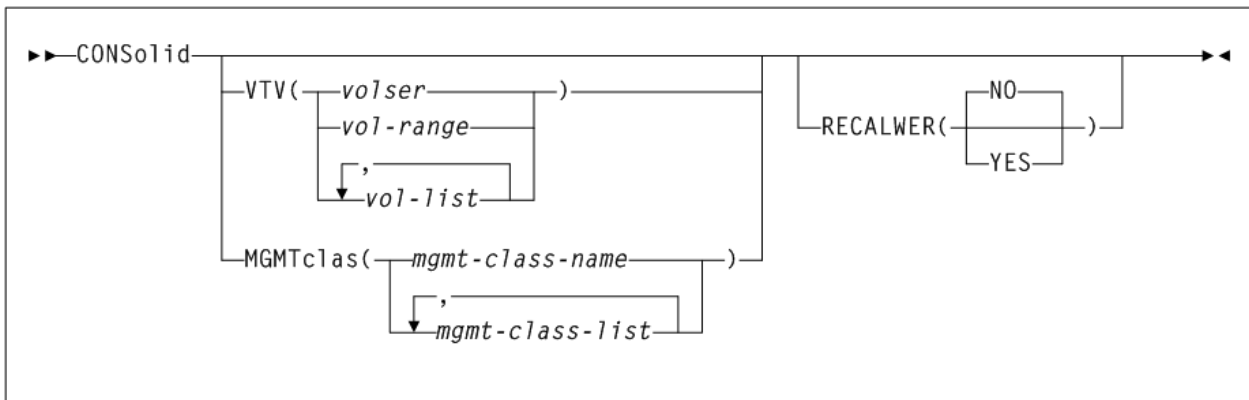
**パラメータ**

図3.25 「CONSolid コマンドの構文」に示すように、CONSolid コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、統合する 1 つ以上の VTV を指定します。

volser、vol-range、または vol-list は、VTV の volser、volser 範囲、または volser リストを示します。最大 2,000 の VTV を指定できます。

MGMTclas(mgmtclas-name または mgmtclas-list)

オプションで、統合する VTV を決定する 1 つ以上の管理クラスの名前を指定します。

mgmt-class-name または mgmt-class-list は、MGMTclas 制御文で定義した 1 つ以上の管理クラスの名前を示します。詳細は、「MGMTclas 制御文」を参照し

てください。管理クラスを指定することによって、最大 2,000 の VTV を統合できます。

RECALWER

オプションで、VTCS が読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールするかどうかを指定します。

NO

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールしません。これがフォルトです。

YES

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールします。

CONSolid レポートメッセージ

統合レポートには、次のメッセージが表示されます。

MIGRATE ONLY FROM VTSS vtssname

説明: VTV は VTSS *vtssname* に常駐しています。

REMIGRATE FROM MVC mvcname VIA VTSS vtssname

説明: VTCS は、VTV を統合するために MVC *mvcname* からその VTV をリコールしています。

VTV vtvname NOT SELECTED; VTV IS SCRATCH

説明: VTCS は、指定された VTV を統合しません。これは、スクラッチであるか、または初期化されていません。

VTV vtvname NOT SELECTED; VTV ALREADY CONSOLIDATED

説明: 指定された VTV はすでに統合されています。

VTV vtvname NOT SELECTED; VTV RECORD NOT FOUND

説明: VTCS は、指定された VTV を統合しません。これは、CDS 内にレコードを含んでいません。

VTV vtvname NOT SELECTED; VTV STILL MOUNTED ON DRIVE

説明: VTCS は、指定された VTV を統合できません。これはマウントされているか、または回復中です。

REDRIVING REQUEST BECAUSE OF ERROR

説明: VTCS は、失敗した統合要求を再試行しています。

CONSOLID CMD PROBLEM DECODING VCI REQUEST FROM HSC

説明: 統合に失敗しました。

VTV vtvnumber NOT SELECTED: LIMITED ACCESS TO VTSS

説明: *NOMIGRAT* パラメータによって統合が有効になっていないホストが要求を発行したため、統合要求は失敗しました。

MIGRATE NO MVCS AVAILABLE

説明: 要求を完了するための十分な空き MVC が使用できません。

DBSERVer

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC が必要です。VTCS がアクティブであってははいけません。

説明

DBSERVer コマンドは、*oVTCS CDS* データベースサーバーを起動または停止します。*oVTCS CDS* データベースサーバーは、*oVTCS* クライアントからの *CDS* データベース I/O 要求を処理します。

注:

oVTCS CDS データベースサーバーは、実行中の VTCS コンポーネントがない HSC サブシステム内でのみ起動できます。

構文

図3.26 「DBSERVer コマンドの構文」は、*DBSERVer* コマンドの構文を示しています。

図3.26 DBSERVer コマンドの構文

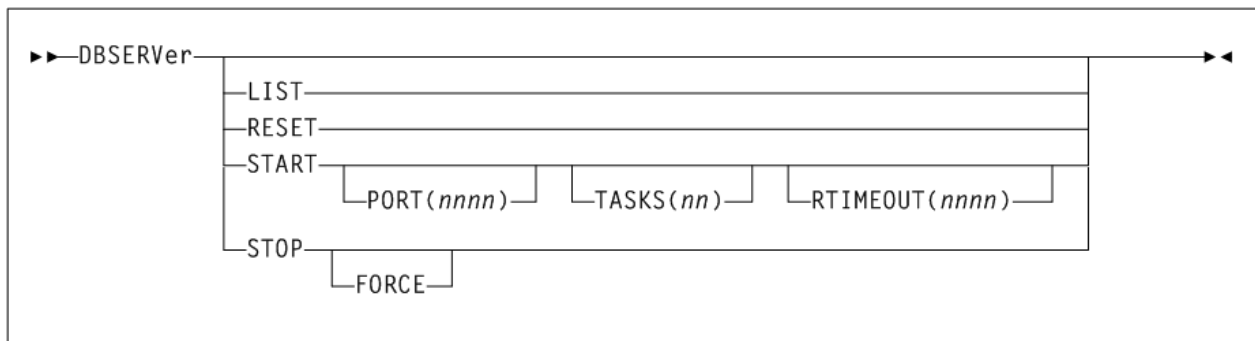
**パラメータ**

図3.26 「DBSERVer コマンドの構文」に示すように、*DBSERVer* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIST

オプションで、oVTCS CDS データベースサーバーの設定とステータスを一覧表示します。

RESET

オプションで、oVTCS CDS データベースサーバーを強制的にリセットします。これにより、受け入れられていたソケットが閉じられ、保留中の作業はすべてクリアされ、再度 oVTCS クライアントの再接続を待機します。

START

オプションで、oVTCS CDS データベースサーバーを起動します。

PORT(nnnn)

オプションで、ソケットリスナーポートを指定します。

nnnn は、ポートを示します。PORT(*nnnn*) を指定しない場合、デフォルトは 8081 です。

TASKS(nn)

オプションで、非同期 CDS 読み取り用のタスクの最大数を指定します。

nn は、タスクの最大数を示します。許容可能な値は 1-10 です。*TASKS(nn)* を指定しない場合、デフォルトは 4 です。

RTIMEOUT(nnnn)

オプションで、予約のタイムアウトを指定します。

nnnn は、タイムアウト (秒単位) を示します。許容可能な値は 1-3600 です。*RTIMEOUT(nnnn)* を指定しない場合、デフォルトは 180 です。

STOP

オプションで、oVTCS CDS データベースサーバーを停止します。

FORCE

オプションで、oVTCS CDS データベースサーバーが正常に終了されていない場合でも強制的に終了します。

DEComp

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

DEComp コマンドは、HSC CDS 内の VSM 構成情報を一覧表示します。

構文

図3.130 「RECall コマンドの構文」は、*DEComp* コマンドの構文を示しています。

図3.27 *DEComp* コマンドの構文



パラメータ

図3.27 「*DEComp* コマンドの構文」に示すように、*DEComp* コマンドには次のパラメータが含まれます。

FLATdd(ddname)

オプションで、フラットファイルが必要な場合の出力先の DD 名を指定します。ddname は、JCL に含まれているフラットファイルの DD 名を示します。

LISTDELR

オプションで、「論理的に削除された」MVC と VTV の volser 範囲を一覧表示します。

注:

LISTDELR は、レベル G 以上の CDS に対してのみ有効です。

出力

次の例は、DEComp コマンドのサンプル出力を示しています。

FLATDD パラメータの出力

例3.4「DEComp FLATDD の出力」は、FLATDD パラメータを使用した DEComp 出力の例を示しています。

例3.4 DEComp FLATDD の出力

```

CONFIG CDSLEVEL(V62ABOVE)
GLOBAL MAXVTV=32000   MVCFREE=40   VTVattr=ALLmount RECALWER=YES
REPLICat=ALWAYS   LOCKSTR=STK_VTCS_LOCKS
RECLAIM THRESHLD=70   MAXMVC=40   START=35   CONMVC=1   VLTHRES=1 +
INPLACE=Yes INPTHRSH=15
VTVVOL LOW=905000 HIGH=999999 SCRATCH
VTVVOL LOW=C00000 HIGH=C25000 SCRATCH
VTVVOL LOW=RMM000 HIGH=RMM020 SCRATCH
MVCVOL LOW=N25980 HIGH=N25989
MVCVOL LOW=N35000 HIGH=N35999
VTSS NAME=VTSS1  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=3  RETAIN=5
  RTD NAME=VTS18800 DEVNO=8800 CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS18801 DEVNO=8801 CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS18802 DEVNO=8802 CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS18803 DEVNO=8803 CHANIF=1I
  VTD LOW=8900 HIGH=893F
VTSS NAME=VTSS2  LOW=70 HIGH=80  MAXMIG=3  RETAIN=5
  RTD NAME=VTS28804 DEVNO=8804 CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS28805 DEVNO=8805 CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS28806 DEVNO=8806 CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS28807 DEVNO=8807 CHANIF=1I
  VTD LOW=9900 HIGH=993F

```

SLSPRINT の出力

例3.5「DEComp SLSPRINT の出力」は、SLSPRINT への DEComp 出力の例を示しています。

例3.5 DEComp SLSPRINT の出力

```
DECOM
SLS1315I SSRDMP.P775644.TESTCDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
TIME 09:07:06 VTCS DECOMPILE
CONFIG CDSLEVEL(V62ABOVE)
GLOBAL MAXVTV=32000 MVCFREE=40 VTVattr=ALLmount RECALWER=YES
REPLICat=ALWAYS LOCKSTR=STK_VTCS_LOCKS
RECLAIM THRESHLD=70 MAXMVC=40 START=35 CONMVC=1 VLTHRES=1 +

INPLACE=Yes INPTHRSH=15
VTVVOL LOW=905000 HIGH=999999 SCRATCH
VTVVOL LOW=C00000 HIGH=C25000 SCRATCH
VTVVOL LOW=RMM000 HIGH=RMM020 SCRATCH
MVCVOL LOW=N25980 HIGH=N25989
MVCVOL LOW=N35000 HIGH=N35999
VTSS NAME=VTSS1 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
  RTD NAME=VTS18800 DEVNO=8800 CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS18801 DEVNO=8801 CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS18802 DEVNO=8802 CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS18803 DEVNO=8803 CHANIF=1I
  VTD LOW=8900 HIGH=893F
VTSS NAME=VTSS2 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=3 RETAIN=5
  RTD NAME=VTS28804 DEVNO=8804 CHANIF=0A
  RTD NAME=VTS28805 DEVNO=8805 CHANIF=0I
  RTD NAME=VTS28806 DEVNO=8806 CHANIF=1A
  RTD NAME=VTS28807 DEVNO=8807 CHANIF=1I
  VTD LOW=9900 HIGH=993F
```

DELETSCR

インターフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

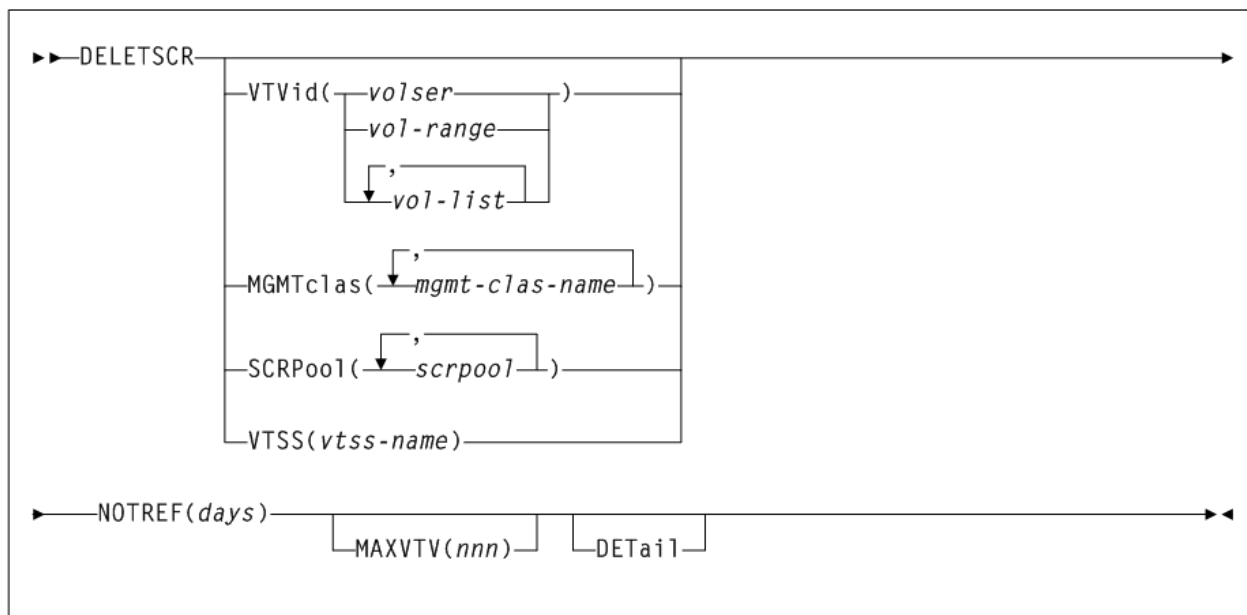
説明

DELETSCR コマンドは、VTSS からスクラッチ VTV を削除し、MVC からの移行されたすべての VTV のリンクを解除します。

構文

[図3.28 「DELETSCR コマンドの構文」](#) は、*DELETSCR* コマンドの構文を示しています。

図3.28 DELETSCR コマンドの構文



パラメータ

図3.28 「DELETSCR コマンドの構文」に示すように、*DELETSCR* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTVID(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、削除される1つ以上のVTVを指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は、1つ以上のVTVの*volser*を示します。

MGMTCLAS(mgmtclas-name)

オプションで、VTVの管理クラスを指定します。

mgmt-class-name は、MGMTCLAS 制御文で指定した管理クラス名を示します。

SCRPOOL(scrpool)

オプションで、削除されるスクラッチプールを指定します。プールにVTVと実ボリュームが含まれている場合、*DELETSCR* はVTVのみを削除します。

scrpool は、既存のHSCスクラッチプールです。

VTSS(vtss-name)

オプションで、指定されたVTSS内のスクラッチVTVが削除されるようにします。

vtss-name は、VTSS名を示します。

注:

VTVid、*MGMTclas*、*SCRPool*、および *VTSS* は相互に排他的です。これらのパラメータのいずれかを指定しない場合、*VTCS* はすべてのスクラッチ *VTV* を処理します。

NOTREF(days)

DELETSCR によって削除されるために *VTV* が最後に参照されてからの日数を指定します。

days は、日数 (1-999) を示します。

MAXVTV(nnn)

オプションで、*DELETSCR* が削除する *VTV* の最大数を指定します。これは最大であり、ターゲットではありません。

nnn は、*VTV* の最大数 (0-999) を示します。指定されていない場合、*DELETSCR* はすべてのスクラッチ *VTV* を削除します。0 を指定した場合、*DELETSCR* はどの *VTV* も削除しませんが、サマリーレポートには *DELETSCR* を実行した時点で想定された削除される *VTV* の数が表示されます (つまり、このレポートは単なるスナップショットです)。

DETail

オプションで、*NOTREF* 期間内に含まれる *VTV* の詳細とサマリーも表示する詳細レポートを生成します。

DELETSCR レポート

例3.6 「[DELETSCR レポート](#)」は、次のバッチ呼び出しに関する *DELETSCR* レポートの例です。

```
DELETSCR MGMTCLAS(MC1) NOTREF(60) MAXVTV(10) DET
```

例3.6 DELETSCR レポート

```
SLUADMIN (7.2.0)      StorageTek Enterprise Library Software Utility      PAGE 0001
TIME 06:32:03        SCRATCH VTV DELETE                                          DATE 2015-03-31
```

```
SLS6833I VTV VTV100 deleted from MVC M00001
SLS6835I VTV VTV101 excluded - referenced within 60 days
SLS6833I VTV VTV102 deleted from MVC M00003
SLS6835I VTV VTV103 excluded - referenced within 60 days
SLS6835I VTV VTV104 excluded - referenced within 60 days
SLS6833I VTV VTV105 deleted from MVC M00007
SLS6833I VTV VTV106 deleted from MVC M00157
SLS6834I VTV VTV107 deleted
SLS6833I VTV VTV108 deleted from MVC M00072
SLS6833I VTV VTV110 deleted from MVC M00757
SLS6833I VTV VTV111 deleted from MVC M00767
SLS6833I VTV VTV112 deleted from MVC M01057
SLS6834I VTV VTV113 deleted
```

SUMMARY:

```
10 scratch VTVs deleted
1 VTV EXCLUDED - NOT SCRATCH VOLUME
0 VTVS EXCLUDED - NOT INITIALIZED
3 SCRATCH VTVS EXCLUDED - REFERENCED WITHIN 60 DAYS
6 scratch VTV delete candidates bypassed after MAXVTV limit 10 reached
```

DELETSR レポートは、次のものを表示します。

- 削除された VTV ごとの行。
- *DETail* が指定されている場合は、除外された (*NOTREF* 期間内に含まれなかった) VTV ごとの行。
- 次を示すサマリー。
 - 削除された VTV の合計数。
 - 除外された VTV の合計数 - スクラッチではない。
 - 除外された VTV の合計数 - 初期化されていない。
 - 除外された VTV の合計数 - 常駐でなく、移行されてもいない。
 - 除外された VTV の合計数 - *NOTREF* 期間内に参照された。
 - 除外された VTV の合計数 - *MAXVTV* の制限に達した。
 - 除外された VTV の合計数 - 指定された管理クラスに存在しない。

DIRBLD

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

DIRBLD コマンドは、定義されているすべての CDS コピーのデータベースディレクトリを再構築します。

制御データセットには各種の重要な場所へのポインタのディレクトリが含まれているため、破損すると、動作上の問題が発生する場合があります。HSC は通常、このようなエラーを自動的に修正します。*DIRBLD* ユーティリティーは、破損した CDS

データベースディレクトリを修復します。このユーティリティーは、HSC の停止または実行中にも動作してディレクトリの破損を修復できるため、継続的な操作を維持できます。これは、すべての CDS コピーを入力として使用して実行する必要があります。

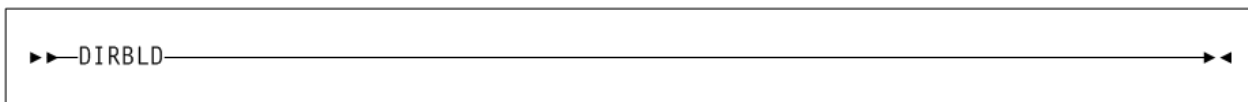
注意:

不適切な使用または不適切な動作状態によって CDS がさらに破損することがないようにするために、*DIRBLD* ユーティリティーを実行する前に Oracle StorageTek サポートに連絡してください。

構文

図3.29 「*DIRBLD* コマンドの構文」は、*DIRBLD* コマンドの構文を示しています。

図3.29 *DIRBLD* コマンドの構文



パラメータ

なし。

DISMount

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

DISMount コマンドは、カートリッジまたは VTV をマウント解除します。

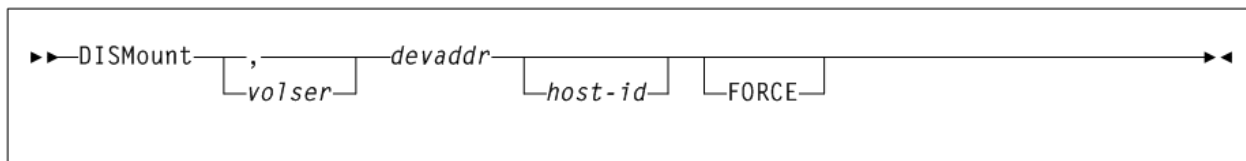
ボリュームはオペレーティングシステムによって巻き戻され、アンロードされることがありますが、実ドライブまたは VTD からマウント解除されない可能性があります。このコマンドは、ホストが特定の ACS と通信していない場合 (切断モード) のために用意されています。

引き続き通信しているホスト (接続モード) が、特定の ACS と通信できないホストのためにテープ処理を半自動で実行できる可能性があります。HSC または VTCS によってボリュームがマウント解除されない場合は、*DISMount* コマンドを発行する前に、ボリュームがアンロードされていることを確認する必要があります。

構文

図3.30 「*DISMount* コマンドの構文」は、*DISMount* コマンドの構文を示しています。

図3.30 *DISMount* コマンドの構文



パラメータ

図3.30 「*DISMount* コマンドの構文」に示すように、*DISMount* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser

オプションで、どのボリュームをマウント解除するかを指定します。*volser* オペランドはオプションです。これが指定されていない場合、ロボットはデバイス上にマウントされているどのようなボリュームでもマウント解除します。

volser が指定されない場合は、このオペランドがないことを示すために、デバイスアドレスの直前にコンマを入力する必要があります。例:

```
DISMOUNT ,B00
```

devaddr

ボリュームがマウント解除されるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、*DISMount* コマンドが、指定されたホスト (JES の SMF システム識別子) のデバイスアドレスに対して実行されることを示します。

FORCE

オプションで、ボリュームがマウント解除される前にドライブがアンロードされるように指定します。このパラメータは、仮想ドライブでは有効ではありません。

Display

Display コマンドは、さまざまな ELS コンポーネントのステータスと現在の設定を表示します。

このコマンドは、次の表に一覧表示されているいずれかのオプションとともに発行します。各オプションが個別に説明され、また以降のページではさらに詳細に説明されています。

表3.1 Display のオプション

オプション	説明
<i>Acs</i>	1 つ以上の ACS のステータス。
<i>ACTive</i>	アクティブな VTCS プロセス
<i>ALl</i>	CDS および ACS ステータス
<i>ALLOC</i>	HSC 割り当ての設定
<i>Cap</i>	CAP の設定とステータス
<i>CDS</i>	CDS のすべてのコピーのステータス、一部の操作設定 (クリーニングカートリッジ接頭辞、SMF レコードタイプなど)、および HSC で定義されたすべてのホストのステータス
<i>CLink</i>	クラスタリンクのステータス
<i>CLUster</i>	クラスタのステータス
<i>CMD</i>	ELS コマンドに関する詳細情報
<i>COMMPath</i>	HSC ホスト間通信の現在の設定
<i>CONFIG</i>	<i>CONFIG</i> パラメータの設定
<i>DRives</i>	トランスポートアドレスごとの現在のマウントアクティビティとキューに入れられたマウントアクティビティ
<i>DRIVE_INFO</i>	実ドライブまたは仮想ドライブのステータス情報
<i>EXceptns</i>	ハードウェアのステータス
<i>LINKSto</i>	レプリケーションリンクと <i>CLINK</i> のステータス情報
<i>LMUPDEF</i>	現在ロードされている定義データセット (<i>LMUPATH</i> 文を含む) に関する情報
<i>LOCKs</i>	VTCS ロックのステータス

オプション	説明
<i>Lsm</i>	LSM のステータス
<i>Message</i>	ELS メッセージに関する詳細情報
<i>MGMTDEF</i>	アクティブな <i>MGMTclas</i> 文に関する情報
<i>MIGrate</i>	移行ステータス
<i>MNTD</i>	<i>MNTD</i> コマンドによって設定された HSC マウントオプションの現在の設定
<i>MONitor</i>	モニタリングコンソールのリスト。このオプションの詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『 <i>ELS</i> レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
<i>MVC</i>	特定の MVC に関する情報
<i>MVCDEF</i>	アクティブな <i>MVCPool</i> 文に関する情報。このオプションの詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『 <i>ELS</i> レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
<i>MVCPool</i>	特定の MVC プールに関する情報
<i>OPTion</i>	<i>OPTion</i> コマンドによって設定された一般的な HSC オプションの現在の設定
<i>PATH</i>	VTSS から RTD または仮想ライブラリのどちらかへのパスのステータス。
<i>Queue</i>	キューに入れられた <i>VTCS</i> プロセスのステータス
<i>REPlicat</i>	<i>VTV</i> レプリケーションのステータス
<i>Requests</i>	保留中のすべての <i>LMU</i> 要求
<i>RTD</i>	1 つ以上の <i>RTD</i> の使用方法情報
<i>SCRatch</i>	サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディアタイプ、記録技法、または所有しているホスト名ごとのスクラッチカウント
<i>SCRPDEF</i>	現在ロードされている定義データセット (<i>SCRPOo1</i> 文を含む) に関する情報。このオプションの詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『 <i>ELS</i> レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
<i>SEN</i>	<i>SEN LISTEN</i> 要求とそのステータス。

オプション	説明
<i>SERVER</i>	サーバー (HSC) のステータス (サービスレベルと機能を含む)
<i>SRVlev</i>	このコマンドを発行しているシステム上の HSC の現在のサービスレベル
<i>Status</i>	このコマンドを発行しているホスト上で現在アクティブな保留中の要求のステータス
<i>STORCLas</i>	ストレージクラスに関する情報
<i>STORMNgr</i>	外部ストレージマネージャのステータス、および VTSS からそれに対して定義されているパス。
<i>TASKs</i>	タスクのステータス
<i>THRshld</i>	サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア名、および記録技法名ごとのスクラッチカウントとスクラッチしきい値の情報
<i>VOLDEF</i>	現在ロードされている定義データセット (<i>VOLATTR</i> 文を含む) に関する情報。このオプションの詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『 <i>ELS</i> レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
<i>Volser</i>	ボリューム情報
<i>VOLume_Info</i>	実ボリュームまたは仮想ボリュームのステータス情報
<i>VSCRatch</i>	仮想スクラッチカウントに関する診断情報
<i>VTD</i>	VTD のステータス
<i>VTSS</i>	VTSS のステータス
<i>VTV</i>	VTV のステータス

Display ACS

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

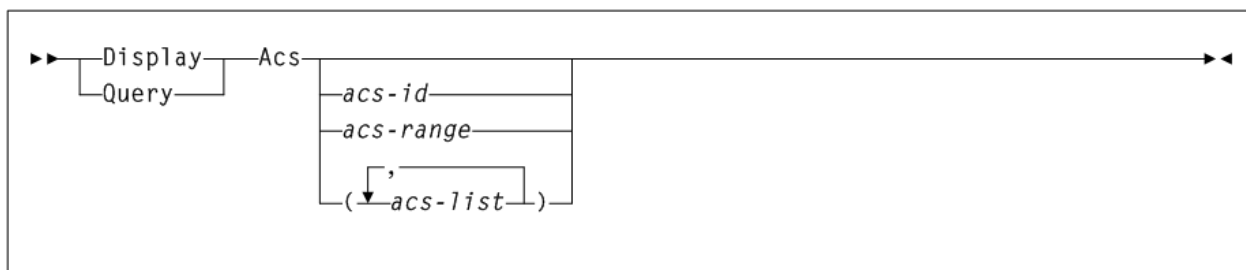
Display Acs コマンドは、1つ以上の ACS のステータスを表示します。この情報には、次のものが含まれる可能性があります。

- パーティション ID
- LMU と HSC の互換性レベル
- 冗長電子デバイスの接続 (すべてのライブラリコントローラのサマリー)
- 使用可能なスクラッチボリュームと空きセル

構文

図3.31 「*Display Acs* コマンドの構文」は、*Display ACS* コマンドの構文を示しています。

図3.31 *Display Acs* コマンドの構文



パラメータ

図3.31 「*Display Acs* コマンドの構文」に示すように、*Display Acs* コマンドには次のパラメータが含まれます。

acs-id、*acs-range*、または *acs-list*

システムでステータスを表示する 1つ以上の ACS。各 *acs-list* 要素は、1つの ACSid または ACSid の範囲のどちらでもかまいません。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

acs-id を指定しない場合は、ライブラリ内の定義されているすべての ACS のステータスが表示されます。

出力

次に、*Display Acs* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.7 Display ACS の出力

```

SLS0000I D ACS
SLS1969I User exit 15 module SLSUX15 INACTIVE
SLS1000I ACS 00 status: Connected
Active Queue elements          1
Partition ID=005
Compatibility levels: HSC=23, LMU=23
Redundant Electronics is Configured
Scratch Volumes available..... 0
Free Cells available.....      20
SLS1000I ACS 01 status: Disconnect

ACS slots available for COMPLEX  7

```

Display ACTIVE

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

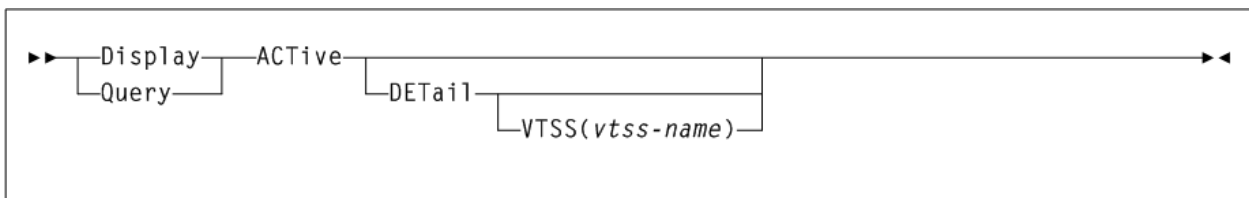
説明

Display ACTIVE コマンドは、アクティブな VTCS プロセスを表示します。

構文

図3.32 「Display ACTIVE コマンドの構文」は、*Display ACTIVE* コマンドの構文を示しています。

図3.32 Display ACTIVE コマンドの構文



パラメータ

図3.32 「Display ACTIVE コマンドの構文」に示すように、*Display ACTIVE* コマンドには次のパラメータが含まれます。

DETail

オプションで、詳細なステータスを表示します。

VTSS

オプションで、指定された VTSS のプロセスを表示します。

vtss-name は、VTSS 名を示します。

出力

次に、*Display Active* コマンド (詳細なし) によって生成された出力の例を示します。

例3.8 Display ACTIVE の出力 (詳細なし)

```
MIGRATES=3 RECALLS=2 RECLAIMS=0
```

次に、*Display Active DETail* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.9 Display Active DETail の出力

Function	ID	VTV	MVC	RTD	VTSS	Task	Reason
Reclaim@	62180	-	-	-	-	RCM	Child Finish
.ReclmMVC	62251	-	V10191	-	-	RCM	Child Finish
.VtvMover	62254	-	V10191	-	-	RCM	Child Finish
. Migrate	02003	-	-	-	TVSM22N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02090	-	-	-	TVSM22N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02148	-	-	-	TVSM22N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02163	-	-	-	TVSM22N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02184	-	-	-	TVSM22N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02229	-	-	-	TVSM20N1	Drv	MVC for command
. Migrate	02242	-	-	-	TVSM20N1	Drv	MVC for command
Display@	02277	-	-	-	-	DSP	

注:

**ABORT* は、リクレイム要求が取り消されたか、または異常終了した場合にその要求の表示に現れます。

フィールド

Function 列は、要求の階層をインデントによって示します。**VTSS** 列は、VTSS 名または VTSS リストのどちらかを示します。**Task** 列は、この要求を現在どのタスクが処理しているかを示します (*Display Tasks* で報告されるものと同じ情報)。

指定されたパラメータによっては、出力に特定の VTSS に対する要求のみ (キューに入れられた状態にある要求のみ、アクティブな状態にある要求のみ、またはすべて

の要求) が含まれる場合があります。この例に示すように、要求の性質やステータスに関する追加情報を公開するために **VTV** および **MVC** 列も使用されます。

Function

要求のタイプ。要求の階層とそれらの関係は、この列内の値のインデントによって暗黙的に指定されます。**Function** の前にあるピリオド (.) は、この **Function** が子であることを示します。

Function は、次のいずれかの値を取ることができます。

AllocSCR

スクラッチ VTV のジョブ割り当て要求。

AllocVTV

特定の VTV のジョブ割り当て要求。

Audit#

Audit ユーティリティーの要求。

Cancel@

取り消しコマンド。

Consolid#

統合またはエクスポートユーティリティータスク。

Consolid

統合 MVC への再移行のために VTV をリコールします。これは、*Int_cons* または *Consolid#* 要求に対する子要求として表示されます。

DELETSCR

スクラッチ削除ユーティリティー。

Dismount

VTD から VTV をマウント解除します。

Display@

Display または *Query* コマンド。

Drain

ドレインまたはリクレイム処理中の再移行のために MVC から VTV をリコールします。これは *VtvMover* 要求の子です。

Drain@

Drain コマンドまたはユーティリティー。

DrainMVC

ドレインされている MVC ごとに 1 つの *DrainMVC* 要求があります。*Drain@request* の子要求である *DrainMVC* は、1 つの MVC のドレインプロセス全体を管理する役割を果たします。**VTV** 列は、MVC に対する処理のステータスを示すために使用されます。

Getconfig

構成情報を取得します。

Getmgpol

現在の管理とストレージクラスの定義を取得します。

HSCChnge

変更されているパラメータファイルの通知。

Import#

ユーティリティによる VTV または MVC のインポート。

Int_cons

PGMI によって開始された統合要求。

Inventry

INVENTORY ユーティリティ。

MEDVERfy

メディア検証の親タスク

Mig_set@

移行しきい値設定コマンド

Mig_thr@

しきい値までの移行コマンド。

Migrate

VTV の MVC への移行を実行するための一般的な要求。これは、ほかのいくつかの要求タイプに対する子として表示されることがあります。

Migrate@

Migrate コマンドまたはユーティリティ。これには、しきい値への移行と自動移行が含まれます。後者の 2 つは、コマンドのソースやターゲットのしきい値に関して、**VTV** および **MVC** 列にさらに詳細に示されています。

Mount

VTD 上に VTV をマウントします。*MoveVTV#* 要求の子要求である *Move MVC* は、1 つの MVC の VTV 移動プロセス全体を管理する役割を果たします。状況に応じて、これはあとで VTV の転送またはリコール要求として表示されることがあります。**VTV** 列は、MVC に対する処理のステータスを示すために使用されます。

Move MVC

調整またはアーカイブによって処理されている MVC ごとに 1 つの *Move MVC* 要求があります。*MoveVTV#* 要求の子要求である *Move MVC* は、1 つの MVC の VTV 移動プロセス全体を管理する役割を果たします。**VTV** 列は、MVC に対する処理のステータスを示すために使用されます。

MoveVTV#

これは、MVC 間で VTV のコピーを移動するための *ARCHIVE* または *RECONCILE* ユーティリティコマンドからの要求です。**VTV 列内の値「-TIME-」** は、*ELAPSED* パラメータが指定されたことを示します。

MVC_chek

MVC に照会します。MVC のステータスを確認します。

MVC_eot

ドレインまたはリクレイムを完了したあと、MVC のテープ位置の最後をリセットします。これは、*DrainMVC*、*Rec1mMVC*、または *Move MVC* 要求の子です。

MVC_inv

MVC の監査。これは、*Audit#* 要求に対する子要求として表示されます。

MVC_upd

MVC ステータスをリセットまたは更新します。

MvcMaint

MVCMAINT ユーティリティーの要求。

MVCpool#

ユーティリティーのための MVC プールの詳細とステータスを取得します。

PGMI_req

まだデコードされていない、PGMI インタフェース経由で受信された要求。

QRY/SET@

Query または *Set* コマンド。

Query@

Query または *Display* コマンド。

Recall

VTV の MVC からのリコールを実行するための一般的な要求。これには、マウントシステムからの Cross TapePlex Autorecall (CTA) 要求が含まれることがあります。

Recall は、ほかのいくつかの要求タイプに対する子として表示されることがあります。

Recall@

Recall コマンドまたはユーティリティー。

Reclaim@

Auto reclaim 要求、あるいは *Reclaim* コマンドまたはユーティリティー。**VTV 列内の値「-TIME-」** は、*ELAPSED* パラメータが指定されたことを示します。

ReclmMVC

リクレイムされている MVC ごとに 1 つの *ReclmMVC* 要求があります。*Reclaim@* 要求の子要求である *ReclmMVC* は、1 つの MVC のリクレイムプロセス全体を管理する役割を果たします。**VTV 列**は、MVC に対する処理のステータスを示すために使用されます。

Reconcil

クラスタ内の 2 つの VTSS の内容間のクロスチェックを実行します。

Replicat

クラスタ内の VTSS 間で VTV のレプリケーションを実行します。

Scratch

HSC からの VTV 要求のスクラッチ。

Sel_scr

PGMI スクラッチ選択。

Set@

Set コマンド。

Trace@

Trace コマンド。

Transfer

2つの VTSS 間で VTV を転送することによって、VTD 上に VTV をマウントします。

Unload

RTD から MVC をアンロードします。

Unscratch

HSC からの *Unscratch a VTV* 要求。

Vary@

Vary コマンド。このコマンドは、CLINK、VTSS、ACS などのリソースに適用されます。

Vary_dev

個々の RTD または CLINK に対して *Vary* 処理を実行します。これは、*VARY@* 要求に対する子要求として表示されます。

VTSS_inv

VTSS の監査。これは、*Audit#* 要求に対する子要求として表示されます。

VTSS_list

VTSS 内の VTV 常駐のリストを取得します。これは、*Reconci1* または自動移行要求に対する子要求として表示されます。

VTV_chek

VTV に照会します。

VTV_list

VTSS 内の VTV 常駐のリストを取得します。これは、*Reconci1* または自動移行要求に対する子要求として表示されます。この Function は、*VTS0B*、*VTS0C*、または *VTS0D*、場合によってはその他の同様のものの無効な VTV ID を表示できます。また、*SS* の *VTSS ID* とタスクも表示します。無効な VTV ID は、VTCS がほかの内部の目的のために VTV/MVC *volser* を保持するフィールドを使用する場合があります、表示ルーチンでこれらの場合が除外されないために発生することがあります。

VTV_upd

VTSS 内の VTV のステータスを CDS と再同期します。

VtvMaint

VTVMaint ユーティリティーの要求。

VTVMover

ドレインまたはリクレイムされている MVC ごとに 1つの *VTVMover* 要求があります。これは、*DrainMVC*、*ReclmMVC*、または *Move MVC* 要求の子です。この要求は、VTV をある MVC から別の MVC に移動する役割を果たします。

ID

0-65536 の範囲内にある一意の番号であるプロセス ID。プロセス ID が 65536 に達すると、0 に戻されます。

VTV

現在プロセスで使用されている VTV の volser。一部の要求タイプの場合、これには、要求の性質やステータスに関連した追加情報が含まれます。

MVC

現在プロセスで使用されている MVC の volser。一部の要求タイプの場合、これには、要求の性質やステータスに関連した追加情報が含まれます。

VTSS

要求に関連付けられた VTSS または VTSS リスト名。特殊な値 !ALLVTSS は、適切な要件を備えた任意の VTSS が使用されることを示します。

RTD

現在プロセスで使用されている RTD のユニットアドレス。

TASK

キューを処理しているタスク、または要求がキューに入れられているタスク (*Display Tasks* で報告されるものと同じ情報)。**Task** は、次のいずれかの値を表示します。

Clk

CLINK プロセッサタスク。

CMD

コマンドプロセッサタスク。

Csh

Clink スケジューラタスク。

DRV

RTD スケジューラタスク。

DSP

メインディスクパッチャータスク。

INV

インベントリマネージャーまたは監査タスク。

MSc

移行スケジューラタスク。

MVC

MVC ロックタスク。

RCM

ドレイン/スペースリクレイムマネージャータスク。

RTD

RTD タスク。

Scr

スクラッチマネージャータスク。

SS

VTSS タスク。

TSK

ほかのホスト上でのロック処理の待機中。

unk

不明なタスク。

VTD

VTD の待機中。

VTV

VTV ロックの待機中。

REASON

要求がキューに入れられている理由を示します (キューに入れられたプロセスのみ)。

ACTIVE

要求は現在処理されています。

CANCELLED

要求は取り消されたあとに終了しています。

Child Finish

要求には子要求があり、それらの完了を待機しています。

Created

要求は作成されています。

DBU DROP

DBU が高いため、要求は現在保持されています。

DEVICE LOCK

要求に必要な RTD または CLINK デバイスが現在ロックされています。これは一般に、別のホストとの競合を示します。

MVC dismount

要求は MVC のマウント解除を待機しています。

MVC for Class

MVC の選択で *SCHLIMIT* のストレージクラスの制限に達しました。

MVC for Command

MVC の選択で *SCHLIMIT* のコマンド並列性の制限に達しました。

MVC for Funct

MVC の選択で *SCHLIMIT* の機能の制限に達しました。

MVC LOCK

要求は MVC 上のロックが解放されるのを待機しています。

MVC MOUNT

要求は MVC がマウントされるのを待機しています。

MVC SELECTION

要求はキューに入れられ、MVC または移行スロットが使用可能になるのを待機しています。

MVC/SCHLIMIT=0

MVC の選択で *SCHLIMIT=0* が指定されたことが確認されました。

QUEUED

要求はタスクの入力キュー内に存在し、別の要求が完了するか、または再スケジュールされるのを待機しています。

RTD ALLOCATION

要求はキューに入れられ、RTD がアイドル状態になるか、または解放されるのを待機しています。

RTD LOCK

要求は RTD 上のロックが解放されるのを待機しています。

RTD ONLINE

要求を継続するには RTD がオンラインになることが必要です。

STEAL A RTD

要求は、別の要求から RTD 割り当てを横取りするために待機しています。

TASK LOCK

要求は一般的なタスクロックが解放されるのを待機しています。これは一般に、別のホストとの競合を示します。

VTD LOCK

要求は VTD 上のロックが解放されるのを待機しています。

VTVLOCK

要求は VTV 上のロックが解放されるのを待機しています。

Wait child

要求は削除されましたが、子要求の完了を待機しています。

WAIT RESOURCE

要求は (不特定の) リソースが使用可能になるのを待機して保持されています。

Wait lock

要求はロックが解放されるのを待機しています。

Display ALI

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

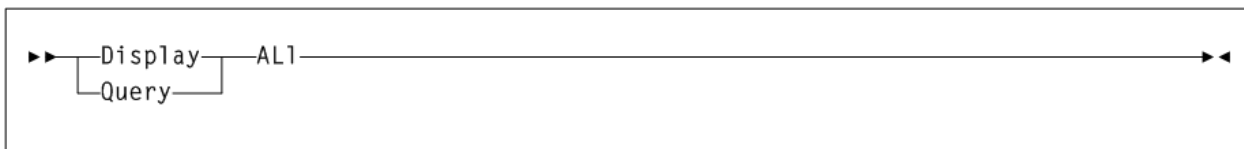
説明

Display ALI コマンドは、CDS および ACS ステータスを表示します。

構文

図3.33 「[Display ALI コマンドの構文](#)」は、*Display ALI* コマンドの構文を示しています。

図3.33 Display ALI コマンドの構文



パラメータ

なし。

Display Cap

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

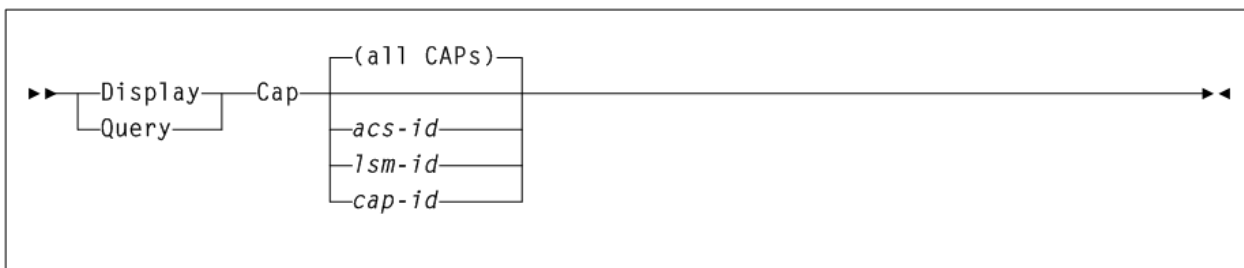
説明

Display Cap コマンドは、CAP の設定とステータスを表示します。

構文

図3.34 「*Display Cap コマンドの構文*」は、*Display Cap* コマンドの構文を示しています。

図3.34 Display Cap コマンドの構文



パラメータ

図3.34 「*Display Cap コマンドの構文*」に示すように、*Display Cap* コマンドには次のパラメータが含まれます。

注:

CAP ステータスが *RECOVERY* を示している場合は、この状態をクリアする方法について Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

all CAPs

このホストに対してオンラインであるすべての ACS のすべての CAP アクティビティを表示します。

acsid

オプションで、指定された ACS のすべての CAP アクティビティを表示します。

lsmid

オプションで、指定された LSM のすべての CAP アクティビティを表示します。

capid

オプションで、指定された CAP のすべての CAP アクティビティを表示します。

注:

- *acs-id*、*lsm-id*、および *cap-id* パラメータは定位置オペランドです。定位置オペランドが指定されていない場合は、デフォルトの操作として、すべての ACS のすべての CAP アクティビティのステータスを表示します。
- *acs-id*、*lsm-id*、および *cap-id* は、リストとして表すことができます。

出力

次に、36 スロットの容量を持つ一括 CAP に対して *Display Cap* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.10 Display Cap の出力

```
SLS0000I D CAP
SLS2008I CAP Status: 874
CAP ID      Size      Partid  Hostid  Priority  Mode      Status
-----
00:00:00   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:00:01   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:01:00   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:01:01   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:02:00   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:02:01   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
                                Online
00:03:00   36-CELL   None    None    00        Idle      Manual
```

00:03:01	36-CELL	None	None	00	Idle	Online Manual Online
----------	---------	------	------	----	------	----------------------------

Display Cap コマンドは、次の情報を表示します。

- CAPid
- CAP サイズ:
 - PCAP (優先 CAP)
 - 21 セルまたは 14 セル 9740 (標準 CAP)
 - 40 セル (拡張 CAP)
 - 20 セル (9360 CAP)
 - 30 セル (9360 オプション CAP)
 - 26 セル (SL3000 CAP)
 - 234 セル (SL3000 AEM CAP)
 - 39 セル (SL8500 CAP)
 - 36 セル (SL8500 一括 CAP)
- パーティション ID
- CAP を所有しているホストのホスト ID
- 優先順位: CAP 設定値
- CAP モード:
 - *cleaning*
 - *draining*
 - *ejecting*
 - *entering*
 - *idle*
- CAP ステータス:
 - *active*
 - *automatic mode*
 - *manual mode*
 - *offline*
 - *online*
 - *recovery needed*

Display CDS

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

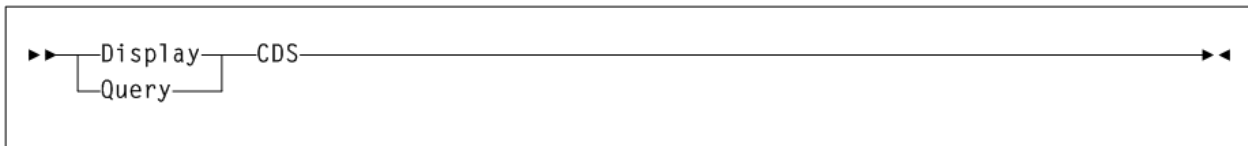
説明

Display CDS は、CDS のすべてのコピーのステータス、プライマリおよびセカンダリログファイル、操作設定 (クリーニングカートリッジ接頭辞、SMF レコードタイプなど)、および HSC で定義されたすべてのホストのステータスを表示します。

構文

図3.35 「[Display CDS コマンドの構文](#)」は、*Display CDS* コマンドの構文を示しています。

図3.35 Display CDS コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

次に、*Display CDS* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.11 Display CDS の出力

```

SLS0000I D CDS
SLS1969I User exit 15 module SLSUX15 INACTIVE
SLS2716I Database Information 951

PRIMARY   = SEA710.SPRG1.DBASEPRM.LGEN8501
VOLSER    = HSC20J ACTIVE
SECONDARY = SEA710.SPRG1.DBASESEC.LGEN8501
  
```



```
VOLSER   = HSC20G  ACTIVE

CDS LEVEL = 060100          VER = 16012446

CDS CREATE      = 20141203 13:49:56
LAST CDS BACKUP = NONE
LAST CDS RESTORE = NONE

CDS BLOCK COUNT = 7,200
CDS FREE BLOCKS = 4,135
ENQNAME        = STKSBADD   SMFTYPE = 245
CLEAN PREFIX   = CLN        LABTYPE = (00) SL

NO LOG FILE DSN(S) DEFINED

VAULT RECORDS NOT FOUND IN THIS CDS

CDKLOCK RECORDS NOT FOUND IN THIS CDS

LAST NCO ON ECCY
  START = 12/03/14 13:50:55
  END   = 12/03/14 13:53:19

HOSTID---LEVEL---DESCRIPTION-----
ECCL    -.-.- -INACTIVE-
ECCY    7.1.0  ACTIVE PRIMARY SECONDARY
EC20    -.-.- -INACTIVE-
EC21    -.-.- -INACTIVE-
```

Display CLink

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

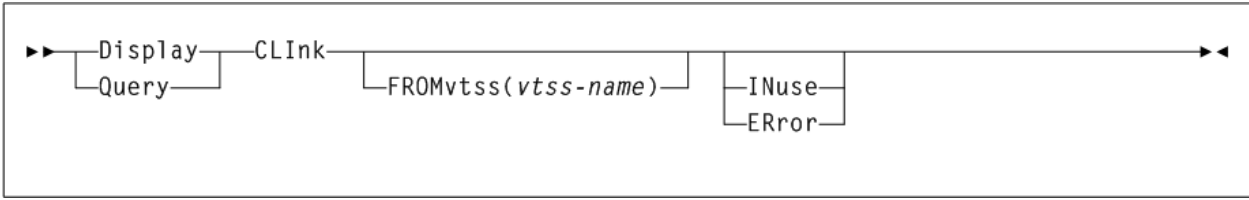
説明

Display CLink コマンドは、クラスタリンク (CLINK) のステータスを表示します。オプションで、VTSS のレベルで CLINK ステータスを表示したり、使用中の CLINK またはエラー状態にある CLINK のみを表示したりできます。

構文

図3.36 「[Display CLink コマンドの構文](#)」は、*Display CLink* コマンドの構文を示しています。

図3.36 Display CLink コマンドの構文



パラメータ

図3.36 「Display CLink コマンドの構文」に示すように、*Display CLink* コマンドには次のパラメータが含まれます。

FROMvtss(vtss-name)

オプションで、CLINK を表示する VTSS の名前を指定します。

INuse

オプションで、使用中の CLINK のみを表示します。

ERror

オプションで、エラー状態にある CLINKS のみを表示します。

注:

INuse と *ERror* は相互に排他的です。

出力

次に、パラメータなしの *Display CLink* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.12 Display CLink の出力 (パラメータなし)

```

VTSS      Clink   Name      Status   Usage    Host      Partner  VTD
HBVTSS16  07 1A:0 PLEXNAME Online   Free     REMOTEAA 7
           06 1E:0 PLEXNAME Online   Free     REMOTEBB 6
HBVTSS18  07 1A:0 -Cluster Online   Free     HBVTSS19 AB07
           06 1E:0 -Cluster Online   Free     HBVTSS19 AB06
*SLS5013I Command completed (0)
  
```

次に、VTSS *DVTSS18* によって所有されている CLINK の出力を表示するために *FROM(DVTSS18)* を指定した *Display CLink* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.13 Display CLink の出力 (FROMvtss の指定あり)

```

VTSS      Clink   Name      Status   Usage    Host      Partner  VTD
  
```

```
DVTSS18 08 C0I SECNDARY On-Sync Free          DVTSS17 #008
          09 C1I SECNDARY On-Sync Free          DVTSS17 #009
```

フィールド

Display CLink コマンドの出力には次のフィールドが含まれます。

VTSS

プライマリまたは送信側 VTSS 名。

CLINK

VTSS 内の CLINK に割り当てられているデバイス ID と、それが接続されているバックエンドチャンネルインタフェースの合成。

NAME

次のいずれかの値です。

name

CLINK が接続されている TapePlex の名前。これはまた、その CLINK が VTV の電子エクスポートに使用されることも示しています。**Partner** 列内の VTSS 名は、この CLINK 経由で VTV コピーを受信する VTSS を示します。

-Cluster

この CLINK が TapePlex 内の VTV のレプリケーションに使用され、クラスタの一部になっていることを示します。**Partner** 列内の VTSS 名は、クラスタ内で動作するもう一方の VTSS を示します。

STATUS

次のいずれかのリンクステータスです。

Maint

リンクに障害が発生したか、またはリンクが保守モードに移行しました。

Offline

リンクはオフラインであり、すべてのホストおよび VTSS から使用できません。

Online

リンクはレプリケーションに使用できます。

P_offlne

リンクはオフラインを保留中です。

P_online

リンクはオンラインを保留中です。

On-Sync

同期レプリケーションに使用できます。

On-Async

非同期レプリケーションに使用できます。

Recovery

リンクは、エラーまたはオンライン移行操作のあとのリセット中です。

Unusable

ハードウェアエラーまたは割り当て先不明状態のためにレプリケーションに使用できません。

UUI err

これは電子エクスポート用に定義された CLINK であり、リモート VTCS に接続できなくなりました。この問題の原因を示すメッセージが HSC *JOBLOG* 内に存在します。これには、定義 (ローカル SMC またはリモート VTCS 上のリモート HTTP サーバー) に関する問題が含まれる可能性があります。

USAGE

次のいずれかのリンク使用状況です。

Assigned

リンクは「**HOST**」フィールド内のホストに割り当てられていますが、現在レプリケートしていません。この使用状況は、VTCS がリンクの使用を開始または終了しているか、あるいはレプリケーションの失敗のあとにリンク上のエラーを回復しようとしている場合に発生します。

Free

リンクはアイドル状態です (レプリケーションを実行していません)。

Replicating

リンクはアクティブにレプリケーションを実行しています。

HOST

リンクの割り当て先のホスト。

PARTNER

セカンダリまたは受信側 VTSS。

VTD

接続のもう一方の端点を形成するパートナー VTSS 上の VTD のアドレス。クラスタリンクの場合は、VTD の MSP アドレスが報告されます。電子エクスポートリンクの場合は、もう一方の TapePlex 構成にアクセスできないため、これは不可能です。この場合は、VTV の順序番号のみが報告されます。

Display CLUster

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

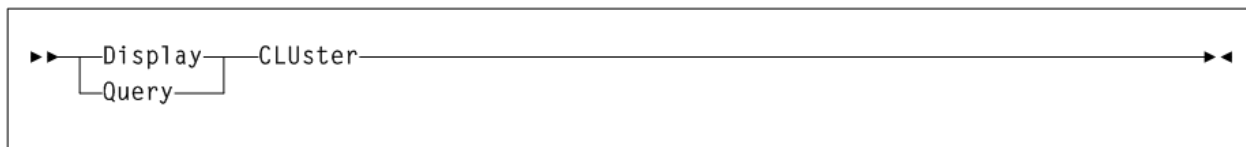
説明

Display CLUster コマンドは、クラスタのステータスを表示します。

構文

図3.37 「Display CLUster コマンドの構文」は、*Display CLUster* コマンドの構文を示しています。

図3.37 Display CLUster コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

次に、*Display CLUster* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.14 Display CLUster の出力

NAME	VTSS	STATE	DIRECTION	VTSS	STATE	MODE
CLUSTER1	HBVTSS16	ONLINE	----->	HBVTSS17	ONLINE	Sync-replicate
CLUSTER2	HBVTSS18	ONLINE	<-----	HBVTSS19	QUIESCED	DEGRADED
CLUSTER3	HBVTSS20	ONLINE	<-----	HBVTSS21	ONLINE	Async-replicate
CLUSTER4	HBVTSS22	QUIESCED	----->	HBVTSS23	ONLINE	DEGRADED

フィールド

Display CLUster コマンドの出力には次のフィールドが含まれます。

NAME

クラスタ名。

VTSS

クラスタ内のいずれかの VTSS。

DIRECTION

次のいずれかです。

----> または <----

単方向クラスタ内の VTV レプリケーションの方向を示します。VTV は、送信側 VTSS から受信側 VTSS にのみレプリケートできます。

<---->

VTSS が双方向 (ピアツーピア) クラスタとして構成されていることを示します。VTV は、どちらの VTSS からでももう一方の VTSS にレプリケートできます。

STATE

次のいずれかの VTSS の状態です。

QUIESCING

静止中状態。

QUIESCED

静止状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留中状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留中状態。

STARTED

VTSS は初期化され、要求された状態 (オンライン、オフライン、または静止) に変更する処理が行われています。

MODE

次のいずれかのクラスタ動作モードです。

Async-replicate

クラスタ内の両方の VTSS が VTCS に対してオンラインです。本番ワークロードはどちらの VTSS にも移動できますが、単方向 (プライマリ/セカンダリ) クラスタでは、VTV は送信側 VTSS からのみレプリケートできます。同期レプリケーションがクラスタ全体で有効になっていません。

Sync-replicate

クラスタ内の両方の VTSS が VTCS に対してオンラインです。本番ワークロードはどちらの VTSS にも移動できますが、単方向 (プライマリ/セカンダリ) クラスタでは、VTV は送信側 VTSS からのみレプリケートできます。同期レプリケーションがクラスタ全体で有効になっています。

Degraded

双方向 (ピアツーピア) クラスタ内の 2 つの VTSS のいずれかがオフラインまたは静止状態です。本番ワークロードは、残りのオンライン VTSS に移動できます。ただし、レプリケーションが必要な VTV が残りの VTSS に割り当てられるのは、ほかのどの全機能クラスタも使用できず、かつ適切でない場合だけです。この場合、レプリケート VTV は **keep** を指定してただちに移行され、もう一方の VTSS がオンラインになったときのレプリケーションのキューに入れられます。

もう一方の VTSS がオンラインになると、VTCS が両方の VTSS の内容を調整します。

Degraded-2ndary

プライマリは VTCS に対してオンラインであり、セカンダリはオフラインまたは静止状態です。ワークロードは、プライマリ上で実行できます。ただ

し、レプリケーションが必要な VTV がプライマリに割り当てられるのは、ほかのどの全機能クラスタも使用できない場合だけです。この場合、レプリケート VTV は keep を指定してただちに移行され、セカンダリがオンラインになったときに実行されるレプリケーションのキューに入れられます。

Degraded primary

セカンダリは VTCS に対してオンラインであり、プライマリはオフラインまたは静止状態です。ワークロードは、セカンダリ上で実行できます。ただし、レプリケーションが必要な VTV がセカンダリに割り当てられるのは、ほかのどの全機能クラスタも使用できない場合だけです。プライマリがオンラインに戻ると、VTCS がプライマリとセカンダリの内容を調整します。

Non-operational

このクラスタ上ではどのワークロードも使用できません。

CLINKs offline

定義されているすべての CLINK がオフラインです。このクラスタ上ではどのワークロードも使用できません。

Only 2ndary

セカンダリは VTCS に対してオンラインであり、プライマリにはオンラインの CLINK がありません。ワークロードは、セカンダリ上で実行できます。ただし、レプリケーションが必要な VTV がセカンダリに割り当てられるのは、ほかのどの全機能クラスタも使用できない場合だけです。

Only primary

プライマリは VTCS に対してオンラインであり、セカンダリにはオンラインの CLINK がありません。ワークロードは、プライマリ上で実行できます。ただし、レプリケーションが必要な VTV がプライマリに割り当てられるのは、ほかのどの全機能クラスタも使用できない場合だけです。この場合、レプリケート VTV は keep を指定してただちに移行され、レプリケーションのキューに入れられます。

Display CMD

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

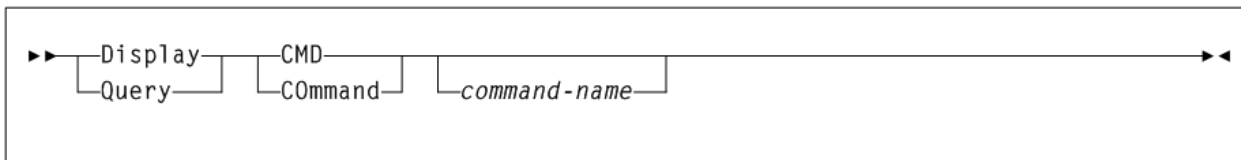
説明

Display CMD コマンドは、VTCS または HSC コマンドの構文および使用方法情報を表示します。

構文

図3.38 「Display CMD コマンドの構文」は、*Display CMD* コマンドの構文を示しています。

図3.38 Display CMD コマンドの構文



パラメータ

図3.38 「Display CMD コマンドの構文」に示すように、*Display CMD* コマンドには次のパラメータが含まれます。

CMD または **COmmand**

コマンド名。command-name が指定されていない場合は、すべての HSC/VTCS コマンドのリストが生成されます。

command-name

コマンド名。command-name が指定されていない場合は、すべての HSC/VTCS コマンドのリストが生成されます。

複数のオプションを受け入れる特定のコマンド (*Display* を含む) では、2つの部分から成るコマンドを入力できます。例:

```
D CMD D VTV
```

このコマンドは、*Display VTV* コマンドのみのヘルプ情報を表示します。

Display COMMPath

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

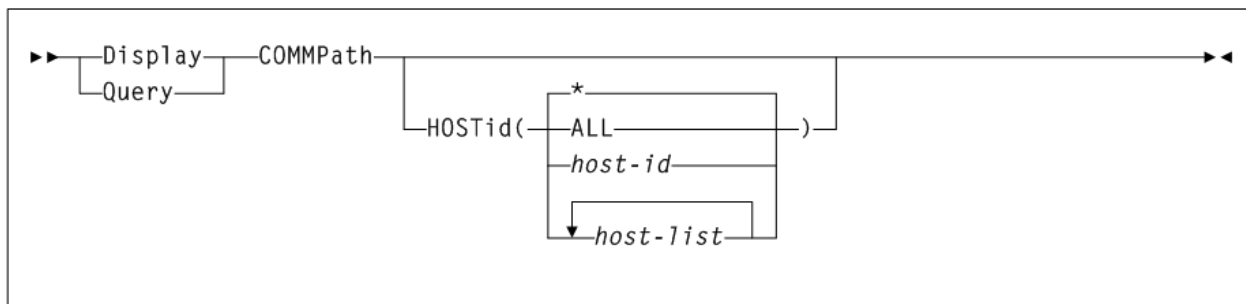
説明

Display COMMPath コマンドは、HSC ホスト間通信の現在の設定を表示します。

構文

図3.39 「Display COMMPath コマンドの構文」は、*Display COMMPath* コマンドの構文を示しています。

図3.39 Display COMMPath コマンドの構文



パラメータ

図3.39 「Display COMMPath コマンドの構文」に示すように、*Display COMMPath* コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTID

オプションで、特定のホストに関する情報を取得することを示します。

ALL

定義されているすべてのホストの設定を表示します。環境内のホストの数によっては、表示に極端に長い時間がかかる場合があります。

host-id または host-list

情報を表示する1つまたは複数のホスト。HSCは、指定されたホストごとの現在の設定を表示するコンソールメッセージを発行します。

host-list 内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。範囲は有効ではありません。

*

このコマンドを入力するホストの設定を表示します。これは、*HOSTid* が値なしで指定されている場合のデフォルトです。

Display CONFIG

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

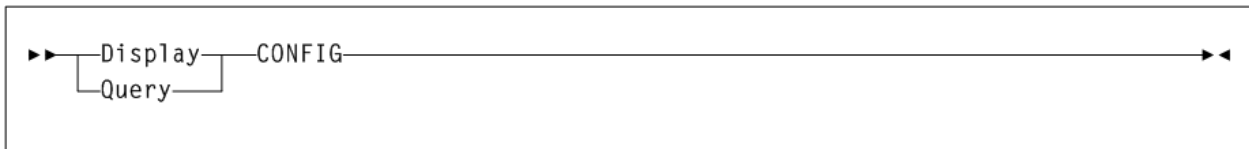
説明

Display CONFIG コマンドは、*CONFIG* パラメータの設定を表示します。

構文

図3.40 「*Display CONFIG* コマンドの構文」は、*Display CONFIG* コマンドの構文を示しています。

図3.40 *Display CONFIG* コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

次に、*Display CONFIG* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.15 *Display CONFIG* の出力

```
SLS6603I Configuration information
MaxVTV  MVCFree  VTVAttr  RECALWER  REPlicat  VTPPAGE  SYNCHREP
4000    2          Scratch  Yes       Always    Standard No

MAXRTDs  FASTMIGR  INITMVC  MAXVTVSZ  FASTRECL  LOCKTOUT
32       Yes    Yes      4000     Yes       10

NLIBDRNR  NLIBMIGR  NLIBRECL  MVCMNTO  LOGPOL
No        No       No        15       Optional

This tapeplex: LOCALPLX

CDS level support:  V5/5.1  V6  V6.1  V6.2  V7  V7.1
                   *      *      *

Reclaim : Max MVC  Start  Conmvc  Threshold: Tape VL
           4        10     1         30    70

Reclaim: MaxMVC Start Conmvc Inplace  Threshold: Tape  VL  Inpthrsh
           4      10     1      No     45    30    15

          Auto Migr Thr  Migr Tasks  Default  VSM  2GB/  Page  RTDs
VTSSNAME Low  High   Min  Max    ACS   Model 4GB  Size  Yes
DVTSS16  65   70    2   3     FF   5     Yes Large
```

Devno	RTD Type	Inplace	ACS	Retain	VTSSNAME	RTD NAME	CHANIF
2A00	36TRACK	No	00	10	DVTSS16	SS162A00	00 0A:1
2A01	36TRACK	No	TMSPB	10	DVTSS16	SS162A01	01 0A:0
2A02	36TRACK	No	00	10	DVTSS16	SS162A02	02 0E:0

フィールド

Display CONFIG コマンドの出力には次のフィールドが含まれます。

注:

CONFIG GLOBAL 文のパラメータの詳細は、[「CONFIG GLOBAL 文」](#)を参照してください。

MaxVTV

CONFIG GLOBAL MAXVTV 設定。

MVCFree

CONFIG GLOBAL MVCFREE 設定。

VTVAttr

CONFIG GLOBAL VTVattr 設定 (*SCRATCH* または *ALLmount*)。

RECALWER

CONFIG GLOBAL RECALWER 設定 (*YES* または *NO*)。

REPicat

CONFIG GLOBAL REPicat 設定 (*ALWAYS* または *CHANGED*)。

VTVPAGE

CONFIG GLOBAL VTVPAGE 設定 VTV のページサイズ (*STANDARD* または *LARGE*)。

SYNCHREP

CONFIG GLOBAL SYNCHREP 設定 (*YES* または *NO*)。

MAXRTDS

CONFIG GLOBAL MAXRTDS 設定 (16 または 32)。

FASTMIGR

CONFIG GLOBAL FASTMIGR 設定 (*YES* または *NO*)。

INITMVC

CONFIG GLOBAL INITMVC 設定 (*YES* または *NO*)。

MAXVTVSZ

CONFIG GLOBAL MAXVTVSZ 設定 (400、800、2000 または 4000)。

FASTRECL

CONFIG GLOBAL FASTRECL 設定 (*YES* または *NO*)。

LOCKTOUT

CONFIG GLOBAL LOCKTOUT 設定 (0 または 5-240)。

NLIBDRNR

CONFIG GLOBAL NLIBDRNR 設定 (*YES* または *NO*)。

NLIBMIGR

CONFIG GLOBAL NLIBMIGR 設定 (*YES* または *NO*)。

NLIBRECL

CONFIg GLOBAL NLIBRECL 設定 (YES または NO)。

MVCMNTTO

CONFIg GLOBAL MVCMNTTO 設定 (5-30 分)。

LOGPOL

CONFIg GLOBAL LOGPOL 設定 (OPTional または REQuired)。

CDSLEVEL SUPPORT

アクティブな CDS にアクセスできる VTCS レベル。

THRESHLD

RECLAIM THRESHLD 設定。

MAX MVC

RECLAIM MAXMVC 設定。

START

RECLAIM START 設定。

CONMVC

RECLAIM CONMVC 設定。

VTSSNAME

VTSS 識別子 (VTSS NAME 設定)。

AUTO MIGR THR, LOW

VTSS の自動移行の低しきい値の設定 (LAMT)。

AUTO MIGR THR, HIGH

VTSS の自動移行の高しきい値の設定 (HAMT)。

MIGR TASKS, MIN

VTSS の同時処理する自動移行タスクの設定の最小数 (MINMIG)。

MIGR TASKS, MAX

VTSS の同時処理する自動移行タスクの設定の最大数 (MAXMIG)。

DEFAULT ACS

VTSS のデフォルトの ACS 設定 (DEFLTACS)。

VSM MODEL

2、3、または 4。

2GB / 4GB

2G バイト/4G バイトの VTV サイズに構成された VTSS (Y または N)。

PAGE SIZE

VTV のページサイズ (STANDARD または LARGE)。

RTDs

VTSS に RTD が存在するかどうかを示します。

DEVNO

VTCS によって生成された VTSS の RTD MSP デバイス番号 (RTD DEVNO 設定)、
または VLE のデバイス番号。

- シングルノードの VLE デバイス番号は「V」で始まります。
- マルチノードの VLE デバイス番号の先頭には「S」が付加されます。

RTD TYPE

RTD タイプ。これには VLE デバイスタイプが含まれる場合があります。

Inplace

Storclas INPLACE 設定。

ACS

- ローカルのテープドライブの場合、この列には、そのドライブの接続先の ACS または LSM が表示されます。
- リモート RTD の場合、この列には「*name:number*」が表示されます。ここで、*name* は TapePlex の名前を示し、*number* は ACS の数 (10 進数) を示します。
- VLE の場合、この列には VLE 名が表示されます。

RETAIN

VTSS RETAIN 設定。

VTSSNAME

RTD に接続された VTSS の VTSS 識別子 (*VTSS NAME* 設定)。

RTD NAME

VTSS の RTD 名 (*RTD NAME* 設定)。

CHANIF

RTD チャンネルインタフェース (*RTD CHANIF* 設定)。

Display DRives

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

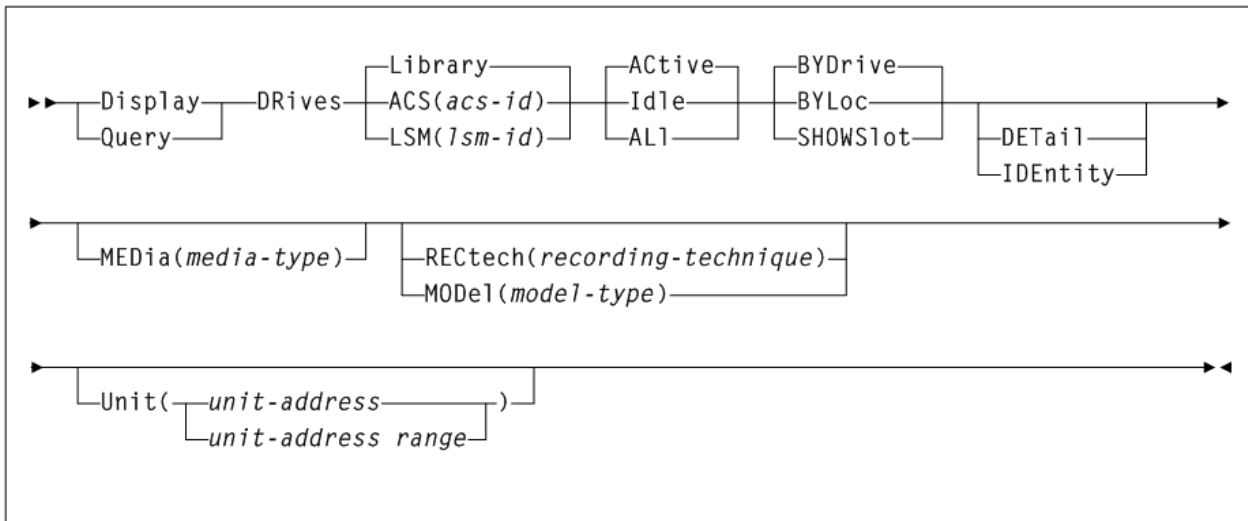
説明

Display DRives コマンドは、トランスポートアドレスごとの現在のマウントアクティビティとキューに入れられたマウントアクティビティを表示します。

構文

図3.41 「[Display DRives コマンドの構文](#)」は、*Display DRives* コマンドの構文を示しています。

図3.41 Display DRives コマンドの構文



パラメータ

図3.41 「Display DRives コマンドの構文」に示すように、*Display DRives* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Library

ライブラリで制御されるドライブのみが処理されます。これがデフォルトです。

ACS(*acs-id*)

指定された ACS 内のドライブのみが処理されます。

acs-id は、システムでドライブ情報を表示する ACS を示します。

LSM(*lsm-id*)

指定された LSM 内のドライブのみが処理されます。

lsm-id は、システムでドライブ情報を表示する LSM を示します。

Active

アクティブなドライブのみが処理されます。これがデフォルトです。

Idle

アイドル状態のドライブのみが処理されます (オフラインである可能性があるドライブも含まれます)。

All

ステータスには関係なく、すべてのドライブが処理されます。

BYDrive

ホストデバイスアドレスごとにドライブを表示します。これがデフォルトです。

BYLoc

ライブラリの場所ごとにドライブを表示します。

SHOWSlot

オプションで、ホストデバイスアドレスごとにドライブを表示し、SL3000 および SL8500 ライブラリ内のドライブのドライブベイの場所 (スロット) を表示します。

DETail

オプションで、ドライブのメディアタイプと記録技法を表示します。

IDEntity

オプションで、ドライブに関連付けられたトランスポートのシリアル番号と World Wide Name を表示します。

これらの情報を提供するには、テープライブラリが十分な互換性レベルにある必要があります。

- シリアル番号には、LMU レベル 13 が必要です。
- WWN には、LMU レベル 21 が必要です。
- *DISPLAY ACS* は、LMU 互換性レベルを示します。さらに、トランスポートが LMU にシリアル番号を提供する必要があります。

注:

IDEntity と *DETail* は相互に排他的です。

MEDia(media-type)

オプションで、ドライブの表示を指定されたタイプのメディアをサポートするものみに制限します。デフォルトは、すべてのタイプのメディアです。

media-type は、メディアタイプを示します。

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

注:

MEDia が指定されていない場合、ドライブはメディアタイプに関係なく選択されます。

RECtech(recording-technique)

オプションで、ドライブの表示を指定された記録技法をサポートするものみに制限します。デフォルトは、すべての記録技法です。RECtech は、テープ表面にデータトラックを記録するために使用される方法を示します。

RECtech が指定されていない場合、ドライブは記録技法に関係なく選択されます。

recording-technique は、記録技法を示します。

有効な *recording-technique* 値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODe1* の値」を参照してください。

注:

RECtech と *MODe1* は相互に排他的です。

MODe1(model-type)

オプションで、ドライブの表示をトランスポートのモデルタイプで制限します。コマンドで区切られたモデルのリストを入力できます。リストは、一般的なプールを指定します。

model-type は、モデルタイプを示します。

有効な *model-type* 値のリストについては、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODe1* の値」を参照してください。

注:

MODe1 と *RECtech* は相互に排他的です。

UNIT(unit-address)

オプションで、ドライブの表示をユニットアドレスまたはユニットアドレスの範囲に制限します。

unit-address または *unit-address-range* は、1つのユニットアドレスまたはアドレスの範囲を示します。

Display DRIVE_INFO

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

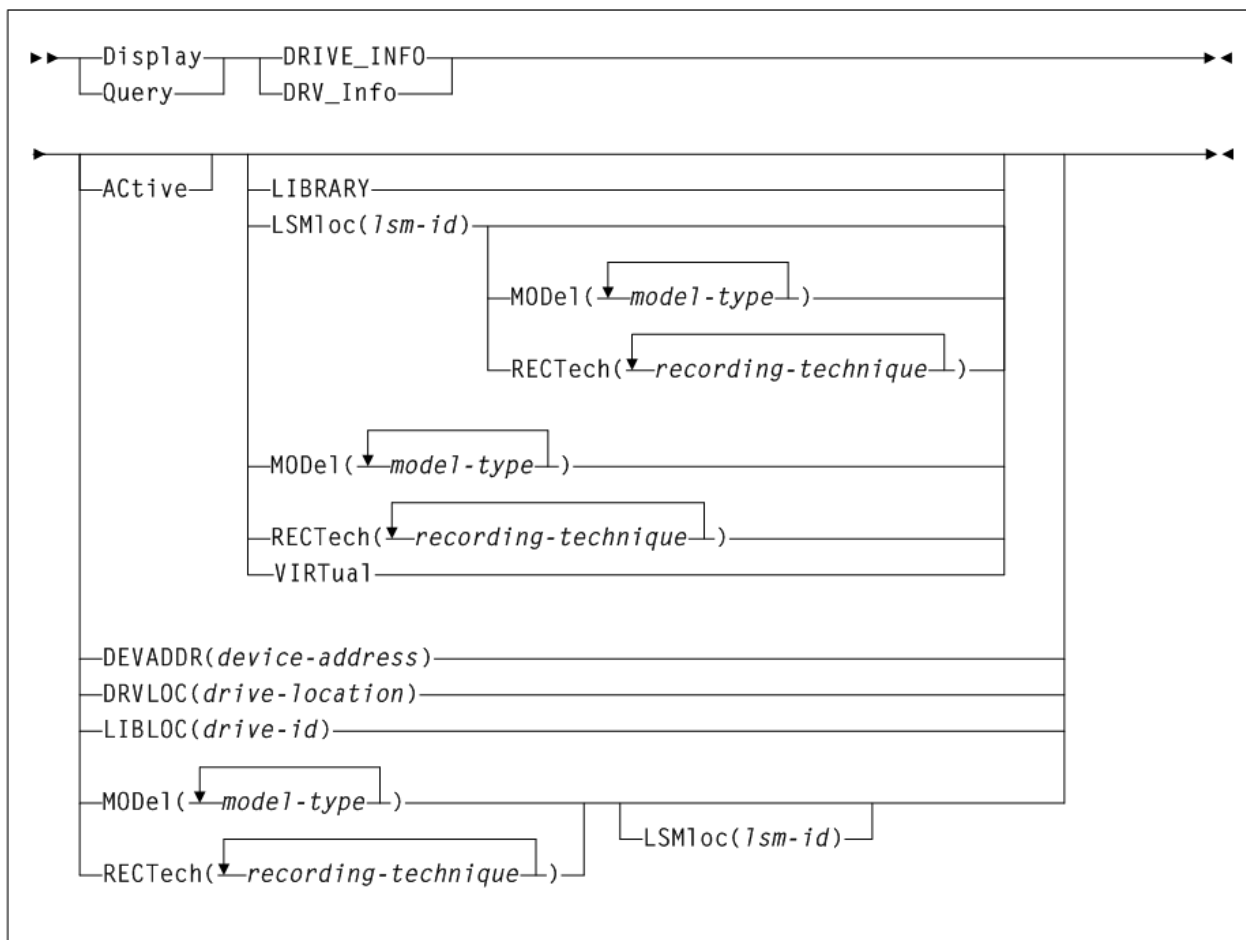
説明

Display DRIVE_INFO は、実ドライブまたは仮想ドライブに関する情報を表示します。

構文

図3.42 「Display DRIVE_INFO コマンドの構文」は、*Display DRIVE_INFO* コマンドの構文を示しています。

図3.42 Display DRIVE_INFO コマンドの構文



パラメータ

図3.42 「Display DRIVE_INFO コマンドの構文」に示すように、*Display DRIVE_INFO* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Active

オプションで、ボリュームがマウントされているドライブや、マウントまたはマウント解除中のドライブのみが表示されるように指定します。

DEVADDR(device-address)

オプションで、指定されたドライブ ID を持つデバイスのみが表示されるように指定します。

device-address は、3 または 4 桁のデバイスアドレスを示します。

DRVLOC(drive-location)

オプションで、ドライブの場所の ID が一致する 1 つのドライブのみが表示されるように指定します。

drive-location は、ドライブの場所の ID を示します。

実ドライブの場合は、形式 *R:AA:LL:PP:DD* を使用します。ここでは:

- *AA* は、ACS ID を示します。
- *LL* は、LSM 番号を示します。
- *PP* は、パネルを示します。
- *DD* は、ドライブ番号を示します。

仮想ドライブの場合は、形式 *V:vtssname:nnnn* を使用します。ここで、*nnnn* は、VTSS ドライブ識別子を示します。

LIBLOC(drive-id)

オプションで、指定されたドライブ ID を持つ実ドライブのみが表示されるように指定します。

drive-id は、*AA:LL:PP:DD* 形式のドライブ ID を示します。ここでは:

- *AA* は、ACS ID を示します。
- *LL* は、LSM 番号を示します。
- *PP* は、パネルを示します。
- *DD* は、ドライブ番号を示します。

LIBRARY

オプションで、ライブラリ (非仮想) ドライブのみが表示されるように指定します。

LSMloc(lsm-id)

オプションで、指定された LSM 内のドライブのみが表示されるように指定します。

lsm-id は、*AA:LL* 形式の LSM ID を示します。ここでは:

- *AA* は、ACS ID を示します。
- *LL* は、LSM 番号を示します。

MODel(model-type)

オプションで、指定されたモデルタイプのドライブのみが表示されるように指定します。

model-type は、モデルタイプを示します。

有効な *model-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

RECtech(recording-technique)

オプションで、指定された記録技法のドライブのみが表示されるように指定します。

recording-technique は、記録技法を示します。

有効な *recording-technique* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

VIRTual

オプションで、(ライブラリドライブではなく) 仮想ドライブのみが表示されるように指定します。

Display EXceptns

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

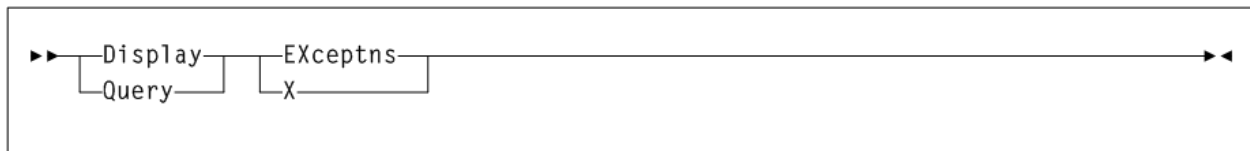
説明

Display EXceptns コマンドは、ハードウェアのステータスを表示します。

構文

[図3.43「Display EXceptns コマンドの構文」](#)は、*Display EXceptns* コマンドの構文を示しています。

図3.43 Display EXceptns コマンドの構文



パラメータ

図3.43 「Display EXceptns コマンドの構文」に示すように、*Display EXceptns* コマンドには次のパラメータが含まれます。

EXceptns または X

ハードウェアのステータスを表示します。

エラーは、LSM *AA:LL* または *AA:LL:CC* のどちらかの形式で報告されます。ここで、*AA* は ACS の 16 進数値 (00-FF) を示し、*LL* は LSM の 16 進数値 (00-17) であり、*CC* は CAP 識別子の 16 進数値 (00 - 0B) を示します。

出力

Display EXceptns は、次のもののステータスを表示します。

- すべての LMU
- すべての LSM
- すべての CAP
- すべてのロボットハンド
- すべてのパススルーポート (PTP)
- すべてのステーション

エラーは、*AA:LL:CC* 形式で報告されます。ここで、*AA* は ACS の 10 進数値 (00-99) を示し、*LL* は LSM の 10 進数値 (00-99) であり、*CC* は CAP 識別子の 10 進数値 (00 - 11) です。次のエラーメッセージが考えられます。

表3.2 Display EXceptns のエラーメッセージ

メッセージ	説明
<i>CAP Not Operational</i>	CAP が動作していません。
<i>CAP Door is Open</i>	CAP ドアが開いています。

メッセージ	説明
<i>CAP Door is Unlocked</i>	CAP ドアのロックが解除されています。
<i>CAP is Reserved</i>	CAP が予約されています。
<i>Pass Thru Port is Inoperative</i>	パススルーポートが動作不能です。
<i>Robot Hand is Inoperative</i>	ロボットハンドが動作不能です。
<i>Robot Hand needs maintenance</i>	ロボットハンドは保守が必要です。
<i>LSM is Not Ready</i>	LSM が準備完了状態ではありません。
<i>LSM is Offline</i>	LSM はオフライン状態にあります。
<i>LSM is Offline Pending</i>	LSM はオンライン保留中状態にあります。
<i>LSM is in Maint Mode</i>	LSM は保守モードにあります。
<i>LSM Door is Open</i>	LSM ドアが開いています。
<i>LMU Compat 10 or less; not all functions supported</i>	LMU は、そのマイクロコードが更新されるまで、一部のステータス照会に正しく応答できません。この状態では、SLS4610I の直前に SLS0662I LMU 応答エラーも発行されます。
<i>Station nn has Inactive Connection:</i>	LMU へのハードウェア接続を使用できません。接続が一度も行われておらず、必要ない場合、これは構成にとって正常である可能性があります。ステーション番号は 16 進数であるため、ステーション 0A は 10 番目のステーションであり、ステーション 10 は実際には 16 番目です。
<i>Station nn Inoperative; Host not responding:</i>	ステーション番号は 16 進数であるため、ステーション 0A は 10 番目のステーションであり、ステーション 10 は実際には 16 番目です。

次のメッセージはサマリーです。

- *No CAP problems were detected*
- *No Pass Thru Port problems were detected*
- *No Robot Hand problems were detected*
- *No LSM problems were detected*

- *No Station problems were detected*

メッセージサマリーには、LMU がハードウェアエラーを検出しなかったことだけが反映されています。ソフトウェア構成の何かが間違っているか、または LMU が検出できなかった問題がある可能性があります。

HSC の処理は続行され、ユーザーの応答は必要ありません。

Display LINKSto

インターフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB*
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

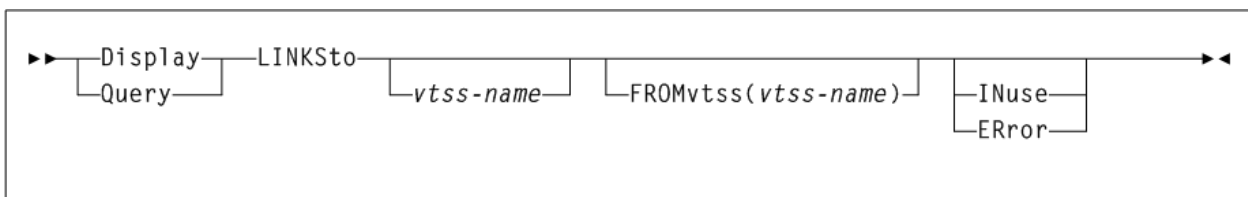
説明

Display LINKSto コマンドは、レプリケーションリンクと CLINK のステータス情報を表示します。

構文

図3.44 「*Display LINKSto* コマンドの構文」は、*Display LINKSto* コマンドの構文を示しています。

図3.44 *Display LINKSto* コマンドの構文



パラメータ

図3.44 「*Display LINKSto* コマンドの構文」に示すように、*Display LINKSto* コマンドには次のパラメータが含まれます。

vtss-name

オプションで、ステータスが表示されるレプリケーションリンクの名前。この名前は、ターゲット VTSS サブシステム (*vtss-name*) へのリンクを表します。このパラメータが指定されていない場合は、すべてのターゲットが表示されます。

FROMvtss(vtss-name)

オプションで、指定されたいずれかのレプリケーションリンク名の、VTSS を所有するか、またはソース VTSS である *vtss-name* を指定します。このパラメータが指定されていない場合は、その LINK 名のすべてのソース VTSS が表示されます。

INuse

オプションで、使用中のリンクのみを表示します。

ERror

オプションで、エラー状態にあるリンクのみを表示します。

出力

次に、*Display LINKSto* コマンドによって生成された出力の例を示します。

この例では、ターゲット *DVTSS18* へのすべてのリンクのステータス情報が表示されます。これには、所有している (またはソース) VTSS の *RLINK DVTSS18* ステータスや *CLINK* ステータス情報、そのリンクのアクティブまたは保留中のすべての拡張レプリケーション、およびそのリンクに対して構成されているすべての接続のリストが含まれます。ソース VTSS のチャンネルインタフェース情報の出力は存在しません。

例3.16 Display LINKSto の出力

D LINKSTO DVTSS18

```
/SLS6603I Linksto information: 702
To VTSS Location VTD From Connect Status Usage Host
DVTSS18 -Cluster ---- DVTSS16 Links On: 1 Free
                AA0A 0A C0K On-Sync Free
                AA0B 0B C1K On-Sync Free
```

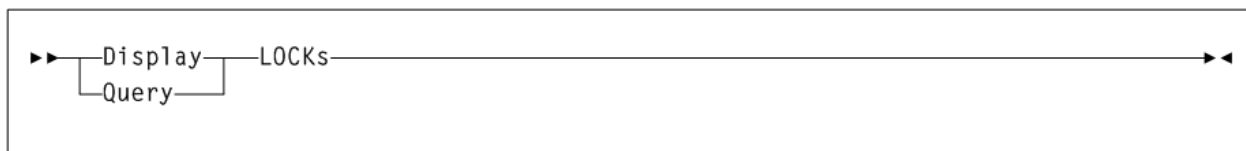
Display LMUPDEF

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

図3.46 Display LOCKS コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

次に、*Display LOCKS* コマンドによって生成された出力の例を示します。

例3.17 Display LOCKS の出力

SLOT ID	OWNING HOST	TASK NBR	TASK TYPE	VTD	MVC	VTV	WAITING HOST	WAITING TASK
002	EC21	006	RTD		EVS101		EC10	007
003	EC20	010	RTD		EVS145	X15328		
004	EC20	010		A91E		X153234		
CFLOCK NUMBER		CFLOCK TYPE	HOST TO HOST (TO ECCL)			OWNING HOST		
3						EC21		

フィールド

Display LOCKS コマンドの出力には次のフィールドが含まれます。

SLOT ID

ロックバッファ内のロックのスロット ID。

OWNING HOST

このロックを所有するホスト。

TASK NBR

このロックに関連付けられたタスク番号。

TASK TYPE

タスクタイプ。

VTD

発行しているホスト上の関連付けられた VTD アドレス。

MVC

ロックされている MVC。

VTV

ロックされている VTV。

WAITING HOST

このロックを待機しているホスト、または複数のホストが待機している場合は ALL。

WAITING TASK

このロックを待機しているタスク、または複数のタスクが待機している場合は ALL。

CF LOCK NUMBER

カップリングファシリティーのロック番号。

CF LOCK TYPE

次のいずれかの VTCS カップリングファシリティーロックタイプ。

Host Footprint

ホストフットプリントリストへのアクセスを直列化するために使用します。

Host to Host

指定されたホストまたはホストのリストへのアクセスを直列化するために使用します。

Lock Data

VTCS のロックデータへのアクセスを直列化するために使用します。

Formatting

構造体の初期フォーマットを直列化するために使用され、データの再構築時にも使用されます。

System

ロックが保持されていますが、VTCS によって使用されるロックではありません。MSP によって使用されると想定されています。

OWNING HOST

このロックを所有するホスト。

Display Lsm

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

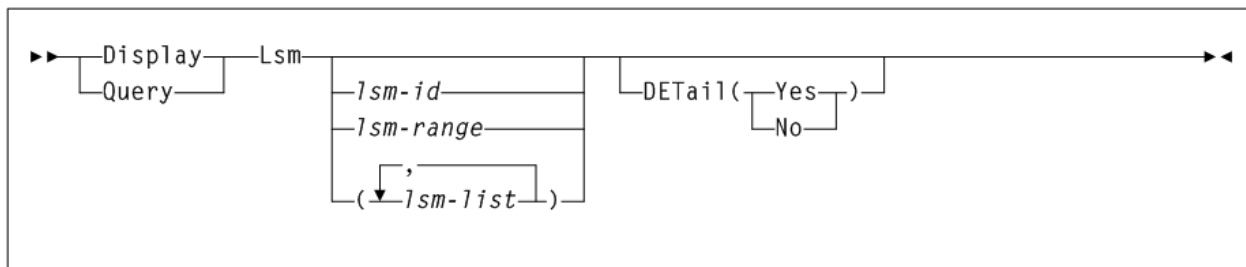
説明

Display Lsm コマンドは LSM のステータスを表示します。

構文

図3.47 「Display Lsm コマンドの構文」は *Display Lsm* コマンドの構文を示しています。

図3.47 Display Lsm コマンドの構文



パラメータ

図3.47 「Display Lsm コマンドの構文」に示すように、*Display Lsm* コマンドには次のパラメータが含まれます。

lsmid、lsmrange、または lsmlist

オプションで、システムが情報を表示する1つ以上のLSM。 *lsmid* を指定しない場合は、ライブラリ内のすべてのLSMのステータスサマリーが表示されます。

lsmlist の各要素には、単一のLSM ID または LSM ID の範囲のいずれかを指定できます。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

lsmid の形式は *AA:LL* です。ここで、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

DETail

オプションで、各 LSM の詳細情報を表示するかどうかを指定します。

Yes

各 LSM のすべての詳細情報が表示されます。

No

各 LSM のサマリー情報のみが表示されます。

DETail(No) を指定した場合、現在の *Ready* または *Not ready* のステータスは判別されず、LSM はオフラインでないかぎり *Ready* として表示されます。

注:

DETail パラメータを指定しない場合は、特定の LSM ID が入力された場合にのみ詳細情報が表示されます。

出力

Display Lsm コマンドは次のもののステータスを表示します。

- LSMid
- LSM タイプ
- オンライン/オフラインのステータス
- Ready/Not Ready のステータス
- 自動/手動ステータス
- 詳細情報が含まれている場合があります。
 - 監査が進行中の場合は、その監査。
 - CAP のステータス、優先順位、および所有しているホスト (CAP がドレインされていない場合)。
 - 空きセルとスクラッチボリュームの数。(注記: LSM 内の空きセルの数には、凍結されたパネルの空きセルは含まれていません。)
 - 凍結された各パネル。パネル上のセルの合計数および空きセルの数が表示されます。

Display Message

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

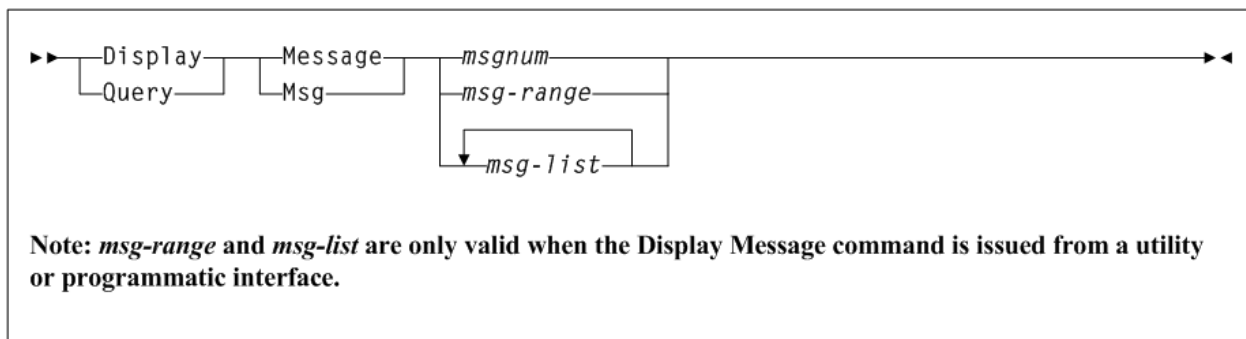
説明

Display Message コマンドは HSC または VTCS の詳細なメッセージ情報を表示します。

構文

図3.48 「Display Message コマンドの構文」は *Display Message* コマンドの構文を示しています。

図3.48 Display Message コマンドの構文



パラメータ

図3.30 「DISMount コマンドの構文」に示すように、*Display Message* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Msg または Message

HSC または VTCS の詳細なメッセージ情報を表示します。

msgnum

メッセージ識別子の 4 桁の数値部分。先行 0 は不要です。

msg-range または *msglist*

システムがステータスを表示するメッセージの範囲またはリスト。*msglist* の各要素には、単一の *msgnum* または *msg-range* のいずれかを指定できます。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

注:

msg-range および *msg-list* は、*Display Message* コマンドがユーティリティまたはプログラミングインタフェースから発行された場合にのみ有効です。

Display MGMTDEF

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

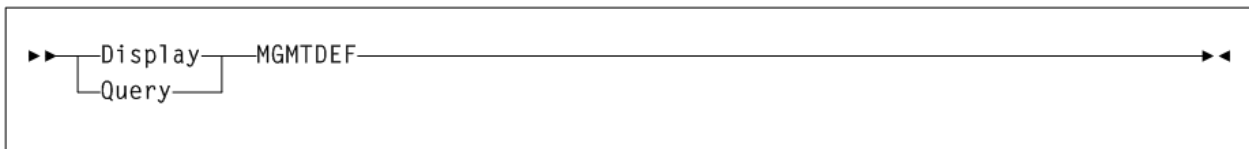
説明

Display MGMTDEF コマンドはアクティブな *MGMTclas* 制御文に関する情報を表示します。

構文

図3.49 「[Display MGMTDEF コマンドの構文](#)」は *Display MGMTDEF* コマンドの構文を示しています。

図3.49 *Display MGMTDEF* コマンドの構文

**パラメータ**

なし。

Display MIGrate**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

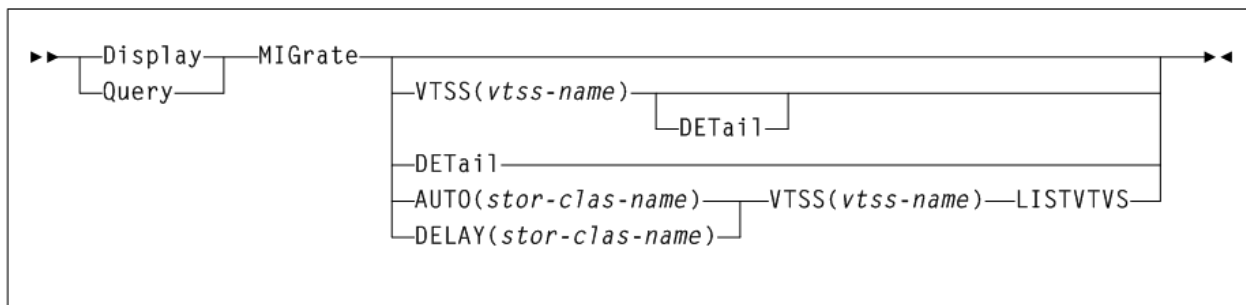
説明

Display MIGrate コマンドは移行のステータスを表示します。

構文

図3.50 「[Display MIGrate コマンドの構文](#)」は *Display MIGrate* コマンドの構文を示しています。

図3.50 Display MIGrate コマンドの構文



パラメータ

図3.50 「Display MIGrate コマンドの構文」に示すように、*Display MIGrate* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTSS(vtss-name)

オプションで、指定された VTSS の移行ステータスを表示します。

vtss-name は、VTSS 名を示します。

DETail

オプションで、ストレージクラスごとの詳細な移行ステータスを表示します。

AUTO(stor-clas-name)

オプションで、指定されたストレージクラスの VTV の数、および *AUTO* キューに存続している時間を表示します。残りの時間は経過時間と呼ばれます。

stor-clas-name はストレージクラス名を示します。

DELAY(stor-clas-name)

オプションで、指定されたストレージクラスの VTV の数、および *DELAY* キューに存続している時間を表示します。残りの時間は経過時間と呼ばれます。

stor-clas-name はストレージクラス名を示します。

VTSS(vtss-name)

指定された VTSS (*vtss-name*) の移行ステータスを表示します。

LISTVTVS

AUTO キューに入っている特定の VTV を表示します。VTSS も指定する必要があります。

出力 (Display Migrate)

Display MIGrate コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.18 Display MIGrate の出力

```
/SLS0000I D MIG VTSS(HBVTSS16)
```

```

VTSSNAME: HBVTSS16
Active migration tasks: 4
Immediate migrate: Max wait: 5 MINUTES
Immediate delay queue: Active
Auto migrate: Host: EC20 MIGRATION TARGET: 70%

```

フィールド

Display MIGrate コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

VTSSNAME

VTV を移行する VTSS。

ACTIVE MIGRATION TASKS

移行タスク (自動、即時、およびしきい値までの移行) の合計数。

IMMEDIATE MIGRATE

現在の即時移行または保留中の即時移行がない場合は「Not active」、または VTV が即時移行を待機している最大時間。このフィールドには、クエリーが発行された LPAR のステータスのみが表示されます。

IMMEDIATE DELAY QUEUE

即時移行キューに VTV があるかどうかを示します。

AUTO MIGRATE

「Not active」、またはいずれかのホストで自動移行がアクティブな場合はホストと移行ターゲットの名前 (LAMT またはしきい値までの移行に指定されたしきい値)。

出力 (Display Migrate DETail)

Display MIGrate detail コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.19 Display MIGrate DETail の出力

```

/SLS0000I D MIG DET
VTSSNAME: DVTSS16
Active migration tasks: 2
Immediate migrate: Max wait: 1 minutes
Immediate delay queue: Not active
Auto migrate: Not active

```

Storage Class	ACS	Max/Onl	RTDs	---SCH--	Req	--Auto--	---Immed---	Weight
				Lim Pref	Act	GB	Delay GB	/Skip
S1	00	16	16	1 0	1	-	1 9	50/ 0
S2	00	16	16	1 0	1	-	1 9	50/ 0

フィールド

Display MIGrate コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

STORAGE CLASS

移行に関連付けられているストレージクラス。

ストレージクラスを明示的に割り当てない場合は、MVC のデフォルトのストレージクラスはリクレイムまたは移行のために MVC に書き込んだ最後の VTSS の名前であり、このクラスには VTCS のデフォルトのメディア選択があります。これらのデフォルト値を変更するには、VTSS 名を付けてストレージクラスを作成し、目的のメディア選択順序を指定します。

ACS

ストレージクラスに定義されている ACS。VLE に移行する場合、これは VLE 名です。この列に ****ANY**** が示されている場合は、任意の場所に移行でき、その他の制限の対象となります。

MAX/ONL RTDs

- ストレージクラスおよび RTD 構成の定義に基づく RTD タスクの最大数。
- 実際にオンラインである RTD のタスクの最大数 (*MAX TASKS* からオフラインの RTD の数を引いた数)。

SCH

ストレージクラスのアクティブな移行に適用される *MIGRSEL* 文の *SCHLIMIT* 値および *SCHPREF* 値。

Req Act

アクティブな移行タスクの数。

ACTIVE TASKS

ストレージクラスの現在アクティブな移行タスクの数。

AUTO

ストレージクラスに自動移行 VTV が含まれているかどうかを示します。

IMMED

ストレージクラスに即時移行 VTV が含まれているかどうかを示します。

WEIGHT (percent)

VTSS のほかのストレージクラスと比較した場合のストレージクラスの優先順位。高い優先順位を持つストレージクラスには、移行タスクの大きい割合が割り当てられます。

出力 (Display MIGrate AUTO)

Display MIGrate AUTO コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.20 Display MIGrate AUTO の出力

```
/SLS0000I D MIG AUTO(S1) VTSS(DVTSS16) LISTVTVS
/SLS6603I VTVs awaiting migration:
DX0601 DX0920
```

2 volumes with an age range of 3-5 in the queue

出力 (Display MIGrate DELAY)

Display MIGrate DELAY コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.21 Display MIGrate DELAY の出力

```
/SLS0000I D MIG DELAY(S2) VTSS(DVTSS16) LISTVTVS
```

```
/SLS6603I VTVs awaiting migration:
```

```
DX0800 DX0900
```

2 volumes with an age range of 3-5 in the queue

Display MNTD

インターフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

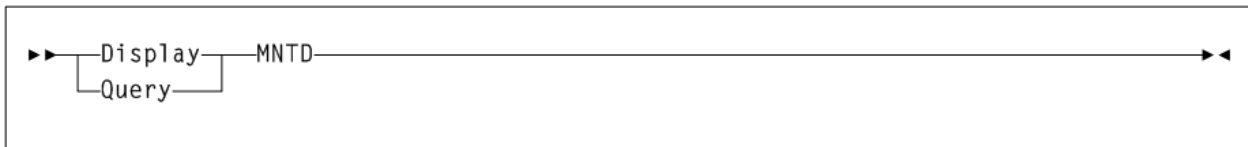
説明

Display MNTD コマンドは、*MNTD* コマンドによって設定されたすべての HSC マウントオプションの現在の設定を表示します。

構文

図3.51 「Display MNTD コマンドの構文」は *Display MNTD* コマンドの構文を示しています。

図3.51 Display MNTD コマンドの構文



パラメータ

なし。

Display MONitor

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

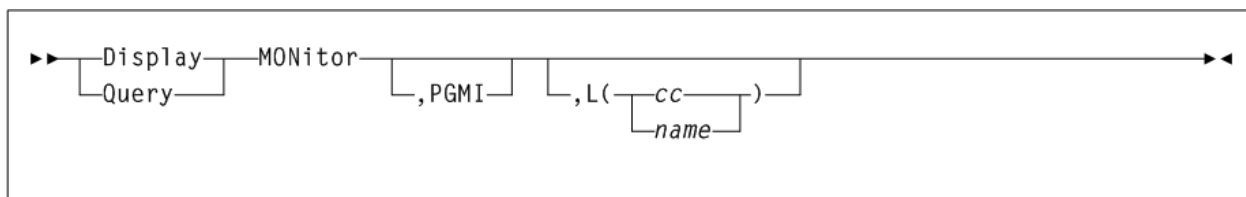
説明

Display MONitor コマンドはモニタリングコンソールのリストを表示します。

構文

図3.52 「*Display MONitor* コマンドの構文」は *Display MONitor* コマンドの構文を示しています。

図3.52 *Display MONitor* コマンドの構文



パラメータ

図3.52 「*Display MONitor* コマンドの構文」に示すように、*Display MONitor* コマンドには次のパラメータが含まれます。

,PGMI

オプションで、プログラムインタフェースによって受信された移動要求のモニタリングのステータスを表示します。

,L

オプションで、指定されたコンソールによってモニターされている要求のタイプを表示します。コンソール ID およびコンソール名は長さが 2 文字から 8 文字である必要があります。

cc

コンソール ID。

name

コンソール名。

PGMI および *L* の両方を省略した場合は、すべてのモニタリングのステータスが
表示されます。

Display MVC

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

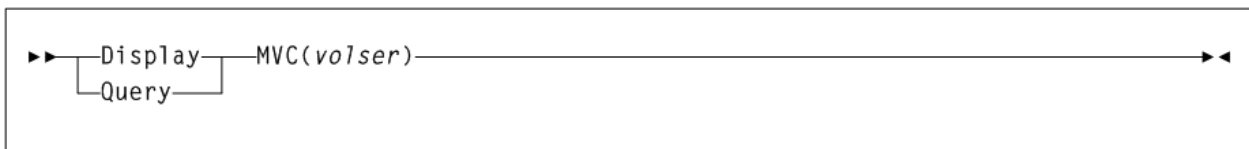
説明

Display MVC コマンドは指定された MVC に関する情報を表示します。

構文

図3.53 「[Display MVC コマンドの構文](#)」は *Display MVC* コマンドの構文を示しています。

図3.53 Display MVC コマンドの構文



パラメータ

図3.53 「[Display MVC コマンドの構文](#)」に示すように、*Display MVC* コマンドには
次のパラメータが含まれます。

volser

MVC の volser。

出力

Display MVC コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.22 Display MVC の出力

```

Volser:          702532
Media:           T1B000T1
ACSid:           00
Size(Mb):        1000000
Migrated Count:  19
Vtv Count:       19
%Used:           7.41
%Fragmented:     0.00
%Available:      92.59
%Usable:         0.00
Times Mounted:   77
Last Mounted:    2010Mar15 10:40:54
Last Migration: 2010Jan14 14:41:04
Last Drain/Reclaim: 2010Feb23 13:55:26
Owner:           ALP
VTSS:            HBVTSSY
MVCPOOL:         ALPMVC
Security access: No profile
Status:          Initialized
Format:          Partitioned

```

フィールド

Display MVC コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

VOLSER

MVC の volser。

MEDIA

ボリュームのメディアタイプまたは記録技法。値「Need PTF」が表示された場合、このホストではこのメディアタイプはサポートされません。別のホストではこのメディアタイプがサポートされます。

ACSID

MVC が含まれている ACS、あるいはリモート MVC ボリュームまたは VLE の VMVC が含まれている VLE。これは MVC がライブラリから取り出された場合は表示されません。 ****MANY**** は特定の volser を持つ MVC が複数の場所で検出されたことを示します。この状態の MVC は使用不可としてマークされます。

SIZE (MB)

MVC のサイズ (M バイト単位)。

MIGRATED COUNT

移行された VTV の数。

VTV COUNT

MVC 上のアクティブな VTV の数。

%USED

有効な VTV によって使用されている MVC のパーセンテージ。

%FRAGMENTED

VTV がリクレームされるか、MVC がドレインされるまで使用可能にならない無効な VTV 領域を持つ MVC の割合。

%AVAILABLE

物理的に使用できる MVC のパーセンテージ。

%USABLE

VTCS で使用できる MVC 上の領域のパーセンテージ。これは、物理的に使用可能な領域がまだ存在する場合でも 0 である可能性があります。たとえば、MVC あたりの VTV の上限に達した場合、%Usable は 0% として報告されます。同様に、MVC に対してエラーが報告された場合、VTCS はこの MVC を出力に使用しないため、%Usable は %0 として報告されます。

TIMES MOUNTED

この MVC が MVC インベントリに追加されたあと、書き込みまたは読み取りのためにマウントされた回数

LAST MOUNTED

この MVC が RTD にマウントされたか、またはマウントが試行された日付と時間。

LAST MIGRATED

この MVC に対して VTV 移行が最後に実行された日付と時間。

LAST VERIFIED

この MVC に対して VTV メディアの確認が最後に実行された日付と時間。

この日付には、MVC の内容が有効であることを VTCS が最後に認識した日付が反映されます (次の日付のうちのもっとも新しい日付)。

- MVC が *MEDVERIFY* を使用して検証された日付/時間。
- MVC が空の状態から (または空の状態に) 移行された日付/時間。

LAST DRAIN/RECLAIM

この MVC がドレイン処理またはリクレイム処理によって最後に処理され、そのテープの終わりのポイントがリセットされた日付と時間。

OWNER

MVC を所有しているストレージクラス。MVC がストレージクラスのメンバーになるのは、移行された VTV を含んでいる場合だけです。

VTSS

この MVC への移行を実行した最後の VTSS。統合された VTV の場合は、このフィールドに *CONSOLIDATE* が表示されます。

MVCPPOOL

MVC プール名 (*DEFAULTPOOL* を含む)、または MVC が *MVCPool* 文で定義されていない場合は *NO*。

SECURITY ACCESS

MVCPPOOL 文で定義されている MVC に対する VTCS の権限 (*UPDATE*、*NO UPDATE*、または *NO PROFILE*)。

STATUS

次のステータスのいずれかです。

INITIALIZED

この MVC は初期化されています。

BEING AUDITED

MVC は現在監査されているかまたは失敗した監査の対象です。この状態にある間、MVC は移行に使用されませんが、リコールには使用できます。固有の状態であり、CDS がまだ MVC の内容に追いついていないため、リコールは失敗する可能性があります。この状態をクリアするためには、この MVC に対して *AUDIT* ユーティリティを再実行します。

LOGICALLY EJECTED

MVC は *MVCDRain Eject* の対象であるかまたは MVC は *RACROUTE* の呼び出しによる更新のために拒否されました。この MVC は移行のために再使用されません。この状態をクリアするためには、MVC に対して *Eject* オプションなしで *MVCDRain* を使用します。

NOT-INITIALIZED

MVC は *CONFIg* ユーティリティを使用して定義されましたが、正常な VTV の移行の対象となることがありません。

MOUNTED

MVC は RTD 上にマウントされています。

IN ERROR

これは一般的なエラーであり、MVC へのアクセス時に MVC、ドライブ、またはその 2 つの組み合わせに対して問題が報告されたことを示します。VTCS は、この状態の MVC の使用を避けようとします。VTCS はコピーをリコールを使用することを検討するときに、これを MVC のもっとも重大な障害とみなします。

一般的に、このステータスをクリアするには、次のようにします。

- MVC が問題の原因である場合は、*DRAIN(EJECT)* コマンドを使用してサービスから MVC を除去してください。
- この問題の原因が RTD である場合は、*MVCMaint* ユーティリティを使用して MVC の状態をリセットします。

注:

IN ERROR ステータスとして次の 1 つ以上のメッセージが発行されます:
SLS6686、*SLS6687*、*SLS6688*、*SLS6690*。これらのメッセージの回復手順については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* メッセージおよびコード』を参照してください。

MARKED FULL

MVC がいっぱいであるとみなされており、今後の移行の候補ではありません。テープメディアの一般的な動作により、MVC がその公称容量に達する前にこれが発生することがあります。

DRAINING

現在、この MVC はドレイン処理またはリクレイム処理の対象となっています。処理が失敗した場合、MVC は保護手段としてこの状態のままになるこ

とがあります。この状態をクリアするには、MVC に対して *MVCDRain* を実行します。

LOST - FAILED TO MOUNT

VTCS は MVC のマウントを試行しましたが、15 分のタイムアウト時間内にマウントが完了しませんでした。ハードウェアの問題、HSC の問題、または MVC の ACS からの削除の組み合わせが発生した可能性はありますが、VTCS には特定のエラー報告がありませんでした。VTCS は、この状態の MVC の使用を避けようとしています。

エラーの原因を特定し、解決してください。次のイベントの場合は、VTCS *MVCMaint* ユーティリティを使用して *LOST(OFF)* を設定することもできます。

- *LOST(ON)* ステータスがすでに解決済みの LSM 障害またはドライブエラーによって設定されていた場合
- *LOST(ON)* ステータスが、MVC が ACS 外にあったために設定され、その MVC がすでに再入力済みの場合。

そのあとに MVC のマウントが要求され、これが成功した場合、この状態は VTCS によって自動的にクリアされます。

DATA CHECK

この MVC に対してデータチェック状態が報告されました。VTCS は、この状態の MVC の使用を避けようとしています。この状態になる場合は、2 つの異なる RTD でデータ転送が失敗しています。

この状態をクリアするには、次のようにします。

- MVC のすべての VTV が二重化されている場合は、MVC に対して *Eject* オプションなしで *MVCDRAIN* を使用します。これにより、すべての VTV が回復し、サービスから MVC が削除されます。
- MVC 上に二重化されていない VTV が存在する場合は、MVC に対して *VTCS AUDIT* を実行します。監査は失敗します。監査の終了後、イジェクトなしで *MVCDRAIN* を実行します。これにより、データチェック領域の前にある VTV はブロック ID の昇順に、データチェック領域のあとにある VTV はブロック ID の降順にリコールされます。この順序で VTV を処理すると、VTCS がメディアからできるだけ多くの VTV を回復できるようになります。そのあと、まだ MVC 上に存在するすべての VTV についてデータを再作成する必要があります。

これはデータ転送を実行しているときに特定の障害が発生したことを示しますが、メディアの障害ではないことがあります。RTD が仕様外のメディア

にデータを書き込んでいる可能性もあります。そのため、障害のパターンが重要です。例として、多数のドライブやボリュームで突然、大量の *DATA CHECK* 状態が発生する場合があります。

READ ONLY

MVC は次の要件のいずれかにより読み取り専用とマークされています。

- MVC は現在処理中のエクスポートまたは統合処理の対象です。読み取り専用状態により MVC は更新処理に対して保護されています。
- MVC メディアにファイル保護が設定されます。エラーを修正し、*MVCMaint* ユーティリティを使用して *READONLY(OFF)* を設定します。
- VTCS が MVC の更新を可能とする適切な SAF ルールが MVC には設定されていません。エラーを修正し、*MVCMaint* ユーティリティを使用して *READONLY(OFF)* を設定します。HSC、SMC、および VTCS のセキュリティーサブシステムユーザー ID の定義については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* のインストール』を参照してください。

RETIRED

この MVC が耐用期限切れになり、VTCS によってその有効寿命の終わりに達したとみなされています。VTCS はこの MVC からリコールしますが、この MVC には移行しません。この MVC をできるだけ早く置き換えてください。これを実行したら、*MVCMaint* ユーティリティを使用して *RETIRED(OFF)* を設定します。

WARRANTY HAS EXPIRED

MVC 保証期限が切れました。VTCS は MVC の使用を継続します。MVC が耐用期限切れ状態になった時点で置換ができるように計画してください。

INVALID MIR

VTCS が 9x40 メディアの MIR (メディア情報レコード) が無効であることを示すステータスを RTD から受信しました。MIR が無効でもデータへのアクセスは妨げられませんが、テープ上のレコードへのアクセス中に重大なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。この MVC は、有効な MIR エントリが含まれていないテープの領域に対して高速検索を実行できません。

VTCS はこの状態の MVC を優先しません。リコールでは、VTV が複数の MVC 上に存在する場合、VTCS は無効な MIR を含む MVC の前に有効な MIR を含む MVC を選択します。VTCS は、移行がテープ先頭から開始される場合を除き、無効な MIR を持つ MVC を移行に使用しません。テープの先頭から移行した場合は、MIR が修正されます。VTCS は、無効な MIR の状態をマウント時またはマウント解除時のどちらかに検出します。マウント時に

検出され、別の MVC で操作を完了できる場合、VTCS は最初の MVC をマウント解除して代替 MVC を選択します。

代替 MVC に切り替える VTCS の機能はごく限られています。つまり、これは主に移行と仮想マウントに使用されます。無効な MIR を含む MVC については、エラーの原因 (メディアまたはドライブの問題である可能性があります) を特定し、そのエラーを修正します。無効な MIR を含む MVC を回復するには、VTCS 監査を使用して、テープの最後まで MVC を読み取ります。メディアが問題である場合は、*MVCDRAIN EJECT* を実行して VTV をリコールし、MVC プールから MVC が削除されるようにします。

MIGRATES NOT SUPPORTED

このホストでは、この MVC に移行を実行することがサポートされていません。これは移行がサポートされている別のホストによって設定されます。

RECALLS NOT SUPPORTED

このホストでは、この MVC からリコールを実行することがサポートされていません。これはリコールがサポートされている別のホストによって設定されます。

RECLAIM NOT SUPPORTED

このホストでは、リクレイム処理のためにこの MVC を検討することがサポートされていません。これはリクレイム処理がサポートされている別のホストによって設定されます。これにより *MVCDRAIN* コマンドを使用して処理されている MVC が妨げられることはありません。

DEDUP requested on last mount

最後のマウントで *DEDUP(YES)* が要求されました。

FORMAT

VTV 形式、標準、またはパーティション化。

Display MVCPool

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

Display *MVCPool1* は特定の MVC プールに関する情報を表示します。

注:

このコマンドが発行されると、MVC の場所情報がリフレッシュされ、正確で最新の結果となります。

構文

図3.54 「Display MVCPool コマンドの構文」は *Display MVCPool* コマンドの構文を示しています。

図3.54 Display MVCPool コマンドの構文

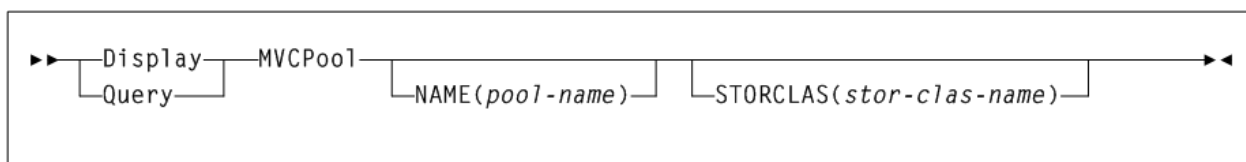
**パラメータ**

図3.54 「Display MVCPool コマンドの構文」に示すように、*Display MVCPool* コマンドには次のパラメータが含まれます。

NAME(pool-name)

指定された名前付き MVC プールの情報が表示されます。

pool-name は *MVCPool* 制御文を使用して定義された MVC プール名を示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

または、*ALL* を指定すると、名前付きのすべての MVC プール (デフォルトプール *DEFAULTPOOL* を含む) の情報を表示できます。

STORCLAS(stor-clas-name)

ストレージクラスごとに MVC に関する情報を表示します。

stor-clas-name は MVC の使用状況を表示する特定のストレージクラスの名前を示します。

これは、*STORClas* 制御文で定義された現在の有効なストレージクラスである場合、またはメディアがまだ割り当てられていて以前存在していたストレージクラスの場合があります。詳細は、「[STORClas 制御文](#)」を参照してください。

すべてのストレージクラスを表示するには、*ALL* を指定するか、*STORCLAS* パラメータを省略します。

出力

プール名 *Pool1* を指定した *Display MVCPOOL* コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.23 Display MVCPOOL の出力 (NAME が POOL1)

MVCPOOL (POOL1) INFORMATION

INITMVC	MVCFREE	THRESHOLD	INPTHRSH	MAXMVC	START	RECLAIM	
NO	2	30	43	4	10	DEMAND	
ACS	Media	FREE-MVCS		RECLAIM-MVCS		USED-MVCS	
		VOLS	GB	VOLS	GB	VOLS	GB
00	ECART	120	96	2	0.5	90	45
	TMSPB STK1R	30	600	1	3.5	25	350
00	TOTAL	150	696	3	4.0	115	395

プール名を指定しない *Display MVCPOOL* コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.24 Display MVCPOOL の出力 (NAME が指定されていない場合)

MVCPOOL INFORMATION

INITMVC	MVCFREE	THRESHOLD	INPTHRSH	MAXMVC	START	RECLAIM	
NO	2	30	43	4	10	DEMAND	
ACS	MEDIA	FREE-MVCS		RECLAIM-MVCS		USED-MVCS	
		VOLS	GB	VOLS	GB	VOLS	GB
00	ECART	310	248	4	1.2	100	65
00	ZCART	120	192	1	0.5	250	400
00	TOTAL	430	440	5	1.7	350	465
01	ECART	90	144	15	6.2	322	485
01	ZCART	35	700	3	11.3	43	675
01	TOTAL	125	844	18	17.5	365	1160
NLIB	STK2P	22	1100	0	0	12	1565
NLIB	TOTAL	22	1100	0	0	12	1565

フィールド

`Display MVCPool` コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

INITMVC

初期化されていない MVC を最初にマウントするときに初期化するかどうかを指定します。

MVCFREE

空き MVC の最小数。

THRESHOLD

MVC をいつ要求または自動リクレイムの対象にするかを決定する、断片化された領域のしきい値 (パーセンテージ)。

INPTHRSH

パーティション分割されたフォーマットの MVC をいつ動的リクレイム処理の対象にするかを決定する、断片化された領域のしきい値 (パーセンテージ)。

MAXMVC

1 回のリクレイムでの MVC の上限。

START

合計 MVC に対するリクレイム候補の比率を表す割合値を示します (この割合によって、自動領域リクレイムがトリガーされます)。

RECLAIM

MVC プールの領域リクレイム設定を示します。

ACS

- ローカルのテープドライブの場合、この列には、そのドライブの接続先の ACS または LSM が表示されます。
- リモート RTD の場合、この列には `name:number` が表示されます。ここで、`name` は TapePlex の名前、および `number` は 10 進数での ACS の番号を示します。
- VLE の場合、この列には VLE 名が表示されます。
- NLIB はライブラリの外部にある MVC を示します。
- **MANY**** は特定の `volser` を持つ MVC が複数の場所で検出されたことを示します。この状態の MVC は使用不可としてマークされます。
- RTD が接続されていない ACS にはフラグが付けられます。

MEDIA

MVC のメディアタイプ。

FREE-MVCS

領域が 100% 使用可能で、移行された VTV が含まれていない MVC。表示される容量は、メディアタイプの容量に基づく合計の空き領域です。

RECLAIM-MVCS

このホストによる領域リクレイムに適格な MVC。表示される容量は、無駄になっている領域の合計です (領域リクレイムにまだ適格ではない MVC を含む)。

USED-MVCS

部分的に使用されているか、完全にいっぱいである初期化された MVC。

Display OPTion**インタフェース:**

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

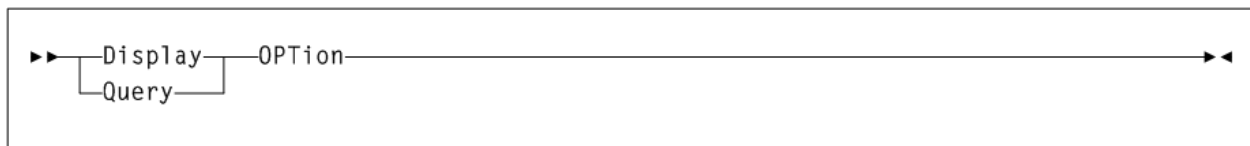
説明

Display *OPTion* コマンドは、*OPTion* コマンドによって設定された全般的な HSC オプションの現在の設定を表示します。

構文

図3.55 「Display *OPTion* コマンドの構文」は *Display OPTion* コマンドの構文を示しています。

図3.55 Display *OPTion* コマンドの構文

**パラメータ**

なし。

Display PATH**インタフェース:**

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ

- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

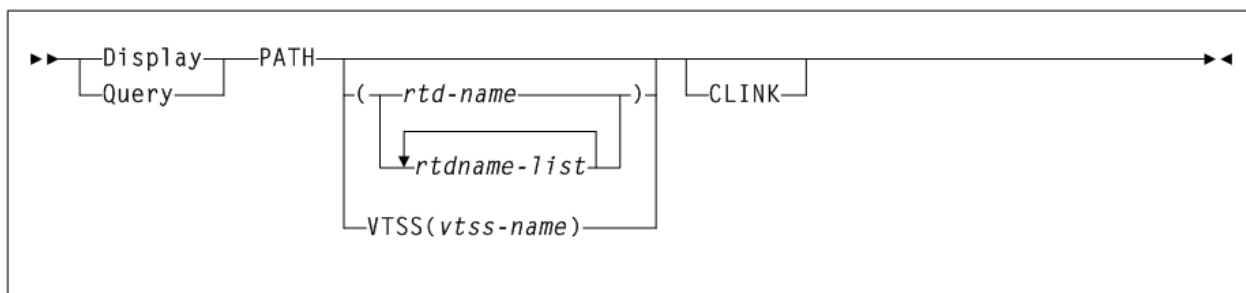
説明

Display PATH コマンドは、VTSS から RTD または仮想ライブラリへのパスのステータスを表示します。

構文

図3.56 「*Display PATH* コマンドの構文」は *Display PATH* コマンドの構文を示しています。

図3.56 *Display PATH* コマンドの構文



パラメータ

図3.56 「*Display PATH* コマンドの構文」に示すように、*Display PATH* コマンドには次のパラメータが含まれます。

PATH

オプションで、指定されたパスに表示を制限します。

rtdname または *rtdname-list* は VTSS から仮想ライブラリの RTD にアクセスするためのパスに割り当てられている名前を示します。

VTSS

オプションで、個々の VTSS からのパスに表示を制限します。

vtss-name はパスが構成されている VTSS の名前を示します。

CLINK

オプションで、CLINK に割り当てられているパスを表示出力に含めます。クラススタレプリケーションおよび電子エクスポートの両方のパスが表示されます。

出力

Display PATH コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.25 Display PATH の出力

VTSSNAME	Type	RTD NAME	CHANIF	Device	Target	State
HBVTSS18	RTD	SS182A01	01 C0E	2A01		Online
	RTD	SS182A06	00 C0I	2A06		Online
	CLINK	HBVTSS19	06 C1A		CLUSTER1	On-Async
	VLIB	SS18IP0	04 I0A:0	V000	WILDCAT1	Online
	VLIB	SS18IP2	04 I1A:0		WILDCAT2	Online
	EEXP	HBVTSS16	05 I0I:0		PRIMARY	On-Sync
HBVTSS19	RTD	SS192A02	01 C0E	2A02		Online
	RTD	SS192A07	00 C0I	2A07		Online
	VLIB	SS19IP0	04 I0A:0	V010	WILDCAT1	Online
	VLIB	SS19IP2	04 I1A:0		WILDCAT2	Online
	EEXP	HBVTSS16	05 I0I:0		PRIMARY	On-Sync

フィールド

Display PATH コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

VTSSNAME

パスが接続されている VTSS の名前。

Type

パスのタイプ。次のいずれかを指定できます。

- *RTD* – RTD への直接接続
- *VLIB* – 仮想ライブラリへのデータパス接続
- *CLINK* - TapePlex 内でのクラスタレプリケーションに使用される CLINK
- *EEXP* –別の TapePlex への電子エクスポートに使用される CLINK

RTDNAME

このパスに割り当てられている名前。構成の *RTDPATH* 文によって定義されているパスの場合は、*RTDNAME* パラメータによって割り当てられた名前。*CLINK* タイプまたは *EEXP* タイプのパスの場合、この列にはターゲット VTSS 名が表示されます。

CHANIF

パスに割り当てられている論理デバイス ID、およびパスに指定された *CHANIF* 値または *IPIF* 値。

Target

パスの宛先サブシステム。*VLIB* タイプのパスの場合は、仮想ライブラリに割り当てられている *STORMNGR* の名前が表示されます。*CLINK* タイプのパスの場合は、クラスタの名前が表示されます。*EEXP* タイプのパスの場合は、パスが接続されている TapePlex の名前が表示されます。

Device

パスの宛先デバイス。RTD タイプのパスの場合は、テープデバイスの MSP アドレスが表示されます。互換モードで動作している VLIB のパスの場合は、パスに割り当てられている論理デバイスアドレスが表示されます。

State

このパスの現在の状態。次のいずれかを指定できます。

Online

パスはオンラインであり、使用できます。

On-Async

パスはオンラインであり、VTV の非同期レプリケーションに使用できます。

On-Sync

パスはオンラインであり、VTV の同期レプリケーションに使用できます。

Offline

接続先のパスまたはデバイスがオフラインに移行しました。

Maint

接続先のパスまたはデバイスがオフライン保守モードに移行しました。これは、繰り返された障害の結果である可能性があります。

Display Queue

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

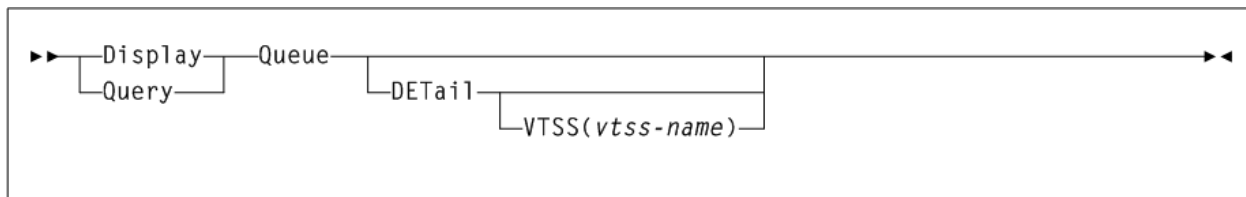
説明

Display Queue コマンドは、キューに入れられている VTCS プロセスのステータスを表示します。

構文

図3.57 「[Display Queue コマンドの構文](#)」は *Display Queue* コマンドの構文を示しています。

図3.57 Display Queue コマンドの構文



パラメータ

図3.57「Display Queue コマンドの構文」に示すように、*Display Queue* コマンドには次のパラメータが含まれます。

DETail

オプションで、詳細なステータスを表示します。

VTSS(vtss-name)

オプションで、指定された VTSS のプロセスを表示します。

vtss-name は、VTSS 名を示します。

出力

Display Queue コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.26 Display Active の出力 (詳細なし)

```
MIGRATES=3 RECALLS=2 RECLAIMS=0
```

Display REPlicat

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

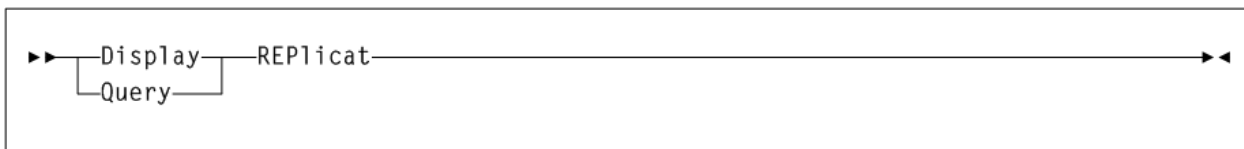
説明

Display REPlicat コマンドは VTV レプリケーションのステータスを表示します。

構文

図3.58 「Display REPLICat コマンドの構文」は *Display REPLICat* コマンドの構文を示しています。

図3.58 Display REPLICat コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

Display REPLICat コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.27 Display REPLICat の出力

```

VTSS      Name      Host      Qdepth
HBVTSSY   PLEX1819  EC20      0
           EC21      0
           ECCL      0
           ECCY      0
HBVTSS18  -Cluster  EC20      0
           EC21      0
           ECCL      0
           ECCY      0
*SLS5013I Command completed (0)

```

フィールド

Display REPLICat コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

VTSS

プライマリまたは送信側 VTSS 名。

NAME

次のいずれかの値です。

name

VTSS から CLINK が接続されている TapePlex の名前。

-Cluster

VTSS はクラスタのメンバーであり、クラスタ内のほかの VTSS にレプリケーションするために CLINK が定義されていることを示します。

HOST

プライマリ VTSS に接続されているホスト。

Qdepth

レプリケートを待機している VTV の合計数。

Display Requests

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

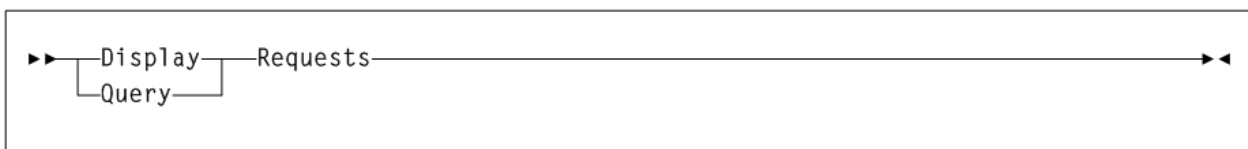
説明

Display Requests コマンドは保留中のすべての LMU 要求を表示します。

構文

図3.59 「Display Requests コマンドの構文」は *Display Requests* コマンドの構文を示しています。

図3.59 Display Requests コマンドの構文



パラメータ

なし。

Display RTD

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

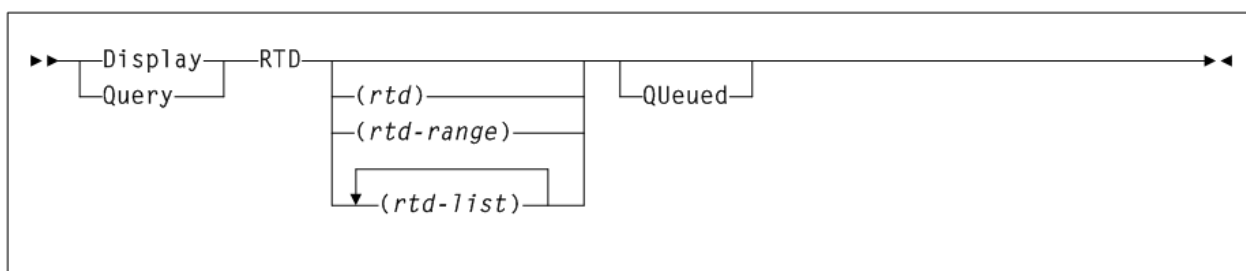
説明

Display RTD コマンドは、指定された RTD の使用状況に関する情報を表示します。

構文

図3.60 「Display RTD コマンドの構文」は *Display RTD* コマンドの構文を示しています。

図3.60 Display RTD コマンドの構文



パラメータ

図3.60 「Display RTD コマンドの構文」に示すように、*Display RTD* コマンドには次のパラメータが含まれます。

rtd-id*、*rtd-range*、または *rtd-list

オプションで、1つ以上の RTD のユニットアドレス。

Qeued

オプションで、RTD のキューに入れられている要求に関する情報を表示します。

出力

Display RTD コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.28 Display RTD の出力

RTD	MOUNT	ALLOC	HOST	VTSS	Status	Top ID	Top Host
B200	-	-	-	DHSS16	Offline	01265	ECC20
B201	-	-	-	DHSS16	Offline	02368	ECC20
B202	-	-	-	DHSS16	Online/free		
B201	-	-	-	DHSS16	Online/free		

```
0B79 - - - DHSS16 Online/free
0B7A DMV051* DMV051 EC20 DHSS18 Recall VTV
1600 MSP1 :Migrate
1601 MSP1 :Migrate
```

フィールド

Display RTD コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

RTD

RTD のユニットアドレス。

MOUNT

現在マウントされている MVC の volser (* は処理中のマウントを示しています。)

ALLOC

この RTD へのマウントのために割り当てられている MVC の volser。

HOST

現在 RTD を所有しているホスト。

VTSS

次のいずれかです。

- 現在この RTD に接続されている VTSS。
- vRTD が含まれているストレージマネージャーへのパスを持つ VTSS。
- - は、vRTD が含まれているストレージマネージャーへのパスを持つ複数の VTSS があることを示しています。

Status

次の RTD ステータスのいずれかです。

AUDIT MVC

MVC が監査されています。

BUSY

RTD はビジー状態です (不特定のタスク)。

FAIL/OFFLINE

この RTD は障害のためにオフラインになっています。

IDLE

RTD に MVC が割り当てられていますが、その MVC は使用されていません。

INITIALIZE

ホストは RTD のステータスと可用性を確認しています。

MAINTENANCE

RTD は保守モードにあります。

MIGRATE VTV

RTD は VTV を移行しています。

OFFLINE

RTD はオフラインであり、すべてのホストおよび VTSS から使用できません。

ONLINE/FREE

RTD はオンラインであり、使用できます。

PATH MAINT

RTD への 1 つ以上のパスが保守モードに移行しました。

PATH OFFLINE

VTSS が RTD に接続できないため、またはパスが正しく構成されなかった場合、RTD ステータスは不明です。

PATH SUSPEND

RTD はグローバルにオンラインですが、RTD が CLINK とペアになっているため、VTSS からのパスは中断されています。

PATHS OFFLINE

vRTD が含まれているストレージマネージャーへのオンラインのパスがなく、少なくとも 1 つのオンラインの VTSS から vRTD が含まれているストレージマネージャーへのすべてのパスがオフラインです。

RECALL VTV

RTD は VTV をリコールしています。

RECOVER RTD

RTD は、問題、移行、または初期化のあとのリセット中です。

RECOVERY

この RTD は、エラーまたはオンライン移行モードのあとのリセット中です。

SUSPEND

RTD 操作が中断されています。これは次の条件のもとで発生します。

- 同じ VSM4 ICE3 カードの CIP または VSM5、FICON、および FIP の 2 つの別々のポートに 2 つの RTD が接続されている場合。
- 同じポート上に 1 つ以上の RTD と CLINK が構成されている場合。CLINK がオンラインの間、RTD は *SUSPEND* モードのままになります。

注:

RTD は CLINK がオフラインである場合にのみオンラインにできます。

UNKNOWN

vRTD が含まれているストレージマネージャーへのオンラインパスがなく、次のステータスが適用されていません。

- *Paths Offline*
- *VTSS Offline*
- *VTSSs Offline*

UNLOAD MVC

RTD の強制的なアンロードが実行されています。

VTSS Offline

次のいずれかです。

- この RTD が接続されている VTSS がオフラインです。
- vRTD が含まれているストレージマネージャーへのオンラインのパスがなく、*Paths offline* が適用されておらず、vRTD が含まれているストレージマネージャーへのパスを持つ 1 つのオフライン VTSS があります。

VTSSs Offline

次のいずれかです。

- この RTD は複数の VTSS に接続されており、そのすべてがオフラインです。
- vRTD が含まれているストレージマネージャーへのオンラインのパスがなく、*Paths offline* が適用されておらず、vRTD が含まれているストレージマネージャーへのパスを持つ複数のオフライン VTSS があります。

VTV TRANSFER

RTD は、別の VTSS で VTV をリコールする前にその VTV を移行していません。

TOP ID

このホストからこの RTD を次に使用するためにキューの先頭にある要求のプロセス ID。「**TOP ID**」列は、このコマンドが実行されたホストからの要求にのみ適用されます。このホストは、この RTD に対する最上位の権利を持っていない可能性があります。

TOP Host

この RTD を使用するためのキューの先頭にある要求を持つホスト。「**TOP HOST**」列は、どのホストがこの RTD に対する最上位の権利を持っているかを示します。

出力

Qued パラメータを使用した *Display RTD* コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.29 Display RTD の出力 (Display RTD Queued)

ID	Function	Weight	VTSS	MVC list / Storage Class
01360	<X00029>	432*	HBVTSS18	021748 022524
01425	Recall	2	!ALLVTSS	021754
01423	Recall	2	!ALLVTSS	021675
01368	Recall	2	!ALLVTSS	022551
01381	Migrate	2	HBVTSS19 -	*HBVTSS19

フィールド

Display RTD コマンドの出力には次のフィールドが表示されます。

ID

0 - 65536 の範囲の一意の番号であるプロセス ID。プロセス ID が 65536 に達すると、ゼロに戻されます。

FUNCTION

RTD のキューに入れられている要求のタイプ。VTV の *volser* が山括弧 (<>) 内にある場合は、仮想マウントの自動リコール要求です。

WEIGHT

VTCS によって要求に現在割り当てられている重み付け係数。要求はこの係数に従って考慮され、キューに入れられます (報告されます)。値の横のアスタリスク (*) は、別の MVC の割り当てのスチーリングが許されるほどに、要求が十分に長く待機していることを示しています。

VTSS

RTD の選択に使用される VTSS または VTSS のリストの名前。特殊な値 ! *ALLVTSS* は適切なドライブにアクセスできるすべての VTSS が適格であることを示します。

MVC LIST

RTD の選択を試みている MVC のリスト。自動リコール要求の場合は、このリストに 4 つの MVC を指定することがあります。反対に、まだ MVC を選択していない移行要求の場合は、空になります。

STORAGE CLASS

移行の宛先のストレージクラス。値の横のアスタリスク (*) は、このストレージクラスがエラー状態であることを示しています。

Display SCRAtch

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

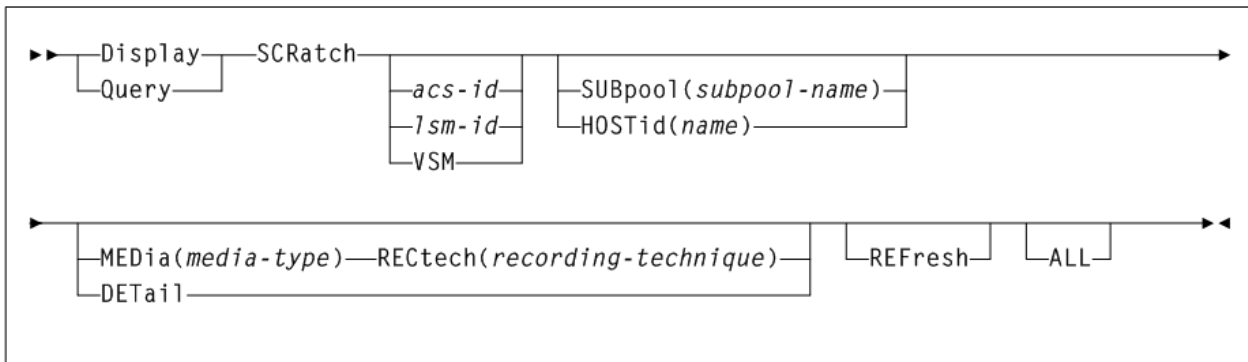
説明

Display SCRatch コマンドは、サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディアタイプ、記録技法、または所有しているホスト名ごとにスクラッチカウントを表示します。

構文

図3.61 「Display SCRatch コマンドの構文」は *Display SCRatch* コマンドの構文を示しています。

図3.61 Display SCRatch コマンドの構文



パラメータ

図3.61 「Display SCRatch コマンドの構文」に示すように、*Display SCRatch* コマンドには次のパラメータが含まれます。

acs-id

オプションで、システムがスクラッチカウント情報を表示する ACS。LSM 番号なしで *acs-id* を指定した場合、ACS 全体の選択されたスクラッチカウントが表示されます。

lsm-id

オプションで、システムがスクラッチカウント情報を表示する LSM。

VSM

オプションで、*Display SCRatch* の表示を仮想ボリュームを持つサブプールに制限します。*acs-id* または *lsm-id* も指定されている場合、*VSM* は許可されません。

注:

acs-id または *lsm-id* を指定する場合は、*SCRatch* キーワードのあとの最初のパラメータである必要があります。*VSM* キーワードを指定する位置には制約はありません。

SUBpool(subpool-name)

オプションで、スクラッチカウントの表示を指定されたサブプールだけに制限します。*SUBpool* を指定した場合、LSM および ACS の合計には指定されたサブプールのみが反映されます。*HOSTid* も指定されている場合、*SUBpool* は許可されません。

subpool- name はサブプールの名前を示します。最大 13 文字を指定します。

HOSTid(name)

オプションで、スクラッチカウントの表示を指定された *HOSTid* からアクセスできるサブプールだけに制限します。*HOSTid* を指定した場合、LSM および ACS の合計には指定された *HOSTid* からアクセスできるサブプールのみが反映されます。*SUBpool* も指定されている場合、*HOSTid* は許可されません。

name はホストの **SMFID** または **SMC SERVER ALIASHOST ID** を示します。最大 8 文字を指定します。

MEDia(media-type)

オプションで、スクラッチカウントの表示を指定されたメディア名と互換性のあるボリュームに制限します。*MEDia* を指定した場合、LSM および ACS の合計には互換性のあるメディアタイプのみが反映されます。

media-type は、メディアタイプを示します。

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

RECtech(recording-technique)

オプションで、スクラッチカウントの表示を指定された記録技法と互換性のあるボリュームに制限します。*RECtech* を指定した場合、LSM および ACS の合計には互換性のある記録技法のみが反映されます。

recording-technique は、記録技法を示します。

有効な記録技法の値については、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

DETail

オプションで、すべてのメディアおよび記録技法ごとにスクラッチカウントを一覧表示します。指定した場合は、サブプールごとに追加のレベルのメディアおよび記録技法の詳細が表示されます。*MEDia* または *RECtech* も指定されている場合、*DETail* は許可されません。

REFresh

オプションで、表示される前に VSM のスクラッチカウントを更新します。

注:

REFresh パラメータを指定すると CDS への追加の I/O が発生するため、慎重に使用する必要があります。

ALL

オプションで、スクラッチカウント 0 およびしきい値 0 であるサブプールのスクラッチカウントを一覧表示します。通常、*Display SCRatch* コマンドは、ゼロ

以外のスクラッチカウントまたはゼロ以外のしきい値を持つサブプールのみを一覧表示します。ALL を指定すると、このフィルタがオーバーライドされ、定義されているすべてのスクラッチプールが表示されます。

出力

Display SCRatch コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

次の例は、すべての ACS 内のすべての LSM の数を示しています。

例3.30 Display SCRatch の出力 (すべて)

DISPLAY SCRATCH

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM	Subpool Name	Label	Media	Rectech	Count
VSM	SPV001	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	930
VSM	SPV002	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	1036
VSM	SPM001	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	25
VSM	Total		VIRTUAL	VIRTUAL	1991
LSM 00:00	SP001	SL	All		13
LSM 00:00	SP002	SL	All		31
LSM 00:00	SPM001	SL	All		235
LSM 00:00	Non-Subpool		All		11
LSM 00:00	Total		All		290
LSM 00:01	SP001	SL	All		9
LSM 00:01	Non-Subpool		All		6
LSM 00:01	Total		All		15
ACS 00	SP001	SL	All		22
ACS 00	SP002	SL	All		31
ACS 00	SPM001	SL	All		235
ACS 00	Non-Subpool		All		17
ACS 00	Total		All		305

次の例は、単一のサブプールの場合の *Display SCRatch* のカウントを示しています。

例3.31 Display SCRatch の出力 (subpool)

DISPLAY SCRATCH SUBPOOL(SPM001)

SLS2638I Scratch Summary

ACS/LSM	Subpool Name	Label	Media	Rectech	Count
VSM	SPM001	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	25
LSM 00:00	SPM001	SL	All		235
ACS 00	SPM001	SL	All		235

次の例は、単一の ACS の場合の *Display SCRatch* のカウントを示しています。

例3.32 Display SCRatch の出力 (ACS)

```
DISPLAY SCRATCH ACS 00
```

```
SLS2638I Scratch Summary
```

ACS/LSM	Subpool Name	Label	Media	Rectech	Count
LSM 00:00	SP001	SL	All		13
LSM 00:00	SP002	SL	All		31
LSM 00:00	SPM001	SL	All		235
LSM 00:00	Non-Subpool		All		11
LSM 00:00	Total		All		290
LSM 00:01	SP001	SL	All		9
LSM 00:01	Non-Subpool		All		6
LSM 00:01	Total		All		15
ACS 00	SP001	SL	All		22
ACS 00	SP002	SL	All		31
ACS 00	SPM001	SL	All		235
ACS 00	Non-Subpool		All		17
ACS 00	Total		All		305

次の例は、単一の LSM の場合の *Display SCRatch* の詳細なカウントを示しています。

例3.33 Display SCRatch の出力 (LSM)

```
DISPLAY SCRATCH LSM 01:00 DETAIL
```

```
SLS2638I Scratch Summary
```

ACS/LSM	Subpool Name	Label	Media	Rectech	Count
LSM 01:00	SP002	SL	ECART	36TRACK	1
LSM 01:00	SP002	SL	STANDARD	18TRACK	5
LSM 01:00	SP002	SL	STANDARD	36TRACK	5
LSM 01:00	Non-Subpool		All		8
LSM 01:00	Total		All		19

Display SEN

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

`Display SEN` コマンドは、`SEN LISTEN` 要求およびそれらのステータスを表示します。これには、要求元名およびリスナー名を使用して特定の要求を表示したり、要求元の名前のみを使用して関連する要求のリストを表示したり、すべての `SEN` 要求を表示したりできます。

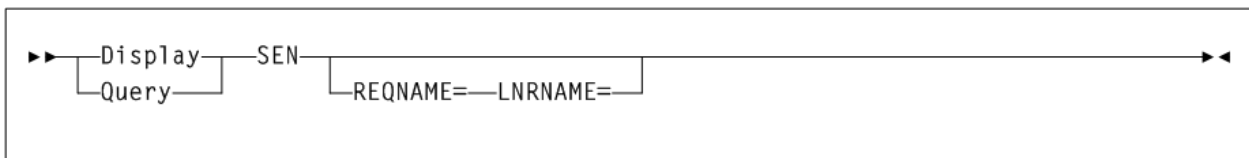
表示される情報には次のものが含まれます。

- 要求元の名前およびリスナー名 (ある場合)。
- `EOT/EOM` 設定
- 無効/有効のステータス。
- 要求に関連付けられているトークン。
- 要求のイベントリスト。

構文

図3.62 「`Display SEN コマンドの構文`」は `Display SEN` コマンドの構文を示しています。

図3.62 `Display SEN` コマンドの構文



パラメータ

図3.62 「`Display SEN コマンドの構文`」に示すように、`Display SEN` コマンドには次のパラメータが含まれます。

REQNAME=

オプションで、`SEN` 要求で識別される要求元の名前を指定します。

LNRNAME=

`SEN` 要求で識別されるリスナールーチンの名前を指定します。

サポートされている HSC SEN イベント

次の表は、サポートされている HSC SEN イベントを示しています。

表3.3 HSC SEN イベント

イベント名	数値設定
<i>libvol_insert_event</i>	18
<i>libvol_delete_event</i>	19
<i>hsc_termination_event</i>	20
<i>lsmrail_added_event</i>	25
<i>lsmrail_removed_event</i>	26
<i>libdrive_added_event</i>	27
<i>libdrive_removed_event</i>	28

サポートされている VTCS SEN イベント

次の表は、サポートされている VTCS SEN イベントを示しています。

表3.4 VTCS SEN イベント

イベント名	数値設定
<i>vtss_performance_event</i>	01
<i>vtss_chanif_performance_event</i>	02
<i>vtv_mount_event</i>	03
<i>vtv_dismount_event</i>	04
<i>vtv_delete_event</i>	05
<i>mvc_mount_event</i>	06
<i>mvc_dismount_event</i>	07
<i>vtv_migrate_event</i>	08
<i>vtv_recall_event</i>	09
<i>rtd_performance_event</i>	10
<i>rtd_vary_event</i>	11
<i>mvc_usage_event</i>	12

イベント名	数値設定
<i>vtt_movement_event</i>	13
<i>vtt_scratch_event</i>	14
<i>vtt_replicate_event</i>	15
<i>tv_unlink_from_mvc_event</i>	16
<i>clink_vary_event</i>	17

Display SERVER

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

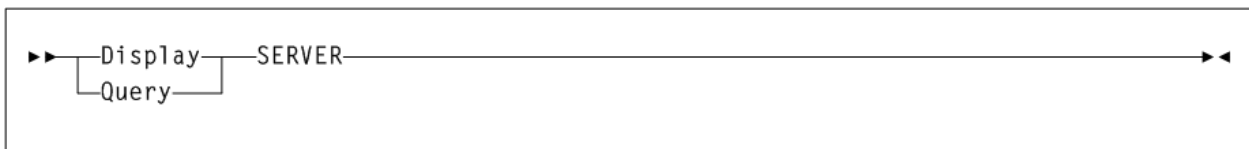
説明

Display SERVER はサービスレベルおよびデータベースステータスを表示します。

構文

図3.63 「[Display SERVER コマンドの構文](#)」は *Display SERVER* コマンドの構文を示しています。

図3.63 *Display SERVER* コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

Display SERVER コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.34 Display SERVER の出力

```
SLS1030I HSC service level FULL active
SLS0007I Data Base Status: 125
CDS          DSN          Active
Primary     ELS.DBASEPRM   Yes
Secondary   ELS.DBASESEC   Yes
Standby     (not configured) No
```

Display SRVlev

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

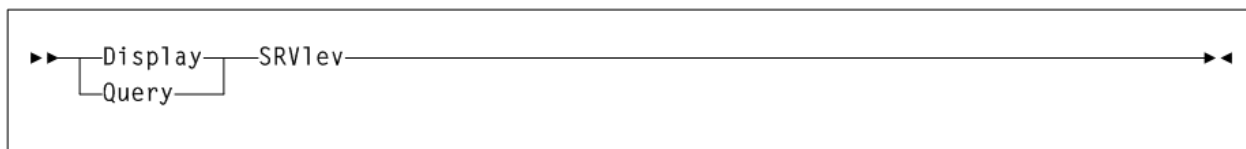
説明

Display SRVlev コマンドは、コマンドを発行したホストの現在の HSC サービスレベルを表示します。

構文

図3.64 「[Display SRVlev コマンドの構文](#)」は *Display SRVlev* コマンドの構文を示しています。

図3.64 Display SRVlev コマンドの構文



パラメータ

なし。

Display Status

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

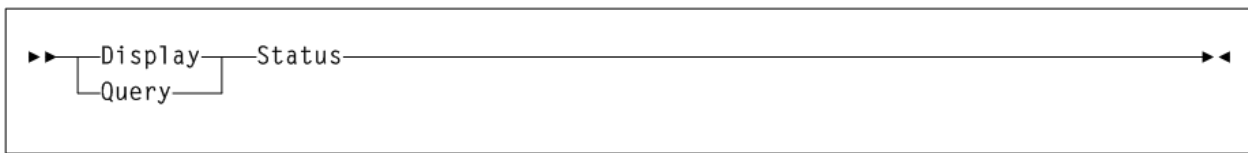
説明

Display Status コマンドは、コマンドを発行したホストで現在アクティブな保留中の要求のステータスを表示します。

構文

図3.65 「*Display Status* コマンドの構文」は *Display Status* コマンドの構文を示しています。

図3.65 *Display Status* コマンドの構文



パラメータ

なし。

出力

Display Status コマンドは、HSC の通常の実行時および終了時の問題を解決するための次の情報を表示します。

- 要求: *Dismount*、*Eject*、*Enter*、*Modify*、*Mount*、*Move*、*Vary*、*View*
- 次の情報を含む要求に関する情報。
 - 要求元 (オペレータ、PGMI、Clean、ユーティリティのジョブ名など)
 - 物理要素 (CAPid、ドライブ、LSM、ステーションなど)
 - 要求に関連付けられている要素 (監査に属する CAPid など)
 - 各キューの準備完了ステータス、および特定のキューがパーズまたは終了されたかどうか

- ACS の切り替えが進行しているかどうか

注:

- 現在のマウントアクティビティおよび保留中のマウントアクティビティに関する情報については *Display DRives* コマンドを使用し、キューに入れられている LSM 要求に関する情報については *Display Requests* コマンドを使用します。
- パネル全体の監査またはスコープ内の監査が実行されている場合、現在のセルの場所は監査されているパネルの最初のセルを指しています。

Display STORCLas

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

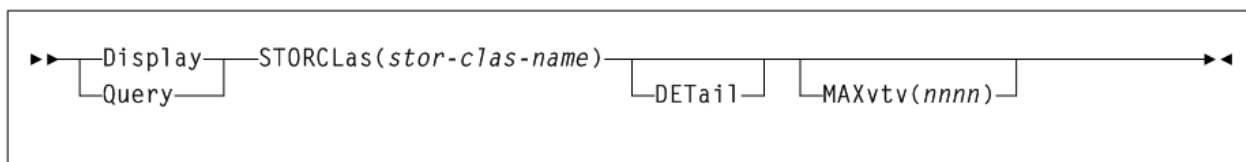
説明

Display STORCLas コマンドはストレージクラスに関する情報を表示します。

構文

図3.66 「[Display STORCLas コマンドの構文](#)」は *Display STORCLas* コマンドの構文を示しています。

図3.66 Display STORCLas コマンドの構文



パラメータ

図3.66 「[Display STORCLas コマンドの構文](#)」に示すように、*Display STORCLas* コマンドには次のパラメータが含まれます。

stor-clas-name

ストレージクラス名。*MGMTDEF* コマンドを使用して定義されたものだけでなく、任意のストレージクラスを指定できます。このため、*stor-clas-name* は、これらのストレージクラスへの移行の詳細を表示できるように、*vtss-name* または *!ERROR* の値を取ることができます。

DETail

オプションで、このストレージクラスの自動移行または即時移行のキューに現在入れられている VTV を出力に一覧表示します。

MAXvtv(nnnn)

オプションで、単一の自動移行または即時移行のリスト (VTSS の場合) に一覧表示する VTV の最大数を示します。

nnnn は VTV の最大数 (0-9999) を示します。指定しない場合は、デフォルト値の 100 が使用されます。

MAXvtv(nnnn) は *DETail* を意味します。

注意:

MAXvtv(nnnn) を指定するときに高い値を指定すると、発行される WTO (オペレータに対して書き込まれます) メッセージの数によって、システムが一時的に機能低下することがあります。

出力

Display STORCLas コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.35 Display STORCLas の出力

```
Summary of storage class XCA8:

MVCs must be in ACS 00 and MVCPool DEFAULTPOOL

RTDs can be any device type
MVCPool DEFAULTPOOL contains no free MVCs

There is 1 VTV awaiting auto-migration from VTSS CLIVSS16
V000002 with MGMTCLAS XCA8

VTSS CLIVSS16 has no suitable RTDs online in ACS 00
VTSS CLIVSS17 has no suitable RTDs online in ACS 00
```

例3.35「[Display STORCLas の出力](#)」に示すように、*Display STORCLas* の出力には次の情報が表示されます。

- ストレージクラスの特徴 (ACS、MVC プール、およびメディア)。
- VTSS からストレージクラスへの移行を待機中の VTV。

- 移行に使用する MVC の要件。
- 移行 MVC への書き込みに必要な RTD のデバイスタイプ。
- 移行の要件を満たすにあたって発生したエラー。

Display STORMNgr

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

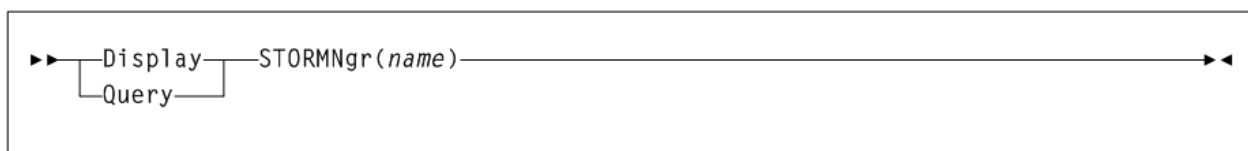
説明

Display STORMNgr コマンドは、外部ストレージマネージャーのステータスおよび VTSS から定義されたパスを表示します。

構文

図3.67 「[Display STORMNgr コマンドの構文](#)」は *Display STORMNgr* コマンドの構文を示しています。

図3.67 Display STORMNgr コマンドの構文



パラメータ

図3.67 「[Display STORMNgr コマンドの構文](#)」に示すように、*Display STORMNgr* コマンドには次のパラメータが含まれます。

name
ストレージマネージャー名。

出力

Display STORMNgr コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.36 Display STORMNgr の出力

Name	Type	Version	Status
VLELIB0	VLE	1.1	Online

Features: Unknown

Device	Name	VTSS	CHANIF
V000	SS16IP0	DVTSS16	08 I0A:0
V002	SS16IP1	DVTSS16	09 I0I:0
V001	SS16IP2	DVTSS16	0A I1A:0
V003	SS16IP3	DVTSS16	0B I1I:0
V010	SS17IP0	DVTSS17	08 I0A:0
V012	SS17IP1	DVTSS17	09 I0I:0
V011	SS17IP2	DVTSS17	0A I1A:0
V013	SS17IP3	DVTSS17	0B I1I:0

フィールド

Display STORMNgr コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

Name

外部ストレージマネージャーの名前

Type

ストレージマネージャーのタイプ:

- HSC – 別の TapePlex の HSC
- VLE – VLE

Version

ストレージマネージャーで現在実行されているソフトウェアバージョン

Status

ストレージマネージャーの現在のステータス

Features

インストールされているか、ストレージマネージャーによってサポートされている主要な機能のリスト

Device

パスの宛先デバイス。自律型デバイスデータ転送のためのストレージマネージャーへの接続の場合、この列は空白になります。

Name

ストレージマネージャー内のパスに割り当てられている名前。ストレージマネージャーがデバイスへのマウントおよびマウント解除を処理するだけの場合、この列は空白になります。これが CLINK である場合、この列にはターゲット VTSS 名が表示されます。

VTSS

このストレージマネージャーへのこの接続を持つ VTSS の名前。デバイスがストレージマネージャーによって直接処理される場合、この列は空白になります。

CHANIF

パスに割り当てられている論理デバイス ID、およびパスに指定された *CHANIF* 値または *IPIF* 値。ストレージマネージャーへのパスが VTSS から直接のパスではない場合、この列は空白になります。

Display TASKs**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

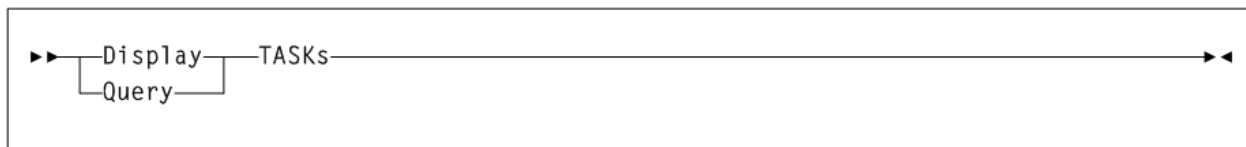
説明

Display TASKs コマンドはタスクのステータスを表示します。

構文

図3.68 「[Display TASKs コマンドの構文](#)」は *Display TASKs* コマンドの構文を示しています。

図3.68 *Display TASKs* コマンドの構文

**パラメータ**

なし。

出力

Display TASKs コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.37 *Display TASKs* の出力

TASK NBR	TASK TYPE	SLOT ID	VTSS	RTD	CURRENT PROCESS	LOCKS HELD	WAITQ COUN	PENDQ COUNT
000	DSP	019			518	T		
001	SS	034	HBVTSS16	SS16B200		T		

002	RTD	035	HBVTSS16	SS16B201	R	
003	RTD	036	HBVTSS16	SS160B79	R	
004	RTD	044	HBVTSS16	SS160B7A	R	1
005	RTD	045	HBVTSS16	SS160B7C	R	

フィールド

Display TASKs コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

TASK NBR

現在のホスト上の各タスクのタスク番号。

SLOT ID

ロックバッファ内の LOCK 識別子。

TASK TYPE

タスクのタイプ:

- *INV* - インベントリマネージャー
- *CMD* - コマンドタスク
- *Ctc* - クロス TapePlex 通信マネージャー
- *DSP* - ディスパッチャータスク
- *SS* - VTSS タスク
- *RTD* - RTD タスク
- *DRV* - RTD スケジューラ
- *SCR* - スクラッチマネージャー
- *RCM* - リクレイムマネージャー
- *MSC* - 移行スケジューラ
- *CSH* - Clink スケジューラ
- *CLK* - CLINK タスク
- *UNK* - 不明

VTSS

VTSS 名。

RTD

RTD タスクの RTD 名。

CURRENT PROCESS

現在のプロセス ID。

LOCKS HELD

保持されているロックのタイプ:

- *T* - タスクのロック

- *M* - MVC ロック
- *V* - VTV ロック
- *D* - VTD ロック
- *R* - RTD ロック

WAITQ COUNT

ロックを待機している要求の件数。

PENDQ COUNT

保留中要求の件数。

Display THReshId**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

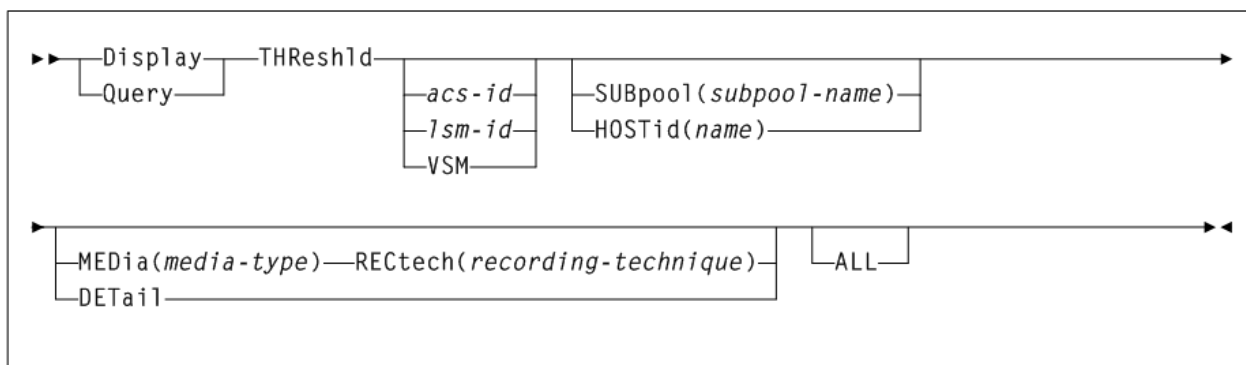
説明

Display THReshId は、スクラッチカウントとスクラッチしきい値の情報を、サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア、および記録方式ごとに表示します。

構文

図3.69 「[Display THReshId コマンドの構文](#)」は *Display THReshId* コマンドの構文を示しています。

図3.69 Display THReshId コマンドの構文



パラメータ

図3.69 「Display THReshld コマンドの構文」に示すように、*Display THReshld* コマンドには次のパラメータが含まれます。

THReshld

スクラッチカウントおよびしきい値情報を表示します。これには、サブプール名、ACS ID、LSM ID、メディア、および記録技法ごとのスクラッチカウントとスクラッチしきい値が含まれていることがあります。

acs-id

オプションで、システムがスクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の情報を表示する ACS。LSM 番号なしで *acs-id* を指定した場合、ACS 全体の選択されたスクラッチカウントが表示されます。

lsm-id

オプションで、システムがスクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の情報を表示する LSM。

VSM

オプションで、*Display THReshld* の表示を仮想ボリュームを持つサブプールに制限します。*acs-id* または *lsm-id* も指定されている場合、VSM は許可されません。

注:

オプションで、*Display THReshld* の表示を仮想ボリュームを持つサブプールに制限します。*acs-id* または *lsm-id* も指定されている場合、VSM は許可されません。

SUBpool(subpool-name)

オプションで、スクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の表示を指定されたサブプールだけに制限します。*SUBpool* を指定した場合、LSM および ACS の合計には指定されたサブプールのみが反映されます。*HOSTid* も指定されている場合、*SUBpool* は許可されません。

subpool-name はサブプール名を示します。最大 13 文字を指定します。

HOSTid(name)

オプションで、スクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の表示を指定された *HOSTid* からアクセスできるサブプールに制限します。*HOSTid* を指定した場合、LSM および ACS の合計には指定された *HOSTid* からアクセスできるサブプールのみが反映されます。*SUBpool* も指定されている場合、*HOSTid* は許可されません。

name はホストの **SMFID** または **SMC SERVER ALIASHOST ID** を示します。最大 8 文字を指定します。

MEDIA(media-type)

オプションで、スクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の表示を指定されたメディア名と互換性のあるボリュームに制限します。*MEDIA* を指定した場

合、LSM および ACS の合計には互換性のあるメディアタイプのみが反映されま
す。

media-type は表示する目的のメディアの名前を示します。有効なメディア名の
値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してくだ
さい。

MEDia は *VSM* パラメータとともに使用できません。

RECtech(recording-technique)

オプションで、スクラッチカウントおよびスクラッチしきい値の表示を指定さ
れた記録技法と互換性のあるボリュームに制限します。*RECtech* を指定した場
合、LSM および ACS の合計には互換性のある記録技法のみが反映されます。

recording-technique は表示する目的の記録技法の名前を示します。有効なメ
ディア名の値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参
照してください。

RECtech は *VSM* パラメータとともに使用できません。

DETail

オプションで、すべてのメディアおよび記録技法ごとにスクラッチカウ
ントおよびスクラッチしきい値の情報を一覧表示します。指定した場合は、サ
ブプールごとに追加のレベルのメディアおよび記録技法の詳細が表示されま
す。*VSM*、*MEDia*、または *RECtech* も指定されている場合、*DETail* は許可され
ません。

ALL

オプションで、スクラッチカウント 0 およびしきい値 0 であるサブプールのスク
ラッチカウントを一覧表示します。通常、*Display THReshld* コマンドは、ゼ
ロ以外のスクラッチカウントまたはゼロ以外のしきい値を持つサブプールのみを
一覧表示します。*ALL* を指定すると、このフィルタがオーバーライドされ、定義
されているすべてのスクラッチプールが表示されます。

出力

Display THReshld コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.38 *Display THReshld* コマンドの出力

```
DISPLAY THRESHOLD
```

```
SLS2649I Threshold Value Summary
```

ACS/LSM	Subpool Name	Label	Media	Rectech	Count	Thresh
VSM	SPV001	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	930	0
VSM	SPV002	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	1036	0
VSM	SPM001	SL	VIRTUAL	VIRTUAL	25	0
VSM	Total		VIRTUAL	VIRTUAL	1991	0

```

-----
LSM 00:00 SP001      SL  All          13      0
LSM 00:00 SP002      SL  All          31      0
LSM 00:00 SPM001     SL  All         235     0
LSM 00:00 Total      All          290     0
LSM 00:01 SP001      SL  All           9      0
LSM 00:01 Total      All          15      0
ACS 00      SP001      SL  All          22      0
ACS 00      SP002      SL  All          31      0
ACS 00      SPM001     SL  All         235     0
ACS 00 Total          All          305     0
=====

```

Display Volser

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

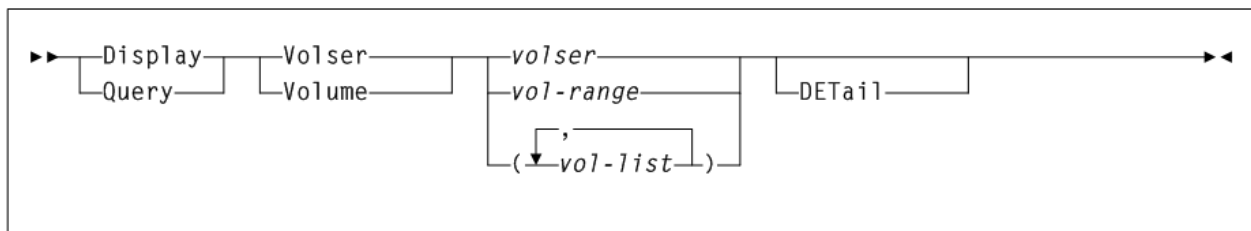
説明

Display Volser コマンドはボリューム情報を表示します。

構文

図3.70 「[Display Volser の出力例](#)」は *Display Volser* コマンドの構文を示しています。

図3.70 *Display Volser* の出力例



パラメータ

図3.70 「[Display Volser の出力例](#)」に示すように、*Display Volser* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Volser または Volume

指定されたボリュームのボリュームの場所が表示されます。次のような情報が表示されます。

- (選択または選択解除されている) ボリュームのステータスおよびその場所
- ソース、宛先、およびホームの場所 (問題のあるボリュームの場合)

volser、*volrange*、または *vollist* は、システムがステータスを表示する 1 つ以上の VOLSER を示します。 *vollist* の各要素には、単一の VOLSER または VOLSER の範囲を指定できます。最大 100 ボリュームの範囲を表示できます。

リスト内の要素はコンマまたは空白で区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。

DETail

オプションで、指定されたボリュームに関する使用可能なすべての情報を表示します。

出力

Display Volser コマンドは次の情報を表示します。

- ホームセルの場所
- ボリュームがスクラッチカートリッジであるかどうか
- ボリュームが選択されているかどうか
- 所有しているホスト (ボリュームが選択されている場合に表示されます)
- ドライブのアドレスまたはドライブ ID (ボリュームがマウントされている場合に表示されます)
- 外部ラベルが存在するかどうか
- メディアのラベルがロボット視認システムによって読み取り可能かどうか (外部ラベルが存在する場合に表示されます)
- ボリュームがライブラリに最後に挿入されたとき
- ボリュームが最後に選択されたとき
- 選択回数
- ボリュームのメディアタイプ
- ボリュームの記録技法
- メディアのラベルが読み取り可能かどうか (値が LMU から読み取られなかった場合は N/A が表示されます)

- ボリュームのメディアタイプがどのように判別されたか。このフィールドに表示される値は次のとおりです。

YES

メディアラベルとボリュームに定義されている *VOLPARM* が一致しています。

NO

メディアラベルとボリュームに定義されている *VOLPARM* が一致していません。

VOLATTR Only

VOLPARM が定義されていますが、LMU はメディアタイプを判別していません。

Label Only

LMU はメディアタイプを判別しましたが、*VOLPARM* は定義されていません。

Undefined

VOLPARM が定義されておらず、LMU はメディアタイプを判別していません。

- ボリュームが使用できない状態であるかどうか (つまり、使用済みのクリーニングカートリッジ)
- *STK1* および *STK2* メディアボリュームのボリューム密度。
- カートリッジの *MIR* に格納されていて、マウント解除処理中に収集されるメディア保証期限 (*MWL*) の割合。*MWL* の割合は、すでに使用済みのメディア寿命を示します。

注:

メディア保証期限を収集して報告するには、テーブライブラリおよびトランスポートが次の要件を満たしている必要があります。

- SL8500 ライブラリまたは SL3000 ライブラリ
- LMU 互換性レベル 21 以上
- T9x40: すべてのメディアおよびモデルがファームウェアレベル 1.42 以上である (9840B を除く)
- T10000: すべてのモデルおよびメディアがファームウェアレベル 1.38 以上である

メディア保証期限については、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の管理』を参照してください。

Display VOLume_Info

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

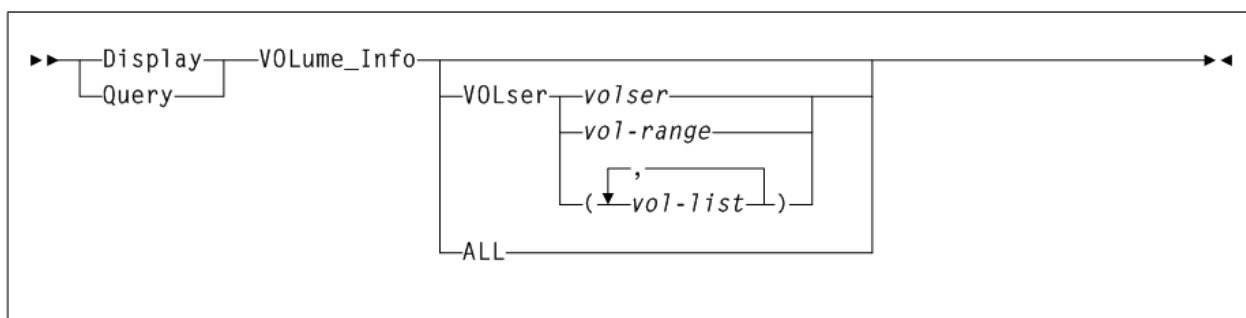
説明

Display VOLUME_INFO コマンドは、実ボリュームまたは仮想ボリュームの情報を表示します。

構文

図3.71 「[Display VOLUME_Info コマンドの構文](#)」は *Display VOLUME_Info* コマンドの構文を示しています。

図3.71 *Display VOLUME_Info* コマンドの構文



パラメータ

図3.71 「[Display VOLUME_Info コマンドの構文](#)」に示すように、*Display VOLUME_Info* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VOLser

指定されたボリュームのボリューム情報が表示されます。次のような情報が表示されます。

- (選択または選択解除されている) ボリュームのステータスおよびその場所
- ソース、宛先、およびホームの場所 (問題のあるボリュームの場合)

volser、*volrange*、または *vollist* は、システムがステータスを表示する 1 つ以上の *VOLSER* を示します。 *vollist* の各要素には、単一の *VOLSER* または *VOLSER* の範囲を指定できます。最大 100 ボリュームの範囲を表示できます。

リスト内の要素はコンマまたは空白で区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。

ALL

実 (仮想ではない) ボリュームのみが一覧表示されます。ボリュームはランダムな順序で一覧表示されます。

Display VSCRatch

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

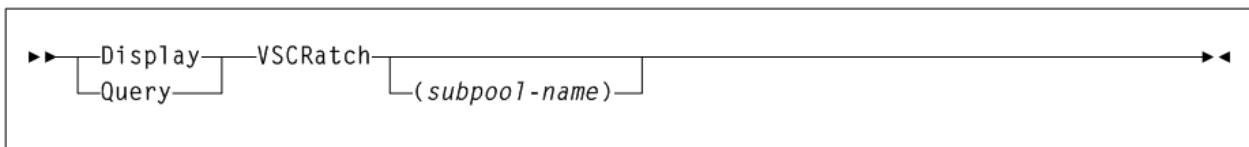
説明

Display VSCRatch コマンドは、仮想スクラッチカウントの診断情報を表示します。

構文

図3.72 「[Display VSCRatch コマンドの構文](#)」は *Display VSCRatch* コマンドの構文を示しています。

図3.72 *Display VSCRatch* コマンドの構文



パラメータ

図3.72 「[Display VSCRatch コマンドの構文](#)」に示すように、*Display VSCRatch* コマンドには次のパラメータが含まれます。

subpool-name

オプションで、サブプール名。最大 13 文字を指定します。

サブプール名を指定した場合、仮想スクラッチカウントの表示が指定されたサブプールのみ制限されます。

出力

`Display VSCRatch` コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.39 Display VSCRatch の出力

Subpool-Name	Scratch Count	Label Type	<--- Sizes available ---->			
			0.4GB	0.8GB	2GB	4GB
M0	972	SL	Yes	Yes	Yes	Yes
M1	994	SL	Yes	Yes	Yes	Yes
M2	1,000	SL	Yes	Yes	Yes	Yes

フィールド

`Display VSCRatch` コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

Subpool-Name

スクラッチサブプールの名前。VTCS はサブプールではない VTV のスクラッチカウントを表示しません。VTV サブプールが定義されていない場合、VTCS はすべての VTV の仮想テーププールを定義します。

Scratch Count

スクラッチカウントの数。

Label Type

次のいずれかのスクラッチラベルタイプ:

- *SL* は、標準ラベルのテープを示します。
- *AL* は、ANSI ラベルのテープを示します。
- *NL* は、ラベルなしのテープを示します。
- *NSL* は、非標準ラベルのテープを示します。

Sizes available

有効な VTV のサイズ (0.4GB、0.8GB、2GB、4GB)。

Display VTD

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

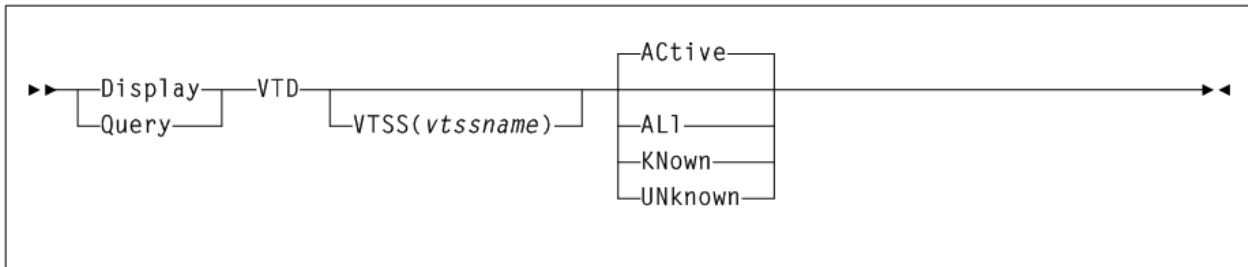
説明

Display VTD コマンドは VTD のステータスを表示します。

構文

図3.73 「[Display VTD コマンドの構文](#)」は *Display VTD* コマンドの構文を示しています。

図3.73 *Display VTD* コマンドの構文



パラメータ

図3.69 「[Display THReshld コマンドの構文](#)」に示すように、*Display THReshld* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTSS(vtss-name)

オプションで、指定された VTSS に接続されている VTD のステータスを表示します。

vtss-name は、VTSS 名を示します。

Active

VTV がマウントされている VTD のステータスを表示します。これには、既知の VTD および不明な VTD の両方が含まれている可能性があります。

All

すべての VTD のステータスを表示します。

Known

このシステムで既知の MSP アドレスを持っているすべての VTD のステータスを表示します。

Unknown

このシステムで既知の MSP アドレスを持っていないすべての VTD のステータスを表示します。

出力

Display VTD コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.40 Display VTD の出力

Drive	Location	VTV	Status	Usage	Client address
A800	HBVTSS16	X00778	Available	ECAM only	
A801	HBVTSS16		Available	ECAM only	
A802	HBVTSS16		Available	ECAM only	
A803	HBVTSS16		Available		EC21:B412

フィールド

Display VTD コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

Drive

VTD の MSP デバイスアドレス。デバイスアドレスの先頭に # 記号が付けられている場合は、VTSS 内のアドレスであり、この VTCS は MSP アドレスを認識していません。

Location

VTD が含まれている VTSS。

VTV

VTV の volser (該当する場合)。

Status

次の VTD ステータスのいずれかです。

Available

この VTD は作業に使用できます。

Dismounting

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD にマウントされており、その VTD はアンロードされました。VTCS はマウント解除要求を受信していないか、または現在 VTV と CDS の情報を同期している最中です。

Imported

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD を介して電子的にインポートされました。これは、エクスポートを実行したホストからの確認要求を待っています。

Importing

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD とともに電子的にインポートされています。

Mounted

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD にマウントされています。

Mounting

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD にマウントされている最中です。これは通常、自動リコールが進行中であることを示します。

Mount (other)

「VTV」列に示されている VTV volser は VTD にマウントされています。このマウントは、このコマンドが実行されたホストによって実行されませんでした。

Not Available

この VTD は作業に使用できません。

Redrive Later

「VTV」列に示されている VTV volser を VTD にマウントしようとしたが、失敗しました。これは、次の数分以内に再度解釈されます。

Replicating

「VTV」列に示されている VTV volser はレプリケートされている最中です。

Undefined

「VTV」列に示されている VTV volser は未定義です。

Unknown

「VTV」列に示されている VTV volser は不明です。

Usage

次のいずれかです。

Configuring

この VTD の構成が進行中です。

ECAM init error

VTSS で ECAM-t を使用して VTD を初期化できません。

ECAM I/O error

この VTD に対する ECAM-t I/O が失敗しました。

ECAM only

この VTD は、VTV をレプリケートするプロセスのために別の VTSS に接続されている VTD の 1 つです。例3.40「Display VTD の出力」では、X00778 はレプリケートされている VTV です。

Not accessed

この VTD は VTSS 構成内に見つかりません。

Not verified

この VTD は構成内の *NOVERIFY* で定義されています。

Client address

VTD へのマウントを最後に実行したクライアントによって報告されたドライブのアドレス。

Display VTSS

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

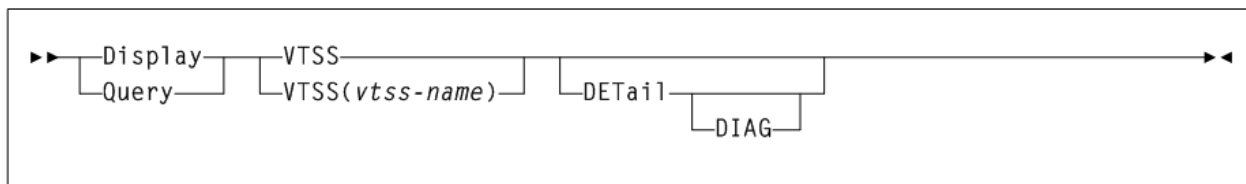
説明

Display VTSS コマンドは VTSS のステータスを表示します。

構文

図3.74 「*Display VTSS コマンドの構文*」は *Display VTSS* コマンドの構文を示しています。

図3.74 *Display VTSS* コマンドの構文



パラメータ

図3.74 「*Display VTSS コマンドの構文*」に示すように、*Display VTSS* コマンドには次のパラメータが含まれます。

vtss-name

オプションで、ステータスを表示する VTSS を示します。

DETail

オプションで、サポートされている機能を含む詳細な VTSS のステータス情報を表示します。

DIAG

オプションで、有効な TCP/IP 接続および制御パラメータに関するより詳しい診断情報を表示します。

出力

Display VTSS コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.41 *Display VTSS* の出力

VTSSNAME	CAPACITY(GB)	DBU	HI AMT	LOW AMT	VTV COUNT	MX MT	MN MT	Def ACS	AUTOMIG	STATE	RTDs
HBVTSS16	56.209	9	35	30	204	6	1	--		On-P	Yes
HBVTSS17	56.209	7	35	30	218	4	3	02		On-P	Yes
HBVTSS18	N/A	N/A	35	30	N/A	3	1	01		Off	Yes
HBVTSS19	93.184	5	35	30	110	3	1	01		On	Yes

フィールド

Display VTSS コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

VTSSNAME

VTSS の名前。

CPCTY(GB)

指定された VTSS の物理容量の合計 (G バイト単位)。

DBU

合計バッファ容量のうちの使用済みディスクバッファのパーセンテージ。

HI AMT

上限 AMT。

LOW AMT

下限 AMT。

VTV COUNT

この VTSS に存在する VTV の数。

MX MT

現在の *MAXMIG* 値。

MN MT

現在の *MINMIG* 値。

DEF ACS

デフォルトの ACS。

AUTOMIG

自動移行を実行しているホスト、および VTSS が移行しているしきい値を示します。

STATE

すべてのホストに対する次のグローバルな VTSS 状態のいずれかです。

QUIESCING

静止中状態。

QUIESCED

静止状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留中状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留中状態。

STARTED

VTSS は初期化され、要求された状態 (オンライン、オフライン、または静止) に変更する処理が行われています。

RTDs

VTSS に RTD が存在するかどうかを示します。

Display VTSS DETail の出力

Display VTSS DETail コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.42 Display VTSS Detail の出力

Vtss	Host	Nomigrat	Noreclam	State
HBVTSS16	EC104	Y	Y	Online
HBVTSS16	EC21	N	Y	Online
HBVTSS17	EC21	N	Y	Quiesced
HBVTSS17	EC10	Y	Y	Offline

VTSS	TYPE	SUPPORTED FEATURES
HBVTSS16	VSM5	2/4GB VTVS LARGE PAGE VTVS NOWAIT ON RTD MOUNT BUDDY QUEUING SYNC REPLICATE LAST USE HINT MGMT CLASS ON MVCS CONNECT to 32 RTDS STACKED MIGRATES

フィールド

Display VTSS DETail コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

VTSSNAME

「**HOST**」フィールドのホストがアクセスできる VTSS。

HOST

「**VTSSNAME**」フィールドの VTSS にアクセスできるホスト。

NOMIGRAT

このホストに **NOMIGRAT** が設定されているかどうか。

NORECLAM

このホストに **NORECLAM** が設定されているかどうか。

STATE

このホストに対する次の VTSS 状態のいずれかです。

QUIESCING

静止中状態。

QUIESCED

静止状態。

OFFLINE

オフライン状態。

OFFLINE-P

オフライン保留中状態。

ONLINE

オンライン状態。

ONLINE-P

オンライン保留中状態。

STARTED

VTSS は初期化され、要求された状態 (オンライン、オフライン、または静止) に変更する処理が行われています。

ACCESS

ホストで採用されている接続方法 (TCPIP または CHANNEL ECAM-T プロトコル)。

TYPE

VTSS モデル (*VSM2*、*VSM3*、*VSM4*、*VSM5*、または *unknown*)。

SUPPORTED FEATURES

次のうちの 1 つ以上:

400MB | 800MB | 2/4GB VTVS

デフォルトの VTV サイズ。

LARGE PAGE | STANDARD PAGE VTVS

デフォルトの VTV ページサイズ。

NOWAIT ON RTD MOUNT

VTSS が RTD のマウント完了のポーリングをサポートします。マウントを待機しているときに、Nearlink インタフェースをロックしません。

BUDDY QUEUING

VTSS が Nearlink インタフェースの複数の RTD への要求のキューイングをサポートします。

REPLICATION

非同期レプリケーションが有効になります。

SYNC REPLICATE

同期レプリケーションが有効になります。

LAST USE HINT

VTSS が、近い将来に VTV がアクセスされる時期を示すキャッシュ管理ヒントをサポートします。

MGMT CLASS ON MVC

監査 MVC が VTV の管理クラスを返すことができます。

CONNECT TO 16 | 32 RTDS

有効にされている VTSS ごとの RTD の最大数。

STACKED MIGRATES

積み上げ移行が有効になります。

PARTITIONED RTDs

パーティション化された RTD が有効になります。

T10KC Partition RTDs

T10KC でパーティション化された RTD が有効になります。

Write New VOL1 Label

VTSS が MVC のラベル付けをサポートします。

CONCURRENT PORT I/O

VTSS が単一の物理 Nearlink インタフェースでの複数の I/O をサポートします。

MANY-TO-MANY CONNECT

VTSS が CLINK のためのターゲット VTD の選択をサポートします。

IP REPLICATION

VTSS が IP CLINK をサポートするため、VLE 接続もサポートされます。

CONCURRENT TAPE RECALL/MOUNT

リコールが完了する前に、VTD に VTV をマウントできます。

CONCURRENT TAPE RECALL/MOUNT *DISABLED

並行テープリコール/マウント機能が VTSS にインストールされていますが、`CONFIG GLOBAL FASTRECL=NO` または `CONFIG VTSS NOERLYMT` によって無効にされています。

UNKNOWN VTSS FEATURE

VTSS 機能が VTCS のソフトウェアレベルによってサポートされません。

VSM6 Enhanced replication Release 1

VTSS が拡張された同期レプリケーションをサポートします。

NONE

VTSS の機能が定義されていません。

注:

- ETTB (Early Time to First Byte) が有効になっている場合は、次のメッセージが表示されます。

VTV mounts on VTDs can occur before the recall has completed.

- ETTFB が無効にされている場合は、次のメッセージが表示されます。

The concurrent tape recall/mount feature is installed on the VTSS but has been disabled by either CONFIG GLOBAL FASTRECL=NO or CONFIG VTSS NOERLYMT.

Display VTV**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

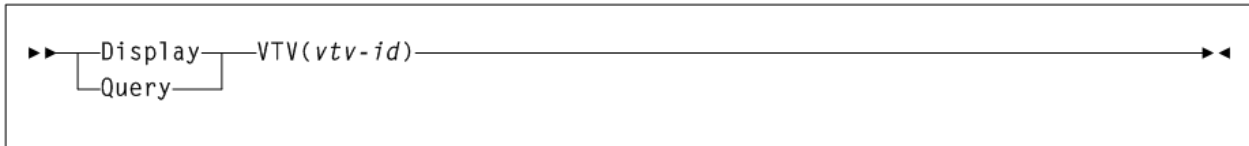
説明

`Display VTV` は指定された VTV に関する情報を表示します。

構文

図3.75 「Display VTV コマンドの構文」は *Display VTV* コマンドの構文を示しています。

図3.75 Display VTV コマンドの構文



パラメータ

図3.75 「Display VTV コマンドの構文」に示すように、*Display VTV* コマンドには次のパラメータが含まれます。

vtv-id
VTV の ID。

出力

Display VTV コマンドによって生成される出力の例を次に示します。

例3.43 Display VTV の出力

```

Volser:                X00000
VTSS                   HBVTSS19
Mounted                A800
Uncompressed Size (Mb) 99.01
Compressed Size (Mb)   97.88
Maximum VTV size (Mb) 800
Page Size              Standard
Creation Date          2008Feb21 09:32:22
Last Mounted           2008Feb21 09:32:23
Last Recalled          2008Apr05 08:15:47
First Migrated         2008Apr25 08:58:28
Last Used Date         2008Apr25 08:58:28
MVC(s)                 021681                021645
Block-id(s)            1A400D24                25401185
Management Class       M13                    SB
Migrate Pending        SA
Status                 Initialized
  
```

フィールド

Display VTV コマンドの出力には次のフィールドが含まれています。

VOLSER

クエリーに指定された VTV の volser。

VTSS

VTV が最後に存在した VTSS、または現在存在する VTSS。

MOUNTED

VTD の MSP デバイスアドレス。デバイスアドレスの先頭に # 記号が付けられている場合は、VTSS 内のアドレスであり、この VTCS は MSP アドレスを認識していません。

UNCOMPRESSED SIZE(MB)

この VTV の非圧縮サイズ (M バイト単位)。これは、アプリケーションプログラムによって認識された VTV のサイズです。

COMPRESSED SIZE (MB)

この VTV の圧縮サイズ (M バイト単位)。これは、MVC 上または VTSS 内で占有される生の容量です。

MAXIMUM VTV SIZE (MB)

VTV の最大 (圧縮) サイズ (400、800、2000、または 4000)。

CREATION DATE

この VTV の内容がアプリケーションによって最後に変更された日付と時間。

LAST MOUNTED

この VTV の内容がアプリケーションによるアクセスのために最後にマウントされた日付と時間。

LAST RECALLED

この VTV が MVC から元の VTSS に最後にリコールされた日付と時間。

FIRST MIGRATED

このバージョンの VTV の最初の MVC コピーが作成された日付と時間。

LAST USED DATE

この VTV が VTCS によって最後に操作された日付と時間。これには、VTV のステータスを更新するほとんどの関数が含まれます。

MVC(S)

VTV が存在する MVC。このエントリは VTV が移行された場合にのみ表示されます。

BLOCK-ID

対応する MVC の VTV の先頭の論理ブロック ID。このエントリは VTV が移行された場合にのみ表示されます。

Partition-Id(s)

対応する MVC の開始パーティション ID。このエントリは VTV が移行された場合にのみ表示されます。

MANAGEMENT CLASS

VTV の管理クラス。

MIGRATE PENDING

移行が未処理であるストレージクラス。

ARCHIVE PENDING

アーカイブの要件を満たすために、移行が未処理であるストレージクラス。

REPLICATION STARTED

VTV がクラスタ内の VTSS 間でレプリケートされている場合は、ターゲット VTSS の名前が表示されます。

REPLICATED

VTV が TapePlex 内の別の VTSS にレプリケートされた場合、表示される VTSS 名はレプリカを見つけることができる場所を示します。

IMPORTING

VTD を使用して VTV がマウントされている場合は、VTD のユニットアドレスが表示されます。

ELECTRONIC IMPORTED

VTV が別の TapePlex からインポートされた場合。これには VTV を所有する TapePlex 名が報告されます

EXPORTED

VTV が別の TapePlex にエクスポートされた場合。また、この行には VTV のコピーが正常にエクスポートされた TapePlex が一覧表示されます。名前の横のアスタリスク (*) は、ターゲットの TapePlex によって拒否されたエクスポートを示しています。

STATUS

次の 1 つ以上のステータス:

CONSOLIDATED

VSM が VTV を統合しました。

DUPLEXED

DUPLEX 属性がこの VTV に割り当てられています。VSM が VTV を移行するときに、コピーが 2 つの MVC に書き込まれます。

EXPORT-NOT POSSIBLE

この VTV のリモート TapePlex へのエクスポートが試行されましたが、その要求は拒否されました。これは通常、リモート TapePlex 内に存在するこの VTV の別のコピーのためです。

EXPORT-REJECTED

1 つ以上の TapePlex への電子エクスポートがアクティブに拒否されました。これは、ターゲットの TapePlex が VTV のインポートを許可していないためか、またはコピーステータスとの衝突のためである可能性があります。

EXPORT-REQUIRED

この VTV は電子的にエクスポートされる予定であり、処理のために現在キューに入れられています。

EXPORT-STARTED

電子エクスポートはこの VTV に対してアクティブですが、まだ完了していません。

INITIALIZED

VTCS はその VTV を少なくとも 1 回使用しています。

MIGRATED

VSM は VTV を移行しました。

MIGRATE PENDING

VTV の移行が保留されています。このステータスは、VTV が最初に作成されたときか、または VTV に再統合またはアーカイブが必要になったときに表示されます。この後者の場合は、個々の MVC コピーが「*Reconcil*」または「*Deletion*」を示すことがあります。

REPLICATION COMPLETE

この VTV の完全にレプリケートされたコピーは、現在セカンダリ VTSS に存在しています。

REPLICATION REQUIRED

この VTV はレプリケートされる予定であり、処理のために現在キューに入れられています。

REPLICATION STARTED

レプリケーションはこの VTV に対してアクティブですが、まだ完了していません。

RESIDENT

この VTV は VTSS 上に存在しています。

SCRATCH

VTV はスクラッチステータスになっています。

UNINITIALIZED

VTV は *CONFIg* ユーティリティを使用して定義されていますが、今まで使用されたことはありません。

AVOID EARLY MOUNT

この VTV に対する並行リコールまたはマウントでエラーが検出されました。この VTV に対するそれ以上の並行リコールまたはマウントアクティビティは試行されません。

注:

ETTFB リコールエラーが発生した VTV は、CDS の VTV レコードにエラーフラグが設定されます。このエラーは、この VTV に対してさらなる ETTFB リコールが行われないことを VTCS に示します。エラーフラグがオンである場合は、次のメッセージが表示されます。

concurrent recall/mount encountered an error with this VTV.No further concurrent recall/mount activity will be attempted for this VTV.

DRAin

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

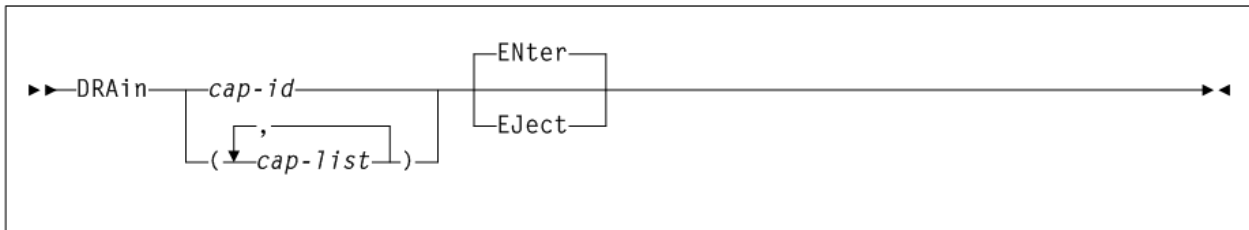
説明

DRAin コマンドは、1つ以上の CAP に対する取り出し操作または挿入操作を終了させ、ほかのプロセスが使用できるように CAP のリソースを解放します。

構文

図3.76 「*DRAin* コマンドの構文」は *DRAin* コマンドの構文を示しています。

図3.76 *DRAin* コマンドの構文



パラメータ

図3.76 「*DRAin* コマンドの構文」に示すように、*DRAin* コマンドには次のパラメータが含まれます。

cap-id または *cap-list*

排出する 1つ以上の CAP。*DRAin* コマンドに指定された CAPid は、関連付けられている *EJect* コマンドまたは *ENter* コマンドに指定された CAPid と一致している必要があります。

cap-id の形式は *AA:LL:CC* です。ここで、*AA:LL* は LSMid を示し、*CC* は CAP を示します。有効な値のリストについては、「[CAPid](#)」を参照してください。

caplist の各要素には、特定の CAP を識別する *lsmid* または *capid* を指定できます。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

ENter

指定された CAP の挿入操作を終了させることを指定します。*ENter* がデフォルトです。

EJect

指定された CAP の取り出し操作を終了させることを指定します。

DRCHKPT

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC/VTCS

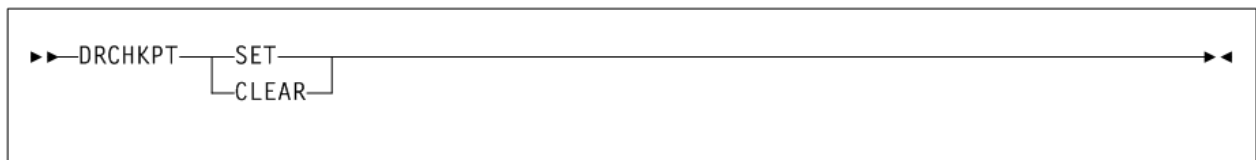
説明

DRCHKPT コマンドは、システムの回復ポイント (チェックポイント) を設定します。そのポイントから一定期間の MVC の内容を回復できます。

構文

図3.77 「*DRCHKPT* コマンドの構文」は *DRCHKPT* コマンドの構文を示しています。

図3.77 *DRCHKPT* コマンドの構文



パラメータ

図3.77 「*DRCHKPT* コマンドの構文」に示すように、*DRCHKPT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SET

回復ポイントを設定するアクティブな CDS に日付/タイムスタンプを設定します。この回復ポイントから将来の一定期間 (たとえば、別の *DRCHKPT* ユーティリティーが実行するまで)、MVC の内容は保証されます。

CLEAR

アクティブな CDS に設定されている回復ポイントを削除します。削除すると、MVC の内容は保証できません。

DRMONitr

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC/VTCS

説明

DRMONitr ユーティリティーは、ジョブストリームの処理を停止して、重要なデータがターゲットの宛先に達したことを確認します。識別されたすべてのデータが確認されると、ユーティリティーは終了します。

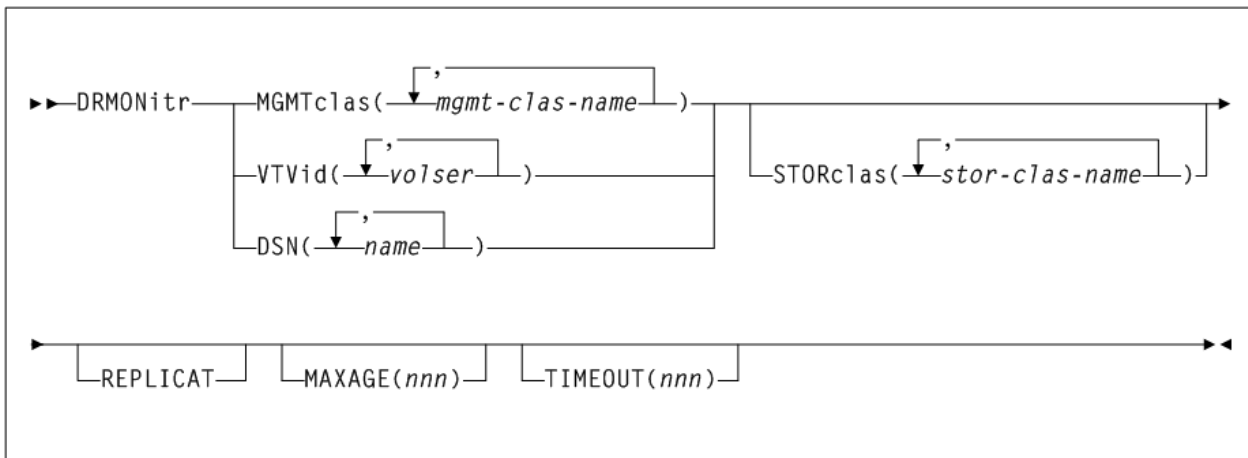
DRMONitr は MVC およびリモート TapePlex のコピーの完了をモニターできます。テープレス環境のサポートによって、クラスタのレプリケーションの完了をモニターすることもできます。

DRMONitr は実行中に見つかった VTV の例外状態を報告します。

構文

図3.78 「*DRMONitr* コマンドの構文」は *DRMONitr* コマンドの構文を示しています。

図3.78 *DRMONitr* コマンドの構文



パラメータ

図3.78 「*DRMONitr* コマンドの構文」に示すように、*DRMONitr* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MGMTclas(mgmt-clas-name)

オプションで、VTV の移行/コピーの完了をモニターする管理クラスのリストを指定します。

mgmt-clas-name は 1 つ以上の管理クラスを示します。

指定する管理クラスは、アクティブな VTCS システムに定義されている必要があります。テープレス環境の場合は、指定する管理クラスに *REPLICAT* が指定されている必要があります。

VTVid(volser)

オプションで、移行/コピーの完了をモニターする VTV の *volser* のリストまたは範囲を指定します。

volser は 1 つ以上のボリュームシリアル番号を示します。

VTV の管理クラスは、アクティブな VTCS システムに定義されていて、即時移行が指定されている必要があります。つまり、管理クラスに *IMMEDmig(KEEP)*、*IMMEDmig(DELETE)*、または *IMMDELAY(n)* が指定されている必要があります。

テープレス環境の場合は、VTV の管理クラスに *REPLICAT* が指定されている必要があります。

DSN(name)

オプションで、移行/コピーの完了をモニターするデータセットのリストを指定します。

これらのデータセットが含まれている VTV は、管理クラスがアクティブな VTCS システムに定義されていて、即時移行が指定されている必要があります。テープレス環境の場合は、VTV の管理クラスに *REPLICAT* が指定されている必要があります。

STORclas(stor-clas-name)

オプションで、識別された VTV データが配信されるストレージクラスの場所を指定します。

stor-clas-name は 1 つ以上のストレージクラスの場所を示します。

指定するストレージクラスは、アクティブな VTCS システムに定義されている必要があります。このパラメータはオプションですが、*STORclas* パラメータを省略するのはテープレス環境の場合のみにしてください。

REPLICAT

オプションで、VTV のクラスタレプリケーションの完了をモニターすることを指定します。VTV をモニタリングのために選択するには、VTV の管理クラスが

リシーにレプリケーションを指定する必要があります。テープ環境内でレプリケーションをモニターする場合は、それらの完了によってストレージクラスの要件がオーバーライドされます。

MAXAGE(*nnn*)

管理クラスごとに移行をモニタリングする場合 (*MGMTclas* 値が必要となります) は、オプションで、VTV の最大経過時間 (最後の更新以降の時間) を時間単位で指定します。

nnn は経過時間 (時間単位) を示します。有効な値は 1 から 999 です。デフォルトはありません。

VTV の経過時間 (最後の更新以降の時間) が *MAXAGE* よりも大きい場合、VTV はモニターされません。DRMONitr は *MAXAGE* によってスキップされた VTV の数を報告します (指定された場合)。

MAXAGE を指定しない場合は、経過時間に関係なく、指定された管理クラスに属するアクティブな VTV の移行またはコピーの完了がモニターされます。

TIMEOUT(*nnn*)

オプションで、DRMONitr を実行する最大時間を分単位で指定します。

nnn は最大時間を示します。有効な値は 0 から 999 です。TIMEOUT 値を指定しない場合、ユーティリティを実行 (停止) できる時間に制限はありません。

TIMEOUT 値がゼロの場合、DRMONitr ユーティリティは停止しません。この特殊なケースでは、指定された VTV データの不完全なコピーについて報告されません。

ゼロ以外の TIMEOUT 値を超えた場合、DRMONitr は RC 8 で終了し、エラーメッセージが生成されます。指定された TIMEOUT 値が 0 である場合、VTV のコピーが不完全と検出されたときはリターンコード 4 が設定され、それ以外のときはリターンコード 0 が設定されます。

注:

宛先の条件を指定するには、*STORclas* または *REPLICAT*、あるいはその両方を指定する必要があります。それ以外の場合、DRMONitr は RC 8 で終了し、エラーメッセージが生成されます。また、テープレス環境のストレージクラスを指定 (またはモニター) しないことをお勧めします (移行できないため)。

DRTEST

DRTEST コマンドは、DR テストの環境をセットアップし、必要に応じて、テストを開始および停止します。

DR テスト環境をセットアップするには、*SLUADMIN* ユーティリティーからこのコマンドを発行します。環境が設定されたら、ユーティリティーまたはコンソールから *DRTEST* を発行して、テストを開始または停止できます。

このコマンドは、次の表に一覧表示されているいずれかのオプションとともに発行します。各オプションが個別に説明され、また以降のページではさらに詳細に説明されています。

表3.5 DRTEST のオプション

オプション	説明
<i>CREATE</i>	通常は DR テストサイトで実行する DR テストの CDS を作成します
<i>PRIMEprd</i>	<i>DRTEST CDS</i> を作成せずに本番 CDS を更新します
<i>RESET</i>	本番 CDS 内のすべての DR テストの設定を削除します
<i>START</i>	本番サイトで DR テストを開始します。 <i>DRTEST PRIMEPRD</i> または <i>DRTEST CREATE</i> を使用して本番 CDS が準備されるまで、 <i>DRTEST START</i> は正常に実行できません。
<i>STOP</i>	本番サイトの DR テストを停止します

注:

- 環境が適切で JCL の要件が満たされていれば、これらのオプションの組み合わせを使用できます。たとえば、同じジョブ内で *DRTEST STOP* および *DRTEST RESET* を実行できますが、*DRTEST RESET* の前に *DRTEST STOP* を実行する必要があります。
- *DRTEST* ユーティリティーの使用方法については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* 障害回復およびオフサイトデータ管理ガイド』を参照してください。

DRTEST CREATE

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

DRTEST CREATE コマンドは、通常は DR テストサイトで実行される DR テストの CDS を作成します。

注:

NOUPDPRD パラメータは、*DRTEST PRIMEPRD* コマンドが *DRTEST CREATE* コマンドの前に実行された場合にのみ有効です。詳細は、「[DRTEST PRIMEprd](#)」を参照してください。

次の点を考慮してください。

- DR テストはアクティブにできません。これは本番 CDS のステータスを指します。
- アクティブな HSC/VTCS は必要ありません。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文はオプションであり、指定する場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合は、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文が必要となります。
- *DRTEST* の CDS を識別する *SLSNEW DD* 文が必要となります。

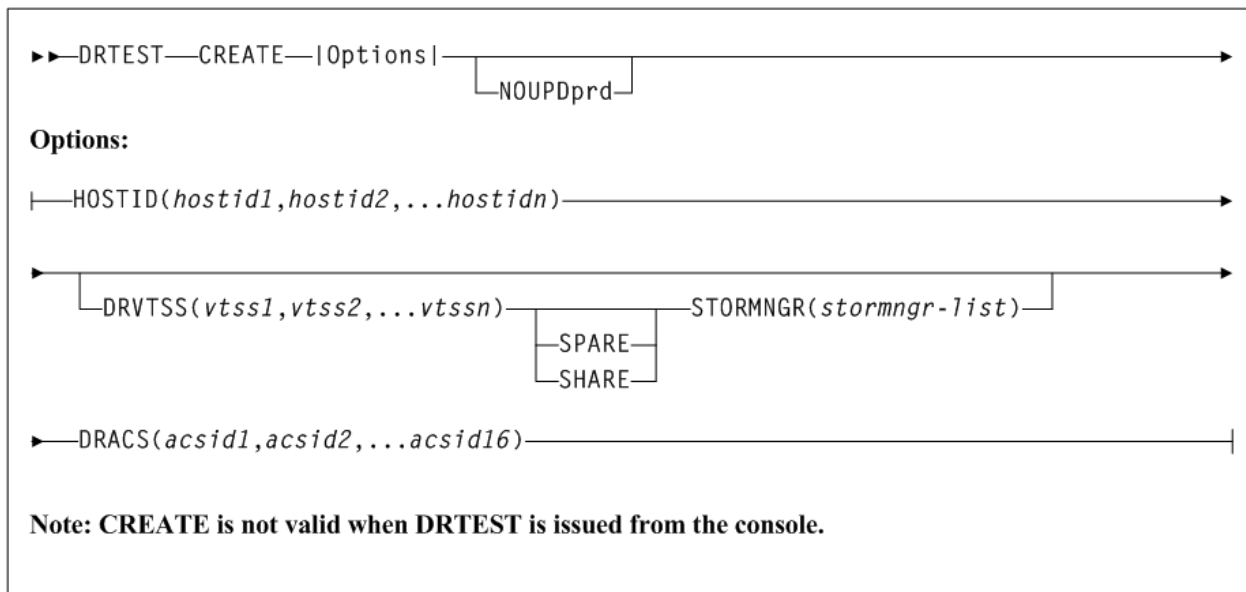
サンプルの制御カード:

```
DRTEST CREATE HOSTID(ZIPF,ZIPG) -  
  DRVTSS(VTSSW) -  
  DRACS(00)
```

構文

[図3.79 「DRTEST CREATE コマンドの構文」](#) は *DRTEST CREATE* コマンドの構文を示しています。

図3.79 DRTEST CREATE コマンドの構文



パラメータ

図3.79 「DRTEST CREATE コマンドの構文」に示すように、*DRTEST CREATE* コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTID(*hostid1, hostid2, ... hostidn*)

使用可能な *host-id* の場所のテスト CDS にレプリケートされるホスト ID を指定します。既存の本番 *HOSTID* とレプリケーションのためにこのパラメータで識別されている *HOSTID* の組み合わせが、16 個のホストの制限を超えることはできません。追加の *host-id* (本番で使用されていない) を DR テストのためにのみ追加する必要がある場合、この追加の *host-id* は 16 個の *host-id* の制限のうち 2 個を使用します。

DRVTSS(*vtss1, vtss2, ... vtssn*)

オプションで、DR テストサイトで使用可能な VTSS 名を指定します。*SHARE* パラメータまたは *SPARE* パラメータを一緒に指定しない場合、DR テストが開始されたときに、これらの VTSS は本番サイトに対してオフラインになり、DR テストサイトに対してオンラインになります。

SPARE

オプションで、*DRTEST* ユーティリティが実行される時、および DR テスト中に、DR テストの VTSS はスペアであり、同じ名前の VTSS が本番サイトに存在していてオンラインになっていることを指定します。

SHARE

オプションで、DR テストの VTSS を本番サイトと共有することを指定します。DR テスト中に、テストサイトおよび本番サイトの両方で、(*VOLPARM*

の定義に基づいて) DR テストの VTSS に VTV が作成されることがあります。DR テストは DR テストのサブプール内にはない VTV を変更できません。SHARE が指定されている場合、パラメータ DRACS および STORMNGR は指定できません。

STORMNGR(stormngr-list)

オプションで、DR テストサイトの TapePlex に接続されている VLE のサブシステム名を指定します。

stormngr-list はサブシステム名のリストを示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

DRACS(acsid1, acsid2,...acsid16)

オプションで、DR テストサイトで使用可能な 1 つ以上の ACS を指定します。複数の ACS ID は、ACS ID の範囲としてではなく、リストとして指定する必要があります。DR テストの開始時に、ACS は DR テストサイトに対してオンラインになりますが、本番サイトに接続されたままになることがあります (通常は接続されています)。

- *DRVTTSS SHARE* パラメータが指定されている場合、*DRACS* パラメータは許可されません。
- *STORMNGR* パラメータが指定されている場合、*DRACS* パラメータは許可されますが必要ありません。

NOUPDprd

オプションで、入力本番 CDS を更新しません。

このパラメータを指定する場合は、単一の CDS 本番コピーを入力として使用でき、そのコピーには実際のプライマリ本番 CDS、バックアップコピー、またはミラー化されたコピーを使用できます。

このパラメータは *PRIMEPRD* 関数が本番 CDS に対してすでに実行されている場合にのみ有効です。詳細は、「[DRTEST PRIMEprd](#)」を参照してください。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*DRTEST CREATE JCL* には次の定義文が適用されます。

SLSNEW1

テスト HSC CDS の新しいプライマリコピーを指定します。

SLSNEW2

テスト HSC CDS の新しいセカンダリコピーを指定します。

SLSNEW3

テスト HSC CDS の新しいスタンバイコピーを指定します。

SLSJRN00 – SLSJRNnn

DR テストのジャーナルファイルの *DDNAME*。現在の CDS にジャーナルの生成が定義されている場合にのみ有効です。*HOSTID* ごとに 2 つのファイルがあります (*hostid1* の *SLSJRN00* および *SLSJRN01*、*hostid2* の *SLSJRN02* および *SLSJRN03* など)。

SLSSTATN

HOSTID の LMU ステーションアドレスを変更するための *DDNAME*。このファイルはオプションであり、*HOSTID* の DR テストの CDS に使用されるステーションアドレスが既存の CDS と同じではない場合に指定します。

各エントリは、HSC の *SET SLISTATN* ユーティリティーの形式に従います。詳細は、「[SET SLISTATN](#)」を参照してください。次の図は、*SLSSTATN* ファイルの例を示しています。

例3.44 SLSSTATN ファイル

```
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRIT)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRI1)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRI2)
SET SLISTATN(00E7,00E8),FORACS(01),FORHOST(PRIY)
```

SLSVTSS

DR テストの CDS の VSM を変更するための *DDNAME*。このファイルはオプションであり、DR テストの構成に VSM 要素が含まれている場合にのみ使用します。通常、このファイルは DR テストの CDS の RTD ハードウェア接続定義を変更するために使用しますが、このファイルは VTCS の *CONFIG RESET* ユーティリティーを呼び出すため、DR テストの CDS の VSM 定義を変更するために使用できません。

注意:

DR テストの CDS に対して *CONFIG RESET* を不適切に使用すると、DR テスト環境が動作不能になることがあります。

各エントリは、VTCS の *CONFIG* ユーティリティーの *VTSS*、*VTD*、*RTD*、および *HOST* 文の形式に従います。詳細は、「[CONFIG](#)」を参照してください。次の図は、*SLSVTSS* ファイルの例を示しています。

例3.45 SLSVTSS ファイル

```
CONFIG RESET
VTSS NAME=VTSS01 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=1 MINMIG=1 RETAIN=10
RTD NAME=VTS18800 DEVNO=8800 CHANIF=0A
RTD NAME=VTS18801 DEVNO=8801 CHANIF=0I
RTD NAME=VTS18802 DEVNO=8802 CHANIF=1A
RTD NAME=VTS18803 DEVNO=8803 CHANIF=1I
HOST NAME=MSP1
VTD LOW=8900 HIGH=893F
```

```
VTSS NAME=VTSS02 LOW=70 HIGH=80 MAXMIG=8 MINMIG=8 RETAIN=10
RTD NAME=VTS28805 DEVNO=8805 CHANIF=0A
RTD NAME=VTS28806 DEVNO=8806 CHANIF=0E
RTD NAME=VTS28807 DEVNO=8807 CHANIF=0I
RTD NAME=VTS28808 DEVNO=8808 CHANIF=0M
RTD NAME=VTS28809 DEVNO=8809 CHANIF=1A
RTD NAME=VTS2880A DEVNO=880A CHANIF=1E
RTD NAME=VTS2880B DEVNO=880B CHANIF=1I
RTD NAME=VTS2880C DEVNO=880C CHANIF=1M
HOST NAME=MSP2
VTD LOW=9900 HIGH=993F
```

DRTEST PRIMEprd

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

DRTEST PRIMEPRD は *DRTEST* の CDS を作成せずに本番 CDS を更新します。

考慮事項:

- DR テストはアクティブにできません。これは本番 CDS のステータスを指します。
- アクティブな HSC/VTCS は必要ありません。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文はオプションであり、指定する場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合は、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文が必要となります。
- *DRTEST* の CDS を識別する *SLSNEW DD* 文が必要となります。

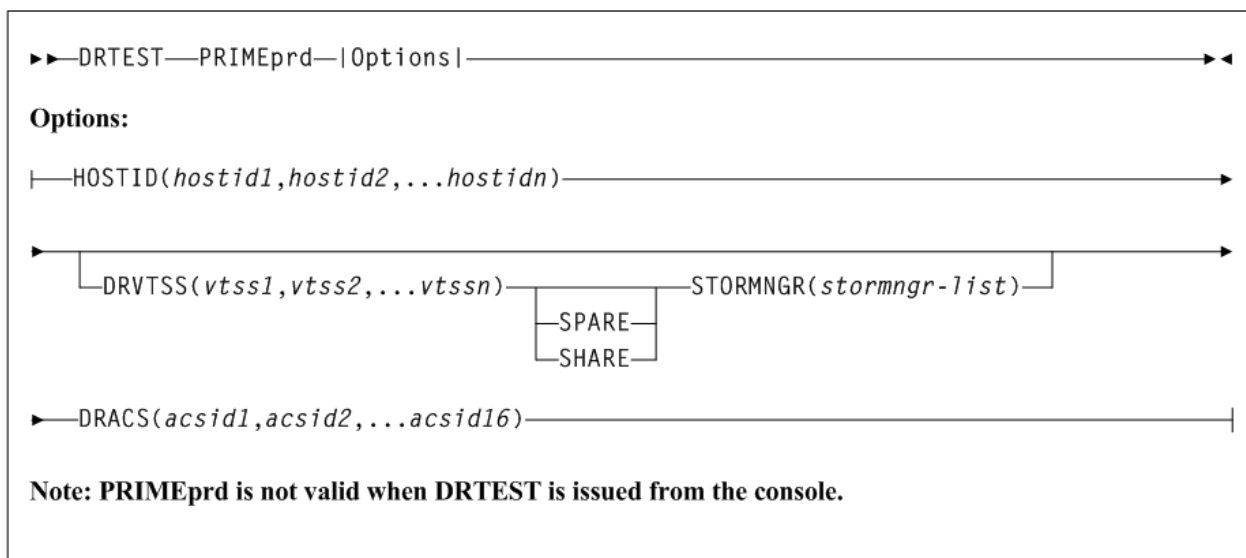
サンプルの制御カード:

```
DRTEST PRIME HOSTID(ZIPF, ZIPG) -
DRVTSS(VTSSW) -
DRACS(00)
```


構文

図3.80 「DRTEST PRIMEprd の構文」は `DRTEST PRIMEprd` コマンドの構文を示しています。

図3.80 DRTEST PRIMEprd の構文



パラメータ

図3.80 「DRTEST PRIMEprd の構文」に示すように、`DRTEST PRIMEprd` コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTID(*hostid1,hostid2,...hostidn*)

使用可能な *host-id* の場所のテスト CDS でレプリケートされる *HOSTID* を指定します。既存の本番 *HOSTID* とレプリケーションのためにこのパラメータで識別されている *HOSTID* の組み合わせが、16 個のホストの制限を超えることはできません。追加の *host-id* (本番で使用されていない) を DR テストのためにのみ追加する必要がある場合、この追加の *host-id* は 16 個の *host-id* の制限のうちの 2 個を使用します。

DRVTSS(*vtss1,vtss2,...vtssn*)

オプションで、DR テストサイトで使用可能な VTSS 名を指定します。*SHARE* パラメータまたは *SPARE* パラメータを一緒に指定しない場合、DR テストが開始されたときに、これらの VTSS は本番サイトに対してオフラインになり、DR テストサイトに対してオンラインになります。

SPARE

オプションで、`DRTEST` ユーティリティが実行される時、および DR テスト中に、DR テストの VTSS はスペアであり、同じ名前前の VTSS が本番サイトに存在していてオンラインになっていることを指定します。

SHARE

オプションで、DR テストの VTSS を本番サイトと共有することを指定します。DR テスト中に、テストサイトおよび本番サイトの両方で、(VOLPARM の定義に基づいて) DR テストの VTSS に VTV が作成されることがあります。DR テストは DR テストのサブプール内にはない VTV を変更できません。SHARE が指定されている場合、パラメータ DRACS および STORMNGR は指定できません。

STORMNGR(stormngr-list)

オプションで、DR テストサイトの TapePlex に接続されている VLE のサブシステム名を指定します。

stormngr-list はサブシステム名のリストを示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

DRACS(acsid1, acsid2,...acsid16)

オプションで、DR テストサイトで使用可能な 1 つ以上の ACS を指定します。複数の ACS ID は、ACS ID の範囲としてではなく、リストとして指定する必要があります。DR テストの開始時に、ACS は DR テストサイトに対してオンラインになりますが、本番サイトに接続されたままになることがあります (通常は接続されています)。

- DRVTSS SHARE パラメータが指定されている場合、DRACS パラメータは許可されません。
- STORMNGR パラメータが指定されている場合、DRACS パラメータは許可されますが必要ありません。

DRTEST RESET**インタフェース:**

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

DRTEST RESET コマンドは本番 CDS のすべての DR テストの設定を削除します。

考慮事項:

- DR テストはアクティブにできません。これは本番 CDS のステータスを指します。

- アクティブな HSC/VTCS は必要ありません。
 - HSC/VTCS がアクティブな場合、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文はオプションであり、指定する場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
 - HSC/VTCS がアクティブでない場合は、本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文が必要となります。
- DRTEST の CDS を識別する *SLSNEW DD* 文が必要となります。

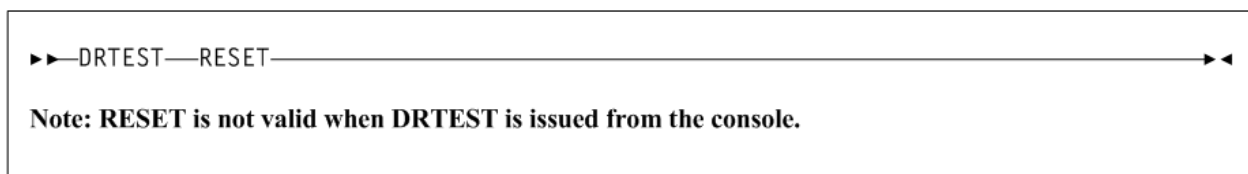
サンプルの制御カード:

```
DRTEST PRIME HOSTID(ZIPF, ZIPG) -
DRVTSS(VTSSW) -
DRACS(00)
```

構文

図3.81 「DRTEST RESET コマンドの構文」は *DRTEST RESET* コマンドの構文を示しています。

図3.81 DRTEST RESET コマンドの構文



パラメータ

なし。

DRTEST START

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

DRTEST START コマンドは本番サイトで DR テストを開始します。

注:

DRTEST PRIMEPRD または *DRTEST CREATE* を使用して本番 CDS が準備されるまで、*DRTEST START* は正常に実行できません。

考慮事項:

- DR テストはアクティブにできません。これは本番 CDS のステータスを指します。
- アクティブな HSC/VTCS が必要となります。
- 本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文はオプションであり、指定する場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
- *DRTEST* の CDS を識別する *SLSNEW DD* 文は必要ありません。指定した場合は無視されます。

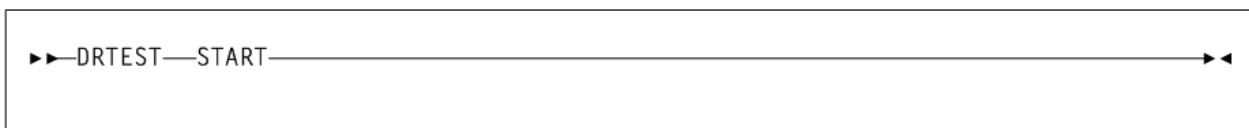
サンプルの制御カード:

DRTEST START

構文

図3.82 「*DRTEST START* コマンドの構文」は *DRTEST START* コマンドの構文を示しています。

図3.82 *DRTEST START* コマンドの構文



パラメータ

なし。

DRTEST STOP

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティ

- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

DRTEST STOP コマンドは本番サイトで DR テストを停止します。

考慮事項:

- DR テストはアクティブにできません。これは本番 CDS のステータスを指します。
- アクティブな HSC/VTCS が必要となります。
- 本番 CDS を識別する *SLSCNTL DD* 文はオプションであり、指定する場合は、アクティブな HSC/VTCS と一致している必要があります。
- DRTEST の CDS を識別する *SLSNEW DD* 文は必要ありません。指定した場合は無視されます。

サンプルの制御カード:

DRTEST START

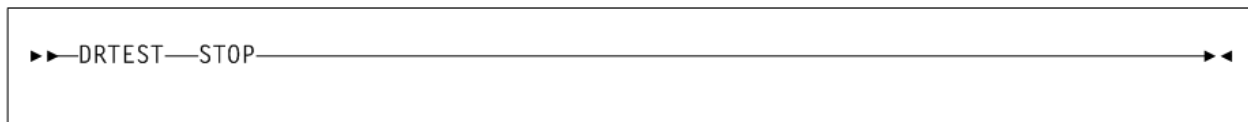
注:

同じジョブ内で *DRTEST STOP* および *DRTEST RESET* を実行できますが、*DRTEST RESET* の前に *DRTEST STOP* を実行する必要があります。

構文

図3.83 「DRTEST STOP コマンドの構文」は *DRTEST STOP* コマンドの構文を示しています。

図3.83 DRTEST STOP コマンドの構文



```
▶▶DRTEST—STOP▶▶
```

パラメータ

なし。

EEXPORT

インターフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

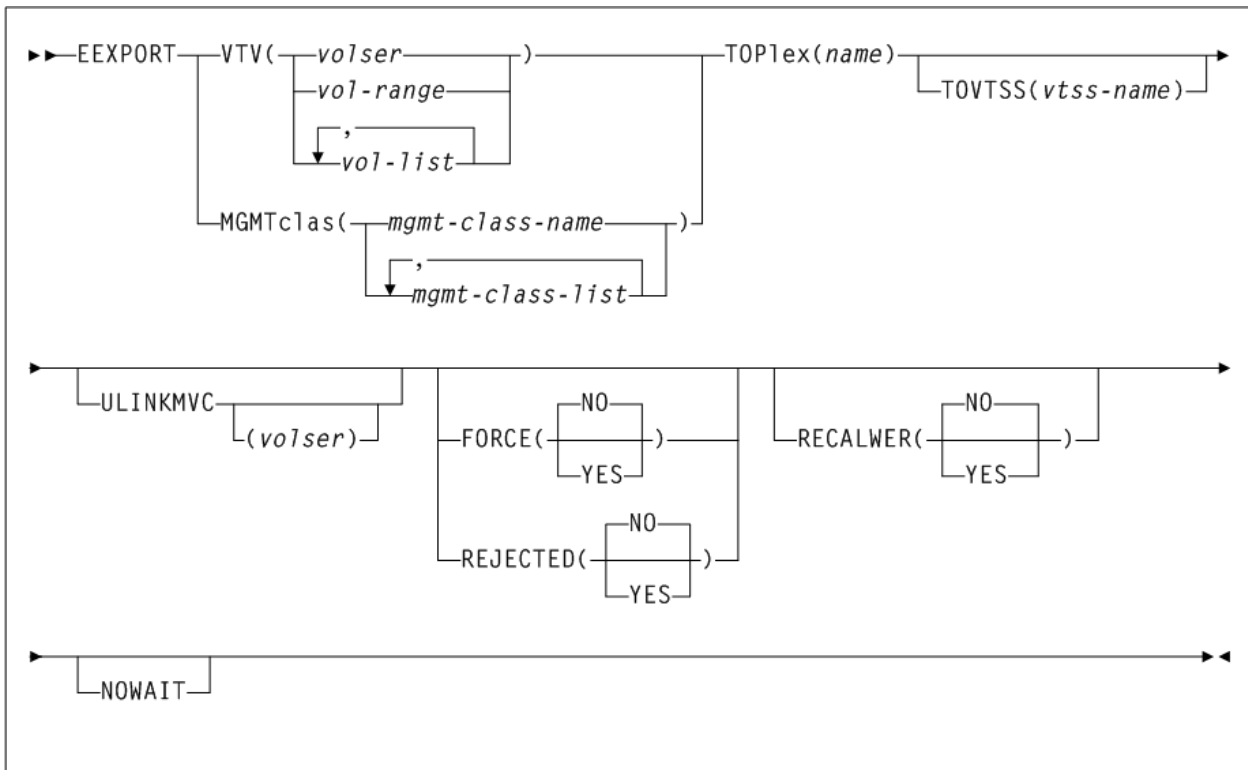
説明

EEXPORT コマンドは電子エクスポート関数を実行するために使用します。このコマンドは、VTV を手動でエクスポートするため、または拒否されたエクスポートを再試行するために使用します。

構文

図3.84 「EEXPORT コマンドの構文」は *EEXPORT* コマンドの構文を示しています。

図3.84 EEXPORT コマンドの構文



パラメータ

図3.186「VVAUDIT コマンドの構文」に示すように、EEXPORT コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、vol-range、または vol-list)

電子エクスポートする 1 つ以上の VTV を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は 1 つ以上の VTV の *volser* を示します。最大で 2000 個の *volser* を指定できます。

MGMTclas(mgmtclas-name または mgmtclas-list)

電子エクスポートする VTV を判別する 1 つ以上の管理クラスの名前を指定します。

mgmt-class-name または *mgmt-class-list* は管理クラス名を示します。この名前は、英字で始まる 1-8 文字の英数字である必要があり、SMS の命名規則に従っている必要があります。

TOPlex(tapeplex-name)

VTV のコピーが電子エクスポートを介して送信される TapePlex の名前を指定します。TapePlex へのルートを提供する構成内に、少なくとも 1 つの CLINK がある必要があります。

tapeplex-name はターゲットの TapePlex 名を示します。

TOVTSS(vtss-name)

オプションで、TOPlex パラメータによって指定されたターゲット TapePlex 内の受信側 VTSS として優先される VTSS 名を指定します。

vtss-name は、VTSS 名を示します。

注:

設定のみが行われます。値の検証は実行されません。

ULINKMVC(volser)

ターゲット TapePlex の MVC コピーをエクスポート処理の一部として削除するかどうかを指定します。

volser は、ターゲット VTV から削除される MVC コピーの *volser* を示します。指定しない場合は、VTV のすべての MVC コピーが削除されます。

このパラメータは送信された VTV のバージョンがターゲット TapePlex のバージョンと一致する場合にのみ適用されます。送信されたバージョンがより新しい場合は、動作は暗黙的に行われます。

このパラメータは、ターゲット TapePlex の VTV の MVC コピーのみが損傷した場合に使用できます。VTV の交換用のコピーは、*EEXPORT* コマンドを使用して TapePlex に提供できます。損傷した MVC コピーは、送信された VTV コピーから追加で移行することによって置き換えられます。

FORCE

VTCS がほかの条件を無視した場所に VTV をエクスポートするかどうかを指定します。

YES

VTV がその TapePlex に以前にエクスポートされたかどうか、またはターゲット TapePlex を指定しているストレージクラスを管理クラスが指しているかどうかに関係なく、*TOPlex* パラメータに指定された TapePlex に VTV をエクスポートします。

NO

TOPlex パラメータに指定された TapePlex に VTV をエクスポートしますが、エクスポート済みとしてすでにマークされている VTV を無視し、*TOPlex* パラメータで TapePlex を指定しているストレージクラスを管理クラスが指していない VTV を除外します。これがデフォルトです。

REJECTED

VTCS が、ターゲット TapePlex によって拒否された VTV として、CDS に記録されている VTV のみを選択するかどうかを指定します。*REJECTED* と *FORCE* は相互に排他的です。

NO

エクスポート済みとしてすでにマークされている VTV を無視し、*TOPlex* パラメータで TapePlex を指定しているストレージクラスを管理クラスが指していない VTV を除外します。これがデフォルトです。

YES

ターゲット TapePlex によって以前に拒否された VTV のみを選択します。

RECALWER

VTCS が読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールするかどうかを示します。

NO

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールしません。これがデフォルトです。

YES

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールします。

NOWAIT

要求が送信されたあとで、ユーティリティーが操作の完了を待機せずに戻ることを指定します。

EJect

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

EJect コマンドは、ボリュームをカートリッジアクセスポート (CAP) に移動することによって取り外します。

単一の CAP または特定の CAP のリストを指定できます。1 つ以上の CAP を指定すると、カートリッジの取り出しがそれらの CAP に制限されます。

複数の ACS 構成での取り出しで、ボリュームが各 ACS 内にある場合は、各 ACS の CAP を指定できます。CAP のリストを指定しない場合、HSC は各 ACS で使用可能な優先順位がもっとも高い CAP を選択します (「[CAPPref](#)」を参照)。

特定の CAP をそれぞれ指定できる複数の *EJect* 要求を実行することを選択できます。複数の ACS 構成の CAP を指定することを選択した場合は、ボリュームのリストが CAP ACS 内に存在している必要があります。

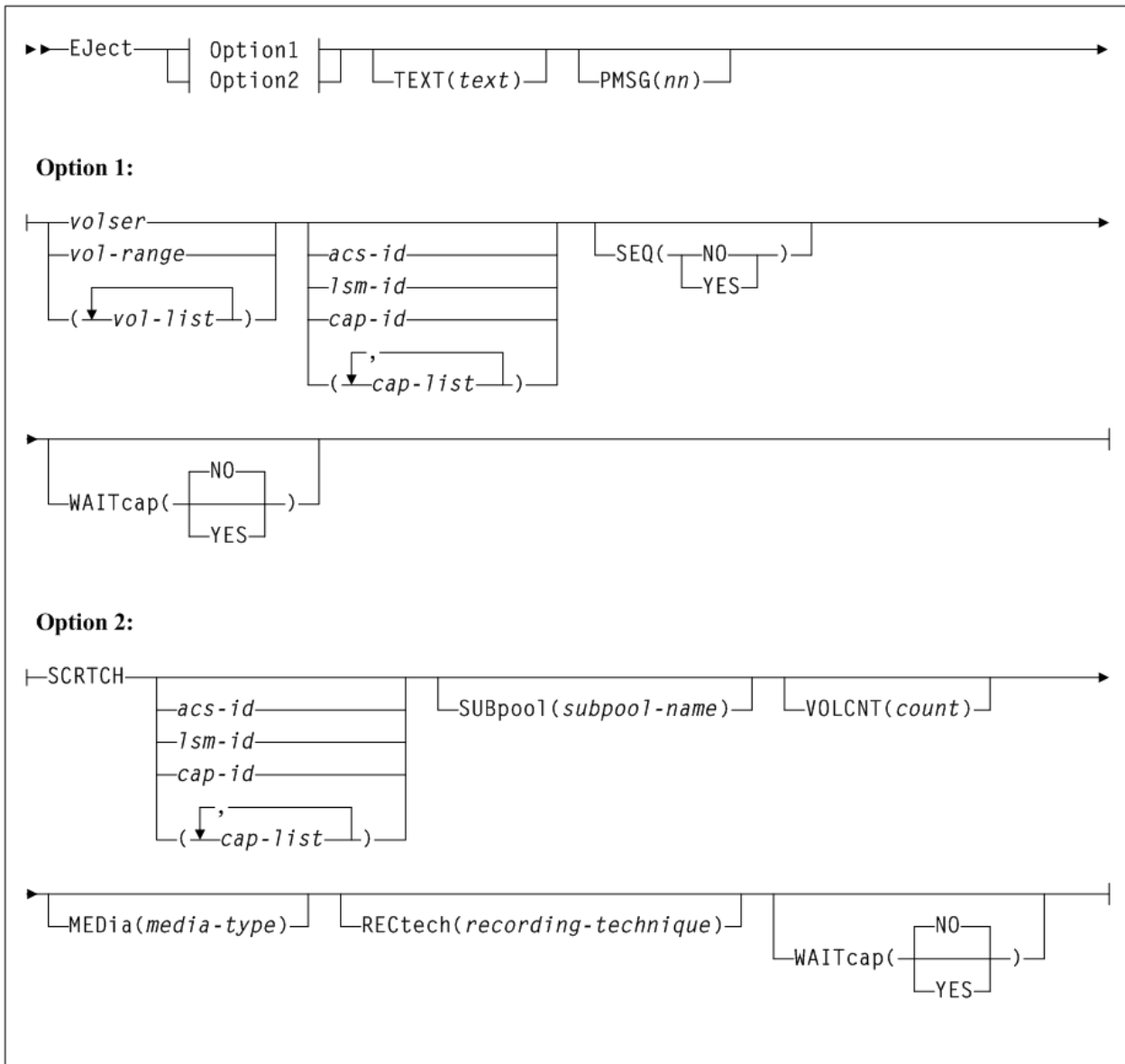
1 つの ACS 内の複数の CAP を *EJECT* ユーティリティーに割り当てることができません。通常、単一の *EJect* ユーティリティーに複数の CAP を指定すると、パススルーが減少することによってパフォーマンスが向上します。

2 つの CAP を同じ LSM に指定した場合、その LSM のカートリッジは順番に取り出されます。これはボールティンクのために役立ちます。

構文

図3.85 「[EJect コマンドの構文](#)」は *EJect* コマンドの構文を示しています。

図3.85 EJect コマンドの構文



パラメータ

図3.85 「EJect コマンドの構文」 に示すように、`EJect` コマンドには次のパラメータが含まれます。

TEXT(text)

オプションで、オペレータが `EJect` 要求のために `CAP` を開くように要求されるたびに発行される 44 バイトの文字列のアドレスを指定します。このテキストはメッセージ `SLS1251E` に表示されます。

text はテキスト文字列を示します。

PMSG(nn)

オプションで、カートリッジを取り外すためにドアがロック解除されたときに、CAP の「SLConsole CAP status」画面に表示されるユーザー定義のメッセージを指定します。

nn は 2 文字の数値です (00 - 99)。次のいずれかの値を指定します。

- 00 - メッセージは表示されません。
- 01 - *Remove cartridges* というメッセージが表示されます。
- 02 - *Lib not available* というメッセージが表示されます。
- 03 - *Load cartridges* というメッセージが表示されます。
- 04-99 - カスタマイズされたユーザーメッセージが表示されます。

オプション 1 のパラメータ

図3.85 「EJect コマンドの構文」に示すように、*EJect* コマンドには次のパラメータが含まれます。

volser*、*vol-range*、または *vol-list

取り出す 1 つ以上の VOLSER。これには、単一の VOLSER、VOLSER の範囲、あるいは任意の組み合わせの VOLSER のリストまたは VOLSER の範囲を指定できます。

リストを指定する場合は、要素をコンマまたは空白で区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。VOLSER の範囲は、開始 VOLSER と終了 VOLSER をダッシュで区切って指定します。

acs-id*、*lsm-id*、*cap-id*、または *cap-list

カートリッジを取り出す ACS、LSM、または CAP。

acs-id は取り出すカートリッジが含まれている ACS を識別します。HSC は指定された ACS で使用するためにゼロ以外の優先順位の CAP を選択します。

lsm-id は取り出すカートリッジが含まれている LSM を識別します。LSM に複数の CAP がある場合は、ゼロ以外の優先順位がもっとも高い使用可能な CAP が選択されます。

cap-id は、割り当てられている設定値に関係なく、使用する特定の CAP を識別します。*cap-id* は *AA:LL:CC* という形式であり、ここで *AA:LL* は LSMid、および *CC* は CAP 番号を示します。CAP 番号は LSM タイプに依存します。

cap-list には、CAPid をコンマで区切って明示的に指定する必要があります。CAPid の範囲は許可されません。CAPid は空白またはコンマで区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。CAP を指定しない場合は、各 ACS で 1 つの CAP が選択されます。

注:

acs-id、*lsm-id*、*cap-id*、または *cap-list* を指定しない場合、HSC は取り出すボリュームが含まれている各 ACS のゼロ以外の優先順位の CAP を選択します。

SEQ

オプションで、CAP 取り出し処理が *volser*、*volser-range*、または *vol-list* によって指定された順序と同じ順序で CAP セルに充填するかどうかを指定します。

SEQ を指定しないが、2 つの CAP が同じ LSM で要求され、LSM が SL8500 ではない場合、ACS のカートリッジは順番に取り出されます。

最良のパフォーマンスにするには、*SEQ (NO)* をお勧めします。

NO

要求されたボリュームをホームセルの場所の順序で取り出すことを指定します。*Eject* 処理は、CAP またはマガジンまでのホームセルの距離に従って、CAP またはマガジン (SL8500 の場合) を充填します。つまり、CAP またはマガジンにもっとも近いボリュームが最初に取り出されます。

YES

関連付けられている *vol-list* に示されているボリュームの順序でカートリッジを CAP に取り出すことを指定します。要求された最初のカートリッジが最上部の CAP セルに移動され、要求された 2 番目のカートリッジが次の CAP セルに移動され、CAP がいっぱいになるか、すべてのカートリッジが CAP に移動されるまで以下同様に続きます。

WAITcap

オプションで、CAP が使用できない場合、取り出すボリュームのリストの実行で使用可能な CAP を待機するかどうかを指定します。

YES

CAP が使用可能になるのを取り出し処理が無期限に待機するように指定します。Yes がデフォルトです。

NO

CAP が使用可能でない場合は取り出し処理が CAP を待機しないように指定します。

オプション 2 のパラメータ

図3.85 「Eject コマンドの構文」に示すように、*Display Eject* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SCRATCH

スクラッチボリュームを取り出すことを示します。

注:

acs-id、*lsm-id*、*cap-id*、または *cap-list* を指定しない場合、HSC は取り出すボリュームが含まれている各 ACS のゼロ以外の優先順位の CAP を選択します。HSC は ACS 00 のゼロ以外の優先順位の CAP を選択します。

acs-id*、*lsm-id*、*cap-id*、または *cap-list

カートリッジを取り出す ACS、LSM、または CAP。

acs-id は取り出すカートリッジが含まれている ACS を識別します。HSC は指定された ACS で使用するためにゼロ以外の優先順位の CAP を選択します。

lsm-id は取り出すカートリッジが含まれている LSM を識別します。LSM に複数の CAP がある場合は、ゼロ以外の優先順位がもっとも高い使用可能な CAP が選択されます。

cap-id は、割り当てられている設定値に関係なく、使用する特定の CAP を識別します。*cap-id* は *AA:LL:CC* という形式であり、ここで *AA:LL* は LSMid、および *CC* は CAP 番号を示します。CAP 番号は LSM タイプに依存します。

cap-list には、CAPid をコンマで区切って明示的に指定する必要があります。CAPid の範囲は許可されません。CAPid は空白またはコンマで区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。CAP を指定しない場合は、各 ACS で 1 つの CAP が選択されます。

SUBpool(subpool-name)

オプションで、スクラッチボリュームを取り出すサブプールを指定します。*MEDIA* または *RECTech* を指定した場合は、同じサブプール内のそのメディアタイプまたは記録技法のカートリッジが取り出されます。

subpool-name はサブプール名を示します。

VOLCNT(count)

オプションで、指定した数のスクラッチボリュームを取り出すように指定します。

count は取り出すスクラッチボリュームの数を示します。

MEDIA(media-type)

オプションで、目的のメディアのスクラッチカートリッジを取り出すように指定します。

media-type は、メディアタイプを示します。有効なメディアタイプ値のリストについては、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

次の点に注意してください。

MEDia を指定せず、*RECtech* が存在しない場合、次のスクラッチカートリッジはメディアタイプに関係なく選択されます。*MEDia* および *RECtech* の両方を指定する場合は、互換性がある必要があります。

SUBpool を指定しない場合、次のスクラッチカートリッジは、サブプールに属しているかどうか、*VOLPARMS* を使用してデフォルトのサブプールに定義されているかどうか、または何らかのスクラッチサブプールに属していないかどうかに関係なく選択されます。

RECtech(recording-technique)

オプションで、目的の記録技法のスクラッチカートリッジを取り出すように指定します。*RECtech* はテープ面にデータトラックを記録するために使用する方法を示します。

recording-technique は、記録技法を示します。有効な記録技法の値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

注:

RECtech を指定しない場合、次のスクラッチカートリッジはメディアタイプに応じて選択されます(指定した場合)。どちらも指定しない場合、次のスクラッチカートリッジはメディアタイプおよび記録技法を考慮せずに選択されます。*RECtech* および *MEDia* の両方を指定する場合は、互換性がある必要があります。

WAITcap

オプションで、CAP が使用できない場合、取り出すボリュームのリストの実行で使用可能な CAP を待機するかどうかを指定します。

YES

CAP が使用可能になるのを取り出し処理が無期限に待機するように指定します。Yes がデフォルトです。

NO

CAP が使用可能でない場合は取り出し処理が CAP を待機しないように指定します。

ENter

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

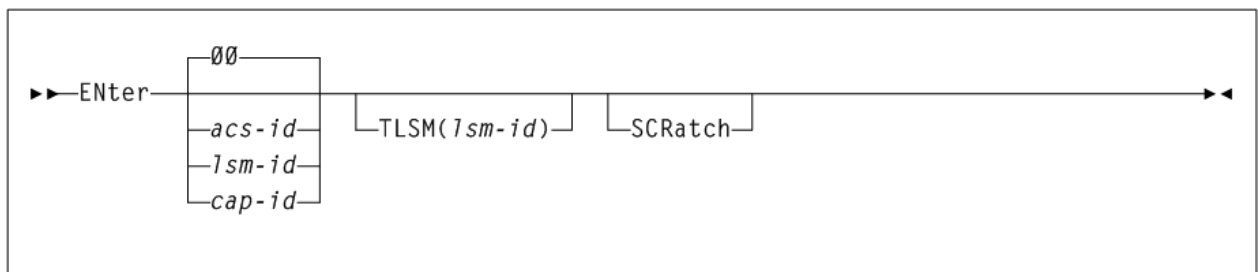
説明

ENter コマンドは、LSM にカートリッジを挿入できるように CAP を自動モードにします。

構文

図3.86 「ENter コマンドの構文」は ENter コマンドの構文を示しています。

図3.86 ENter コマンドの構文



パラメータ

図3.86 「ENter コマンドの構文」に示すように、ENter コマンドには次のパラメータが含まれます。

acs-id

カートリッジを挿入する ACS を指定します。HSC は使用する ACS 内のゼロ以外の優先順位の手動モードの CAP を選択します。

lsm-id

次のいずれかを識別します。

- 単一の CAP を持つ LSM
- 複数の CAP が含まれている LSM。HSC はゼロ以外の優先順位がもっとも高い使用可能な手動モードの CAP を選択します。CAPid 00 が手動モードで使用可能であり、LSM 内の使用可能なほかの手動モードの CAP 以上の設定値を持つ場合は、CAPid 00 が選択されます。

cap-id

可用性または CAP 設定に関係なく、使用する特定の手動モードの CAP を指定します。cap-id の形式は AA:LL:CC です。ここで、AA:LL は LSMid を示し、CC は CAP を示します。有効な値のリストについては、「CAPid」を参照してください。

TLSM(lsm-id)

挿入されたカートリッジを受け取る LSM を指定します。

lsm-id は次のものを示します。

- 単一の CAP を持つ LSM
- 複数の CAP が含まれている LSM。HSC はゼロ以外の優先順位がもっとも高い使用可能な手動モードの CAP を選択します。CAPid 00 が手動モードで使用可能であり、LSM 内の使用可能なほかの手動モードの CAP 以上の設定値を持つ場合は、CAPid 00 が選択されます。

LSMid の形式は AA:LL で、AA は ACSid (10 進数 00-99) を示し、LL は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

SCRatch

オプションで、挿入したボリュームをスクラッチステータスにできます。ボリュームをスクラッチステータスにするように指定しない場合、システムは非スクラッチボリュームとしてそれらを挿入します。

EXECParm

インタフェース:

- PARMLIB のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

なし。

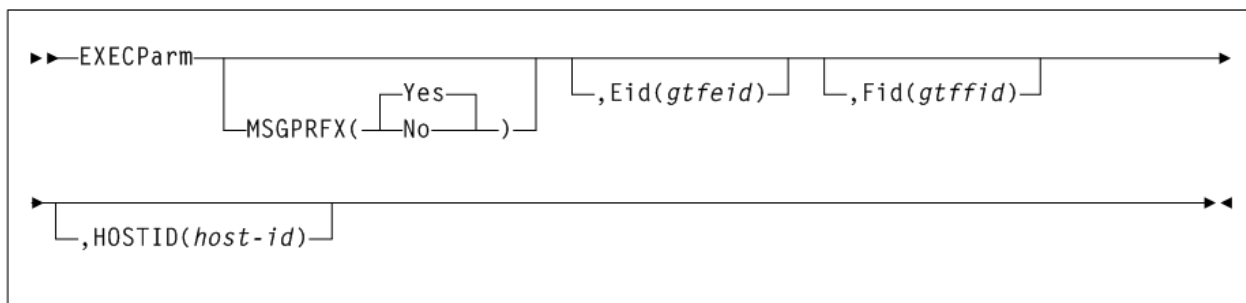
説明

EXECParm コマンドは、通常はサブシステム起動手順で指定される GTF イベントおよびフォーマット ID を指定するための代替の方法を提供します。WTO メッセージまたは WTOR メッセージの前にあるコマンド接頭辞を表示するオプションも提供します。

構文

図3.87 「EXECParm コマンドの構文」は *EXECParm* コマンドの構文を示しています。

図3.87 EXECParm コマンドの構文



パラメータ

図3.87 「EXECParm コマンドの構文」に示すように、*EXECParm* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MSGPRFX

オプションで、オペレータへの WTO メッセージまたは WTOR メッセージの前にコマンド接頭辞を付加するかどうかの制御を指定します。

Yes

オペレータへの WTO メッセージまたは WTOR メッセージの前に、コマンド接頭辞を表示することを示します。

No

オペレータへの WTO メッセージまたは WTOR メッセージの前に、コマンド接頭辞を表示しないことを示します。

Eid(gtfeid)

オプションで、*gtfeid* によって GTF イベント ID を指定します。

GTF イベント ID を指定する代替の方法としては、HSC 初期化手順で `PARM='Eid(userspecifiedeventid)'` パラメータを使用できます。

Fid(gtffid)

オプションで、*gtffid* によって GTF フォーマット ID を指定します。

GTF フォーマット ID を指定する代替の方法としては、HSC の初期化手順で `PARM='Fid(userspecifiedformatid)'` パラメータを使用できます。

HOSTID(host-id)

オプションで、EXECParm 制御文を処理するために要求に関連付けられているシステム ID を *hostid* によって指定します。

注:

指定した *host-id* がこのコマンドを実行しているホストと一致しない場合、コマンドは無視され、メッセージは発行されません。

EXPORT

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

- *VTV* パラメータまたは *MGMTCLAS* パラメータを指定する場合は、*FULL* サービスレベルでアクティブな *HSC/VTCS* が必要となります。
- *MVC* パラメータまたは *STORclas* パラメータを指定する場合、アクティブな *HSC/VTCS* は必要ありません。

注:

ユーティリティーによって使用される *CDS* は、現在アクティブなほかの *HSC/VTCS* ホストによってアクセスされないようにする必要があります。そうしないと、エラーメッセージ *SLS6716E* が発行されてユーティリティーが失敗します。

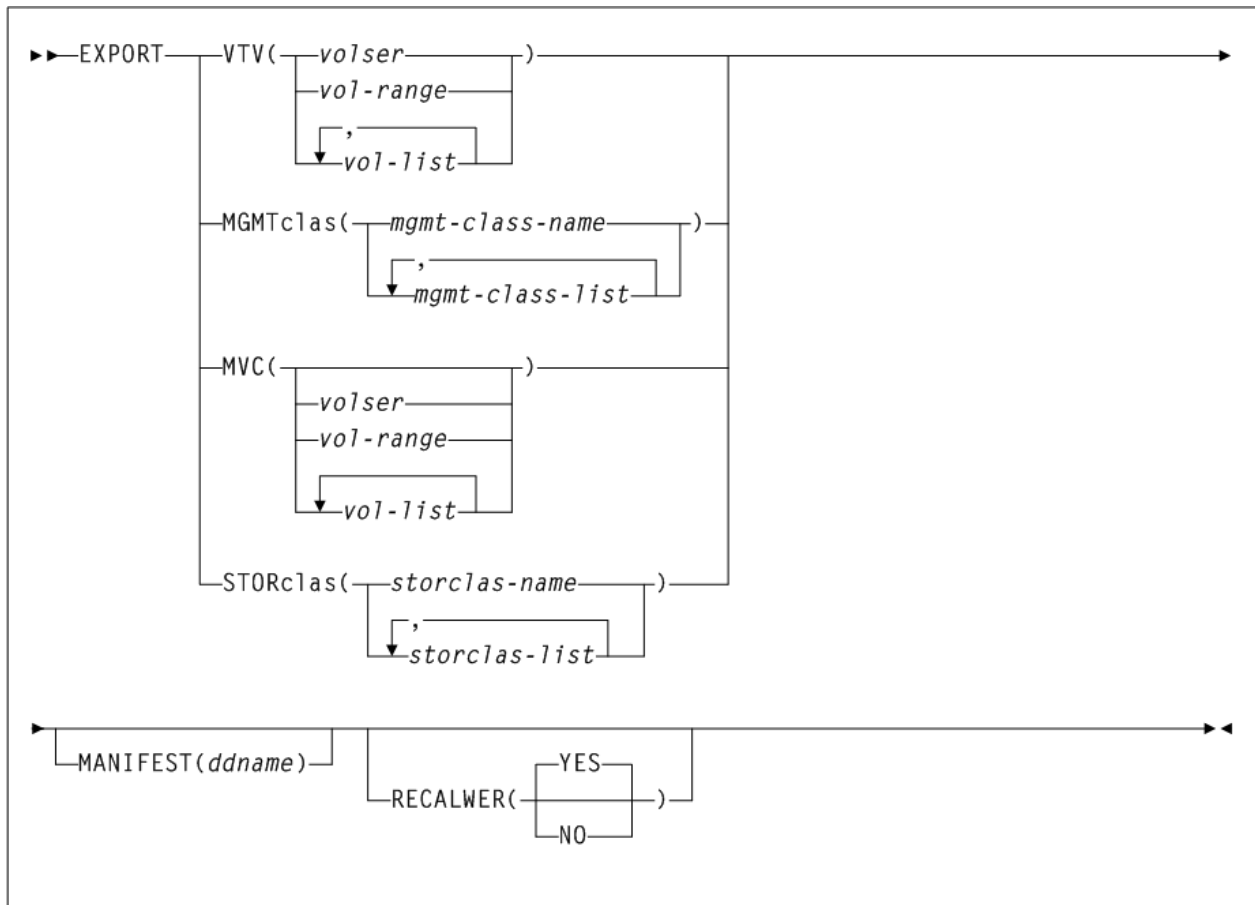
説明

EXPORT コマンドは、*VTV* を統合し (必要な場合)、*VSM* システムからのエクスポートに使用可能な *VTV* および *MVC* を示すマニフェストファイルを作成します。

構文

図3.88 「[EXPORT コマンドの構文](#)」は *EXPORT* コマンドの構文を示しています。

図3.88 EXPORT コマンドの構文



パラメータ

図3.69 「Display THReshld コマンドの構文」に示すように、*EXPORT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、vol-range、または vol-list)

エクスポートのために統合する 1 つ以上の VTV を指定します。

VTV によるエクスポートが行われた場合、CDS は VTV レコードの MVC 情報を維持しません。MVC は (E)xport としてマークされます。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は、1 つ以上の VTV の *volser* を示します。VTV は無制限に指定できます。

MGMTclas(mgmtclas-name または mgmtclas-list)

エクスポートのために統合する 1 つ以上の VTV を判別する 1 つ以上の管理クラスを指定します。

MGMTclas によるエクスポートが行われた場合、CDS は VTV レコード内に MVC 情報を保持しません。MVC は (E)*xport* としてマークされます。

mgmt-class-name または *mgmt-class-list* は、*MGMTclas* 制御文で定義した 1 つ以上の管理クラスの名前を示します。詳細は、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

MVC(*volser*, *vol-range*, または *vol-list*)

エクスポートする 1 つ以上の MVC を指定します。

MVC によるエクスポートが行われた場合、CDS は CDS の VTV レコード内に MVC 情報を保持します。MVC は (R)*ead-Only* としてマークされます。

volser, *vol-range*, または *vol-list* は 1 つ以上の MVC の *volser* を示します。

STORclas(*stor-clas-name* または *stor-clas-list*)

エクスポートする 1 つ以上の MVC を判別する 1 つ以上のストレージクラスを指定します。

STORclas によるエクスポートが行われた場合、CDS は CDS の VTV レコード内に MVC 情報を保持します。MVC は (R)*ead-Only* としてマークされます。

stor-clas-name または *stor-clas-list* は、*STORclas* 制御文で定義した 1 つ以上のストレージクラスの名前を示します。詳細は、「[STORclas 制御文](#)」を参照してください。

MANIFEST(*ddname*)

オプションで、マニフェストファイルの出力先の *dd-name* を指定します。デフォルトは *MANIFEST* です。

RECALWER

オプションで、VTCS が読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールするかどうかを指定します。

Yes

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールします (デフォルト)。

No

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールしません。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*EXPORT* JCL には次の定義文が適用されます。

マニフェストファイルの DD

マニフェストファイルの DD 文 (オプション)。

FMTLOG

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

FMTLOG コマンドは、HSC/VTCS トランザクションロギングサービスの一部です。

このコマンドは、ロギングサービスによって使用されるログファイルを事前フォーマットします。データブロックを事前フォーマットし、ファイルの最初のレコードに特定の制御情報を書き込みます。単一の *FMTLOG* ユーティリティーコマンドを使用して、最大 2 つのログファイルをフォーマットできます。

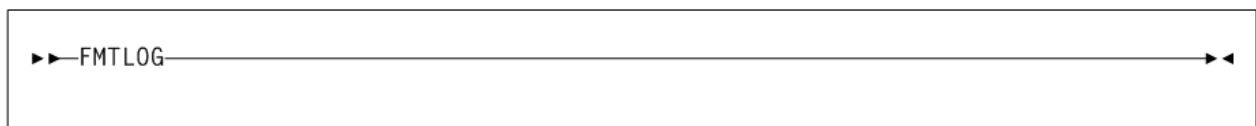
注:

SET LOGFILE ユーティリティーコマンドを使用してログファイルをアクティブにする前に、ログファイルを事前フォーマットする必要があります。詳細は、「[SET LOGFILE](#)」を参照してください。異なるログファイルデータセット名を指定するには、*SET LOGFILE* を実行する前に、*OFFload LOGFILE* を実行する必要があります。詳細は、「[OFFload](#)」を参照してください。

構文

図3.89 「[FMTLOG コマンドの構文](#)」は *FMTLOG* コマンドの構文を示しています。

図3.89 *FMTLOG* コマンドの構文



パラメータ

なし。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*FORMAT LOGFILE* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSLOG1

フォーマットするログファイルを指定します。

SLSLOG2

フォーマットする 2 番目のログファイルを指定します。

IMPORT

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS は必要ありません

説明

IMPORT コマンドは、マニフェストファイルに示されている VTV および MVC を VSM システムにインポートします。

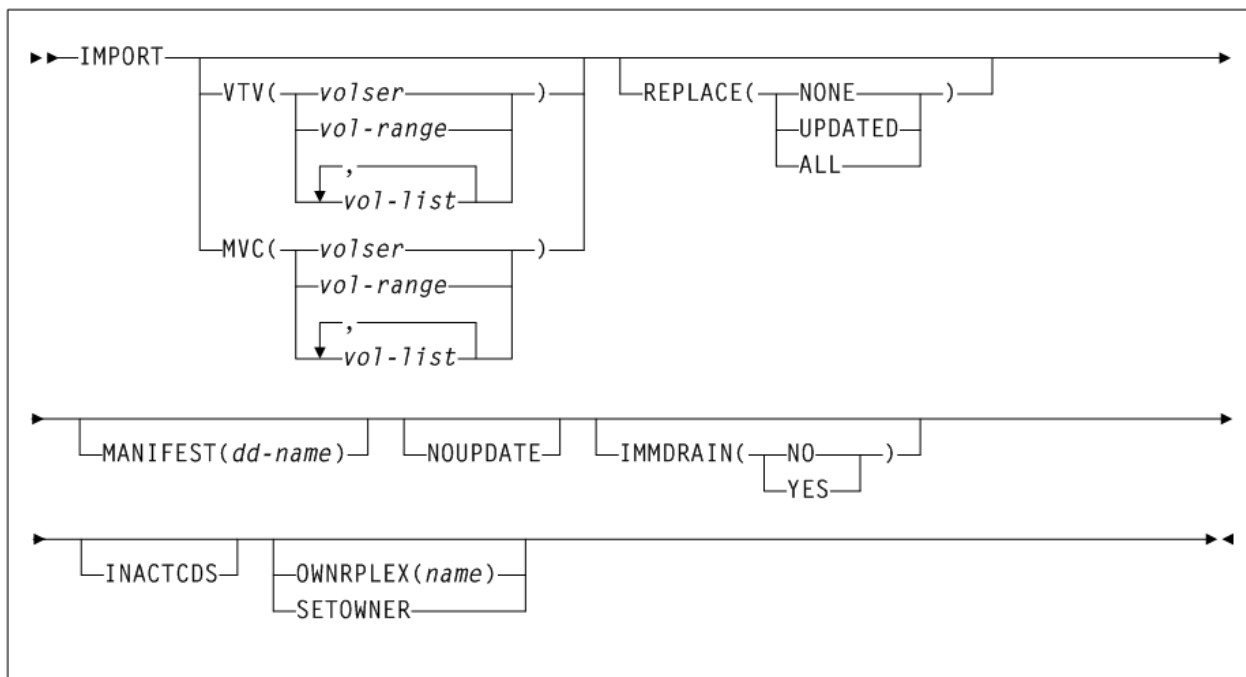
注:

「受け手」の CDS の機能 (CDS レベルで有効にする) と「送り手」の CDS の機能は同じになるようにします。たとえば、「送り手」の CDS で大きい VTV ページサイズが有効になっていて 2/4G バイトの VTV を作成した場合、「受け手」の CDS にこれと同じ機能がないと、インポートは失敗します。

構文

[図3.90 「IMPORT コマンドの構文」](#) は *IMPORT* コマンドの構文を示しています。

図3.90 IMPORT コマンドの構文



パラメータ

図3.90「IMPORT コマンドの構文」に示すように、*IMPORT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、vol-range、または vol-list)

インポートする1つ以上のVTVを指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は1つ以上のVTVの*volser*を示します。

MVC(volser、vol-range、または vol-list)

インポートする1つ以上のMVCを指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は1つ以上のMVCの*volser*を示します。

REPLACE

VTCSがターゲットCDSのVTVレコードを置き換えるかどうかを指定します。デフォルトはありません。値を指定する必要があります。

NONE

VTVレコードを置き換えません。VTCSは重複していないVTVの新しいレコードのみを作成し、ターゲットCDSで初期化されていないVTVのレコードを置き換えます。

UPDATED

より新しいバージョンの VTV である場合、あるいは移行または常駐しているバージョンの VTV が CDS にはない場合は、VTV レコードを置き換えます。より古いバージョンまたは同じバージョンである場合は、VTV レコードを置き換えません。

ALL

ターゲット CDS の重複した VTV レコードを置き換えます。

次の点に注意してください。

- **ALL** パラメータを指定する前に、ターゲット CDS の重複した VTV レコードを実際に置き換えることを確認します。置き換えられる VTV レコードを確認するには、**NOUPDATE** を指定して「検証」を実行します。
- VTV レコードが置き換えられた場合は、VTV の既存のすべての VTSS および MVC のコピーが無効になります。
- MVC に VTV が含まれていることをターゲットの CDS のレコードが示している場合は、**REPLACE(ALL)** を指定した場合でも、MVC をインポートできません。この状況では、最初にターゲットシステムで MVC をドレインして (**EJECT** を使用)、ACS からそれを取り出す必要があります。そのあと、ソースシステムからエクスポートされた MVC をインポートできます。

MANIFEST(dd-name)

オプションで、マニフェストファイルの入力 dd 名を指定します。

dd-name はマニフェストファイルの dd 名を示します。デフォルトは **MANIFEST** です。

NOUPDATE

オプションで、VSM が CDS を更新せず、インポート操作を検証し、ジョブのログに情報メッセージを書き込むように指定します。

IMMDRAIN

オプションで、インポートされた MVC を VSM がすぐにドレインするかどうかを指定します。

NO

MVC をドレインしません (デフォルト)。

YES

MVC をドレインします。

INACTCDS

オプションで、インポートジョブを実行している HSC システムで現在アクティブな CDS と異なる CDS をインポートが使用するように指定します。代替 CDS を指定するには、**SLUADMIN JCL** に **SLSCNTL** 定義文を使用します。

次の点に注意してください。

- インポートジョブが実行されているシステムで HSC が停止している場合、そのシステムの CDS は非アクティブとみなされるため、*INACTCDS* を指定する必要はありません。
- *INACTCDS* パラメータを指定する場合、*SLUADMIN* の JCL の *SLSCNTL* 定義文で指定される CDS は、HSC/VTCS (アクティブな場合) によって使用されている CDS と異なる必要があります。

OWNRPLEX(name)

インポートされている VTV の所有権を指定します。

name は、VTV の元のコピーを所有する TapePlex の名前を示します。この名前は、構成内の既知の TapePlex 名のいずれかと一致する必要があります。

この名前が *CONFIg TAPEPlex* 文の *THISPLEX* パラメータに示されている名前と一致している場合は、電子インポートされたステータスが削除されます。

SETOWNER

所有権情報をインポートすることを指定します。

デフォルトでは、マニフェスト内の所有権情報は無視されます。*SERTOWNER* パラメータは、TapePlex の所有権およびエクスポートのフィールドをインポートすることを指定します。*Display* コマンドおよびレポートでは、VTV は電子的にインポートされたかのように表示されます。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*IMPORT* JCL には次の定義文が適用されます。

マニフェストファイルの DD

マニフェストファイルの DD 文。

INITialize

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルの HSC

説明

INITialize コマンドは、CAP を介してカートリッジをライブラリにバッチ挿入でき、各テープに磁気ラベルを書き込むユーザー指定のプログラムを呼び出します。

ロボットは CAP に配置されたカートリッジを受け入れて Tri-Optic ラベルを読み取り、HSC は VOLSER をユーザー指定のプログラムに渡します。磁気ラベルの付いたカートリッジをライブラリから取り出したり、セルの場所に配置したりできます。カートリッジがライブラリ内に格納されている場合は、制御データセットが VOLSER および場所の情報で更新されます。制御データセットは、各カートリッジをスクラッチまたは非スクラッチとしてマークできます。

INITialize は、外部 Tri-Optic ラベルを読み取り、*CNTLDD* パラメータを使用して定義されたデータセットにそれらを記録します。*CNTLDD* は、*TMSTPNIT* 制御文に使用される DD 名を指定する制御文のパラメータです。

INITialize ユーティリティーは、それ自体ではカートリッジを初期化せず、TMS、TLMS、または初期化を実行するほかの初期化ユーティリティーを呼び出します。*CNTLDD* は、TMS ユーティリティーが必要とする入力パラメータに使用される DD を HSC から TMS ユーティリティーに指定します。

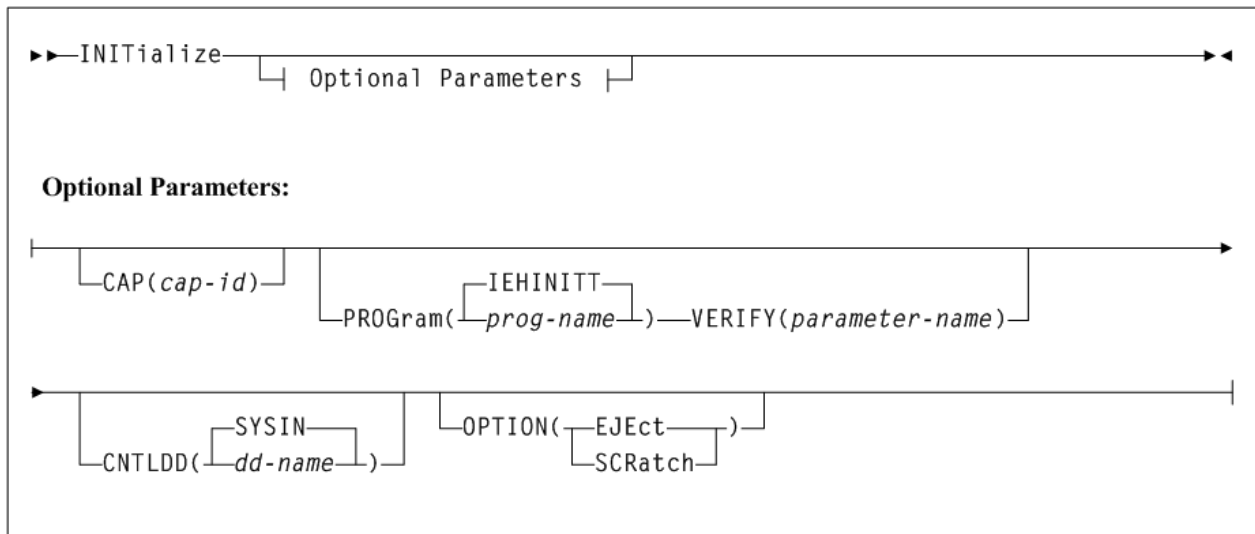
注意:

このユーティリティーは、SMC が実行されていてローカル HSC サーバーを使用している MSP システムで実行する必要があります。

構文

図3.91 「*INITialize* コマンドの構文」は *INITialize* コマンドの構文を示しています。

図3.91 INITialize コマンドの構文



パラメータ

図3.69 「Display THReshld コマンドの構文」に示すように、`INITialize` コマンドには次のパラメータが含まれます。

CAP(cap-id)

オプションで、操作に使用される特定の CAP を指定します。

CAP を指定しない場合、ユーティリティーは `SLSTAPE DD` 文を充足させるために割り当てられているデバイスによって暗黙的に指定されている ACS の CAP を選択します。

`capid` は CAP を示します。`cap-id` の形式は `AA:LL:CC` です。ここで、`AA:LL` は LSMid を示し、`CC` は CAP を示します。有効な値のリストについては、「CAPid」を参照してください。

PROGram(prog-name または IEHINITT)

オプションで、実際にラベルを書き込むために呼び出されるプログラムを指定します (指定しない場合は `IEHINITT` が想定されます)。

`prog-name` は初期化を実行するプログラムを示します。

VERIFY(parameter-name)

オプションで、`PROGram` パラメータによって識別されるテープ初期化プログラムに渡されるパラメータを指定します。`VERIFY` は `PROGram` パラメータに `TMSTPNIT` が指定されている場合にのみ有効です。

parametername は、*TMSTPNIT* プログラムに渡されるパラメータを示します。たとえば、次のパラメータを入力したとします。

VERIFY(ROBOT)

TMSTPNIT は **NL** (ラベルなし) テープに関する **TMS CAL0TN01** メッセージを抑制します。有効なパラメータ値については、該当する CA 1 のドキュメントを参照してください。

CNTLDD(dd-name または SYSIN)

オプションで、初期化制御文が書き込まれ、ラベルプログラムがその制御文を読み取る DD 文を指定します。

注:

これは制御データセットではありません。

dd-name は DD 文の名前を示します。*ddname* オプションは CA1 (TMS) バージョン 5.1 より前を使用している場合にのみ指定できます。CA1 (TMS) バージョン 5.1 以降では、デフォルト値 (*SYSIN*) を使用する必要があります。

OPTION

オプションで、ラベル処理の完了に続いて実行されるオプションの処理を指定します。指定しない場合、デフォルトでは新しいカートリッジが非スクラッチステータスでライブラリに保持されます。

EJEct

ラベル付け処理の完了後、ラベルが付けられたボリュームをライブラリから取り出すように指定します。

SCRatch

ライブラリに挿入されているラベルが付けられたボリュームをスクラッチリストに追加するように指定します。ボリュームをスクラッチとして扱う場合は、インストール環境がテープ管理システムにボリュームのスクラッチステータスを通知する必要があります。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*INITialize* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSINIT

呼び出される初期化プログラムの代替制御カード形式。

SLSTAPE

ラベル付けのためにカートリッジがマウントされるライブラリトランスポート。ライブラリ以外のトランスポートが割り当てられないようにするために、次のいずれかを指定します。

- ライブラリトランスポートのみを含むトランスポート
- 特定のライブラリトランスポートのアドレス
- ライブラリのトランスポートへの割り当てを指示する *TAPEREQ* 文
- ユーザー出口 (Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください)

CNTLDD または SYSIN

ボリュームのシリアルラベル情報が含まれており、初期化プログラム (*IEHINITT*、または *PROG* キーワードパラメータによって指定されたプログラム) に入力として渡されます。

ユーティリティの制御文に *CNTLDD* が指定されている場合、その DD 名はラベル情報を含むデータセットを識別します。

SYSPRINT

IEHINITT からの出力メッセージ。

ボリュームのシリアルラベル情報が含まれており、初期化プログラム (*IEHINITT*、または *PROG* キーワードパラメータによって指定されたプログラム) に入力として渡されます。

ユーティリティの制御文に *CNTLDD* が指定されている場合、その DD 名はラベル情報を含むデータセットを識別します。

INVENTORY

インタフェース:

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

INVENTORY コマンドは、指定された MVC のすべての VTV を一覧表示します。

また、このコマンドを使用して次の操作を実行できます。

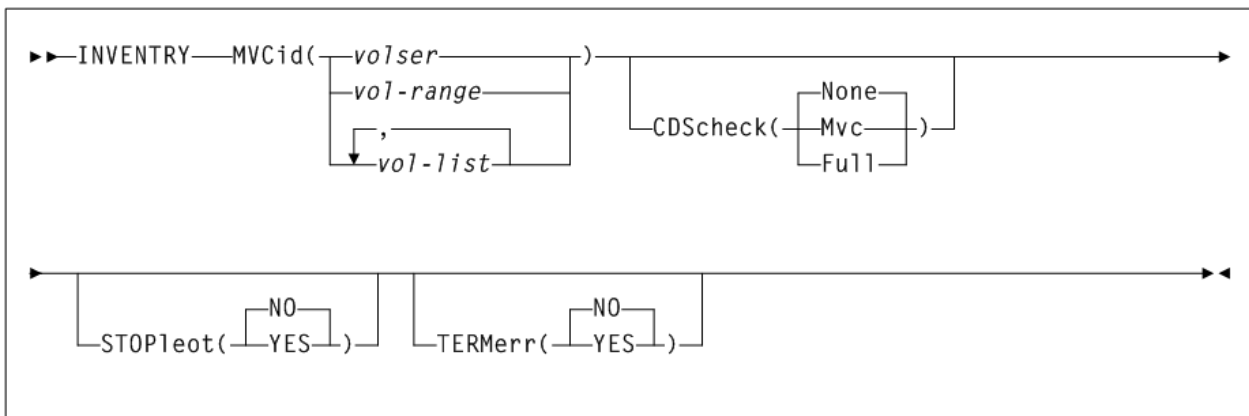
- 指定された MVC の内容を CDS に記録されている情報とクロスチェックするように要求します。

- MVC の物理的なテープの終わりではなく、MVC の CDS に記録されているテープの終わりの位置に基づいて処理を終了します。
- CDS の情報と互換性がない VTV が最初に検出されたときに、MVC の処理を終了します。

構文

図3.92 「INVENTORY コマンドの構文」は *INVENTORY* コマンドの構文を示しています。

図3.92 INVENTORY コマンドの構文



パラメータ

図3.92 「INVENTORY コマンドの構文」に示すように、*INVENTORY* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MVCid(volser、vol-range、または vol-list)

インベントリが作成される MVC を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は 1 つ以上の MVC の *volser* を示します。1 つ以上の範囲を指定することもできます。

CDScheck

オプションで、インベントリが作成される各 MVC の内容を CDS に記録されている情報に対してチェックするかどうかを指定します。

None

インベントリが作成される MVC で見つかった各 VTV は、メッセージ *SLS6933I* に示されます。CDS はチェックされません。*None* はデフォルトを示します。

Mvc

インベントリが作成される MVC で見つかった各 VTV は、メッセージ *SLS6933I* に示されます。VTV の詳細は CDS から取得されます。VTV の MVC および CDS のコピーが比較され、コメントとして *SLS6933I* に示されます。CDS が *SLS6933I* に示されているコピーと異なる VTV の常駐または MVC のコピーを示している場合は、その詳細がメッセージ *SLS6934I* に示されます。

Full

インベントリが作成される MVC で見つかった各 VTV は、メッセージ *SLS6933I* に示されます。

VTV の詳細は CDS から取得されます。VTV の MVC および CDS のコピーが比較され、コメントとして *SLS6933I* に示されます。CDS が *SLS6933I* に示されているコピーと異なる VTV の常駐または MVC のコピーを示している場合は、その詳細がメッセージ *SLS6934I* に示されます。インベントリが作成される各 MVC について、MVC にコピーがあると示される CTC を判別するために CDS がチェックされます。MVC で見つからなかった MVC は、メッセージ *SLS6935E* に示されます。

STOPleot

オプションで、論理的なテープの終わりの位置に達したときに、処理を終了するかどうかを指定します。論理的なテープの終わりの位置は、この MVC の CDS に記録されているテープの終わりの位置です。

NO

すべての VTV はインベントリが作成される各 MVC で処理されます。これがデフォルトです。

YES

次のいずれかが発生するまで、VTV はインベントリが作成される各 MVC で処理されます。

- MVC の物理的なテープの終わりに達した。
- 最初の VTV が論理的なテープの終わりの位置を超えている MVC で見つかった (物理的なテープの終わりの位置よりも前である場合)。CDScheck(*None*) を指定した場合、この設定は無効です。

TERMerr

オプションで、MVC の内容と CDS が示している VTV の間に最初の不一致があったときに、MVC のインベントリを終了するかどうかを指定します。そのような不一致は、メッセージ *SLS6935E*、*SLS6936E*、または *SLS6938E* に示されます。

NO

MVC の内容と CDS が示している VTV の間に最初の不一致があったときに、MVC のインベントリを終了しません。これがデフォルトです。

YES

MVC の内容と CDS が示している VTV の間に最初の不一致があったときに、MVC のインベントリを終了します。CDScheck(None) を指定した場合、この設定は無効です。

リターンコード

INVENTORY コマンドには次のリターンコードがあります。

- 0 は要求されたすべての更新が正常に完了したことを示します。
- 4 は 1 つ以上のエラーが見つかったことを示します。エラーはメッセージ *SLS6935E*、*SLS6396E*、*SLS6938E*、*SLS6939E*、*SLS6940E*、または *SLS6941E* に示されます。
- 8 は *INVENTORY* 処理に固有ではない 1 つ以上のエラーが見つかったことを示します。たとえば、*ECAM* のエラーです。

インベントリレポート

次の図は、次のコマンドによって生成された *INVENTORY* レポートの例を示しています。

```
INVENTORY MVC(021549)
```

この例では、顧客は CDS に記録されている情報と見つかった VTV をクロスチェックせずに、MVC 021549 のすべての VTV を一覧表示しようとしています。

出力例で、インベントリが作成された MVC で見つかった各 VTV は、メッセージ *SLS6933I* に示されます。

例3.46 *INVENTORY* レポート

```
Inventry report for MVC 021549
```

```
SLS6933I MVC 021549 block 00000000: VTV Y00486 Created 2007Jul17 06:33:22 Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 05402F10: VTV Y00487 Created 2007Jul17 06:34:09 Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 0A405E1F: VTV Y00489 Created 2007Jul17 06:34:56 Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 0F408D2E: VTV Y00493 Created 2007Jul17 06:36:34 Migrated 2007Jul17
SLS6933I MVC 021549 block 10409E3C: VTV Y00492 Created 2007Jul17 06:35:46 Migrated 2007Jul17
```

LIBGen

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

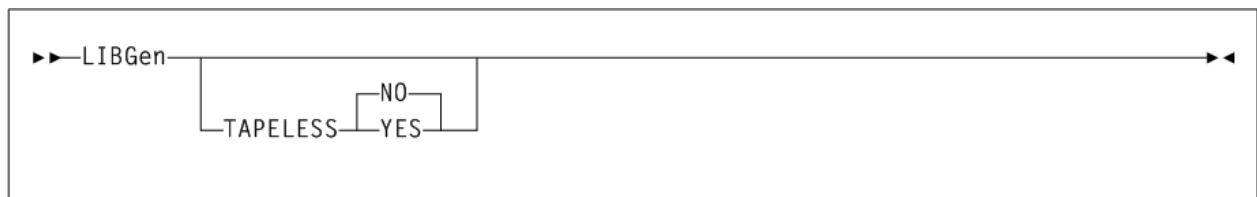
LIBGen コマンドは、制御データセットからハードウェア構成、*VOLPARM*、*VAULT*、および *LOGFILE* 情報を逆コンパイルし、その情報が反映された一連の *LIBGEN* マクロを作成します。*LIBGEN* 逆コンパイルユーティリティを使用すると、*LIBGEN* マクロの初期セットを生成し、新しい CDS の作成を必要とする新しいハードウェアをインストール環境に追加するときにそれらを変更できます。

このユーティリティを使用する状況およびその動作については、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。

構文

図3.93 「*LIBGen* コマンドの構文」は *LIBGen* コマンドの構文を示しています。

図3.93 *LIBGen* コマンドの構文



パラメータ

図3.93 「*LIBGen* コマンドの構文」に示すように、*LIBGen* コマンドには次のパラメータが含まれます。

TAPELESS

オプションで、現在ライブラリ定義が含まれている CDS から *CDSCREAt* 構文を生成するか、現在テープレスとして定義されている CDS から *LIBGEN* マクロ構文を作成するかを指定します。

NO

現在ライブラリの定義が含まれている CDS から *CDSCREAT* 構文を作成します。

YES

現在テープレスとして定義されている CDS から *LIBGEN* マクロ構文を作成します。

TAPELESS パラメータを省略した場合、デフォルトは入力 CDS に基づきます。つまり、テープレスの CDS では *CDSCREat* 構文が生成され、ライブラリ定義を持つ CDS では *LIBGEN* マクロの構文が生成されます。テープレスの CDS に *TAPELESS(NO)* を指定する場合は、*LIBGEN* マクロを使用して新しい CDS に定義する前に、ACS および LSM を定義する必要があります。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加えて、*LIBGen* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSLIBGN

ユーティリティによって作成された *LIBGEN* を格納するための出力データセット。

このデータセットは *LRECL=80*、固定ブロック形式 (80 の倍数) という特性を持ちます。データセットにはプリンタまたは DASD への出力を割り当てることができます。*SLSPRINT* の出力のみが目的の場合は、*DUMMY* を割り当てることができます。

SLSPARM

CDS からの出力 *VOLPARM* カードイメージ。

CDS に *VOLPARM* レコードが存在する場合は、*SLSPARM* が必要となります。JCL に *SLSPARM DD* が指定されていない場合は、メッセージ *SLS0212I* が発行され、ユーティリティがリターンコード 4 を終了します。

SLSSET

CDS からの出力の *CDSCREAT*、*SET VOLPARM*、*SET VAULT*、または *SET VAULTVOL*、および *SET LOGFILE* 制御文。*LIBGEN* ユーティリティが前述のいずれかのタイプの制御文の出力を試みて、*SLSSET DD* 文がない場合は、メッセージ *SLS0212I* が発行されます。生成される文が *CDSCREAT* の場合、ユーティリティはリターンコード 8 で終了します。それ以外の場合は、処理が続行され、リターンコード 4 が生成されます。

出力

LIBGEN コマンドの出力には次のものがあります。

- 既存の制御データセットと一致している有効な *LIBGEN* ファイル。出力ファイルには次の特性があります。

- 。ステーションおよびドライブのすべてのアドレスは4文字のアドレスです。
- 。複数のパラメータが同じラベルの文を指している場合、ユーティリティーは一意のラベルを付けてその文を複製し、各パラメータが同一であるが異なる文を指すようにします。
- 。LIBGEN の出力に生成されるラベルを次の表3.6「LIBGEN 出力のラベル」に一覧表示します。
- 。EJECT のパスワードが存在する場合、それは表示されません。代わりに、次の行が表示されます。

EJCTPAS=???????

- 。失敗したユーティリティーの実行によって生じたエラー状態に関連付けられたメッセージ。

表3.6 LIBGEN 出力のラベル

デバイス	ラベル	説明
ACS	ACSaa	aa は 0 から始まる連続した 10 進数の ACSid 値を示します (00 - 99)。
LSM	LSMaa11	aa は ACSid、および 11 は 0 から始まる連続した 10 進数の LSMid 値 (00 - 99) を示します。
ステーション	STaaah	aa は ACSid、および h は 0 から始まる連続した 16 進数のホストインデックス値 (0 - F) を示します。
パネル	Paa11pp	aa は ACSid、11 は LSMid、および pp は連続した 10 進数のパネル番号 (0 - 10) を示します。
ドライブ	Daa11pph	aa は ACSid、11 は LSMid、pp は 10 進数のパネル番号、および h は 0 から始まる 16 進数のホストインデックス値を示します。

LMUPDEF

インタフェース:

- 。コンソールまたは PARMLIB
- 。UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

LMUPDEF コマンドは、ネットワーク LMU 接続 (LMUPATH) 文を含む定義データセットを指定します。

定義ファイルが LMUPDEF オペレータコマンドによって変更され、変更が永続的である場合は、HSC を再起動する前に PARMLIB を更新する必要があります。

特定のシフトまたはアプリケーションのために定義ファイルが変更される場合、新しい定義は別の定義がロードされるか、HSC がリサイクルされるまで有効なままになることに留意してください。そのあと、定義ファイルは PARMLIB の指定に戻ります。このため、LMUPDEF は定義ファイルを一時的に変更するために使用できます。

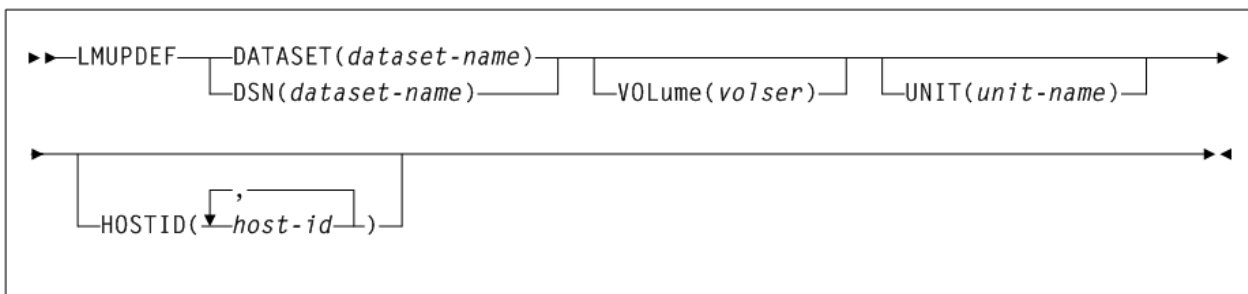
注:

- 1つのホストで発行された定義コマンドは、そのホストにのみ影響します。異なるホストが同じ定義データセットを使用する場合、LMUPATH パラメータ文はそれらのホストによって共有されます。
- 複数の LMUPDEF コマンドまたは文を発行した場合は、最後に処理されたものが現在アクティブです。アクティブな LMUPDEF 文を判別するには、Display LMUPDEF コマンドを入力します。

構文

図3.94 「LMUPDEF コマンドの構文」は LMUPDEF コマンドの構文を示しています。

図3.94 LMUPDEF コマンドの構文



パラメータ

図3.94 「LMUPDEF コマンドの構文」に示すように、LMUPDEF コマンドには次のパラメータが含まれます。

DATASET(*dataset-name*) または DSN(*dataset-name*)

処理する *LMUPATH* 文 (およびオプションで *OPTION TITLE* 文) が含まれているデータセットの名前を指定します。

dataset-name は *LMUPATH* のアドレスパラメータを含むデータセットの名前を示します。データセット名にメンバー名が含まれている場合は、*dataset.name* を引用符で囲む必要があります。例:

DATASET('YOUR.DSN(MEMBER)')

注:

- 定義データセットには、*VOLATTR*、*UNITATTR*、*TAPEREQ*、*LMUPATH*、および *OPTION TITLE* 文が含まれていることがありますが、*LMUPATH* 文および *OPTION TITLE* 文のみが処理されます。
- ほかの文が検出された場合は、エラーメッセージが発行されてその文は無視されます。
- *OPTION TITLE* 制御文の詳細は、「[OPTION TITLE 制御文](#)」を参照してください。

VOLume(*volser*)

オプションで、データセットが存在している DASD ボリュームのシリアル番号を指定します。このパラメータはオプションです。データセットがカタログされていない場合、またはカタログによって示されているボリュームではないボリュームのデータセットを使用する場合は、*VOLume* パラメータを指定します。

volser は定義データセットのボリュームシリアル番号を示します。

UNIT(*unit-name*)

オプションで、定義データセットが配置されているユニットを指定します。

unit-name はユニット名を示します。定義データセットがカタログされておらず、このパラメータを省略した場合は、ユニット名 *SYSALLDA* がデフォルトです。

HOSTID(*host-id*)

オプションで、この制御文の実行を指定されたホストに制限します。指定された *host-id* のいずれかがこの制御文を実行しているホストと一致している場合、制御文はそのホストで実行されます。それ以外の場合は無視されます。このパラメータを省略した場合、制御文はすべてのホストで実行されます。

このパラメータは、*PARMLIB* で使用する場合にのみ有効であり、さまざまなリリースの HSC の *TAPEREQ*、*VOLATTR*、*UNITATTR*、または *LMUPATH* 文が含まれている *PARMLIB* メンバーを複数のシステムが共有できるようにします。コンソールから入力した場合は、メッセージ *SLS0018I* が発行されます。

hostid はこの制御文を実行する 1 つ以上のホストの名前を示します。複数のホストはコンマで区切る必要があります。

LMUPATH 制御文

LMUPATH 制御文はネットワーク LMU/ライブラリコントローラ (LC) の接続を定義します。これは *LMUPDEF* コマンドによってロードされます。

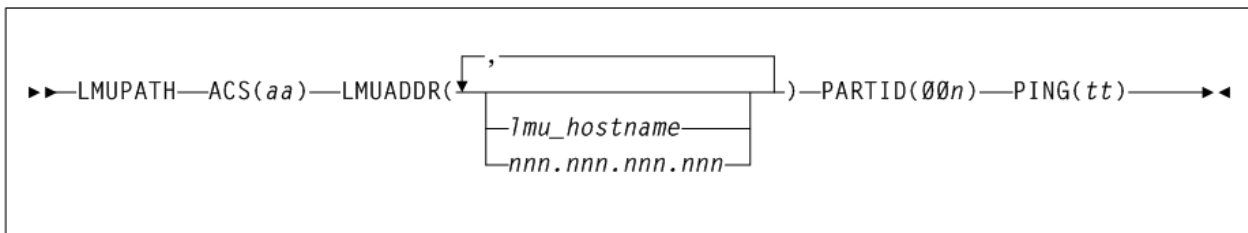
注:

SL3000 または SL8500 のパーティション分割機能を使用している場合、*PARTID* パラメータを指定すると、HSC ホストグループの SL3000 または SL8500 ライブラリによって定義されている特定のパーティションに接続されます。パーティション分割機能の使用方法については、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC および VTCS の構成*』を参照してください。

構文

図3.95 「*LMUPATH* 制御文の構文」は *LMUPATH* 制御文の構文を示しています。

図3.95 *LMUPATH* 制御文の構文



パラメータ

図3.95 「*LMUPATH* 制御文の構文」に示すように、*LMUPATH* 制御文には次のパラメータが含まれます。

ACS(aa)

ACS 名を指定します。

aa は HSC と通信するために使用される LMU を識別する 10 進数の ACSid 値 (00 - 99) を示します。

LMUADDR

各 ACS の LMU/ライブラリコントローラ (LC) をホスト名または IP アドレスによって識別します。単一の LMU/LC 環境を指定するには、1 つの IP アドレスまたはホスト名を指定します。SL8500 にデュアル LMU/LC 環境またはデュアル IP 接続を指定するには、追加の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

HSC は接続のタイプを自動的に検出します (9330 の場合はデュアル LMU、または SL8500 ライブラリの場合はデュアル IP)。

ユーザーは 1 つの *LMUPATH* 制御文にホスト名および IP アドレスを混在させることができます。入力する各パラメータは別の IP アドレスを表している必要があります。

lmu-hostname

TCP/IP 接続のホスト名。ホスト名は最大 24 文字の長さで指定できます。最初の文字は英字である必要があります。

nnn.nnn.nnn.nnn

LMU/LC の IP アドレス。最大 40 個の IP アドレスを指定できます。

PARTID(00n)

各 ACS のパーティション ID を定義します。

00n は 001 から 999 までのパーティション ID を示します。

- パーティション ID には 3 文字すべてを入力する必要があります。
- このリリースでは、001 から 008 までの ID のみがサポートされます。

注:

パーティション分割は単一の SL3000 または SL8500 ボックスにのみ適用されるため、パーティション分割された SL3000 または SL8500 は複数の TCP/IP 接続機能を使用できません。

PING(tt)

要求を HSC から LMU に送信する間隔 (分単位) を指定します。これらの要求は接続をアクティブな状態に維持するためのものであり、ファイアウォールが非アクティブな接続を閉じることを防ぎます。

tt は時間 (分単位) を示します (00-99)。このパラメータが定義されていない場合のデフォルトは 5 分であり、00 を入力するとこの機能がオフになります。

LOGUTIL

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

LOGUTIL コマンドは VTCS の CDS 回復処理を開始します。次のシナリオで使用されます。

- CDS が使用不可になるか破損し、CDS をバックアップした日から使用されている MVC を MVCAUDIT のために識別する必要がある。
- VTSS で致命的なデータ損失が発生した。

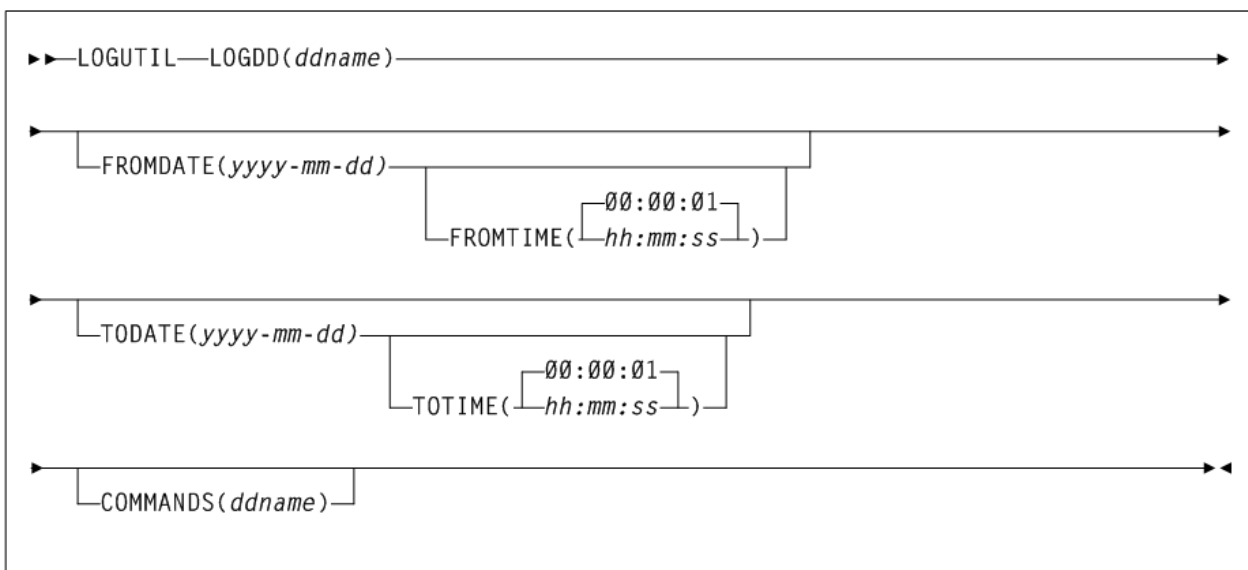
LOGUTIL は、入力ログファイルを解析するモジュールを呼び出し、適切な回復アクションを実行する回復モジュールを呼び出します。次の操作を行うこともできます。

- LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文は、失われた MVC または損傷した MVC に存在していた VTV を回復します。
- LOGUTIL GENAUDIT 文は、MVCAUDIT 文を使用して CDS から VSM への再同期を開始します。
- LOGUTIL LOCATE_VTV 文は古いバージョンの VTV を回復します。
- LOGUTIL UNDELETE 文は削除された VTV を回復します。

構文

図3.96 「LOGUTIL コマンドの構文」は LOGUTIL コマンドの構文を示しています。

図3.96 LOGUTIL コマンドの構文



パラメータ

図3.96 「LOGUTIL コマンドの構文」に示すように、*LOGUTIL* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LOGDD(ddname)

入力ログデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

FROMDATE(yyyy-mm-dd)

オプションで、記録されたイベントの開始日を指定します。

yyyy-mm-dd は開始日を示します。

注:

FROMDATE および *FROMTIME* には、*LOGUTIL* が実行されている MSP システムに表示されているローカルな日付/時間を指定します。

FROMTIME(hh:mm:ss)

オプションで、記録されたイベントの開始時間を指定します。

hh:mm:ss は開始時間を示します。デフォルトは *00:00:00* です。

TODATE(yyyy-mm-dd)

オプションで、記録されたイベントの終了日および時間を指定します。

yyyy-mm-dd は終了日を示します。

注:

TODATE および *TOTIME* には、*LOGUTIL* を実行している MSP システムに表示されているローカルな日付または時間を指定します。

TOTIME(hh:mm:ss)

オプションで、記録されたイベントの終了時間を指定します。

hh:mm:ss は終了時間を示します。デフォルトは *00:00:01* です。

COMMANDS(ddname)

オプションで、回復コマンドが含まれているデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

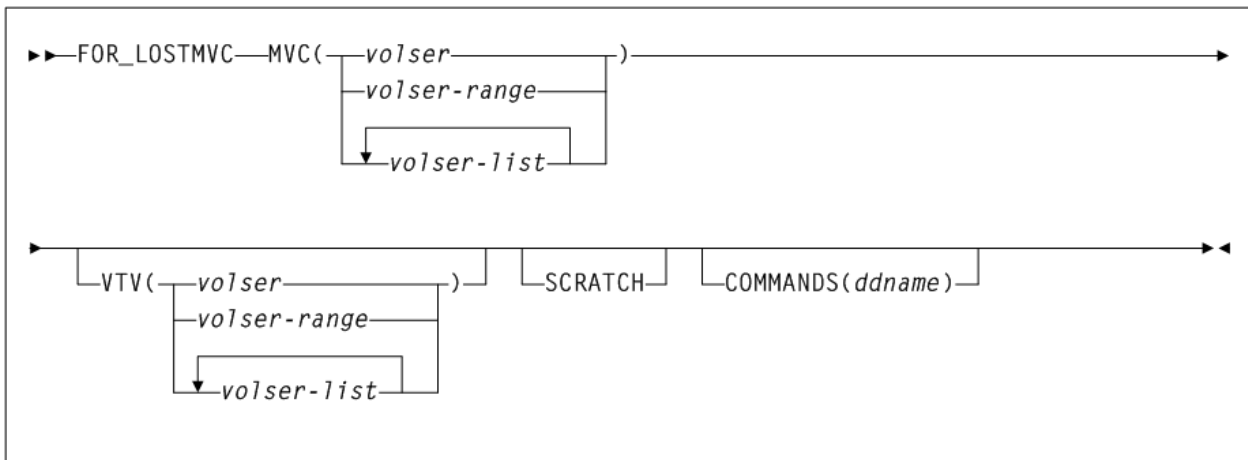
LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文

LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文は、失われた MVC または損傷した MVC に存在していた VTV を回復します。

構文

図3.97 「LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文」は LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文を示しています。

図3.97 LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文



パラメータ

図3.97 「LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文の構文」に示すように、LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文には次のパラメータが含まれます。

MVC(volser、volser-range、または volser-list)

回復する MVC を指定します。最大 1000 個の MVC を指定できます。

volser、volser-range、または volser-list は、処理する volser、volser の範囲、または volser のリストを示します。

VTV(volser、volser-range、または volser-list)

オプションで、回復する特定の VTV を指定します。最大 300,000 個の MVC の指定できます。

指定する VTV は処理する 1 つ以上の回復 MVC に存在している必要があります。このパラメータを指定した場合は、指定された VTV のみが回復されます (回復 MVC に存在している場合)。

volser、*volser-range*、または *volser-list* は、処理する *volser*、*volser* の範囲、または *volser* のリストを示します。

このパラメータはフィルタとして動作します。指定された MVC がない VTV が指定された場合、それらは回復されず、レポート出力に表示されません。

SCRATCH

オプションで、スクラッチ VTV を指定することを指定します。デフォルトでは、スクラッチ VTV は回復の一部として処理されません。

COMMANDS(ddname)

オプションで、LOGUTIL コマンドに COMMANDS パラメータを指定する場合は、作成される回復コマンドを含むデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

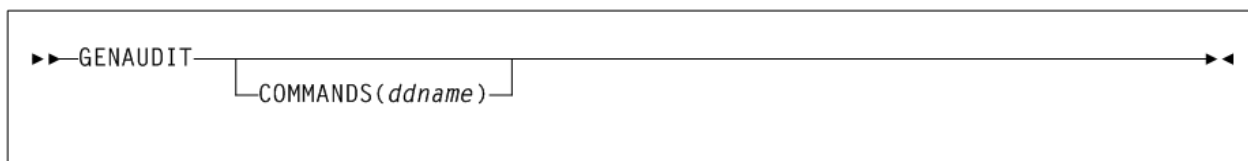
LOGUTIL GENAUDIT 文

LOGUTIL GENAUDIT 文は、LOGUTIL コマンドに COMMANDS パラメータを指定した場合に生成される MVCAUDIT 文を使用して CDS から VSM への再同期を開始します。LOGUTIL GENAUDIT 文は MVCAUDIT に入力する MVC を識別します。

構文

図3.98 「LOGUTIL GENAUDIT 文の構文」は LOGUTIL GENAUDIT 制御文の構文を示しています。

図3.98 LOGUTIL GENAUDIT 文の構文



パラメータ

図3.98 「LOGUTIL GENAUDIT 文の構文」に示すように、LOGUTIL GENAUDIT 文には次のパラメータが含まれます。

COMMANDS(ddname)

オプションで、LOGUTIL コマンドに COMMANDS パラメータを指定する場合は、作成される回復コマンドを含むデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

GENAUDIT COMMANDS パラメータを *LOGUTIL COMMANDS* パラメータとともに指定した場合、次のように機能します。

- *LOGUTIL COMMANDS* を指定した場合、*GENAUDIT COMMANDS* を指定しない場合でも、*GENAUDIT* 文は回復コマンドを指定されたデータセットに出力します。
- *LOGUTIL* および *GENAUDIT* の両方に *COMMANDS* を指定した場合、回復コマンドは *GENAUDIT COMMANDS* のデータセットにのみ出力されます。

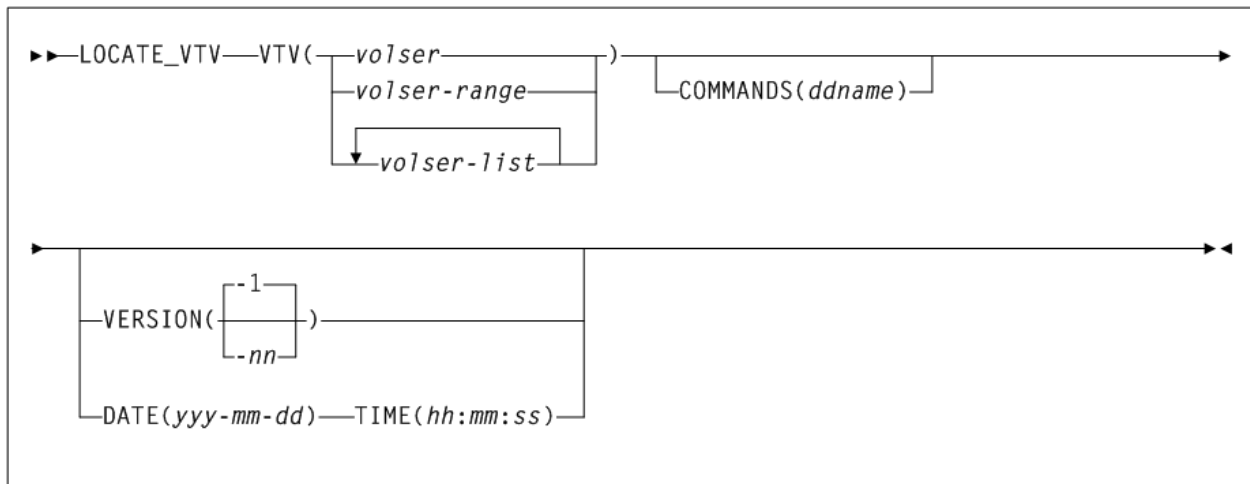
LOGUTIL LOCATE_VTV 文

LOGUTIL LOCATE_VTV 文は最新ではないバージョンの VTV を回復します。

構文

図3.99 「LOGUTIL LOCATE_VTV 文の構文」は *LOGUTIL LOCATE_VTV* 制御文の構文を示しています。

図3.99 LOGUTIL LOCATE_VTV 文の構文



パラメータ

図3.99 「LOGUTIL LOCATE_VTV 文の構文」に示すように、*LOGUTIL LOCATE_VTV* 制御文には次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、volser-range、または volser-list)

回復する特定の VTV を指定します。最大 1000 個の VTV を指定できます。

volser、*volser-range*、または *volser-list* は、処理する *volser*、*volser* の範囲、または *volser* のリストを示します。

COMMANDS(ddname)

オプションで、*LOGUTIL* コマンドに *COMMANDS* パラメータを指定する場合は、作成される回復コマンドを含むデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

LOCATE_VTV COMMANDS パラメータを *LOGUTIL COMMANDS* パラメータとともに指定した場合、次のように機能します。

- *LOGUTIL COMMANDS* を指定した場合、*LOCATE_VTV COMMANDS* を指定しない場合でも、*LOCATE_VTV* 文は回復コマンドを指定されたデータセットに出力します。
- *LOGUTIL* および *LOCATE_VTV* の両方に *COMMANDS* を指定した場合、回復コマンドは *LOCATE_VTV COMMANDS* のデータセットにのみ出力されます。

VERSION(-nn)

オプションで、回復する VTV のバージョンを指定します。

-nn はバージョンを示します。有効な値は -1 から -99 です。デフォルトは現在のバージョンよりも 1 バージョン古い *VERSION(-1)* です。

注:

VERSION は *DATE* パラメータおよび *TIME* パラメータと相互に排他的です。

DATE(yyyy-mm-dd)

オプションで、回復する VTV バージョンの日付を指定します。*DATE* を指定する場合は、*TIME* も指定する必要があります。

yyyy-mm-dd は年、月、および日によって日付を示します。

TIME(hh:mm:ss)

オプションで、回復する VTV バージョンの時間を指定します。*TIME* を指定する場合は、*DATE* も指定する必要があります。

hh:mm:ss は時間、分、および秒で時間を示します。

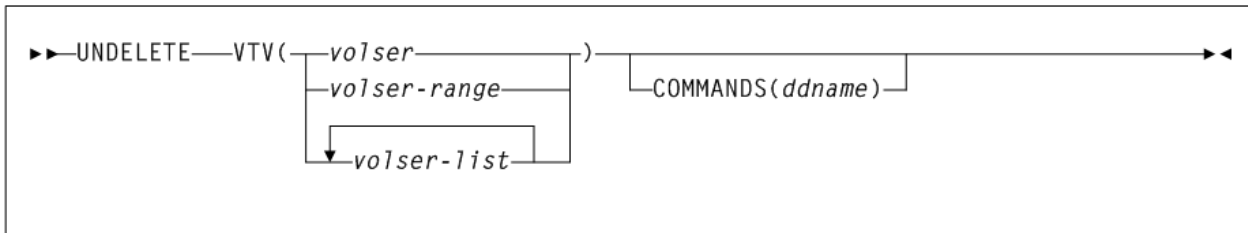
LOGUTIL UNDELETE 文

LOGUTIL UNDELETE 文は削除された VTV を回復します。

構文

図3.100 「*LOGUTIL UNDELETE* 文の構文」は *LOGUTIL UNDELETE* 制御文の構文を示しています。

図3.100 LOGUTIL UNDELETE 文の構文



パラメータ

図3.100「LOGUTIL UNDELETE 文の構文」に示すように、LOGUTIL UNDELETE 制御文には次のパラメータが含まれます。

VTV(volser、volser-range、または volser-list)

回復する VTV を指定します。最大 1000 個の VTV を指定できます。

volser、volser-range、または volser-list は、処理する volser、volser の範囲、または volser のリストを示します。

COMMANDS(ddname)

オプションで、LOGUTIL コマンドに COMMANDS パラメータを指定する場合は、作成される回復コマンドを含むデータセットの DD 名を指定します。

ddname は DD 名を示します。

UNDELETE COMMANDS パラメータを LOGUTIL COMMANDS パラメータとともに指定した場合、次のように機能します。

- LOGUTIL COMMANDS を指定した場合、UNDELETE COMMANDS を指定しない場合でも、UNDELETE 文は回復コマンドを指定されたデータセットに出力します。
- LOGUTIL および UNDELETE の両方に COMMANDS を指定した場合、回復コマンドは UNDELETE COMMANDS のデータセットにのみ出力されます。

MEDVERfy

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

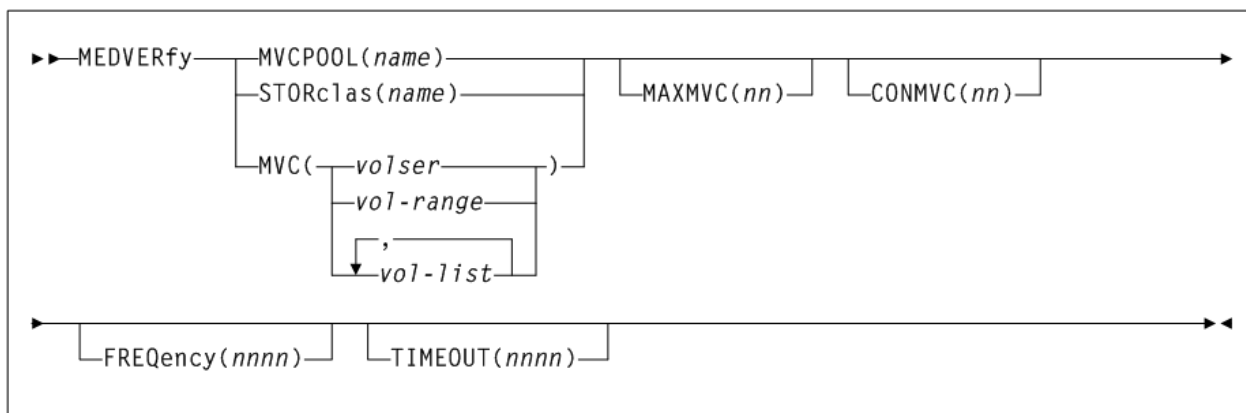
MEDVERfy ユーティリティーは、MVC または VMVC (ELS 7.1 および VLE 1.2 以上のみ) の VTV データが読み取り可能であることを検証することによって、メディア検証 (MV) を実行します。VLE では MEDVERfy により、複製解除された VMVC を「元に戻す」(再構築する) ことができることを確認します。

このユーティリティーは MVC に関する検証の合格または不合格をレポートし、XML 出力も生成します。

構文

図3.101 「MEDVERfy コマンドの構文」は MEDVERfy コマンドの構文を示しています。

図3.101 MEDVERfy コマンドの構文



パラメータ

次の3つの相互に排他的なキーワードパラメータは、検証する MVC を識別します。

MVCPOOL(name)

オプションで、データ検証を必要とする MVC が含まれている MVCPOOL を指定します。未定義の MVCPOOL 値を指定すると、RC 8 でユーティリティーが終了します。

name は MVC プール名を示します。

STORclas(name)

オプションで、データ検証を必要とする MVC のストレージクラスを指定します。最後の検証の時間およびコマンドに指定された頻度に基づいて、ユーティリティーは検証処理に最適な MVC の候補を選択します。

未定義の *STORclas* 値を指定すると、RC 8 でユーティリティーが終了します。

name はストレージクラス名を示します。

MVC(*volser*、*vol-range*、または *vol-list*)

オプションで、検証する MVC のリストまたは範囲を指定します。*volser* が CDS に定義された *volser* ではない個別の MVC の場合、ユーティリティーは RC 8 で終了します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は *volser*、*volser* の範囲、または *volser* のリストを示します。

注:

最後の検証の時間およびコマンドに指定された頻度に基づいて、ユーティリティーは指定された選択条件内で検証処理に最適な MVC の候補を選択します。

MAXMVC(*nn*)

オプションで、単一のメディア検証タスクによって処理される MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1–99 です。指定しない場合、デフォルトは 99 です。

CONMVC(*nn*)

オプションで、VTCS がメディア検証を並列処理する MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1–99 です。指定しない場合、デフォルトは 1 です。

FREQency(*nnnn*)

オプションで、MVC が検証される検証スケジューリング間隔 (日単位) を設定します。検証のために選択されるには、MVC の最後の検証日からの日数が指定された日数よりも大きい必要があります。

nnnn は間隔 (日単位) を示します。有効な値は 1–9999 です。デフォルトはありません。指定しない場合は、検証する MVC を選択するために、MVC の最後の検証日のみを使用されます。

TIMEOUT(*nnnn*)

オプションで、メディア検証ユーティリティーの実行の許容時間を分単位で指定します。

nnnn は許容される時間 (分単位) を示します。有効な値は 1–9999 です。デフォルトはありません。*TIMEOUT* を指定しない場合、ユーティリティーの実行時間に制限はありません。

注:

RECLAIM 処理と同様に、*TIMEOUT* 値に達したときに MVC が処理されていた場合、*MEDVERIFY* はそれらの MVC の処理を完了させてから停止します。

MEDVERIFY レポート

次の図は、MVC *DMV100* が正常に検証されたことを示すメディア検証レポートの例を示しています。

例3.47 MEDVERIFY レポート (1/2)

```
Media Verify - -----Media Verify request 6-----
Media Verify - 1 MVC(s) selected for processing
MVC DMV100 - verifying media
MVC DMV100 - verify complete
No exceptions to report

SLS0155I Condition code for utility function is 0
```

このレポートは、特定の状況で MV 処理のために選択されていない MVC も一覧表示します。たとえば、次のレポートでは、MVC *DMV800* は検証の選択中にマウントされたためスキップされています。

例3.48 MEDVERIFY レポート (2/2)

```
MEDVER MVC(DMV100,DMV800) CONMVC(1) TIMEOUT(180)

MVC DMV800 skipped, is mounted

Media Verify - -----Media Verify request 21-----
Media Verify - 1 MVC(s) selected for processing
MVC DMV100 - verifying media
MVC DMV100 - verify complete
No exceptions to report

No exceptions to report
SLS0155I Condition code for utility function is 0
```

MERGEcds**インタフェース:**

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE サービスレベルのアクティブな HSC のみ

説明

MERGEcds コマンドは次の操作を行うために使用します。

- 新しい ACS または LSM を反映させるために、構成を追加または変更します。
- 複数の CDS を 1 つの CDS に統合します。
- 1 つの CDS を複数の CDS に分割します。 *MERGEcds* は古い CDS から新しい CDS にそれぞれボリューム情報をコピーします。
- 複数の ACS を 1 つの ACS にマージします。
- 1 つの ACS を複数の ACS に分割します。
- ACS および LSM の番号を付け替えるために ACSid または LSMid を変更します。
- VTSS 名を変更します。
- CDS から仮想データまたはボルトデータを削除します。
- ボルトされたボリュームのために予約されているスロット数を変更します。

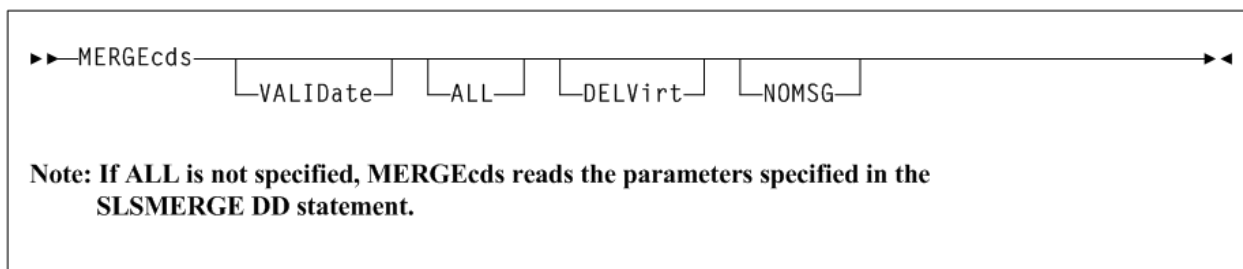
注:

MERGEcds を使用する前に、このユーティリティーを実行するために使用する詳細な手順を確認するには、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。

構文

図3.102 「*MERGEcds* コマンドの構文」は *MERGEcds* コマンドの構文を示しています。

図3.102 *MERGEcds* コマンドの構文



パラメータ

図3.102 「*MERGEcds* コマンドの構文」に示すように、*MERGEcds* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VALIDate

オプションで、再構成またはマージする構成に互換性があることのみを検証し、操作を実行しないように指定します。*MERGEcds VALIDate* は、重複しているか、移行中であるか、問題のあるボリュームを報告します。

ALL

オプションで、すべての ACS および VTSS のボリューム情報を「マージ元」の CDS から「マージ先」の CDS にコピーするように指定します。CDS を拡張形式に変換するために、*ALL* パラメータを指定することもできます。

- CDS のマージの場合は、ACS ID、LSM ID、および VTSS 名が一致している必要があります。
- VTCS を使用している場合、ソース (入力) CDS にあるがターゲット (出力) CDS に構成されていない MVC は、空である必要があります。MVC は、最新の VTV を含んでおらず、以前に使用されたことがありドレインされた場合は空であるとみなされます。

注:

ALL と *SLSMERGE DD* は相互に排他的です。*ALL* を指定しない場合、*MERGEcds* は *SLSMERGE* 制御文に指定されたパラメータを読み取ります。これらのパラメータは、ボリューム情報をマージまたは再構成する ACS、LSM、VTSS、およびボルトを指定します。詳細は、「[SLSMERGE 制御文](#)」を参照してください。

DELVirt

オプションで、次の両方の条件が当てはまる場合は、VTV および MVC のボリューム情報を「マージ先」の CDS にコピーしないことを指定します。

- 「マージ元」の CDS で定義されている VTV および MVC が、初期化されていないか空である。

空の VTV は VTSS 常駐ではなく、最新の MVC のコピーはありません。空の MVC には最新の VTV は含まれておらず、割り当てられている *STORCLAS* がありません。MVC レポートまたは *Q MVC* の表示で *%USED* が *0%* および *%AVAIL* が *100%* の場合、MVC は空です。

プールから MVC を削除する手順については、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

- 「元」の CDS の初期化されていないか空である VTV および MVC が、「先」の CDS に定義されていない。つまり、重複した *volser* が存在していません。

ALLVIRT が *SLSMERGE* 制御文に指定されていない場合、*DELVirt* に効果はありません。

NOMSG

オプションで、「マージ先」の CDS にコピーされなかった MVC または VTV の volser が表示されるメッセージ *SLS4245I* を抑制します。

DELVirt が *MERGECDs* 制御文に指定されていて、*ALLVIRT* が *SLSMERGE* 制御文に指定されている場合を除き、*NOMSG* に効果はありません。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必須の JCL 定義文に加え、*MERGEcds* JCL には次の定義文が適用されます。

SLSFCNTL

「マージ元」の HSC CDS の現在のプライマリコピーを指定します。

SLSFCTL2

CDS のセカンダリコピーを指定します (定義されている場合)。

SLSFSTBY

オプションで、CDS のスタンバイコピーを指定します (定義されている場合)。

注:

これらの文が複数ある場合、HSC は「マージ元」の CDS のデータベースハートビート (DHB) レコードからプライマリ CDS を判別します。「マージ元」の CDS は変更されません。単一の CDS (*SLSFCNTL*) を指定する場合は、それがプライマリ CDS であることを確認します。DHB 検証は行われません。

SLSMERGE 制御文

SLSMERGE 制御文は、マージに使用する「マージ元」および「マージ先」の ACS、LSM、またはボールドを指定し、「**Resident VTSS**」フィールドの VTSS を名前変更できます。

注:

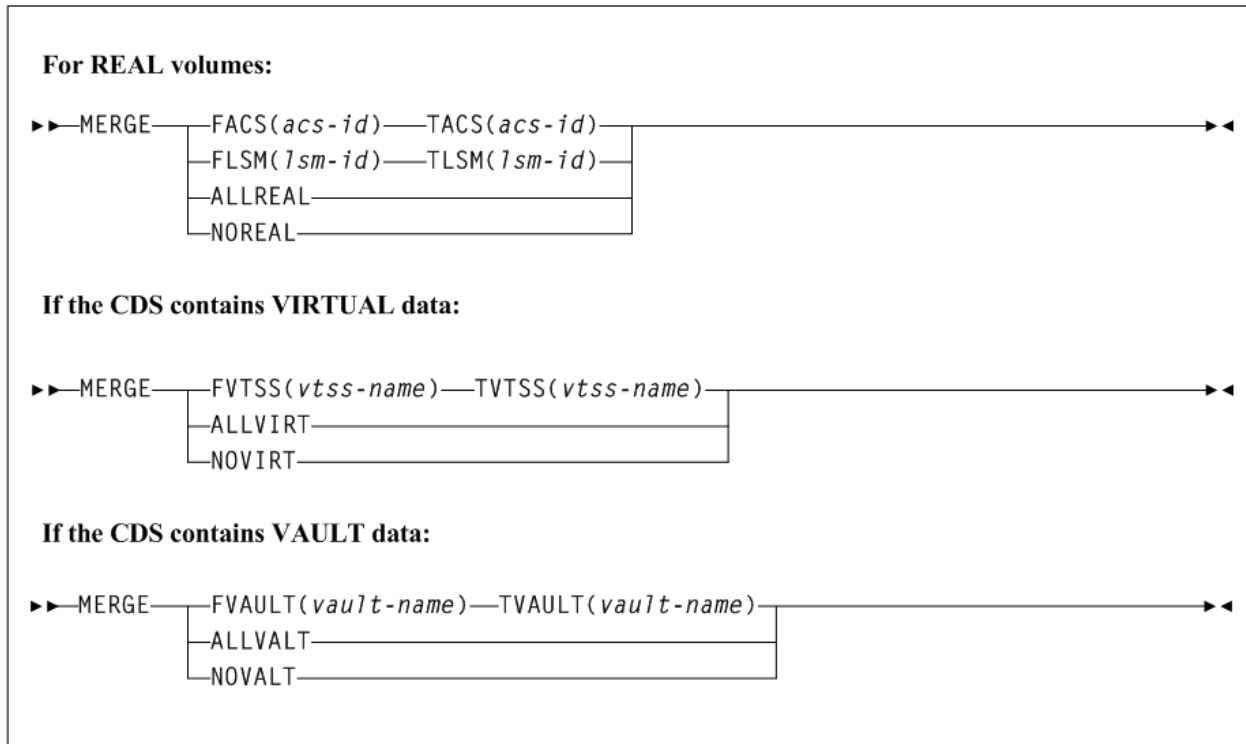
- *SLSMERGE* 制御文はオプションであり、*MERGEcds ALL* パラメータと相互に排他的です。
- *SLSMERGE* 制御文を使用する場合は、「マージ元」の CDS のすべてのデータを対象とする *MERGE* 文を含める必要があります。

たとえば、「マージ元」の CDS に実データ、仮想データ、およびボールドデータが含まれている場合は、これらの各タイプに制御カードを指定して、「マージ先」の CDS にコピーするかどうかを指定する必要があります。特定のタイプのデータを「マージ先」の CDS にコピーしない場合は、適切な *NO* パラメータ (*NOREAL*、*NOVIRT*、または *NOVALT*) を発行してそれを除外します。

構文

図3.103 「SLSMERGE 制御文の構文」は *SLSMERGE* 制御文の構文を示しています。

図3.103 SLSMERGE 制御文の構文



パラメータ

図3.103 「SLSMERGE 制御文の構文」に示されているように、*SLSMERGE* 制御文には次のパラメータがあります。

注意:

「実」パラメータ (*FACS*、*TACS*、*FLSM*、*TLSM*) および「ボールド」パラメータ (*FVAULT*、*TVVAULT*) は選択条件として機能しますが、「仮想」パラメータ (*FVTSS*、*TVTSS*) は名前変更条件としてのみ機能します。

パラメータ (実ボリューム)

実ボリュームの場合は、次のパラメータが適用されます。

FACS(*acs-id*)

「マージ元」の ACS を指定します。

TACS(*acs-id*)

「マージ先」の ACS を指定します。

FLSM(*lsm-id*)

「マージ元」の LSM を指定します。

TLSM(*lsm-id*)

「マージ先」の LSM を指定します。

ALLREAL

すべての実データのみをマージします。

NOREAL

実データをマージしません。

パラメータ (仮想データを含む CDS)

CDS に仮想データが含まれている場合は、次のパラメータが適用されます。

FVTSS(*vtss-name*)

「マージ元」の VTSS 名を指定します。

TVTSS(*vtss-name*)

「マージ先」の VTSS 名を指定します。

CDS から特定の VTSS のデータを削除するために *MERGEcds* を使用することはできません。

FVTSS および *TVTSS* は名前変更の条件としてのみ機能します。これらのパラメータを指定した場合は、*ALLVIRT* が暗黙的に指定されます。

例:

```
MERGE FVTSS(VTSS18) TVTSS(VTSS17)
```

この例では、すべての VTV レコードが新しい CDS にコピーされますが、「Resident VTSS」フィールドが *VTSS18* から *VTSS17* に変更されます。これらの文に指定されていないすべての VTSS は、新しい CDS の同じ名前の VTSS に自動的にマージされます。

ALLVIRT

すべての仮想データのみをマージします。

NOVIRT

仮想データをマージしません。

パラメータ (ボルトデータを含む CDS)

CDS に *VAULT* データが含まれている場合は、次のパラメータが適用されます。

FVAULT(vault-name)

「マージ元」のボールドを指定します。

TVALT(vault-name)

「マージ先」のボールドを指定します。

ALLVALT

すべてのボールドデータのみをマージします。

NOVALT

ボールドデータをマージしません。

MERGMFST

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

MERGMFST コマンドは、*EXPORT* によって生成された複数のマニフェストファイルを単一のファイルにマージします。

構文

図3.104 「*MERGMFST* コマンドの構文」は *MERGMFST* コマンドの構文を示しています。

図3.104 *MERGMFST* コマンドの構文

```
▶▶MERGMFST—MERGEIN(manifin)—MERGEOUT(manifout)————▶▶
```

パラメータ

図3.104 「*MERGMFST* コマンドの構文」に示されているように、*MERGMFST* コマンドには次のパラメータがあります。

MERGEIN(*manifin*)

1 つ以上の入力マニフェストファイルの DD 文を指定します。

manifin は DD 名を示します。

MERGEOUT(*manifout*)

マージされたマニフェストファイルの DD 文を指定します。

manifout は DD 名を示します。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必要な JCL 定義文に加えて、次の定義ステートメントが *MERGMFST* の JCL に適用されます。

***manifin* DD**

入力マニフェストファイルの DD 文。

***manifout* DD**

マージされたマニフェストファイルの DD 文。

METAdata

インタフェース:

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

METAdata コマンドは XML 出力を生成する機能に関連付けられている XML タグを表示します。

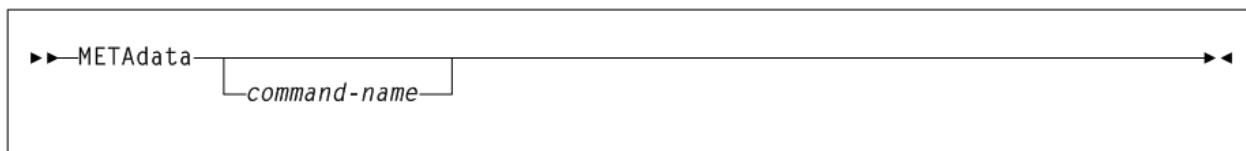
注:

METAdata コマンドはテキストの出力を生成しません。XML または CSV の出力が要求されていない場合、このコマンドは出力を生成しません。

構文

[図3.105 「METAdata コマンドの構文」](#) は *METAdata* コマンドの構文を示しています。

図3.105 METAdata コマンドの構文



パラメータ

図3.105 「METAdata コマンドの構文」に示されているように、METAdata コマンドには次のパラメータがあります。

command-name

メタデータを生成するコマンド。

コマンドに「2つの部分」が含まれている (*Display Volume* など) 場合は、両方の部分を入力してください。METAdata コマンドでは、コマンド自体と同じ省略形が *command-name* に使用されます。次に例を示します。

METAdata D V

生成されるタグ

METAdata コマンド自体はメタデータをサポートしていません。

次のタグが METAdata コマンドによって生成されます。

<command_name>

コマンドのフルネーム。

<security_level>

必要なセキュリティーレベル (コマンドの承認が有効な場合)。値は *QUERY*、*SET*、および *ADMIN* です。

<command_tags>

すべての XML タグのヘッダータグ。

次のタグが METAdata コマンドによって生成されます。

<tag_data>

各 XML タグのヘッダータグ。

<tag_name>

XML タグ名 (たとえば、*volser*)。

<tag_type>

値は、ヘッダー (ヘッダー XML タグ)、データ (XML データタグ。通常は値に関連付けられます)、およびトレーラ (ヘッダータグに関連付けられているトレーラタグの位置を示します) です。

<occurrences>

複数回発生する可能性があるタグの予想される最大発生数。これは数値または「unlimited」です。

次のタグが *METADATA* コマンドによって生成されます。

<data_type>

タグ値に予期されるデータのタイプを示します。データタグの場合にのみ生成されます。値は *char*、*numeric*、*flag*、*hex*、*date*、*time* などです。

<maximum_size>

出力データの最大サイズを示します。

MGMTDEF

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

MGMTDEF コマンドは、指定された定義データセットから次の制御文をロードします。

- *MGMTclas*
- *MIGRSEL*
- *MIGRVTV*
- *MVCATTR*
- *STORclas*
- *STORLST*
- *STORSEL*
- *VTSSLST*
- *VTSSSEL*

注:

HSC/VTCS がアクティブで、*MGMTclas* 制御文をリロードするために *MGMTDEF* コマンドが発行された場合、「変更された」制御文は新しく作成された VTV にのみ影響します。既存の VTV に変更を適用するには、追加のアクションが必要となります。

構文

図3.106 「MGMTDEF コマンドの構文」は *MGMTDEF* コマンドの構文を示しています。

図3.106 MGMTDEF コマンドの構文

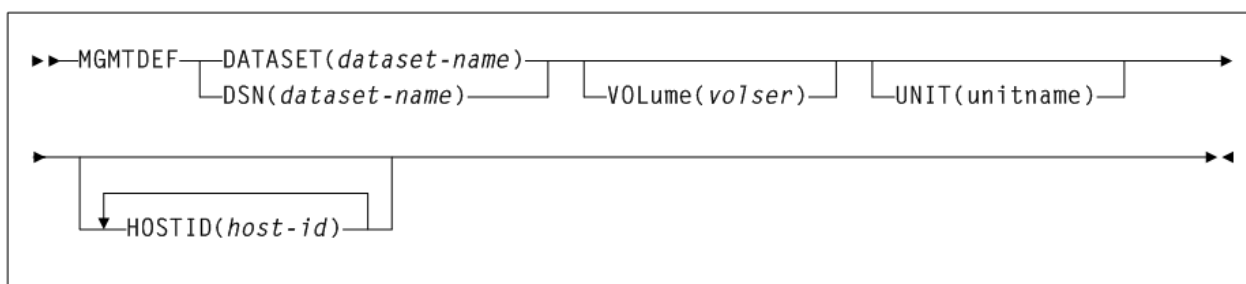
**パラメータ**

図3.106 「MGMTDEF コマンドの構文」に示されているように、*MGMTDEF* コマンドには次のパラメータがあります。

DATASET(dataset-name) または DSN(dataset-name)

ロードする *MGMTclas* 文および *STORclas* 文が含まれている定義データセットを指定します。

dataset-name はデータセット名を示します。

VOLume(volser)

オプションで、定義データセットが存在している DASD ボリュームを指定します。データセットがカタログされていない場合、またはデータセットがカタログによって示されているボリューム以外のボリュームにある場合を除き、このパラメータはオプションです。

volser は DASD の *volser* を示します。

UNIT(unitname)

オプションで、定義データセットが存在している DASD デバイスを指定します。

unitname は DASD のユニット名を示します。定義データセットがカタログされておらず、このパラメータを省略した場合、ユニット名は *SYSALLDA* にデフォルト設定されます。

HOSTID(*host-id*)

オプションで、*MGMTDEF* コマンドを実行するホストを指定します。このパラメータは、*PARMLIB* 制御文として *MGMTDEF* が指定された場合にのみ有効です。

host-id は *MGMTDEF* コマンドを実行する 1 つ以上のホストの名前を示します。複数のホストはコンマで区切る必要があります。

MGMTclas 制御文

MGMTclas 制御文は VSM 管理クラスを定義します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

注:

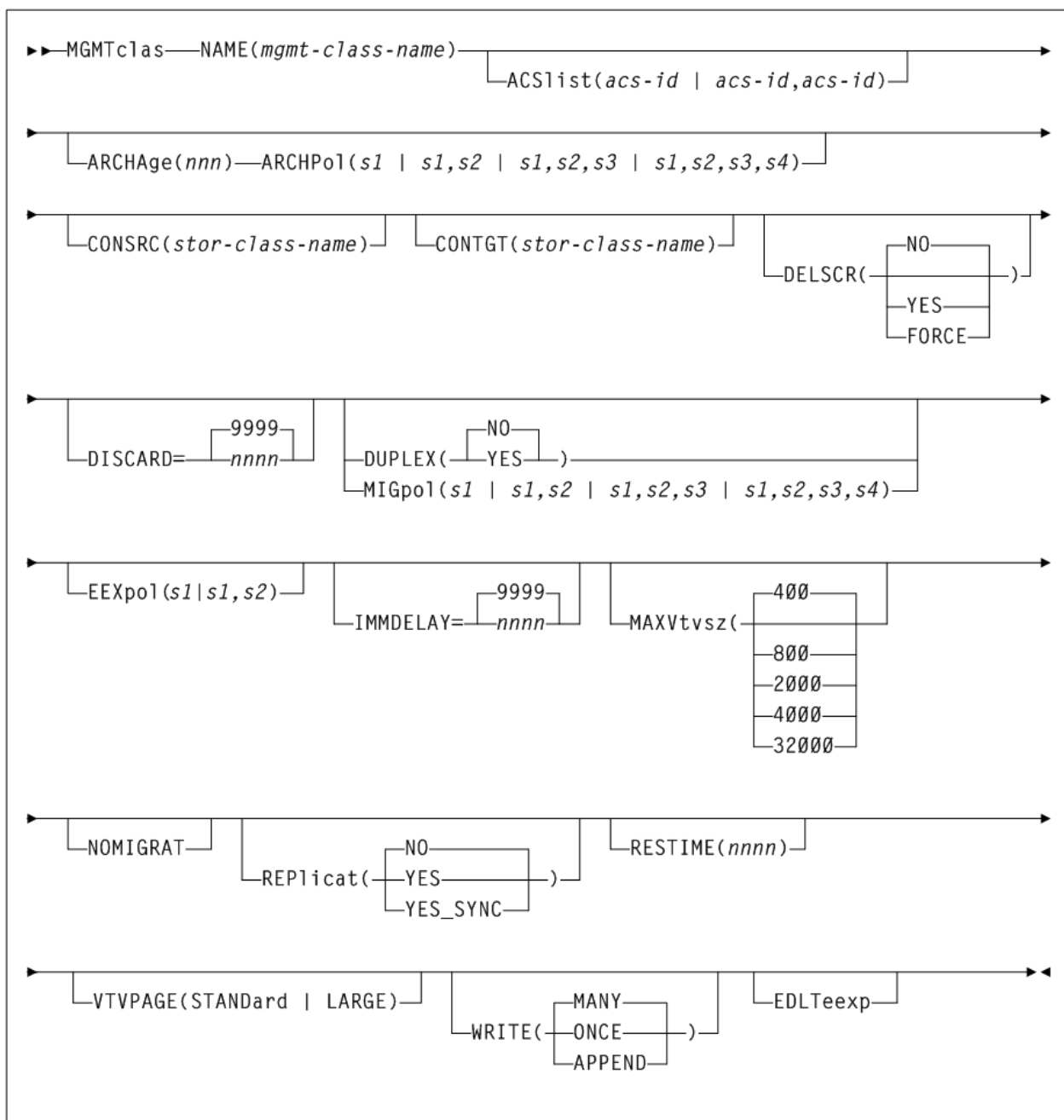
- デフォルトでは、拡張 VSM 管理機能が自動的に有効になります。これらの機能を有効にするために以前の ELS リリースに含まれていた *FEATures* コマンドは有効ではなくなりました。
- ELS には移行の制御を向上させるように設計されたパラメータが含まれています。これらの機能を使用しない場合、既存のレガシー *MGMTclas* パラメータについては、Oracle の ELS の出版物であるレガシーインタフェースリファレンスを参照してください。
- HSC/VTCS がアクティブで、*MGMTclas* 制御文をリロードするために *MGMTDEF* コマンドが発行された場合、「変更された」制御文は新しく作成された VTV にのみ影響します。既存の VTV に変更を適用するには、追加のアクションが必要となります。

たとえば、*IMMDELAY* 値を変更する場合、既存の VTV に変更を適用するには、HSC をリサイクルする必要があります。*MIGpol* 値を 1 つのストレージクラスから 2 つに変更した場合、2 番目の移行されたコピーが作成されるようにするには、VTV をリコールする必要があります。

構文

図3.107 「*MGMTclas* 制御文の構文」は *MGMTclas* 制御文の構文を示しています。

図3.107 MGMTclas 制御文の構文



パラメータ

図3.107 「MGMTclas 制御文の構文」に示されているように、MGMTclas コマンドには次のパラメータがあります。

NAME(*mgmt-class-name*)

管理クラスの名前を指定します。

mgmt-class-name は管理クラス名を示します。この名前は、英字で始まる 1-8 文字の英数字である必要があり、SMS の命名規則に従っている必要があります。

ACSlist(*acs-id* または *acs-id,acs-id*)

オプションで、RTD および MVC が選択される ACS を指定します。指定しない場合、デフォルトは *CONFIG DEFLTACS* パラメータに指定されている ACS です。

DUplex パラメータおよび *ACSlist* パラメータの使用方法については、以下の *DUplex* を参照してください。

acs-id または *acs-id,acs-id* は 1 つまたは 2 つの ACS ID を示します。ACSid は 10 進数の 2 桁の ACS 識別子です (00 - 99)。

ARCHAge(*nnn*)

オプションで、*ARCHPol* によって指定されたとおりにアーカイブされる前の VTV の経過期間 (日単位) を指定します。*ARCHAge* を指定する場合は、*ARCHPol* を指定する必要があります。

このパラメータはオプションであり、デフォルト値はありません。有効な値は 1 - 999 です。

nnn は VTV の経過期間 (日単位) を示します。

ARCHPol(*stor-class-name* または *stor-class-list*)

オプションで、アーカイブ MVC の ACS およびメディアタイプを指定する最大 4 つのストレージクラスを指定します。指定した場合は次のような動作になります。

- 1 つのストレージクラスを指定した場合、VTCS は VTV の 1 つのコピーをアーカイブします。
- 複数のストレージクラス (別々の ACS 値、別々の MEDIA 値、またはその両方を持つ) を指定した場合、VTCS は別々の ACS の別々の MVC に VTV の複数のコピーをアーカイブします。
- 同じ ACS 値および MEDIA 値を持つ複数のストレージクラスを指定した場合、VTCS は同じ ACS およびメディアタイプだが別々の MVC に VTV の複数のコピーをアーカイブします。

注:

ARCHPo1 に複数のストレージクラスを指定すると、VTV のリコール、MVC の領域リクレイム、および VTV の統合の動作にも影響します。

このパラメータはオプションであり、デフォルト値はありません。*ARCHPo1* を指定する場合は、*ARCHage* を指定する必要があります。

stor-class-name1...stor-class-namen は *STORclas* 制御文で定義した 1 つ以上のストレージクラスの名前を示します。コピーが 2 つより多い場合は、*CONFIG* 文に *CDSLEVEL(V6ABOVE)* または *CDSLEVEL(V6ABOVE)* を指定する必要があります。

CONSRC(*stor-class-name*)

オプションで、複数の MVC の場所またはメディアタイプに移行およびコピーされる VTV の統合のためのソース MVC ACS およびメディアの優先順位を指定するストレージクラスを指定します。指定されたストレージクラスの MVC が使用できず、指定されたストレージクラスが (移行ポリシーで指定された順序の) 最後ではない場合、VTCS は最後のストレージクラスに関連付けられている MVC を使用します。指定されたストレージクラスの MVC が使用できず、指定されたストレージクラスが (*MIGpo1* パラメータに指定された順序の) 最後である場合、VTCS は (*MIGpo1* パラメータに指定された順序の) 前のストレージクラスに関連付けられている MVC を使用します。

stor-class-name は *STORclas* 制御文で定義したストレージクラスの名前を示します。

CONTGT(*stor-class-name*)

オプションで、VTV の統合 (*CONSOLID*、*EXPORT VTV*、または *EXPORT MGMTclas* を実行します) のための出力 MVC ACS およびメディアを判別するストレージクラスを指定します。メディアの優先順位は、ストレージクラスに指定されているメディアタイプのリストと逆の順序です。

このパラメータはオプションであり、デフォルト値はありません。*CONTGT* の値を指定しない場合、VTCS は次のように出力 MVC を選択します。

- 単一 ACS およびデュアル ACS 構成の場合は、VTV 統合のメディア選択順序。
- 複数の ACS システムの場合、VTCS は *CONFIG DEFLTACS* パラメータによって指定されているデフォルトの ACS から MVC を選択します。

stor-class-name は *STORclas* 制御文で定義したストレージクラスの名前を示します。

DELSCR

オプションで、VSM がスクラッチされた VTV を削除するかどうかを指定します。

NO

スクラッチされた VTV を削除しません (デフォルト)。

YES

使用できないリソースによる処理の遅延が発生しないかぎり、スクラッチされた VTV を削除します。

FORCE

スクラッチされた VTV を削除し、必要なリソースにアクセスするために待機します。これにより、処理の遅延が発生することがあります。

注意:

DELSCR YES 属性を指定して VTV をスクラッチすると、VSM はスクラッチ同期時に VTV のデータを消去し、それにより、データを回復するために VTV を「unscratch」する機能が使用できなくなります。

HSC を使用してスクラッチ同期を実行する場合、スクラッチ同期実行の最初に TMC でスクラッチであったボリューム、および以前のスクラッチ更新実行の CDS のスクラッチ (このため、CDS でスクラッチにするための HSC のリストにある) が、スクラッチ更新実行中にジョブによってアクセスされ、TMC の TMS に書き込まれて非スクラッチにされることがあります。この場合は、スクラッチするために最初に抽出されたボリュームのリストにボリュームがあったため、HSC がボリュームを引き続きスクラッチできます。このため、HSC スクラッチ同期中にスクラッチを使用するジョブを実行しないことを強くお勧めします。

スクラッチ変換ユーティリティ (*SLUCONDB*) を使用した HSC のスクラッチ同期の詳細は、「[スクラッチ変換ユーティリティ \(SLUCONDB\)](#)」を参照してください。

SYNCVTV 関数を使用した LCM のスクラッチ同期の詳細は、*LCM* ユーザーズガイドを参照してください。

DISCARD(nnnn)

オプションで、破棄するまでの時間 (時間単位) を指定します。この値は VTV がマウント解除されたあとに、VTV がバッファに維持される時間を表します。この時間値の期限が切れると、その VTV の必要なすべてのコピーが MVC に存在している場合、その VTV は VTSS バッファから優先的に削除されます。

nnnn は時間 (時間単位) を示します。有効な値は 0 - 9999 です。デフォルトは 9999 です。

IMMEDmig を指定した場合、*DISCARD* は即時移行処理に使用されません。これは *AUTO* 移行要求の場合にのみ適用できます。VTV に *RESTIME* も指定されている場合は、それによって *DISCARD* 値がオーバーライドされます。

DUplex

オプションで、VSM が VTV の 2 つのコピーを 2 つの MVC に移行するかどうかを指定します。*DUplex* と *MIGpol* は相互に排他的です。

NO

VTV を二重化しません (デフォルト)。

YES

VTV を二重化します。

次の表は、*DUplex* パラメータおよび *ACslist* パラメータを使用する考えられるシナリオを示しています。

表3.7 MGMTclas の ACslist/DUplex のシナリオ

DUplex の設定	ACslist の設定	アクション
YES	2 つの ACS	VSM は VTV を 2 つの MVC に移行します (各 ACS に 1 つ)。(このシナリオは 2 つの ACS に二重化するための通常のシナリオです。)
YES	1 つの ACS	VSM は指定された ACS の 2 つの MVC に VTV を移行します。
NO	2 つの ACS	VSM は <i>DUplex</i> ポリシーを無視して、VTV を 2 つの MVC に移行します (各 ACS に 1 つ)。
NO	1 つの ACS	VSM は指定された ACS の 1 つの MVC に VTV を移行します。

MIGpol(s1, s1,s2, s1,s2,s3, または s1,s2,s3,s4)

オプションで、移行 MVC の ACS およびメディアタイプを指定する最大 4 つのストレージクラスを指定します。*DUplex* と *MIGpol* は相互に排他的です。

- 1 つのストレージクラスを指定した場合、VTCS は VTV の 1 つのコピーを移行します。
- 複数のストレージクラス (別々の ACS 値、別々の MEDIA 値、またはその両方を持つ) を指定した場合、VTCS は別々の ACS の別々の MVC に VTV の複数のコピーを作成します。

- 同じ *ACS* 値および *MEDIA* 値を持つ複数のストレージクラスを指定した場合、*VTCS* は同じ *ACS* およびメディアタイプだが別々の *MVC* に *VTV* の複数のコピーを作成します。

注:

MIGpo1 に複数のストレージクラスを指定すると、*VTV* のリコール、*MVC* の領域リクレーム、および *VTV* の統合の機能にも影響します。

このパラメータはオプションであり、デフォルト値はありません。

s1、*s1, s2*、*s1, s2, s3*、または *s1, s2, s3, s4* は、*STORclas* 制御文で定義した最大 4 つのストレージクラスの名前を示します。コピーが 2 つより多い場合は、*CONFIG* 文に *CDSLEVEL (V61ABOVE)* 以上を指定する必要があります。

注:

CONFIG GLOBAL REPLICat パラメータは、*VTV* をいつレプリケートするかを指定します (常に、またはマウントされている間に変更された場合のみ)。

EEXpol(*s1* または *s1,s2*)

オプションで、電子エクスポートするストレージクラスを指定します。

s1 または *s1, s2* は、*TAPEPLEX* パラメータが指定されている最大 2 つのストレージクラスを示します。これらのストレージクラスに *TAPEPLEX* パラメータが指定されていない場合は、エラー状態になります。

- 2 つの *TAPEPLEX* ストレージクラスがある場合、それらには異なる宛先 TapePlex 名が指定されている必要があります。
- *SYNC=YES* パラメータを使用して 2 つの TapePlex ストレージクラスが指定された場合は、警告が生成されます。別の 1 つの TapePlex に同期してエクスポートすることのみが可能です。
- 競合がある場合は、電子エクスポート機能がクラスタを使用するレプリケーションよりも優先されます。
- 参照されるストレージクラスのいずれかに *THISPLEX* 名が含まれている場合、そのストレージクラスは暗黙的に無視されます。これにより、TapePlex 間に共通のストレージクラス定義が適用されます。

IMMDELAY(*nnnn*)

オプションで、即時移行の遅延時間 (移行がアクションのためにキューに入れられる、*VTV* がマウント解除されたあとの時間) を指定します。

これにより、複数ステップのジョブに使用される VTV が、移行のために処理される前に、指定された時間だけ常駐のままになります。

nnnn は即時移行の遅延時間 (分単位) を示します。有効な値は 0 から 9999 (デフォルト) です。

IMMDELAY= 9999 の場合、即時移行は行われません。移行および削除は自動移行またはコマンド移行を通じて処理されます。

この値を指定した場合、*MIGRSEL* および *MIGRVTV* は移行の制御に影響を与えません。

RESTIME および *DISCARD* パラメータ値は、バッファ管理の優先度を表します。

- *IMMDELAY* 値が *RESTIME* 値より小さい場合は、VTSS に VTD を高い優先度で維持します。
- *IMMDELAY* 値が *RESTIME* 値より大きい *DISCARD* 値より小さい場合は、LRU に従ってバッファを管理します (デフォルトの状態)。
- *IMMDELAY* 値が *DISCARD* 値より大きい場合は、高い優先度として VTSS から VTD を削除します。

IMMDELAY パラメータは、Oracle の ELS の出版物である *ELS* レガシーインタフェースリファレンスで説明されている *IMMEDmig* パラメータを置き換えるために設計されています。これらのパラメータは相互に排他的です。次の表は同等の値を示しています。

表3.8 IMMDELAY および IMMEDmig と同等の値

IMMDELAY 値または DISCARD 値	同等な IMMEDmig 値	アクション
<i>IMMDELAY(1-9998)</i>	<i>None</i>	指定された時間 (分) だけ移行を遅延します。
<i>IMMDELAY(9999)</i>	<i>IMMED(NONE)</i>	VSM は VTV をすぐに移行しませんが、標準の VSM 移行条件に従って移行します。 <i>MIGRSEL</i> および <i>MIGRVTV</i> は移行の制御には影響を与えません。
<i>IMMDELAY(0)DISCARD (9999)</i>	<i>IMMED(KEEP)</i>	VSM は VTV をすぐに移行し、VTV が削除の対象になるまで、VTSS にコピーを常駐したままにします。

**IMMDELAY 値または 同等な IMMEDmig アクション
DISCARD 値 値**

IMMDELAY(θ)DISCARD IMMED(DELETE) VSM は VTV をすぐに移行してそれを
(θ) VTSS から削除します。

MAXVtvsz

オプションで、この管理クラスの VTV の最大サイズを指定します。このパラメータの有効な値は、該当する VTSS の CDS レベルとマイクロコードレベルの両方によって異なります。

400

400M バイト。これがデフォルトです。

800

800M バイト。CDS は E レベル以上である必要があります。

2000

2G バイト。CDS は G レベル以上である必要があります。

4000

4G バイト。CDS は G レベル以上である必要があります。

考慮事項:

- VTV のサイズは、スクラッチサイクルを実行したあとにのみ変更されます。そのため、管理クラスと *DISP=MOD* を変更しても、引き続き元のサイズが保持されます。
- 構成によってサポートされていない VTV サイズを指定した場合、VTCS は警告メッセージを発行し、*MAXVtvsz* はデフォルトで、構成によってサポートされる最大の VTV サイズになります。
- *MAXVtvsz* は、VSM2 には適用されません。
- *MAXVTVSZ(2000 | 4000)* では VSM4 または VSM5 のマイクロコード D02.02.00.00 あるいは VSM3 のマイクロコード N01.00.77.00 が必要になります。インストールされたオプションは必要ありません。

NOMIGRAT

オプションで、管理クラスの VTV は移行、統合、またはエクスポートの候補ではないが、テープレス VTSS に保持する候補であることを指定します。

VTSS の選択が、*NOMIGRAT* が指定された管理クラスの VTV にはテープレス VTSS を優先し、RTD のない VTSS には *NOMIGRAT* を指定しない VTV を許可しないように変更されます。

NOMIGRAT は

ACSLIST、*IMMDELAY*、*DUPLEX*、*MIGPOL*、*ARCHAGE*、*ARCHPOL*、*RESTIME*、*CONSRC*、および *CONTGT* と相互に排他的です。

REPlicat

オプションで、VSM が VTV をレプリケートするかどうかを指定します。

NO

VTV をレプリケートしません (デフォルト)。

YES

非同期で VTV をレプリケートします。

YES_SYNC

同期して VTV をレプリケートします。

注:

同期レプリケーションは、*CONFIG GLOBAL SYNCHREP* パラメータを使用して有効にする必要があります。詳細は、「[CONFIG GLOBAL 文](#)」を参照してください。

RESTIME(nnnn)

オプションで、優先される自動移行の候補になる前に、VTCS が VTV を VTSS 常駐として維持することを試みる期間を指定します。

このパラメータはオプションであり、デフォルト値はありません。有効な値は 1 - 9999 です。値 9999 は、VTSS の領域管理が VTV を自動移行して VTSS から削除するように VTCS に要求した場合を除き、この管理クラスの VTV を永続的に常駐にすることを指定します。

nnnn は常駐時間 (時間単位) を示します。

RESTIME と *IMMEDmig(DELETE)* は相互に排他的です。*RESTIME* は VTV が作成されて、リコールされた VTV に適用されていない場合に有効になります。

VTVPAGE

オプションで、VTSS および MVC に VTV のデータを格納するために使用されるページサイズを指定します。この設定は、400 および 800M バイトの VTV のみ適用されます。*MGMTclas* 文または *CONFIG GLOBAL* 文のどちらにも *VTVPAGE* が指定されていない場合、デフォルトは *STANDARD* です。

STANDARD

標準のページサイズ。これは、すべての VSM3 または VSM4 モデルおよびマイクロコードレベルと互換性があります。

LARGE

大きなページサイズ。これは VTSS 内、および移行やリコールのためのパフォーマンスの向上を提供できます。大きなページサイズには、G レベル

の CDS が必要です。CDS レベルの詳細は、「**CONFIg**」を参照してください。2G バイトまたは 4G バイトの VTV (*MAXVtvsz 2000* または *4000*) の場合、*VTVPAGE* 設定には *LARGE* が常に使用されます。

考慮事項:

- *VTVPAGE* は、VSM2 には適用されません。*VTVPAGE(LARGE)* では VSM4 または VSM5 のマイクロコード D02.02.00.00 あるいは VSM3 のマイクロコード N01.00.77.00 が必要になります。インストールされたオプションは必要ありません。
- *MGMTCLAS VTVPAGE* を指定した場合は、*CONFIg GLOBAL VTVPAGE* 値がオーバーライドされます。*VTVPAGE* が *MGMTclas* 文または *CONFIg GLOBAL* 文に指定されていない場合、デフォルトは *STANDARD* です。
- VTV のページサイズは、VTV のスクラッチマウントでのみ変更できます。以前 VTSS に常駐していたスクラッチ VTV には、追加の制限も適用される可能性があります。
- *LARGE* を指定したが、CDS レベルまたは VTSS マイクロコードが *LARGE* をサポートしていない場合、VTCS は警告メッセージを発行し、*VTVPAGE* はデフォルトで *STANDARD* になります。
- 2 または 4G バイトの VTV に対して *STANDARD* を指定した場合、VTCS は警告メッセージを発行し、デフォルトで *LARGE* になります。
- 大きなページを含む VTV を作成すると、大きな VTV ページをサポートしていない構成ではこれらの VTV が読み取り不可能になります。
- この管理クラスに指定した *VTVPAGE* 値は、*CONFIg* ユーティリティで指定したグローバル値をオーバーライドします。

WRITE

オプションで、VTSS 常駐の VTV の *VOLSAFE* ポリシーを次のように指定します。

MANY

VOLSAFE の書き込み保護なしを指定します。これがデフォルトです。

ONCE

部分的な (ライトワンス) *VOLSAFE* 保護を指定します。VTV が非スクラッチになると、それが VTSS 常駐の間は上書きまたは追加できません。

APPEND

完全な *VOLSAFE* 保護を指定します。これは VSM6 システムの場合にのみサポートされます。

- 非スクラッチになったあとに、VTV のデータを追加できます。
- データは上書きできません。

Display VTV コマンドおよび *VTVRPT* レポートは、VTV が書き込み追加で保護されていることを示します。

完全な *VOLSAFE* 保護を持つ VTV は、*RACF ALTER* 権限でのみスクラッチできます。RACF 権限を設定するには、次の RACF コマンドを使用します。

```
RDEFINE TAPEVOL volser UACC(NONE)
PERMIT volser CLASS(TAPEVOL) ID(userid) ACCESS(ALTER)
```

EDLTeexp

オプションで、保留中の電子エクスポート VTV を早期削除の候補にするかどうかを指定します。リモート Tapeplex へのすべての CLINK が動作していない場合にのみ、VTV が削除されます。*EDLTeexp* オプションを指定する場合は、*EEXPOL* ポリシーおよび *MIGPOL* ポリシーを管理クラスに設定する必要があります。

注:

早期削除 VTV を電子エクスポートするには、リモート Tapeplex の CLINK が *ONLINE* に移行したあとに、VTCS の *RECONCIL* ユーティリティーを実行する必要があります。

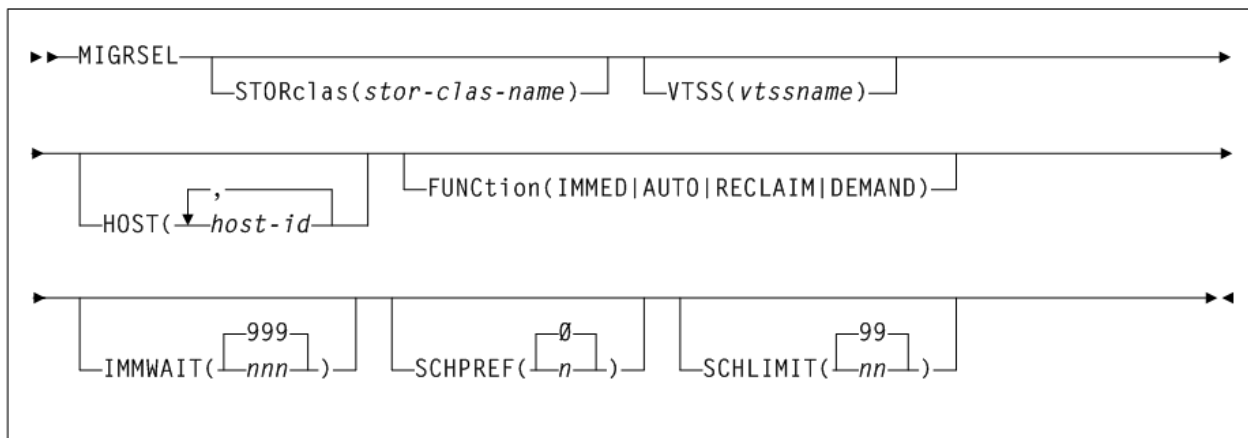
MIGRSEL 制御文

MIGRSEL 制御文は、ストレージクラス、VTSS、またはホストの移行要求の設定を制御します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

構文

図3.108 「*MIGRSEL* 制御文の構文」は *MIGRSEL* 制御文の構文を示しています。

図3.108 *MIGRSEL* 制御文の構文



パラメータ

図3.108「MIGRSEL 制御文の構文」に示されているように、MIGRSEL 制御文には次のパラメータがあります。

STORclas(*stor-clas-name*)

オプションで、移行の設定を適用するストレージクラスを指定します。ストレージクラスを指定しない場合、文はすべてのストレージクラスに適用されます。

stor-clas-name は *STORclas* 制御文で定義したストレージクラス名を示します。

VTSS(*vtssname*)

オプションで、移行の設定を適用する VTSS を指定します。VTSS を指定しない場合、文はすべての VTSS に適用されます。

vtssname は VTSS 名を示します。

HOST(*host-id*)

オプションで、移行の設定を適用する 1 つ以上のホストを指定します。このパラメータに指定されていないホストでは、この設定は無視されます。1 つ以上のホストを指定しない場合、設定はすべてのホストに適用されます。

host-id はホスト識別子 (最大 8 文字) を示します。

FUNCTION

オプションで、設定を適用する移行のタイプを指定します。

IMMED

次のいずれかによって行われた移行。

- *MGMTclas IMMEdmig(KEEP)*
- *MGMTclas IMMEdmig(DELETE)*

AUTO

しきい値までの移行の自動移行処理。

RECLAIM

MVC DRAIN 要求または *RECLAIM* 要求によって行われた移行。

DEMAND

MIGRATE コマンドまたはユーティリティーによって行われた移行 (デマンド移行)。

IMMWAIT(*nnn*)

オプションで、現在の即時移行の作業負荷の状態に応じて *MIGRSEL* のルールが適用されるようにします。指定された値は、この *MIGRSEL* の移行ルールが適用される即時移行の待機時間または経過時間 (分単位) となります。この値は、VTV が特定のストレージクラスへの即時移行を待機している時間と比較されます。VTV が待機している時間 (分) が *IMMWAIT* 値以下である場合は、*MIGRSEL* のルールが適用されます。

nnn は即時移行の待機時間または経過時間 (分単位) を示します。有効な値は 0 - 999 です。デフォルトは 999 です。

- デフォルト値の 999 では、ルールがすべての VTV の待ち時間に適用されます。
- 値 0 は、即時移行がアクティブでない場合に、*MIGRSEL* のルールを適用するために使用します。

SCHPREF(*n*)

オプションで、ストレージクラスごとに自動移行および即時移行の優先度を設定します。*MIGRSEL* *VTSS* および *HOST* を使用すると、設定が適用される *VTSS* およびホストを指定できます。

n は優先度の値を示します。有効な値は 0 - 9 です。デフォルトは 0 です。

- 高い値を指定すると、移行時間が速くなりますが、MVC の使用状況が最適化されない可能性があります。
- 低い値を指定すると、移行時間が遅くなることがありますが、MVC の使用状況が最適化される可能性があります。

MIGRSEL *SCHPREF* の設定は、使用可能な RTD の数、*SCHLIMIT* の設定、および *VTSS* の *GLOBAL MAXMIG* パラメータの影響を受けることがあります。

SCHLIMIT(*nn*)

オプションで、ストレージクラスごとに移行の優先度を下げます。

nn は優先度の値を示します。有効な値は 0 - 99 です。デフォルトは 99 であり、これは制限がないことを示し、最大は *VTSS MAXMIG* 値です。

低い値を指定すると、移行の優先度が下がり、自動、即時、デマンド、およびリクレーム移行を指定できます。低い値を指定すると、次のようになる可能性があります。

- MVC の使用状況が最適化されます。
- ほかのストレージクラスへの移行が優先されます。
- RTD を自動リコールに使用できるように維持するために移行が制限されます。
- 作業負荷が変化したときの MVC のスワッピングが減ります。

自動移行および即時移行処理の場合、*MIGRSEL* *SCHLIMIT* を指定すると、*VTSS* とストレージクラスの関係の移行の優先度が下がります。この比較はグローバルではなく、個々の VTCS ホストによって実行される要求にのみ影響します。

デマンド移行要求の場合、要求をスケジューリングすると同じ *FUNCTION* および *STORCLAS* の選択条件を満たしている VTSS でグローバルにアクティブな移行要求の数が超過するときは、*MIGRSEL SCHLIMIT* を指定すると要求が保留されます。制約が緩和されると、移行要求が解放されて MVC が選択されます。

MIGRVTV 制御文

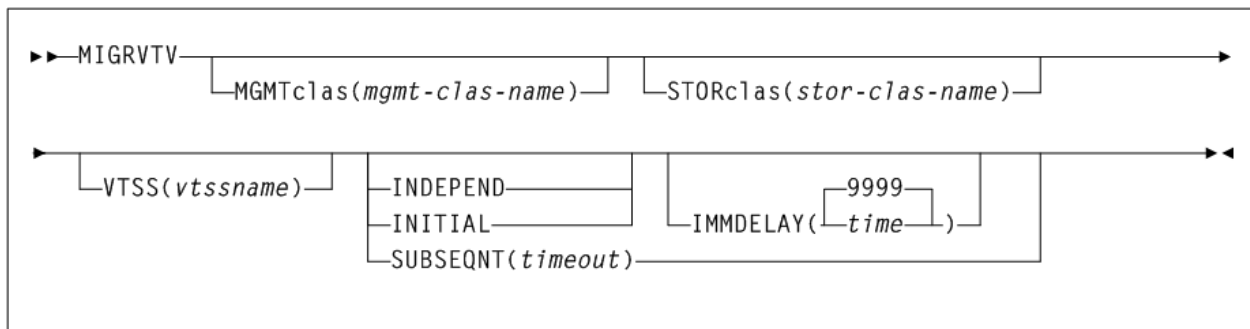
MIGRVTV 制御文は、即時移行によって処理される個々の VTV のコピーを制御します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

この文は、環境に関するさまざまな考慮事項に応じて、個々の即時移行の動作を変更する方法を定義します。*MIGRVTV* のルールは、VTV の各即時移行インスタンスで検索されます。各インスタンスで最初に一致したものが、即時移行を変更するために使用されます。

構文

図3.109 「*MIGRVTV* 制御文の構文」は *MIGRVTV* 制御文の構文を示しています。

図3.109 *MIGRVTV* 制御文の構文



パラメータ

図3.109 「*MIGRVTV* 制御文の構文」に示されているように、*MIGRVTV* 制御文には次のパラメータがあります。

MGMTclas(mgmt-clas-name)

オプションで、移行の設定を適用する管理クラスを指定します。管理クラスを指定しない場合、文はすべての管理クラスに適用されます。

mgmt-clas-name は *MGMTclas* 制御文で定義した管理クラスの名前を示します。

VTSS(*vtssname*)

オプションで、移行の設定を適用する VTSS を指定します。VTSS を指定しない場合、文はすべての VTSS に適用されます。

vtssname は VTSS 名を示します。

STORclas(*stor-clas-name*)

オプションで、移行の設定を適用するストレージクラスを指定します。ストレージクラスを指定しない場合、文はすべてのストレージクラスに適用されます。

stor-clas-name は *STORclas* 制御文で定義したストレージクラスの名前を示します。

INDEPEND

影響を受ける VTV は、ほかの VTV の移行インスタンスから独立しています。これはデフォルトであり、*MIGRVTV* のルール、あるいは *INITIAL* パラメータまたは *SUBSEQNT* パラメータが指定されていないルールと一致しない移行に適用されます。

INITIAL

影響を受ける VTV の移行は、*SUBSEQNT* パラメータが指定されているルールと一致する移行インスタンスの前に、スケジュールおよび実行されます。

SUBSEQNT

影響を受ける VTV の移行は、*INITIAL* パラメータが指定されているルールと一致する移行インスタンスのあとに、スケジュールおよび実行されます。

timeout は、ルールが期限切れになる時間 (分単位) を示します。これは、*INITIAL* 移行インスタンスに適用されている *IMMDELAY* 値に付加されます。

IMMDELAY(*time*)

オプションで、即時移行の遅延時間 (移行がアクションのためにキューに入れられる、VTV がマウント解除されたあとの時間) を指定します。これにより、複数ステップのジョブに使用される VTV が、移行のために処理される前に、指定された時間だけ常駐のままになります。

この *IMMDELAY* パラメータは、VTV 全体の管理クラス定義の *IMMDELAY* 値をオーバーライドするために使用できます。遅延が管理クラスの *DISCARD* 値を超えた場合は、移行によってソース VTSS から VTV のコピーが暗黙的に削除されます。

このパラメータまたは管理クラスの *IMMDELAY* パラメータによって遅延時間に 9999 が指定されている場合は、特定の移行インスタンスが削除され、あとで自動移行コマンドを使用して処理する必要があります。

nnnn は即時移行の遅延時間 (分単位) を示します。有効な値は 0 から 9999 (デフォルト) です。

考慮事項:

- *IMMDELAY*= 9999 の場合、即時移行は行われません。移行および削除は自動移行またはコマンド移行を通じて処理されます。

この値を指定した場合、*MIGRSEL* および *MIGRVTV* は移行の制御に影響を与えません。

- *IMMDELAY*=0 の場合は即時移行がすぐにスケジュールされます。
- *IMMDELAY* が 9999 より小さく、*DISCARD* が *IMMDELAY* よりも大きい場合は、即時移行が行われ、削除が自動/コマンド移行まで遅延されます。
- *IMMDELAY* が 9999 より小さく、*DISCARD* が *IMMDELAY* 以下である場合は、即時移行および即時削除が一緒に行われます。
- 自動移行が *DISCARD* の時間を超えた VTV を検出した場合、その VTV は移行キューの先頭に移動されて最初に処理されます。

注:

DISCARD パラメータについては、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

MVCATTR 制御文

MVCATTR 制御文はスワップ先の RTD デバイスタイプを MVC メディア名に割り当てます。RTD の MVC の読み取り中にエラーが発生した場合、VTCS は MVC を別の RTD にスワップして操作を再試行することがあります。

構文

図3.110 「[MVCATTR 制御文の構文](#)」は *MVCATTR* 制御文の構文を示しています。

図3.110 *MVCATTR* 制御文の構文

```
▶▶—MVCATTR—MEDIA(media-name)—SWAPTO(device-type)————▶◀
```

パラメータ

図3.110 「[MVCATTR 制御文の構文](#)」に示されているように、*MVCATTR* 制御文には次のパラメータがあります。

MEDIA(media-name)

属性が割り当てられる MVC のメディア名を指定します。各メディア名には 1 つの *MVCATTR* のみを指定してください。

media-name は MVC のメディア名を示します。表3.9「有効な MVC メディア名および互換性のある SWAPTO RTD のデバイスタイプ」を参照してください。

SWAPTO(device-type)

MVC がスワップされる RTD デバイスタイプを定義します (可能な場合)。

device-type は RTD のデバイスタイプを示します。表3.9「有効な MVC メディア名および互換性のある SWAPTO RTD のデバイスタイプ」を参照してください。

表3.9 有効な MVC メディア名および互換性のある SWAPTO RTD のデバイスタイプ

有効な MEDIA 名	互換性のある SWAPTO デバイスのタイプ
STK1R	STK1RA34、STK1RB34、STK1RD34、STK1RDE4
STK1RC	STK1RC34、STK1RD34、STK1RDE4
STK1RD	STK1RD34、STK1RDE4
STK1RDE	STK1RDE4
STK2P	STK2PA34、STK2PB34
STK2PB	STK2PB34
T10000T1	T1A34、T1AE34、T1B34、T1BE34
T10000TS	T1A34、T1AE34、T1B34、T1BE34
T10000E1	T1AE34、T1BE34
T10000ES	T1AE34、T1BE34
T1B000T1	T1B34、T1BE34
T1B000TS	T1B34、T1BE34
T1B000E1	T1BE34
T1B000ES	T1BE34

STORclas 制御文

STORclas 制御文は VSM ストレージクラスを定義します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

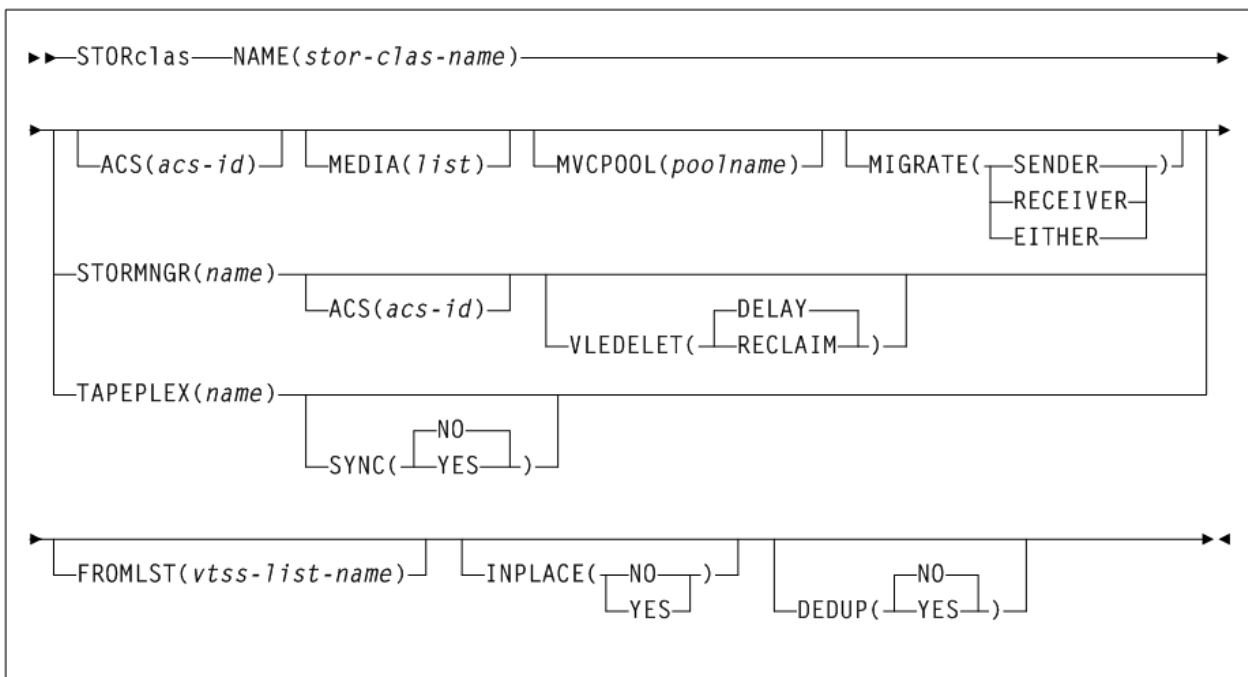
この文は、VTV のコピーを次のもの書き込むかどうかを指定できます。

- MVC (必要な属性を持つ)
- VTV のコピーがエクスポートされるリモート TapePlex の名前。ストレージクラスでパーティション分割されたメディアが使用されるかどうかも指定します。
- VLE のサブシステム名。

構文

図3.111 「[STORclas 制御文の構文](#)」は *STORclas* 制御文の構文を示しています。

図3.111 *STORclas* 制御文の構文



パラメータ

図3.111 「[STORclas 制御文の構文](#)」に示されているように、*STORclas* 制御文には次のパラメータがあります。

NAME(*stor-clas-name*)

ストレージクラスの名前を指定します。

stor-clas-name はストレージクラス名を示します。この名前は、英字で始まる 1-8 文字の英数字である必要があり、SMS の命名規則に従っている必要があります。

ACS(*acs-id*)

オプションで、RTD および MVC が選択される ACS を指定します。

acs-id は 10 進数の 2 桁の ACS 識別子を示します (00 - 99)。

STORMNGR(*name*)

オプションで、次のいずれかを指定します。

- VLE サブシステム名
- リモートライブラリ

ストレージマネージャー名を示す名前。

- VLE の場合、この値は VLE サブシステム名に一致している必要があります。
- リモートライブラリの場合、この値は `SMC TAPEPLEX NAME` パラメータで定義されている TapePlex 名に一致している必要があります。

詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『VLE 用ホストソフトウェアの構成』を参照してください。

`STORMNGR` パラメータおよび `ACS` パラメータの両方を指定すると、指定された ACS 番号を持つリモート TapePlex のライブラリに MVC の選択を制限できません。

VLEDELET

オプションで、VLE からの VTV の削除がいつ行われるかを制御します。

DELAY

VLE からの VTV の削除は、移行のために vMVC がマウントされるまで遅延されます。`DELAY` がデフォルトです。

RECLAIM

VLE からの VTV の削除は、`RECLAIM` ユーティリティが vMVC に対して実行されたときに行われます。

注意:

vMVC の CDS バックアップの内容を保護するために `DRCHKPT` ユーティリティまたは `CONFIG RECLAIM PROTECT` パラメータを使用し、`VLEDELET(RECLAIM)` を指定した `STORCLAS` の vMVC を `RECLAIM` した場合、現在の CDS バックアップは vMVC の内容の DR ベースラインとして使用できなくなります。

MEDIA(*list*)

オプションで、MVC のメディアタイプの優先順位のリストを指定します。デフォルトのメディア選択リストはこのリストに置き換えられます。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。

list はメディアタイプの優先順位のリストを示します。

MVCPOOL(poolname)

オプションで、ボリュームが選択される名前付き MVC プールを指定します。MVC プール名を指定しない場合、ボリュームはデフォルトのプール (*DEFAULTPOOL*) から選択されます。

poolname は *MVCPool* 制御文で定義した MVC プールの名前を示します。

MIGRATE

オプションで、このストレージクラスを参照する、*REPLICAT(YES)* を指定した管理クラスの場合に、VTV 移行のためのソース VTSS (クラスタ内の) を指定します。*FROMLST* が指定されている場合、このパラメータは指定できません。

RECEIVER

プライマリ-セカンダリクラスタのセカンダリ VTSS である、レプリケートされた VTV を受け取る VTSS (デフォルト)。

SENDER

プライマリ-セカンダリクラスタのプライマリ VTSS である、レプリケートされる VTV を送信する VTSS。

EITHER

ピアツーピアクラスタのいずれかの VTSS。ソース VTSS はランダムに選択されます。

TAPEPLEX(name)

オプションで、VTV のコピーがエクスポートされる TapePlex の名前を指定します。構成内の少なくとも 1 つの VTSS も、CLINK 定義にこの名前を指定している必要があります。

name は、TapePlex 名を示します。

SYNC

オプションで、VTV から TapePlex へのエクスポートを同期して実行するかどうかを指定します。

NO

VTV から TapePlex へのエクスポートは非同期に実行されます。これがデフォルトです。

YES

VTV から TapePlex へのエクスポートは同期して実行されます。

同期エクスポートが指定されている 2 つのストレージクラスに VTV が指定されている場合は、最初のストレージクラスにのみ適用され、2 番目のストレージクラスは非同期にエクスポートされます。同様に、管理クラスに同期レプリケーションが指定されている場合、同期エクスポートは無視されます。

FROMLST(vtss-list-name)

オプションで、ストレージクラスに移行またはエクスポートする場合、VTV を供給する VTSS のリストを VTCS に渡します。*FROMLST* はクラスタ化された

VTSS および VLE 間接続の両方に適用されます。詳細は、「[FROMLST パラメータの使用方法](#)」を参照してください。

vtss-list-name は VTSS リストの名前 (*MGMTDEF VTSSLST* 制御文に指定されている) を示します。詳細は、「[VTSSLST 制御文](#)」を参照してください。

INPLACE

オプションで、このストレージクラスで動的リクレイムを有効にするかどうかを指定します。詳細は、「[動的リクレイムの使用](#)」を参照してください。

NO

このストレージクラスで動的リクレイムを有効にしません。

YES

このストレージクラスで動的リクレイムを有効にします。

DEDUP

オプションで、VLE の VMVC に移行された VTV データを重複排除するかどうかを指定します。

NO

VTV を重複排除しません。これがデフォルトです。

YES

VMVC に移行するときに VTV を重複排除します。

DEDUP 値は、VLE に送信されるすべての VMVC マウント要求に適用されるストレージクラスの属性です。*DEDUP* は、マウントの有効期間に行われるすべての移行に適用されます。*DEDUP* 値を変更するには、VMVC をマウント解除して、*DEDUP* 値を変更し、VMVC を再マウントします。

動的リクレイムの使用

動的リクレイムは、パーティションを作成できる T10000 ドライブによってフォーマットされた T10000B 以上のメディア (完全暗号化のみ) にのみ適用されます。これには、H レベルの CDS、VSM5 マイクロコード D02.11.16.00 以降、および T1010000B ファームウェア 1.41a.209 以降が必要になります。

動的リクレイムポリシーは、グローバルなシステム全体のレベル、またはストレージクラスおよび MVC プールのレベルで指定できます。グローバルポリシーを設定するには、*VTCS CONFIG RECLAIM* 文を使用します。

- *INPLACE* パラメータは、動的リクレイムの使用を制御します。この設定は、*STORCLAS* 文で明示的に指定するか、*VTCS* 構成の *RECLAIM* 文から継承できます。デフォルトは *INPLACE=NO* です。ストレージクラスに派生した設定によって、いずれかのモードでフォーマットされたメディアの使用が強制されることはありません。パーティション分割をサポートしていないドライブまたはメディア

アでこのパラメータを使用することは許容されます。また、別のモードで書き込まれたメディアは、引き続き移行ターゲットとなります。これにより、動的リクレイムが有効にされている場合に、移行をアクティブに管理する必要がなくなります。その効果は、ストレージクラスに割り当てられた新しいメディアがフォーマットされ、標準 (*INPLACE=NO*) モードまたはパーティション分割された (*INPLACE=YES*) モードで書き込まれることです。切り替えはメディアが空の場合にのみ行うことができます。

- 標準と動的リクレイムの間で困難な切り替えが必要な場合は、パラメータの設定 (たとえば、*STORCLAS* 文の *MEDIA*) を含む時間のかかる手順が必要となります。*MVCMAINT* を使用して、*MVC* を *MVC* プールから削除するか、読み取り専用状態に設定する必要があります。また、間違ったモードでフォーマットされている *MVC* はドレインする必要があります。
- *INPTHRSH* パラメータは、パーティション分割された *MVC* が動的リクレイムの対象となる断片化レベルを指定します。パーティション分割された *MVC* の断片化が *INPTHRSH* 値と *THRESH* 値の間になると、最初に動的リクレイムの対象となります。最初のリクレイムの試みで領域が解放されなかった場合は、断片化レベルが大幅に上がったときに、リクレイムが再試行されます。断片化レベルが標準の *THRESHOLD* に達した場合は、*VTV* を移動するフォールバックメソッドが実行されます。

VTCS CONFIG RECLAIM 文は、システムのグローバルなデフォルトを設定します。これらのデフォルトは、ストレージクラスおよび *MVCPool* レベルでオーバーライドできます。

- *STORCLAS INPLACE* パラメータは、ストレージクラスで動的リクレイムを有効にするかどうかを指定します。最初に、動的リクレイムの効果を評価するために、*VTCS CONFIG RECLAIM* 文に *INPLACE(NO)* を指定し、選択したストレージクラスに *INPLACE(YES)* を指定できます。その後、すべての適格なメディアに動的リクレイムを適用するために、*VTCS CONFIG RECLAIM* 文に *INPLACE(YES)* を指定できます。
- このセットの *MVC* メディアに動的リクレイムのしきい値を設定するために、*POOLPARM* 文の *INPTHRSH* パラメータを使用できます。これは特定の *MVC* に対して *VTCS CONFIG RECLAIM* のデフォルトと異なる扱いをする場合に役立ちます。

動的リクレイムは、グローバルなシステム全体のレベルまたはストレージクラスのレベルで無効にできます。

- 動的リクレ임을グローバルに無効にするには、`VTCS CONFIG RECLAIM` 文に `INPLACE(NO)` を指定し、ストレージクラスの定義によってこの設定がオーバーライドされないようにします。
- 1つ以上のストレージクラスの動的リクレ임을無効にするには、ストレージクラスポリシー文の `INPLACE` を `NO` に変更します。

注:

移行のために現在使用されている MVC は、パーティション分割された形式のままになります。アクティブな MVC のそれ以降の移行を停止する場合は、`MVCMaint` ユーティリティーを使用してそれらを読み取り専用としてマークします。パーティション分割されたボリュームが空になると、パーティション分割されていないモードで自動的に再使用されます。すべての VTV が期限切れになるか、MVC が `DRAIN` されると、MVC は空になります。

STORMNGR パラメータと ACS パラメータの相互作用

`STORClas` 文では、ACS パラメータおよび `STORMNGR` パラメータの両方を指定できるようになりました。この文は、ターゲットがローカル HSC のテープライブラリ、VLE、またはリモートテープライブラリのいずれであるかについて、通常は中立的です。これらのパラメータの相互作用を次に示します。

- ACS パラメータまたは `STORMNGR` パラメータのいずれも指定しない場合、MVC は使用可能なすべてのものから選択されます。
- ACS パラメータのみを指定した場合、MVC の選択は指定された ACS 番号を持つローカル HSC によって保守されているライブラリに制限されます。
- `STORMNGR` パラメータのみを指定した場合、MVC の選択は指定された VLE またはリモートライブラリ複合体に制限されます。リモートライブラリ複合体の場合、これは ACS 0 にのみ適用されます。
- ACS パラメータおよび `STORMNGR` パラメータの両方を指定した場合、MVC の選択は指定された ACS 番号を持つリモート TapePlex のライブラリに制限されます。

ACS パラメータおよび `STORMNGR` パラメータを使用すると、ストレージクラスの場合を明示的に指定できます。可能な場合は、`MVCPool` パラメータおよび `MEDIA` パラメータを使用した暗黙的な場所の選択の代わりに、ACS および `STORMNGR` を使用します。

FROMLST パラメータの使用方法

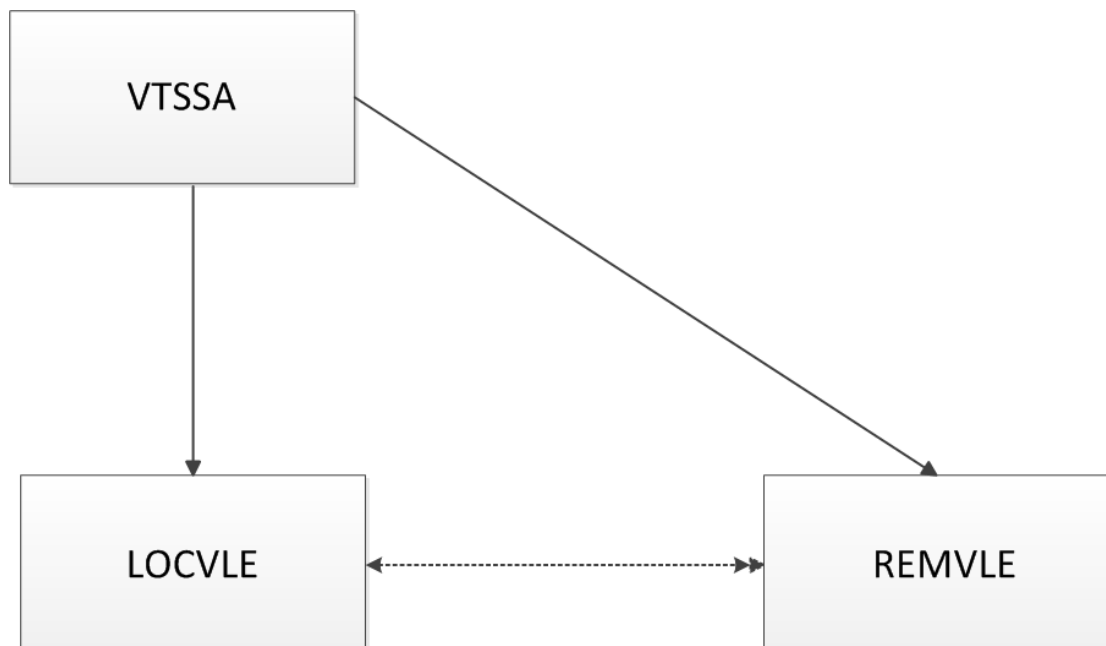
`FROMLST` を指定しない場合、デフォルトの動作は次のようになります。

- クラスタ VTSS で、コピーがクラスタ内の複数の VTSS に存在する場合、VTV は使用可能なすべての VTSS をソースにできます。これは、VTSS および接続された ACS が互いに地理的に離れている場合は最適でない可能性があります。
- VLE と VLE との接続で、VTV のコピーが VTSS と一方の VLE に存在し、それを接続された VLE に移行する場合、デフォルトで VLE と VLE との接続が使用されます。同様に、接続されている VLE が地理的に互いに離れている場合は、最適ではない可能性があります。

図3.112 「VLE 間のレプリケーション (VTSS から VLE との対比)」は、VTSSA に接続されているローカル VLE (LOCVLE) およびリモート VLE (REMVLE) を使用した DR シナリオを示しています。2つの VTV コピーを移行したいと考えます。

- 最初に VTSSA から LOCVLE にローカルコピーします。
- 2番目に、VLE 間のコピーを使用して LOCVLE から REMVLE にコピーします。

図3.112 VLE 間のレプリケーション (VTSS から VLE との対比)



目的のとおり VTV コピーを行うには、次を実行します。

1. VTSSA のみを含む VTSS リストを作成する `VTSSLST` 文を作成します。

```
VTSSLST NAME(VSM2VLE) VTSS(VTSSA)
```

2. VTV コピーを REMVLE に送信する `STORCLAS` 文を作成します。

STORCLAS NAME(FORREMOT) STORMNGR(REMVLE)

3. *REMVLE* への移行コピーを遅らせる *MIGRVTV* 文を作成します。

MIGRVTV STOR(FORREMOT) IMMDELAY(360)

移行の遅延は 360 分になっていますが、これは、ローカルサイトへの移行がまず実行され、そのあと VLE と VLE 間のコピーによってリモートサイトへの移行が行われるようにするためです。360 分は値の例にすぎません。9998 までの値を指定できます (9999 は指定しないでください。自動移行でしか VTV が移行されなくなるからです)。

4. VTV コピーを *LOCVLE* に送信する *STORCLAS* 文を作成します。

STORCLAS NAME(FORLOCAL) STORMNGR(LOCVLE) FROMLST(VSM2VLE)

FROMLST パラメータは、ローカル VTV コピーのソースが *VTSSA* であることを指定します。

5. 最後に、2 つの VTV コピー (ローカルサイトへのコピーとリモートサイトへのコピー) を指定する *MGMTCLAS* 文を作成します。

MGMTCLAS NAME(DRVLE) MIGPOL(FORLOCAL, FORREMOT)

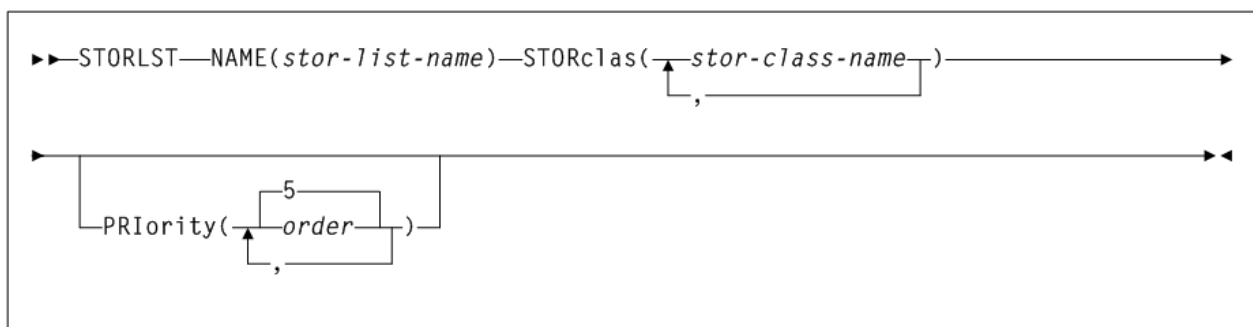
STORLST 制御文

STORLST 制御文は、ストレージクラスのリストと各クラスに対応する優先度を指定します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

構文

図3.113 「*STORLST* 制御文の構文」 に *STORLST* 制御文の構文を示します。

図3.113 *STORLST* 制御文の構文



パラメータ

図3.113「**STORLST 制御文の構文**」に示すように、*STORLST* 制御文には次のパラメータが含まれます。

NAME(stor-list-name)

ストレージクラスリストの名前を指定します。

stor-list-name は、リスト名 (最大 8 文字の英数字) を示します。

STORclas(stor-clas-name)

ストレージクラスリスト上の 1 個から 10 個のストレージクラスを指定します。

stor-clas-name は、*STORclas* 制御文で定義されたストレージクラスの名前を示します。

PRIority(order)

STORclas パラメータに指定されたストレージクラスに対応する優先度のリスト。

order は、指定された優先度を示します。有効な値は 0 から 9 (最高の優先度) であり、デフォルトは 5 です。複数のストレージクラスに同じ優先度を割り当ててもかまいません。たとえば、2 つのストレージクラスがどちらも 9 の優先度を持つ場合、VTCS はその 2 つからランダムに選択します。0 (ゼロ) の優先度は、VTCS がそのストレージクラスを選択するのは、ほかのすべてのストレージクラスが使用不可能な場合 (書き込み可能なフリーの MVC が存在しない場合など) だけであることを指定します。

ストレージクラスリストは、*STORSEL* 文のパラメータ *MGMTclas* と *VTSS* に指定された条件によってさらに限定されます。

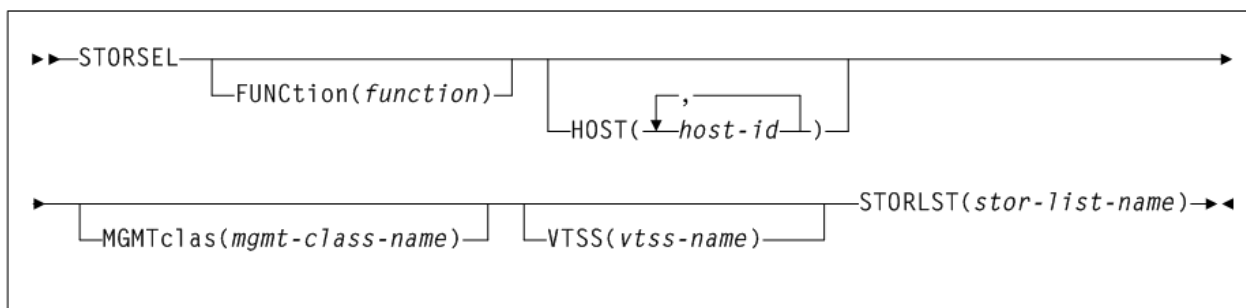
STORSEL 制御文

STORSEL 制御文は、参照先の *STORLST* 制御文で指定されたストレージクラスのリストとその優先度に適用される、ストレージクラス使用規則を定義します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

構文

図3.114「**STORSEL 制御文の構文**」に *STORSEL* 制御文の構文を示します。

図3.114 STORSEL 制御文の構文



パラメータ

図3.114「STORSEL 制御文の構文」に示すように、*STORSEL* 制御文には次のパラメータが含まれます。

FUNCTION(function)

オプションで、規則の適用先となる VSM 機能を指定します。1つの文で指定できる機能は、1つだけです。このパラメータを省略した場合、その適用先はすべての機能になります。本当にすべての機能が該当する場合は、*FUNCTION* パラメータを省略することで、文の数を、省略しなかった場合にコーディングする必要のある量の 25% に減らすことが、効率上理にかなっています。

function は機能名を示します。

表3.10 STORSEL の機能

機能	説明
<i>SPECIFIC</i>	特定の VTW のマウント向け自動リコールに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定された文によって決まります。このリストは、VTW をリコールするためのストレージクラス内の MVC のマウントに適した RTD のリストに影響を及ぼします。
<i>RECALL</i>	特定の VTW のマウント向け要求リコールに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定された <i>STORLST</i> 文によって決まります。このリストは、VTW のリコールに最適な MVC を選択するための、VTW の MVC コピーのリストに影響を及ぼします。
<i>EXPORT</i>	エクスポートに適用されます。ストレージクラスのリストは、指定された <i>STORLST</i> 文によって決まります。このリストは、VTW のエクスポートに最適な MVC を選択するための、VTW の MVC コピーのリストに影響を及ぼします。

機能	説明
CONSOLID	統合に適用されます。ストレージクラスのリストは、指定された <i>STORLST</i> 文によって決まります。このリストは、VTV の統合に最適な MVC を選択するための、VTV の MVC コピーのリストに影響を及ぼします。

HOST(host-id)

オプションで、規則の適用先となる 1 つ以上のホストを指定します。このパラメータを使用する場合、このパラメータに指定されないホストはすべて、この規則を無視します。このパラメータを使用しない場合、この文はすべてのホストに適用されます。

host-id はホスト識別子 (最大 8 文字) を示します。

MGMTclas(mgmt-class-name)

オプションで、管理クラスを指定します。

mgmt-class-name は、*MGMTclas* 制御文で定義された管理クラスの名前を示します。

VTSS(vtss-name)

オプションで、VTSS を指定します。

vtss-name は、次のような VTSS 名を示します。

- 自動リコールの場合、リコールが実行される VTSS。
- その他のすべての機能の場合、以前 VTV が存在していた VTSS。この情報は、*Display VTV* の出力に含まれる VTSS 値から判定できる可能性があります。

STORLST(stor-list-name)

ストレージクラスのリストと各クラスに対応する優先度を指定します。

stor-list-name は、*STORLST* 制御文で定義されたストレージクラスリストの名前を示します。

注:

STORLST パラメータに指定されたストレージクラスリストは、パラメータ *MGMTclas* と *VTSS* に指定された条件によってさらに限定されます。

VTSSLST 制御文

VTSSLST 制御文は、VTSS のリストとそれぞれに対応する優先度を指定します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

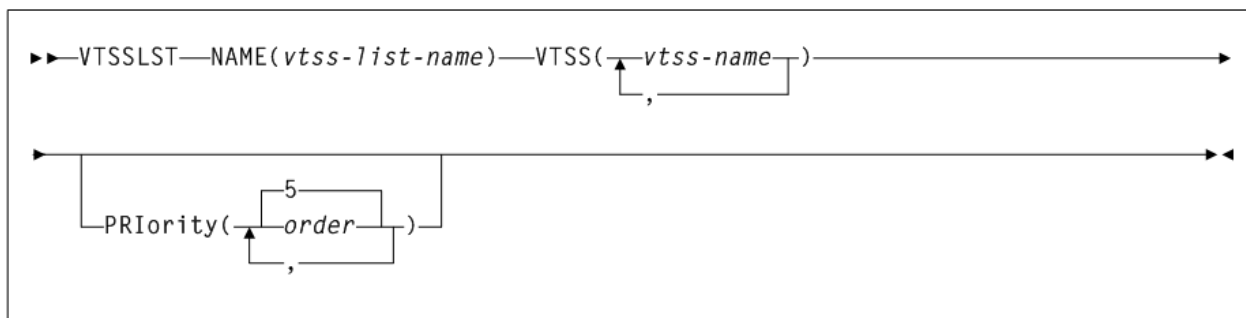
VTCS はまず、各 VTSS のシステム優先度を各種要因に基づいて決定します。たとえば、VTSS が要求を処理できるかどうかや、必要なリソースがオンライン状態/使用可能な状態になっているかどうか、あるいは VTSS が問題のある状態 (高 DBU) かどうか、などです。

最高のシステム優先度を持つ VTSS が複数存在する場合、VTSSLST の優先度を使えば、どの VTSS が使用されるかに影響を及ぼすことができます。ただし、VTSSLST が考慮されるのは、要求を処理する能力において同等の VTSS の明確な選択肢が存在する場合だけです。

構文

図3.115 「VTSSLST 制御文の構文」 に VTSSLST 制御文の構文を示します。

図3.115 VTSSLST 制御文の構文



パラメータ

図3.115 「VTSSLST 制御文の構文」 に示すように、VTSSLST 制御文には次のパラメータが含まれます。

NAME(vtss-list-name)

VTSS リストの名前を指定します。

vtss-list-name は、リスト名 (最大 8 文字の英数字) を示します。

VTSS(vtss-name)

VTSS リスト上の 1 個から 20 個の VTSS を指定します。

vtss-name は VTSS 名を示します。

PRIority(order)

オプションで、VTSS パラメータに指定された VTSS 名に対応する優先度のリストを指定します。

order は、指定された優先度を示します。有効な値は 0 から 9 (最高の優先度) であり、デフォルトは 5 です。複数の VTSS に同じ優先度を割り当ててもかまいません。

最高のシステム優先度を持つ VTSS のセットの中では、次のようになります。

- 2 つ以上の VTSS が同じ最高の *VTSSLST* 優先度を持つ場合、VTCS は (DBU や VSM モデルなどの要因に従って) その 2 つからランダムに選択します。
- 0 (ゼロ) の優先度は、VTCS がその VTSS を選択するのは、ほかのすべての VTSS が使用不可能である場合 (例: DBU > 95% であるために使用不可能、VTSS がオフライン、すべての RTD がオフライン、すべての VTD がビジー状態) だけであることを指定します。

優先度ゼロを指定しても、その VTSS が決して選択されないという保証はありません。VTSS が決して選択されないようにするには、その VTSS を *VTSS(. . .)* リストに指定しないでください。

注:

VTSSLST パラメータに指定された VTSS リストは、次によってさらに限定されます。

- *VTSSSEL* 文で指定された機能。
- *VTSSSEL* 文の *MGMTclas*、*VTSS*、*STORclas*、および *MVCpool* パラメータによって指定される条件。
- RTD の接続性など、その他の要因。

たとえば、スクラッチ割り当ての場合、VTSS のリストが絞り込まれ、管理クラスのポリシー (*REPLICAT(YES)* など) を満たせる VTSS のみが残ります。VTSS リストの絞り込みの結果、条件を満たすものがなくなった場合、要求は失敗します。

VTSSSEL 制御文

VTSSSEL 制御文は、参照先の *VTSSLST* 制御文で指定された VTSS リストとその優先度に適用される、VTSS 使用規則を定義します。これは *MGMTDEF* コマンドによってロードされます。

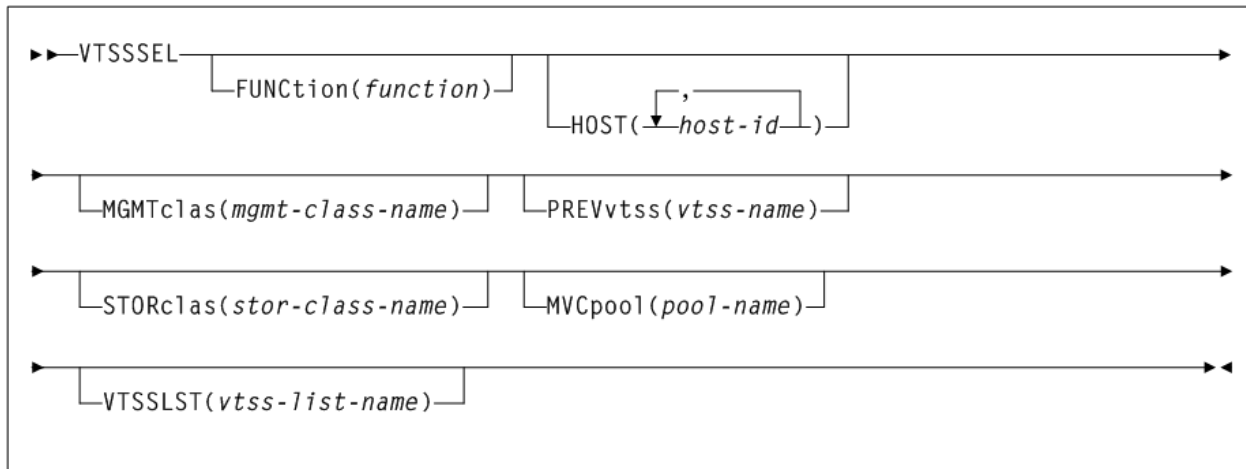
注:

VTSSSEL 文が考慮されるのは、処理される MVC 上の VTV が VTSS に存在していない場合だけです。VTV が存在している場合、VTCS は *VTSSSEL* 文を無視し、VTV が存在している VTSS から VTV を移行します。

構文

図3.116「VTSSSEL 制御文の構文」に VTSSSEL 制御文の構文を示します。

図3.116 VTSSSEL 制御文の構文



パラメータ

図3.116「VTSSSEL 制御文の構文」に示すように、VTSSSEL 制御文には次のパラメータが含まれます。

FUNCTION(function)

オプションで、規則の適用先となる VSM 機能を指定します。1つの文で指定できる機能は、1つだけです。このパラメータを省略した場合、その適用先はすべての機能になります。本当にすべての機能が該当する場合は、FUNCTION パラメータを省略することで、文の数を、省略しなかった場合にコーディングする必要がある量の 25% に減らすことが、効率上理にかなっています。

function は、次の表で説明する機能名を示します。

表3.11 VTSSSEL の機能

機能	説明
SCRATCH	不特定 (スクラッチ) VTV の割り当てに適用されます。対象 VTD のリストは、指定された VTSSLST 文によって決まります。PREVVTSS、STORclas、および MVCpool パラメータは該当しません。
SPECIFIC	特定の VTV の割り当てに適用されます。対象 VTD のリストは、指定された VTSSLST 文によって決まります。STORclas および MVCpool パラメータは該当しません。

機能	説明
RECALL	要求リコールに適用されます。リコールの対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、リコール対象として選択された MVC (選択された VTV から派生) を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
RECLAIM	リクレイムに適用されます。リクレイムの対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、リクレイム対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
DRAIN	ドレインに適用されます。ドレインの対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、ドレイン対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
MOVEVTVS	<i>ARCHIVE</i> または <i>RECONCIL</i> コマンドで <i>MOVEVTV</i> パラメータが指定された場合に適用されます。VTV 移動の対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、処理対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
AUDIT	MVC 監査に適用されます。監査の対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、監査対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
EXPORT	エクスポートに適用されます。エクスポートの対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、エクスポート対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。
CONSOLID	統合に適用されます。統合の対象となる VTSS のリストは、指定された <i>VTSSLST</i> 文によって決まります。またこの VTSS リストにより、統合対象として選択された MVC を処理する RTD の検索順序も決まります。 <i>MGMTclas</i> パラメータは該当しません。

HOST(host-id)

オプションで、規則の適用先となる 1 つ以上のホストを指定します。このパラメータを使用する場合、このパラメータに指定されないホストはすべて、この規則を無視します。このパラメータを使用しない場合、この文はすべてのホストに適用されます。

host-id はホスト識別子 (最大 8 文字) を示します。

注:

VTSSLST パラメータに指定された VTSS リストは、パラメータ *MGMTclas*、*VTSS*、*STORclas*、および *MVCpool* に指定された条件によってさらに限定されます。

MGMTclas(*mgmt-class-name*)

オプションで、管理クラスを指定します。

mgmt-class-name は、*MGMTclas* 制御文で定義された管理クラスの名前を示します。

PREVtss(*vtss-name*)

オプションで、次のような VTV を持つ VTSS を指定します。

- 存在している
- そこから移行された

vtss-name は、VTSS 名を示します。

STORclas(*stor-clas-name*)

オプションで、ストレージクラスを指定します。MVC に基づいて VTSS が選択される場合にのみ適用されます。

stor-clas-name は、*STORclas* 制御文で定義されたストレージクラスの名前を示します。

MVCpool(*poolname*)

オプションで、名前付き MVC プールを指定します。MVC に基づいて VTSS が選択される場合にのみ適用されます。

poolname は *MVCpool* 制御文で定義した MVC プールの名前を示します。

VTSSLST(*vtss-list-name*)

オプションで、VTSS のリストとそれぞれに対応する優先度を指定します。

vtss-list-name は、*VTSSLST* 制御文で定義された VTSS リストの名前を示します。

MIGrate

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー

- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

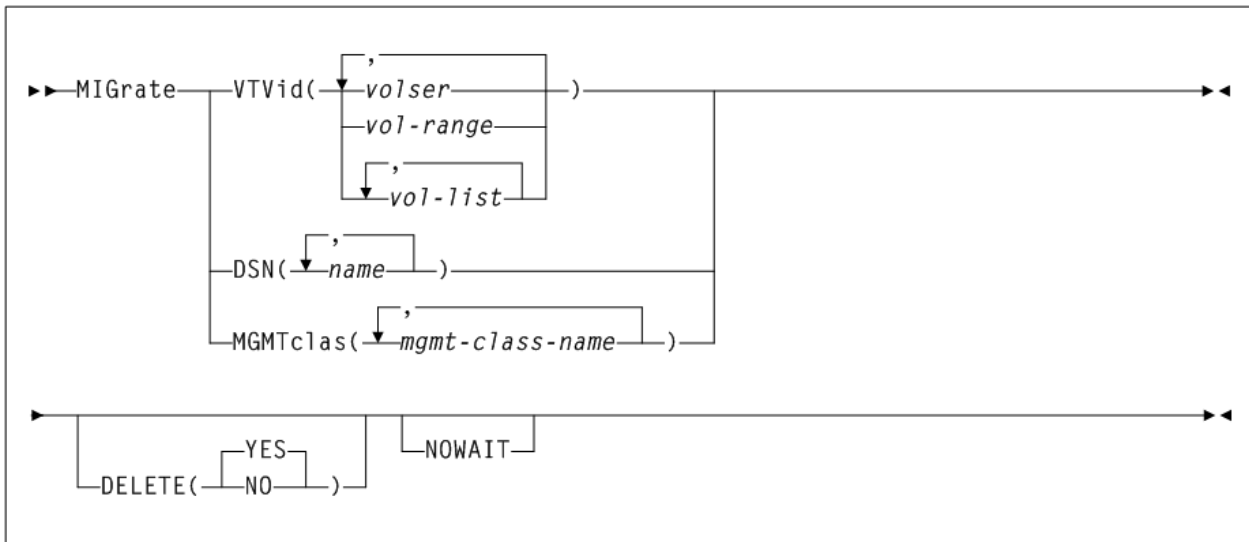
説明

MIGrate コマンドは、VTV を MVC に移行します。

構文 (フォーマット 1)

図3.13 「COMMPath コマンドの構文」 に MIGrate コマンドの構文を示します。

図3.117 MIGrate コマンドの構文 (フォーマット 1)



パラメータ (フォーマット 1)

図3.117 「MIGrate コマンドの構文 (フォーマット 1)」 に示すように、MIGrate コマンド (フォーマット 1) には次のパラメータが含まれます。

VTVid(volser、vol-range、または vol-list)

移行する VTV を指定します。

volser、vol-range、または vol-list は、1 つ以上の VTV の volser を示します。1 つ以上の範囲を指定することもできます。

DSN(name)

移行する VTV の選択に使用されるデータセットを指定します。

name はデータセット名を示します。表3.12「有効なワイルドカード」では、データセット名で有効なワイルドカードを説明します。GDGのメンバーのアドレス指定にワイルドカードを使用することはできません。

表3.12 有効なワイルドカード

ワイルドカード	説明
*	1つの修飾子、または1つの修飾子内の1つ以上の文字。アスタリスクの前後には一連の文字が存在してもかまいません。
**	0個以上の修飾子。二重アスタリスクの前後に文字が存在してはいけません。その前後にはピリオドまたは空白が存在している必要があります。
% または ?	ちょうど1つの英数字または国別文字。
%% または ??	各修飾子内では、1-8個のパーセント記号または疑問符を指定できます。

注:

ワイルドカードは、DFSMS/MSP 1.4以上を実行しているMSPシステムでのみサポートされます。このレベルより下のシステムでは、カタログ検索でワイルドカードがサポートされません。

MGMTclas(*mgmt-class-name*)

移行する1つ以上のVTVを決定する1つ以上の管理クラスを指定します。*MGMTclas*、*VTvid*、*DSN*は相互排他の関係にあります。

mgmt-class-name は、*MGMTclas* 制御文で定義された1つ以上の管理クラスの名前を示します。詳細については、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

DELETE

オプションで、VTVの移行後にVSMにそのVTVをVTSSから削除させるかどうかを指定します。

NO

VTVの移行後にそのVTVをVTSSから削除しません。

YES

VTVの移行後にそのVTVをVTSSから削除します(デフォルト)。

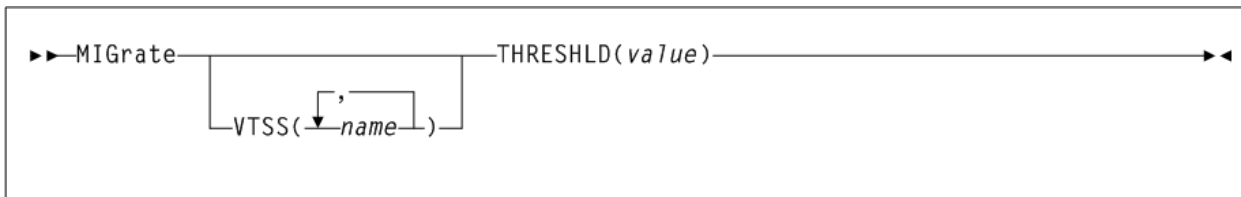
NOWAIT

要求が送信されたあとで、ユーティリティーが操作の完了を待機せずに戻ることを指定します。

構文 (フォーマット 2)

図3.118 「MIGrate コマンドの構文 (フォーマット 2)」 に *MIGrate* コマンドの構文を示します。

図3.118 MIGrate コマンドの構文 (フォーマット 2)



パラメータ (フォーマット 2)

図3.118 「MIGrate コマンドの構文 (フォーマット 2)」 に示すように、*MIGrate* コマンド (フォーマット 2) には次のパラメータが含まれます。

VTSS(*name*)

指定されたしきい値に達するまで移行する 1 つ以上の VTSS を指定します。

name は、1 つ以上の VTSS の名前を示します。

THRESHLD(*value*)

VTSS の領域が指定されたしきい値に達するまで、VTSS 領域管理/VTV 移行サイクルを VTCS に実行させることを指定します。有効な値は 0-95% です。

value は、移行の目標となるしきい値 (VTSS 領域のパーセント) を示します。

MNTD

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

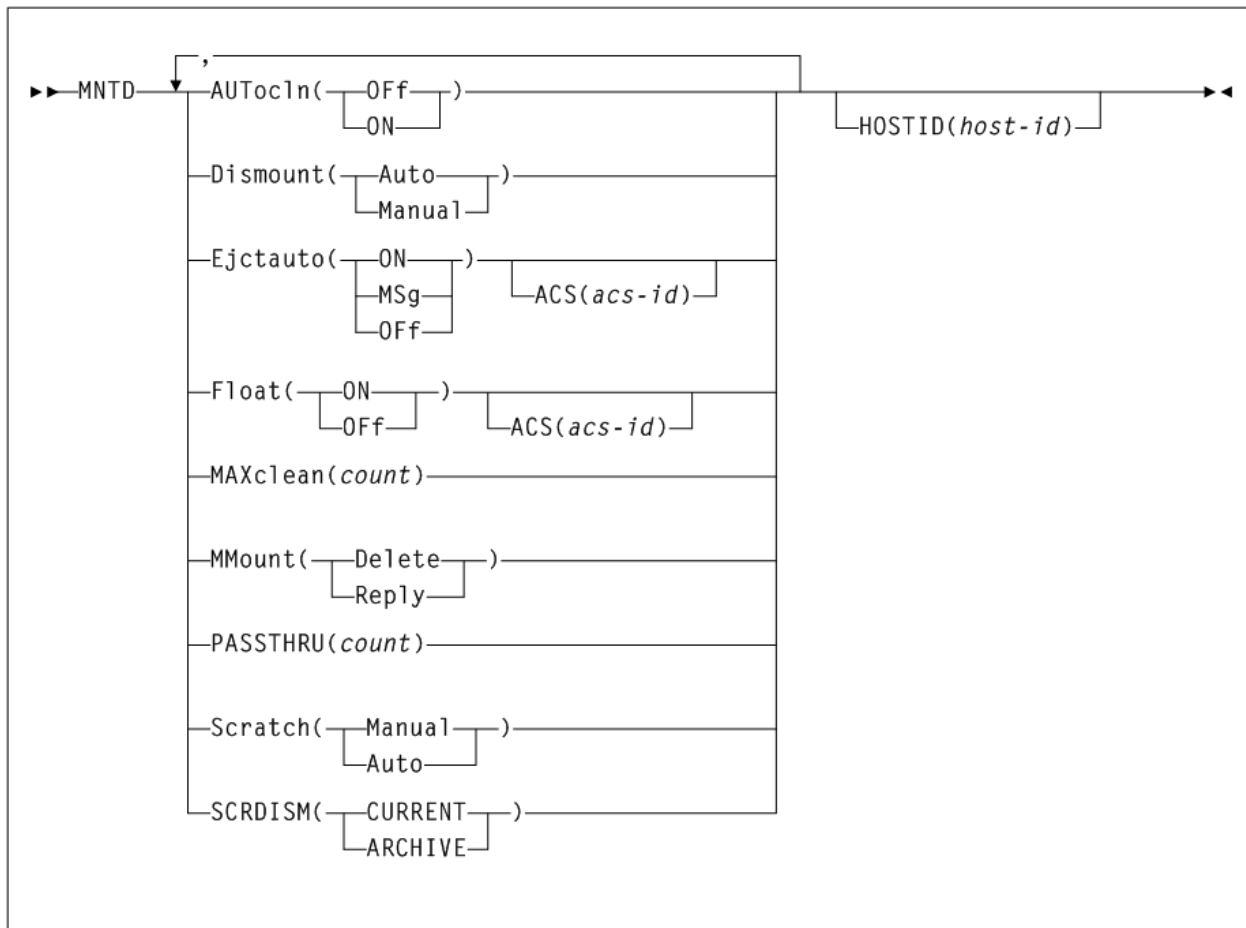
説明

MNTD コマンドは、ライブラリボリュームのマウントやマウント解除を HSC がどのように処理するかを指定します。

構文

図3.119 「MNTD コマンドの構文」 に *MNTD* コマンドの構文を示します。

図3.119 MNTD コマンドの構文



パラメータ

図3.119 「MNTD コマンドの構文」 に示すように、*MNTD* コマンドには次のパラメータが含まれます。

AUTocln

自動トランスポートクリーニングを制御します。

OFF

自動クリーニング機能を無効にします。OFF が HSC の初期値です。

ON

次の HSC クリーニング機能を有効にします。

- 自動クリーニング機能。クリーニングが必要なトランスポートの発生を検出し、クリーニングカートリッジのマウントをスケジュールリングします。レベル 22 以上の LMU では、次のマウント解除のあとでクリーニングが発生します。ほかのすべてのレベルでは、次のボリュームマウントの前にクリーニングが発生します。
- *CLean* コマンド。特定のトランスポートでのクリーニングカートリッジのマウントをスケジュールリングするために使用されます。詳細については、「[CLean](#)」を参照してください。

Dismount

ある手動モードの LSM で、LSM がオフラインに変更される前にロボットによってマウントされたボリュームのマウント解除が要求された場合に、制御データセットからボリュームを自動的に削除するかどうかを指定します。

Auto

ロボットによってマウントされたボリュームの手動マウント解除が要求された場合に、制御データセットからボリュームを自動的に削除することを示します。*Auto* が HSC の初期値です。

Manual

ロボットによってマウントされたボリュームの手動マウント解除が要求された場合に制御データセットからボリュームを削除するかどうかを決定するようオペレータに促すメッセージを発行するように、HSC に指示します。

Dismount を *Manual* に設定することは、LSM を短時間だけオフラインに変更する場合に役立ちます。この場合、オペレータは、マウント解除メッセージに応答せず、ボリュームがトランスポートにマウントされたままにすることを選択できます。LSM がオンラインに変更されると、HSC が未処理のマウント解除要求を再駆動し、その結果、ボリュームがロボットによってマウント解除され、ストレージセル内に配置されることとなります。

Ejctauto

最大使用回数を超えたクリーニングカートリッジの自動取り出しを制御します。

マルチホスト環境では、特定の ACS の *EJctauto* 設定はすべてのホストで同じ値にすべきです。*EJctauto* のステータスは、異なるホスト上の HSC 間で共有されません。

ON

(*MNTD MAXclean* または *VOLATTR MAXclean* パラメータによって指定される) 使用可能回数を超えたクリーニングカートリッジを自動的に取り出すよう、HSC に指示します。*ON* が HSC の初期値です。

MSg

使用上限を超えたカートリッジを ACS から取り出すか、それともそのクリーニングカートリッジを ACS 内にとどめるかをオペレータに尋ねるプロンプトを表示するよう、HSC に指示します。

Off

使用上限を超えたクリーニングカートリッジを ACS 内にとどめるよう、HSC に指示します。クリーニングカートリッジの `volser` を表示するとともにこのアクションについて説明するメッセージが、発行されます。

ACS(*acs-id*)

オプションで、指定された ACS だけに `EJctauto` 設定が適用されることを指定します。このパラメータを省略した場合、`EJctauto` 設定はすべての ACS に影響を与えます。

`acs-id` は、ACS を識別する 00 から 99 までの 10 進値を示します。1 桁の `acs-id` を入力できます。

Float

マウント時にパススルーが必要であったボリュームのマウント解除時に、HSC が新しいホームセル位置を選択すべきかどうかを指定します。

マルチホスト環境では、特定の ACS の `Float` 設定はすべてのホストで同じ値にすべきです。`Float` のステータスは、異なるホスト上の HSC 間で共有されません。

ON

マウント解除が発生した LSM 内でボリュームの新しいホームセル位置を選択するよう、HSC に指示します (使用可能なセルが存在する場合)。使用可能なセルが新しい LSM 内に存在しない場合は、空きセルのあるもっとも近い LSM 内で位置が選択されますが、ボリュームを元のホームセルに強制的に移動させることも可能です。`Float` を `ON` に設定すると、パススルー操作の回数が減ります。`ON` が HSC の初期値です。

Off

ボリュームのマウント解除時にボリュームを元のホームセル位置に戻すよう、HSC に指示します。

注:

リモート ACS/CDS のリンクがダウンした状況で `MNTD Float Off` コマンドを使えば、カートリッジが元のホームセル位置に確実に戻るため、制御データセットで整合性の問題が生じません。リモートライブラリの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『*ELS レガシーインタフェースリファレンス*』を参照してください。

ACS(*acs-id*)

オプションで、この ACS だけに Float 設定が適用されることを指定します。ACS パラメータを省略した場合、Float 設定はすべての ACS に影響を与えます。

acs-id は、ACS を識別する 00 から 99 までの 10 進値を示します。1 桁の *acs-id* を入力できます。

MAXclean(*count*)

クリーニングカートリッジの最大使用可能回数を指定します。

- 最大使用回数を超えたクリーニングカートリッジがどのように処理されるかは、ACS で有効になっている *EJctauto* 設定によって制御されます。
- マルチホスト環境では、*MAXclean* 設定はすべてのホストで同じ値にすべきです。*MAXclean* の値は、異なるホスト上の HSC 間で共有されません。
- クリーニングカートリッジの使用可能回数については、カートリッジベンダーの推奨に従ってください。

count は、1 から 32767 の範囲の 10 進値を示します。HSC の初期値は 100 です。

count の値は、ライブラリ内のすべてのクリーニングカートリッジに適用されます。使用回数がまだ *count* 未満であるようなクリーニングカートリッジで、ACS 内のトランスポートと互換性のあるものが存在している場合、使用回数が *count* に達したクリーニングカートリッジは選択されません。*MNTD EJctauto* の設定によっては、使用上限を超えたクリーニングカートリッジが自動的に取り出される場合があります。

MMount

手動モード時にマウントメッセージが発行されるかどうかを指定します。オペレータはこれにより、手動でマウントされたボリュームを制御データセット内に維持できます。

Delete

D と応答して制御データセットからボリュームを削除するか、あるいは *I* と応答してマウント要求を無視するようにオペレータに求める手動モードマウントメッセージを生成します。*Delete* が HSC の初期値です。

Reply

M と応答してメッセージを *DOM* し、制御データセット内でボリュームを維持するか、あるいは *I* と応答してマウント要求を無視するようにオペレータに求める手動モードマウントメッセージを生成します。

注:

MNTD MMount(Reply) が指定された場合の、手動モードマウント解除に対する HSC のアクションは、*MNTD Dismount* 設定によって決まります。

PASSTHRU(count)

SCRDISM(ARCHIVE) が指定された場合にカートリッジのアーカイブのために発生可能なパススルーの最大回数を指定します。

count は、カートリッジのアーカイブで許可されるパススルーの最大回数を示します。指定可能な値は、1 から 99 までの範囲の 10 進数です。HSC の初期値は 1 です。

Scratch

手動モード LSM でのスクラッチマウント要求を満たす際に、スクラッチボリュームがどのようにして選択されるかを決定します。

Manual

手動モード LSM でスクラッチマウントが要求されたときにはオペレータがスクラッチボリュームを選択する必要があることを指定します。*Manual* が HSC の初期値です。

Auto

手動モード LSM でスクラッチマウントが要求されたときにスクラッチボリュームを選択するよう、HSC に指示します。*Scratch* が *Auto* に設定された場合、HSC 手動マウントメッセージは、まるでそれが特定のボリュームに対する要求であるかのように、カートリッジの *VOLSER* とセル位置を表示します。

SCRDISM

9310 または 9360 LSM 内でマウントされたスクラッチボリュームを、マウント解除時により大規模または低速な LSM に自動的にアーカイブするかどうかを指定します。

注:

9740 LSM はほかのどのタイプの LSM にも接続できません。したがって、*SCRDISM* は、9740 を含む ACS でのマウントには影響を与えません。

CURRENT

9310 または 9360 LSM 内でマウントされたスクラッチボリュームが、*MNTD Float* パラメータの設定に従ってマウント解除されるべきであることを示します。*CURRENT* が HSC の初期値です。

ARCHIVE

9310 または 9360 LSM 内でマウントされたスクラッチボリュームが、より大規模または低速なストレージデバイス内にアーカイブされるべきであることを示します。パススルーの回数が *PASSTHRU* を超えていない場合にのみ、

アーカイブが発生します。カートリッジのアーカイブは次のように発生します。

- 9360 から 9310 または 4410 へ
- 9310 から 4410 へ。

SCRDISM(ARCHIVE) は、*MNTD Float* パラメータの設定をオーバーライドします。

ARCHIVE パラメータは、9740 LSM を含む ACS でのマウント解除には影響を与えません。

HOSTID(host-id)

オプションで、*MNTD* コマンドに関連付けられたホストを特定します。これを使えば、特定の起動オプションを特定のホストに制限できます。

このパラメータを指定しなかった場合、*PARMLIB* にアクセスするすべてのホストでコマンドが実行されます。

hostid は、ホスト ID (JES の SMF システム識別子) を示します。

注:

hostid が、コマンドを実行しているホストに一致しなかった場合、メッセージが発行され、コマンドは処理されません。

MODify

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

MODify コマンドは次の機能を実行します。

- 発行元のホストにかかわらず、すべてのホストに対し、CAP または LSM をオンラインまたはオフラインに変更する

- SL3000 または SL8500 ライブラリの動的ハードウェア再構成を開始する
- *SLILIBRY FUTRACS* パラメータを使って事前に割り当てられた CDS 内の SL3000 または SL8500 の ACS 定義を追加、削除、または更新する

SL3000 および SL8500 ライブラリの動的ハードウェア再構成は、ドライブや拡張パネルの動的な追加や削除を可能にする Near Continuous Operation (NCO) の一部です。

動的ハードウェア再構成をアクティブにするには、*MODify CONFIG* コマンドを入力してください。

Near Continuous Operation や動的ハードウェア再構成の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。

注意:

MODify CONFIG を入力する前に、CDS のバックアップを実行してください。

LIBGEN、*MERGEcds*、および *HSC* の再起動を実行せずに SL8500 構成から LSM を削除することも可能です。ただしこの操作には、Oracle StorageTek サポートによる補助が必要です。

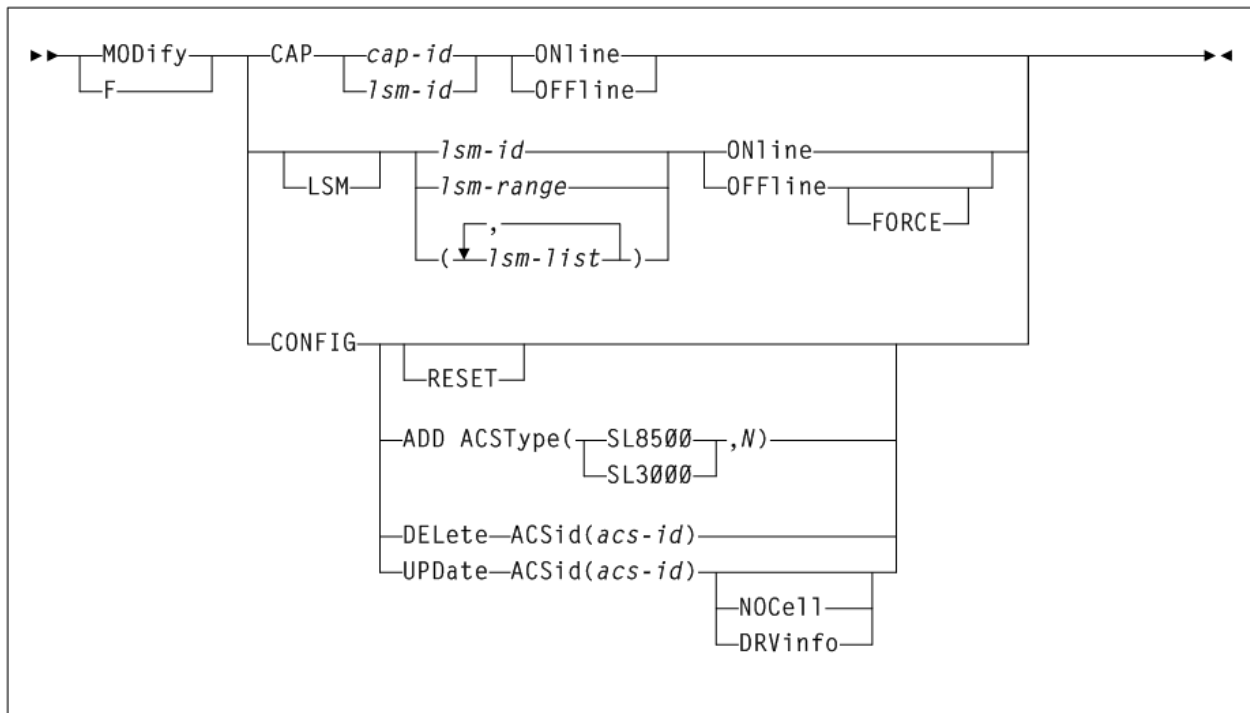
MODify コマンドと *Vary* コマンドの相違点を次に示します。

- *MODify* コマンドは、すべてのホストに対してグローバルに、指定された CAP または LSM をオンライン/オフラインにします。
 - オフラインに変更された CAP は、取り出し/挿入処理に使用できません。
 - オフラインに変更された LSM は、手動モードで操作する必要があります。
 - 手動モードの LSM でも、ホストからの診断要求には応答できます。
- *Vary* コマンドは、1つの LMU に対し、あるホストステーションをオンライン/オフラインにします。
 - すべての LMU ステーションがオフラインに変更されたホストは、その LMU に接続されたすべての LSM から切断されます。
 - 切断されたホストのカートリッジ処理を、引き続き LSM を使って半自動化するには、接続されたホストから *HSC* コマンドを発行します。

構文

図3.16 「*CONFIG CLUSTER* 文の構文」に *MODify* コマンドの構文を示します。

図3.120 MODify コマンドの構文



パラメータ

図3.120 「MODify コマンドの構文」に示すように、MODify コマンドには次のパラメータが含まれます。

CAP

すべてのホストに対して CAP をオンライン/オフラインに変更することを指定します。

cap-id

オンライン/オフラインに変更する特定の CAP。cap-id の形式は AA:LL:CC です。ここで、AA:LL は LSMid を示し、CC は CAP を示します。有効な値のリストについては、「CAPid」を参照してください。

lsm-id

オンライン/オフラインに変更する標準の CAP。lsm-id の形式は AA:LL です。ここで、AA は ACSid (10 進数 00-99) を示し、LL は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

ONline

すべてのホストに対して CAP をオンラインに変更することを指定します。CAP がオンラインに変更されると、HSC は、その CAP がオフラインに変更された際に有効になっていた CAP モード (自動または手動) を復元しようとします。

OFFline

すべてのホストに対して CAP をオフラインに変更することを指定します。オフラインに変更された CAP は使用不可能な状態となり、割り当てが禁止されます。CAP のモード (自動または手動) は制御データセット内に保持されます。

- CAP をオフラインに変更する際には、必ず *CAP* パラメータを指定してください。LSM がオンラインの状態では、CAP をオフラインに変更するための *lsmid* は指定したが、CAP パラメータを指定しなかった場合、LSM がオフラインに変更されてしまいます。
- このコマンドは緊急時にのみ使用してください。CAP が別のアクティブなプロセスによって使用されていないことを確認してください。アクティブな CAP に対して *MODify* コマンドを発行すると、その CAP を使用しているプロセスがエラーを受信する可能性があります。

LSM

オプションで、すべてのホストに対して 1 つ以上の LSM をオンライン/オフラインに変更することを示します。

lsmid*、*lsmrange*、または *lsmlist

すべてのホストに対してオンライン/オフラインに変更する、1 つ以上の LSM。 *lsmlist* の各要素は、単一の *lsm-id*、*lsm-range* のいずれかになります。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

lsm-id の形式は *AA:LL* です。ここで、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

ONline

すべてのホストに対して LSM をオンラインに変更することを指定します。オンラインに変更された LSM は、自動モードになります。LSM がオンラインに変更されると、LSM がオフラインに変更される前に自動モードだった CAP は、再度自動モード (アンロック状態) になります。

OFFline

すべてのホストに対して LSM をオフラインに変更することを指定します。オフラインに変更された LSM は、手動モードになります。手動モード LSM 内の CAP は使用できませんが、各 CAP の自動/手動状態は保持されます。

FORCE

LSM をすぐにオフラインに変更することを指定します。FORCE は必ず、LSM をオフラインに変更するための *OFFline* パラメータと一緒に使用されます。

CONFIG

オプションで、SL3000 および SL8500 ライブラリ向けのハードウェア再構成処理の Near Continuous Operation (NCO) を開始します。これはシステムレベルの変更であり、CDS に接続されているすべてのホストに伝播されます。

Near Continuous Operation や動的ハードウェア再構成の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。MODify CONFIG を入力する前に、CDS のバックアップを実行してください。

パラメータなし

オプションで、SL3000 および SL8500 ライブラリ向けのハードウェア再構成処理の Near Continuous Operation (NCO) を開始します。これはシステムレベルの変更であり、CDS に接続されているすべてのホストに伝播されます。

- Near Continuous Operation や動的ハードウェア再構成の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。
- MODify CONFIG を入力する前に、CDS のバックアップを実行してください。

RESET

ハードウェア構成の実行中に障害が発生している可能性のあるすべてのホストの内部フラグをリセットします。RESET はさらに、ハードウェアおよびソフトウェアの比較フェーズ時に、HSC コンプレックスのすべてのアクティブな動的ハードウェア再構成を終了させます。障害の発生していたホストが回復すると、自動的に新しいハードウェア構成が認識および実装されます。

リセット機能は、障害の発生しているホストをリセットするためだけのものであり、実際の動的ハードウェア再構成処理を開始することはありません。動的ハードウェア再構成を起動するには、RESET パラメータなしの MODify CONFIG コマンドを別途実行する必要があります。

ADD

1 つ以上の ACS を HSC 構成に追加するための NCO 構成変更を開始します。追加された ACS は、ACSType パラメータで指定されたライブラリタイプのライブラリ特性を備えます。追加可能な ACS の数は、SLILIBRY FUTRACS パラメータに指定された数値によって制限されます。

ACSType

構成変更を使用するライブラリタイプを指定します。オプションは SL3000、SL8500 のいずれかです。

さらに、追加する ACS の数 (1-9) を表す *N* (コンマで区切る) を指定することもできます。このキーワードが指定されなかった場合、1 がデフォルトになります。

DELeTe ACSid(*acs-id*)

ACSid(*acs-id*) パラメータに指定された切断済み ACS を削除するための NCO 構成変更を開始します。

ACSid が削除されると、ACS が *SLIACS* 文で定義されたものである場合には、ACS を再度追加することはできません。ACS が、以前の *MODify CONFIG ADD* コマンドによって追加されたものである場合、ACS を再度追加できます。

- ACSid がもっとも大きな番号の ACS でない場合、ACS は「未割り当て」のステータスになります。
- ACSid がもっとも大きな番号の ACS である場合、ACS は完全に削除されるので、別の ACSType として再度追加できます。
- ACSid がもっとも大きな番号の ACS でない場合、ACS は未割り当てのステータスを持つプレースホルダーとなり、同じ ACSType として再度追加できます。

UPDATE ACSid(acs-id)

ACSid(acs-id) パラメータに指定された ACS 構成を更新するための NCO 構成変更を開始します。これはシステムレベルの変更であり、CDS に接続されているほかのホストにもその変更内容が通知されます。

パラメータ *ADD* と *DELETE* は、*LIBGEN* 処理中に *SLILIBRY* マクロ内で *FUTRACS* パラメータが指定された場合にのみ有効になります。

NOCcell

ACS 内でのセル検出をバイパスするため、*ACS acs-id* と一緒に使用されます。このオプションは、ドライブまたは *CAP* 変更のためだけに使用され、再構成時間を短縮します。

DRVinfo

ある ACS のすべてのドライブのドライブ情報 (シリアル番号やワールドワイド名など) を更新するため、*ACS acs-id* と一緒に使用されます。このオプションは、不良ドライブを同じタイプのドライブに交換する場合にのみ使用されます。

注:

このコマンドオプションは起動されるとすぐに実行されるので、ライブラリのアクティビティを中断しません。

MOUNT

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

パラメータ

図3.119 「MNTD コマンドの構文」 に示すように、*Mount* コマンドには次のパラメータが含まれます。

パラメータ (特定のボリュームをトランスポートにマウントするには)

volser

マウントするボリュームを指定します。

devaddr

ボリュームのマウント先となるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、指定されたホスト (JES の SMF システム識別子) に対して定義されたデバイスアドレスにボリュームをマウントすることを示します。

注:

指定された *host-id* は、デバイスアドレス解決にのみ使用されます。サブプール検証用の *host-id* は、コマンドの発行元から取得されます。

Readonly

ボリュームが読み取り専用アクセス用にマウントされることを示します。

hostid は指定しないが *Readonly* は指定する場合、オペランドの欠落を示すために、*Readonly* の直後にコンマを入力する必要があります。例:

```
MOUNT 123456 0B0,,READONLY
```

ForceRT

オプションで、異なる記録方式のデバイスにボリュームをマウントできるようにします。ボリュームのメディアタイプは、デバイスとの互換性がある必要があります。高密度を読み取れないドライブに、高密度で書き込まれているボリュームをマウントできるので、注意が必要です。

スクラッチボリュームをトランスポートにマウントするには

SCRATCH

マウントするスクラッチボリュームを指定します。

PRIVAT

マウントするスクラッチボリュームを指定します。

devaddr

ボリュームのマウント先となるトランスポートのデバイスアドレスを指定します。

host-id

オプションで、指定されたホスト (JES の SMF システム識別子) に対して定義されたデバイスアドレスにボリュームをマウントすることを示します。

注:

指定された *host-id* はデバイスアドレス解決にのみ使用されます。サブプール検証用の *host-id* はコマンドの発行元から取得されます。

SUBpool(subpool-name)

オプションで、スクラッチボリュームがスクラッチサブプールから取得されることを示します。このパラメータを指定しなかった場合の動作は、スクラッチプールがどのように定義されたかにより異なります。

- *VOLPARM* が指定されている場合、ACS 内のすべてのスクラッチテープのうち、*VOLPARM* に指定されたが名前付きサブプールには割り当てられなかったものを含む *DEFAULTPOOL* から、ボリュームが選択されます。
- *VOLPARM* が指定されていない場合 (つまり、*VOLATTR* または *UX03* スクラッチプール定義の場合)、ACS 内のすべてのスクラッチテープ (非サブプールボリュームとサブプールボリュームの両方) を含む *subpool-0* からボリュームが選択されます。

MEDia(media-type)

オプションで、スクラッチボリュームのメディアのタイプを指定します。指定されたメディアは、要求された *devaddr* と互換性がある必要があります。

media-type は、メディアタイプを示します。

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、およびMODELの値」](#)を参照してください。

注:

MEDia を指定しなかった場合、メディアタイプにかかわらず次のスクラッチカートリッジが選択されます。

VTV を VTD にマウントし、オプションで管理クラスを VTV に割り当てるには

volser

特定の VTV の *volser* を指定します。volser は特定の VTV の *volser* を示します。

SCRATCH

スクラッチ VTV 属性 (*SCRATCH*) を指定します。

devaddr

VTV のマウントに使用する VTD の MSP デバイスアドレスを指定します。

MGMTclas(mgmt-class-name)

オプションで、*MGMTclas* 制御文で定義された管理クラスを指定します。

mgmt-class-name は管理クラス名を示します。

MOVE

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

MOVE コマンドはボリュームを、同じ LSM 内の指定された位置に移動するか、ACS 内のほかの LSM に移動します。

注:

- すべての LSM へのボリュームの移動は、先着順に実行されます。ボリュームが移動されるにつれて、LSM がフル状態となり、その LSM の移動要求が満たされます。移動要求は引き続き、要求で指定された次の LSM に対して、指定されたボリュームの移動を行います。使用可能なすべてのセルにテープカートリッジが含まれていれば、LSM はフル状態になっています。移動要求の全体が完了するかすべての移動先 LSM がフル状態になるまで、この処理が継続されます。
 - 移動は一度に 1 つずつ実行されますが、これは、ほかの LSM アクティビティも可能にするためです。
-

構文

図3.18 「CONFIG HOST 文の構文」に *MOVE* コマンドの構文を示します。

Row(row-list)

移動元となる行のリストを指定します。このパラメータは *Panel* パラメータと一緒に指定する必要があります。

rowlist は、1桁または2桁の行番号、または行番号のリストを示します。指定可能な最大のリストは、4行です。ただし、*Column* パラメータでリストを指定した場合、このパラメータにリストを含めることはできません。範囲は有効ではありません。

rowlist の各要素は、LSM タイプに固有の1桁または2桁の10進数です。有効な値のリストについては、「[行](#)」を参照してください。

Column(column-list)

移動元となる列のリストを指定します。このパラメータはオプションであり、*Row* パラメータと一緒に指定する必要があります。このパラメータを指定しなかった場合、指定された行のすべての列が移動されます。

columnlist は、1桁または2桁の列番号、または列番号のリストを示します。*Row* パラメータでリストを指定した場合、このパラメータにリストを含めることはできません。範囲は有効ではありません。

columnlist の各要素は、LSM タイプに固有の1桁または2桁の10進数です。有効な値のリストについては、「[列](#)」を参照してください。

Volume(vol-list)

オプションで、移動するボリュームを指定します。

vollist は、ボリュームのリスト (最大 300 個指定可能) またはボリュームの範囲を示します。*Volume* パラメータを指定する場合、*F1sm* パラメータは指定できません。

TLsm(lsm-list)

ターゲットの LSM を指定します。これは必須パラメータです。LSM は *AA:LL* として指定します。ここで、*AA* は *ACSid*、*LL* は *LSMid* を示します。*ACSid*:

- *F1sm* パラメータの「*aa*」(*ACSid*) と同一でなければいけません。
- *Volume* パラメータを指定した場合、そのボリュームが存在している ACS と同じでなければいけません。

lsm は、LSM のリスト (最大 24 個指定可能) を示します。範囲は無効です。*LSMid* (*lsm-id*) は、*ACSid* (10 進数 00-99) と LSM 番号 (10 進数 00-99) をコロン (:) で区切ったものになります。

TPanel(panel)

オプションで、カートリッジの移動先となる、*TLsm* 内のパネルを指定します。

panel は、1桁または2桁のパネル番号を示します。このパラメータにリストや範囲を含めることはできません。有効な値のリストについては、「[パネル](#)」を参照してください。

MVCDRain

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

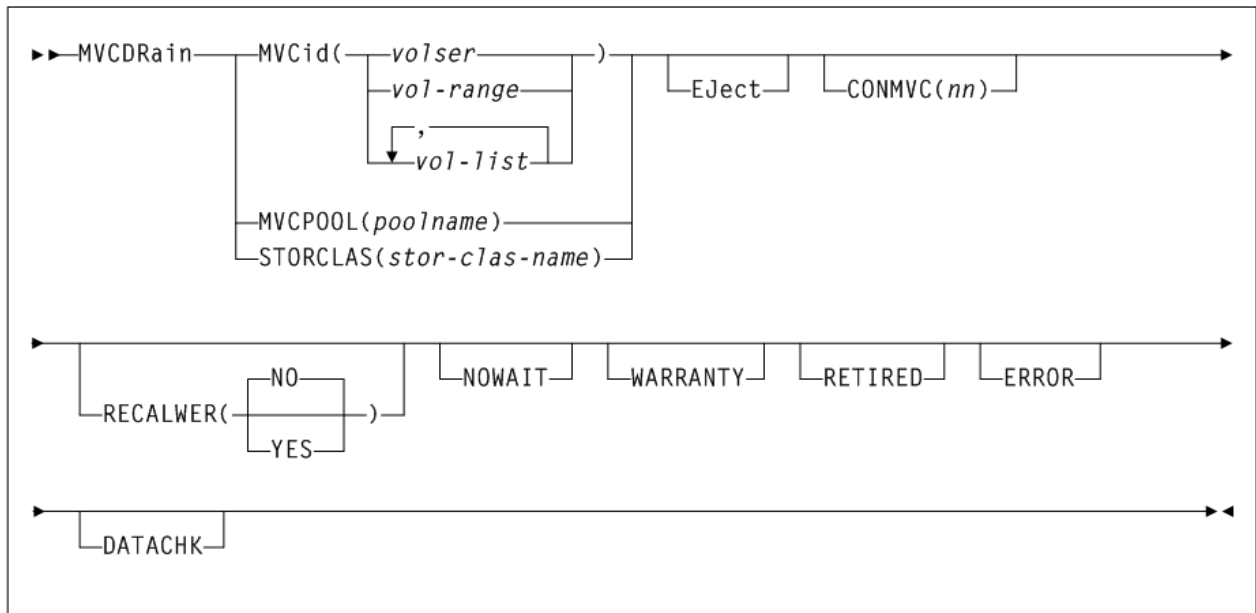
説明

MVCDRain コマンドは、ある MVC から現在の VTV とスクラッチ VTV のすべてをリコールするほか、オプションでその MVC を、ライブラリから物理的に取り出すことなく「仮想的」に取り出すことで、VSM がその MVC を使用できないようにします。このコマンドを使用すると、*CONFIG RECLAIM CONMVC* 設定をオーバーライドできます。

構文

[図3.123 「MVCDRain コマンドの構文」](#) に *MVCDRain* コマンドの構文を示します。

図3.123 MVCDRain コマンドの構文



パラメータ

図3.123 「MVCDRain コマンドの構文」に示すように、*MVCDRain* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MVCid(volser、vol-range、または vol-list)

指定された *volser* を持つ 1 つ以上の MVC をドレインします。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は、1 つ以上の MVC (最大 50 個) の *volser* を示します。

Eject

オプションで、VTCS が MVC を「仮想的」に取り出すことを指定します (MVC は出力に使用されない)。

VMC の場合:

- *MVCDRAIN* で *EJECT* パラメータを指定した場合、VTV が物理的に削除されます。

DRCHKPT ユーティリティまたは *CONFIG RECLAIM PROTECT* パラメータを使って vMVC の CDS バックアップコンテンツを保護してから *MVCDRAIN EJECT* コマンドを発行すると、現在の CDS バックアップを vMVC コンテンツの DR ベースラインとして使用できなくなります。

- **MVCDRAIN** で **EJECT** パラメータを指定しなかった場合、**VTV** は削除されませんが、**VMVC** 上の **VTV** が表示されないように **CDS** レコードが更新されます。

CONMVC(nn)

オプションで、ドレインとリクレイムの両方で **VTCS** が同時に処理する **MVC** の最大数を指定します。

nn は **MVC** の数を示します。有効な値は 1 - 99 です。指定しなかった場合のデフォルトは、**CONFIG RECLAIM** 文で指定された **CONMVC** 値になります。

MVCPOOL(poolname)

指定された名前付き **MVC** プール内の **MVC** をドレインします。

pool-name は、**MVCPool** 制御文で定義された **MVC** プールの名前を示します。詳細は、Oracle の **ELS** のドキュメント『**ELS** レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

STORCLAS(storclas-name)

指定されたストレージクラスの **MVC** をドレインします。

stor-class-name は、**STORclas** 制御文で定義されたストレージクラスの名前を示します。詳細については、「**STORclas** 制御文」を参照してください。

RECALWER

オプションで、**VTCS** が読み取りデータチェックを使用して **VTV** をリコールするかどうかを指定します。

NO

読み取りデータチェックを使用して **VTV** をリコールしません。これがデフォルトです。

YES

読み取りデータチェックを使用して **VTV** をリコールします。

NOWAIT

オプションで、ユーティリティーが要求送信後に処理の完了を待たずにリターンすることを指定します。

WARRANTY

オプションで、保証期限の切れた **MVC** (**MVC** レポートの **Status T** 列に *w* と表示されたもの) を選択します。

RETIRED

オプションで、耐用期限の切れた **MVC** (**MVC** レポートの **Status T** 列に *T* と表示されたもの) を選択します。

ERROR

オプションで、エラーのある **MVC** (**MVC** レポートの **Status B** 列に *B* と表示されたもの) を選択します。

DATACHK

オプションで、データチェックを含む MVC (MVC レポートの **Status D** 列に **D** と表示されたもの) を選択します。

MVCMAINT**インタフェース:**

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

- *RENVTSS* 指定時はアクティブな HSC/VTCS が必要
- 更新対象の CDS を使用しているアクティブホストが(どの LPAR 上にも)存在していない場合は、バッチ専用モードで実行可能

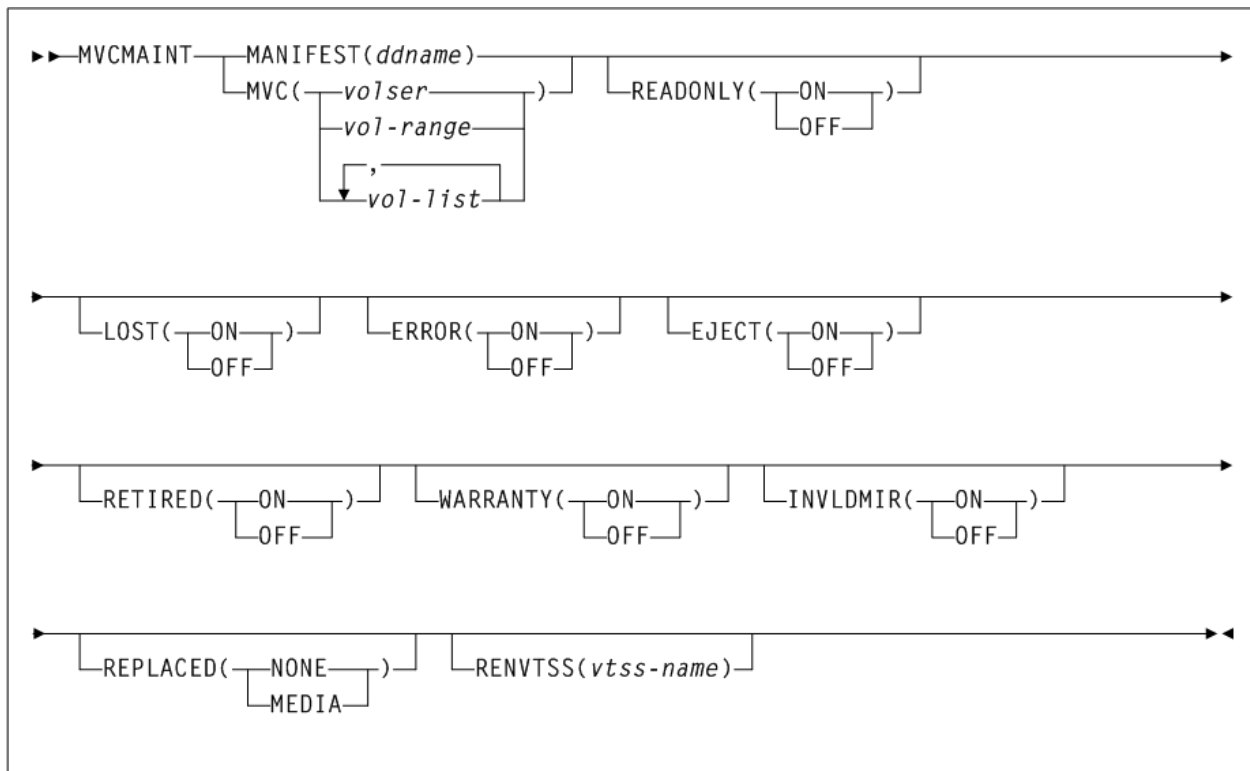
説明

MVCMAINT コマンドは、MVC の属性を指定します。

構文

[図3.124 「MVCMAINT コマンドの構文」](#) に *MVCMAINT* コマンドの構文を示します。

図3.124 MVCMAINT コマンドの構文



パラメータ

図3.124 「MVCMAINT コマンドの構文」 に示すように、MVCMAINT コマンドには次のパラメータが含まれます。

MANIFEST(ddname)

マニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。マージされた 1 つのマニフェストファイルを指定することも、複数のマニフェストファイルを指定することもできます。

ddname は、マニフェストファイルの DD 名を示します。デフォルトは *MANIFEST* です。

指定された場合、VTCS は *MANIFEST* ファイルを読み取り、更新対象の MVC (マニフェストファイル内のすべての MVC) を見つけます。次に VTCS は、残りのパラメータ (*LOST*、*READONLY* など) で指定されるアクションを使って CDS 内の MVC を更新します。

MVC(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、読み取り/書き込み属性が変更される MVC を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は1つ以上の MVC の *volser* を示します。最大 50 個の MVC を指定できます。

READONLY

オプションで、MVC の読み取り/書き込みステータスを設定します。

ON

MVC は読み取り専用です。

OFF

MVC は書き込み可能です。

LOST

オプションで、MVC の「損失」ステータスを設定します。

ON

MVC で損失が発生しています。

OFF

MVC で損失が発生していません。

ERROR

オプションで、MVC のエラーステータスを設定します。

ON

MVC はエラー状態になっています。

OFF

MVC はエラー状態になっていません。

EJECT

オプションで、MVC の「論理取り出し」ステータスを設定します。

ON

MVC が「論理的に取り出」されています。

OFF

MVC が「論理的に取り出」されていません。

RETIRED

オプションで、MVC の「耐用期限切れ」ステータスを設定します。

ON

MVC の耐用期限が切れています。

OFF

MVC は耐用期限は切れていませんが、引き続き「保証期限切れ」の状態にあります (引き続き出力用として選択可能)。

WARRANTY

オプションで、MVC の「保証期限切れ」ステータスを設定します。

ON

MVC の保証期限は切れています。

OFF

MVC の保証期限は切れていません。

注:

WARRANTY と *RETIRED* は相互排他関係にあります。

INVLDMIR

オプションで、MVC の無効 MIR ステータスを設定します。

ON

MIR が無効です。

OFF

MIR は無効ではありません。

REPLACED

オプションで、MVC が物理的に交換されたあとで MVC レコードの各種 MVC フィールドを更新します。

NONE

MVC レコードは更新されません。

MEDIA

次の MVC フィールドが更新されます。

- **MVC media type** がクリアされます
- **Count of times mounted** がゼロに設定されます
- **Warranty Expired Flag** がオフに設定されます
- **Invalid MIR Flag** がオフに設定されます
- **Retired Flag** がオフに設定されます
- **Broke/Error Flag** がオフに設定されます
- **Lost Flag** がオフに設定されます
- **Data Check Flag** がオフに設定されます
- **VTSS Last Written By** がクリアされます
- **Date/Time MVC was last written to** がクリアされます
- **Storage Class** がクリアされます
- **Date/Time of Last Drain/Reclaim** がクリアされます
- **Date/Time of Migrate from Empty State** がクリアされます
- **Date/Time the MVC was last mounted** がクリアされます

注:

このパラメータを使用する場合、MVC が空であり (何も含んでおらず)、かつアンマウント状態でなければいけません。 *REPLACED* は、 *LOST*、 *ERROR*、 *EJECT*、 *RETIRED*、 *WARRANTY*、 *INVLDMIR* の各パラメータと相互排他関係にあります。

RENVTSS(vtss-name)

オプションで、所有元 VTSS の名前を *vtss-name* に設定します。

vtss-name は新しい VTSS 名を示します。これは、構成に含まれる既存の VTSS の名前であればいけません。

注:

RENVTSS を使用するには、MVCMAINT の実行元となるホストが、所有元の VTSS にアクセスできる必要があります。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明した必須の JCL 定義文のほかに、次の定義文も MVCMAINT JCL に適用されます。

マニフェストファイルの DD

マニフェストファイルの DD 文。

注:

- MVCMAINT が実行される LPAR 上の HSC/VTCS が CDS を使用している場合、MVCMAINT JCL で更新対象の CDS を指定できます。指定した場合、MVCMAINT JCL で指定された CDS データセットが、HSC/VTCS で使用されている CDS データセットと一致する必要があります。
 - MVCMAINT がバッチ専用モードで実行される場合 (つまり、CDS を使用するアクティブなホストが (どの LPAR 上にも) 存在しない場合)、MVCMAINT JCL で更新対象の CDS を指定する必要があります。
-

リターンコード

MVCMAINT コマンドには次のリターンコードが含まれます。

- 0 は、MVC で要求されたすべての更新が正常に終了したことを示します。
- 4 は、MVC で要求された更新の 1 つが失敗し、要求されたその他の更新の 1 つ以上が正常に終了したことを示します。
- 8 は、MVC で要求された更新がすべて失敗したことを示します。

注:

MVCMAINT ジョブの最終的なリターンコードは、更新されたいずれかの単一の MVC によって生成された最大のリターンコードになります。たとえば、5 つの MVC がリターンコード 0 を生成し、1 つの MVC がリターンコード 8 を生成した場合、最終的なリターンコードは 8 になります。

MVCMMAINT レポート

次のコマンドによって生成される *MVCMMAINT* レポートの例を、次に示します。

```
MVCMMAINT MVC(022577-022579) READONLY=OFF
```

例3.49 MVCMMAINT レポート

```
MVC          RC
022577      04
022578      04
022579      04
```

MVCMMAINT EXCEPTION REPORT

```
*SLS6737I MVC 022578 ALREADY HAS READONLY(OFF); REQUEST IGNORED
*SLS6737I MVC 022579 ALREADY HAS READONLY(OFF); REQUEST IGNORED
SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
```

MVC	Number	Size	Mount	<----Status---->	<-----Last Mounted----->		
Volser	VTVs	%Used %Avail %Frag (GB)	Count	I B L D R U T M	Date	Time	VTSS ACSID
Owner/							
Consolidate Time							
022577	0	0.00 99.96 0.04 .4	1	I - - - - C - -	2012Feb04	09:14:23	00
S1							
022578	0	0.00 99.96 0.04 .4	4	I - - - - U - -	2012Mar08	10:11:04	VTSS16 00
S1							
022579	0	0.00 99.96 0.04 .4	4	I - - - - U - -	2012Mar08	10:11:04	00
S1							
3	INITIALIZED MVCS PROCESSED						
0	NON_INITIALIZED MVCS PROCESSED						
0	NON-LIBRARY MVCS PROCESSED						

例3.49 「MVCMMAINT レポート」 に示すように、*MVCMMAINT* レポートには次の情報が含まれます。

- 処理された MVC のステータス - volser とリターンコード (0 - すべての更新が完了、4 - 一部の更新が完了、8 - すべての更新が未完了)。
- すべての未完了更新の理由を示す例外レポート。
- MVC サマリーレポート。

MVCPLRPT

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

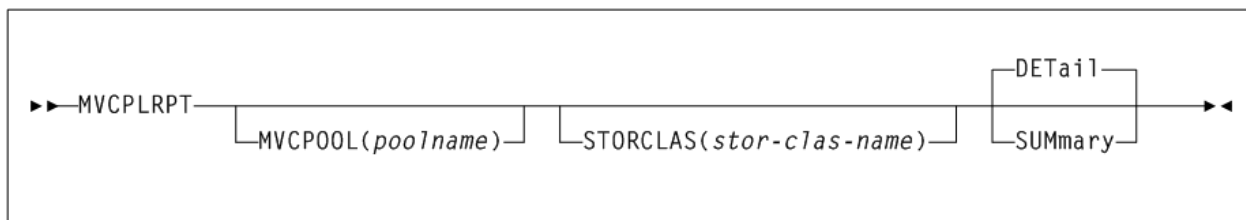
説明

MVCPLRPT コマンドは、名前付き MVC プールまたは MVC ストレージクラスの状態を報告します。

構文

図3.125 「*MVCPLRPT* コマンドの構文」 に *MVCPLRPT* コマンドの構文を示します。

図3.125 *MVCPLRPT* コマンドの構文



パラメータ

図3.125 「*MVCPLRPT* コマンドの構文」 に示すように、*MVCPLRPT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MVCPOOL(poolname)

オプションで、指定された名前付き MVC プールの MVC のレポートを作成します。

poolname は *MVCPool* 制御文で定義した MVC プールの名前を示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

すべての名前付き MVC プール (*DEFAULTPOOL* を含む) のレポートを作成するには、*ALL* を指定するか、*MVCPOOL* パラメータを省略します。

STORCLAS(storclas-name)

オプションで、指定されたストレージクラスの MVC のレポートを作成します。

stor-clas-name は、*STORclas* 制御文で定義されたストレージクラスの名前を示します。詳細については、付録A 「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。まだメディアの割り当て先となっている、かつて存在していたストレージクラスを指定することもできます。

すべてのストレージクラスのレポートを作成するには、*ALL* を指定するか、*STORCLAS* パラメータ値を省略します。

STORCLAS パラメータを使えば、*MVCPPOOL* から報告された MVC をフィルタリングできます。つまり、ストレージクラスが一致する MVC のみが報告されません。*STORCLAS* パラメータが指定された場合、サマリーカウントセクションで、検出されたストレージクラスごと (パラメータ値 *ALL* が指定されたか値が指定されなかった場合)、または指定された値に一致する MVC が存在するメディアタイプごとにストレージクラス小計が表示されます。

DETail

MVC 詳細行を報告します (デフォルト)。

SUMmary

サマリーカウントのみを報告します。

名前付き MVC プールのレポート

名前付き MVC プール *CUST1POOL* のレポートの例を、次に示します。

例3.50 名前付き MVC プールのレポート

MVC Volser Owner/	Number VTVs	%Used	%Avail	%Frag	Size (GB)	Mount Count	<----Status----> I B L D R U T M	<-----Last Mounted-----> Date	Time	VTSS	ACSID
Consolidate Time											
EVS99	200	10.80	84.57	4.63	2	1	I - - - U W -	2012Feb04	09:14:23	VTSS8	00
S1											
EVS100	0	0.00	100.00	0.00	UNKNOWN	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS101	1009	99.00	0.00	1.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS102	5	8.25	91.75	0.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS103	EXPVTV	0.12	99.88	0.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS104	0	0.00	100.00	0.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS105	200	10.80	84.57	4.63	10.2	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS106	200	0.00	100.00	0.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											
EVS107	200	0.00	100.00	0.00	.4	4	I - - - R U T -	2012Mar08	10:11:04	VTSS8	00
S1											

SUMMARY FOR MVCPPOOL=CUST1POOL

ACS	MEDIA	FREE -MVCs		RECLAIM-MVCs		USED MVCs	
		VOLS	GB	VOLS	GB	VOLS	GB
00	ECART	120	96	2	0.5	90	45
00	STK1R	30	600	1	3.5	25	350
00	TOTAL	150	696	3	4.0	115	395

SUMMARY OF MVCS BY USAGE:

```
137 TOTAL MVCS PROCESSED
135 INITIALIZED MVCS PROCESSED
2 UN-INITIALIZED MVCS PROCESSE
41 FREE MVCS AVAILABLE
0 MVCS WITH STATUS AUDIT
6 MVCS WITH STATUS DRAIN
4 MVCS WITH STATUS EXPORT
0 MVCS MARKED EJECTED
60 MVCS MARKED FULL
0 MVCS WITH MAXIMUM VTVS
82 MVCS MARKED READ-ONLY
3 MVCS WITH STATUS BROKEN
7 MVCS WITH STATUS LOST
0 MVCS MARKED RETIRED
0 MVCS WITH EXPIRED WARRANTY
0 MVCS HAVE INVALID MIRS
1 MVCS HAVE DATACHECKS
5 MVCS WITH STATUS CONSOLIDATE
```

フィールド

次のリストでは、名前付き MVC プールレポートの各フィールドについて説明します。サマリーのフィールドはストレージクラスまたは名前付き MVC プールに対するものですが、そのどちらになるかは、レポートの JCL でどちらが指定されたかにより異なります。ストレージクラスが名前付き MVC プールを指定する場合、そのサブプールの情報がレポートに表示されます。

MVC Volser

MVC volser。

Number of VTVS

MVC 上の現在の VTV の数。VTV エクスポートに使用された MVC では、このフィールドに *EXPVTV* と報告されます。

%Used

現在の VTV によって使用されている MVC のパーセンテージ。

%Avail

物理的に使用できる MVC のパーセンテージ。

%Frag

最新でない VTV を含む MVC のパーセンテージ。この領域は、リクレイムされるか MVC がドレインされるまで、使用できません。

Media Size (GB)

MVC のサイズ (G バイト)。これは、VTCS が MVC を使用したあとにのみ決定されます。VTCS が VTV を MVC に移行するまで、このフィールドには *UNKNOWN* が表示されます。

VLE 内の MVC の定格容量は 250G バイトです。VTV が VMVC に複製解除ありで移行される場合、VTV は VTV 固有データと、ほかの VTV と共有されるデー

タとに分割されますが、後者は別の VMVC 上に配置できます。この結果、次のようになります。

VTV の合計が、VMVC メディアサイズの 250G バイトを超える可能性があります。ほかの VMVC 上に存在する共有データを VTV が参照するからです。

逆に、フル VMVC の VTV の合計サイズがメディアサイズの 250G バイトを下回る可能性があります。ほかの MVC 上に存在している VTV の共有データが VMVC に含まれているからです。たとえば極端な場合、VMVC に VTV コピーが 1 つも含まれていないのに、使用可能な領域や断片化された領域がまったく存在しない (MVC が VTV 共有データでいっぱいになる) 可能性があります。

Times Mounted

この MVC が MVC インベントリに追加されたあと、書き込みまたは読み取りのためにマウントされた回数。

STATUS

次の 1 つ以上のステータス:

I

この MVC は初期化されています。

B

この MVC には、調査すべきエラーがあります。このエラーが発生しても、この MVC はおそらく使用不可能にはなりません、**B** とマークされてから 12 時間の間、VTCS はこの MVC を移行先として選択しません。12 時間が経過すると、この MVC は最低の優先度で後続の移行の対象となり、この MVC からのリコールが発生すると、VTCS がこの MVC をドレインする可能性があります。このエラー状態では、メッセージ *SLS6686*、*SLS6687*、*SLS6688*、*SLS6690*、または *SLS6693* が発行される可能性があります。

次のいずれかの条件が成立すると、この MVC エラーが発生する可能性があります。

- MVC が別のジョブ (VTCS/VTSS 以外) によって破壊された
- 読み取り専用 MVC を移行に使用しようとする
- DDR スワップエラー
- RTD の故障

L

この MVC は、最後のマウント要求の際にマウントされませんでした。この MVC は引き続き移行用として使用可能ですが、**L** とマークされてから 12 時間は、移行用として選択されません。12 時間が経過すると、この MVC には最低の優先度が設定されます。この状態は、MVC の次回マウント時にクリアされます。

D
この MVC でデータチェックが報告されました。VSM がこの MVC をふたたび移行に使用することはありません。

R
この MVC は読み取り専用としてマークされました。

U
次の使用ステータスのいずれかになります。

U
この MVC は出力 (移行、リクレイム、エクスポート、または統合) に使用できます。

-
この MVC は出力 (移行、リクレイム、エクスポート、または統合) に使用できません。

A
MVC の監査が実行中であるか、監査が失敗しました。監査が失敗した場合、VTCS はこの MVC を移行に使用しません。この状態をクリアするには、この MVC に対して *AUDIT* を再実行します。

C
この MVC は統合 MVC です。

E
この MVC はエクスポート MVC です。

F
この MVC には使用可能な領域がありません。

J
この MVC に対して *MVCDRain EJect* が発行されたか、*RACROUTE* 呼び出しによってこの MVC が更新用に取り出されました。この MVC がふたたび、移行またはリコールに使用されることはありません。この状態をクリアするには、*MVCDRain* を *EJect* オプションなしで、MVC に対して使用します。

N
自動ドレインまたは要求リクレイム、または明示的な *MVCDRain* コマンドのために MVC がドレインされているか、あるいは以前の *DRAIN* 要求が失敗しました。後者の場合、VTCS はこの MVC を移行に使用しません。この状態をクリアするには、*MVCDRain* を *EJect* オプションなしで、MVC に対して入力します。

X
この MVC は、MVC あたりの最大 VTV 数に達しました。

T
次のステータスのいずれかです。

T
この MVC の耐用期限は切れています。

W

MVC 保証期限が切れました。

M

この MVC の MIR が無効です。

Last Mounted

この MVC が最後にマウントされた日時、およびこの MVC が最後に使用された VTSS。

ACS ID

MVC が含まれている ACS、あるいはリモート MVC ボリュームまたは VLE の VMVC が含まれている VLE。

****MANY**** は特定の volser を持つ MVC が複数の場所で検出されたことを示します。この状態の MVC は使用不可としてマークされます。

Owner/Consolidate Time

MVC が空の場合、このフィールドは null になります。この MVC が統合 MVC の場合、統合の時間がこのフィールドに表示されます。この MVC が移行 MVC であり、かつ現在の VTV を含んでいる場合、MVC のストレージクラスがこのフィールドに表示されます。*MGMTclas* 文によって明示的に割り当てられたストレージクラスが存在しない場合のデフォルトのストレージクラスは、リクレイムまたは移行のために MVC への書き込みを最後に行なった VTSS の名前になります。

VTCS は、無効な管理クラスに割り当てられた VTV の移行要求を受け取ると、*!ERROR* ストレージクラスを動的に作成し、その無効な管理クラスで定義された VTV を、*!ERROR* ストレージクラスに移行します。このストレージクラスを使って無効な管理クラスを特定して修正し、影響のある MVC をドレインし、要求を送信し直します。

Summary for Storage Class or Named MVC Pool

このセクションでは、次のカテゴリについて、MVC 数 (Vols) と合計ストレージ (Gb) が ACS 別、メディアタイプ別に表示されます。

Free-MVCs

100% 使用可能な領域を備え、移行された VTV を一切含まない MVC。表示されるストレージは、メディアタイプの容量に基づく合計の空き領域です。

Reclaim-MVCs

領域リクレイムの対象となる MVC。表示されるストレージは、まだ領域リクレイムの対象になっていない MVC も含む、浪費領域の合計になります。

Used-MVCS

容量の一部または全部が使用された、初期化済みの MVC。

Total MVCs

ストレージクラスまたは名前付き MVC プールの合計 MVC 数 (初期化済み、未初期化、および空き MVC の小計付き)。

Summary of MVCs by Usage

このセクションでは、MVC を最後に使用したタスクごとの MVC 数が表示されます。

MVCRPt

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

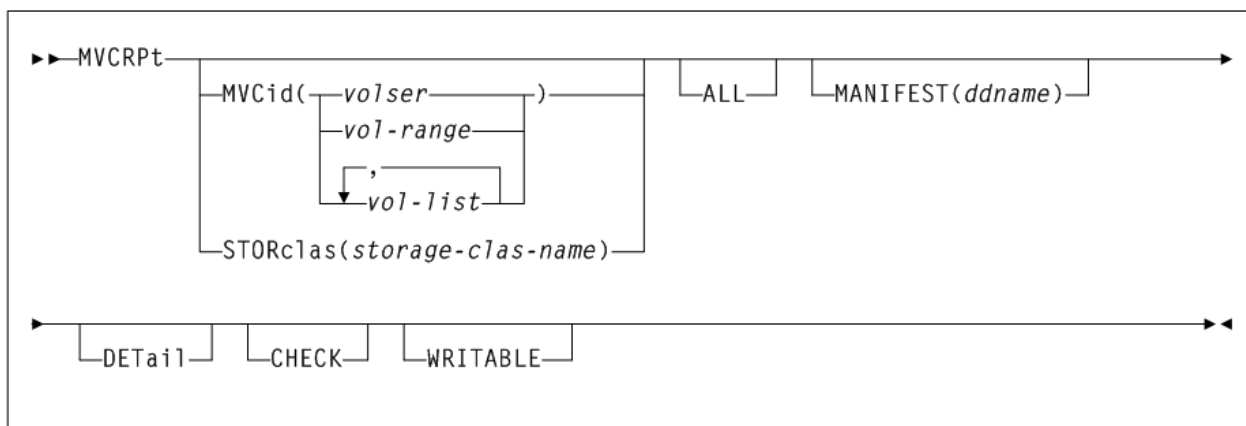
説明

MVCRPt コマンドは、VSM システムの MVC のステータスを報告します。

構文

図3.126 「MVCRPt コマンドの構文」 に *MVCRPt* コマンドの構文を示します。

図3.126 MVCRPt コマンドの構文



パラメータ

図3.119 「MNTD コマンドの構文」 に示すように、*MVCRPt* コマンドには次のパラメータが含まれます。

MVCid(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、レポートの対象となる MVC を指定します。MVC を指定しなかった場合、VSM システム内のすべての MVC がレポートに含まれます。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は 1 つ以上の MVC の *volser* を示します。

STORclas(storclas-name)

オプションで、レポートの対象となる MVC を含むストレージクラスを指定します。

stor-clas-name は、1-8 文字のストレージクラス名を示します。

注:

STORclas は、*MVCid*、*ALL*、および *MANIFEST* とは相互排他的の関係になります。

ALL

オプションで、選択条件に従ってすべての MVC (通常であれば省略される MVC も含む) に対するレポートを生成します。

MANIFEST(ddname)

オプションで、レポートの生成に使用されるマニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。

ddname は、マニフェストファイルの DD 名を示します。マージされた 1 つのマニフェストファイルを指定することも、複数のマニフェストファイルを指定することもできます。

DETail

オプションで、MVC 詳細レポートを生成します。例については、[例 3.52 「MVC RPt の MVC 詳細レポート \(追加フィールド\)」](#) を参照してください。このオプションを指定しなかった場合はデフォルトで、MVC サマリーレポートが生成されます。例については、[例 3.51 「MVC RPt MVC サマリーレポート」](#) を参照してください。

CHECK

オプションで、*MVC RPt* が限定的な MVC 整合性チェックを行います (その間 CDS が予約される)。Oracle StorageTek ソフトウェアサポートから指示があった場合にのみ使用してください。

WRITABLE

オプションで、*MVC RPt* は、MVC 詳細レポート出力時と *CHECK* パラメータ指定時に、読み取り専用 MVC を無視します。

MVC レポート

以降のセクションでは、*MVC RPt* コマンドによって生成される MVC サマリーレポートおよび詳細レポートについて説明します。

MVC サマリーレポート

次の図に、MVC サマリーレポートの例を示します。

例3.51 MVCRPt MVC サマリーレポート

```

MVC      Number      Size Mount <----Status--> <-----Last Mounted-----> Location
Owner/Comment/
Volser  VTVs  %Used %Avail %Frag (GB) Count I B L D R U T M Date Time VTSS / ACS ID
Consolidate Time
DMV600  40  11.11 70.60 18.29 930.0 257 P - - - - U - - 2009Sep30 13:42:27 DVTSS16 00
DMV600
DMV601  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV602  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV603  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV604  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV605  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV606  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV607  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV608  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV609  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV610  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV611  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV612  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV613  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV614  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV615  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV616  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV617  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV618  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
DMV619  0  0.00 100.00 0.00 500.0 256 I - - - - U - - 2009Sep29 16:59:59 00
20 Initialized MVCs processed
19 Initialized MVCs are standard format
1 Initialized MVCs are partitioned
0 Non-Initialized MVCs processed
0 Non-Library MVCs processed
SLS0155I Condition code for utility function is 0

```

フィールド

MVCRPt MVC サマリーレポートには次のフィールドが含まれます。

MVC Volser

MVC volser。

Number of VTVS

MVC 上の現在の VTV の数。VTV エクスポートに使用された MVC では、このフィールドに EXPVTV と報告されます。

%Used

現在の VTV によって使用されている MVC のパーセンテージ。

%Avail

物理的に使用できる MVC のパーセンテージ。

%Frag

最新でない VTV を含む MVC のパーセンテージ。この領域は、リクレイムされるか MVC がドレインされるまで、使用できません。

Size (GB)

MVC のサイズ (G バイト)。これは、VTCS が MVC を使用したあとにのみ決定されます。VTCS がこの MVC に VTV を移行するまで、このフィールドには *N/A* が表示されます。

VLE 内の MVC の定格容量は 250G バイトです。VTV が VMVC に複製解除ありで移行される場合、VTV は VTV 固有データと、ほかの VTV と共有されるデータとに分割されますが、後者は別の VMVC 上に配置できます。この結果、次のようになります。

VTV の合計が、VMVC メディアサイズの 250G バイトを超える可能性があります。ほかの VMVC 上に存在する共有データを VTV が参照するからです。

逆に、フル VMVC の VTV の合計サイズがメディアサイズの 250G バイトを下回る可能性があります。ほかの MVC 上に存在している VTV の共有データが VMVC に含まれているからです。たとえば極端な場合、VMVC に VTV コピーが 1 つも含まれていないのに、使用可能な領域や断片化された領域がまったく存在しない (MVC が VTV 共有データでいっぱいになる) 可能性があります。

Times Mounted

この MVC が MVC インベントリに追加されたあと、書き込みまたは読み取りのためにマウントされた回数。

STATUS

次の 1 つ以上のステータス:

I

この MVC は初期化されています。パーティションフォーマットで書き込まれた MVC では、この列に文字「P」が表示されます。

B

これは MVC、ドライブ、またはその組み合わせに問題があることを示す一般的なエラーです。VTCS は、この状態の MVC を避けようとします。この状態をクリアするには、次のようにします。

MVC が問題の原因である場合は、*DRAIN(EJECT)* コマンドを使用してサービスから MVC を除去してください。

この問題の原因が *RTD* である場合は、*MVCMAINT* ユーティリティーを使用して MVC の状態をリセットします。

また、*BROKEN* ステータスでは、メッセージ

SLS6686、*SLS6687*、*SLS6688*、*SLS6690* の 1 つ以上が発行されます。これ

らのメッセージの詳細な回復手順については、Oracle の ELS ドキュメント『ELS メッセージおよびコード』を参照してください。

L

VTCS は MVC のマウントを試行しましたが、15 分のタイムアウト時間内にマウントが完了しませんでした。VTCS は、ハードウェア障害、HSC 障害、または MVC が ACS から除去されたことによって発生する状況からの回復を試みています。VTCS は、この状態の MVC を避けようとしています。

LOST(ON) ステータスにある MVC の後続マウントを正常に実行した場合、VTCS はステータスを *LOST(OFF)* に設定します。

エラーの原因を特定し、解決してください。次のイベントの場合は、VTCS *MVCMaint* ユーティリティーを使用して *LOST(OFF)* を設定することもできます。

LOST(ON) ステータスがすでに解決済みの LSM 障害またはドライブエラーによって設定されていた場合

LOST(ON) ステータスが、MVC が ACS 外にあったために設定され、その MVC がすでに再入力済みの場合。

D

この MVC に対してデータチェック状態が報告されました。VTCS は、この状態の MVC を避けようとしています。この状態をクリアするには、次のようにします。

MVC 上のすべての VTV が二重化されている場合、取り出しオプションなしで MVC の *MVCDRAIN* を使用します。これにより、すべての VTV が回復し、サービスから MVC が削除されます。

MVC 上に二重化されていない VTV が存在する場合は、MVC に対して VTCS *AUDIT* を実行します。監査は失敗します。監査の終了後、イジェクトなしで *MVCDRAIN* を実行します。これにより、データチェック領域の前にある VTV はブロック ID の昇順に、データチェック領域のあとにある VTV はブロック ID の降順にリコールされます。この順序で VTV を処理すると、VTCS がメディアからできるだけ多くの VTV を回復できるようになります。そのあと、まだ MVC 上に存在するすべての VTV についてデータを再作成する必要があります。

R

MVC は次の要件のいずれかにより読み取り専用とマークされています。

MVC は現在処理中のエクスポートまたは統合処理の対象です。読み取り専用状態により MVC は更新処理に対して保護されています。

MVC メディアにファイル保護が設定されます。エラーを修正し、*MVCMAINT* ユーティリティを使用して *READONLY(OFF)* を設定します。

VTCS が MVC の更新を可能とする適切な SAF ルールが MVC には設定されていません。エラーを修正し、*MVCMAINT* ユーティリティを使用して *READONLY(OFF)* を設定します。HSC、SMC、および VTCS のセキュリティサブシステムユーザー ID の定義については、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS のインストール*』を参照してください。

U

次の使用ステータスのいずれかになります。

U

この MVC は出力 (移行、リクレイム、エクスポート、または統合) に使用できます。

-

この MVC は出力 (移行、リクレイム、エクスポート、または統合) に使用できません。

A

MVC の監査が実行中であるか、監査が失敗しました。監査が失敗した場合、VTCS はこの MVC を移行に使用しません。この状態をクリアするには、この MVC に対して *AUDIT* を再実行します。

C

この MVC は統合 MVC です。

E

この MVC はエクスポート MVC です。

F

この MVC には使用可能な領域がありません。

J

この MVC に対して *MVCDRain Eject* が発行されたか、あるいは *RACROUTE* 呼び出しによってこの MVC が更新用に取り出されました。この MVC がふたたび、移行またはリコールに使用されることはありません。この状態をクリアするには、*MVCDRain* を *Eject* オプションなしで、MVC に対して使用します。

N

自動ドレインまたは要求リクレイム、または明示的な *MVCDRain* コマンドのために MVC がドレインされているか、あるいは以前の *DRAIN* 要求が失敗しました。後者の場合、VTCS はこの MVC を移行に使用しません。この状態をクリアするには、*MVCDRain* を *Eject* オプションなしで、MVC に対して入力します。

X

この MVC は、MVC あたりの最大 VTV 数に達しました。

T

次のステータスのいずれかです。

T

この MVC の耐用期限は切れています。VTCS はこの MVC からリコールしますが、この MVC には移行しません。この MVC をできるだけ早く置き換えてください。

W

MVC 保証期限が切れました。VTCS は MVC の使用を継続します。MVC が耐用期限切れ状態になった時点で置換ができるように計画してください。

M

VTCS が 9x40 メディアの MIR (メディア情報レコード) が無効であることを示すステータスを RTD から受信しました。MIR が無効でもデータへのアクセスは妨げられませんが、テープ上のレコードへのアクセス中に重大なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。この MVC は、有効な MIR エントリが含まれていないテープの領域に対して高速検索を実行できません。

VTCS はこの状態の MVC を優先しません。リコールでは、VTV が複数の MVC 上に存在する場合、VTCS は無効な MIR を含む MVC の前に有効な MIR を含む MVC を選択します。VTCS は、移行がテープ先頭から開始される場合を除き、無効な MIR を持つ MVC を移行に使用しません。テープの先頭から移行した場合は、MIR が修正されます。

VTCS は、無効な MIR の状態をマウント時またはマウント解除時のどちらかに検出します。マウント時に検出され、別の MVC で操作を完了できる場合、VTCS は最初の MVC をマウント解除して代替 MVC を選択します。代替 MVC に切り替える VTCS の機能はごく限られています。つまり、これは主に移行と仮想マウントに使用されます。

無効な MIR を含む MVC については、エラーの原因 (メディアまたはドライブの問題である可能性があります) を特定し、そのエラーを修正します。

無効な MIR を含む MVC を回復するには、MVC をテープの最後まで読み取ればよいだけですが、それは、VTCS 監査を通じて行えます。メディアが問題である場合は、*MVCDRAIN EJECT* を実行して VTV をリコールし、MVC プールから MVC が削除されるようにします。

Last Mounted

この MVC が最後にマウントされた日時、およびこの MVC が最後に使用された VTSS。

Location/ACS ID

MVC が含まれている ACS、あるいはリモート MVC ボリュームまたは VLE の VMVC が含まれている VLE。

****MANY**** は特定の volser を持つ MVC が複数の場所で検出されたことを示します。この状態の MVC は使用不可としてマークされます。

Owner/Consolidate Time

MVC が空の場合、このフィールドは null になります。この MVC が統合 MVC の場合、統合の時間がこのフィールドに表示されます。この MVC が移行 MVC であり、かつ現在の VTV を含んでいる場合、MVC のストレージクラスがこのフィールドに表示されます。*MGMTclas* 文によって明示的に割り当てられたストレージクラスが存在しない場合のデフォルトのストレージクラスは、リクレイムまたは移行のために MVC への書き込みを最後に行なった VTSS の名前になります。

VTCS は、無効な管理クラスに割り当てられた VTV の移行要求を受け取ると、**!ERROR** ストレージクラスを動的に作成し、その無効な管理クラスで定義された VTV を、**!ERROR** ストレージクラスに移行します。このストレージクラスを使って無効な管理クラスを特定して修正し、影響のある MVC をドレインし、要求を送信し直します。

Initialized MVCs processed

初期化済み MVC の合計数。また、MVC 数の内訳 (標準フォーマットとパーティションフォーマット) も表示されます。

Non-Initialized MVCs processed

初期化されていない MVC の数。

Non-library MVCs processed

処理された非ライブラリ MVC の数。

MVC 詳細レポート

MVC 詳細レポートでは、MVC サマリーレポートに含まれるすべてのフィールドのほかに、追加フィールドが表示された別のセクションも提供されます。MVC 詳細レポートに含まれるそれらの追加フィールドの例を、次の図に示します。

例3.52 MVCRPt の MVC 詳細レポート (追加フィールド)

Vtv Volser	Size (MB)	Block Id	Management Class	Migration Date	Block Count	Message
DX0000	1802.24	0000/00000000	MF	2010Aug16	29078	
DX0001	282.62	0000/00007196	MF	2010Aug16	4567	
DX0002	3850.24	0000/0000836D-0001	MF	2010Aug16	62109	

Migration Date

VTV コピーが移行されたおおよその日付 (6.0 以上のシステムによって移行が行われた場合のみ)。この日付がおおよその値であるのは、CDS 内ではこの値は VTV 作成日からの日数として記録され、タイムゾーン調整によってこの値が 1 日分ずれる可能性があるからです。

Block Count

この VTV が MVC 上で占めるデータブロックの数 (10 進)。

Message

MVC 整合性チェックの結果を報告します。次に記載されていないメッセージはすべて、CDS の深刻な問題を示している可能性があるため、Oracle に報告してください。ただし、MVC レポートの実行中に MVC の監査が実行中であるか監査が失敗した場合に表示される可能性のあるメッセージは除外します。MVC レポートで監査状態の MVC が検出された場合は、4 以上のリターンコードが返されます。また監査状態では、ほかのいくつかのエラーが報告されなくなります。

nnnn empty space to previous

説明: MVC 上でこの VTV の前に *nnnn* (10 進) ブロック分の空き領域があることを示す通知メッセージ。

Migrated size was not as expected

説明: MVC *m* 上の VTV *v* に対する出力の場合、MVC *m* に移行された VTV *v* の (圧縮) サイズが、CDS に記録された VTV *v* の (圧縮) サイズと異なっていたことを示しています。

VTV *v* が以前リコールされた際にエラーが発生していた場合、これは問題ありません。それ以外の場合、これはエラーを示している可能性があるため、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに報告してください。

Used/Unused Partitions

MVC の使用済みパーティションと未使用パーティションのサマリー。

OFFload

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

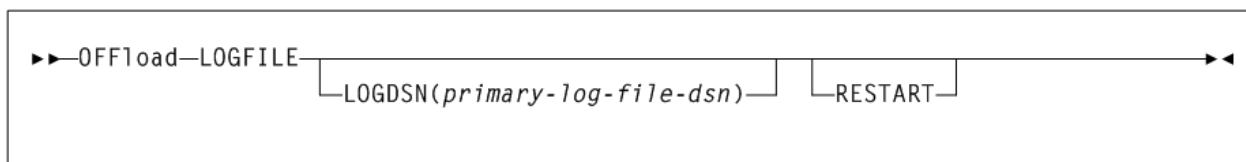
OFFload コマンドは、HSC Transaction Logging Service で使用されているアクティブログファイルからトランザクションレコードをオフロードし、それらをシーケンシャルデータセット内に保存することで、ログファイル内の領域を再利用できるようにします。

ロギングが現在アクティブになっている場合、*OFFload LOGFILE* ユーティリティを実行してファイル名を変更する必要があります。

構文

図3.127 「OFFload コマンドの構文」に *OFFload* コマンドの構文を示します。

図3.127 OFFload コマンドの構文



パラメータ

図3.127 「OFFload コマンドの構文」に示すように、*OFFload* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LOGFILE

このキーワードは必須です。一般に、*OFFload LOGFILE* はパラメータなしで発行されます。ユーティリティは、CDS に記録されたアクティブログデータセットから入力ログデータセットを選択します。

LOGDSN(primary-log-file-dsn)

オプションで、CDS を使用または更新しないでログファイルをオフロードします。CDS が復元された場合や、CDS がその他の理由により信頼できないとみなされる場合には、必ずこのパラメータを使用してください。

primary-log-file-dsn は、プライマリログファイルのデータセット名を示します。

例:

```
OFFLOAD LOGFILE LOGDSN(hsc.log1)
```

RESTART

オプションで、オフロードを再起動し、失敗オフロードの開始時にアクティブになっていたログデータセットのグループの中から入力ログファイルを選

択します。またこの場合、失敗オフロードで使用されていたブロック数の範囲も使用されます。

このパラメータは、失敗オフロードによるログデータセットの切り替え時にアクティブでなくなるログデータセットから、レコードを回復する場合に使用します。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明した必須の JCL 定義文のほかに、次の定義文も *OFFload LOGFILE* JCL に適用されます。

SLSOFFLD

出力データセットを指定します。

このデータセットでは DCB を指定しないことをお勧めします。DCB を指定した場合、*RECFM* と *LRECL* は無視されます。

OPTION TITLE 制御文

OPTION TITLE 制御文は、定義データセットの識別文字列を指定します。識別文字列は、ユーザーが定義データセットの内容を記述する際に役立つ情報であれば、どのようなものでもかまいません。この文は、定義データセット内に次の文と一緒に指定できます。

- *LMUPDEF*
- *MGMTDEF*
- *TREQDEF* (SMC)

また、*ELS* レガシーインタフェースリファレンスで説明されている次のレガシー HSC コマンドを使ってこの制御文を指定することもできます。

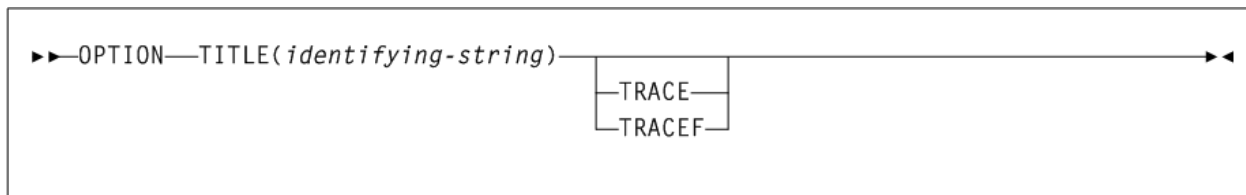
- *MVCDEF*
- *SCRPFDEF*
- *VOLDEF*

OPTION TITLE 文は定義データセット内に配置する必要があります。これをオペレータコマンドとして発行することはできません。定義データセット内に *OPTion* 文が複数指定されていた場合、最後に検出された *OPTion* 文の識別文字列のみが維持されます。

構文

図3.128 「OPTION TITLE 制御文の構文」に *OPTION TITLE* 制御文の構文を示します。

図3.128 *OPTION TITLE* 制御文の構文



パラメータ

図3.128 「*OPTION TITLE* 制御文の構文」に示すように、*OPTION TITLE* 制御文には次のパラメータが含まれます。

identifying-string

定義データセットの識別文字列を示します。識別文字列の最大長は、50 文字です。1 つ以上の空白文字、または英字、数字、国別文字 (\$、@、# など) 以外の文字が識別文字列に含まれている場合、文字列を引用符で囲む必要があります。

TRACE または TRACEF

オプションで、HSC テーブルルックアップの内部トレースを制御するために使用されます。問題解決時に、これらのパラメータの 1 つを指定するようソフトウェアサポートから要求される可能性があります。

OPTion

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

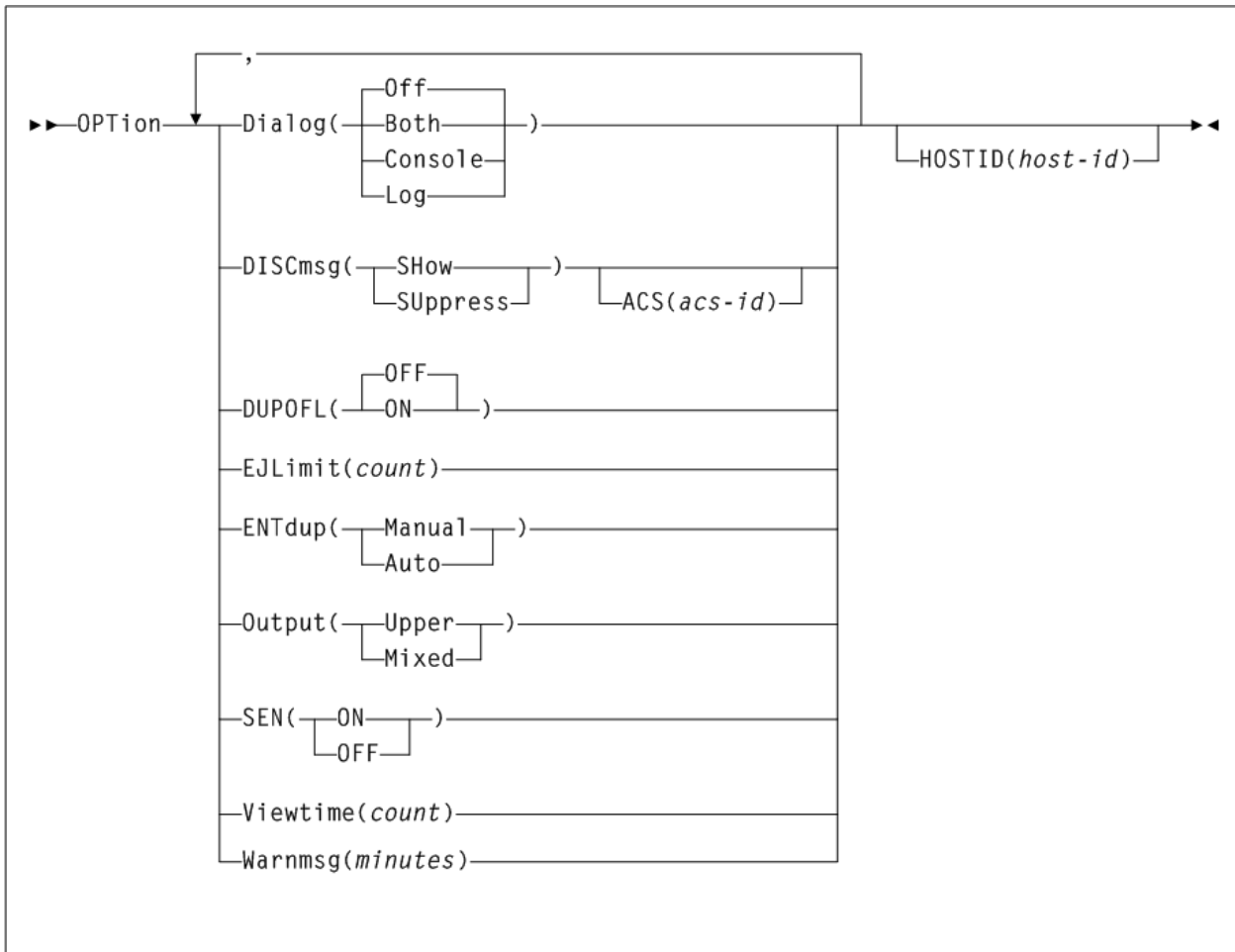
説明

OPTion コマンドは、HSC の一般的なオプションを設定または変更します。

構文

図3.129 「*OPTion* コマンドの構文」に *OPTion* コマンドの構文を示します。

図3.129 OPTion コマンドの構文



パラメータ

図3.129 「OPTion コマンドの構文」 に示すように、*OPTion* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Dialog

HSC メッセージの、オペレータコンソールとシステムログへの書き込み、またはオペレータコンソール、システムログのいずれかへの書き込みを可能にします。これらのメッセージは、HSC が終了前にアクティブなタスクの終了を待っていることを示します。*Dialog* の初期値は、HSC の起動時に *EXEC* 文によって設定されます。

Off

メッセージが書き込まれないことを指定します。*EXEC* 文で *Dialog* パラメータが指定されなかった場合、*off* が HSC のデフォルト値になります。

Both

メッセージがシステムログとオペレータコンソールに書き込まれることを指定します。

Console

メッセージがオペレータコンソールのみ書き込まれることを指定します。

Log

メッセージがシステムログのみ書き込まれることを指定します。

DISCmsg

指定された ACS の *ACS acsid is disconnected* メッセージ (SLS1664A) を表示するかどうかを指定します。

このオプションは、将来の拡張性のために ACS が事前に *LIBGEN* に追加された場合に役立ちます。 *DISCmsg* を入力すれば、あとにならないと接続されない ACS の表示をオフに切り替えることができます。

SHow

ある ACS の *ACS acsid is disconnected* メッセージ (SLS1664A) を表示します。これが初期値です。

SUppress

ある ACS の *ACS acsid is disconnected* メッセージ (SLS1664A) を抑制します。

ACS(acsid)

オプションで、コマンドの適用先となる ACS を指定します。ACS を指定しなかった場合、入力された *DISCmsg* 設定 (Show または Suppress) がすべての ACS に適用されます。

acsid は 10 進の ACSid 値 (00-99) を示します。ACS を指定しなかった場合、すべての ACS に影響が及びます。

DUPOFL

オプションで、CAP に挿入する VOLSER が切断されている ACS 内またはオフラインの LSM 内に存在していることが CDS 内で示されている場合に、重複 VOLSER 処理の続行を可能にします。

OFF

重複 VOLSER 処理を無効にします。これがデフォルトです。

ON

重複 VOLSER 処理を有効にします。

EJLimit(count)

1 つの *Eject* コマンドで指定できるカートリッジの最大数を示します。

count は上限を示します。指定可能な値は 1 から 9999 です。HSC の初期値は 100 です。

ENTdup

挿入操作時に重複する VOLSER が制御データセット内で見つかったが、そのカートリッジの位置を ACS 内で特定できない場合に、オペレータ向けのプロンプトを HSC に表示させるかどうかを指定します。

制御データセット内のエントリと重複する VOLSER を持つカートリッジをユーザーが挿入しようとした場合、HSC は元のカートリッジの位置を特定しようとし、*ENTdup* オプションは、カートリッジがホールセル内に存在せず、選択もされておらず、エラー状態でもない場合の HSC の応答方法を決定します。

Auto

制御データセット内のカートリッジを削除し、挿入を続行できるようにするように、HSC に指示します。

Manual

重複する VOLSER が挿入された場合にコンソールメッセージを発行するように、HSC に指示します。このメッセージは、HSC が制御データセット内のカートリッジを削除して挿入を続行できるようにすべきか、それとも重複するカートリッジを取り出すべきかを定めるよう、オペレータに要求します。*Manual* が HSC の初期値です。

Output

コンソール上に出力メッセージを表示する際に、大文字だけを使用するか、それとも大文字と小文字を混在させるかを指定します。

Upper

大文字を指定します。*Upper* が HSC の初期値になります。

Mixed

大文字と小文字を混在させることを指定します。

SEN

Significant Event Notification (SEN) 機能を有効または無効にします。SEN の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

ON

SEN を有効にします。

OFF

SEN を無効にします。

Viewtime(count)

View コマンドの発行時にシステムが LSM カメラを特定の位置に固定する時間の長さを秒単位で指定します。詳細については、「[View](#)」を参照してください。

count は秒数を示します。*count* に指定可能な値は、5 から 120 までの範囲の 10 進数です。HSC の初期値は 10 秒です。

View コマンドでは、単一の表示操作に対して *OPTion Viewtime* の設定をオーバーライドできるようになっています。

VIew コマンドの発行時には、ロボットのアクティビティーを記録する SMF レコード (サブタイプ 8) が書き込まれます。

Warnmsg(minutes)

スクラッチ不足メッセージ間の分数を設定します。

minutes は分数を示します。*minutes* に指定できる値は 1 から 65535 です。初期値は 5 分です。

HOSTID(host-id)

オプションで、*OPTion* コマンドに関連付けられるホストを識別します。これを使えば、特定の起動オプションを特定のホストに制限できます。

このパラメータを指定しなかった場合、*PARMLIB* にアクセスするすべてのホストにこのコマンドのオプションが適用されます。

hostid は、ホストの識別子 (JES 用の SMF システム識別子) を示します。

注:

hostid が、コマンドを実行しているホストに一致しなかった場合、メッセージが発行され、コマンドは処理されません。

RECall

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

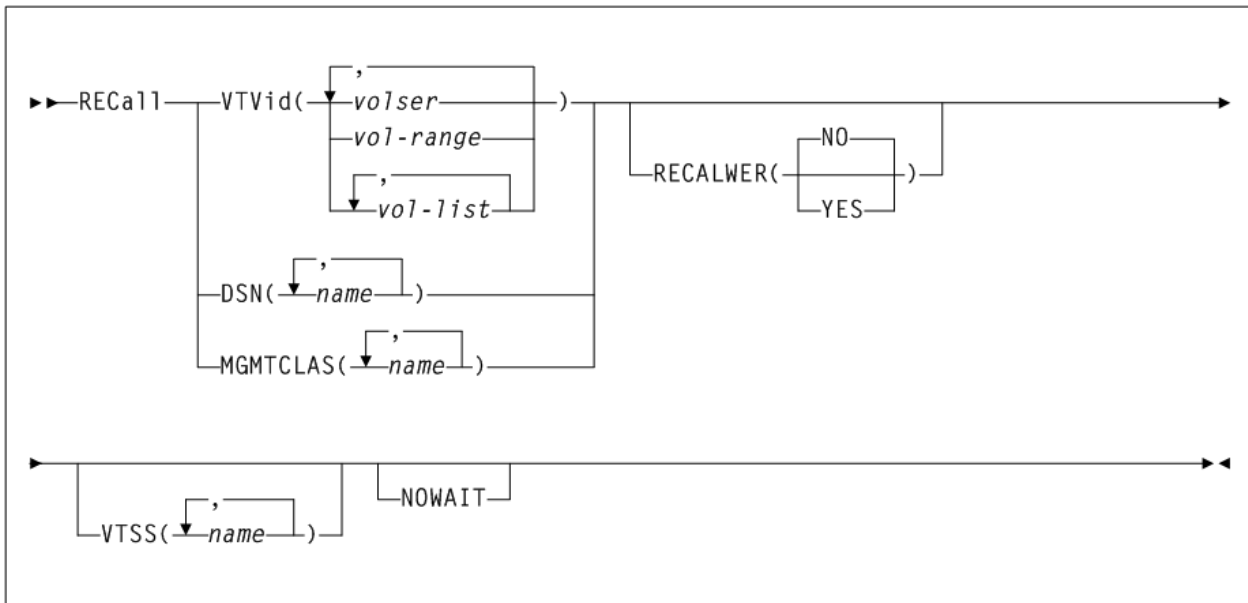
説明

RECall コマンドは、ある VTSS への VTV の要求リコールを実行します。

構文

図3.130 「RECall コマンドの構文」に *RECall* コマンドの構文を示します。

図3.130 RECall コマンドの構文



パラメータ

図3.130 「RECall コマンドの構文」 に示すように、*RECall* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTVid(volser、vol-range、または vol-list)

リコールする VTV を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は、1 つ以上の VTV の *volser* を示します。1 つ以上の範囲を指定することもできます。

DSN(name)

リコールする VTV の選択に使用されるデータセットを指定します。

name はデータセット名を示します。表3.12 「有効なワイルドカード」 では、データセット名の有効なワイルドカードについて説明しています。

MGMTCLAS(mgmt-class-name または mgmt-class-list)

リコールする 1 つ以上の VTV を決定する 1 つ以上の管理クラスを指定します。

mgmt-class-name または *mgmt-class-list* は、*MGMTclas* 制御文で定義された 1 つ以上の管理クラスの名前を示します。詳細については、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

MGMTCLAS、*VTVid*、*DSN* は相互排他的関係にあります。

RECALWER

オプションで、VTCS が読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールするかどうかを指定します。

NO

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールしません。これがデフォルトです。

YES

読み取りデータチェックを使用して VTV をリコールします。

VTSS(vtss-name)

VTV のリコール先を次のように指定します。

- VTSS が指定されなかった場合 (デフォルト)、VTCS は、作成時の VTSS がアクセス可能であれば、そこに VTV をリコールしようとします。そうでない場合、VTCS は、最低の DBU を持つ VTSS に VTV をリコールします。
- 単一の VTSS が指定された場合、VTCS は、指定された VTSS がアクセス可能であれば、そこに VTV をリコールしようとします。そうでない場合、VTCS は、最低の DBU を持つ VTSS に VTV をリコールします。
- VTV のリストが指定された場合、VTCS は、作成時の VTSS がリストに含まれていてアクセス可能であれば、そこに VTV をリコールしようとします。そうでない場合、VTCS は、リスト内で最低の DBU を持つ VTSS に VTV をリコールします。

vtss-name は、1 つ以上の VTSS の名前を示します。

NOWAIT

オプションで、ユーティリティーが要求送信後に処理の完了を待たずにリターンすることを指定します。

RECLaim

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

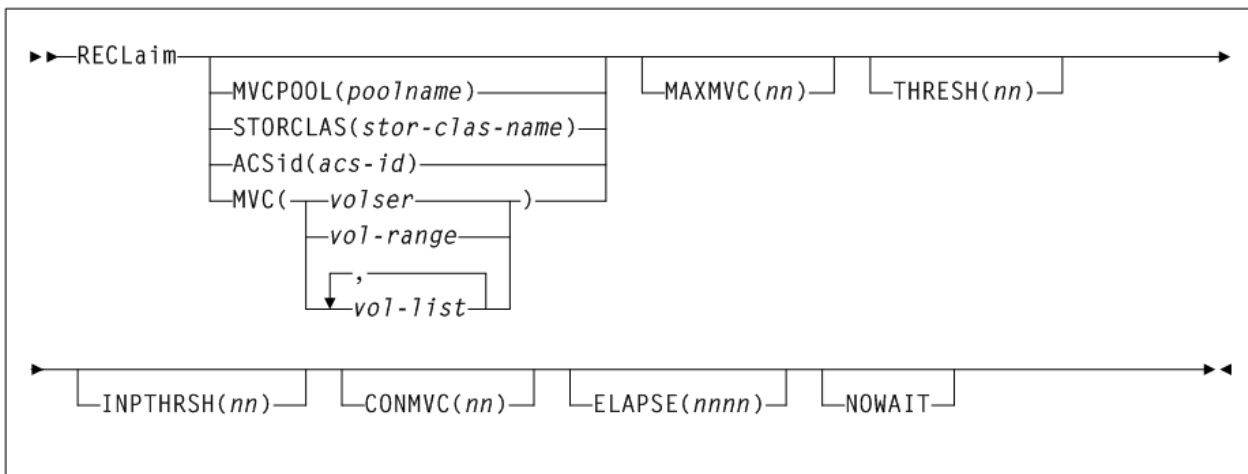
説明

RECLaim コマンドは、要求 MVC 領域リクレ임을実行します。またこのコマンドは、*CONFIG RECLaim* のパラメータ *THRESHLD*、*INPTHRSH*、*MAXMVC*、*CONMVC* の設定をオーバーライドすることもできます。

構文

図3.131 「RECLaim コマンドの構文」に RECLaim コマンドの構文を示します。

図3.131 RECLaim コマンドの構文



パラメータ

図3.131 「RECLaim コマンドの構文」に示すように、RECLaim コマンドには次のパラメータが含まれます。

MVCPOOL(poolname)

指定された名前付き MVC プール内の MVC をリクレ임을します。

poolname は、*MVCPool* 制御文で定義された名前付き MVC プールの名前を示します。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

STORCLAS(stor-clas-name)

指定されたストレージクラスの MVC をリクレ임을します。

stor-clas-name は、*STORclas* 制御文で定義されたストレージクラスの名前を示します。詳細については、「[STORclas 制御文](#)」を参照してください。

ACSid(acs-id)

指定された ACS 内の対象 MVC をリクレ임을します。

acs-id は 10 進数の 2 桁の ACS 識別子を示します (00 - 99)。

MVC(*volser*、*vol-range*、または *vol-list*)

指定された MVC をリクレイムします。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は 1 つ以上の MVC の *volser* を示します。また、リスト内に個々の MVC と範囲を指定することもできます。例:

```
(MVC000-MVC005,MVC010,MVC015)
```

MAXMVC(*nn*)

オプションで、1 つのスペースリクレイムタスクによって処理される MVC の最大数を指定します。

nn は、MVC の最大数を示します。有効な値は 1 - 98 です。デフォルトはありません。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

自動領域リクレイムが開始されるためには、(*THRESH* パラメータで決まる) 対象 MVC の数が、*MAXMVC* 値も超える必要があります。

THRESH(*nn*)

オプションで、MVC が要求リクレイムまたは自動リクレイムの対象になるための、断片化領域のパーセンテージを指定します。

nn は、断片化領域のパーセンテージを示します。有効な値は 4 - 98 です。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

INPTHRSH(*nn*)

オプションで、パーティション分割されたフォーマットの MVC を動的リクレイム処理の対象にする断片化された領域のパーセンテージを指定します。この値は、*CONFIG RECLAIM* 文で指定されたグローバル *INPTHRSH* 値をオーバーライドします。このパラメータが指定されなかった場合、現在のアクティブなグローバル *INPTHRSH* 値が使用されます。

nn は、3 から 97 のパーセンテージを示します。この値は、*THRESHLD* 値未満である必要があります。

注:

INPTHRSH が指定されている場合は、*THRESHLD* も指定する必要があります。領域リクレイムがパーティションフォーマットの MVC を処理する際に、*INPTHRSH* と *THRESHLD* はどちらも役割を果たします。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。

CONMVC(*nn*)

オプションで、ドレインとリクレイムの両方で VTCS が同時に処理する MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1 - 99 です。指定しなかった場合のデフォルトは、*CONFIG RECLAIM* 文で指定された *CONMVC* 値になります。

ELAPSE(*nnnn*)

オプションで、リクレイムの最大時間を分単位で指定します。最大時間が過ぎると、VTCS はメッセージ *SLS6682I* を発行します。現在マウントされている MVC が存在しない場合、*ELAPSE* 値に達した時点でリクレイムが停止します。*ELAPSE* 値に達した時点で、現在マウントされている MVC が存在していた場合、リクレイムはそのマウントされている MVC を処理したあと、活動を停止します。

nnnn は、リクレイム時間 (分) を示します。有効な値は 1 - 1440 です。指定しない場合、リクレイム処理の時間制限はありません。

NOWAIT

オプションで、ユーティリティーが要求送信後に処理の完了を待たずにリターンすることを指定します。

RECONcil

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

RECONcil コマンドは、VTV のメディアや位置を調停します (VTV をあるストレージクラスから別のストレージクラスに移動します)。

RECONcil は、MVC、VTV、*STORCLAS* 定義、および *MGMTCLAS* 定義の間で一連のクロスチェックを実行します。

RECONCIL には次の 2 つの段階があります。

- 第 1 段階では、VTCS がチェック対象の MVC とストレージクラスを選択します。MVC がチェックされ、ストレージクラス定義や ACS 定義を満たしていることが確認されます。不一致が見つかった場合、リコールおよび再移行の対象となる VTV リストにそれらの MVC 上の VTV が追加され、その VTV の正しい

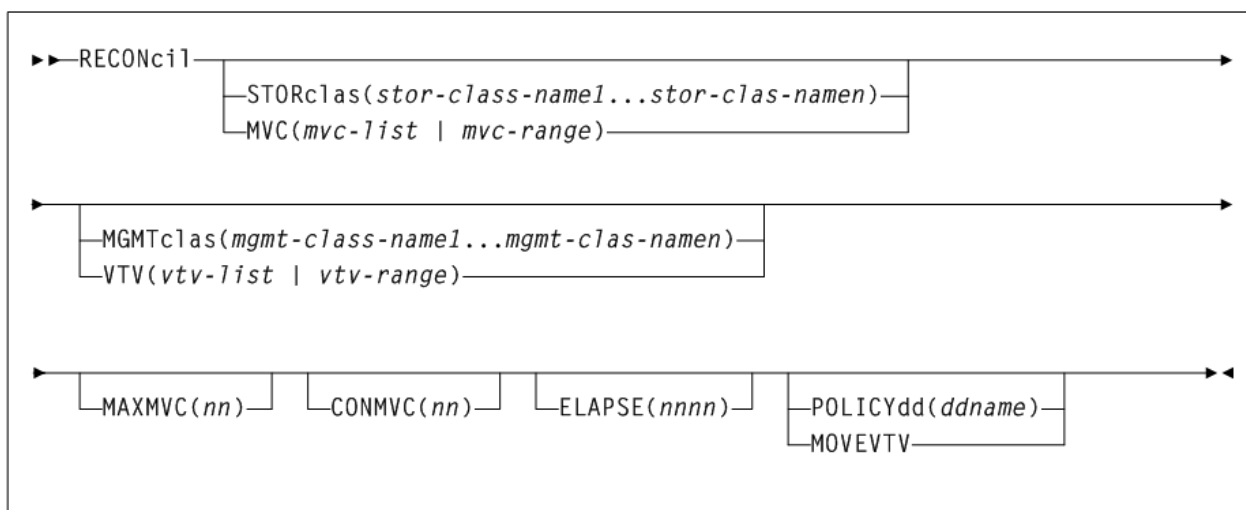
MVC、ACS、およびストレージクラスコピーが確立されます。この段階のチェックは、*RECONcil* のパラメータ *STORCLAS* と *MVC* によって制限されます。

- 第2段階では、VTCS が VTV と管理クラスを選択し、VTV コピーの正しい数と位置を確立します。不一致を含む VTV はすべて、リコールおよび再移行の対象となる VTV リストに追加されます。この段階のチェックは、*RECONcil* のパラメータ *MGMTCLAS* と *VTV* によって制限されます。

構文

図3.132 「*RECONcil* コマンドの構文」に *RECONcil* コマンドの構文を示します。

図3.132 *RECONcil* コマンドの構文



パラメータ

STORclas および *MVC* パラメータは、指定されたストレージクラスまたは *MVC* に第1段階のチェックを制限します。*STORclas* または *MVC* が指定されなかった場合、VTCS はデフォルトですべての *MVC* をチェックします。

図3.132 「*RECONcil* コマンドの構文」に示すように、*RECONcil* コマンドには次のパラメータが含まれます。

STORclas(stor-class-name1...stor-class-namen)

オプションで、1つ以上のストレージクラスを指定します。

stor-class-name1...stor-class-namen は、1つ以上のストレージクラスを示します。

MVC(*mvc-list* または *mvc-range*)

MVC のリストまたは範囲。このパラメータは、*STORclas* と相互排他関係にあります。

mvc-list または *mvc-range* は、MVC のリストまたは範囲を示します。

MGMTclas(*mgmt-class-name1...mgmt-class-namen*)

オプションで、1 つ以上の管理クラスを指定します。このパラメータは、*VTvid* と相互排他関係にあります。

mgmt-class-name1...mgmt-class-namen は、1 つ以上の管理クラスを示します。

VTV(*vtv-list* または *vtv-range*)

オプションで、VTV のリストまたは範囲を指定します。このパラメータは、*MGMTclas* と相互に排他的です。

vtv-list または *vtv-range* は、VTV のリストまたは範囲を示します。

MAXMVC(*nn*)

オプションで、単一の調停タスクによって処理される MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1 - 98 です。指定されていない場合は、*CONFIG RECLAIM* 値 (またはデフォルト) が使用されます。*MOVEVTV* が指定されていない場合、このパラメータは無視されます。

CONMVC(*nn*)

オプションで、後続のリコールおよび移行操作中に VTCS が同時に処理する MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1 - 99 です。指定されていない場合は、*CONFIG RECLAIM* 値 (またはデフォルト) が使用されます。*MOVEVTV* が指定されていない場合、このパラメータは無視されます。

ELAPSE(*nxxx*)

オプションで、調停の最大時間を分単位で指定します。最大時間が過ぎると、VTCS はメッセージ *SLS6682I* を発行します。現在マウントされている MVC が存在しない場合、*ELAPSE* 値に達した時点で調停が停止します。*ELAPSE* 値に達した時点で、現在マウントされている MVC が存在していた場合、調停はそのマウントされている MVC を処理したあと、活動を停止します。

nxxx は、時間 (分) を示します。有効な値は 1 - 1440 です。指定しない場合、調整プロセスの時間制限はありません。*MOVEVTV* が指定されていない場合、このパラメータは無視されます。

PLICYdd(*ddname*)

オプションで、代替の *MGMTclas* 文を含むファイルの DD 名を指定します。このパラメータは、*MOVEVTV* と相互に排他的です。

ddname は DD 名を示します。

MOVEVTV

オプションで、VTV に適用される *MGMTclas* 文によって指定された現在アクティブな管理ポリシーに従って、VTV を移動します。*MOVEVTV* を指定しなかった場合、レポートのみが生成されます (VTV は移動されません)。このパラメータは、*POLICYdd* と相互に排他的です。

RECONcil レポート

次に、*RECONcil* レポートの例を示します。

RECONcil レポート (MOVEVTV を指定しなかった場合)

次に、*RECONcil* レポートの例を示します。

例3.53 RECONcil レポート (MOVEVTV を指定しなかった場合)

VTV REASON	Size (MB)	Comp %	<---Creation--->		MGMT CLASS	MVC1	MVC2	MVC3	MVC4	Tapeplex
Volser			Date	Time						
DX1000	358.4	0	2009Jan18	16:00:00	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1001	358.4	0	2009Jan18	15:59:58	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1008	358.4	0	2009Jan18	15:59:43	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1009	358.4	0	2009Jan18	15:59:41	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1010	358.4	0	2009Jan18	15:59:40	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1011	25.6	0	2009Jan18	15:59:38	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1020	358.4	0	2009Jan18	15:59:19	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1021	358.4	0	2009Jan18	15:59:18	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1024	358.4	0	2009Jan18	15:59:12	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1025	358.4	0	2009Jan18	15:59:10	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1028	358.4	0	2009Jan18	15:59:04	M6					SECNDARY
EEXPORT										
DX1029	358.4	0	2009Jan18	15:59:01	M6					SECNDARY
EEXPORT										
DX1032	358.4	0	2009Jan18	15:58:56	M6					SECNDARY
EEXPORT										
DX1033	358.4	0	2009Jan18	15:58:54	M6					SECNDARY
EEXPORT										
DX1036	358.4	0	2009Jan18	15:58:48	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1037	358.4	0	2009Jan18	15:58:46	M6					SECNDARY
EEXPORT										
DX1050	51.2	0	2009Jan18	15:58:20	M5					SECNDARY
EEXPORT										
DX1051	51.2	0	2009Jan18	15:58:17	M5					SECNDARY
EEXPORT										

DX1052	51.2	0	2009Jan18	15:58:15	M5		SECNDARY
EEXPORT							
DX1053	51.2	0	2009Jan18	15:58:14	M5		SECNDARY
EEXPORT							
DX1054	51.2	0	2009Jan18	15:58:12	M5		SECNDARY
EEXPORT							
DX1055	51.2	0	2009Jan18	15:58:10	M6		SECNDARY
EEXPORT							
DX1056	51.2	0	2009Jan18	15:58:08	M6		SECNDARY
EEXPORT							
DX1057	51.2	0	2009Jan18	15:58:06	M6		SECNDARY
EEXPORT							
DX1058	51.2	0	2009Jan18	15:58:04	M6		SECNDARY
EEXPORT							
DX1059	51.2	0	2009Jan18	15:58:02	M6		SECNDARY
EEXPORT							
Total VTVs =		26	Total Size =		5913MB		

SLUADMIN (7.2.0) StorageTek Enterprise Library Software Utility
PAGE 00003
TIME 08:06:35 Reconcile Tapeplex Report DATE
2015-01-19

Tapeplex	Candidate VTVs	Total VTV size (MB)									
SECNDARY	26	5913.60									
	DX1000	DX1001	DX1008	DX1009	DX1010	DX1011	DX1020	DX1021	DX1024	DX1025	DX1028
	DX1029	DX1032	DX1033								
	DX1036	DX1037	DX1050	DX1051	DX1052	DX1053	DX1054	DX1055	DX1056	DX1057	DX1058
	DX1059										
Total tapeplexes =	1	Total Size =	5913MB								
SLS0155I Condition code for utility function is 0											

フィールド

RECONcil レポートには次のフィールドが含まれます。

VTV volser

VTV volser。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポート実行時に VTV がマウントされていたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示される場合は、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

Comp %

達成された VTV の圧縮率。これは、VTV の非圧縮サイズのパーセンテージとして表された、VTV の非圧縮サイズと圧縮サイズの違いです。たとえば、100M バイトの VTV が 40M バイトに圧縮された場合、圧縮率は 60% と表示されます。0% の圧縮は、VTV 上で圧縮が不可能であったことを示します。

Creation Date および Time

VTV が作成された日付と時間。

MGMT Class

指定された VTV の管理クラスの名前。

MVC1、MVC2、MVC3、MVC4

Reconcil の結果として影響を受けた MVC。

Tapeplex

TapePlex 名。

Reason

VTV の選択理由: メディアタイプ、メディア位置、移行 (領域解放)、即時移行、またはストレージクラス。

RECONcil Tapeplex レポートセクションには、TapePlex ごとに、候補 VTV の数と合計 VTV サイズ (M バイト) が表示されます。

MVC レポートのフィールド

次の一覧では、*RECONcil MVC* レポートの各フィールドについて説明します。MVC ごとのデータのあとに、1 つ以上の VTV *volser* が MVC 上のコピーとともに出力されます。レポートのこのセクションのあとに続く合計行には、リコールおよび再移行の対象となる候補 MVC の数とそのサイズ (M バイト) が表示されます。

MVC Volser

MVC の *volser*。

MVC Media Type

MVC のタイプ。

Media Size (MB)

MVC のサイズ (MB)。これは、VTCS が MVC を使用したあとにのみ決定されます。VTCS が VTV を MVC に移行するまで、このフィールドには *UNKNOWN* が表示されます。

Storage Class/Consolidate time

MVC のストレージクラス、またはその上の VTV が統合された時間。

Candidate VTVs

MVC 上の候補 VTV の数。

Total VTV Size (MB)

MVC 上のすべての候補 VTV のサイズ (M バイト)。

Location (ACS ID)

この MVC が存在する ACS。空白の場合、この MVC は現在 ACS 内に存在しません。

RECONcil MOVEVTV レポート

MOVEVTV パラメータを指定して発行された *RECONcil* コマンドから生成される *RECONcil* レポートの例を、次に示します。

例3.54 RECONcil MOVEVTV レポート

```
Move VTV - MVC 022705 ignored, MAXMVC reached
Move VTV - VTV X04898 ignored, all MVC copies rejected
Move VTV - 4 MVCs selected for processing
Move VTV - 5 VTVs selected for processing
Move VTV - 5 VTV copies to be processed
Move VTV - 0 VTV copies not matched to request
Move VTV - 1 VTV copies rejected by MAXMVC limit
Move VTVs - MVC 023484 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022628 selected and contains 1 VTVs
Move VTVs - MVC 022631 selected and contains 2 VTVs
Move VTVs - MVC 022608 selected and contains 1 VTVs
```

```
Recall from MVC 022628 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022628
SLS6644I VTV X99909 recalled from MVC:022628 Block:25401431
SLS6637I Recall from MVC 022628 completed
```

```
Recall from MVC 023484 to VTSS HBVTSS17
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 023484
SLS6644I VTV X04897 recalled from MVC:023484 Block:02402581
SLS6637I Recall from MVC 023484 completed
```

```
Recall from MVC 022608 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 1 VTVs issued to MVC 022608
SLS6637I Recall from MVC 022608 completed
```

```
Migrate to storage class HBVTSS16 from VTSS HBVTSS17
SLS6681I VTV X99909 migrated to MVC:022589 Block:01400025 StorCl:HBVTSS17 MgmtCl:SIMPLEX
SLS6636I Demand migration to MVC 022589 completed
```

```
Recall from MVC 022631 to VTSS HBVTSS16
SLS6683I Bulk recall of 2 VTVs issued to MVC 022631
SLS6644I VTV X99910 recalled from MVC:022631 Block:03400141
SLS6644I VTV X99908 recalled from MVC:022631 Block:05400281
SLS6637I Recall from MVC 022631 completed
```

RECOVer

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB*
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

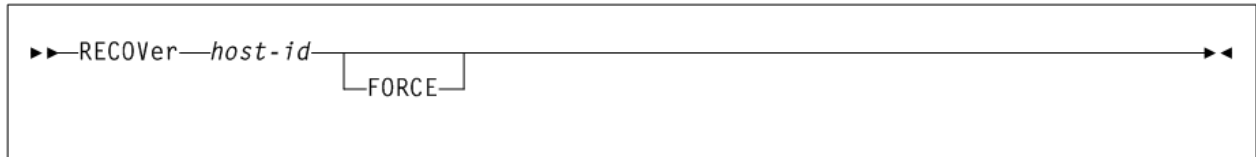
RECOVer コマンドは、動作不能になったホストによって所有されているリソースを回復します。クロスホスト回復では、障害の発生したホストによって所有されているライブラリリソースが解放され、その所有権が回復実行元のホストへと転送され

ます。それらのリソースには CAP やボリュームが含まれます。CAP は、一度に 1 つのホストでのみアクティブ化可能であり、ボリュームは、移動またはマウント時に特定のホストに割り当てられます。

構文

図3.133 「RECOVer コマンドの構文」に *RECOVer* コマンドの構文を示します。

図3.133 RECOVer コマンドの構文



パラメータ

図3.133 「RECOVer コマンドの構文」に示すように、*RECOVer* コマンドには次のパラメータが含まれます。

host-id

回復を実行するホストの識別子 (JES 用の SMF システム識別子) を指定します。

FORCE

オプションで、ホストが非アクティブ状態であることが HSC で検出されなかった場合でも、指定されたホストの回復を実行することを示します。このため、ホストのアクティブフラグがオンのままでも、ホストを回復できます。

注意:

FORCE オペランドを使用するときは十分に注意してください。このオペランドを指定する前に、指定されたホストが非アクティブであることを確認してください。アクティブホストを強制回復する場合、そのホスト上の HSC をリサイクルする必要があります。テープアクティビティの実行時、または回復されたホスト上での HSC のリサイクル時に予期しない異常終了の原因となるので、回復されたホスト上では、データベースアクティビティは禁止されています。

RELease

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

RELease コマンドは、割り当て済みの CAP を解放し、その CAP をほかのプロセスが使用できるようにします。その際、制御データセットを共有するすべての HSC を再起動する必要はありません。

CAP があるホストに割り当てられた状態のままになる可能性があるのは、CAP がアクティブな状態で、そのホスト上の HSC が回復を実行しないまま終了した場合です。

このコマンドは、接続済みの任意のホストから発行できます。オペレータは、リリース操作の確認として、コンソールメッセージに応答することを要求されます。

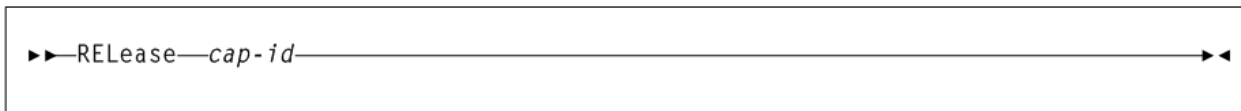
注意:

このコマンドは最後の手段として使用してください。CAP が別のアクティブなプロセスによって使用されていないことを確認してください。アクティブな CAP に対して *RELease* コマンドを発行すると、その CAP を使用しているプロセスがエラーを受信する可能性があります。

構文

図3.134 「*RELease* コマンドの構文」に *RELease* コマンドの構文を示します。

図3.134 *RELease* コマンドの構文



```
▶▶—RELease—cap-id—————▶▶
```

パラメータ

図3.134 「*RELease* コマンドの構文」に示すように、*RELease* コマンドには次のパラメータが含まれます。

cap-id

リリースする CAP を識別します。*cap-id* の形式は *AA:LL:CC* です。ここで、*AA:LL* は LSMid を示し、*CC* は CAP を示します。有効な値のリストについては、「*CAPid*」を参照してください。

注:

LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

REPLaceall

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

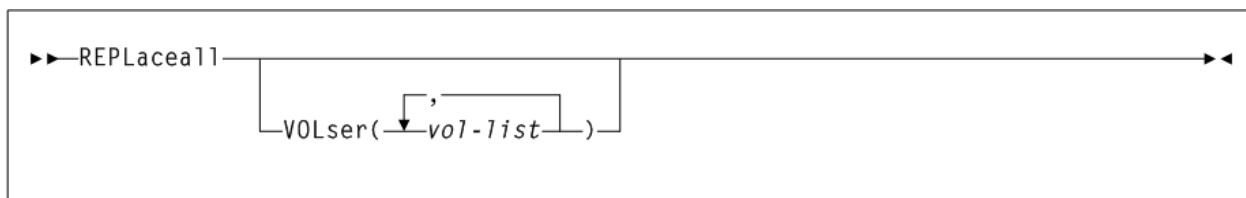
説明

REPLaceall コマンドは、CDS 内のスクラッチリストを削除し、オプションでそのリストを新しいリソースで置換します。

構文

図3.135 「REPLaceall コマンドの構文」に *REPLaceall* コマンドの構文を示します。

図3.135 REPLaceall コマンドの構文



パラメータ

図3.135 「REPLaceall コマンドの構文」に示すように、*REPLaceall* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VOLser(vol-list)

オプションで、スクラッチリスト内で追加、削除、または置換するボリュームシリアル番号のリストを指定します。

vollist はボリュームシリアル番号を示します。これは、単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、ボリュームシリアル番号の範囲、リストと範囲の組み合わせ (コンマ区切り)、のいずれかになります。リストの全体をカッコで囲む必要があります。

RESTore

インターフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

HSC が停止している (非アクティブである) 必要がある

説明

RESTore コマンドは、ライブラリの制御データセット (CDS) を、以前の CDS バックアップコピーから復元または再作成します。複数の *CDS DD* 文が指定された場合、*RESTore* プロセスで複数の CDS コピーが作成されます。

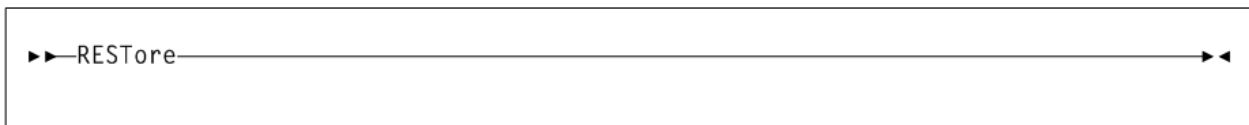
注意:

HSC から参照されるすべてのデータセット (プライマリ、セカンダリ、スタンバイ) を復元することが重要です。すべてのデータセットを復元しなかった場合は、CDS の不一致が発生する可能性があります。このユーティリティーを使用する場合やその動作方法の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

構文

図3.136 「*RESTore* コマンドの構文」 に *RESTore* コマンドの構文を示します。

図3.136 *RESTore* コマンドの構文



パラメータ

なし。

JCL の追加の要件

「*SLUADMIN* の呼び出し」で説明した必須の JCL 定義文のほかに、次の定義文も *RESTore* JCL に適用されます。

SLSCNTL

プライマリ CDS を指定します。

SLSCNTL2

オプションで、セカンダリ CDS を指定します。

セカンダリ CDS が存在する場合は、切り替えが発生してセカンダリ CDS がアクティブになったら、CDS を並べ替えることによってデータベースの整合性を維持できるように、この文を含めます。

SLSSTBY

オプションで、スタンバイ CDS を指定します。スタンバイ CDS が存在する場合はこの文を含めてください。そうすれば、切り替えが発生してスタンバイ CDS がアクティブになった場合に、CDS を並べ替えてデータベースの整合性を維持できます。

SLSBKUP

バックアップデータセット。

SCRAtch

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

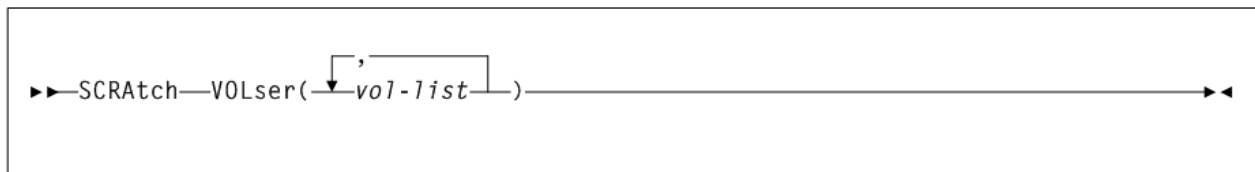
説明

SCRAtch コマンドは、1 つまたは複数のボリュームをスクラッチします。

構文

図3.137 「*SCRAtch* コマンドの構文」 に *SCRAtch* コマンドの構文を示します。

図3.137 *SCRAtch* コマンドの構文



パラメータ

図3.137 「*SCRAtch* コマンドの構文」 に示すように、*SCRAtch* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VOLser(vol-list)

スクラッチリスト内で追加、削除、または置換するボリュームシリアル番号のリストを指定します。

vollist はボリュームシリアル番号を示します。これは、単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、ボリュームシリアル番号の範囲、リストと範囲の組み合わせ (コンマ区切り)、のいずれかになります。最大 100 個のボリュームシリアル番号を指定できます。リストの全体をカッコで囲む必要があります。

SCREdist

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

SCREdist コマンドは、ライブラリの全体でスクラッチボリュームの数を再分配またはバランシングします。

SCREdist では、次の間でスクラッチボリュームの再分配を行えます。

- ACS の指定から暗黙的に導出された LSM の間、または
- オプションパラメータ経由で明示的に特定された LSM の間。

SCREdist では、メディアタイプと記録方式を 1 つずつ選択できます。指定した場合、その *MEDIA* と *RECTECH* の設定に基づいてスクラッチボリュームの再分配が行われます。

MEDIA、*RECTECH* のどちらも指定しなかった場合、ボリューム再分配時にメディアタイプや記録方式は考慮されません。

ACS パラメータだけを指定した場合、再分配方式により、スクラッチボリューム数の多い LSM からスクラッチボリューム数の少ない LSM へカートリッジが転送されます。各 LSM 内のスクラッチボリューム数が定義されたスクラッチ許容レベル内に収まるまで、このプロセスが繰り返されます。

ACS 内に各種 LSM (4410、9310、9360、9740) が混在している場合は、ACS 内のスクラッチカートリッジのパーセンテージに基づいて分配が実行されます。つまり、このユーティリティーを実行すると、各 LSM の、ACS 内スクラッチテープ数に占めるパーセンテージと、ACS 内セル数に占めるパーセンテージが同じになります。たとえば、ある ACS の 9310 LSM 内に、その ACS 内のセルの 80 パーセントが格納されている場合、スクラッチテープの 80 パーセントが 9310 内に配置されます。

注:

SL3000 および SL8500 はスタンドアロンライブラリであり、ほかの LSM タイプと組み合わせることはできません。

LSM パラメータを指定した場合、スクラッチ再分配が完了した時点で、指定した LSM だけにスクラッチカートリッジが格納されています。

複数 ACS 間での同時再分配を実現するには、このユーティリティープログラムを複数実行します。

再分配時には、スクラッチカートリッジ用のスペースを空けるために、非スクラッチカートリッジが移動されます。実際に移動されるスクラッチカートリッジの数は、空きセルの数と使用可能なスクラッチカートリッジの数に応じて変わります。

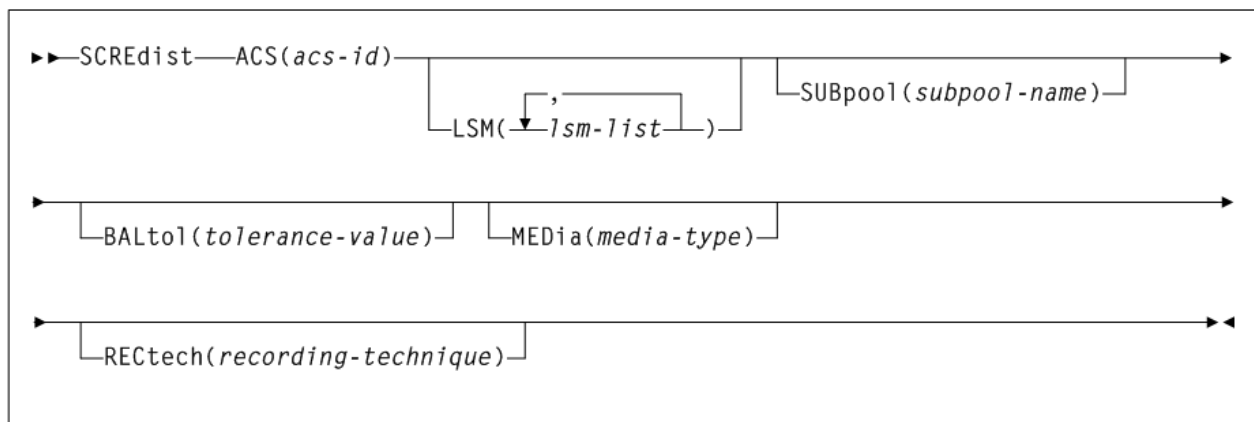
注:

凍結されたパネルにカートリッジを転送することはできません。

構文

図3.138 「SCREdist コマンドの構文」 に SCREdist コマンドの構文を示します。

図3.138 SCREdist コマンドの構文



パラメータ

図3.138 「SCREdist コマンドの構文」 に示すように、*SCREdist* コマンドには次のパラメータが含まれます。

ACS(*acs-id*)

スクラッチボリュームの再分配を行う、ライブラリ内の1つのACSを指定します。

acsid はACSを示します。1桁または2桁の10進のACS識別子。

LSM(*lsm-list*)

オプションで、ACS内の特定のLSMだけにスクラッチカートリッジが格納されることを指定します(指定しなかった場合、ACS内のすべてのLSMにスクラッチボリュームが再分配される)。

lsm-list は、単一のLSM、またはLSMidのリストを示します。LSMid(*lsm-id*) は、ACSid(10進数00-99)とLSM番号(10進数00-99)をコロン(:)で区切ったものになります。LSMの範囲は許可されません。

lsm-list に含まれる要素はカッコで囲む必要があるほか、複数の要素は空白かコンマで区切る必要があります。

SUBpool(*subpool-name*)

オプションで、再分配するスクラッチボリュームが含まれるサブプールの名前を指定します。

subpoolname はサブプールを示します。

BALtol(*tolerance-value*)

オプションで、バランス許容値を指定します。スクラッチボリュームは、この指定された値に基づいて分配されます。

tolerancevalue は、カートリッジ再分配の終了条件を表すパーセント値を示します。有効な値は1-999です。これらの値は、.1から99.9までのパーセンテージを示します(つまり、1は.1パーセントを表し、999は99.9パーセントに等しくなる)。HSCの初期値は1です。このユーティリティーで*tolerancevalue*が指定されなかった場合、HSCはスクラッチ再分配の初期値を使用します。

指定されたすべてのLSM内のスクラッチテープのパーセンテージが、ACS内のセルの各LSMのパーセンテージの*tolerancevalue* / 2パーセンテージポイント以内になった時点で、このユーティリティーはスクラッチカートリッジの再分配を終了します。

たとえば、5,000 個のセルを含む 1 つの 4410 LSM、1,000 個のセルを含む 1 つの 9360 (WolfCreek) LSM、および合計 600 個のスクラッチテープを備えた ACS があるとします。スクラッチ再分配は、4410 内に 500 個のスクラッチを、9360 内に 100 個のスクラッチをそれぞれ配置しようとしています。

BALtol(100) と入力した場合の設定は 10 パーセントになりますが、これは、すべての LSM が各 LSM の予定スクラッチ数 (4410 では 500、9360 では 100) の±5 パーセント以内に収まった時点でユーティリティーが終了することを意味します。

予定数は次のようにして計算できます。

$$\text{expnumlsm} = \text{totscracs} \times (\text{totcellslsm} / \text{totcellsacs})$$

ここでは:

- *expnumlsm* は、各 LSM の予定スクラッチ数を示します。
- *totscracs* は、ACS 内の合計スクラッチ数を示します。
- *totcellslsm* は、LSM 内の合計セル数を示します。
- *totcellsacs* は、ACS 内の合計セル数を示します。

前述の例では、4410 は 470530 の範囲のスクラッチ、9360 は 70130 の範囲のスクラッチを持つべきです。*BALtol* 範囲を求めるには次のようにします。

$$\text{BALtol range} = \text{expnumlsm} + (\text{baltol} / 1000 \times \text{totscracs}) / 2$$

ここでは:

- *BALtol range* は、バランス許容値の範囲を示します。
- *expnumlsm* は、各 LSM の予定スクラッチ数を示します (上を参照)。
- *baltol* は、スクラッチカートリッジ再分配の終了条件を指定する、ユーザー指定のパーセント値 (*tolerance-value*) を示します。
- *totscracs* は、ACS 内の合計スクラッチ数を示します。

MEDia(media-type)

オプションで、ACS 内で再分配するカートリッジのタイプを指定します。

media-type はメディアタイプを示します

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、およびMODElの値」](#)を参照してください。

RECtech(recording-technique)

オプションで、テープ表面にデータトラックを記録する際に使用される方式を指定します。

注:

RECtech を指定しなかった場合、指定された *MEDIA* タイプに応じて次のスクラッチカートリッジが選択されます。

recording-technique は、記録技法を示します。有効な *recording-technique* 値については、付録A「*MEDIA*、*RECtech*、および *MODEL* の値」を参照してください。

SCRPT**インタフェース:**

- *SLUADMIN* ユーティリティのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

- アクティブな HSC は必要ありません
- レポート出力時にデータが生成されるためには、SMC がアクティブであり、かつ複製解除機能を有効にした状態で1つ以上の VLE と通信している必要があります。出力レポートは、承認済みのライブラリから実行する必要があります。

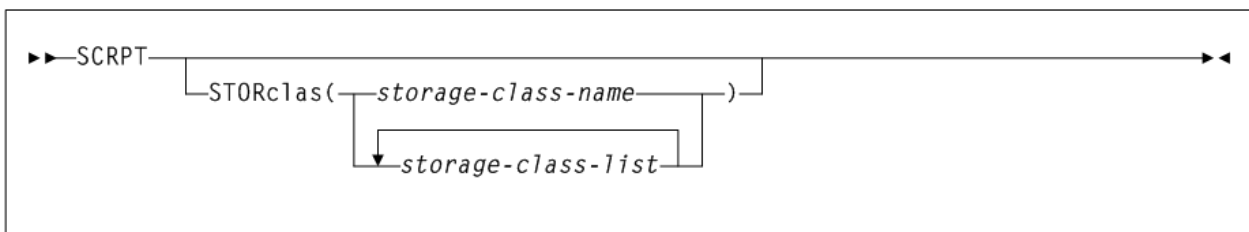
説明

SCRPT コマンドは、ストレージクラスによる VLE の使用に関するレポートを作成します。

構文

図3.139「*SCRPT* コマンドの構文」に *SCRPT* コマンドの構文を示します。

図3.139 *SCRPT* コマンドの構文



パラメータ

図3.139「SCRPT コマンドの構文」に示すように、SCRPT コマンドには次のパラメータが含まれます。

STORclas(storage-class-name または storage-class-list)

1つ以上のストレージクラスの名前を指定します。指定しなかった場合、レポートはすべてのストレージクラスに適用されます。

storage-class-name または *storage-class-list* は、ストレージクラス名、またはストレージクラスのリストを示します。ストレージクラス名は、英字で始まる 1-8 文字の英数字である必要があります、SMS の命名規則に従う必要があります。

SCRPT レポート

次に、SCRPT レポートの例を示します。

例3.55 SCRPT レポート

Storage Class	STORMNGR	Node	Total MVCs	Capacity (GB)	Used (GB)	Compressed (GB)	Uncompressed (GB)	Reduction Ratio
PROD1	VLELIB1	0	4	1000	200	800	3200	16.0:1
		1	3	750	200	400	1600	8.0:1
		2	5	1250	200	400	1600	8.0:1
		3	4	1000	0	0	0	1.0:1
			16	4000	600	1600	6400	10.7:1
Total=			16	4000	600	1600	6400	10.7:1
{All}	VLELIB1	0	4	1000	200	800	3200	16.0:1
		1	3	750	200	400	1600	8.0:1
		2	5	1250	200	400	1600	8.0:1
		3	4	1000	0	0	0	1.0:1
			16	4000	600	1600	6400	10.7:1
Total=			16	4000	600	1600	6400	10.7:1

フィールド

SCRPT レポートには次のフィールドが含まれます。

Storage Class

ストレージクラス。

STORMNGR

VLE サブシステム名。

NODE

サーバーノード。

Total MVCs

このグループ内の VMVC の合計数。

Capacity (Gb)

このグループ内のすべての VMVC の合計容量 (G バイト)。

Used (Gb)

このグループ内の使用済み VMVC 領域の合計 G バイト数。

Compressed (Gb)

このグループ内の圧縮データの合計 G バイト数。これは、VTSS がデータを (4:1 の比率で) 圧縮して VTV に書き込んだあとの、データのサイズに等しくなります。

Uncompressed (Gb)

このグループ内の非圧縮データの合計 G バイト数。これは、VTSS がデータを圧縮して VTV に書き込む前の、データのオリジナルサイズに等しくなります。

Reduction Ratio

データのおおよその削減率。これは、「Uncompressed」の G バイトを「Used」の G バイトで割ったものになります。そのため、削減率には VTSS の圧縮と VLE の複製解除の両方が含まれます。削減率が大きいことは、圧縮と複製解除の効果が大きいことを示します。たとえば、VTSS は 16M バイトのデータを受け取り、それを 4M バイトに圧縮して、圧縮されたデータを VTV に書き込みます。VLE は続いて VTV を 2M バイトに複製解除し、それを VMVC に書き込みます。したがって、削減率は 16Mb2Mb または 8.0:1 になります。

計算は M バイトで行われるため、「Used」または「Uncompressed」フィールドに 0 GB と表示される可能性があり、1.0:1 以外の削減率が表示されることもあります。

SENter

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

SEnter コマンドは、現在取り出し操作に割り当てられている CAP で、挿入をスケジューリングします。*SEnter* コマンドは、CAP をカートリッジ取り出し用に割り当てたホストから発行する必要があります。

構文

図3.140 「*SEnter* コマンドの構文」 に *SEnter* コマンドの構文を示します。

図3.140 *SEnter* コマンドの構文

```
▶▶SEnter—cap-id————▶▶
```

パラメータ

図3.140 「*SEnter* コマンドの構文」 に示すように、*SEnter* コマンドには次のパラメータが含まれます。

cap-id

capid は、カートリッジの挿入に使用する CAP を示します。1 つの CAP を指定する必要があります、その CAP が、*SEnter* コマンド発行元のホストに割り当てられる必要があります。

cap-id の形式は *AA:LL:CC* です。ここで、*AA:LL* は LSMid を示し、*CC* は CAP を示します。有効な値のリストについては、「[CAPid](#)」を参照してください。

注:

LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

SET

SET コマンドを使用すれば、ライブラリの再構成を実行することなしに、選択されたライブラリ構成設定を変更できます。これは、制御データセットに対して直接処理を実行するので、HSC がアクティブであることを要求しません。

このコマンドは、次の表に一覧表示されているいずれかのオプションとともに発行します。各オプションが個別に説明され、また以降のページではさらに詳細に説明されています。

表3.13 SET のオプション

オプション	説明
<i>CLNPRFX</i>	クリーニングカートリッジ接頭辞
<i>COMPRFX</i>	HSC/VTCS コマンド接頭辞
<i>DRVHOST</i>	すべての SMC クライアントシステムが、SMC <i>DRIVEMAP</i> コマンドで定義されたデバイスアドレスを使用して割り当てに影響を及ぼし、マウントやマウント解除を要求できるようにするかどうか。
<i>EJCTPAS</i>	取り出しパスワード
<i>EJCTSKP</i>	SL8500 バルク CAP スキップグローバル設定
<i>FREEZE</i>	あるパネルまたは LSM 上に追加のカートリッジが格納されることを拒否 (凍結) するか、それとも許可 (凍結解除) するか
<i>HOSTID</i>	古いホスト ID を新しいホスト ID に変更します
<i>HSCLEVe1</i>	指定されたホストで HSC アクティブおよびリリースレベルインジケータがクリアされることを指定します
<i>LOGFILE</i>	CDS の回復に必要な論理トランザクションを含めるプライマリおよびセカンダリログファイルを定義します。
<i>MAJNAME</i>	<i>ENQ/DEQ/RESERVE QNAME</i> が設定されることを指定します
<i>MIGOPT</i>	次の VTCS 移行パラメータを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • 同時処理する自動移行、即時移行、およびしきい値までの移行タスクの最大数および最小数 • 上限 AMT および下限 AMT
<i>NEWHOST</i>	新しいホストが追加されることを指定します
<i>RMM</i>	VTCS- <i>DFSMSrmm</i> インタフェースを有効または無効にします
<i>SCRLABL</i>	LMU ステーションアドレスが設定されることを指定します
<i>SLIDRIVS</i>	特定のパネル内のドライブのデバイス番号が変更または追加されることを指定します
<i>SMF</i>	HSC で使用される SMF レコードタイプが設定されることを指定します
<i>TAPEplex</i>	TapePlex が設定されることを指定します

オプション	説明
<i>TCHNIQE</i>	制御データセットの回復方法が設定されることを指定します
<i>VAULT</i>	<i>SET Vault</i> ユーティリティーは、サーバーコンプレックスの <i>VAULT</i> 情報を定義するために使用されます。
<i>VAULTVOL</i>	<i>SET VAULTVOL</i> ユーティリティーは、 <i>VAULT Volume</i> 領域を定義するために使用されます
<i>VOLPARM</i>	<i>SET VOLPARM</i> ユーティリティーは、サーバーコンプレックスのボリュームとプールの情報を定義します。
<i>VOLPARM UPDATE</i>	<i>SET VOLPARM UPDATE</i> ユーティリティーは、サーバーコンプレックスのボリュームおよびプール情報に対する変更を定義します。
<i>VOLPARM JOIN</i>	<i>SET VOLPARM JOIN</i> ユーティリティーは、複数の <i>VOLPARM</i> 文で定義された連続するボリューム範囲を、1つの新しい <i>VOLPARM</i> 文の中でマージします。

SET CLNPRFX

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET CLNPRFX コマンドは、クリーニング接頭辞を設定します。

注:

クリーニング接頭辞を変更する前に、すべてのシステムで HSC をシャットダウンする必要があります。

構文

図3.141 「[SET CLNPRFX コマンドの構文](#)」 に *SET CLNPRFX* コマンドの構文を示します。

図3.141 SET CLNPRFX コマンドの構文

```
▶▶SET—CLNPRFX(prefix)◀◀
```

パラメータ

図3.141 「SET CLNPRFX コマンドの構文」 に示すように、SET CLNPRFX コマンドには次のパラメータが含まれます。

prefix

クリーニングカートリッジ用の 3 文字の接頭辞を示します。有効な文字は A-Z、09、\$、#、および @ です。

注:

クリーニング接頭辞を変更する前に、すべてのシステムで HSC をシャットダウンする必要があります。

SET CLNPRFX の手順

クリーニングカートリッジの接頭辞を変更するには、次のようにします。

1. すべての ACS からすべてのクリーニングカートリッジを取り出します。HSC は、クリーニングカートリッジに関する情報を CDS に記録します。
2. すべてのホスト上で HSC を終了します。
3. SET CLNPRFX を使ってクリーニング接頭辞を変更します。
4. 必要なすべてのホスト上で、HSC を初期化します。
5. 新しい接頭辞で識別される新しいクリーニングカートリッジを、すべての ACS に挿入します。

注:

カートリッジをいったん取り出してから再挿入すると選択カウントがゼロに設定されるので、新しいクリーニングカートリッジを挿入することをお勧めします。選択カウントは、クリーニングカートリッジが使用された回数を追跡します。

SET COMPRFX

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ

- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET COMPREFX コマンドは、HSC/VTCS コマンド接頭辞を設定します。

構文

図3.142 「SET COMPREFX コマンドの構文」 に SET COMPREFX コマンドの構文を示します。

図3.142 SET COMPREFX コマンドの構文

```
▶▶SET—COMPREFX(cmdhex)◀◀
```

パラメータ

図3.142 「SET COMPREFX コマンドの構文」 に示すように、SET COMPREFX コマンドには次のパラメータが含まれます。

cmdhex

コマンド接頭辞の 2 文字の 16 進コードを示します。ほかのサブシステムに割り当てられた値と競合する値を選択しないでください。各コードに関連付けられた文字を、表3.14 「コマンド接頭辞コードと文字との対応関係」 に示します。

HSC または VTCS システムが再起動されるまで、コマンド接頭辞は有効になりません。

使用する接頭辞文字が、次のどれとも競合しないことを確認してください。

- 別のサブシステムのコマンド接頭辞文字 (JES の「\$」、「*」、TSO の区切り文字「;」など)。
- SYS1.PARMLIB (CONSOLxx) の CMDDELIM キーワードの値として指定された、MSP のコマンド区切り文字 (富士通の MSP/EX インストールおよびチューニングガイドを参照)。
- JES のインストール文またはデフォルトに指定された JES 行編集文字。JES の場合、初期化文は CCOMCHR になります。

VM ホスト上で実行されている HSC が、MSP 上で実行されている HSC と CDS を共有する場合、使用するコマンド接頭辞文字が、VM 機能 (CP 行編集シンボルなど) のどれとも競合していないことを確認してください。次の表は、コマンド接頭辞コードと文字との対応関係を示したものです。

表3.14 コマンド接頭辞コードと文字との対応関係

16 進	文字	説明
40	null	空白
4A		セント
4B	.	ピリオド
4C	<	より小さい
4D	(左カッコ
4E	+	プラス
4F		縦棒
50	&	アンパサンド
5A	!	感嘆符
5B	\$	ドル記号
5C	*	アスタリスク
5D)	右カッコ
5E	;	セミコロン
5F		シンボルでない
60	-	マイナス
61	/	スラッシュ
6B	,	コンマ
6C	%	パーセント
6D	_	アンダースコア
6E	>	より大きい
6F	?	疑問符
7A	:	コロン
7B	#	クロスハッチ

16進	文字	説明
7C	@	アット記号
7E	=	等号
7F	"	二重引用符

null コマンド接頭辞 (16 進の 40) を指定する場合、MSP MODIFY コマンドを使用してすべての HSC オペレータコマンドを実行する必要があります。

例: `F SLS0 MOUNT EDU050, B30`

ここでは:

- `F` は、MSP `MODIFY` コマンドの短縮形です。
- `SLS0` は HSC サブシステムです。
- `MOUNT` は HSC オペレータコマンドです。
- `EDU050` は `VOLSER ID` です。
- `B30` は、指定されたテープドライブです。

SET DRVHOST

インタフェース:

- `SLUADMIN` ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET DRVHOST` コマンドは、SMC `DRIVemap` コマンドで定義されたドライブアドレスを使用して割り当てに影響を及ぼし、マウントおよびマウント解除を要求するよう、SMC クライアントシステムに指示します。

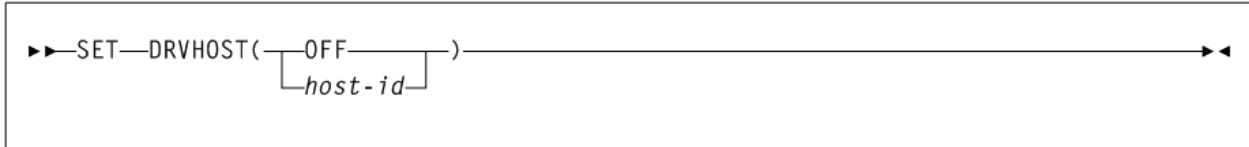
注:

SMC の `DRIVemap` コマンドの詳細については、「[DRIVemap](#)」を参照してください。

構文

図3.143 「SET DRVHOST コマンドの構文」に *SET DRVHOST* コマンドの構文を示します。

図3.143 SET DRVHOST コマンドの構文



パラメータ

図3.143 「SET DRVHOST コマンドの構文」に示すように、*SET DRVHOST* コマンドには次のパラメータが含まれます。

OFF

各 HSC が、HSC *SLILIBRY LIBGEN* マクロでそのホストに対して定義されたドライブに基づいて、SMC クライアントにデバイスアドレスを報告することを示します。

host-id

CDS 内に定義されたホスト名。

SET EJCTPAS

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

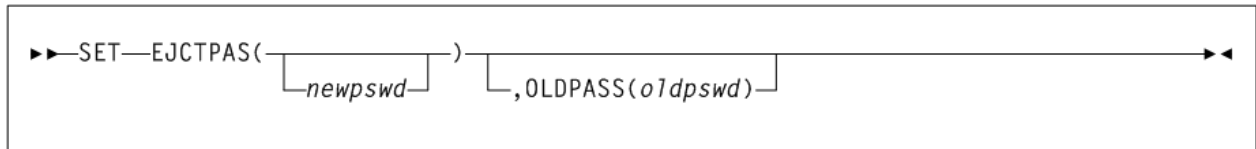
説明

SET EJCTPAS コマンドは、HSC 取り出しパスワードを設定します。HSC システムが再起動されるまで、このパスワードは有効になりません。

構文

図3.144 「SET EJCTPAS コマンドの構文」に *SET EJCTPAS* コマンドの構文を示します。

図3.144 SET EJCTPAS コマンドの構文



パラメータ

図3.144 「SET EJCTPAS コマンドの構文」 に示すように、SET EJCTPAS コマンドには次のパラメータが含まれます。

newpswd

18 文字の取り出しパスワード。

新しいパスワードは英数字、つまり AZ (大文字のみ) と 09 である必要があります。newpswd を省略した場合、取り出しパスワードチェックが無効化されます。

注:

SLSPRINT では newpswd は表示されません。

,OLDPASS(oldpswd)

古い取り出しパスワードが指定されることを指定します。古いパスワードは、パスワードを変更または削除する場合に指定する必要があります。古いパスワードを削除するには、それを構文から省略します。つまり、OLDPASS() とします。取り出しパスワードが現在存在していない場合、このパラメータを省略できます。

oldpswd は、18 文字の古い取り出しパスワードを示します。

注:

SLSPRINT では oldpswd は表示されません。

SET EJCTSKP

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

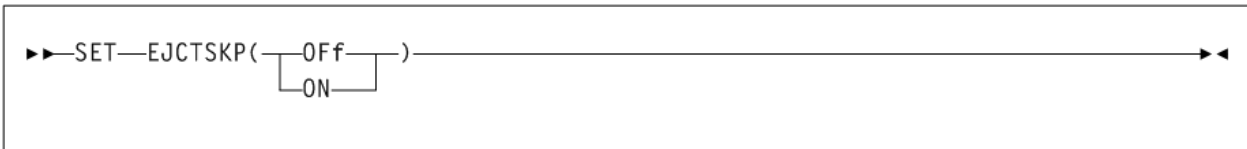
説明

`SET EJCTSKP` コマンドは、レール 1-3 のマガジンの最後のスロットと、レール 4 の最初のスロットをスキップすることを `EJECT` プロセスに要求する、SL8500 バルク CAP グローバル設定を有効または無効にします。これらの空のセルがあると、CAP からより簡単にマガジンを除去できます。

構文

図3.145 「SET EJCTSKP コマンドの構文」 に `SET EJCTSKP` コマンドの構文を示します。

図3.145 SET EJCTSKP コマンドの構文



パラメータ

図3.145 「SET EJCTSKP コマンドの構文」 に示すように、`SET EJCTSKP` コマンドには次のパラメータが含まれます。

OFF

すべてのバルク CAP でこの設定を無効にします。

ON

すべてのバルク CAP でこの設定を有効にします。

注:

CAP のタイプを SL8500 標準回転 CAP からバルク CAP に変更する方法やその逆を行う方法については、Oracle の ELS ドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。

SET FREEZE

インタフェース:

- `SLUADMIN` ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

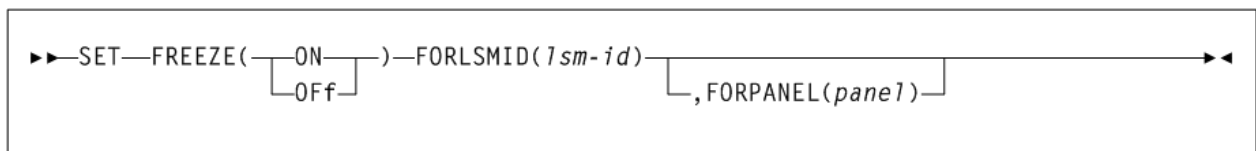
説明

`SET FREEZE` コマンドは、あるパネルまたは LSM 上に追加のカートリッジが格納されることを拒否 (凍結) するか、それとも許可 (凍結解除) するかを指定します。

構文

図3.146 「`SET FREEZE` コマンドの構文」 に `SET FREEZE` コマンドの構文を示します。

図3.146 `SET FREEZE` コマンドの構文



パラメータ

図3.146 「`SET FREEZE` コマンドの構文」 に示すように、`SET FREEZE` コマンドには次のパラメータが含まれます。

ON

あるパネルまたは LSM を凍結することを指定します。この場合、追加のカートリッジがそのパネルまたは LSM に移動できなくなります。この制限には、次の操作の結果としての、あるパネルまたは LSM 上での新しいカートリッジ位置の割り当ても含まれます。

- `MOVE` コマンド、ユーティリティー、または `PGMI` 要求
- ACS へのカートリッジの挿入
- フロート、スクラッチマウント解除、またはスクラッチ再分配の処理。

凍結パネル上のカートリッジが (マウント要求などによって) 選択された場合、そのカートリッジは、要求実行後に凍結パネル上のホームセルに戻ることができます。

凍結されたパネルまたは LSM 上にすでに存在しているカートリッジは、`MOVE` コマンド、ユーティリティー、または `PGMI` 要求を使って慎重に外部へ移動する必要があります。あるいは、`EJECT` コマンドや `EJECT` ユーティリティーを実行してカートリッジを取り出してもかまいません。

OFF

あるパネルまたは LSM の凍結を解除することを指定します。この場合、追加のカートリッジがそのパネルまたは LSM に移動できます。

FORLSMID(*lsm-id*)

特定のパネルまたは LSM に処理が制限されることを指定します。

lsm-id は、凍結または凍結解除する LSM の LSMid (AA:LL) を示します。LSMId (*lsm-id*) は、ACSid (10 進数 00-99) と LSM 番号 (10 進数 00-99) をコロン (:) で区切ったものになります。

FORPANEL(*panel*)

オプションで、特定のパネルに処理が制限されることを指定します。

panel は、凍結または凍結解除するパネルの 2 桁の ID を示します。指定されたパネルは、LSM 内の既存のドライブパネルでなければいけません。有効な値のリストについては、「[パネル](#)」を参照してください。

注:

- LSM 内に凍結済みパネルがすでに存在している状態で、その LSM 全体を凍結した場合、LSM を凍結解除した時点ですべてのパネルが凍結解除されます。

LSM 全体を凍結解除したあとで一部のパネルが凍結されたままになるようにするには、**SET FREEZE ON FORLSMID FORPANEL** 文を同じ **SLUADMIN JOBSTEP** に追加できます。

- LSM が凍結されると、新しいセル割り当ては一切発生しなくなります。ただし、その凍結された LSM 内のカートリッジで、現在ドライブにマウントされているものはすべて、ホームセルに戻ります。
- 凍結または凍結解除されたパネルや LSM は、すべてのアクティブ HSC によって即座に認識されます。アクティブ HSC を停止して再初期化しなくても、**SET FREEZE** による変更が検出されます。

凍結されたパネルで、**MERGEcds** または **Reconfiguration** ユーティリティーの実行によってパネルタイプが変更された場合、その新しいパネルは凍結されていない状態になります。パネルタイプが変更されなかった場合、マージまたは再構成のあとでパネルは凍結されたままになります。

SET HOSTID**インタフェース:**

- **SLUADMIN** ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET HOSTID` コマンドは、ホスト ID の名前を変更します。

注:

ホスト名変更時にほかのホストがアクティブであった場合、それらのアクティブホスト上の一部のメッセージでは、古いホスト名が表示される可能性があります。それらのホスト上で HSC が再起動されると、新しいホスト名がメッセージに表示されます。

構文

図3.147 「[SET HOSTID コマンドの構文](#)」に `SET HOSTID` コマンドの構文を示します。

図3.147 SET HOSTID コマンドの構文

```
▶▶SET—HOSTID(newhost),FORHOST(oldhost)▶▶
```

パラメータ

図3.147 「[SET HOSTID コマンドの構文](#)」に示すように、`SET HOSTID` コマンドには次のパラメータが含まれます。

HOSTID(newhost)

古いホスト ID を新しい名前に変更することを指定します。

newhost は、JES 用の SMF システム ID を表す、18 文字のホスト ID を示します。*newhost* がすでに CDS 内で定義されてはいけません。

FORHOST(oldhost)

古いホスト ID を指定します。

oldhost は、18 文字のホスト ID を示します。このホストが CDS 内でアクティブとマークされてはいけません。HSC は、停止していてもアクティブとマークされている可能性があります。`SET HOSTID` は実行に失敗します。停止しているホストの HSC が非アクティブとマークされるようにするには、HSC をいったん起動してからシャットダウンします。また、停止しているがアクティブとマークされている HSC に対し、別のホストがクロスホスト回復を実行する

可能性もあります。これらのいずれの場合も、停止している HSC の CDS 内でのステータスが、アクティブから非アクティブへと変更されます。動作フラグのリセットについては、「[SET HSCLEVEL](#)」を参照してください。

注:

HOSTID (*newhost* または *oldhost*) が小文字の場合、この ID を引用符で区切る必要があります。

SET HSCLEVEL

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET HSCLEVEL コマンドは、指定されたホストの HSC アクティブおよびリリースレベルインジケータをクリアします。

注:

HSCLEVEL を使用する場合は、*hostid* に指定されたホストが非アクティブの場合にのみコマンドを実行するようにしてください。

HSC が突然終了すると、これらのインジケータが設定されたままになります。たとえば、HSC の取り消しやオペレーティングシステムの障害などです。

構文

[図3.148 「SET HSCLEVEL コマンドの構文」](#) に *SET HSCLEVEL* コマンドの構文を示します。

図3.148 SET HSCLEVEL コマンドの構文

```
▶—SET—HSCLEVEL(OFF),FORHOST(host-id)————▶◀
```

パラメータ

図3.148 「SET HSCLEVEL コマンドの構文」 に示すように、`SET HSCLEVEL` コマンドには次のパラメータが含まれます。

OFF

指定されたホストの HSC アクティブおよびリリースレベルインジケータをクリアすることを指定します。

FORHOST(*host-id*)

指定されたホストのアクティブインジケータをクリアすることを指定します。

hostid は、処理の制限先となるホストの 18 文字のホスト ID を示します。

注:

Oracle は、`SET HSCLEVEL` を実行する代わりに、次の代替方法を使用することをお勧めします。これらを使えば、HSC インジケータがリセットされ、障害が発生しているホストが所有しているリソースが回復されるからです。

- ホスト上の HSC を再起動します。
 - `RECOVER hostid FORCE` オペレータコマンドを入力します。
-

SET LOGFILE

インタフェース:

- `SLUADMIN` ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET LOGFILE` コマンドは、HSC 7.0 で導入された HSC トランザクションロギングサービスの一部です。

このコマンドは、CDS の回復に必要な VTCS 論理トランザクションを記録するために HSC トランザクションロギングサービスによって使用される、プライマリおよびセカンダリログファイルを定義します。

CDS を回復する必要がある場合にこれらのログファイル内の情報を使えば、CDS 内の VTCS データを元の適切な状態に回復するために必要な時間を短縮できます。

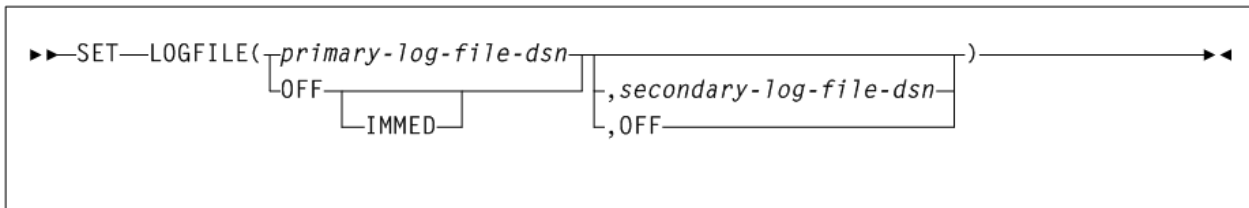
注:

- ログファイルは、*FMTLOG* ユーティリティを使って事前にフォーマットしておく必要があります。詳細については、「**FMTLOG**」を参照してください。
- ログングが現在アクティブでない場合、*SET LOGFILE* コマンドに指定されたログファイル名がすぐにアクティブになります。
- ログングが現在アクティブである場合は、*OFFload LOGFILE* コマンドを使って *OFFload LOGFILE* ユーティリティを実行し、ログファイルを変更する必要があります。詳細は、「**OFFload**」を参照してください。

構文

図3.149 「**SET LOGFILE コマンドの構文**」に *SET LOGFILE* コマンドの構文を示します。

図3.149 SET LOGFILE コマンドの構文



パラメータ

図3.149 「**SET LOGFILE コマンドの構文**」に示すように、*SET LOGFILE* コマンドには次のパラメータが含まれます。

primary-log-file-dsn

プライマリログファイルのデータセット名。このパラメータは必須です。

OFF

ログングを終了することを示すには、*primary-log-file-dsn* に *OFF* を指定します。*OFFload LOG* が実行されるまで、HSC サブシステム上でログングが継続されます。ただし、*IMMED* パラメータも指定された場合は除外します。

IMMED

すべてのアクティブな HSC サブシステム上でログングを即座に停止することを指定します。*IMMED* を指定した場合、以前のログデータは一切オフロードできなくなります。

secondary-log-file-dsn

(オプション) セカンダリログファイルのデータセット名。セカンダリログファイルが以前定義されていた場合、このパラメータは必須になります。

セカンダリログファイルデータセット名のみを変更する場合でも、プライマリログファイルデータセット名の位置に既存のプライマリログファイルデータセット名を再度指定する必要があります。

OFF

二重ロギングから単一ロギングへの変更を行うには、*secondary-log-file-dsn* に *OFF* を指定します。

SET MAJNAME**インタフェース:**

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は不要です。*QNAME* を変更する前に、すべてのシステム上で HSC をシャットダウンする必要があります。

説明

SET MAJNAME コマンドは、*ENQ/DEQ/RESERVE* の *QNAME* を設定します。

構文

図3.150 「[SET MAJNAME コマンドの構文](#)」 に *SET MAJNAME* コマンドの構文を示します。

図3.150 SET MAJNAME コマンドの構文

```
▶▶—SET—MAJNAME(qname)————▶▶
```

パラメータ

図3.150 「[SET MAJNAME コマンドの構文](#)」 に示すように、*SET MAJNAME* コマンドには次のパラメータが含まれます。

qname

18 文字の *QNAME*。*QNAME* の右側には空白がパディングされます。この名前は *QNAME* の要件に準拠すべきです。ホストの中に MSP ホストが存在する場合、オペレーティングシステムとの競合を避けるには、*QNAME* が *SYSA-SYSZ* で始まらないようにしてください。HSC は承認済みであるため、*SYSA-SYSZ* の名前も許可されますが、デッドロックが発生する可能性があります。

注:

QNAME を変更する前に、すべてのシステム上で HSC をシャットダウンする必要があります。

SET MIGOPT**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

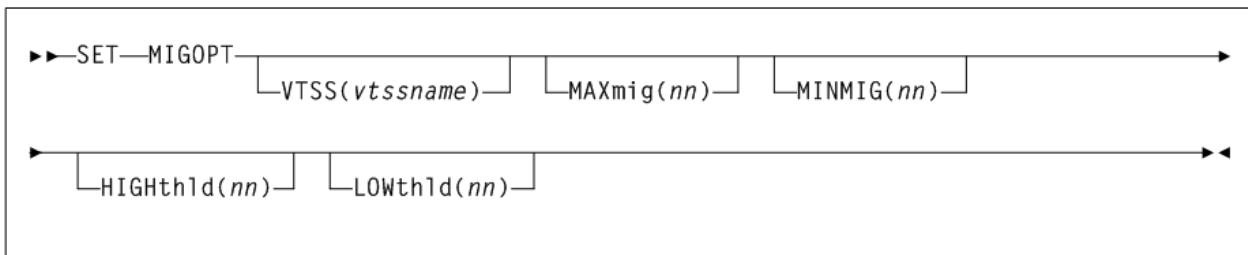
SET MIGOPT コマンドは次の移行パラメータを変更します。

- 同時処理する自動移行、即時移行、およびしきい値までの移行タスクの最大数および最小数。
- 上限 AMT と下限 AMT。

構文

図3.151 「*SET MIGOPT* コマンドの構文」に *SET MIGOPT* コマンドの構文を示します。

図3.151 *SET MIGOPT* コマンドの構文



パラメータ

図3.151 「SET MIGOPT コマンドの構文」 に示すように、*SET MIGOPT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTSS(*vtssname*)

オプションで、移行パラメータを変更する VTSS を指定します。VTSS を指定しなかった場合、変更はすべての VTSS に影響を及ぼします。

vtssname は VTSS の識別子を示します。

MAXmig(*nn*)

オプションで、同時処理される自動移行、即時移行、およびしきい値までの移行タスクの最大数を指定します。

nn はタスクの数を示します。有効な値は 1 から VTSS に接続されている RTD の数までです。デフォルトはありません。値を指定しなかった場合、現在の値は変更されません。

MINMIG(*nn*)

オプションで、同時処理される自動移行、即時移行、およびしきい値までの移行タスクの最小数を指定します。

nn はタスクの数を示します。有効な値は 1 から *MAXMIG* 設定までです。デフォルトはありません。値を指定しなかった場合、現在の値は変更されません。

HIGHthld(*nn*)

オプションで、新しい上限 AMT を指定します。

nn は、VTSS 領域のパーセントとしての新しい上限 AMT を示します。有効な値は 5-95 であり、*LOWthld* の値より大きい必要があります。

LOWthld(*nn*)

オプションで、新しい下限 AMT を指定します。

nn は、VTSS 領域のパーセントとしての新しい下限 AMT を示します。有効な値は 5-95 であり、*HIGHthld* の値より小さい必要があります。

SET NEWHOST

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET NEWHOST` コマンドは、新しいホストを定義します。

構文

図3.152 「`SET NEWHOST` コマンドの構文」 に `SET NEWHOST` コマンドの構文を示します。

図3.152 SET NEWHOST コマンドの構文

```
▶—SET—NEWHOST(newhost), LIKEHOST(model-host)—▶
```

パラメータ

図3.152 「`SET NEWHOST` コマンドの構文」 に示すように、`SET NEWHOST` コマンドには次のパラメータが含まれます。

newhost

JES 用の SMF システム ID を表す 18 文字のホスト ID。

- 追加する新しいホストは、16 というホスト数の上限数を超えてはいけません。
- *newhost* がすでに CDS 内に定義されていない場合は、*newhost* が小文字の場合、*HOSTID* を引用符で区切る必要があります。

LIKEHOST(*model-host*)

LIBGEN 内に現在定義されている既存の構成を新しいホストで使用することを指定します。使用される設定は次のとおりです。

- *SLILIBRY NNLBDRV* (非ライブラリドライブのエソテリック)
- *SLIACS ACSDRV* (ACS ドライブのエソテリック)
- *SLISTATN ADDRESS* (ACS 3270 ステーションのアドレス)
- *SLIDRIVS ADDRESS* (ドライブのアドレス)

model-host は、18 文字のホスト ID を示します。

SET RMM

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

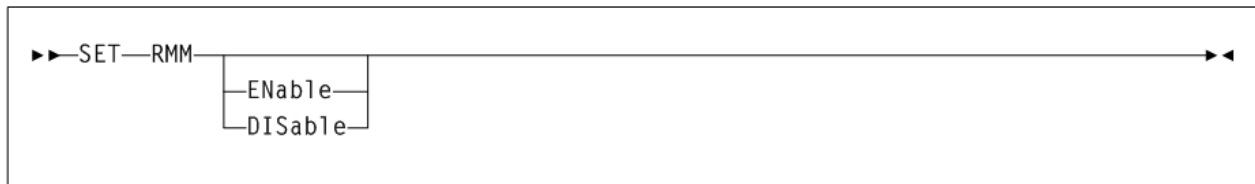
説明

SET RMM コマンドは、VTCS-DFSMSrmm インタフェースを有効または無効にします。

構文

図3.153 「SET RMM コマンドの構文」 に *SET* コマンドの構文を示します。

図3.153 SET RMM コマンドの構文



パラメータ

図3.153 「SET RMM コマンドの構文」 に示すように、*SET RMM* コマンドには次のパラメータが含まれます。

ENable

VTCS-DFSMSrmm インタフェースを有効にします。このインタフェースを有効にした場合、管理クラスに *DELSCR(YES)* が指定された VTV のすべてのスクラッチマウントおよびスクラッチ要求で、VTCS は DFSMSrmm と通信します。

DISable

VTCS-DFSMSrmm インタフェースを無効にします。PTF L1H139T がインストールされている場合、VTCS の初期化時にこのインタフェースは自動的に無効化されます。

パラメータが指定されなかった場合、VTCSはこのインタフェースの現在の設定を表示します。

注:

- *DFSMSrmm* インタフェースを有効にする必要があるのは、IBM APAR OA03368 が適用されておらず、かつ次の (最小限の) VTSS マイクロコードレベルがインストールされていないサイトだけです。

VSM3: N01.00.65

VSM4: D01.00.03

VSM5: すべてのマイクロコードレベルに必要な変更が含まれている

- 必要に応じて、HSC 初期化時に読み取られる *SLSSYSxx PARMLIB* メンバーに VTCS の *SET RMM ENA* コマンドを追加することを、Oracle はお勧めします。
 - このインタフェースを有効にすると、スクラッチマウント処理で遅延が発生する可能性があります。
-

SET SCRLABL

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

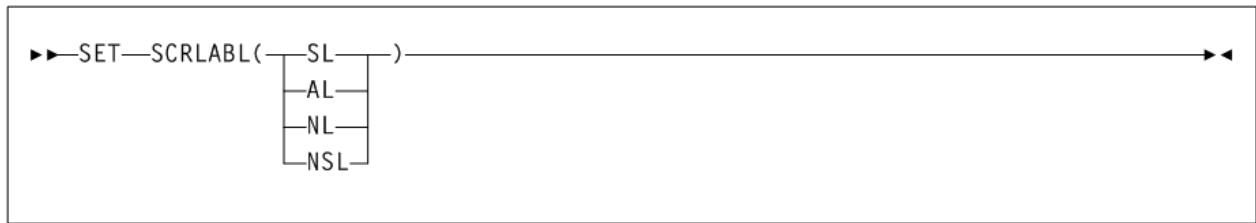
SET SCRLABL コマンドはスクラッチラベルのタイプを指定します。

スクラッチプールへの追加を行う場合は、*Scratch Update* ユーティリティーの前に *REPLaceall* 機能を実行します。それ以外の場合は、この機能を使用したあと、*Scratch Update* ユーティリティーを実行してスクラッチプールを更新するようにしてください。

構文

[図3.154 「SET SCRLABL コマンドの構文」](#) に *SET SCRLABL* コマンドの構文を示します。

図3.154 SET SCRLABL コマンドの構文



パラメータ

図3.154 「SET SCRLABL コマンドの構文」 に示すように、*SET SCRLABL* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SL

標準ラベルテープの不特定要求を自動化することを指定します。

AL

ANSI ラベルテープの不特定要求を自動化することを指定します。

NL

ラベルなしテープの不特定要求を自動化することを指定します。

NSL

非標準ラベルテープの不特定要求を自動化することを指定します。

SET SLIDRIVS

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET SLIDRIVS コマンドは、特定のパネル内のドライブのデバイス番号を追加または変更します。

- 9310 および 9740 ライブラリの場合、影響のある HSC システムを再起動すると、これらの変更が有効になります。詳細については、「[HSC がアクティブな状態での SET SLIDRIVS の実行](#)」を参照してください。

- SL3000 および SL8500 ライブラリの場合、ドライブの追加先となった ACS に対して `MODIFY CONFIG UPD ACS(XX)` を発行すると、これらの変更が有効になります。NCO によってドライブが構成に追加されます。HSC を再起動する必要はありません。

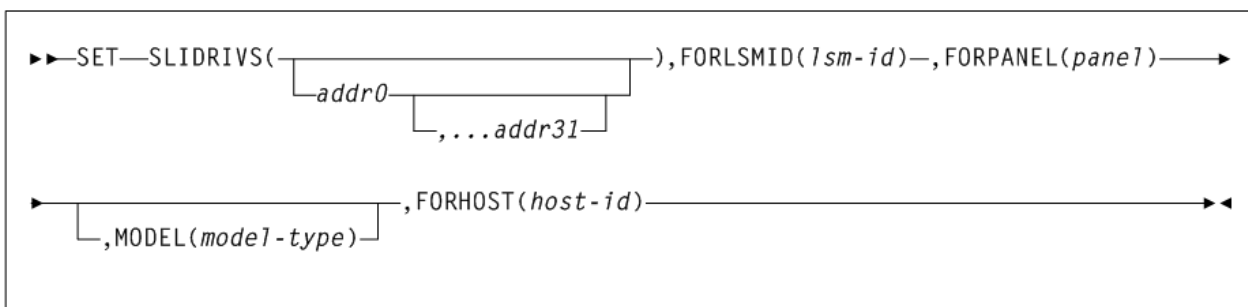
注意:

9310 および 9740 ライブラリの場合、Oracle は、このパラメータを指定する前にすべてのホスト上で HSC を停止すること、および `SET SLIDRIVS` 処理のたびに HSC を再起動することをお勧めします。表3.15「HSCの状態/SET SLIDRIVSの動作」では HSC をアクティブなままにしておける場合をいくつか説明していますが、予測不可能な結果が発生する可能性があります。

構文

図3.155「SET SLIDRIVS コマンドの構文」に `SET SLIDRIVS` コマンドの構文を示します。

図3.155 SET SLIDRIVS コマンドの構文



パラメータ

図3.155「SET SLIDRIVS コマンドの構文」に示すように、`SET SLIDRIVS` コマンドには次のパラメータが含まれます。

addr0,...addr31

パネルのデバイス番号。番号はパネルの上から下に向かって付けられます。あるデバイス番号が省略された場合、それは、パネル内のその特定の位置にあるドライブにホストがアクセスできないか、あるいはそのドライブが存在しないことを意味します。空白とコンマを使えば、複数のドライブ指定を区切ることができます。

指定するドライブの合計数 (コンプレースホルダーも含む) は、次の値になる必要があります。

- 9310 の場合は 4、10、または 20

- SL8500 の場合は 16
- SL3000 の場合は 8、16、24、または 32
- 9740 (TimberWolf) LSM または SL8500 ライブラリでは、20 ドライブパネルは指定できません。
- 4410 LSM では、10 ドライブおよび 20 ドライブパネルは指定できません。

20 ドライブパネル構成に変更したり、20 ドライブパネル構成から変更したりする場合、このユーティリティを実行できるためには、事前にパネル内のすべてのセルが空になっている必要があります。

4 または 10 ドライブパネル (標準) と 20 ドライブパネル (ワイド) 間でドライブパネルを変更しても、再構成を実行する必要はありません。影響のあるパネルは空である必要があります、パネル内のセルをカートリッジに割り当てることは一切できません。

標準構成からワイド構成 (またはその逆) に変更されるドライブパネルが必ず空の状態を保つようにするには、*SET FREEZE* ユーティリティでそれらのパネルを凍結します。その後、すべてのカートリッジをほかのパネルまたは LSM に移動します。

SET SLIDRIVS でパネルタイプが変更される場合、新しいパネルは凍結されません。凍結済みパネルの中で、パネルタイプが変更されなかったものは、*SET SLIDRIVS* のあとも凍結されたままになります。

HSC ではドライブアドレスの重複は許されません。あるパネル上のドライブアドレスと別のパネル上のドライブアドレスを交換する必要がある場合は、まずどちらかのパネル上のアドレスを、現在定義されていない一時的なアドレスに変更する必要があります。例:

```
LSM00, PANEL10, ADDRESSES400,401,402,403  
LSM01, PANEL11, ADDRESSES404,405,406,407
```

アドレス 400403 を LSM01 に移動し、404407 を LSM0 に移動する場合、まず *SET* ユーティリティを実行して LSM0 のアドレス (400403) を 900903 (または現在定義されていないほかのアドレス) に変更します。次に、*SET* ユーティリティを実行して LSM01 のアドレスを 400403 に変更します。そして 3 回目のユーティリティ実行時には、LSM0 の一時的なアドレス (900903) を 404407 に変更します。

すべての 9310 LSM で、ドライブは上から下の順番で HSC に定義されます (addr0 がいちばん上のドライブ、addrn がいちばん下のドライブを表す)。

ところが、9740 10 ドライブパネル LSM では、ドライブは下から上の順番で 9740 LSM に挿入および構成されます。(9740 4 ドライブパネルはほかのすべての LSM ドライブパネルと同様、上から下の順番で 9740 LSM に構成される。)

5 つの 9840 ドライブを含む 9740 10 ドライブパネルの定義方法を示す例を、次に示します。

```
SET SLIDRIVS(,,,,,BD4,BD3,BD2,BD1,BD0),FORLSMID(lsm-id),  
FORPANEL(panel)
```

SL3000 の場合、ドライブは上から下、右から左の順番で定義されます (ライブラリの前面から背面を見た場合)。

SL8500 の場合、ドライブは上から下、右から左の順番で定義されます (ライブラリの外側から見た場合)。

FORLSMID(lsm-id)

処理が特定の LSM に制限されることを指定します。

lsmid は、アドレスを変更するドライブパネルを含む LSMid (AA:LL) を示します。LSMid (*lsm-id*) は、ACSid (10 進数 00-99) と LSM 番号 (10 進数 00-99) をコロン(:) で区切ったものになります。

FORPANEL(panel)

処理が特定のパネルに制限されることを指定します。

panel は、アドレスを変更するドライブを含むパネルの、2桁の ID を示します。有効な値のリストについては、「[パネル](#)」を参照してください。

注:

指定された *panel* は、LSM 内に存在しているドライブパネルでなければいけません。

MODEL(model-type)

オプションで、トランスポートモデル番号を指定します。

model-type は、モデルタイプを示します。

有効な *model-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

注:

MODEL パラメータは、存在しない ACS 内に定義された手動 RTD のドライブタイプを指定するためにのみ使用されます。LSM がオンラインに切り替わると、(非手動の)ドライブタイプが自動的に設定されます。

FORHOST(host-id)

処理が特定のホストに制限されることを指定します。指定されたホストのドライブデバイス番号のみが設定されます。省略した場合、すべてのホストのデバイス番号が変更されます。

hostid は、処理の制限先となるホストの、18 文字のホスト ID を示します。

注:

特定のホストのドライブ位置の数は、グローバルに定義されたドライブ位置の数 (*FORHOST* パラメータを指定せずに *SET SLIDRIVS* を発行した場合) と等しくなる必要があります。

HSC がアクティブな状態での SET SLIDRIVS の実行

次の説明は、9310 および 9740 LSM にのみ適用されます。これは、SL8500 や SL3000 には適用されません。

SET SLIDRIVS パラメータを指定する場合、理想的にはすべてのホストで HSC をシャットダウンすべきです。ただし場合によっては、HSC がアクティブのままでも、不都合な結果が発生しないことがあります。表3.15「HSC の状態/*SET SLIDRIVS* の動作」は、*SET SLIDRIVS* 実行時のオプションを定義したものです。

表3.15 HSC の状態/*SET SLIDRIVS* の動作

HSC の状態	<i>SET SLIDRIVS</i> への影響
停止	HSC がすべてのホスト上で停止している場合、HSC は初期化時に、すべての新しいドライブ位置を認識します。
アクティブ	HSC がすべてのホスト上で動作中でもかまわないのは、新しいドライブ位置に新しいドライブを追加する場合だけです。あるホスト上の HSC を再起動すると、その HSC は新しいドライブ位置を認識します。
アクティブ	既存のドライブ位置でユニットアドレスが変更または削除される場合、すべてのホスト上で HSC が再起動されるまで影響のある LSM をオフラインにするか、あるいは、再起動されていない HSC にアクセスするすべての影響のあるホス

HSC の状態**SET SLIDRIVS への影響**

トに対し、影響のある ACS をオフラインにする必要があります。

SET SLIDRIVS の手順

次の手順は、HSC がアクティブな状態でユニットアドレスを変更する方法の 1 つを示したものです。

9310 および 9740 の場合:

1 つのホストで:

1. 影響のある LSM をオフラインに変更します (*MODify lsmid OFFline*)。LSM がすべてのホストに対してオフラインになります。
2. Oracle StorageTek CSE がハードウェア変更を行なっている間に、*SET SLIDRIVS* を使って CDS のドライブレコードを更新します。
3. 1 つのホスト上で HSC を再起動します。
4. 再起動されていない HSC が稼働しているすべてのホスト上で、影響のある ACS をオフラインに変更します (*Vary ACS(acsid) OFFline*)。
5. 影響のある LSM をオンラインに変更します (*MODify lsmid ONline*)。ACS がオンラインになっているすべてのホストに対して、LSM がオンラインになります。ACS に対してオンラインになっており、かつ再起動済みの HSC が稼働しているホストのみが、この LSM に接続されたドライブにマウントします。

残りのホストで HSC を再起動します。影響のある ACS が起動されます。

SL3000 および SL8500 の場合:

1. 必要なハードウェア変更 (ドライブの追加/削除/移動) を行います。
2. *SET SLIDRIVS JCL* デッキを変更し、変更内容を反映させます。
3. *SET SLIDRIVS* を実行します。
4. *MODIFY CONFIG* (または *MODIFY CONFIG ACS(xx)*) を発行します

変更はほかのすべてのホストにカスケードされます。

SET SLISTATN

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

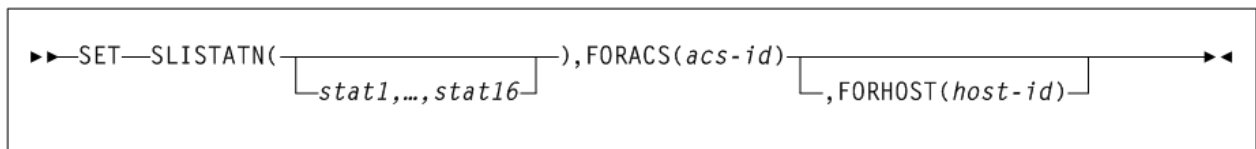
SET SLISTATN コマンドは、ACS 内の LMU ステーションアドレスを追加または変更します。変更が有効になるのは、影響のある HSC が再起動されたあとです。

影響のある HSC とは、*FORHOST* に指定されたホスト内に存在している HSC のことです。*FORHOST* を省略した場合、すべての HSC が対象になります。処理が特定のホストに制限されないからです。

構文

図3.156 「*SET SLISTATN* コマンドの構文」に *SET SLISTATN* コマンドの構文を示します。

図3.156 *SET SLISTATN* コマンドの構文



パラメータ

図3.156 「*SET SLISTATN* コマンドの構文」に示すように、*SET SLISTATN* コマンドには次のパラメータが含まれます。

stat1,...,stat16

特定の ACS に関連付けられた LMU ステーションアドレス。ステーションアドレスは必須ではありません。最大 16 個をコンマで区切って指定できます。

1 つ以上のステーションアドレスを既存のステーションリストに追加する場合、古いステーションと新しいステーションをすべて指定する必要があります。ここ

に指定されなかった (この ACS と Host ID の) ステーションはすべて削除され、使用できなくなります。

ある ACS やホストのステーションアドレスを削除するには、*SLISTATN* パラメータのあとにステーションアドレスを指定しないでください。例:

```
SET SLISTATN(),FORACS(01),FORHOST(HSCA)
```

FORACS(acs-id)

ステーションアドレスを変更する ACS を指定します。

acsid は、ステーションを変更する ACSid (00 FF) を示します。

FORHOST(host-id)

処理が特定のホストに制限されることを指定します。指定されたホストのステーションのみが設定されます。省略した場合、すべてのホストのステーションが変更されます。

hostid は、処理の制限先となるホストの、18 文字のホスト ID を示します。

SET SMF

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET SMF コマンドは、HSC の新しい SMF レコードタイプを追加します。

HSC がすべての CPU 上で再起動されるまで、*ACTivities* コマンドで間違った結果が生成されます。HSC システムのなかには、レコード書き込み時に古い SMF タイプを使用するものもあれば、新しいレコードタイプを使用するものもあるからです。

構文

[図3.157 「SET SMF コマンドの構文」](#) に *SET SMF* コマンドの構文を示します。

図3.157 SET SMF コマンドの構文

```
▶▶SET—SMF(libtype)◀◀
```

パラメータ

図3.157 「SET SMF コマンドの構文」 に示すように、*SET SMF* コマンドには次のパラメータが含まれます。

libtype

SMF レコードタイプ。範囲は 0-255 (両端含む) です。

128-255 がユーザー定義のレコードなので、128-255 から数値を 1 つ選択し、その数値がほかのユーザー定義レコードタイプと競合しないようにすることをお勧めします。

SET TAPEPlex

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET TAPEPlex コマンドは TapePlex 名を設定します。

構文

図3.158 「SET TAPEPlex コマンドの構文」 に *SET TAPEPlex* コマンドの構文を示します。

図3.158 SET TAPEPlex コマンドの構文

```
▶▶SET—TAPEPlex(tapeplex-name)◀◀
```

パラメータ

図3.158「SET TAPEPlex コマンドの構文」に示すように、SET TAPEPlex コマンドには次のパラメータが含まれます。

tapeplex-name

1-8 文字の TapePlex 名。

TapePlex 名は英字または数字で始まる必要があります。残りの文字では文字、数字、ハイフンのいずれかを使用できますが、ハイフンを末尾の文字に使用することはできません。NULL 値 (TAPEPLEX()) を指定すれば、TapePlex 名が次の SMC トランザクションによって自動的に設定されるようになります。

注:

この名前は、この HSC システムと通信するすべての SMC システム上で SMC TAPEPlex コマンドに指定された TapePlex 名と一致する必要があります。SMC の TapePlex コマンドの詳細については、「TAPEPlex」を参照してください。

SET TCHNIQE

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET TCHNIQE コマンドは、制御データセットの回復方法を設定します。これにより、CDS 内に現在定義されている回復方法が置き換えられます。

LIBGEN SLIRCVRY マクロの詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『HSC および VTCS の構成』を参照してください。回復方法値は必ず指定する必要があります。デフォルト値はありません。

構文

図3.57「Display Queue コマンドの構文」に SET TCHNIQE コマンドの構文を示します。

図3.159 SET TCHNIQE コマンドの構文



パラメータ

図3.159 「SET TCHNIQE コマンドの構文」 に示すように、*SET TCHNIQE* コマンドには次のパラメータが含まれます。

NONE

制御データセットではどのような形式の回復も使用しないことを指定します。したがって、プライマリ制御データセットがアクセス不能になった場合、制御データセットを再構築する必要があります。

SHADOW

回復目的で、制御データセットの異なる2つのコピー (プライマリとセカンダリ) を用意することを指定します。これらのデータセットは異なる HDA 上および異なるストリング上に配置することをお勧めします。ジャーナルは記録されません。

STANDBY

回復目的で、プライマリ、セカンダリ、スタンバイの各制御データセットを記録することを指定します。HSC が動作している間、ジャーナルは記録されません。

SET TCHNIQE の手順

TCHNIQE ユーティリティを呼び出して適切な回復方法値を設定するには、次の手順を使用してください。

1. 後続の *SET* 回復方法に必要なすべての新規 CDS コピーの *ALLOCATE* を、既存の CDS 定義に基づいて実行します。
2. *SET* 回復方法による更新の対象となる CDS を使用するよう構成されているすべてのホスト上で、HSC を停止します。
3. *BACKup* ユーティリティを実行します。
4. *RESTore* ユーティリティを実行し、現在の回復方法のサポートに必要なすべての CDS コピーを復元します。次のステップで行う回復方法の更新で新しい CDS コピーが必要になる場合は、それらのコピーもこの復元に含めてください。

5. *SET* ユーティリティーを、適切な回復方法値を指定して実行します。この回復方法更新用の *SET* ユーティリティーには、古い回復方法、新しい回復方法のいずれかに定義されているすべての CDS コピーの DD 文を含める必要があります。
6. *BACKup* ユーティリティーをもう一度実行します。このバックアップにより、更新後の CDS の復元が可能となります。

SET VAULT

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET VAULT コマンドは、サーバーコンプレックスの *VAULT* 情報を定義します。この情報は CDS 内に格納され、CDS にアクセスするすべてのサーバーシステムの *VAULT* 情報ソースとして機能します。

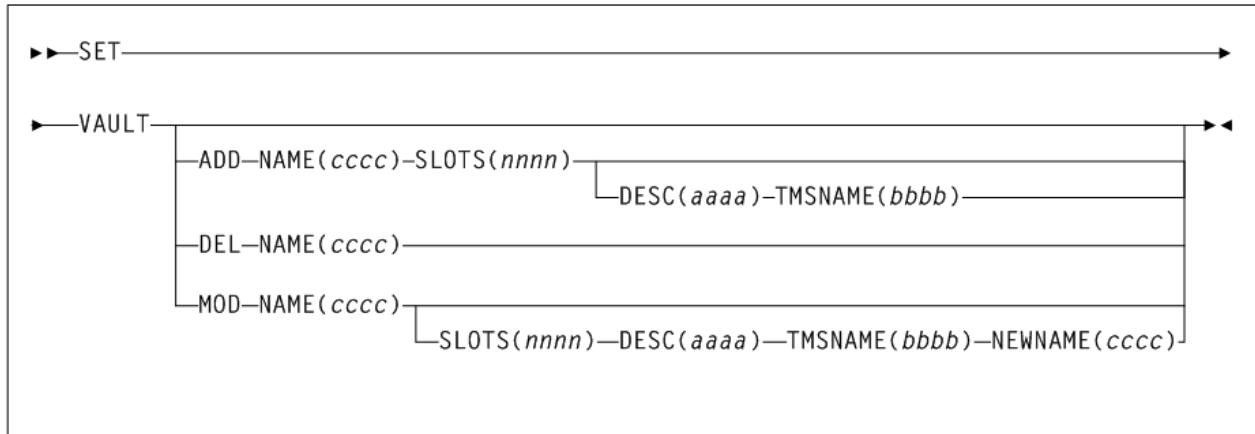
注:

このユーティリティーをはじめて実行する前に、*SET VAULTVOL* ユーティリティーを実行して CDS 内にボルトボリュームレコードを作成しておく必要があります。

構文

図3.160 「*SET VAULT* コマンドの構文」 に *SET VAULT* コマンドの構文を示します。

図3.160 SET VAULT コマンドの構文



パラメータ

図3.160 「SET VAULT コマンドの構文」 に示すように、*SET VAULT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

ADD NAME(cccc)

指定されたボールドを CDS から追加します。

cccc はボールドの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。*NAME(cccc)* は必須です。

DESC(aaaa)

オプションで、ボールドの説明を指定します。

aaaa は説明を示します。最大 120 文字まで指定できます。空白文字が含まれる場合は、値の全体を単一引用符で囲む必要があります。このパラメータは、*ADD* および *MOD* パラメータでのみ有効です。

TMSNAME(bbbb)

オプションで、TMS ボールド名を指定します。

bbbb はボールドの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。このパラメータは、*ADD* および *MOD* パラメータでのみ有効です。

DEL NAME(cccc)

指定されたボールドを CDS から削除します。

cccc はボールドの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。*NAME(cccc)* は必須です。

MOD NAME(cccc)

CDS 内の指定されたボールドを変更します。

cccc はボールの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。**NAME(cccc)** は必須です。

SLOTS(nnnn)

オプションで、ボールのスロット数を指定します。

nnnn はスロットの数を示します。スロット数の範囲は 1-999,999,999 です。**MOD** オプションで **SLOTS** 数を指定する場合、その数は、ボールに現在定義されている **SLOTS** 数よりも大きい必要があります。

すべてのボールの合計スロット数は、**SET VAULTVOL** ユーティリティーで設定されたボールボリューム数を超えることはできません。

DESC(aaaa)

オプションで、ボールの説明を指定します。

aaaa は説明を示します。最大 120 文字まで指定できます。空白文字が含まれる場合は、値の全体を単一引用符で囲む必要があります。このパラメータは、**ADD** および **MOD** パラメータでのみ有効です。

TMSNAME(bbbb)

オプションで、TMS ボール名を指定します。

bbbb はボールの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。このパラメータは、**ADD** および **MOD** パラメータでのみ有効です。

NEWNAME(cccc)

オプションで、ボールの新しい名前を指定します。

cccc はボールの名前を示します。最大 8 文字まで指定できます。このパラメータは、**MOD** パラメータでのみ有効です。

SET VAULTVOL

インタフェース:

- **SLUADMIN** ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET VAULTVOL` コマンドは、`VAULT` ボリューム領域を定義します。この情報は CDS 内に格納され、CDS にアクセスするすべてのサーバーシステムの `VAULT` ボリューム領域情報ソースとして機能します。

注:

- `SET VAULT` ユーティリティを実行する前に、このユーティリティを実行する必要があります。
- `SET VAULTVOL` ユーティリティの実行後にすべてのポルトボリュームレコードを増加、減少、または削除するための `SET` ユーティリティコマンドは存在しません。ポルトボリュームレコードの数を増やすには、より大きなポルトボリューム数で構成された CDS に、`Merge CDS` ユーティリティを使ってポルトとポルトボリュームを移行します。

構文

図3.161 「`SET VAULTVOL` コマンドの構文」 に `SET VAULTVOL` コマンドの構文を示します。

図3.161 `SET VAULTVOL` コマンドの構文

```
▶▶SET—VAULTVOL—NBRVOLS—(nnnnnn)—————▶▶
```

パラメータ

図3.161 「`SET VAULTVOL` コマンドの構文」 に示すように、`SET VAULTVOL` コマンドには次のパラメータが含まれます。

NBRVOLS(nnnnnn)

CDS に追加する `VAULT` ボリュームの数を指定します。

`nnnnnn` は、ボリュームの数を示します。この数の範囲は 1-9,999,999,999 です。

注:

- CDS のポルト用領域の要件を計算する方法の詳細については、Oracle の ELS ドキュメント『`HSC` および `VTCS` の構成』を参照してください。
- ポルトボリュームの数は、`SET VAULT` ユーティリティで作成されるすべてのポルトの合計スロット数よりも大きい必要があります。

SET VOLPARM

インターフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

SET VOLPARM コマンドは、サーバーコンプレックスのボリュームとプールの情報を定義します。この情報は CDS 内に格納され、CDS にアクセスするすべてのサーバーシステム (ELS 7.0 以上) のボリュームおよびプール情報のソースとなります。

SET VOLPARM は、*VOLUME/POOL* 情報を、特定タイプの名前付きプールと関連する *volser* 範囲のかたちで定義する *POOLPARM* および *VOLPARM* 制御文を読み取ります。

SET VOLPARM の実行が完了すると、共通の CDS にアクセスするすべてのサーバーシステム (ELS 7.0 以上) で、古いボリュームやプールの定義が無効になります。

注:

- HSC 6.2 以下のシステムは、*SET VOLPARM* データの存在を認識しないため、まるで *SET VOLPARM* ユーティリティーが実行されなかったかのように動作し続けます。
- 入力文の数が 10,000 カードイメージを超える場合は、*EXEC PGM=SLUADMIN* 文に *REGION=0M* を指定してください。
- *SET VOLPARM*、*CONFIG MVCVOL*、*CONFIG VTVVOL* のいずれかの処理の結果として、MVC または VTV が構成から削除される場合:

MVC が削除された場合、それらの *volser* を構成内に VTV として再入力することはできません。

VTV が削除された場合、それらの *volser* を構成内に MVC として再入力することはできません。

ネイティブ HSC テープの *volser* を使用しないでください。

メッセージ *SLS6944I* は、削除された MVC または VTV の数を示します。

SET VOLPARM のあと、次のコマンドがシステム上 (ELS 7.0 以上) で無効になります。

HSC:

- *VOLDEF*
- *SCRPDEF*

VTCS:

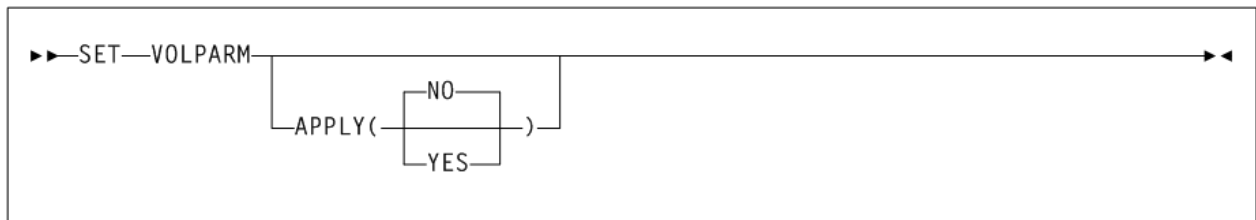
- *MVCDEF*
- *CONFIG VTVVOL* または *CONFIG MVCVOL*

HSC/VTCS システムを再起動しなくても、新しいボリュームおよびプール定義が有効になります。CDS コМПレックス内の接続された HSC/VTCS に定義変更の情報が通知され、ボリュームおよびプール定義が自動的にアクティブになります。

構文

図3.162 「SET VOLPARM コマンドの構文」 に *SET VOLPARM* コマンドの構文を示します。

図3.162 SET VOLPARM コマンドの構文



パラメータ

図3.162 「SET VOLPARM コマンドの構文」 に示すように、*SET VOLPARM* コマンドには次のパラメータが含まれます。

APPLY

POOLPARM または *VOLPARM* の定義を CDS に適用すべきかどうかを指定します。

NO

定義を検証しますが、定義を CDS に適用することはありません (デフォルト)。

YES

定義を適用します。YES を指定した場合、*POOLPARM* および *VOLPARM* 制御文を含む *SLSPARM* データセットが読み取られ、CDS に適用されます。さらに、このアクションの日時が CDS に格納され、*Display CDS* コマンドによって出力されます。

SLSPARM データセット内に定義される *POOLPARM* および *VOLPARM* 制御文は、*VOLUME* または *POOL* の情報を、特定タイプの名前付きプールと関連する *volser* 範囲、というかたちで定義します。

- *POOLPARM* 文が読み取られると、次の *POOLPARM* 文までに検出された後続のすべての *VOLPARM* が、その 1 つ前の *POOLPARM* に適用されます。
- *VOLPARM* 文の読み取り時に、それに先立つ *POOLPARM* がなかった場合、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプール (サブプール 0) ボリュームとみなされます。

詳細については、「[POOLPARM 制御文](#)」および「[VOLPARM 制御文](#)」を参照してください。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明した必須の JCL 定義文のほかに、次の定義文も *SET VOLPARM* JCL に適用されます。

SLSPARM

ボリュームとプールを定義する *POOLPARM* および *VOLPARM* 制御文を含むデータセットを指定します。

SET VOLPARM を使用した POOLPARM/VOLPARM の無効化

POOLPARM または *VOLPARM* を無効にするには、*SET VOLPARM* ユーティリティの実行時に空の SLSPARM 入力ファイルを指定します。

POOLPARM または *VOLPARM* の無効化が完了したあと、次のようになります。

- VTCS *CONFIg* が実行されるまで、以前のバージョンの *POOLPARM* または *VOLPARM* が、MVC および VTV 定義に対して有効なままになります。
- HSC ホスト上で *VOLDEF*、*SCRDEF*、および *MVCDEF* コマンドが実行されるまで、以前の *POOLPARM* または *VOLPARM* の *POOL* 定義が有効なままになります。

POOLPARM 制御文

POOLPARM 制御文は、サーバーコンプレックスのプール情報を、特定タイプの名前付きプールというかたちで定義します。

VOLPARM 文は、指定された *POOLPARM* 文に関連付ける *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義します。

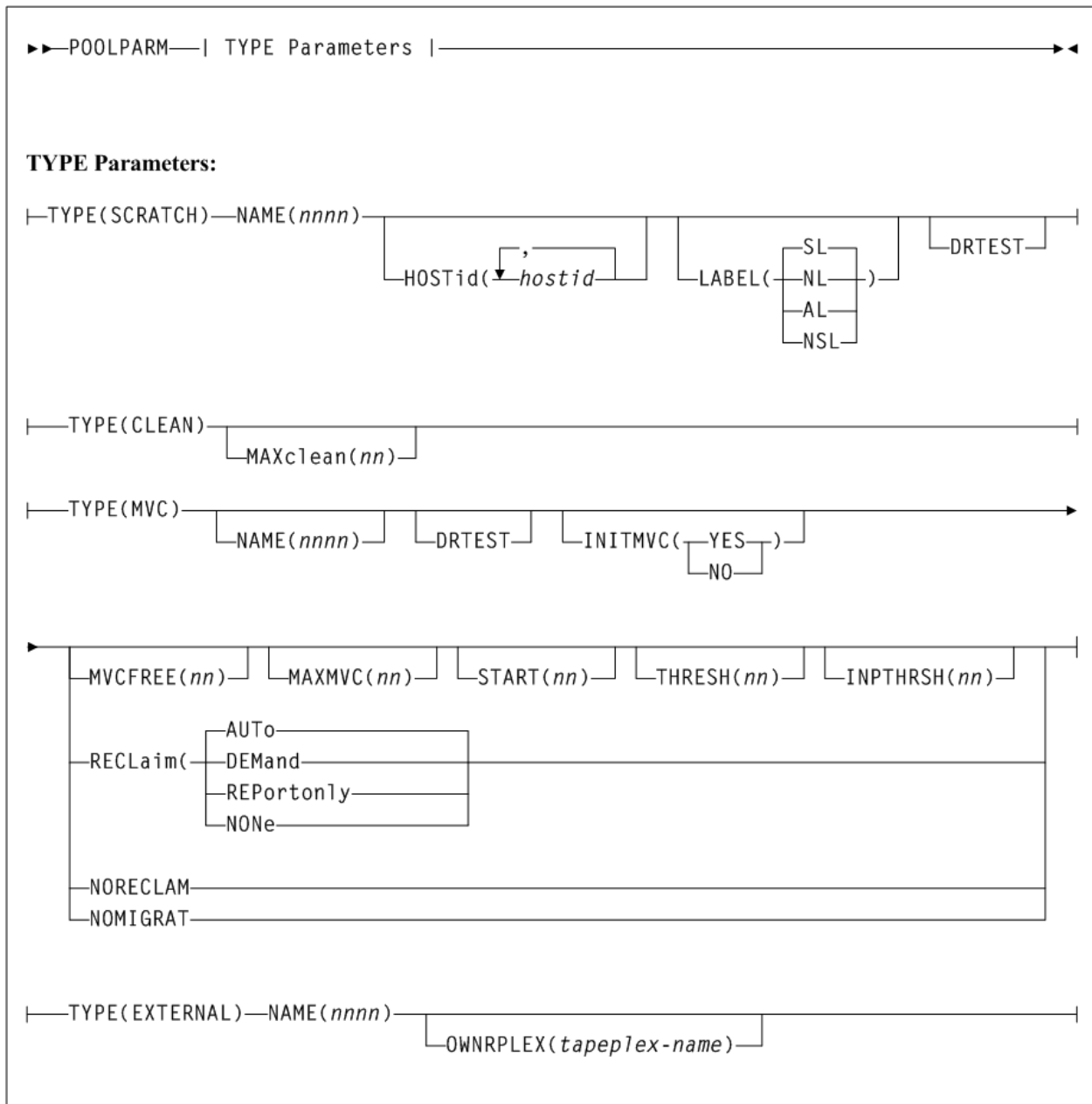
POOLPARAM 文と *VOLPARAM* 文は、*SLSPARM* データセット内に定義され、*SET VOLPARAM* ユーティリティを使ってロードされます。詳細については、「[SET VOLPARAM](#)」を参照してください。

- *POOLPARAM* 文が読み取られると、次の *POOLPARAM* 文までに検出された後続のすべての *VOLPARAM* 文が適用されます。
- *VOLPARAM* 文の読み取り時に、それに先立つ *POOLPARAM* がなかった場合、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプール (サブプール 0) ボリュームとみなされます。

構文

図3.163 「[POOLPARAM 制御文の構文](#)」に *POOLPARAM* 制御文の構文を示します。

図3.163 POOLPARM 制御文の構文



パラメータ

図3.163「POOLPARM 制御文の構文」に示すように、POOLPARM 制御文には次のパラメータが含まれます。

TYPE

プール定義のタイプを指定します。有効なタイプは、*SCRATCH*、*CLEAN*、*MVC*、および *EXTERNAL* です。

TYPE(SCRATCH) のサブパラメータ

TYPE(SCRATCH) を指定する場合、次のサブパラメータが適用されます。

NAME(nnnn)

ボリュームプールの名前を指定します。

TYPE(SCRATCH) プールでは、*NAME* は必須ではありません。さらに *TYPE(SCRATCH)* プールでは、*NAME(DEFAULTPOOL)* は有効ではありません。

nnnn はボリュームプール名を示します。最大 13 文字を指定できます。空白は指定できません。

HOSTid(host-id)

オプションで、この名前付きサブプールにアクセスできるホストを定義します。

host-id はホスト ID を示します。複数の *host-id* を指定するには、各 *host-id* 値をコンマで区切ります。*host-id* を指定しなかった場合のデフォルトは、すべてのホストになります。

HOSTid によって、この名前付きプールに含まれるボリュームをマウントできるクライアントホストが決まります。*HOSTid* リストに指定されていないクライアントからマウント要求が受信された場合、そのマウント要求は HSC によって拒否され、マウントは実行されません。SMC *SERVER* コマンドで *ALIASHOST* を指定しなかった場合、サブプールにアクセスする MSP ホストの 4 文字の *SMFID* を指定します。そうでない場合は、SMC *ALIASHOST* の指定内容に一致するホスト名を最大 8 文字で指定できます。

LABEL

オプションで、この名前付きサブプールに関連付けられるラベルタイプを指定します。次のいずれかを指定します。

- *SL* は、標準ラベルのテープを示します。これは、このパラメータが省略されている場合のデフォルトです。
- *AL* は、ANSI ラベルのテープを示します。
- *NL* は、ラベルなしのテープを示します。
- *NSL* は、非標準ラベルのテープを示します。

注:

サブプールが指定されない (サブプール 0 の) スクラッチボリューム要求では、名前付きサブプール内で定義されていないボリュームが選択されます。

DRTEST

オプションで、このスクラッチプールが *DRTEST* 環境で使用されることを指定します。

TYPE(CLEAN) のサブパラメータ

TYPE(CLEAN) を指定する場合、次のサブパラメータが適用されます。

MAXclean

オプションで、この名前付きサブプールでのクリーニングカートリッジの最大使用回数を指定します。製造元の推奨使用回数を超える値を指定しないでください。

CLEAN サブプール内で定義されるボリュームは、*LIBGEN* で定義されたクリーニングカートリッジ接頭辞で始まる必要があります。

注:

VOLPARM 文で *MAXclean* が指定されなかった場合、*MNTD* オペレータコマンドの *MAXclean* パラメータの値またはデフォルトが、すべてのクリーニングカートリッジ回数に対して使用されます。

TYPE(MVC) のサブパラメータ

TYPE(MVC) を指定する場合、次のサブパラメータが適用されます。

NAME(nnnn)

ボリュームプールの名前を指定します。*TYPE(MVC)* プールでは、このパラメータはオプションです。さらに *TYPE(MVC)* では、*NAME(DEFAULTPOOL)* は有効ではありません。*TYPE(MVC)* プールでは、*NAME(ALL)* は有効ではありません。

nnnn はボリュームプール名を示します。最大 13 文字を指定できます。空白は指定できません。

DRTEST

オプションで、この MVC プールが *DRTEST* 環境でのみ使用されることを指定します。

INITMVC

オプションで、MVC 初期化機能を有効または無効にします。

YES

MVC 初期化機能を有効にします。

NO

MVC 初期化機能を無効にします。

MVCFREE(nn)

オプションで、MVC プール内の空き MVC の最小数を指定します。空き MVC には 100% 使用可能な領域があり、移行された VTV は含まれていません。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 0 - 255 です。デフォルトはありません。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

フリー MVC の数がこの値以下の場合、VTCS はメッセージ *SLS6616I* を発行し、自動領域リクレ임을起動します。

MAXMVC(nn)

オプションで、単一の領域リクレ임을実行で処理される MVC の最大数を指定します。

nn は MVC の数を示します。有効な値は 1 - 98 です。デフォルトはありません。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

自動領域リクレ임을開始されるためには、(*THRESH* パラメータで決まる) 対象 MVC の数が、*MAXMVC* 値も超える必要があります。

START=*nn*

オプションで、(すべての ACS でグローバルにではなく) 各 ACS で、あるいは名前付き MVC プールが指定された場合はそのプールで、自動領域リクレ임을開始されるレベルを指定します。

nn はパーセンテージ値であり、次に等しくなります。

$$\text{Reclaim Candidates} / (\text{Reclaim Candidates} + \text{Free MVCs}) * 100$$

ここで:

- *Reclaim Candidates* は、*CONFIG RECLAIM THRESHLD* パラメータによって決定されるリクレ임을候補の数を示します。
- *Reclaim Candidates + Free MVCs* は、リクレ임을候補の数とフリー MVC の数を足したものに等しくなります。

有効な値は 1 - 98 です。デフォルトはありません。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

THRESH(nn)

オプションで、MVC が要求リクレイムまたは自動リクレイムの対象になるための、断片化領域のパーセンテージを指定します。

nn は、パーセンテージを示します。有効な値は 4 - 98 です。デフォルトはありません。指定しない場合、*CONFIG RECLAIM* の値 (またはデフォルト) が使用されます。

INPTHRSH(nn)

オプションで、(プール内の)パーティションフォーマットの MVC が動的リクレイム処理の対象になるための、断片化領域のパーセンテージを指定します。

この値は、*CONFIG RECLAIM* 文で指定されたグローバル *INPTHRSH* 値をオーバーライドします。このパラメータが指定されなかった場合、現在のアクティブなグローバル *INPTHRSH* 値が使用されます。

nn は、3 から 97 のパーセンテージを示します。この値は、*THRESHLD* 値未満である必要があります。

注:

INPTHRSH が指定されている場合は、*THRESHLD* も指定する必要があります。領域リクレイムがパーティションフォーマットの MVC を処理する際に、*INPTHRSH* と *THRESHLD* はどちらも役割を果たします。詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。

RECLaim

オプションで、*MVCPool* の領域リクレイム動作を指定します。

AUTO

VTCS は、メッセージ *SLS6699E* を出力し、自動領域リクレイムをスケジューリングします。リクレイムは *RECLAIM* コマンドを使って呼び出すこともできます。これがデフォルトです。

DEMAND

VTCS は、メッセージ *SLS6699E* を出力せず、自動領域リクレイムをスケジューリングしません。*RECLAIM* コマンドを使用してリクレイムを呼び出すことができます。

RECLaim(DEMAND) は、*MVCFREE* および *START* と相互に排他的です。

REPORTonly

VTCS は、メッセージ *SLS6699E* を出力しますが、自動領域リクレイムをスケジューリングしません。*RECLAIM* コマンドを使用してリクレイムを呼び出すことはできません。

RECLaim(REPortonly) は、*MAXMVC*、*START*、および *THRESH* と相互に排他的です。

注:

REPortonly は *NORECLAM* パラメータと同等で、これに代わるものです。ただし、*RECLaim* パラメータが指定されていない場合は、*NORECLAM* を引き続き使用できます。

NONe

VTCS は、メッセージ *SLS6699E* を出力せず、自動領域リクレイムをスケジュールしません。*RECLAIM* コマンドを使用してリクレイムを呼び出すことはできません。

RECLaim(NONe) は、*MVCFREE*、*MAXMVC*、*START*、および *THRESH* と相互に排他的です。

NORECLAM

オプションで、指定の *MVCPool* は領域リクレイムに不適格であることを指定します。

注:

MVCFREE、*MAXMVC*、*THRESH*、*INPTHR*、および *START* パラメータを使用すると、指定の *sub-pool* の *CONFIG* に指定されている値がオーバーライドされます。

NOMIGRAT

オプションで、*MVCPool* は移行 *MVC* の選択に不適格であることを指定します。これにより、*MVC* 情報を *CDS* 仮想領域内に保持できます。*MVC* は新しい移行に使用されません。

TYPE(EXTERNAL) のサブパラメータ

TYPE(EXTERNAL) を指定する場合は、次のサブパラメータが適用されます。

NAME(nnnn)

ボリュームプールの名前を指定します。*TYPE(EXTERNAL)* プールには、このパラメータは必須です。

nnnn はボリュームプール名を示します。最大 13 文字を指定できます。空白は指定できません。

OWNRPLEX

オプションで、外部プール内のボリュームを所有している *TapePlex* の名前を指定します。

VTV の場合、これは Cross-TapePlex Replication によってインポートされるボリュームを制御します。VTV をインポートできるのは、送信側システムの TapePlex 名が *OWNRPLEX* の値と一致している場合のみです。

EXTERNAL プール内のボリュームをスクラッチできるのは、スクラッチ要求を発行した TapePlex が *OWNRPLEX* 名と一致している場合のみです。TapePlex 名は、SMC の *TAPEPLEX NAME* パラメータおよび *CONFIG TAPEPLEX THISPLEX* パラメータによって定義されます。

または、外部プール内のボリュームの *OWNRPLEX* 名が *LOCALHSC* である場合、そのボリュームはローカルシステム上でスクラッチできます (ただし、ローカルシステム上でスクラッチボリュームとしては使用されません)。

注:

Cross-Tape Replication の詳細は、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の管理』および『ELS 障害回復およびオフサイトデータ管理ガイド』を参照してください。

VOLPARM 制御文

VOLPARM 制御文は、サーバーコンプレックスのボリューム属性を定義します。これらの文は、指定された *POOLPARM* 文に関連する *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義します。

POOLPARM 文と *VOLPARM* 文は、*SLSPARM* データセット内に定義され、*SET VOLPARM* ユーティリティーを使ってロードされます。詳細については、「[SET VOLPARM](#)」を参照してください。

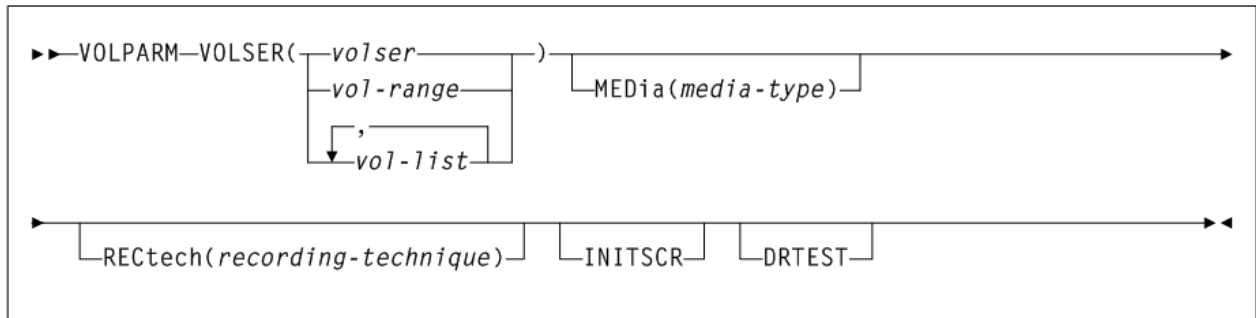
VOLPARM 文は、*POOLPARM* 文に続いて指定され、その *POOLPARM* のみに適用されます。

- *POOLPARM* 文が読み取られると、次の *POOLPARM* 文までに検出された後続のすべての *VOLPARM* 文が適用されます。
- *VOLPARM* 文が読み取られた場合、前に *POOLPARM* がないときは、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプールボリュームと見なされます。

構文

図3.164 「[VOLPARM 制御文の構文](#)」は、*VOLPARM* 制御文の構文を示しています。

図3.164 VOLPARM 制御文の構文



パラメータ

図3.164 「VOLPARM 制御文の構文」に示すように、VOLPARM 制御文には次のパラメータが含まれます。

VOLSER(volser、vol-range、または vol-list)

この定義が適用される 1 つまたは複数のボリュームを指定します。

volser、*volrange*、または *vollist* は、単一の VOLSER、VOLSER 範囲、または VOLSER のリストを示します。

範囲を重複させないでください。そのようにするとエラーが発生し、*POOLPARM* 定義全体が無効になります。

MEDia(media-type)

オプションで、*VOLSER* パラメータに指定されたボリュームのメディアタイプを指定します。

media-type は、メディアタイプを示します。

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」](#)を参照してください。

次の点に注意してください。

- 具体的なメディアタイプのみ入力できます。汎用的なメディアタイプ、つまり *LONGItud* と *HELical* は指定できません。
- このパラメータが指定されていない場合、デフォルトは *RECtech* パラメータの値に基づいて選択されます。[表A.2「メディアタイプのデフォルト」](#)に、*MEDia* が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

- メディアタイプと記録技法の両方が省略されている場合は、すべてのメディアタイプと記録技法が適格と見なされます。すべての *VOLPARM* 文に *MEDia* を常に指定することをお勧めします。

RECtech(recording-technique)

オプションで、*VOLSER* パラメータに指定されたボリュームのメディアにデータを記録するための方法を指定します。

recording-technique は、記録技法を示します。

有効な *recording-technique* 値については、付録A「*MEDia*、*RECtech*、および *MODEl* の値」を参照してください。

対応する *VOLPARM* 文にこのパラメータが指定されていない場合、デフォルトは *MEDia* パラメータの値に基づいて選択されます。表A.4「記録技法のデフォルト」に、*RECtech* が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

INITSCR

オプションで、*VIRTUAL* ボリュームの初期ステータスが *SCRATCH* であることを指定します。

INITSCR パラメータは *MEDIA(VIRTUAL)* または *RECTECH(VIRTUAL)* ボリュームでのみ有効です。*INITSCR* は、*VTV* がはじめて定義されるときだけ意味を持ちます。

DRTEST

オプションで、定義された範囲内のボリュームを *DRTEST* 環境でのみ使用するよう指定します。*DRTEST* パラメータは、最初の *POOLPARM* 文より前に定義されている *VOLPARM* 文でのみ有効です。

SET VOLPARM UPDATE

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

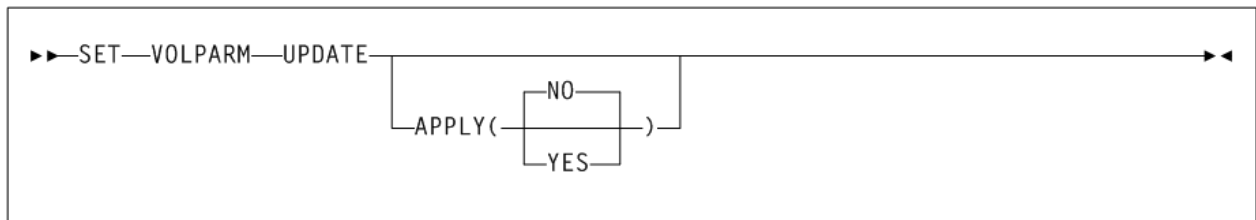
`SET VOLPARM UPDATE` コマンドは、サーバーコンプレックスのボリュームとプールの情報に対する変更を定義します。`SET VOLPARM` ユーティリティーによって CDS 内に格納されている情報が、新しい `VOLUME` または `POOL` 情報を反映するように変更されます。

HSC/VTCS システムをリサイクルしなくても、更新されたボリュームプール定義が有効になります。CDS コンプレックス内の接続された HSC/VTCS に定義変更の情報が通知され、ボリュームおよびプール定義が自動的にアクティブになります。

構文

図3.165 「`SET VOLPARM UPDATE` コマンドの構文」は、`SET VOLPARM UPDATE` コマンドの構文を示しています。

図3.165 `SET VOLPARM UPDATE` コマンドの構文



パラメータ

図3.165 「`SET VOLPARM UPDATE` コマンドの構文」に示すように、`SET VOLPARM UPDATE` コマンドには次のパラメータが含まれます。

APPLY

`POOLPARM` または `VOLPARM` の変更を CDS に適用するかどうかを指定します。

NO

変更を検証しますが、CDS には適用しません (デフォルト)。

YES

変更を適用します。`YES` を指定すると、`POOLPARM` および `VOLPARM change` 制御文を含む `SLSPARM` データセットが読み取られ、CDS に適用されます。

`POOLPARM` および `VOLPARM Change` 制御文は `SLSPARM` データセット内に定義され、`VOLUME` または `POOL` 情報を、特定タイプの名前付きプールおよびそれらに関連付けられた `volser` 範囲の形式で定義します。

- *POOLPARM* 文が読み取られた場合、そこから次の *POOLPARM* 文までに見つかったすべての *VOLPARM* 文が、前者の *POOLPARM* に適用されます。
- *VOLPARM* 文が読み取られた場合、前に *POOLPARM* がないときは、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプール (サブプール 0) ボリュームと見なされます。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必要な JCL 定義文に加えて、次の定義文が *SET VOLPARM UPDATE JCL* に適用されます。

SLSPARM

CDS のボリュームとプールの情報に対するプールとボリュームの変更を定義する *POOLPARM* および *VOLPARM Change* 制御文を含むデータセットを指定します。

POOLPARM Change 制御文

POOLPARM Change 制御文は、サーバーコンプレックスの新しいプール情報を、特定タイプの名前付きプールの形式で定義します。

VOLPARM Change 制御文は、指定された *POOLPARM Change* 文に関連する *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義または削除します。

POOLPARM および *VOLPARM Change* 文は *SLSPARM* データセット内に定義され、*SET VOLPARM UPDATE* ユーティリティーを使用してロードされます。詳細については、「[SET VOLPARM](#)」を参照してください。

- *POOLPARM Change* 文が読み取られた場合、そこから次の *POOLPARM Change* 文までに見つかったすべての *VOLPARM Change* 文が適用されます。
- *VOLPARM Change* 文が読み取られた場合、前に *POOLPARM* がないときは、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプール (サブプール 0) ボリュームと見なされます。

構文

図3.64 「[Display SRVlev コマンドの構文](#)」は、*POOLPARM Change* 制御文の構文を示しています。

図3.166 *POOLPARM Change* 制御文の構文

```
▶—POOLPARM—| change type |—| pool parameters |————▶◀
```

パラメータ

図3.166 「POOLPARM Change 制御文の構文」に示すように、*POOLPARM Change* 制御文には次のパラメータが含まれます。

change-type

次のいずれかを指定して、プールを追加、削除、または更新します。

ADD

サーバーコンプレックスに新しいプールを追加します。この *POOLPARM change* 文に続く *VOLPARM change* 文は、このプールに関連付けられるボリュームを定義します。

DELETE

既存のプールを削除します。プールが削除されると、関連付けられたボリュームも削除されます。

UPDATE

既存のプール定義を変更します。*UPDATE* を使用すると、*POOLPARM* のパラメータを変更できます。たとえば、*MVCFREE* パラメータの値を変更できます。*UPDATE* は、これに続く *VOLPARM change* 文を正しいプールに関連付ける場合にも使用されます。

注:

UPDATE を使用してプールの名前を変更することはできません。

pool-parameters

POOLPARM 文のパラメータ。有効なパラメータについては、「[POOLPARM 制御文](#)」を参照してください。

注:

POOLPARM 文を削除または更新するときは、元の *POOLPARM* 文のパラメータをすべて指定してください。

VOLPARM Change 制御文

VOLPARM change 制御文は、直前の *POOLPARM UPDATE change* 文に関連する特定の *volser*、*volser* リスト、または *volser* 範囲を定義または削除します。

POOLPARM および *VOLPARM change* 文は *SLSPARM* データセット内に定義され、*SET VOLPARM UPDATE* ユーティリティを使用してロードされます。

- *POOLPARM change* 文が読み取られた場合、そこから次の *POOLPARM change* 文までに見つかったすべての *VOLPARM change* 文が適用されます。

- *VOLPARM change* 文が読み取られた場合、前に *POOLPARM* がないときは、それらの *VOLSER* ボリュームは非サブプール (サブプール 0) ボリュームと見なされます。

構文

図3.167 「*VOLPARM Change* 制御文の構文」は、*VOLPARM Change* 制御文の構文を示しています。

図3.167 *VOLPARM Change* 制御文の構文

```
▶—VOLPARM—| change type |—| pool parameters |—————▶
```

パラメータ

図3.167 「*VOLPARM Change* 制御文の構文」に示すように、*VOLPARM Change* 制御文には次のパラメータが含まれます。

change-type

次のいずれかを指定して、ボリュームを追加または削除します。

ADD

直前の *POOLPARM UPDATE* 文で定義されているプールに、新しいボリューム、ボリュームのリスト、または範囲を追加します。前に *POOLPARM UPDATE* 文がない場合は、非サブプール (サブプール 0) ボリュームとして *VOLPARM* 情報が追加されます。

DELETE

既存のボリューム、ボリュームのリスト、または範囲を削除します。

volume-parameters

VOLPARM 文のパラメータ。有効なパラメータについては、「*VOLPARM* 制御文」を参照してください。

注:

VOLPARM 文を削除するときは、元の *VOLPARM* 文のパラメータをすべて指定してください。

SET VOLPARM JOIN

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

`SET VOLPARM JOIN` コマンドは、複数の `VOLPARM` 文で定義されている連続したボリューム範囲を、1つの新しい `VOLPARM` 文にマージします。

このユーティリティーの出力を `SET VOLPARM` ユーティリティーへの入力として使用して、CDS 内にある元のサーバーコンプレックスのボリュームとプールの情報を置き換えることができます。

構文

図3.168 「`SET VOLPARM JOIN` コマンドの構文」は、`SET VOLPARM JOIN` コマンドの構文を示しています。

図3.168 `SET VOLPARM JOIN` コマンドの構文

▶▶—SET—VOLPARM—JOIN—————▶▶

パラメータ

なし。

JCL の追加の要件

「[SLUADMIN の呼び出し](#)」で説明されている必要な JCL 定義文に加えて、次の定義文が `SET VOLPARM JOIN` JCL に適用されます。

SLSPARM

CDS 内に格納されるプールとボリュームを定義する `POOLPARM` および `VOLPARM` 制御文を含む入力データセットを指定します。

SLSPARM2

ボリューム範囲のマージ操作の完了後に `POOLPARM` および `VOLPARM` 制御文が格納される出力データセットを指定します。

SRVlev**インタフェース:**

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

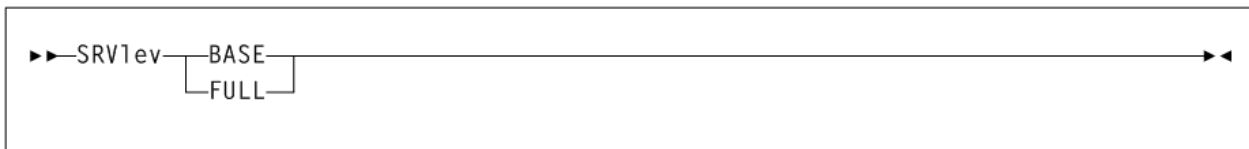
説明

SRVlev コマンドは HSC のサービスレベルを設定します。*BASE* および *FULL* サービスレベルについては、「[HSC サービスレベル](#)」を参照してください。

構文

図3.169 「*SRVlev* コマンドの構文」は、*SRVlev* コマンドの構文を示しています。

図3.169 *SRVlev* コマンドの構文



パラメータ

図3.169 「*SRVlev* コマンドの構文」に示すように、*SRVlev* コマンドには次のパラメータが含まれます。

BASE

HSC が *BASE* サービスレベルで動作するように指定します。

注:

HSC のサービスレベルが *BASE* に下がると、LMU 方式を使用しているホスト間通信が CDS 方式に切り替えられます。HSC のサービスレベルが *FULL* に復元された場合、LMU 通信に戻るには、*COMMPATH* コマンドを発行する必要があります。

FULL

HSC が *FULL* サービスレベルで動作するように指定します。

注:

HSC のサービスレベルが *BASE* から *FULL* に上がると、未処理のマウント要求が解決されます。

STOPMN

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

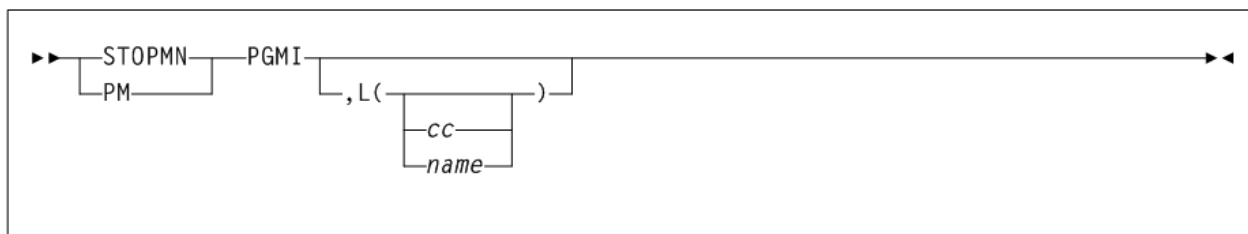
説明

STOPMN コマンドは、プログラムインタフェースからのカートリッジ移動要求のモニタリングを停止します。

構文

図3.170 「*STOPMN* コマンドの構文」は、*STOPMN* コマンドの構文を示しています。

図3.170 *STOPMN* コマンドの構文



パラメータ

図3.170 「*STOPMN* コマンドの構文」に示すように、*STOPMN* コマンドには次のパラメータが含まれます。

PGMI

プログラムインタフェースからのカートリッジ移動要求のモニタリングを終了するように指定します。

,L(cc または name)

オプションで、モニタリング情報が表示されているコンソールを指定します。このパラメータが省略されている場合、または *L=* がコンソール ID またはコンソール名なしで指定されている場合は、コマンドを発行したコンソールに表示されているモニタリングが終了します。

オプションで、*cc* はコンソール ID を指定します。指定できる値は、00 から 99 の範囲の 10 進数です。00 を指定すると、情報がハードコピーログに明示的に送信されなくなります。

オプションで、*name* はコンソール名を指定します。

SWitch

インターフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

Switch コマンドを使用すると、LMU またはライブラリコントローラ (LC) のマスターとスタンバイの役割を手動で入れ替えることができます。切り替えは次の構成でサポートされます。

- デュアル LMU
- SL8500 デュアルライブラリコントローラ (LC)

デュアル LMU 環境では、このコマンドはマスター LMU で IPL を開始して、現在のスタンバイ LMU をマスター LMU にします。IPL が正常に完了すると、前のマスター LMU はスタンバイ LMU の役割を引き継ぎます。

複数 SL8500 ライブラリ ACS のデュアル LC 構成では、*Switch* コマンドは LMU に要求を発行して、ライブラリの LC をライブラリ ID によって切り替えます。

注意:

- *SWitch* コマンドを入力する前に、*Display Acs* コマンドを発行して、切り替えるライブラリにスタンバイの TCP/IP アドレスまたはホスト名が割り当てられていることを確認します。割り当てられていない場合は、ライブラリを切り替えると HSC がライブラリとの通信を失うため、切り替えないでください。
- *SWitch* コマンドを発行する前に、すべての HSC アクティビティを停止します。
- *SWitch* コマンドを発行したあと、切り替え処理が完了するまでは、ほかのホストで HSC を起動したり、HSC アクティビティ (マウント、マウント解除、*Display ACS*、その他のコマンド) を開始したりしないでください。

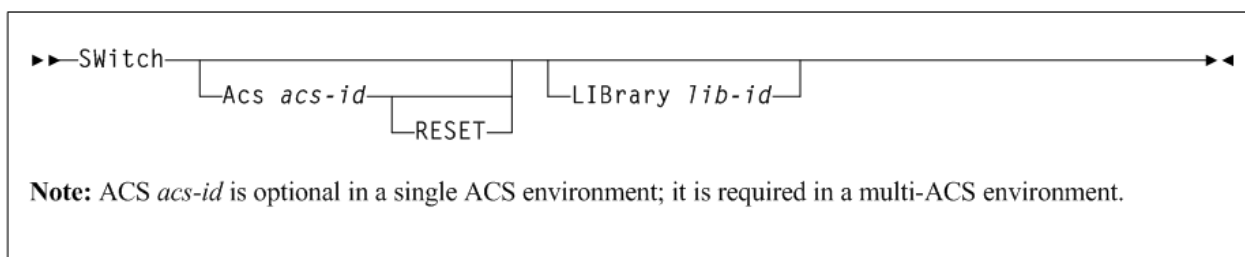
注:

- このリリースでは、デュアル LC 切り替えには SL8500 ライブラリのみがサポートされます。
- 自動切り替えが発生するためには (たとえば、*LCA* から *LCB* に、またはその逆)、LC に障害が発生する必要があります。このケースでは、*LCA* にネットワークまたは通信の問題がある場合、HSC は *LCA* の接続のネットワーク回復に入ります。接続を回復または修正できない場合は、*SWitch* コマンドを発行して *LCA* から *LCB* に手動で切り替えてください。
- ライブラリがパーティション分割されている場合は、*SWitch* コマンドを発行する前に、同じライブラリ内のほかのパーティションを使用しているほかのホストソフトウェアグループ (ACSLs、HSC、ELS) を確認してください。

構文

図3.171 「*SWitch* コマンドの構文」は、*SWitch* コマンドの構文を示しています。

図3.171 *SWitch* コマンドの構文



パラメータ

図3.171 「*SWitch* コマンドの構文」に示すように、*SWitch* コマンドには次のパラメータが含まれます。

Acs *acs-id*

オプションで、ACSid が指定されていることを示します。複数 ACS 環境構成の場合、または *acsid* を指定する場合、このパラメータは必須です。

acsid は、現在アクティブな接続をスタンバイに切り替え、スタンバイ接続をオンラインにしてアクティブとする必要のある、ACS を指定します。

単一 ACS 構成では、*Acs acsid* はオプションであり、デフォルトは ACS 00 です。*acs-id* がデフォルトで 00 になる場合、またはほかのパラメータなしで指定された場合は、ACS のアクティブな接続すべてがスタンバイに切り替わり、スタンバイ接続がアクティブに切り替わります。

RESET

オプションで、ACS *acs-id* とともに使用して、ACS の内部スイッチ設定および内部競合カウントをリセットします。これは、SL8500 ライブラリに対して *Switch* が呼び出されたときに、*Switch* 処理の完了後に 1 つまたは複数の LSM が準備完了状態に到達できない場合に役立ちます。

Switch RESET コマンドを発行する前に、*Display Status* コマンドを入力して、切り替え処理中の ACS および競合がアクティブになっている ACS を特定することをお勧めします。

Switch RESET コマンドを発行する前に、ライブラリで *Switch* 処理が完了していることを確認します。また、もう一度 *Switch* コマンドを発行する前に、*Switch RESET* が完了していることを確認してください。

Switch ACS コマンドの発行後、いつ *Switch RESET* コマンドを発行するべきかを判断するには、次のガイドラインを使用します。

1. *Switch* 処理の完了が次のメッセージで示されたあと、*Switch RESET* を発行します。

```
SLS0694I ACS aa: Switch has completed
```

このメッセージが表示されない場合は、アクティブな接続に対する *SLS6013I* メッセージが表示されるまで待つてから、*Switch RESET* コマンドを発行します。

2. 切り替え処理の完了後に次のメッセージが表示された場合:

```
SLS1004I ACS aa cannot switch; ACS is busy
```

別のホスト上で *Switch RESET* コマンドを発行します。*SLS1004I* メッセージが再度表示された場合は、別の HSC ホストを起動して *Switch RESET* コマンドを発行するか、HSC ホストを再起動して *Switch RESET* コマンドを発行します。

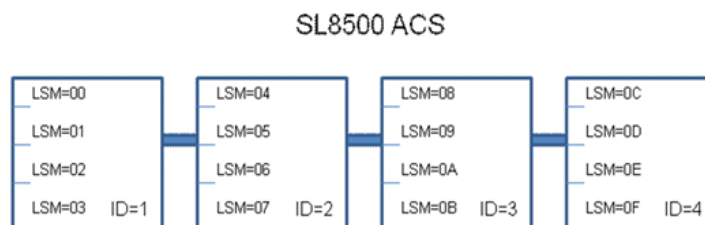
LIBrary lib-id

オプションで、接続スイッチの SL8500 ライブラリ ID を指定します。このパラメータは、SL8500 ライブラリにのみ適用されます。

lib-id は、1 から 9 または A から G のライブラリ ID を示します。

SL8500 の 4 ライブラリ ACS クラスタの場合は、次の図に示すように、各ライブラリに 1 から 4 までの ID が割り当てられます。

図3.172 SL8500 クラスタのライブラリ ID



ACS は最大 16 個のライブラリ接続と A および B ライブラリコントローラ (LC) 接続を持つことができます。初期リリースでは、1 台のライブラリ (ID 1 が望ましい) だけが A と B の LC 接続を持つことができます。その他のライブラリは、単一の LC 接続を持つことができます。各 LC はデュアル TCP/IP (2B および 2A) を処理できます。次の表では、LSM ID とライブラリ ID の相関関係について説明します。

表3.16 LSM ID とライブラリ ID

ライブラリ ID	LSM ID 範囲
1	00-03
2	04-07
3	08-0B
4	0C-0F
5	10-13
6	14-17
7	18-1B
8	1C-1F
9	20-23
A	24-27

ライブラリ ID	LSM ID 範囲
B	28-2B
C	2C-2F
D	30-33
E	34-37
F	38-3B
G	3C-3F

注:

- このコマンドを発行する前に、*Display ACS acs-id* コマンドを使用して、切り替えるライブラリにスタンバイの TCP/IP アドレスまたはホスト名が割り当てられていることを確認します。スタンバイの TCP/IP アドレスまたはホスト名が割り当てられていない場合は、ライブラリを切り替えると HSC がライブラリとの通信を失うため、切り替えしないでください。
- 切り替えが発生するためには (たとえば、*LCA* から *LCB* に)、LC に障害が発生する必要があります。たとえば、*LCA* にネットワークまたは通信の問題がある場合、HSC は *LCA* の接続のネットワーク回復に入ります。接続を回復または修正できない場合は、HSC *Switch* コマンドを発行して *LCA* から *LCB* に手動で切り替えてください。
- ライブラリがパーティション分割されている場合は、*Switch* コマンドを発行する前に、同じライブラリ内のほかのパーティションを使用しているほかのホストソフトウェアグループ (ACSLs、HSC、ELS) を確認してください。

例

次の例は、*Switch* コマンドを使用して ACS 00 の制御をスタンバイ ACS に切り替える方法を示しています。

```
SWITCH ACS 00
```

次の例は、*Switch* コマンドを使用して ACS 00 の制御をスタンバイライブラリに切り替える方法を示しています。

```
SWITCH ACS 00 LIB 1
```

TRace**インタフェース:**

- コンソールまたはユーティリティ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

TRace コマンドは、選択された HSC および VTCS コンポーネントのイベントのトレースを有効または無効にします。

MSP GTF *GTRACE* 機能は、実際のトレースを実行します。イベントの GTF 出力を作成するには、GTF を起動する必要があり、イベントより前に TRace コマンドを発行する必要があります。

構文

図3.173 「TRace コマンドの構文」は、TRace コマンドの構文を示しています。

図3.173 TRace コマンドの構文



パラメータ

図3.173 「TRace コマンドの構文」に示すように、TRace コマンドには次のパラメータが含まれます。

OFF

オプションで、指定されたコンポーネントのトレースをオフにします。

comp-name または comp-list

トレースを有効または無効にする 1 つ以上のコンポーネント。コンポーネント名のリストを指定する場合は、識別子を空白またはコンマで区切ります。有効なコンポーネント名を次に示します。大文字は、許容される最小の省略形を示しています。

次の表では、有効なコンポーネントについて説明します。

表3.17 TRace のコンポーネント

コンポーネント名	説明
ALloc	割り当てボリューム検索

コンポーネント名	説明
<i>ASComm</i>	アドレス空間通信
<i>CAP</i>	CAP 共通
<i>COnfigur</i>	構成の制御
<i>Database</i>	データベースサーバー
<i>FP</i>	関数ポイント。FP トレースは Oracle の開発者だけが使用します。
<i>HComm</i>	ホスト通信
<i>Initiali</i>	初期化
<i>Lmu</i>	LMU サーバー
<i>LS</i>	LibraryStation
<i>Mount</i>	マウント/マウント解除
<i>Operator</i>	オペレータコマンド
<i>Recovery</i>	回復 (注: <i>SERvice</i> もトレースする必要があります)
<i>SERvice</i>	サービス
<i>Utilitie</i>	ユーティリティー
<i>UII</i>	統合ユーザーインタフェース
<i>Volume</i>	ボリューム/セル
<i>VTcs</i>	VTCS
<i>Wto</i>	WTO サービス
<i>XML</i>	XML インタフェース

注:

- 1つ以上のコンポーネントについてトレースを有効または無効にするときは、すべてのコンポーネントトレースのステータスが表示されます。
- デフォルトでは、*TRace* コマンドの出力はすべて GTF に送られます。たとえば、LMU をトレースして出力を GTF に送るには、*TR LMU* を発行します。ほかのパラメータは必要ありません。
- *Recovery* コンポーネントをトレースするには、*SERvice* コンポーネントもトレースする必要があります (*Recovery* のトレースにはサービスが使用されます)。
- *LS* コンポーネントは、LibraryStation が初期化されている場合にのみメッセージ *SLS0068I* に表示されます。

TRACELKP

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

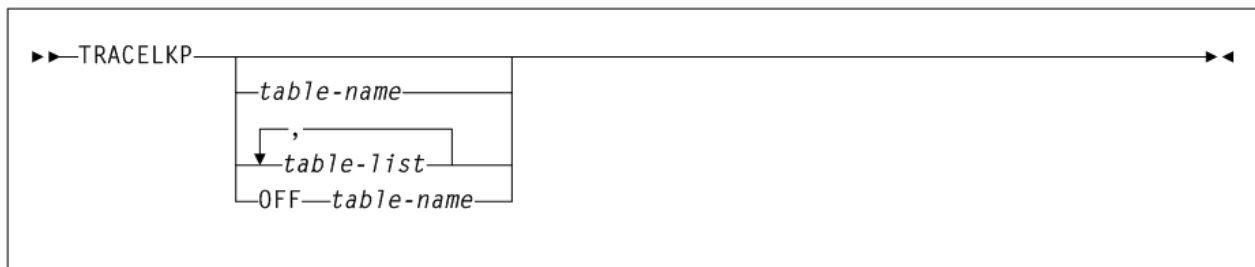
説明

TRACELKP コマンドは、HSC 定義ファイルに関連付けられた *LOOKUP* イベントのトレースを有効または無効にします。トレースの実行には *GTF GTRACE* 機能が使用されます。

構文

図3.174 「*TRACELKP* コマンドの構文」は、*TRACELKP* コマンドの構文を示しています。

図3.174 *TRACELKP* コマンドの構文



パラメータ

図3.174 「*TRACELKP* コマンドの構文」に示すように、*TRACELKP* コマンドには次のパラメータが含まれます。

table-name または *table-list*

トレースを有効または無効にする 1 つ以上の *LOOKUP* 定義ファイル。イベント名のリストを指定する場合は、識別子を空白またはコンマで区切ります。

1 つ以上のファイルについて *LOOKUP* トレースを有効または無効にするときは、すべての *LOOKUP* トレースのステータスが表示されます。*LOOKUP* トレースの出力はすべて *GTF* に送られます。

有効な *LOOKUP* テーブル名を次の表に示します。大文字は、許容される最小の省略形を示しています。

表3.18 TRACELKP のルックアップ名

ルックアップ名	説明
<i>VOLATTR</i>	<i>VOLATTR (VOLDEF)</i> テーブル
<i>LMUPATH</i>	<i>LMUPATH (LMUPDEF)</i> テーブル
<i>MVCPPOOL</i>	<i>MVCPPOOL (MVCDEF)</i> テーブル
<i>MGMTCLAS</i>	<i>MGMTCLAS (MGMTDEF)</i> テーブル
<i>STORCLAS</i>	<i>STORCLAS (STORDEF)</i> テーブル
<i>LOOKFAIL</i>	<i>LOOKUP</i> の障害を詳細にトレースします。 <i>LOOKFAIL</i> を指定すると、 <i>ON</i> になっているすべてのイベントについて詳細な障害トレースレコードが出力されます。
<i>MIGRSEL</i>	<i>MIGRSEL (MGMTDEF)</i> テーブル
<i>MIGRVTV</i>	<i>MIGRVTV (MGMTDEF)</i> テーブル

OFF *table-name*

オプションで、指定されたコンポーネントのトレースを無効にします。*table-name* は、無効にするコンポーネントを指定します。

UEXIT

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

UEXIT コマンドは、HSC がユーザー出口を処理する方法を定義します。

HSC ユーザー出口を使用すると、HSC の処理中に特定の点で独自の処理ルーチン呼び出すことができます。HSC によって制御されるユーザー出口は、*DDNAME SLSUEXIT* によって識別されるロードライブラリから、HSC の初期化時にロードされます。HSC は *UEXIT* コマンドを使用して次を管理します。

- SLSUX03
- SLSUX05
- SLSUX06
- SLSUX14
- SLSUX15

UEXIT コマンドを使用すると、ユーザー出口を無効にして HSC を起動したあと、HSC が稼動状態になっている任意の時点で出口を有効にできます。出口が期待どおりに動作しない場合は、必要な変更を行い、再度ロードしてください。

UEXIT コマンドでは、固有のユーザー出口ロードモジュール名をオプションで指定でき、異なる時点 (たとえば、昼間勤務と夜間勤務) で実行できる異なるバージョンの出口を作成できます。ロードモジュールは、HSC の起動時に記述されるユーザー定義のロードモジュールライブラリに含まれています。

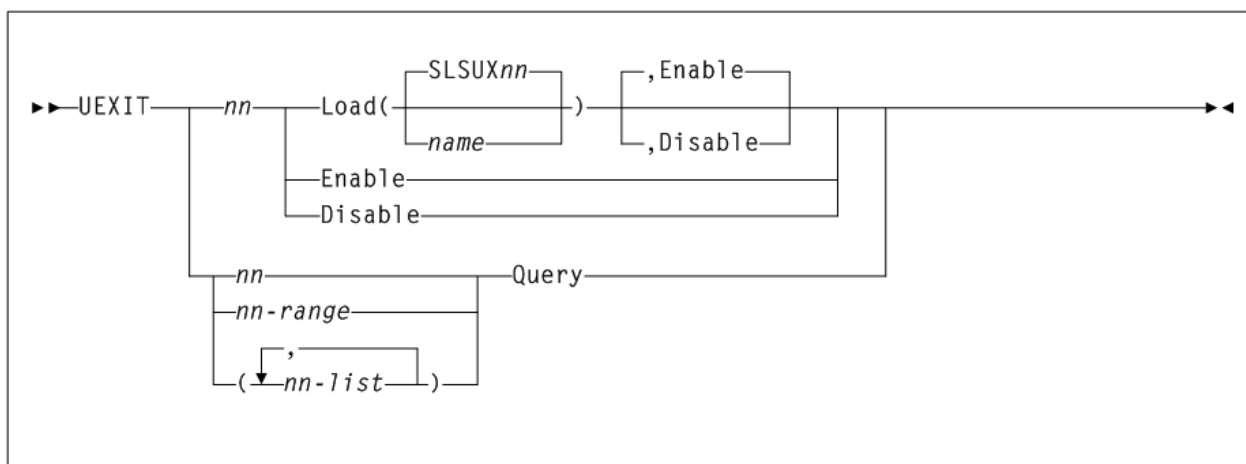
注:

- ユーザー出口 03 およびユーザー出口 05 はレガシーインターフェースであり、ユーザー出口を必要としない代替の機能に置き換えられています。
- ユーザー出口 03 は、HSC 初期化時に有効になっています。UEXIT コマンドを使用してこの出口を有効化、無効化、または再ロードすることはできません。

構文

図3.175 「UEXIT コマンドの構文」は、UEXIT コマンドの構文を示しています。

図3.175 UEXIT コマンドの構文



パラメータ

図3.175「UEXIT コマンドの構文」に示すように、*UEXIT* コマンドには次のパラメータが含まれます。

nn

ユーザー出口番号を指定します。ユーザー出口番号については、Oracle の ELS ドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

Load

指定されたモジュールがストレージにロードされます。

SLSUXnn

ユーザー出口のデフォルトの名前を指定します。名前が指定されていない場合は、HSC がモジュールをストレージにロードするときにデフォルトの名前が使用されます。

name

この出口に使用するモジュールの名前。これは、ロードモジュールのリンク編集に使用されるエントリポイントの名前です。

Enable

コマンドの完了時に、指定された出口がアクティブと見なされることを示します。*Enable* はデフォルトです。

Disable

コマンドの完了時に、指定された出口が非アクティブと見なされることを示します。

Enable

オプションで、指定されたユーザー出口 (*nn*) の最新モジュールを有効にするように指定します。このパラメータは *Load* パラメータとともに指定することもできます。

Disable

オプションで、指定されたユーザー出口 (*nn*) の最新モジュールを無効にするように指定します。このパラメータは *Load* パラメータとともに指定することもできます。

nn*、*nn-range*、または *nn-list

Query パラメータとともに使用して、単一のユーザー出口、出口の範囲、または出口のリストを指定します。ユーザー出口番号の範囲を指定する場合は、開始番号と終了番号をハイフンで区切る必要があります。例: (0409) ユーザー出口のリストでは、ユーザー出口番号をコンマで区切り、リストを括弧で囲む必要があります。例: (01, 04, 10)

Query

指定されたユーザー出口番号の、現在ロードされているすべてのバージョンのステータスを要求します。ユーザー出口のステータスの表示は、単一のユーザー出口、出口の範囲、または出口のリストに対して指定できます。

UNSCratch

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

UNSCratch コマンドは、1つまたは複数のボリュームをアンスクラッチします。

構文

図3.176 「UNSCratch コマンドの構文」は、UNSCratch コマンドの構文を示しています。

図3.176 UNSCratch コマンドの構文



パラメータ

図3.176 「UNSCratch コマンドの構文」に示すように、UNSCratch コマンドには次のパラメータが含まれます。

VOLser(vol-list)

スクラッチリスト内で追加、削除、または置換するボリュームシリアル番号のリストを指定します。

`vollist` はボリュームシリアル番号を示します。これは、単一のボリューム、ボリュームシリアル番号のリスト、ボリュームシリアル番号の範囲、リストと範囲の組み合わせ (コンマ区切り)、のいずれかになります。最大 100 個のボリュームシリアル番号を指定できます。リストの全体をカッコで囲む必要があります。

UNSElect

インタフェース:

- *SLUADMIN* ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

UNSElect コマンドは、誤って選択状態になっているボリュームを選択解除します。

注:

- HSC が誤ってボリュームを選択したままになっていることが明らかな場合にのみ、このユーティリティーを使用してください。このユーティリティーを正しく使用しないと、HSC が異常終了し、エラントボリュームが発生する可能性があります。

Display Volume DEtail コマンドを発行して、問題のボリュームがあるホストを特定します。次に、問題のボリュームがあるホスト上で *Display DRives* および *Display Requests* コマンドを発行して、そのボリュームが使用されているかどうかを確認します。

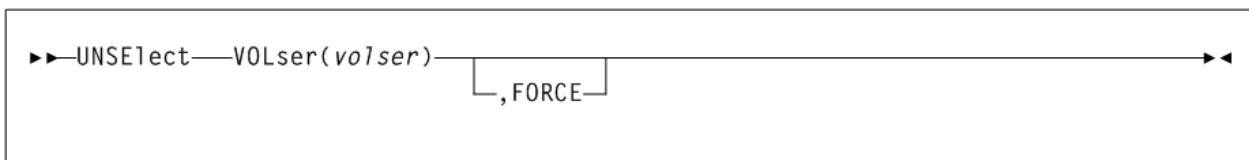
選択されたボリュームがトランスポートにマウントされている場合は、そのトランスポートに対して *DISMount* コマンドを発行します。ボリュームの LMU に対するアクティブな要求がある場合は、要求が完了するまで待機します。未完了応答ハンドラが要求がタイムアウトしたことを示している場合は、要求を終了することをお勧めします。

- *UNSElect* 関数を呼び出すことができるのは、*SLUADMIN* が APF 許可、キー 0 から 7、またはスーパーバイザ状態で呼び出されたときだけです。*UNSElect* によって呼び出されるロードモジュールは *SLUNSEL* です。このモジュールへのアクセスを制限すると、このユーティリティー関数へのアクセスが制限されます。

構文

図3.177 「*UNSElect* コマンドの構文」は、*UNSElect* コマンドの構文を示しています。

図3.177 *UNSElect* コマンドの構文



パラメータ

図3.177 「UNSElect コマンドの構文」に示すように、*UNSElect* コマンドには次のパラメータが含まれます。

VOLser(volser)

選択解除の対象として *VOLSER* が指定されていることを示します。

volser は、選択解除する *VOLSER* を指定します。

,FORCE

オプションで、ボリュームが選択されているホストと通信できない場合でも、ボリュームを選択解除するように指定します。

Vary

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* (Vary ACS)
- コンソールまたはユーティリティー、*UUI All* (Vary *CLINK*、*RTD*、または *VTSS*)
- *UUI* サポート: はい

サブシステムの要件:

- *FULL* サービスレベルにあるアクティブな *HSC* (Vary ACS)
- アクティブな *HSC/VTCS* (Vary *CLINK*、*RTD*、または *VTSS*)

説明

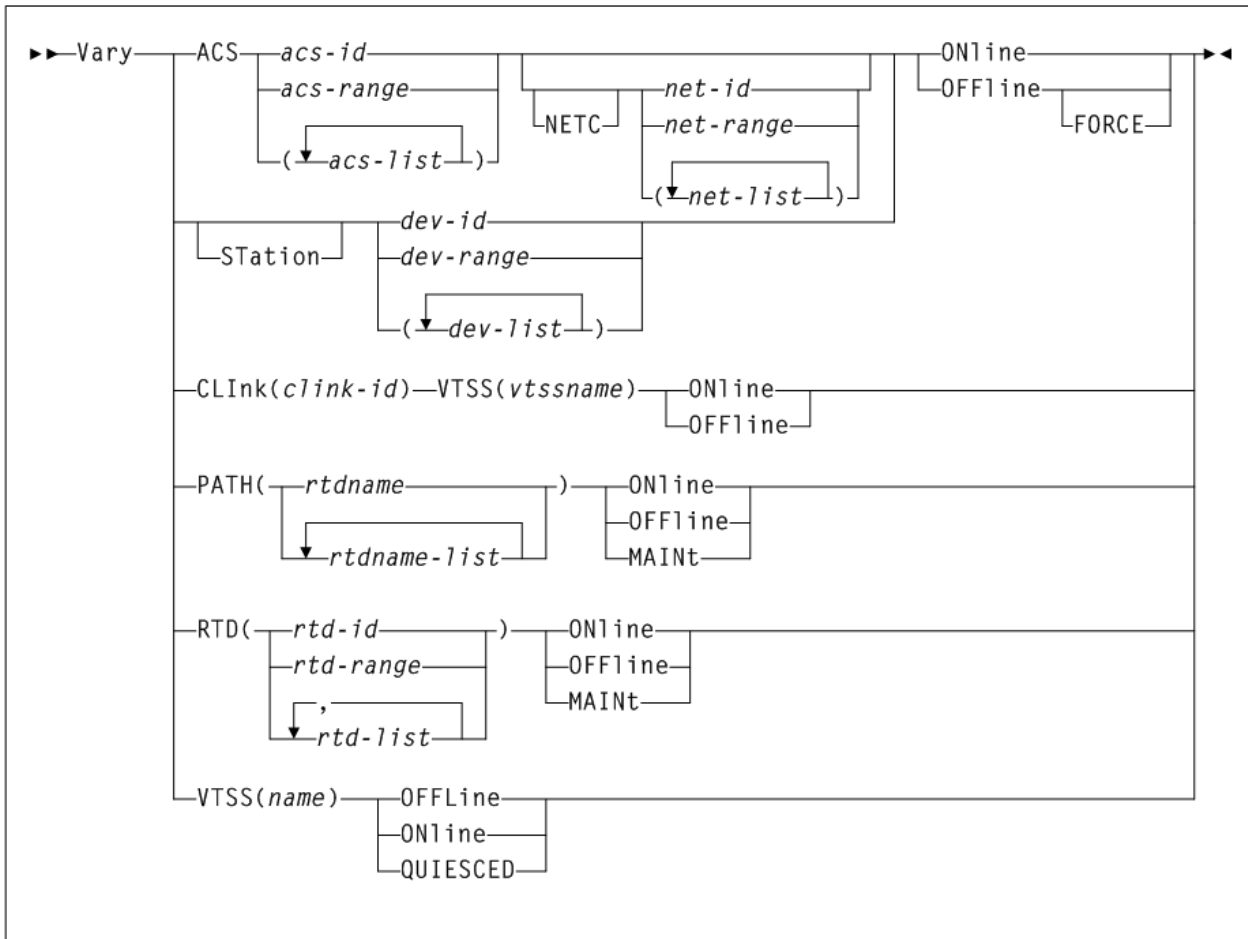
Vary コマンドは、次のオンライン/オフライン状態を変更します。

- *ACS* または *station*
- *CLINK*
- *PATH*
- *RTD*
- *VTSS*

構文

図3.178 「*Vary* コマンドの構文」は、*Vary* コマンドの構文を示しています。

図3.178 Vary コマンドの構文



パラメータ

図3.178「Vary コマンドの構文」に示すように、Vary コマンドには次のパラメータが含まれます。

ACS(*acs-id*、*acs-range*、または *acs-list*)

オプションで、このホストに対して ACS をオンライン、オフライン、またはスタンバイにするように指定します。

acs-id、*acs-range*、または *acs-list* は、変更する 1 つまたは複数の ACS を指定します。*acs-list* の各要素には、単一の ACSid または ACSid 範囲を指定できます。範囲はダッシュで区切ります。リスト内の各要素がコンマまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

NETC(*net-id*, *net-range*, または *net-list*)

オプションで、ACS *acs-id* とともに使用して、単一の HSC ライブラリネットワーク接続、あるいは HSC ライブラリネットワーク接続の範囲またはリストを、オンライン/オフラインに変更します。

net-id、*net-range*、または *net-list* は、変更する 1 つまたは複数のネットワーク接続を指定します。*net-list* の各要素には、単一の *net-id* または *net-id* 範囲を指定できます。範囲はダッシュで区切ります。リスト内の各要素がコマンドまたは空白で区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

ONline

このホストに対してステーションをオンラインまたはスタンバイにするように指定します。

OFFline

このホストに対してステーションをオフラインにするように指定します。

FORCE

オプションで、ステーションをただちにオフラインにするように指定します。**FORCE** オプションは、HSC が **FULL** サービスレベルにあるとき、または **BASE** サービスレベルを越えて **FULL** サービスレベルに移行しているときに指定できます。

このパラメータは、**OFFline** オペランドにのみ適用されます。

STation(*dev-id*, *dev-range*, または *dev-list*)

オプションで、このホストに対してステーションをオンライン、オフライン、またはスタンバイにするように指定します。

ACS では、ホスト CPU と LMU の間の接続は「ステーション」と呼ばれます。各ステーションは、ホスト CPU から 3278-2 デバイスに見え、サポートされている 3174、3274、または互換性のある端末コントローラのポートに物理的に接続されています。各 LMU は最大 16 のステーションを収容できます。ACS に接続されているホスト CPU の数に応じて、各ホスト CPU は各 LMU に対して 1 つまたは複数のステーションを持つことができます。

devid、*devrange*、または *devlist* は、変更する LMU へのステーションを指定します。*devlist* の各要素には、単一のデバイス番号またはデバイス番号の範囲を指定できます。範囲はダッシュで区切ります。リスト内の要素はコマンドまたは空白で区切り、リスト全体を括弧で囲む必要があります。各デバイス番号は、コマンドを発行しているホストに接続されているデバイスを識別します。指定できる値は 000-FFF です。

CLink(*clink-id*)

指定された CLINK。

clink-id は、リンクの ID を指定します。

VTSS(*vtssname*)

クラスタ内の送信側 VTSS。

vtssname は、送信側 VTSS の 1 から 8 文字の識別子を指定します。

ONline

このホストに対してステーションをオンラインまたはスタンバイにするように指定します。

OFFLine

指定された CLINK をオフラインに変更します。

PATH(*rtd-name* または *rtdname-list*)

オプションで、このホストに対してパス (VTSS から RTD へ) をオンライン、オフライン、またはスタンバイにするように指定します。これにより、VTSS からデバイスへの個別の *RTDPATH* を希望の状態に変更できます。このパスは、VTSS から RTD への直接接続を表す場合と、仮想ライブラリへの接続を表す場合があります。

rtd-name または *rtdname-list* は、VTSS から仮想ライブラリの RTD にアクセスするためのパスに割り当てられている名前を指定します。

ONline

指定されたパス (VTSS から RTD へ) をオンライン状態に変更します。

OFFLine

指定されたパス (VTSS から RTD へ) をオフライン状態に変更します。

MAINT

指定されたパス (VTSS から RTD へ) をオフライン (保守モード) 状態に変更します。

RTD(*rtd-name*、*rtd-list*、または *rtd-range*)

指定された RTD の状態を変更します。

rtd-name、*rtd-range*、または *rtd-list* は、1 つまたは複数の RTD のユニットアドレスを指定します。RTD のリストおよび範囲の項目数は、VSM2 および VSM3 では 64、VSM4 では 256 に制限されています。

ONline

指定された RTD を、それらが接続されている VTSS に対してオンラインに変更します。

OFFLine

指定された RTD を、それらが接続されている VTSS に対してオフラインに変更します。

MAINT

指定された RTD を、それらが接続されている VTSS に対してオフライン (保守モード) に変更します。

VTSS(name)

指定された VTSS の状態を変更します。

name は VTSS の識別子を指定します。

注:

Vary VTSS では、指定された VTSS に関連付けられている VTD または RTD の状態は変更されません。

ONline

指定された VTSS をオンラインに変更します。

OFFline

指定された VTSS をオフラインに変更します。

QUIESCED

指定された VTSS を休止状態に変更します。

注:

Vary VTSS では、指定された VTSS に関連付けられている VTD または RTD の状態は変更されません。

View

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

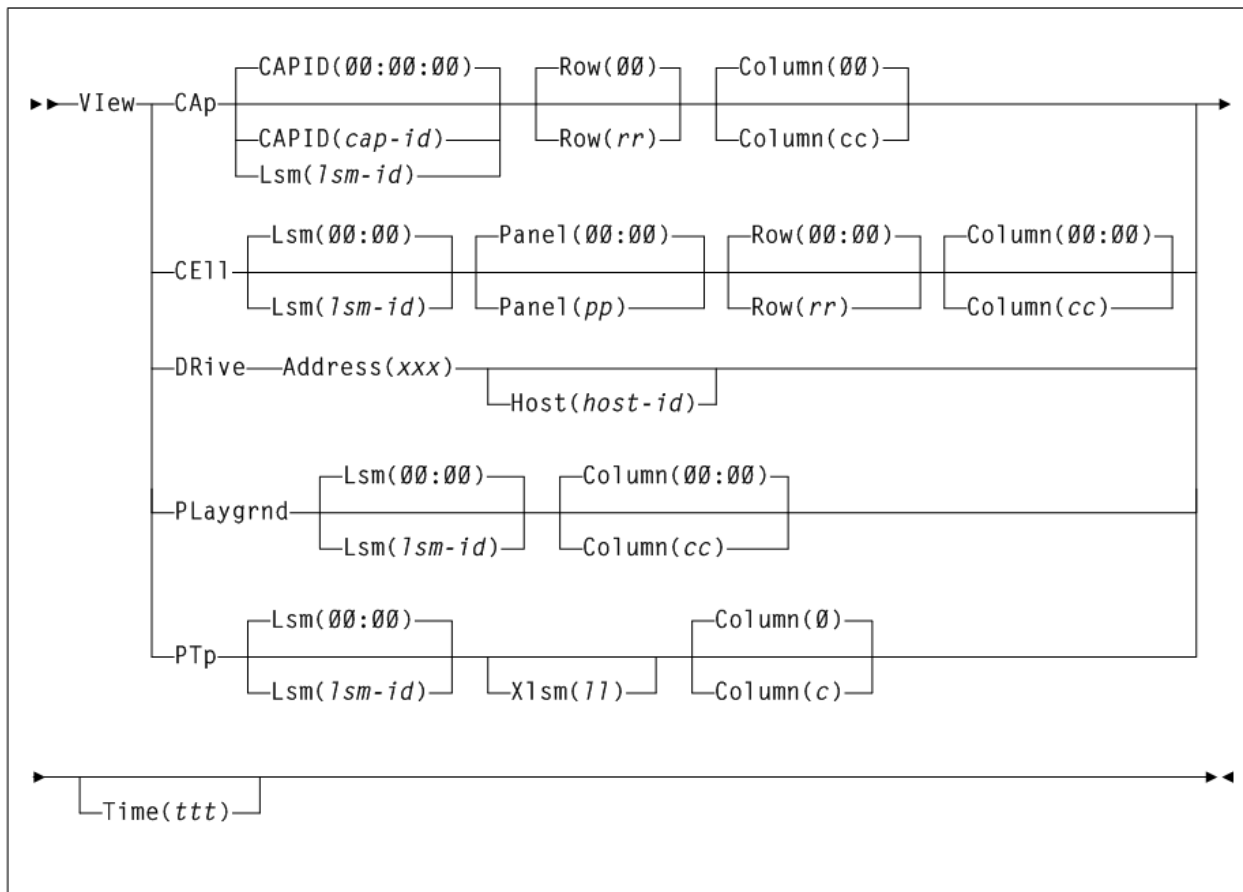
説明

View コマンドを使用すると、LSM にビデオモニターが接続されているときに、LSM の指定された内部コンポーネントを確認できます。

構文

図3.179 「*View* コマンドの構文」は、*View* コマンドの構文を示しています。

図3.179 View コマンドの構文



パラメータ

図3.179「View コマンドの構文」に示すように、View コマンドには次のパラメータが含まれます。

CAp

カメラの焦点を CAP 内のセル位置に当てるように指定します。CAPID または Lsm パラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは CAPid 00:00:00 です。Row および Column パラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは行 0、列 0 です。

CAPID(cap-id)

複数の CAP を含む LSM 内の 1 つの CAP を識別します。

capid は、表示する CAP を指定します。cap-id の形式は AA:LL:CC です。ここで、AA:LL は LSMid を示し、CC は CAP を示します。有効な値のリストについては、「CAPid」を参照してください。

Lsm(lsm-id)

単一の CAP を含む LSM を識別します。

lsmid は、表示する単一の CAP を指定します。LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

Row(rr)

CAP 内の行番号を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは行 0 です。

rr は行番号を指定します。*rr* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効な値のリストについては、「[行](#)」を参照してください。

Column(cc)

CAP 内の列番号を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは列 0 です。

cc は列番号を指定します。*cc* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。列には、パネルの左側から始まる番号が付けられています。有効な値のリストについては、「[列](#)」を参照してください。

CELL

カメラの焦点を LSM パネル内のカートリッジストレージセルまたは診断セルに当てるように指定します。*Lsm*、*Panel*、*Row*、および *Column* パラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは *LSM 00:00*、パネル 0、行 0、列 0 です。

Lsm(lsm-id)

LSM を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは *LSMid 00:00* です。

lsmid は LSMid を示します。LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

Panel(pp)

カメラで表示するカートリッジストレージセルまたは診断セルを含んでいる LSM パネルの番号を指定します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトはパネル 0 です。

pp はパネル番号を示します。*pp* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効な値のリストについては、「[パネル](#)」を参照してください。

Row(rr)

LSM パネル内の行番号を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは行 0 です。

rr は行番号を指定します。*rr* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。有効な値のリストについては、「行」を参照してください。

パネル 2 の列 3 では、行 28-41 の行エントリのみ指定できます。パネル 3 のセルはオプションです。

Column(cc)

パネル内の列番号を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは列 0 です。

cc は列番号を指定します。*cc* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。列には、パネルの左側から始まる番号が付けられています。有効な値のリストについては、「列」を参照してください。

DRive

カメラの焦点をカートリッジドライブに当てるように指定します。ドライブを特定するには、*Address* パラメータを指定する必要があります。*Host* パラメータを使用すると、別のホストに定義されているドライブを表示できます。

Address(xxx)

カートリッジドライブのアドレスを指定します。*Address* パラメータは、検査するトランスポートのオペレーティングシステムアドレスを定義します。

xxx は、トランスポートの 16 進数アドレスを示します。HSC は、指定されたアドレスが、指定されたホストの *LIBGEN* で定義されているアドレスと一致することを確認します。

Host(host-id)

検査するドライブが *VIew* コマンドの発行元ホストの *LIBGEN* に定義されていない場合に、*Address* パラメータに意味を与えます。

Host パラメータが指定されていない場合、HSC は、*VIew* コマンドが入力されたホストの *LIBGEN* で定義されているドライブリストをチェックします。ドライブリスト内にアドレスが見つかった場合は、コマンドが実行されます。

hostid は、トランスポートが定義されているホストを示します。

PLaygrnd

カメラの焦点をプレイグラウンドセルに当てるように指定します。*Lsm* および *Column* パラメータが指定されていない場合、コマンドのデフォルトは、LSM 00:00 のプレイグラウンド内のセルの相対位置です。

注:

プレイグラウンドは、LSM の初期化中にロボットハンド内に見つかったカートリッジが置かれる、予約済みのセル領域です。通常の LSM 初期化回復処理は、プレイグラウンドセルからカートリッジをそのホームセルまたは目的の宛先に移動しますが、異常な状況ではカートリッジがプレイグラウンドセル内に残る可能性があります。LSM 内のプレイグラウンドの位置については、該当する Oracle StorageTek ハードウェアのドキュメントを参照してください。

Lsm(lsm-id)

LSM を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは *LSMid 00:00* です。

lsmid は LSMid を示します。LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

Column(cc)

パネルのプレイグラウンド内のセルの相対位置を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは、プレイグラウンド内のセルの相対位置です。

cc は、プレイグラウンド内のセルの相対位置を示します。*cc* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。(LSM には、プレイグラウンドセルを複数持つものと、1 つだけ持つものがあります。)

PTp

カメラの焦点をパススルーポート (PTP) セルに当てるように指定します。*Lsm* および *Xlsm* パラメータを使用して特定の PTP を指定し、*CoLumn* パラメータを使用して特定のセルを指定し、*Time* パラメータを使用して表示時間を指定することができます。

注:

PTP が 2 つの異なる LSM タイプで共有されている場合、列値の上限は、PTP 容量が小さい方の LSM によって決まります。

Lsm(lsm-id)

LSM を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは *LSMid 00:00* です。

lsmid は LSMid を示します。LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

Xlsm(l)

PTP を共有する LSM を定義することによって、検査する PTP を識別します。

各 PTP は、それを利用する 2 つの LSM によって識別されます。 *Lsm* パラメータは、PTP を表示するために使用されるロボットを識別し、 *xLsm* パラメータは、PTP を共有する LSM を識別します。 LSM に複数の PTP が含まれているときは常にこの区別が必要です。

2 つ以上の PTP を含む LSM に *xLsm* が指定されていない場合、HSC は *LIBGEN* を調べ、そこで *Lsm(lsmid)* に対して定義されている最初の PTP を選択します。

l1 は、隣接する LSM の LSM 番号を示します。 *l1* の値は、00-99 の範囲の 10 進数です。(ACS は *Lsm* パラメータで識別されます。)

Column(c)

パネル内の列番号を識別します。このパラメータを指定しない場合、コマンドのデフォルトは列 0 です。

c は列番号を示します。 *c* に指定できる値は 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- LSM モデル 4410、9310、および 9740 の場合は 0-3
- WolfCreek LSM (すべてのモデル) の場合は 0 または 1。

注:

PTP が 2 つの異なる LSM タイプで共有されている場合、列値の上限は、PTP 容量が小さい方の LSM によって決まります。

Time(*ttt*)

ビデオモニターの表示時間を指定します。

ttt は時間を秒単位で示します。

VLEMAINT

インタフェース:

- コンソールまたはユーティリティー
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC/VTCS

説明

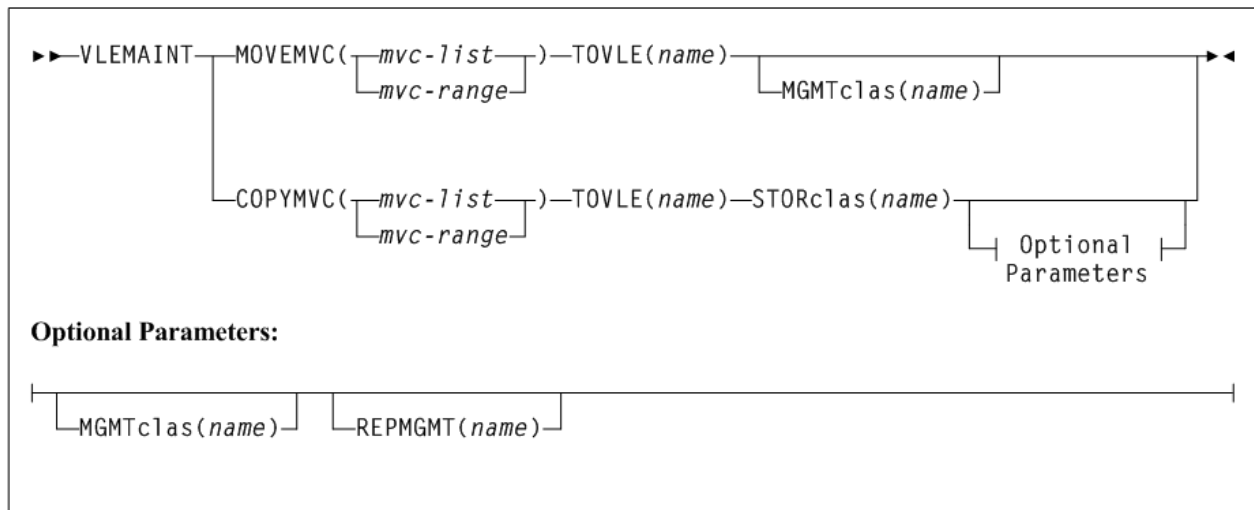
VLEMAINT ユーティリティーコマンドは、VLE ベースの MVC (VMVC) データの内容を、指定された VLE システムに移動またはコピーします。VTSS ストレージリソースは使用しません。

このユーティリティーは、必ず Oracle サポート担当者の指示の下で使用するようになっています。

構文

図3.180 「VLEMAINT コマンドの構文」は、VLEMAINT コマンドの構文を示しています。

図3.180 VLEMAINT コマンドの構文



パラメータ

図3.180 「VLEMAINT コマンドの構文」に示すように、VLEMAINT コマンドには次のパラメータが含まれます。

MOVEMVC(*mvc-list* または *mvc-range*)

指定されたターゲット VLE システムに内容を移動する、VLE ベースの MVC のリストまたは範囲を指定します。ターゲット VLE システムで選択された MVC は、ソース MVC のストレージクラスを継承します。

mvc-list または *mvc-range* は、MVC のリストまたは範囲を示します。

MOVEMVC は *COPYMVC* と相互に排他的です。

TOVLE(name)

ソース VMVC のデータを受け取るターゲット VLE を指定します。このパラメータは必須です。

name は、ターゲット VLE の名前を示します。この VLE は有効である (構成に定義されている) ことが必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

MGMTclas(name)

オプションで、ターゲット VLE に送信されるデータをフィルタ処理するための単一の管理クラスを指定します。この管理クラスを持っている VTV だけがターゲット VLE に送信されます。

name は、管理クラスの名前を示します。この名前は有効である (*MGMTDEF* に定義されている) ことが必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

COPYMVC(mvc-list または mvc-range)

指定されたターゲット VLE システムに内容をコピーする、VLE ベースの MVC のリストまたは範囲を指定します。*COPYMVC* は、ターゲット VLE システム上の別のストレージクラスに対してデータの追加コピーを作成します。

mvc-list または *mvc-range* は、MVC のリストまたは範囲を示します。

COPYMVC は *MOVEMVC* と相互に排他的です。*COPYMVC* では、*STORclas* の名前を指定する必要があります。

TOVLE(name)

ソース VMVC のデータを受け取るターゲット VLE を指定します。このパラメータは必須です。

name は、ターゲット VLE の名前を示します。この VLE は有効である (構成に定義されている) ことが必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

STORclas(name)

オプションで、*COPYMVC* 処理のためにターゲット VLE で選択された VMVC に割り当てられるストレージクラスを指定します。*COPYMVC* が指定されている場合、このパラメータは必須です。

name はストレージクラス名を示します。この名前は有効である (*MGMTDEF* に定義されている) ことが必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

オプションパラメータ (VLEMAINT COPYMVC)

VLEMAINT COPYMVC を指定する場合は、次のオプションパラメータが適用されます。

MGMTclas(name)

オプションで、ターゲット VLE に送信されるデータをフィルタ処理するための単一の管理クラスを指定します。この管理クラスを持っている VTV だけがターゲット VLE に送信されます。

name は、管理クラスの名前を示します。この名前は有効である (MGMTDEF に定義されている) が必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

REPMGMT(name)

オプションで、VTV データが COPYMVC 処理のためにターゲット VLE システムで受信されたあとにそのデータに割り当てられる単一の管理クラス名を指定します。

name は、管理クラスの名前を示します。この名前は有効である (MGMTDEF に定義されている) が必要です。そうでない場合、ユーティリティーはリターンコード 8 で終了します。

注:

COPYMVC 処理中に、REPMGMT で指定された管理クラスを持つ VTV が見つかると、それらはすべてバイパスされます。これは、ユーティリティーの再起動が発生した場合に、コピー完了確認として機能する可能性があります。

VOLPCONV

インタフェース:

- SLUADMIN ユーティリティーのみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

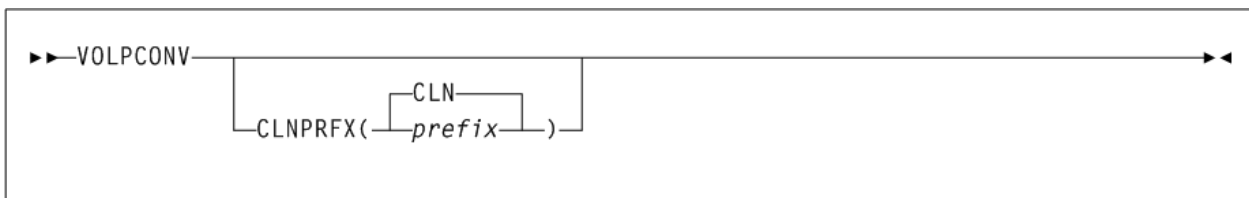
説明

VOLPCONV コマンドは、既存の *VOLDEF*、*SCRPCDEF*、*MVCDEF*、および *VTCS CONFIG* 入力文を読み取り、それらを *SET VOLPARM* 文に変換します。既存の *VTCS* 構成もユーティリティに入力されます。

構文

図3.181「*VOLPCONV* コマンドの構文」は、*VOLPCONV* コマンドの構文を示しています。

図3.181 *VOLPCONV* コマンドの構文



パラメータ

図3.181「*VOLPCONV* コマンドの構文」に示すように、*VOLPCONV* コマンドには次のパラメータが含まれます。

CLNPRFX(prefix または CLN)

すべてのクリーニングカートリッジタイプに適用される接頭辞を指定します。

prefix は、3文字の接頭辞を示します。*CLN* はデフォルトです。

JCL の追加の要件

「*SLUADMIN* の呼び出し」で説明されている必要な JCL 定義文に加えて、次の定義文が *VOLPCONV* JCL に適用されます。

SLSVOLA

VOLATTR 文形式の入力の *VOLDEF* 定義。

注:

SERIAL パラメータ内でマスキング文字 (%、?、または *) を使用してコード化された *VOLATTR* 文はサポートされていないため、メッセージ *SLS0227I* が発行されます。*VOLPCONV* を実行する前に、これらのマスキング文字を使用している *VOLATTR* 文を、マスキング文字の意図する範囲に変換する必要があります。

SLSSCRP

SCRPOOL 文形式の入力の *SCRPDEF* 定義。

SLSMVCP

MVCPPOOL 文形式の入力の *MVCDEF* 定義。

SLSVTCS

入力の VTCS 構成定義。VTCS 構成定義は、VTCS *DEComp* ユーティリティを実行して取得できます。

SLSPARM

POOLPARM および *VOLPARM* 制御文形式の出力の *VOLUME* または *POOL* 定義。*SLSPARM* データセットの論理レコードサイズは 80 です。

VOLRpt

インタフェース:

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

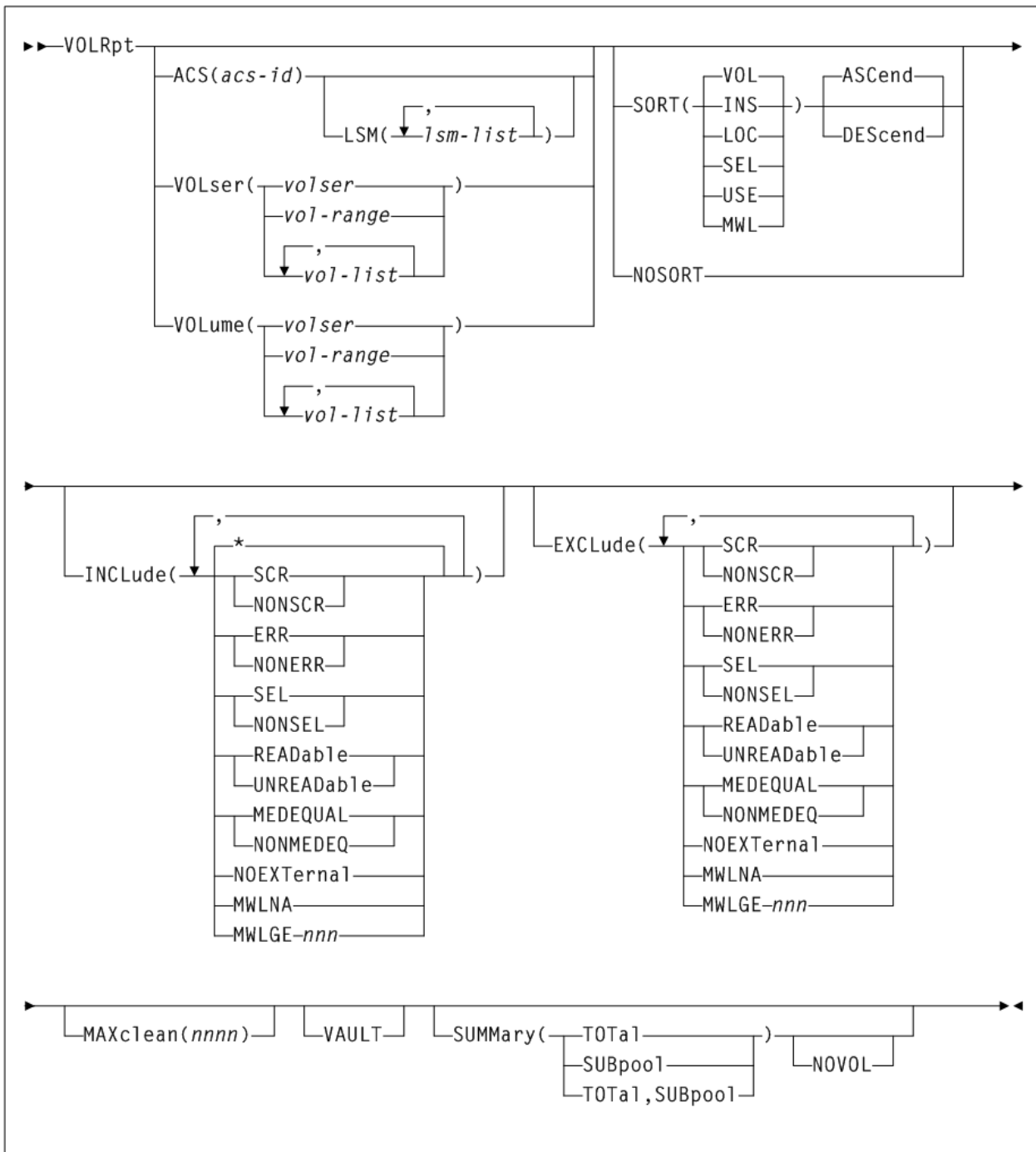
説明

VOLRpt コマンドは、ボリュームレポートを生成します。

構文

図3.182 「VOLRpt コマンドの構文」は、*VOLRpt* コマンドの構文を示しています。

図3.182 VOLRpt コマンドの構文



パラメータ

図3.182 「VOLRpt コマンドの構文」に示すように、VOLRpt コマンドには次のパラメータが含まれます。

ACS(*acs-id*)

オプションで、特定の ACS に関してのみレポートを作成するように指定します。

acsid は、1桁または2桁の10進数のACS識別子を示します。

LSM(*lsm-list*)

オプションで、ACS内の特定のLSMに関してのみレポートを作成するように指定します。

lsm-list はLSMを示します。*lsm-list* には、単一のLSM番号またはLSM番号のリストを指定できます。LSM番号は00-99の10進数です。

LSMの範囲は許可されません。リストが指定されている場合は、各要素が空白またはコンマで区切られ、リスト全体が括弧で囲まれている必要があります。

VOLser または VOLUME(*volser*、*vol-range*、または *vol-list*)

オプションで、特定のVOLSERに関する情報だけをレポートに含めるように指定します。

volser、*volrange*、または *vol-list* は、要求するボリュームシリアル番号を示します。*vol-list* に指定されたボリューム範囲のうち、制御データセット内にはないものは、レポートの制御カードイメージリスト部分で1行に1つずつ表示されます。

VOLSERでは、パーセント記号(%)を「ワイルドカード」文字として使用してパターンマッチングを指定できます。VOLSERのパーセント記号は、その位置にある任意の1文字が一致することを指定します。

たとえば、A9%%%% は、文字「A9」で始まる6文字のボリュームシリアル番号すべてをレポート対象に選択することを指定します。

Q%12% は、「Q」で始まり、3文字目と4文字目が「12」である、5文字のVOLSERすべてをレポート対象に選択することを指定します。範囲指定にパーセント記号を指定することはできません。したがって、「A%0000A%9999」は無効です。

要求されたボリュームのうち、制御データセット内にないものは、ユーティリティーのボリュームレポートリストに表示されません。

SORT

オプションで、ソート順序を指定します。

複数のソート条件を指定できます。左から右へ順に、レポートをソートする順序を指定します。

たとえば、*SORT(INS,USE)* では、生成されるレポートは、制御データセットに挿入された日付でソートされ、次に、日付ごとに選択回数でソートされます。

注:

SORT と *NOSORT* は相互に排他的です。

使用可能な *SORT* オプションは次のとおりです。

VOL

レポートをボリュームシリアル番号でソートすることを示します (*VOL* はデフォルトです)。

INS

レポートを、ボリュームが制御データセットに挿入された日付と時間でソートすることを示します。

LOC

レポートを場所でソートすることを示します。

SEL

レポートを、ボリュームが最後に選択された日付と時間でソートすることを示します。

USE

レポートを選択回数でソートすることを示します。

MWL

レポートをメディア保証期限 (*MWL*) のパーセンテージでソートすることを示します。これは、メディアの耐用期間のどの程度が使用済みであるかを示します。メディア保証期限は 100% で期限切れと見なされます。

メディア保証期限を収集して報告するには、テープライブラリおよびトランスポートが次の要件を満たしている必要があります。

- SL8500 ライブラリまたは SL3000 ライブラリ
- LMU 互換性レベル 21 以上
- T9x40: すべてのメディアおよびモデルがファームウェアレベル 1.42 以上である (9840B を除く)

- T10000: すべてのモデルおよびメディアがファームウェアレベル 1.38 以上である

メディア保証期限については、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

ASCend

オプションで、レポートを昇順でソートするように指定します。*ASCend* はデフォルトです。*NOSORT* が指定されている場合、このパラメータは無視されません。*ASCend* は、*NOSORT* および *DESCend* と相互に排他的です。

DESCend

オプションで、レポートを降順でソートするように指定します。*NOSORT* が指定されている場合、このパラメータは無視されます。*DESCend* は、*NOSORT* および *ASCend* と相互に排他的です。

NOSORT

ソートされていないレポートを生成するように指定します。*NOSORT* は、*SORT*、*ASCend*、および *DESCend* と相互に排他的です。

INCLude

オプションで、レポートにボリューム情報を含めるための条件を指定します。このキーワードが指定されている場合は、指定された条件の少なくとも 1 つに一致するすべてのボリュームがレポート対象として暫定的に選択されます。*EXCLUDE*、*VOL*、*ACS*、*LSM* などのほかのオプションが指定されている場合は、ボリュームに関する情報が、レポート対象に選択されたボリュームのリストから削除されることがあります。

- ボリュームの選択では、*EXCLUDE* パラメータより前に *INCLude* パラメータが適用されます。
- パラメータの値について、その反対の値が存在するかどうかはチェックされません (たとえば、*NONSEL* が指定されていても *SEL* のフラグは付けられたままで、逆も同様です)。
- 負の属性より前に正の属性が適用されます (たとえば、*NONSCR* より前に *SCR* が適用されます)。

*

ライブラリ内のすべてのボリュームをレポートに含める対象と見なすことを示します。デフォルトは * です。次のパラメータを複数指定する場合は、パラメータをコンマで区切る必要があります。

SCR

スクラッチボリュームが指定の条件に一致することを指定します。

NONSCR

非スクラッチボリュームが指定の条件に一致することを指定します。

ERR

エラーボリュームが条件に一致することを指定します。

NONERR

非エラントボリュームが条件に一致することを指定します。

SEL

選択されているボリュームが条件に一致することを指定します。

NONSEL

選択されていないボリュームが条件に一致することを指定します。

READable

読み取り可能な外部ラベルを持つボリュームが条件に一致することを指定します。

UNREADable

読み取り不可能な外部ラベルを持つボリュームが条件に一致することを指定します。

MEDEQUAL

VOLATTR と *VAR* のメディアタイプが等しいボリュームが条件に一致することを指定します。

NONMEDEQ

VOLATTR と *VAR* のメディアタイプが等しくないボリュームが条件に一致することを指定します。

NOEXternal

外部ラベルを持たないボリュームが条件に一致することを指定します。

たとえば、*INCLUDE(SEL, ERR)* では、選択されているボリュームとエラントボリュームだけがレポート対象として暫定的に選択されます。ボリュームの選択では、*EXCLUDE* パラメータより前に *INCLUDE* パラメータが適用されます。

MWLNA

メディア保証期限の不明なボリュームが条件に一致することを指定します。メディア保証期限は、ボリュームのマウント解除時に、LMU 互換性レベルが 21 以上のテープライブラリについて取得されます。LMU 互換性レベルを取得するには、*Display ACS* コマンドを使用します。

MWLGE nnn

メディア保証期限が *nnn* % 以上であるボリュームが条件に一致することを指定します。メディア保証期限の不明なボリュームもすべて除外されます。

メディア保証期限の不明なすべてのボリュームを強制的に含めるには、*INCLUDE(MWLNA)* を指定します。*nnn* の有効な値は 0-254 です。

メディア保証期限を収集して報告するには、テープライブラリおよびトランスポートが次の要件を満たしている必要があります。

- SL8500 ライブラリまたは SL3000 ライブラリ
- LMU 互換性レベル 21 以上

- T9x40: すべてのメディアおよびモデルがファームウェアレベル 1.42 以上である (9840B を除く)
- T10000: すべてのモデルおよびメディアがファームウェアレベル 1.38 以上である

メディア保証期限については、Oracle の ELS のドキュメント『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

EXCLude

オプションで、レポートからボリューム情報を除外するための条件を指定します。1 つ以上の除外条件に一致するボリュームがレポートから除外されます。

* パラメータを除き、*EXCLude* パラメータの値は *INCLude* の値と同じです (前述の *INCLude* オプションのリストを参照)。

たとえば、*EXCL(NONSEL)* では、選択されていないボリュームがレポートから除外されます。

- ボリュームの選択では、*EXCLude* パラメータより前に *INCLude* パラメータが適用されます。
- *INCLUDE* パラメータと *EXCLUDE* パラメータの両方に *MWLGE* が指定されている場合、*EXCLUDE* の制限値は *INCLUDE* の制限値より大きくなければなりません。
- パラメータの値について、その反対の値が存在するかどうかはチェックされません (たとえば、*NONSEL* が指定されていても *SEL* のフラグは付けられたままで、逆も同様です)。
- 負の属性より前に正の属性が適用されます (たとえば、*NONSCR* より前に *SCR* が適用されます)。

*

ライブラリ内のすべてのボリュームをレポートに含める対象と見なすことを示します。デフォルトは * です。次のパラメータを複数指定する場合は、パラメータをコンマで区切る必要があります。

SCR

スクラッチボリュームが指定の条件に一致することを指定します。

NONSCR

非スクラッチボリュームが指定の条件に一致することを指定します。

ERR

エラーントボリュームが条件に一致することを指定します。

NONERR

非エラーントボリュームが条件に一致することを指定します。

SEL

選択されているボリュームが条件に一致することを指定します。

NONSEL

選択されていないボリュームが条件に一致することを指定します。

READable

読み取り可能な外部ラベルを持つボリュームが条件に一致することを指定します。

UNREADable

読み取り不可能な外部ラベルを持つボリュームが条件に一致することを指定します。

MEDEQUAL

VOLATTR と *VAR* のメディアタイプが等しいボリュームが条件に一致することを指定します。

NONMEDEQ

VOLATTR と *VAR* のメディアタイプが等しくないボリュームが条件に一致することを指定します。

NOEXternal

外部ラベルを持たないボリュームが条件に一致することを指定します。

たとえば、*INCLUDE(SEL, ERR)* では、選択されているボリュームとエラントボリュームだけがレポート対象として暫定的に選択されます。ボリュームの選択では、*EXCLUDE* パラメータより前に *INCLUDE* パラメータが適用されます。

MWLNA

メディア保証期限の不明なボリュームが条件に一致することを指定します。メディア保証期限は、ボリュームのマウント解除時に、LMU 互換性レベルが 21 以上のテープライブラリについて取得されます。LMU 互換性レベルを取得するには、*Display ACS* コマンドを使用します。

MWLGE nnn

メディア保証期限が *nnn* % 以上であるボリュームが条件に一致することを指定します。メディア保証期限の不明なボリュームもすべて除外されます。

メディア保証期限の不明なすべてのボリュームを強制的に含めるには、*INCLUDE(MWLNA)* を指定します。*nnn* の有効な値は 0-254 です。

メディア保証期限を収集して報告するには、テープライブラリおよびトランスポートが次の要件を満たしている必要があります。

- SL8500 ライブラリまたは SL3000 ライブラリ
- LMU 互換性レベル 21 以上
- T9x40: すべてのメディアおよびモデルがファームウェアレベル 1.42 以上である (9840B を除く)

- T10000: すべてのモデルおよびメディアがファームウェアレベル 1.38 以上である

メディア保証期限については、Oracle の ELS のドキュメント『HSC および VTCS の管理』を参照してください。

MAXclean(nnnn)

オプションで、「最大クリーニング回数超過」列のクリーニングカートリッジの最大使用回数を指定します。各 *POOLPARM TYPE(CLEAN)* に指定された *MAXclean* は、この値をオーバーライドします。

nnnn は最大使用回数の値を示します。有効な値は 0-32767 です。

VAULT

オプションで、ボルトボリュームを詳細ボリュームレポートに含めるように指定します。*VAULT* は、*NOVOL*、*ACS*、および *LSM* と相互に排他的です。

ボルト CDS サブファイルが存在しない場合、このパラメータは無視されません。

ボルトボリュームは *SUMMARY* レポートには含められません。詳細レポートでは、ボルトボリュームのセル位置は単語 *VAULT* で示されます。*insertion date/time* は、ボリュームがボルトに挿入された (つまり、テープライブラリから取り出された) 日付と時間です。ボルトティンクの詳細については、*LCM* ユーザーズガイドを参照してください。

SUMMARY

オプションで、*LSM* および *ACS* ごとのボリューム属性の合計と、*ACS* または *LSM* ごとのサブプールデータをユーティリティーで提供することを指定します。合計は、*ACS* (および場合によっては *LSM*)、*VOLser* または *VOLUME*、*INCLUDE* または *EXCLUDE* といった制限パラメータの使用によって影響を受けます。

TOTAL と *SUBpool* の両方が指定されている場合は、両方のレポートが提供されます。サマリーレポートのヘッダーに表示される時間と日付は、ボリュームレポートリストのヘッダーと同じです。

TOTAL

スクラッチ、選択済み、エラント、使用可能なセル、および外部ラベルのステータスタイプの合計を、*LSM*、*ACS*、およびライブラリごとにレポートで提供するように指定します。

合計は、ボリュームレポートリストおよび制御カードリストとは別のリストに、新しいページで表示されます。

SUBpool

LSM、ACS、およびライブラリごとのサブプール合計をレポートで提供するように指定します。

サブプール情報は、*VOLPARM* 機能を使用して提供できます。*VOLPARM* 情報の定義の詳細については、「[VOLPARM 制御文](#)」を参照してください。サブプール情報を指定するための代替の方法については、Oracle の ELS ドキュメント『[ELS レガシーインタフェースリファレンス](#)』を参照してください。

合計は、ボリュームレポートリスト、制御カードリスト、およびボリュームレポート合計リストとは別のリストに、新しいページで表示されます。

サブプールが重複している (つまり、1 つのボリュームが複数のサブプールに属している) 場合、各ボリュームは最初に出現したサブプール内でのみ報告されるため、ほかのサブプールの合計は正確でないことがあります。

NOVOL

オプションで、*SUMMARY* とともに使用して、ボリューム詳細を生成せずにサマリーまたはサブプール合計を表示するように指定します。

NOVOL を単独で指定しないでください。*NOVOL*

は、*ACS*、*VOLser*、*VOLume*、*SORT*、*NOSORT*、*INCLude*、*EXCLude*、*MAXclean*、および *VAULT* と相互に排他的です。

JCL の追加の要件

ボリューム特性の定義に *VOLPARM* 機能を使用していない場合は、追加で必要になる可能性のある *VOLRPT* JCL 文について、Oracle の ELS ドキュメント『[ELS レガシーインタフェースリファレンス](#)』を参照してください。

ボリュームレポート

次の例は、*SUMMARY(SUBpool1)* を指定して *VOLRpt* コマンドを発行した場合に生成されるボリュームレポートです。

例3.56 VOLRpt レポート

```

Volume                               Cell Loc   Err   Sel Ext Cln                               |--- Inserted --| |-- Last
Used --|   Times  MWL
Serial Media  Rectech AA:LL:Pa:Ro:Co | Scr |  Lbl Use  Subpool ID  Date    Time    Date
Time  Selected %
B00141 T10000T1 T1B35  01:01:02:08:01  Y    R    SMCT10K    20110725 15:52:13 20110920
10:44:52      13    0

```

Subpool Totals, all Ranges

Subpool ID	Label Type	Range Limits	DRTEST?
DEFAULTPOOL	SL	N/A - N/A	No

フィールド

VOLRpt レポートには次のフィールドが含まれています。

Volume Serial

ボリュームシリアル番号

Media

メディアタイプ。付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」を参照してください。

メディアフィールドの直前にアスタリスク * またはダッシュ - が表示されることがあります。

- アスタリスク * は、VOLATTR 文で定義されているメディアがメディアラベルの値と整合していないことを示します。
- ダッシュ - は、ボリュームには VOLATTR または VOLPARM でメディア値が定義されていないことを示します。

Rectech

記録技法。付録A「MEDia、RECtech、および MODel の値」を参照してください。

Cell Loc

セル位置フィールドは、カートリッジの場所を ACS (AA)、LSM (LL)、パネル (PA)、行 (RO)、および列 (CO) で示します。

Err、Scr、Sel

エラント、スクラッチ、または**選択済み**ヘッダーの下の Y (yes) フラグは、ボリュームが現在そのステータスになっていることを示します。

ボリュームがエラント (Err) ステータスになっている場合は、ボリュームのホームセルが **Cell Loc** 列に表示されます。

選択済みヘッダーの下の Y (yes) フラグは、ボリュームが現在選択されている (つまり、そのマウント、マウント解除、取り出し、または移動が行われている) ことを示します。M フラグは、ボリュームが現在マウントされていることを示します。合計レポートの**選択済み**列には、選択されているボリュームとマウントされているボリュームの両方が含まれます。ボリュームのホームセルが **Cell Loc** 列に表示されます。

Ext Lbl

外部ラベル:

- R は、ボリュームに読み取り可能な外部ラベルがあることを示します。

- *U* は、ボリュームに読み取り不可能な外部ラベルがあることを示します。
- *N* は、ボリュームに外部ラベルがないことを示します。

Clm Use

カートリッジの使用可否:

- *N* は、ボリュームが使用不可であることを示します。たとえば、クリーニング面を使い果たしたため使用できなくなった使用済みクリーニングカートリッジなどです。
- *M* は、クリーニングカートリッジが *MAXclean* 値で設定されている最大使用回数 (*MNTD MAXclean* または *VOLATTR MAXclean* パラメータで指定される) を超えたことを示します。

Subpool ID

サブプール ID。

VOLPARM 制御文を使用してスクラッチサブプール定義が提供されている場合は、ボリュームのスクラッチサブプールが一覧表示されます。

- **NON-VOLPARM** は、*VOLPARM* が有効になっているが、このボリュームは *VOLPARM* に定義されていないことを示します。
- *DEFAULTPOOL* は、このボリュームが *VOLPARM* に定義されており、プールは関連付けられていないことを示します。
- **MVC** は、このボリュームが、VTCS で移行ボリュームとして使用するために予約されていることを示します。
- **DEFAULT** は、このボリュームがクリーニングカートリッジであるが、*VOLPARM* で定義されているサブプールには含まれていないことを示します。**DEFAULT** が表示されます。

VOLPARM が使用されていない場合、生成されるレポートは HSC 6.2 リリースのものと同じです。詳細は、*HSC 6.2* のシステムプログラマーズガイドを参照してください。

Inserted

ボリュームが挿入された日付と時間。

Last Used

ボリュームが最後に使用された日付と時間

MWL Media Warranty Life

メディア保証期限 (MWL) は、ボリュームのマウント解除時に、LMU 互換性レベルが 21 以上のテープライブラリについて取得されるパーセント値です。互換性レベルがわからない場合、それを表示するには、*HSC Display Acs* コマンドを入力します。詳細は、「[Display ACS](#)」を参照してください。

MWL のパーセンテージは、メディアの耐用期間のどの程度が使用済みであるかを示し、100% で「期限切れ」と見なされます。値の範囲は 0 から 254 です。このフィールドが空白の場合、MWL は不明です。

合計レポート

次の 2 つの合計レポートを生成できます。

- ボリュームレポート合計
- サブプール合計

ボリュームレポート合計

LSM、ACS、およびライブラリ全体について、さまざまな特性を持つカートリッジの合計が表示されます。

選択されているボリュームの合計は、現在選択されているボリュームの数と現在マウントされているボリュームの数の合計です。

注:

報告される空きストレージセル数には、凍結されたパネル上の空きセルは含まれません。少なくとも 1 つの凍結されたパネルを持つ LSM は、空きセル数の後ろのアスタリスクで示されず。

サブプール合計

LSM、ACS、およびライブラリ全体について、カートリッジの合計がサブプール別に生成されます。

注:

DRTEST 列の値 Y は、そのプールが **VOLPARM** 制御文の機能を使用してキーワード **DRTEST** (YES) で定義されていることを示します。

VTVMaint

インターフェース:

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

説明

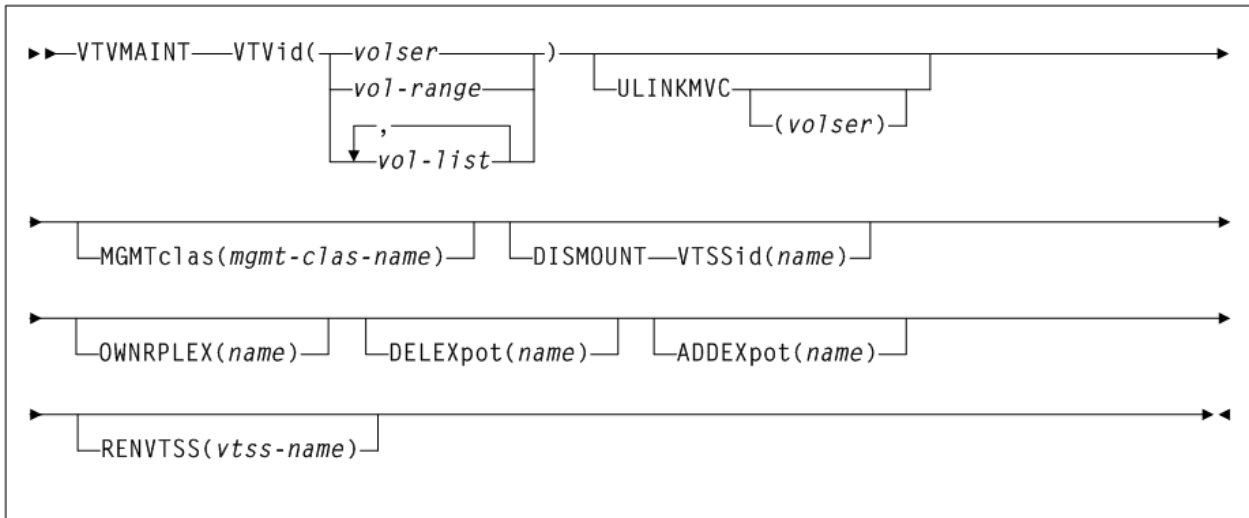
VTVMaint コマンドは次のことを行います。

- MVC から VTV をリンク解除します。
- VTV の管理クラスを設定します
- オフライン VTSS 内の指定された VTV を論理的にマウント解除します。
- 電子的にインポートされた VTV の所有権を指定します
- 電子的にエクスポートされた VTV のコピーへの参照を追加または削除します。

構文

図3.183 「VTVMaint コマンドの構文」は、VTVMaint コマンドの構文を示しています。

図3.183 VTVMaint コマンドの構文



パラメータ

図3.183 「VTVMaint コマンドの構文」に示すように、VTVMaint コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTVID(volser、vol-range、または vol-list)
 1つまたは複数の VTV を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は、1 つ以上の VTV の *volser* を示します。

ULINKMVC

オプションで、指定された VTV の MVC コピーをリンク解除 (論理的に削除) します。

volser は、MVC のボリュームシリアル番号を示します。値が指定されていない場合、VTV のすべての MVC コピーが削除されます。

MGMTclas(*mgmtclas-name*)

オプションで、VTV の管理クラスを設定します。

mgmt-class-name は、*MGMTclas* 制御文で指定した管理クラスの名前を示します。詳細については、「[MGMTclas 制御文](#)」を参照してください。

DISMOUNT VTSS(*name*)

オプションで、指定された VTSS 内の指定された VTV を論理的にマウント解除します。

name は VTSS の名前を示します。

マウント解除された VTV の移行されたコピーが存在し、オンライン VTSS からアクセス可能な場合、VTV へアクセスするのにこの VTSS が使用できます。

注意:

オフラインの VTSS にマウント中の VTV のコピーが変更されたあとに、移行されていない場合には、代替 VTSS にリコールする MVC のコピーは最新のものではありません。したがって、Oracle では、これらの現在のものではない MVC コピーをリコールしないことを強く推奨します。

オフライン VTSS がオンラインに戻る準備ができているとき、VTSS を使用する本番ジョブの実行前に VTSS を監査することを強くお勧めします。また、VTSS *VARY ONLINE* コマンドの発行前に VTD の "BOX" ステータスをクリアするようにしてください。

OWNRPLEX(*name*)

オプションで、電子的にインポートされた VTV の所有権を指定します。

name は、VTV の元のコピーを所有する TapePlex の名前を示します。この名前は、構成内の既知の TapePlex 名のいずれかと一致する必要があります。

この名前が、*CONFIg TAPEPlex* 文で *THISPLEX* パラメータに指定されている名前と一致する場合は、電子インポートのステータスが削除されます。

DELEXPot(name)

オプションで、電子的にエクスポートされた VTV のコピーへの参照を削除するように指定します。

name は、削除する TapePlex の名前を示します。このパラメータ値が省略されている場合は、電子エクスポートコピーへのすべての参照が削除されます。

このパラメータは、VTV の外部コピーへの参照を VTV レコードから削除するだけです。これによって、もう一方の TapePlex の接続が発生してリモートコピーが変更されることはありません。参照を削除すると、VTV の管理クラスの定義によっては、あとでエクスポートの自動再処理が発生する可能性があります。

ADDEXpot(name)

オプションで、電子的にエクスポートされた VTV のコピーへの参照を追加するように指定します。

name は、追加する TapePlex の名前を示します。この名前は、VTCS 構成に指定されている名前の 1 つに一致する必要があります。

このパラメータは、外部コピーへの参照を VTV レコードに追加するだけです。要求された VTV のコピーが、ほかの何らかの処理によってそこに物理的に配置されていると想定されています。VTV レコードでは、TapePlex の場所を最大 2 つまで追跡できます。

注:

DELEXPot 操作は、*ADDEXpot* 操作より前に実行されます。これにより、エクスポートされた場所の情報を 1 回の呼び出しで置き換えることができます。電子エクスポート機能が使用されない構成の場合、*ADDEXpot* および *DELEXPot* パラメータを使用して VTV にダミー追跡またはユーザー情報を追加できます。VTV レコード内の情報は、VTV データが更新されるたびにクリアされます。

RENVTSS(vtss-name)

オプションで、VTV が *vtss-name* に最後にマウントされた VTSS の名前を設定します。

vtss-name は新しい VTSS 名を示します。これは、構成に含まれる既存の VTSS の名前であればいけません。

注:

RENVTSS を使用するには、*VTVMMAINT* を実行するホストが、所有している VTSS にアクセスできる必要があります。

リターンコード

VTVMaint には次のリターンコードがあります。

- 0 は、VTV に対して要求されたすべての更新が正常に完了したことを示します。
- 4 は、VTV に対して要求された更新の 1 つが失敗し、ほかの少なくとも 1 つの要求された更新が正常に完了したことを示します。
- 8 は、VTV に対して要求されたすべての更新が失敗したことを示します。

注:

更新される各 VTV で生成されたリターンコードのうち最大のものが、VTVMaint ジョブの最終リターンコードです。たとえば、5 つの VTV がリターンコード 0 を生成し、1 つの VTV がリターンコード 8 を生成する場合、最終リターンコードは 8 です。

VTVMaint レポート

次の例は、次のコマンドによって生成される VTVMaint レポートです。

```
VTVMaint VTV(X00000-X00002) ULINKMVC MGMTCLAS(M1)
```

例3.57 VTVMaint レポート

```
VTV          RC
X00000      04
X00001      04
X00002      04
```

```
VTVMaint EXCEPTION REPORT
VTV X00000 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1
VTV X00001 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1
VTV X00002 IS ALREADY IN MGMTCLAS M1
SLS1315I SWS500.V5.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET
```

```
SLUADMIN (7.2.0)   STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
SSYS=HSCI        PAGE 00003
TIME 15:50:09    VTCS VTV REPORT
DATE 2015-06-17
VTV          SIZE  COMP <----CREATION----> <--LAST USED--> MGR SCR REPL  MGMT
MAX
VOLSER      (MB)  % DATE      TIME      DATE      TIME  RES IMP EXPT  CLASS  MVC1  MVC2  MVC3
MVC4      VTV VTSSNAME
X00000     0.01  0   2012MAY19 05:02:08 2012MAY19 05:22 - - R - -   M1     022550 022551 022552
022553 800
X00001     0.01  0   2012MAY19 05:02:08 2012MAY19 05:22 - - R - -   M1     033550 033551 033552
033553 800
X00002     0.01  0   2012MAY19 05:02:08 2012MAY19 05:22 - - R - -   M1     044550 044551 044552
044553 800
```

```
3 INITIALIZED VTVS PROCESSED
```

0 NON-INITIALIZED VTVS PROCESSED

VTVMAINT レポートには次の内容が表示されます。

- 処理された VTV のステータス - volser とリターンコード (0 - すべての更新が完了した、4 - 更新の一部が完了した、8 - 更新はどれも完了しなかった)。
- すべての未完了更新の理由を示す例外レポート。
- VTV レポート。

VTVRpt

VTVRpt コマンドは、VSM システム内の VTV のステータスを報告します。

次の表に示すオプションのいずれかを使用して、このコマンドを発行します。各オプションが個別に説明され、また以降のページではさらに詳細に説明されています。

表3.19 VTVRpt のオプション

オプション	説明
BASIC	基本的な VTV レポートを生成します
COPIES	VTV の現在のコピーすべてについてその常駐場所を示す VTV レポートを生成します

VTVRpt BASIC

インタフェース:

- ユーティリティのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

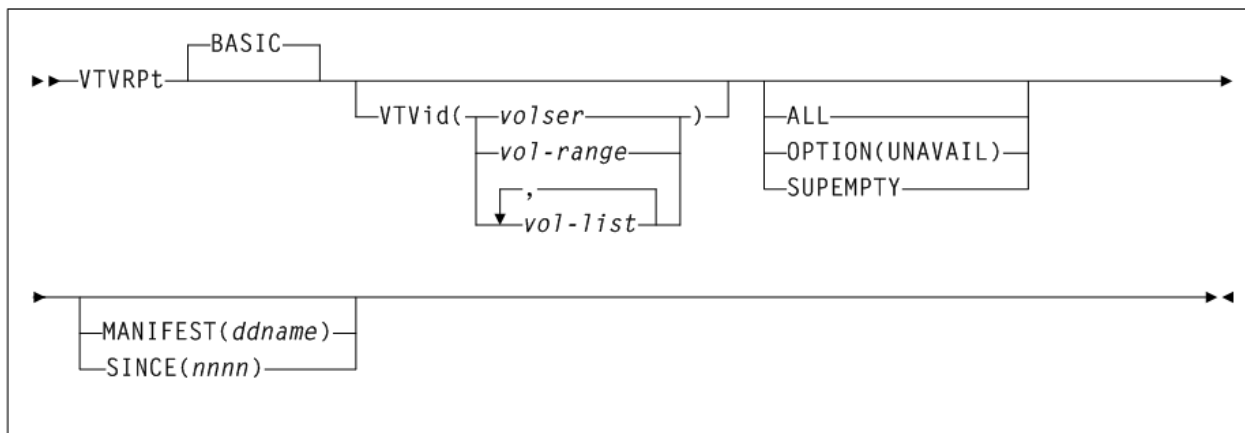
説明

VTVRpt BASIC コマンドは、基本的な VTV レポートを生成します。

構文

図3.184「VTVRPT BASIC の構文」は、VTVRPT BASIC コマンドの構文を示しています。

図3.184 VTVRPT BASIC の構文



パラメータ

図3.184「VTVRPT BASIC の構文」に示すように、VTVRPT BASIC コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTVID(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、レポート対象の VTV を指定します。VTV を指定しない場合は、VSM システム内のすべての初期化済み VTV がレポートに含まれます。VTCS が VTV を少なくとも 1 回使用している場合、その VTV は初期化されています。

volser、vol-range、または vol-list は、1 つ以上の VTV の volser を示します。

ALL

オプションで、すべての VTV (初期化されていないボリュームも含む) について報告するように指定します。ALL を指定しない場合は、初期化されている VTV のみが報告されます。

OPTION(UNAVAIL)

オプションで、使用不可の VTV (オフライン VTSS 内の VTV) についてのみ報告するように指定します。レポートでは、使用不可の VTV だけが次の 3 つのセクションに一覧表示されます。**使用不可で VTD にマウント済み、使用不可で VTSS に常駐、使用不可で VTSS に常駐しフェンシングあり。**

SUPEMPTY

オプションで、空の VTV の出力を抑制します。

VTV レポートには、データを含んでいない VTV またはフェンシングされている VTV の詳細は出力されません。 *SUPEREMPTY* は、 *ALL* および *OPTION(UNAVAIL)* と相互に排他的です。

MANIFEST(ddname)

オプションで、レポートの生成に使用されるマニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。

ddname は、マニフェストファイルの DD 名を示します。マージされた 1 つのマニフェストファイルを指定することも、複数のマニフェストファイルを指定することもできます。 *MANIFEST* は *SINCE* と相互に排他的です。

SINCE(nnnn)

オプションで、時間を分単位で指定します。指定の時間以内にアクセスされた VTV のみが処理されます。

nnnn は時間を分単位で示し、範囲は 1 から 9999 です。 *SINCE* は *MANIFEST* と相互に排他的です。

VTV レポート (基本)

次の例は、 *VTVRpt BASIC* コマンドによって生成される VTV レポートです。

例3.58 VTVRpt BASIC レポート

```

SLUADMIN (7.2.0)   STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
SSYS=HSCI        PAGE 00002
TIME 15:50:09    VTCS VTV REPORT
DATE 2015-06-17
SLS1315I HSC1.V70EC21.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET

SLUADMIN (7.2.0)   STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
SSYS=HSCI        PAGE 00003
TIME 15:50:09    VTCS VTV REPORT
DATE 2015-06-17
VTV              SIZE  COMP <----CREATION----> <--LAST USED--> MGR SCR REPL  MGMT
MAX
VOLSER          (MB)   % DATE      TIME      DATE      TIME  RES IMP EXPT CLASS   MVC1  MVC2  MVC3
MVC4   VTV  VTSSNAME
A00240          66.4   85 2010MAY22 16:27:44 2010MAY22 16:57 R - - - -  TRACE
   4.0 VTSS92
A00241          14.0    0 2010MAY21 13:02:30 2010MAY22 07:48 - M - - -  MGMT2CP 702972
   0.4 VTSS90
A00406          14.0    0 2010MAY21 13:03:50 2010MAY22 08:45 - M - - -  EXHPDM  700486
   4.0 VTSS90
...
X50000          2,430.0  0 2009NOV18 09:04:18 2009NOV18 09:07 R - - I - PE EEXPORT
   4.0 VTSS91
X50047           280.0  96 2009DEC03 14:29:35 2010APR30 06:48 R M - I - PE QUADYES 700483 700491 700494
700498 4.0 VTSS91
X50048           280.0  96 2009DEC03 14:29:41 2010MAY27 21:06 - M - I -  QUADYES 702979 700492 700497
700499 4.0 VTSS91
X50060           0.0    0                                - - S I -

```



```

X50066      280.0  96 2009DEC03 14:56:17 2010MAY27 21:06 - M - I - DLVTVYES 702978
  4.0 VTSS92
X50067      42.0   0 2010JAN21 11:28:55 2010JAN21 11:28 R - - I - EEXPORT
  4.0 VTSS91
Y50000      4.8   0 2009NOV20 09:59:52 2009DEC18 11:56 R - - - - E OTHERDIR
  0.4 VTSS91
Y50008     1,260.0 75 2009NOV20 09:59:56 2010MAY27 21:09 - M - - - E OTHERDIR 702978
  0.4 VTSS92
Y50184      578.6  34 2010FEB02 22:25:27 2010MAY22 08:42 - M S - - APOOL   702972
  0.4 VTSS90
485434 INITIALIZED VTVS PROCESSED

116566 NON-INITIALIZED VTVS PROCESSED

SLS0155I CONDITION CODE FOR UTILITY FUNCTION IS 0

```

フィールド

次のリストは、*VTVRPt* または *VTVRPt BASIC* コマンドによって生成されるレポートのフィールドについて説明しています。

VTV Volser

VTV volser。

Size (MB)

VTV の非圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポートが実行されたときに VTV がマウントされたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示される場合は、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

Comp %

達成された VTV の圧縮率。これは、VTV の非圧縮サイズのパーセンテージとして表された、VTV の非圧縮サイズと圧縮サイズの違いです。たとえば、100M バイトの VTV が 40M バイトに圧縮された場合、圧縮率は 60% と表示されます。0% の圧縮は、VTV 上で圧縮が不可能であったことを示します。

Creation Date および Time

VTV が作成された日付と時間。

Last Used Date and Time

VTV が最後に使用された日付と時間。この日付と時間の値は、VTV のマウント、移行、リコール、またはスクラッチが正常に完了することによって更新されます。

Mgr/Res

VTV のコピーのステータスを示します。下の列内にフラグがない場合は、この TapePlex 内には VTV の最新のコピーがないことを示します。

- 左側の列の *R* は、VTSS に常駐する VTV のコピーがあることを示します。
- 右側の列の *M* は、VTV の MVC コピーが少なくとも 1 つあることを示します。代わりに、この列に *c* が含まれている場合、VTV は統合もされています。

Scr/Imp

VTV の使用可否を示します。

- 左側の列の **s** は、VTV がスクラッチされた状態であることを示します。VTV がリモート TapePlex からインポートされたものでもある場合は、VTV をスクラッチマウント用を選択することはできません。
- 右側の列の **I** は、VTV が別の TapePlex からインポートされたものであることを示します。インポートされた VTV は変更できません。
- 左側の列の **o** は、VTV に部分的な (ライトワンス) **VOLSAFE** 保護が適用されていることを示します。
- 左側の列の **A** は、VTV に完全な **VOLSAFE** 保護が適用されていることを示します。

Repl/Expt

VTV のレプリケーションまたは電子エクスポートのステータスを示します。常駐でない VTV には、レプリケーションの要件はありません。

左側の列では、次のステータスのいずれかになります。

PR

VTV は現在、レプリケーションのためにキューに入れられています。

SR

VTV のレプリケーションが開始されました。

R

レプリケーションが完了し、現在常駐している VTSS のパートナー内に VTV の別のコピーが常駐しています。

右側の列では、次のステータスのいずれかになります。

PE

VTV の電子エクスポートが必要です。

SE

VTV の電子エクスポートが開始されました。

FE

VTV の電子エクスポートがリモート TapePlex によって拒否されました。

E

電子エクスポートが完了し、現在常駐している VTSS のパートナー内に VTV の別のコピーが常駐しています。

ME

1 つの TapePlex へはこの VTV の電子エクスポートが正常に完了しましたが、別の TapePlex へはこの VTV の電子エクスポートが失敗しました。

VTVRPT COPIES では、2 つの TapePlex の名前が表示され、どちらが成功しどちらが失敗したかが示されます。

MGMT Class

指定された VTV の管理クラスの名前。

MVC1、MVC2、MVC3、MVC4

VTV が含まれている MVC (移行と統合の両方)。これらのすべてのフィールドが空である場合、この VTV は移行も統合もされていません。これらのフィールドの 1 つ以上に MVC volser が表示された場合、VTV はこれらの各 MVC に移行されています。

Max VTV

VTV の最大サイズ (G バイト単位) (.4、.8、2、または 4)。

VTSSname

この VTV が常駐している VTSS、または、この VTV が移行されている場合は、その VTSS が最後に存在した VTSS。このフィールドが空である場合は、この VTV が存在しない (作成も使用もされていない、スクラッチされた、削除された) か、または手動でインポートされました。

VTVRpt COPIES

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

アクティブな HSC は必要ありません

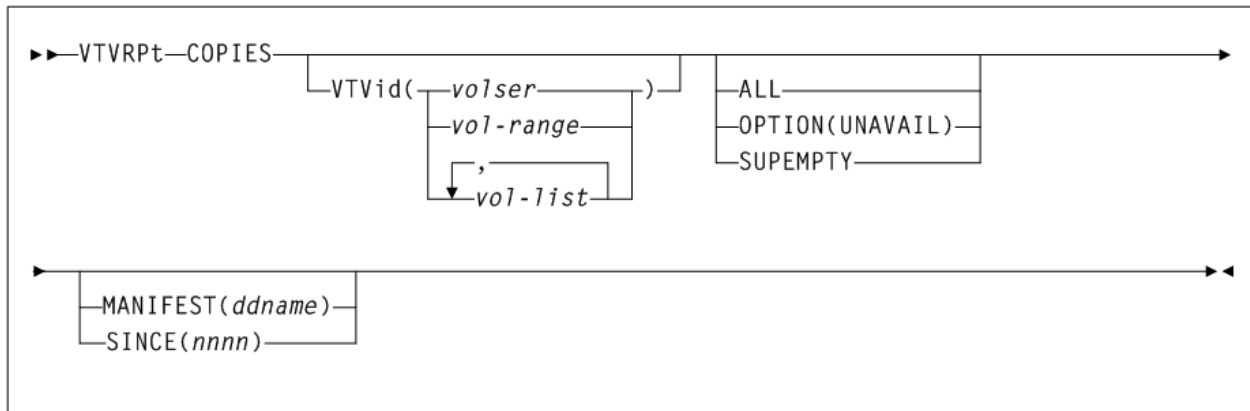
説明

VTVRpt COPIES コマンドは、VTV の現在のコピーすべてについてその常駐場所を示す VTV レポートを生成します。

構文

図3.185 「*VTVRpt COPIES* の構文」は、*VTVRpt COPIES* コマンドの構文を示しています。

図3.185 VTVRpt COPIES の構文



パラメータ

図3.185「VTVRpt COPIES の構文」に示すように、VTVRpt COPIES コマンドには次のパラメータが含まれます。

VTVid(volser、vol-range、または vol-list)

オプションで、レポート対象の VTV を指定します。VTV を指定しない場合は、VSM システム内のすべての初期化済み VTV がレポートに含まれます。VTCS が VTV を少なくとも 1 回使用している場合、その VTV は初期化されています。

volser、vol-range、または vol-list は、1 つ以上の VTV の volser を示します。

ALL

オプションで、すべての VTV (初期化されていないボリュームも含む) について報告するように指定します。ALL を指定しない場合は、初期化されている VTV のみが報告されます。

OPTION(UNAVAIL)

オプションで、使用不可の VTV (オフライン VTSS 内の VTV) についてのみ報告するように指定します。レポートでは、使用不可の VTV だけが次の 3 つのセクションに一覧表示されます。**使用不可で VTD にマウント済み、使用不可で VTSS に常駐、使用不可で VTSS に常駐しフェンシングあり。**

SUPEMPTY

オプションで、空の VTV の出力を抑制します。

VTV レポートには、データを含んでいない VTV またはフェンシングされている VTV の詳細は出力されません。SUPEMPTY は、ALL および OPTION(UNAVAIL) と相互に排他的です。

MANIFEST

オプションで、レポートの生成に使用されるマニフェストファイルの入力 DD 名を指定します。

ddname は、マニフェストファイルの DD 名を示します。マージされた 1 つのマニフェストファイルを指定することも、複数のマニフェストファイルを指定することもできます。*MANIFEST* は *SINCE* と相互に排他的です。

SINCE(nnnn)

オプションで、時間を分単位で指定します。指定の時間以内にアクセスされた VTV のみが処理されます。

nnnn は時間を分単位で示し、範囲は 1 から 9999 です。*SINCE* は *MANIFEST* と相互に排他的です。

VTV レポート (COPIES)

次の例は、*VTVRPT COPIES* コマンドによって生成される VTV レポートです。

例3.59 VTVRPT COPIES レポート

```

SLUADMIN (7.2.0)   STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
  SSYS=HSCI       PAGE 00002
TIME 15:50:43     VTCS VTV REPORT
  DATE 2015-06-17
SLS1315I HSC1.V70EC21.CDS WAS SELECTED AS THE PRIMARY CONTROL DATA SET

SLUADMIN (7.2.0)   STORAGETEK ENTERPRISE LIBRARY SOFTWARE UTILITY
  SSYS=HSCI       PAGE 00003
TIME 15:50:43     VTCS VTV REPORT
  DATE 2015-06-17
VTV              SIZE  MGMT          <--VTSS COPIES-->  OWNING    <-----MVC COPIES AND LOCATIONS----->  <-
EXPORT COPIES-->
VOLSER           (MB)  CLASS    SCR PRIMARY  REPLICA   TAPEPLEX  MVC1/3  ACS          MVC2/4  ACS
TAPEPLEX        TAPEPLEX

00240            10.5  TRACE    -  VTSS92    -          -
A00241           14.3  MGMT2CP  -  -         -          -          702972  00
A00406           14.1  EXHPDM   -  -         -          -          700486  00
...
X50000  2,462.3  EEXPORT  -  VTSS91    -          EC20REM
X50047           11.4  DLVTVYES -  VTSS91    -          EC20REM  700483  00
X50048           11.4  DLVTVYES -  -         -          EC20REM  702979  00
X50060  NO COPY  DLVTVYES -  -         -          SEC20REM
X50066           11.4  DLVTVYES -  -         -          EC20REM  702978  00
X50067           42.5  EEXPORT  -  VTSS91    -          EC20REM
Y50000           13.3  OTHERDIR -  VTSS91    -          -
  EC20REM
Y50008           316.6 OTHERDIR -  -         -          -          702978  00
  EC20REM
Y50184           385.2 AP00L    S  -         -          -          702972  00

485434 INITIALIZED VTVS PROCESSED

```

116566 NON-INITIALIZED VTVS PROCESSED

SLS0155I CONDITION CODE FOR UTILITY FUNCTION IS 0

フィールド

次のリストは、VTVRpt COPIES コマンドによって生成されるレポートのフィールドについて説明しています。

VTV Volser

VTV volser。

Size (MB)

VTV の圧縮サイズ (M バイト)。<MOUNT> は、レポートの実行時に VTV がマウントされていたことを示します。<FENCED> は、VTV の状態が不明であることを示します。<FENCED> が表示される場合は、Oracle StorageTek ソフトウェアサポートに連絡してください。

MGMT Class

指定された VTV の管理クラスの名前。

Scr

VTV がスクラッチされた状態であるかどうかを示します。この列の S は、VTV がスクラッチされた状態であることを示します。

Primary

VTSS に常駐する VTV のプライマリコピーが含まれている VTSS の名前。このフィールドが空白の場合、現在 VTSS に常駐する VTV のコピーはありません。

Replica

VTV のレプリカコピーが含まれている VTSS の名前。このフィールドが空白の場合、現在 VTSS に常駐する VTV のレプリカコピーはありません。

Owning Tapeplex

この VTV の所有権を持っている TapePlex の名前。このフィールドが空白の場合、VTV は別の TapePlex によって所有されており、通常のように処理できます。このフィールドが設定されている場合、VTV は別の TapePlex からインポートされたもので、その内容は変更できません。

MVC1, MVC2, MVC3, MVC4

VTV が含まれている MVC (移行と統合の両方)。これらのすべてのフィールドが空である場合、この VTV は移行も統合もされていません。各 MVC volser の横にある番号は、MVC の ACS 位置です。これが -- に設定されている場合、MVC はライブラリ常駐ではありません。

Export Tapeplex

VTV のコピーがエクスポートされた TapePlex の名前。これらの TapePlex 内のコピーでは、VTV はインポートされたものとして表示され、所有している TapePlex の名前が表示されます。これらの TapePlex の一部からさらに別の場所にコピーが転送されている可能性があるため、このリストは完全ではありません。

ん。名前の横にあるアスタリスク (*) は、ターゲットの TapePlex によって拒否されたエクスポートを示します。

VVAUDIT

インタフェース:

- ユーティリティーのみ
- UUI サポート: はい

サブシステムの要件:

BASE または FULL サービスレベルにあるアクティブな HSC

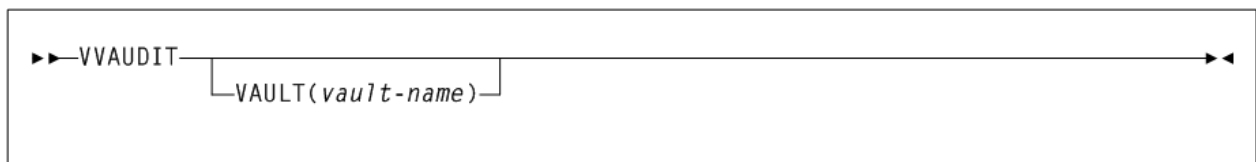
説明

VVAUDIT コマンドは、ボールド割り当てマップをボールドボリュームのレコードと同期します。マップ内のスロットが割り当てられていることを示している場合は、ボールドボリュームレコードが検索されます。そのスロット番号がどのボールドボリュームレコードにも見つからない場合、スロットは解放されます。

構文

図3.186 「VVAUDIT コマンドの構文」は、VVAUDIT コマンドの構文を示しています。

図3.186 VVAUDIT コマンドの構文



パラメータ

図3.186 「VVAUDIT コマンドの構文」に示すように、VVAUDIT コマンドには次のパラメータが含まれます。

VAULT(vault-name)

オプションで、指定した vault-name を監査します。VAULT が指定されていない場合は、すべてのボールドが監査されます。

vaultname はボールドの名前を示します。

Warn

インタフェース:

- コンソールまたは *PARMLIB* のみ
- UUI サポート: いいえ

サブシステムの要件:

BASE または *FULL* サービスレベルにあるアクティブな HSC

説明

Warn コマンドは、スクラッチ警告のしきい値を設定します。

しきい値を設定すると、スクラッチの数が指定されたしきい値を下回ったときに警告メッセージが発行されます。*Warn* コマンドでは、設定するしきい値の範囲を絞り込むためのパラメータを指定できます。

- *SUBpool*、*MEDIA*、および *RECTech* が指定されていない場合、しきい値は、指定された ACS または LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- *SUBpool* は指定されているが *MEDIA* および *RECTech* は指定されていない場合、しきい値は、指定されたサブプールおよび ACS または LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- *MEDIA* および *RECTech* は指定されているが *SUBpool* は指定されていない場合、しきい値は、指定されたメディアタイプ、記録技法、および ACS または LSM のスクラッチボリュームに適用されます。
- *SUBpool*、*MEDIA*、および *RECTech* が指定されている場合、しきい値は、ACS または LSM 内の指定されたサブプール、メディアタイプ、および記録技法のスクラッチボリュームに適用されます。

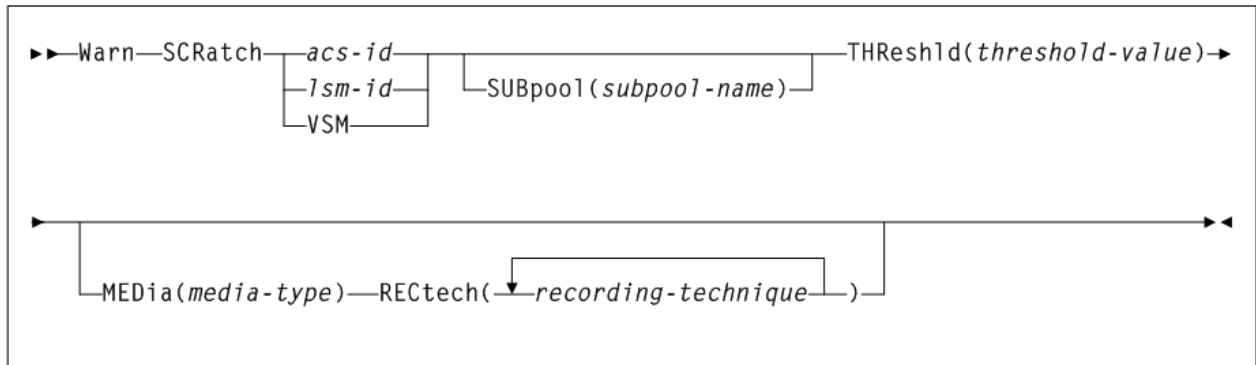
注:

現在の *Warn* しきい値を表示するには、*Display THReshld* コマンドを使用します。詳細は、「[Display THReshld](#)」を参照してください。

構文

図3.187 「Warn コマンドの構文」は、*Warn* コマンドの構文を示しています。

図3.187 Warn コマンドの構文



パラメータ

図3.187 「Warn コマンドの構文」 に示すように、*warn* コマンドには次のパラメータが含まれます。

SCRatch

スクラッチしきい値を設定することを示します。

acs-id

しきい値を変更する ACS。ACSid は 00-99 の 10 進数値です。

lsm-id

しきい値を変更する LSM。LSMid は、ACSid と LSM 番号で構成されます。LSMid の形式は *AA:LL* で、*AA* は ACSid (10 進数 00-99) を示し、*LL* は LSM 番号 (10 進数 00-99) を示します。

VSM

しきい値を仮想ボリュームのサブプールに対してのみ設定するように指定します。*acs-id* または *lsm-id* も指定されている場合、VSM は許可されません。

SUBpool(*subpool-name*)

オプションで、サブプールを指定することを示します。このパラメータはオプションです。

subpoolname は、サブプールの名前を示します。

注:

スクラッチサブプール名は、*SCRPOOL* 制御文で指定されます。詳細は、Oracle の ELS ドキュメント『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。

THReshld(*threshold-value*)

しきい値を変更することを示します。

thresholdvalue は、HSC で警告メッセージが発行されない、スクラッチボリュームの許容最小数を示します。指定できるしきい値は、0 から 99,999 の範囲の 10 進数です。

警告間隔の値は 5 分に事前設定されています。

注:

ACS または LSM 内のスクラッチボリュームの数がしきい値を下回ると、システムは警告メッセージを発行します。

MEDia(media-type)

オプションで、しきい値のメディアタイプを指定します。*MEDia* を指定する場合は、*RECtech* も指定する必要があります。

media-type は、メディアタイプを示します。

有効な *media-type* 値のリストについては、[付録A「MEDia、RECtech、および MODEL の値」](#)を参照してください。

RECtech(recording-technique)

オプションで、しきい値の記録技法を指定します。*RECtech* はテープ面にデータトラックを記録するために使用する方法を示します。*RECtech* を指定する場合は、*MEDia* も指定する必要があります。

記録技法のリストを入力できますが、それらはコンマで区切る必要があります。

recording-technique は、記録技法を示します。

有効な *recording-technique* 値については、[付録A「MEDia、RECtech、および MODEL の値」](#)を参照してください。

注:

リストは、そこから選択が行われる汎用的なプールを指定します。暗黙の優先順位はありません。

第4章 SMC ユーティリティー

この章では、次の SMC ユーティリティーについて説明します。

- 統合ユーザーインタフェース (*SMCUUUI*)

このユーティリティーを使用すると、HSC 統合ユーザーインタフェース (UI) コマンド、VTCS コマンド、SMC コマンドをバッチジョブから発行できます。

- *POLicy* および *TAPEREQ* バッチテストユーティリティー (*SMCUTRQ*)

このユーティリティーを使用すると、*POLicy* および *TAPEREQ* 検索動作をテストできます。

- テープ管理抽出ユーティリティー (*SMCUDBX*)

このユーティリティーは、SMC クライアントホストと HSC CDS との間のスクラッチ同期をサポートします。

- UUI シミュレーションユーティリティー (*SMCUSIM*)

このユーティリティーを使用すると、テスト環境で SMC UUI コマンドを発行できます。SMC コマンド設定、テープポリシー、割り当てユーザー出口に対する変更は、本番環境に適用する前にテストでき、既存の SMC クライアントおよび HSC サーバーに影響を与えません。

- トレースフォーマットユーティリティー (*SMCUGTF*)

このユーティリティーは、SMC クライアントホストと HSC CDS との間のスクラッチ同期をサポートします。

- VSM コンソール SMF オフロードユーティリティー (*SMCUSMF*)

このユーティリティーを使用すると、VSM コンソールサーバーから SMF レコードをオフロードできます。

HSC および VTCS ユーティリティーとは異なり、すべての SMC ユーティリティーは、スタンドアロンユーティリティープログラムとしてパッケージ化されています。

す。SMC オペレータコマンドの使用時は SMC ユーティリティは起動されません。

SMC ユーティリティのリターンコードおよびメッセージ

次の表では、SMC ユーティリティのリターンコードについて説明します。

表4.1 SLUADMIN リターンコード

リターンコード	説明
0	すべてのユーティリティ機能は正常に完了しました。
4	少なくとも1つのユーティリティ機能で障害が発生したが、そのユーティリティ機能、または後続のユーティリティ機能は終了しませんでした。
8	少なくとも1つのユーティリティ機能で、そのユーティリティ機能の続行を妨げるエラーが発生したが、制御文で表された後続のユーティリティ機能はすべて試行されました。
12	ユーティリティ機能の開始を妨害したか、アクティブなユーティリティ機能を終了し、その後のユーティリティ機能の処理を妨害した、いずれかのエラーが検出されました。

SMC ユーティリティで返される可能性のある SMC メッセージのリストについては、『ELS メッセージおよびコード』を参照してください。これらのメッセージは、SMCU 接頭辞で識別されます。

統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUI)

SMCUUI ユーティリティを使用すると、バッチジョブから SMC および HSC の統合ユーザーインタフェース (UI) コマンドや VTCS 要求を発行できます。これらのコマンドは、ローカルまたはリモートの HSC TapePlex にルーティングできます。

UI コマンドでは、次のようなさまざまな出力を受信できます。

- プレーンテキスト出力

このタイプの出力は、TEXTOUT に書き込まれ、HSC や VTCS コマンドまたはレポートユーティリティで生成される通常の出力に相当します。HSC または

VTCS レポートでプレーンテキスト出力が要求された場合、UUI はレポートの見出しを生成しません。

- 構造化 XML

このタイプの出力は、*XMLOUT* に書き込まれます。構造化 XML は、XML ヘッダータグ、XML データタグ要素、および XML データ要素の内容を含む整形 XML データストリームです。SMC、HSC、および VTCS XML タグの名前およびタイプの完全なリストについては、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

- カンマ区切り値 (CSV)

この出力タイプはオプションであり、*CSV* コマンドが指定されている場合にのみ生成されます。詳細は、「[CSV コマンド](#)」を参照してください。

このタイプの出力は、*CSVOUT* に書き込まれます。XML データタグ名の入力テンプレートは、特定の要求に対応する *CSVOUT* の形式を定義します。それぞれの要求に対する出力データでは、要求された XML データタグのコンマ区切りリストを含む *CSV* ヘッダー行のあとに、*CSV* 詳細行があります。*CSV* の各詳細行には、要求された XML データタグごとに 1 つのエントリがコンマで区切られて含まれています。このタイプの出力は、スプレッドシートまたはカスタマイズされたレポートライターへの入力に簡単に流用できます。*CSV* を指定するための形式の詳細は、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

受信する出力のタイプは、*SMCUUI* ユーティリティを実行するために JCL 内で定義されたデータセット定義文 (DD) で制御されます。

注:

- 通常、*CSV* 出力に対してエラーメッセージは生成されません。UUI プロセスで生成されたエラーメッセージを表示するには、*TEXTOUT* または *XMLOUT* DD 文のどちらかを含める必要があります。
- *SMCUUI* ユーティリティが、*SORT* を含む可能性のあるユーティリティ機能 (*VOLRPT*、*MVCRPT* など) を、リモート TapePlex に送信している場合は、単一の SMC HTTP サーバーで同時に実行するこれらのジョブの数を制限するよう注意する必要があります。正確な数は、HTTP サーバーを稼働している SMC の領域サイズと、処理されるデータ量により異なります。

JCL の例

次に、*SMCUUI* ユーティリティを実行する JCL の例を示します。

例4.1 SMCUUI ユーティリティを実行する JCL

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUUI,PARM='pgmparms'
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//STDOUT DD DSN=yourstd.printout.dataset,DISP=SHR
//UUIIN DD *
    CSV and uui commands
//*****
/* Specify at least one of the following output data sets:      *
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

パラメータ

JCL の例では、次の SMCUUI ユーティリティパラメータを *pgmparms* に指定できます。

SSYS(subsystem-name)

SMC サブシステム名を指定します (1 から 4 文字の長さ)。

TAPEPlex(name)

UUI コマンドの送信先の SMC TapePlex の名前を指定します。省略した場合、最初に見つかったアクティブな TapePlex が使用されます。

入力コマンドが TapePlex ではなく SMC に直接発行されるよう指定には、*TAPEPlex(SMC)* を使用します (*SMC Display Volume* や *Display DRive* コマンドなど)。

XMLCASE

XML および CSV 出力におけるアルファベットのデータフィールドの大文字と小文字を指定します。有効な大文字と小文字の書式は次のとおりです。

- *M* は大文字と小文字の混在を示します。これがデフォルトです。
- *U* は大文字を示します。

XMLDate(format)

XML および CSV 出力でのデータフィールドの書式を指定します。有効な日付書式は次のとおりです。

- *YYYYMONDD*
- *YYYY-MM-DD*
- *YYYY-MON-DD*
- *HEXSTCK* (16 進数文字 *STCK* 書式)

デフォルトの書式は *yyyymondd* です。たとえば、*2005Oct14* です。

NOHDR

オプションで、*STDOUT* および *TEXTOUT* レポートの見出しとページ区切りキャリッジ制御が生成されないよう指定します。*NOHDR* と *LINECNT* は相互に排他的です。

LINECNT

オプションで、*STDOUT* および *TEXTOUT* レポートのページ区切り行数設定を指定します。*LINECNT* と *NOHDR* は相互に排他的です。

nn はページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注:

STDOUT レポート見出しおよびページ区切りの設定は、*EXEC* 文のプログラムパラメータでのみ指定できます。*TEXTOUT* レポートの見出しの設定は、最初に、*EXEC* 文のプログラムパラメータで指定されますが、あとから *UIIN* コマンドストリームで *TEXTOUT UII* 制御文を指定して変更できます。

例:

次の図では、*EXEC* 文のプログラム *PARM='LINECNT(55)'* が、*STDOUT* と *TEXTOUT* の両方の出力に対し、レポートのページ区切りをページあたり 55 行に設定しています。

ただし、*UIIN* コマンドストリームの *UII* コマンド *TEXTOUT NOHDR* では、レポートヘッダーおよびページ区切りを無効にするように、*TEXTOUT* レポートパラメータが変更されています。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUI,PARM='LINECNT(55)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
//STDOUT DD DISP=SHR,DSN=your.stdout.dataset
//UIIN DD *
TEXTOUT NOHDR
UII commands
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

NOCC

オプションで、プリンターのキャリッジ制御を含めないよう指定します。このオプションを選択した場合、入力されていないページには、指定した *LINECNT* に合わせ空白行が付加されます。

必須データセット定義 (DD) 文

このセクションでは、データセットについて説明します。

UUIIN データセット

UUIIN データセット定義を指定する必要があります。UUIIN データセットには次の内容が含まれます。

- SMCUUI ユーティリティの制御文
- SDD コマンド (「[SDD コマンド](#)」を参照)。
- SMC UII コマンド
- HSC UII コマンド
- VTCS PGMI 要求

ネイティブ SMC UII コマンドには次のものがあります。

- *Display DRive*
- *Display Volume*
- *POLicy*
- *SIMulate*

サポートされている HSC UII コマンドおよび VTCS PGMI 要求のリストについては、『[ELS プログラミングリファレンス](#)』を参照してください。

構文規則

次の構文規則が適用されます。

- 入力は 80 バイトのカードイメージにする必要があります。
- 実際のコマンド入力を含むことができるのは、80 バイトのカードイメージの 1 - 72 列のみです。73 - 80 の列は、必要に応じて順序番号として使用できます。
- 1 - 72 列の空白以外の最後の文字が「+」である場合、論理コマンドは次の物理カードでも継続します。
- コメントは「/*」で始まり (列 2 以降)、「*/」で終わります。
- 最大の論理コマンド長は 32000 バイトです。

制御文

ユーティリティ制御文を使用すると、*TEXTOUT* 出力のレポートページ区切りが可能になり、後続の SMC、HSC、および VTCS の UII および PGMI コマンドに合わせてターゲットの TapePlex を変更できます。

PLEXDest

オプションで、後続のコマンドの送信先 TapePlex を、指定した *tapeplex-name* に設定します。*PLEXDest* 制御文の実行後、後続の SMC、HSC、または VTCS コマンドの実行中に通信エラーが発生すると、別の *PLEXDest* 制御文が実行されるまで、後続の SMC、HSC、VTCS コマンドすべてがバイパスされます。

tapeplex-name は、後続のコマンドに対するターゲットシステムの TapePlex 名です。

「SMC」を指定した場合、後続のコマンドはすべて SMC UII コマンドであるとみなされ、シミュレートされた SMC 環境に送信されます。

有効な HSC TapePlex (SMC *TAPEplex* コマンドを通じて定義) が指定された場合、後続のコマンドはすべて HSC または VTCS コマンドであるとみなされ、シミュレートされた SMC 環境を通じて、指定の *tapeplex-name* に送信されます。

TEXTOUT

オプションで、*TEXTOUT* 出力のレポートページ区切りパラメータを設定します。エラーが *TEXTOUT* コマンドで発生した場合、正しい *TEXTOUT* コマンドが行われるまで、後続の UII コマンドはすべてバイパスされます。

- *NOHDR* はオプションで、*TEXTOUT* レポートの見出しとページ区切りキャリッジ制御が生成されないよう指定します。*NOHDR* と *LINECNT* は相互に排他的です。
- *LINECNT(nn)* はオプションで、*TEXTOUT* レポートのページ区切り行数設定を指定します。*LINECNT* と *NOHDR* は相互に排他的です。

nn はページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。

注:

- *STDOUT* レポートの見出しとページ区切りの設定は、EXEC 文のプログラムパラメータでのみ指定できます。*TEXTOUT* レポートの見出しの設定は、最初に、EXEC 文のプログラムパラメータで指定されますが、あとから *UIIIN* コマンドストリームで *TEXTOUT* UII 制御文を指定して変更できます。
- 単一の UII コマンドの前に、複数の *TEXTOUT* 文が入力された場合、最後の *TEXTOUT* 文が *TEXTOUT* レポートのページ区切りを制御します。
- *PLEXDest* および *TEXTOUT* コマンドを *CSV* コマンドとともに指定して、送信先 TapePlex と、後続の UII コマンドの *CSV* および *TEXTOUT* 出力特性を変更できます。「[CSV コマンド](#)」を参照してください。

次に、*SMCUUI* パラメータの指定例を示します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUUI
//UUIIN DD *
PLEXDEST SMC                /* Statement #1 */
D DRIVE                      /* Statement #2 */
PLEXDEST HSCN               /* Statement #3 */
DISPLAY SCRATCH             /* Statement #4 */
PLEXDEST HSCQ               /* Statement #5 */
DISPLAY SCRATCH             /* Statement #6 */
...other JCL statements
```

この例は、次のように解釈されます。

- *Statement #1* は、後続のコマンドの送信先をローカル SMC サブシステムに設定します。
- *D DRIVE Statement #2* はローカル SMC サブシステムに送信されます。
- *Statement #3* は、後続のコマンドの送信先 TapePlex を TapePlex HSCN にリセットします。
- *DISPLAY SCRATCH Statement #4* は HSCN に送信されます。
- *Statement #5* は、後続のコマンドの送信先 TapePlex を HSCQ にリセットします。
- 最後に、*DISPLAY SCRATCH Statement #6* が HSCQ に送信されます。

次に、*SMCUUUI* パラメータの別の指定例を示します。

```
//yourstd JOB card//STEP EXEC PGM=SMCUUUI...other JCL statements//UUIIN DD *
          PLEXDEST HSCN                /*Statement #1 *//CSV ...csv parameters
          /*Statement #2 *//SCRATCH VOL ACT001-ACT002          /*Statement #3 */
SCRATCH VOL PAY001-PAY002          /*Statement #4 *//SCRATCH VOL REC001-REC002          /
/*Statement #5 *//PLEXDEST HSCQ                /*Statement #6 *//SCRATCH VOL Q00001-
Q00002          /*Statement #7 *//CSV ...csv parameters          /*Statement #8 */
DISPLAY SCRATCH          /*Statement #9 *//...other UUI commands...other JCL
statements
```

この例は、次のように解釈されます。

- *Statement 1* は、後続のコマンドの送信先 TapePlex を TapePlex HSCN に設定します。

HSCN が利用できない場合、または文 3-5 の処理中に通信エラーが発生した場合、次の *PLEXDest* コマンドが行われるまで (この例では文 6)、後続の UUI コマンドはバイパスされます。

- 文 2 は、後続の UUI コマンドの *csv* 出力パラメータを設定します。

CSV コマンドでエラーが発生した場合、後続の有効な CSV コマンドが読み取られるまで、後続の UUI コマンドはすべてバイパスされます。この場合、*statement #2* の CSV コマンドが無効であれば、文 3-5 がバイパスされるだけでなく、*statement #7* もバイパスされます。*Statement #6* はそのまま処理され、後続のコマンドを HSCQ に送信します。

- *Statement #8* は、*statement #9* で使用するよう新しい CSV 出力パラメータを設定します。

STDOUT データセット

STDOUT データセットは、SMCUUI ユーティリティが、各 UUI 要求の入力および最終完了コードを報告する場所です。STDOUT DD 文は必須ではありません。ただし、ユーティリティエラーが発生しないように、この文を含めることをお勧めします。

出力データセット定義 (DD) 文

次のように、XMLOUT、CSVOUT、または TEXTOUT 出力データセット定義文から少なくとも 1 つを指定する必要があります。

- XMLOUT

XMLOUT データセットは、次の例に示すように、SMCUUI ユーティリティが UUIIN コマンドに対応する構造化 XML 出力を出力する場所です。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUUI
...
//UUIIN DD *
SCRATCH VOL(400720)
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
...
```

XMLOUT DD には次の出力が含まれます。

```
<scratch request>
```

```
<header>
<hsc_version>7.2.0</hsc_version>
<date>2008Apr19</date>
<time>13:54:34</time>
<host_name>MSPB</host_name>
</header>
<volume_data>
<volser>400720</volser>
<result>success</result>
<reason>SLS0167I Volume 400720 successfully added to library as scratch
</reason>
</volume_data>
</scratch_request>
```

- **CSVOUT**

CSVOUT データセットは、**SMCUUI** ユーティリティが、対応する **CSV** 形式を指定した、要求された **UIIN** コマンドに対して、**CSV** 出力を書き込む場所です。コンマ区切り値 (**CSV**) 仕様の詳細は、『**ELS** プログラミングリファレンス』を参照してください。最大の論理 **CSV** 入力長は 4096 バイトです。

- **TEXTOUT**

TEXTOUT データセットは、**SMCUUI** ユーティリティがプレーンテキスト **UII** 応答を出力する場所です。これは、ページおよび列の見出しが生成されないという点を除き、対応する **SMC**、**HSC**、または **VTCS** コマンドから受信される出力や、**SLUADMIN** または **SWSADMIN** ユーティリティによって **SLSPRINT DD** に書き込まれる出力と同じです。このデータセットはオプションです

リモート **UII** 入力および出力

新しい **XAPI/UII** インタフェースは、リモート **UII** 入力および出力をサポートします。このサポートを有効にするには、**SDD** コマンドを **SMCUUI** ユーティリティに含めます。

注:

リモート **UII** 入力および出力は、**NCSCOMM** インタフェースを使用して要求することもできます。詳細は、『**ELS Programming Reference**』を参照してください。

リモート UUI 入力

データセットは、サーバーに常駐している必要はなく、クライアントからリモートサーバーに転送され入力されます。

リモート UUI 入力は、コマンド行以外のソースからの大量の入力データを必要とするコマンドに必要です。コマンドには、VTCS *CONFIG*、*IMPORT*、および *MERGMFST* が含まれます。

リモート UUI 出力

リモートコマンドは、サーバーに物理的に書き込まれるのではなく、要求側のクライアントに転送されて、そこで物理的に書き込まれる出力データセットを生成します。

リモート UUI 出力は、非テキスト、非 XML、非 CSV の出力データセットを生成するコマンドに必要です。コマンドには、VTCS *EXPORT* および *MERGMFST* が含まれます。

SDD コマンド

SDD コマンドは、その直後に続く「実際」の HSC または VTCS コマンドに関連付けられるように、入力または出力データセットを定義します。

次の例では、*SDD* コマンドは *IMPORT* コマンドに関連付けられていますが、後続の *VTVRPT* コマンドには関連付けられていません。

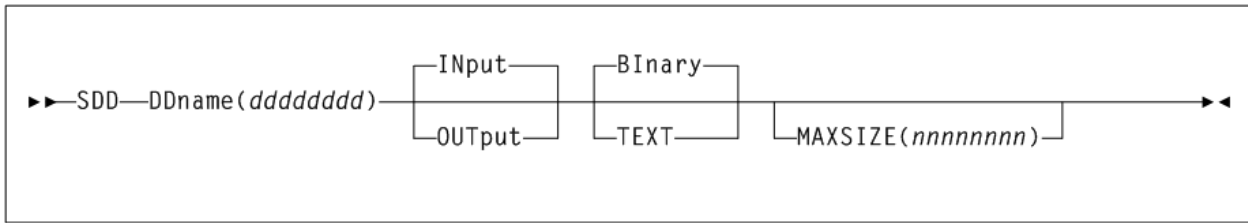
```
SDD DDNAME(MAININ) INPUT BINARY
IMPORT MANIFEST(MANIIN)
CSV FIELD(VOLSER,DATE_MIGRATED),BREAK(VTV_DATA)
VTVRPT VTV(SA2000-SA2999)
```

SDD コマンドは *SLUADMIN* または *SMCUUI* ユーティリティで使用できます。ただし、リモート UUI コマンドの実行は、*SMCUUI* ユーティリティのみがサポートしています。

構文

次の図は、*SDD* コマンドの構文を示しています。

図4.1 SDD コマンドの構文



パラメータ

DDname(dddddddd)

コマンド行以外の追加入力を含むか、コマンドの完了時に出力データを含む、JCL DD の名前。

INput|OUTput

オプションで、*DDname* パラメータで指定されるデータセットが入力データセットか、出力データセットかを指定します。

INput は、コマンドへの非コマンド行入力を追加するために、データセットが読み取られるよう指定します。*INput* も *OUTput* も指定されていない場合、これがデフォルトです。

OUTput は、コマンドによって生成される非 XML、非テキスト、非 CSV の出力にデータセットが書き込まれるよう指定します。

BInary|TEXT

オプションで、読み取られたり生成されるデータが、*Binary* (つまり非表示) 文字を含むか、*SLSIN TEXT* コマンドの形式になっているかを指定します。

TEXT を *INput* パラメータとともに指定した場合、入力データが *SLSIN* 形式にするよう指定します。最初の 72 文字のみが読み取られ、継続文字を使用できません。コメント文は、後続の HSC または VTCS には渡されません。

BInary も *TEXT* も指定されていない場合、*BInary* がデフォルトです。

注:

SDD 制御文を VTCS *CONFIG* コマンドに関連付ける場合、*TEXT* を指定する必要があります。

MAXSIZE(nnnnnnnn)

オプションで、入力または出力ファイルの最大サイズ (K 単位) を指定します。*MAXsize* を指定しない場合、最大サイズに制限はありません。

CONFIg コマンドの例

SDD コマンドを使用しない場合、VTCS *CONFIg* コマンドは、*SLUADMIN* ユーティリティでのみサポートされます。*SDD* コマンドを使用しない *SLUADMIN* では、*SLUADMIN CONFIg* は、*SLSIN* データセットの残りを読み取って、残りの入力カードが *CONFIg* 制御文であるとみなします。

SDD コマンドを使用すると、*SMCUUI* または *SLUADMIN* ユーティリティのどちらかの下で、VTCS *CONFIg* を指定できます。さらに、次の例に示すように、VTCS *CONFIG* コマンドのあとに、同じ入力ストリームでほかのコマンドを実行できます。

SLUADMIN:

```
//jobname job (account),programmer,REGION=0M
//S1 EXEC PGM=SLUADMIN,PARM=MIXED
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//*****
/* Optional UUI output definition DD(s) *
//*****
//SLSCSV DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//SLSXML DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//*****
/* SDD associated DD(s) *
//*****
//CONFIGIN DD DSN=your.config.dataset,DISP=SHR
//*****
/* Required SLUADMIN output and input DDS *
//*****
//SLSPRINT DD SYSOUT=A
//SLSIN DD *
SDD DDNAME(CONFIGIN) INPUT TEXT
.CONFIG CDSLEVEL(V61ABOVE)
DISPLAY CLINK
/*
```

```

SMCUUUI:

//jobname job (account),programmer,REGION=0M

//S1 EXEC PGM=SMCUUUI,PARM=MIXED

//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR

//*****

/* Specify as least one of the following output definitions *
//*****

//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR

//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR

//TEXTOUT DD SYSOUT=A

//*****

/* SDD associated DD(s) *
//*****

//CONFIGIN DD DSN=your.config.dataset,DISP=SHR

//*****

/* Required SMCUUUI input DD *
//*****

//UUIN DD *

SDD DDNAME(CONFIGIN) INPUT TEXT

CONFIG CDSLEVEL(V61ABOVE)

DISPLAY CLINK

/*

```

注:

- *CONFIGIN* データセットは、*CONFIG* コマンドが読み取られる前に読み取られ、実行可能な転送処理向けに内部でパッケージ化されます。*TEXT* パラメータを指定すると、*SLSIN* のフォーマットが内部パッケージングの一部として解決されます (つまり、「+」で連結した文が解決されます)。
 - *SDD* コマンドエラーが発生した場合 (つまり、*CONFIGIN DD* が JCL にない、またはデータセットを読み取れない場合)、後続の *CONFIG* 文はバイパスされます。
 - 上記のいずれかの例において、*SDD* コマンド *TEXT* パラメータは、*CONFIG* コマンドに関連付けられたときに必要になります。*SDD* コマンド *INPUT* パラメータはデフォルトであり、省略できます。
-

IMPORT コマンドの例

SDD コマンドを使用しない場合、*VTCS IMPORT* コマンドは、*SLUADMIN* または *SMCUUI* のどちらかのユーティリティの下でのローカル処理でのみサポートされます。

次の例に示すように、*SDD* コマンドを使用すると、*SMCUUI* ユーティリティを使用してリモートサーバー上で *VTCS IMPORT* を実行できます。

```
//jobname job (account),programmer,REGION=0M
//S1 EXEC PGM=SMCUUI,PARM=MIXED
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//*****
/* Specify as least one of the following output definitions *
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD SYSOUT=A
//*****
/* SDD associated DD(s) *
//*****
//MANIIN DD DSN=your.manifest.dataset,DISP=SHR
//*****
/* Required SMCUII input DD *
//*****
//UIIIN DD *
SDD DDNAME(MANIIN) MVCS(volser) INPUT BINARY
.IMPORT REPLACE=ALL MANIFEST(MANIIN)
/*
```

注:

- *MANIIN* データセットは、*IMPORT* コマンドが読み取られる前に読み取られ、ネットワークで実行可能な転送処理向けに内部でパッケージ化されます。*BINARY* パラメータを使用すると、レコードイメージの転送処理になります。
- 上記の例では、*SDD* コマンドの *BINARY* および *INPUT* の両方のパラメータがデフォルトであり、省略できます。
- *SDD* コマンドを使用した同様の *SLUADMIN* ジョブを構築できますが、引き続きローカルでの実行に制限されます。*SMCUUUI* ユーティリティのみが、リモートの *UUI* コマンドの実行をサポートします。

EXPORT コマンドの例

SDD コマンドを使用しない場合、*VTCS EXPORT* コマンドは、*SLUADMIN* または *SMCUUUI* のどちらかのユーティリティ下でのローカル処理でのみサポートされます。次の例に示すように、*SDD* コマンドを使用すると、*SMCUUUI* ユーティリティを使用してリモートサーバー上で *VTCS EXPORT* を実行できます。

```
//jobname job (account),programmer,REGION=0M
//S1 EXEC PGM=SMCUUUI,PARM=MIXED
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//*****
//* Specify as least one of the following output definitions *
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLEOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD SYSOUT=A
//*****
//* SDD associated DD(s) *
//*****
//MANIOUT DD DSN=your.manifest.dataset,DISP=SHR
//*****
//* Required SMCUUI input DD *
//*****
//UUIIN DD *
```

```
SDD DDNAME(MANIOU) OUTPUT BINARY
EXPORT MVC(volser) MANIFEST(MANIIN)
/*
```

注:

- *MANIOU* データセットは、リモート出力が受信されるときに、クライアントに書き込まれます。ただし、*MANIOU* DD は、*EXPORT* コマンドが読み取られる前に検証されます。
- 上記の例では、*SDD* コマンドパラメータ *OUTPUT* を *EXPORT* に対して指定する必要があります。ただし、*BINARY* はデフォルトであり、省略できます。
- *SDD* コマンドを使用した同様の *SLUADMIN* ジョブを構築できますが、引き続きローカルの実行に制限されます。*SMCUUUI* ユーティリティのみが、リモートの *UUI* コマンドの実行をサポートします。

MERGMST コマンドの例

次の例に示すように、*MERGMST* プロセスは、*SMCUUUI* ユーティリティで入力と出力の *SDD* コマンドの組み合わせを使用します。

```
//jobname job (account),programmer,REGION=0M//S1 EXEC
PGM=SMCUUUI,PARM=MIXED//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR//
*****//
* Specify as least one of the following output definitions *//
*****//
CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR//XMLEOUT DD
DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR//TEXTOUT DD SYSOUT=A//
*****//** SDD
associated DD(s) *//
*****//MANIIN DD DSN=your
.mergein.dataset1,DISP=SHR// DD DSN=your.mergein.dataset2,DISP=SHR. . . //
DD DSN=your.mergein.datasetn,DISP=SHR//MANIOU DD DSN=your.mergeout
.dataset,DISP=SHR//*****//
* Required SMCUUI input DD *//
*****//UUIIN
DD *SDD DDNAME(MANIIN) INPUT BINARYSDD DDNAME(MANIOU) OUTPUT BINARY.MERGMST
MERGEIN(MANIIN) MERGEOUT(MANIOU)/*
```

注:

- *MANIOU* データセットは、リモート出力が受信されるときに、クライアントに書き込まれます。ただし、*MERGMST* コマンドが読み取られる前に *MANIOU* DD は検証されます。
- 上記の例では、*SDD* *MANIOU* コマンドの *OUTPUT* パラメータを、*MERGEOUT* 関連 DD に対して指定する必要があります。ただし、*BINARY* はデフォルトであり、省略できます。
- *SDD* コマンドを使用した同様の *SLUADMIN* ジョブを構築できますが、引き続きローカルの実行に制限されます。*SMCUUUI* ユーティリティのみが、リモートの *UUI* コマンドの実行をサポートします。

POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティー (SMCUTRQ)

SMCUTRQ ユーティリティーを使用すると、SMC テープポリシー検索をテストできます。このプログラムは、テープ割り当ておよびマウント処理中に SMC によって抽出される同じタイプの情報を含む制御カードを受け入れます。

制御カード上でジョブ名、ステップ名、プログラム名、およびほかの属性を入力したあと、このユーティリティーは、これらの属性をフォーマットし、シミュレートした特性を持つジョブであるかのように SMC サブシステムから SMC テープポリシー検索を要求します。

次に、ユーティリティーは、どのポリシーに一致したか、または *TREQDef TAPEREQ* 文がある場合はどれが特定の条件に一致していたかを示すレポートを生成します。*TREQDef LIst* コマンドで示されているように、現在アクティブな *TREQDef* ファイルにアクセスできる場合は、各検索に一致する実際の *TAPEREQ* 文が一覧表示されます。

SMCUTRQ ユーティリティーは、同じホスト上にあるアクティブな SMC サブシステムを必要とします。SMC がアクティブでない場合、エラーメッセージが生成され、プログラムが終了します。

JCL の例

SMC linklib のロードモジュール *SMCUTRQ* を実行して、レポートを生成します。次に、*SMCUTRQ* ユーティリティーを実行する JCL の例を示します。

例4.2 SMCUTRQ ユーティリティーを実行する JCL

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUTRQ
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//STDOUT DD DSN=yourstd.printout.dataset,DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SMCIN DD *
POL1 jobname stepname pgmname ddname nnnn yyyy/ddd mgmtclas
POL2 C volser dataset.name
```

制御カード

それぞれの TAPEREQ POLicy 検索では、少なくとも 1 つの制御カード (*POL1*) を入力する必要があり、オプションで、シミュレートするジョブステップ特性を指定して 1 つまたは 2 つの制御カード (*POL2*、*POL3*) を入力できます。制御カードの形式は次のとおりです。

カード 1:

次の表は、制御カード 1 の情報を示します。

表4.2 制御カード 1 の情報

列	長さ	フィールド	形式
1	4	<i>ID</i>	「 <i>POL1</i> 」 必須識別子
6	8	<i>jobname</i>	1-8 文字の汎用でないジョブ名
15	8	<i>stepname</i>	1-8 文字の汎用でないステップ名
24	8	<i>program name</i>	1-8 文字の汎用でないプログラム名
33	8	<i>ddname</i>	1-8 文字の汎用でない DD 名
43	4	<i>retention period</i>	4 桁の保存期間
47	8	<i>expiration date</i>	yyddd、yyyyddd、または yyyy/ddd 形式の有効期限
56	8	<i>management class</i>	1-8 文字の汎用でない SMS 管理クラス名

カード 2:

次の表は、制御カード 2 の情報を示します。

表4.3 制御カード 2 の情報

列	長さ	フィールド	形式
1	4	<i>ID</i>	「 <i>POL2</i> 」 必須識別子
6	1	<i>volume type</i>	特定する場合は「S」、または特定しない場合は「N」(スクラッチ)

列	長さ	フィールド	形式
8	6	<i>volume serial</i>	6 文字の volser
15	44	<i>data set name</i>	44 文字の非 PDS MSP データセット名

カード 3:

次の表は、制御カード 3 の情報を示します。

表4.4 制御カード 3 の情報

列	長さ	フィールド	形式
1	4	<i>ID</i>	「POL3」 必須識別子
6	8	<i>actual RECTECH</i>	有効な記録技法
15	3	<i>label type</i>	SL、NL、AL、NSL の値
19	8	<i>JCL esoteric</i>	エソテリック名

注:

- すべての変数長フィールドは左詰めにする必要があります。
- 保存期間と有効期限のフィールドは相互に排他的です。両方を指定した場合は、保存期間が使用されます。
- 管理クラスフィールドでは、返される *SMS ACS MGMTCLAS* をシミュレートでき、SMC *SMSDEF MGMTPol(ALL)* または (*IDAX*) ポリシーが指定されているとみなされます。SMC が一致するポリシー名を検出すると、残りのテープポリシー検索はバイパスされます。
- 指定された管理クラス名に一致するポリシー名が見つからない場合、または管理クラスフィールドが指定されなかった場合、残りの入力基準を使用して一連の *TAPEREQ* 検索が実行されます。
- 検索に重要ではない検索フィールドは無視できます。これは *TAPEREQ* 文で実際に使用する選択基準を調べて指定されます。ただし、相互に排他的ではないフィールドをすべて指定することをお勧めします。
- 「POL1」制御カードは、入力フィールドがコード化されていない場合でも必要です。「POL2」と「POL3」の制御カードはどちらもオプションです。
- 複数セットの制御カードを入力できます。

入力例

次に、*TAPEREQ* 検索シナリオの例を示します。

例 1

次の例では、次の場合に行われる *TAPEREQ* 検索をシミュレートします。

- DSN *ABC.QUAL1.QUAL2.TEST* の特定のボリューム *123456*
- DD *MYTAPE1* に割り当てられ、ジョブ *TSTNEWPG*、ステップ *STEP1*、実行プログラム *TESTPGM* の場合。

```
POL1 TSTNEWPG STEP1    TESTPGM MYTAPE1
POL2 S 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

例 2

次の例では、次の場合に行われる *TAPEREQ* 検索をシミュレートします。

- DSN *ABC.QUAL1.QUAL2.TEST* のスクラッチボリューム
- DD *MYTAPE1* に割り当てられ、99 日の保存期間
- ジョブ *TSTNEWPG*、ステップ *STEP1*、実行プログラム *TESTPGM* の場合。

```
POL1 TSTNEWPG STEP1    TESTPGM MYTAPE1 0099
POL2 N          ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

例 3

次の例では、次の場合に行われる *TAPEREQ* 検索をシミュレートします。

- DSN *ABC.QUAL1.QUAL2.TEST* のスクラッチボリューム
- DD *MYTAPE1* に割り当て
- ジョブ *TSTNEWPG*、ステップ *STEP1*、実行プログラム *TESTPGM* で、*DFSMS ACS* ルーチンが *MCLASS01* の管理クラスを返す場合。

```
POL1 TSTNEWPG STEP1    TESTPGM MYTAPE1 MCLASS01
POL2 N 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST
```

出力例

次の例は、SMCUTRQ ユーティリティからの出力を示しています。

例4.3 SMCUTRQ ユーティリティの出力

SMCUTRQ 7.2.0 SMC POLICY/TAPEREQ TEST
Time 11:25:49 POLICY/TAPEREQ Lookup Report

SMCU0019 SMC subsystem=SMC0

Card 0001: *OL1|JOBNAME |STEPNAME|PGMNAME |DDNAME |RETP|EXPDT |SMSMGMT
Card 0002: *OL2|T|VOLSER|DSN
Card 0003: POL1 ANYJOB STEP1 TESTPGM DD1
Card 0004: POL2 S 123456 ABC.QUAL1.QUAL2.TEST

TAPEREQ lookup keys:

JOBname=ANYJOB STEPname=STEP1 PROGname=TESTPGM DDname=DD1
VOLType=S VOLSer=123456 DSN=ABC.QUAL1.QUAL2.TEST

Lookup for POLICY not matched
Lookup for RECTECH/MEDIA matched TREQDEF record 5
Statement: TAPEREQ DSN(ABC.**.TEST) MEDIA(VIRTUAL)
Lookup for SUBPOOL not matched
Lookup for ESOTERIC not matched
Lookup for MGMTCLAS not matched
Lookup for DEVTPREF not matched

Card 0005: POL1 ANYJOB ANYSTEP ANYPGM DD1
Card 0006: POL2 S 123456 ABC.D11.XYZ.ABC

TAPEREQ lookup keys:

JOBname=ANYJOB STEPname=ANYSTEP PROGname=ANYPGM DDname=DD1
VOLType=S VOLSer=123456 DSN=ABC.D11.XYZ.ABC

Lookup for POLICY not matched
Lookup for RECTECH/MEDIA matched TREQDEF record 10
Statement: TAPEREQ DSN(**.XYZ.**).MEDIA(VIRTUAL)
Lookup for SUBPOOL not matched
Lookup for ESOTERIC not matched
Lookup for MGMTCLAS not matched
Lookup for DEVTPREF not matched

Processing complete; RC=0

テープ管理抽出ユーティリティ (SMCUDBX)

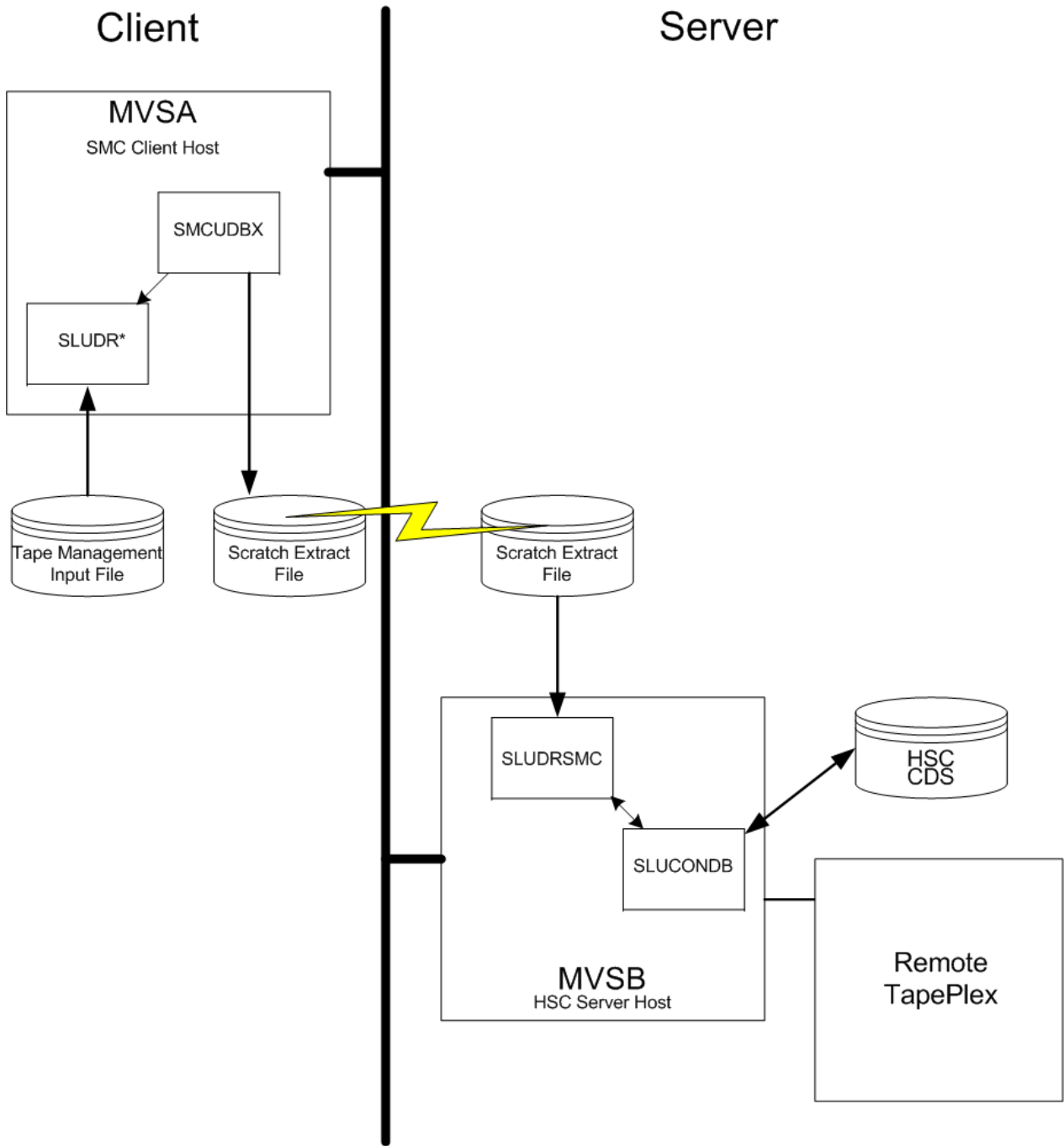
SMCUDBX ユーティリティは、SMC クライアントホストと HSC CDS 間のスクラッチ同期をサポートします。共通のテープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチンを HSC と使用することで、SMC はクライアントテープ管理システムにアクセスして、HSC スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB) で入力として読み取り可能な抽出ファイルを生成します。

注:

これらのルーチンの詳細は、[付録C「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) ルーチン」](#)を参照してください。

次の図は、SMCUDBX プロセスを示しています。

図4.2 SMC クライアントホストと HSC CDS 間のスクラッチ同期



図

クライアントとサーバーがテープ管理システムを共有している場合、共通のテープ管理システムデータベースを入力として使用して、HSC ユーティリティ *SLUCONDB* を直接実行できます。

ただし、クライアントホストに、HSC ホストにアクセスできないテープ管理システムがある場合、SMC ユーティリティ *SMCUBX* を使用して、ラベルおよび日付パラメータを用いてテープ管理システムからスクラッチボリュームを抽出できます。*SMCUBX* 出力はその後、HSC ホスト上で *SLUCONDB* ユーティリティへの入力として使用できます。SMC プロセスでは、*SMCUBX* 実行の GMT 時間を HSC CDS ボリュームレコードの最後の選択時間と比較することによってタイミングの同期をサポートします。SMC スクラッチ実行後にボリュームが選択された場合、*SLUCONDB* によるスクラッチの対象にはなりません。

SMC スクラッチ抽出ユーティリティの実行

SMC がホスト上で稼働しているかどうかにかかわらず、SMC スクラッチ抽出ユーティリティを実行できます。

SMCUBX は、CA-1 テープ管理カタログ (TMC)、CA-DYNAM/TLMS ボリュームマスターファイル (VMF)、DFSMSrmm レポート抽出ファイル、または Zara データベースを処理し、JCL EXEC 文の *PARM* パラメータで指定された情報に基づいて処理するためのボリュームシリアル番号を選択します。

CA-1、CA-DYNAM/TLMS、および DFSMSrmm の場合、*SMCUBX* は適切なテープ管理システムインタフェースルーチン呼び出しします。Zara の場合、*SMCUBX* は *SLUDRZAR* ルーチン呼び出し、今度はこのルーチンがアプリケーションプログラミングインタフェース (API) を呼び出して、データベースを読み取ります。これらのルーチンから返されるデータは、SMC スクラッチ抽出ファイルのフォーマットに使用されます。これらのルーチンの詳細は、[付録C「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) ルーチン」](#)を参照してください。

インストールで別のテープ管理システムを使用する場合は、提供されている *SLUDRCA1*、*SLUDRRMM*、*SLUDRTL*M、*SLUDRSMC*、*SLUDRTL*M、または *SLUDRZAR* のいずれかの例をモデルとしてプログラムを開発するか、次の形式の抽出ファイルを生成する独自のプログラムを作成できます。

表4.5 テープ管理サブシステム抽出ファイルの形式

位置	フィールド	形式
1	<i>Scratch volume</i>	CL6

位置	フィールド	形式
7	<i>GMT of run</i>	XL8
15	<i>Unused</i>	CL2

SMC スクラッチ抽出ファイルの時間フィールドは、MSP *STCK* マクロ出力の最初の 4 バイトの文字で表されます。たとえば、*STCK* マクロが *X'B0912345 6789ABCD'* という結果を生成した場合、SMC 抽出の *GMT* フィールドには、文字値 *C'B0912345'* が含まれます。

SMCUDBX、*SLUDRCA1*、*SLUDRTL*M、*SLUDRRMM*、および *SLUDRZAR* はロードモジュールとして与えられます。これらのロードモジュールの現在バージョンは、CA-DYNAM/TLMS リリース 5.4 以上、CA-1 リリース 5.0 以上、DFSMSrmm 1.1、および Zara 1.2 で使用できます。ELS インストールテープの上の *ELS MACLIB* ファイルには、サンプルのソースコードが含まれています。

注:

- テープ管理システムにローカルでの変更がある場合は、関連付けられている TMS のインタフェースルーチンを再アセンブルする必要があります。
- テープ管理システムが CA-1 リリース 4.9 以下である場合は、*SLUDRCA1* ルーチンを変更し再アセンブルする必要があります。このルーチンの変更および再アセンブルの詳細は、「[CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUDBX の使用](#)」を参照してください。
- テープ管理システムが Zara の場合、*SMCUDBX* ユーティリティは、Zara API モジュール (*ZARAAPI1*) を含むデータセットにアクセスする必要があります。このモジュールを *LINKLIST* に保存するか、モジュールを含んだライブラリをポイントする *SMCUDBX JCL* に、*JOBLIB* または *STEPLIB DD* 文を含めることができます。
- 変更し再アセンブルするルーチンはすべて、非リエントラント (*NORENT* パラメータ) として、*AMODE=24* および *RMODE=24* と再リンクする必要があります。

CA-1 リリース 4.9 以下での SMCUDBX の使用

CA-1 リリース 4.9 以下で *SMCUDBX* を使用するには、*SLUDRCA1* ルーチンを変更し再アセンブルする必要があります。アセンブル中、*TMRECORD MACRO* を含んだ CA-1 *MACLIB* にアクセスする必要があります。

CA-1 リリース 4.9 の場合、次の手順を行います。

1. 次の行の列 1 でアスタリスクを削除します。

TMRECORD

2. 次の行の列 1 にアスタリスクを追加します。

TMMTMREC

3. *SLUDRCA1* ルーチンを再アセンブルします。

構文

SMCUDBX は、プログラムパラメータを使用して、呼び出すテープ管理システムインタフェース (*SLUDR**) ルーチンと操作方法を指定します。これらのルーチンの詳細は、付録C「テープ管理システムインタフェース (*SLUDR**) ルーチン」を参照してください。

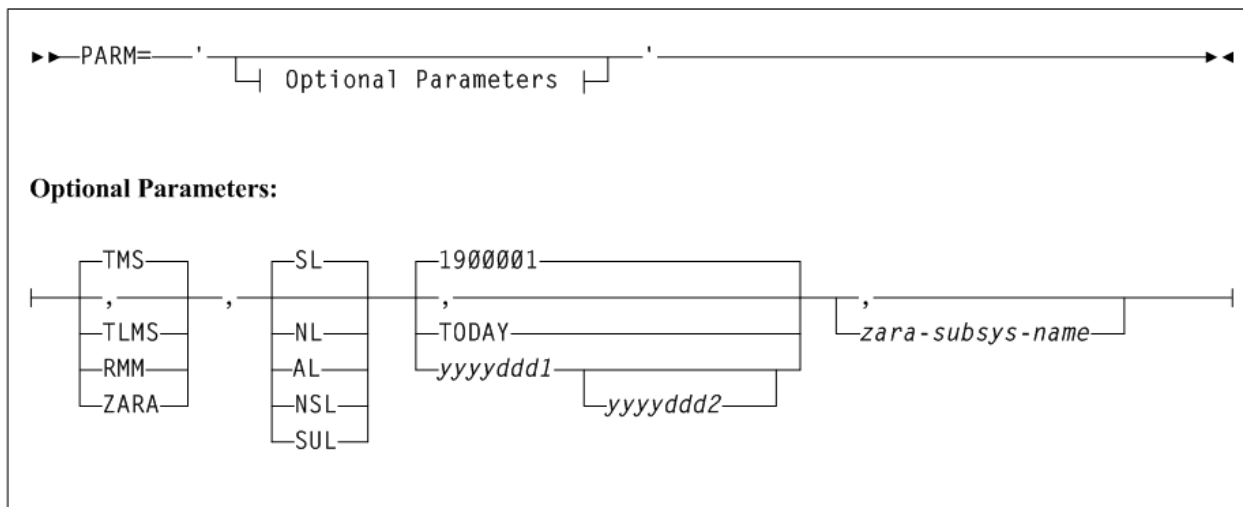
SMCUDBX ユーティリティの実行時に、*JCL EXEC* 文の *PARM* パラメータに対して次の値を指定できます。

注:

指定した順序でパラメータを入力し、省略したパラメータの代わりにカンマを含める必要があります。

次の図は、*SMCUDBX* ユーティリティの構文を示しています。

図4.3 SMCUDBX PARM パラメータ構文



パラメータ

PARM=

JCL の PGM パラメータで示されているプログラムから、後続のパラメータにアクセスできるように指定します。

TMS

オプションで、CA-1 テープ管理システム (TMS) を指定します。これがデフォルトです。

TLMS

オプションで、TLMS: CA-DYNAM/TLMS テープ管理システムを指定します。

RMM

オプションで、DFSMSrmm テープ管理システムを指定します。

ZARA

オプションで、ZARA テープ管理システムを指定します。

SL

オプションで、スクラッチボリュームの選択に標準ラベルタイプを指定します。これがデフォルトです。

NL

オプションで、スクラッチボリュームの選択にラベルなしタイプを指定します。

AL

オプションで、スクラッチボリュームの選択に ANSI ラベルタイプを指定します。

NSL

オプションで、スクラッチボリュームの選択に非標準ラベルタイプを指定します。

SUL

オプションで、スクラッチボリュームの選択に標準ユーザーラベルタイプを指定します。

注:

次の日付関連パラメータは、ボリュームが TMC でスクラッチ化した日付または日付範囲を指定します。

日付関連パラメータ

次の日付関連パラメータは、ボリュームが TMC でスクラッチ化した日付または日付範囲を指定します。

1900001

オプションで、日付として 1900 年 1 月 1 日を指定します。これがデフォルトです。

TODAY

オプションで、現在のシステム日を示します。この日付にスクラッチステータスになったボリュームだけが処理されます。

yyyyddd1

オプションで、「開始」日付を示します。「終了」日付はデフォルトで現在のシステム日になります。指定する日付はすべてユリウス歴表記です。

yyyyddd1 の日から今日の日付までにスクラッチステータスになったすべてのボリュームが処理されます。

yyyyddd1-yyyyddd2

オプションで、ボリュームがスクラッチ化される日付範囲を示します。これらの日付のどちらも、現在のシステム日付よりもあとにすることはできません。

yyyyddd1 の日から yyyyddd2 の日までにスクラッチステータスになったボリュームがすべて処理されます。

zara-subsys-name

Zara テープ管理システムのサブシステム名を指定します。ここで *zara-subsys-name* は 4 文字の名前です。デフォルトのサブシステム名は ZARA です。

JCL の要件

次の定義が、SMCUDBX JCL に適用されます。

DBTMS

CA-1 TMS、CA-DYNAM/TLMS VMS、または DFSMSrmm レポート抽出ファイルの形式で、スクラッチ抽出ユーティリティに入力します。この DD 文は Zara では必要ありません。

STDOUT

スクラッチ抽出ユーティリティからメッセージを出力します。この DD 文は必須です。

DBEXTFIL

スクラッチ抽出ユーティリティからの出力ファイル。DCB LRECL を指定した場合、16 バイト値を指定する必要があります。

Zara がテープ管理システムである場合、Zara API モジュールが MSP LINKLIST に存在するか、モジュールにアクセスするために次の JCL 文のいずれかを含める必要があります。

```
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=your.zaraapi1.library
           DISP=SHR, DSN=your.tmsextract.library
```

```
//JOB LIB DD DISP=SHR, DSN=your.zaraapi1.library
```

次に、2003年にスクラッチされたすべてのテープに対して CA-DYNAM/TLMS VMF を処理するためにスクラッチ抽出ユーティリティを呼び出す JCL 例を示します。

例4.4 スクラッチ抽出ユーティリティの JCL 例

```
//yourstd JOB card
//STEP0 EXEC PGM=SMCUBX, PARM='TLMS, ,2003001-2003365'
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=your.sea.linklib
// DD DISP=SHR, DSN=your.SLUDRxxx.linklib
//DBTMS DD DISP=SHR, DSN=your.tlms.database
//DBEXTFIL DD DISP=(NEW,KEEP), DSN=scratch.extract.file,
// SPACE=(TRK,(5,1)), UNIT=SYSDA
//STDOUT DD SYSOUT=*
/*
```

出力の説明

SMCUBX 出力には次の内容が含まれます。

- スクラッチ抽出処理を実行しようとして失敗した結果生じたエラー状況に関連したメッセージ
- 処理中に発生したエラーまたはアクションを示すメッセージ
- スクラッチ更新ユーティリティ制御文を含む出力データセット

次に、SMCUBX ユーティリティからの出力例を示します。

例4.5 スクラッチ抽出ユーティリティの出力メッセージ例

```
SMCUBX 7.2.0 SMC TMS DB SCRATCH EXTRACT
TIME 15:26:41
```

```
Page 0001
Date 2015-08-14
```

```
Total records extracted for scratch volumes = 977
```

SMC UII シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM)

SMCUSIM ユーティリティを使用すると、SMC *SIMulate* コマンドなどの SMC UII コマンドをテスト環境で発行できます。SMC コマンド設定、テープポリシー、割り当てユーザー出口に対する変更は、本番環境に適用する前にテストでき、既存の SMC クライアントおよび HSC サーバーに影響を与えません。

SMCUSIM コードは、SMC サブシステムと同様に実行しますが、次の例外があります。

- MSP SSI 割り当てインタフェースを初期化しません。
- インターセプトを処理するコマンドやメッセージを設定しません。
- CSA ストレージを処理に使用しません。

SMCUSIM ユーティリティは、バッチプログラムを実行し、SMC クライアントの動作を妨げずに既存の SMC サブシステムと同じホスト上で実行できます。*SMCUSIM* 処理は 2 つのフェーズで行われます。

フェーズ 1 での処理

このフェーズでは、ユーティリティは、SMC サブシステム起動ルーチンと同様に動作します。SMC モジュールがロードされ、*SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセットが読み取られます。

SMC サブシステムの起動と同様に、*SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセットはオプションです。ただし、*SMCUSIM* は、SMC サブシステムコマンドインターセプトを含まないので、このフェーズ中、テスト環境を設定するために必要なコマンドを指定する必要があります。

注:

- *SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセットに含めるコマンドについては、52 ページの「*SMCCMDS* または *SMCPARMS* データセットでの SMC コマンドの指定」のガイドラインに従ってください。
- 個々のコマンドそれぞれの詳細は、2章「[SMC コマンド、ユーティリティ、および制御文](#)」を参照してください。

SMCUSIM ユーティリティは、アクティブな SMC サブシステムであるかのように *TAPEPLEX* および *SERVER* コマンドを処理し、TCP/IP サービスが必要になる場合があります。したがって、Oracle の ELS ドキュメント『*SMC の構成および管理*』で説明している通信に関するセキュリティー管理上の考慮事項が適用されます。

次の SMC コマンドは、実際の SMC サブシステムまたは HSC サーバーと干渉する可能性があるため、*SMCUSIM* によって無効にされます。

- *CMDDef*
- *HTTP*
- *LOG*

- *Route*

これらのコマンドは、*SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットに含めることはできませんが、ユーティリティによって無視されます。

フェーズ 2 での処理

このフェーズでは、ユーティリティは、*SMCUUI* ユーティリティと同様に *UUIN* データセットを読み取って処理しますが、SMC コマンドのみが許可される点が異なります。これらのコマンドは、*SMCUSIM* シミュレート環境を対象にし、実際の SMC サブシステムには影響はありません。

SMC SIMulate コマンド、またはその他の SMC コマンドを *UUIN* データセットに含めて、指定したパラメータを持つジョブが、フェーズ 1 で構成した *SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセットを使用してどのように処理されるかをテストできます。HSC UI コマンドは無効で、エラー状態のフラグが付けられます。次のような複数のタイプの出力を受信できます。

- プレーンテキスト出力

この出力タイプは、*TEXTOUT* に書き込まれ、SMC コマンドによって生成される通常の出力に対応します。

- 構造化 XML

このタイプの出力は、*XMLOUT* に書き込まれます。構造化 XML は、XML ヘッダタグ、XML データタグ要素、および XML データ要素の内容を含む整形 XML データストリームです。特定の SMC コマンドのみが構造化 XML を生成しました。SMC XML タグ名およびタイプの完全なリストについては、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

- カンマ区切り値 (CSV)

このタイプの出力は、*CSVOUT* に書き込まれます。XML データタグ名の入力テンプレートは、特定の要求に対応する *CSVOUT* の形式を定義します。各要求に対する出力データでは、要求された XML データタグのコンマ区切りリストが含まれる CSV ヘッダ行のあとに CSV 詳細行があります。CSV の各詳細行には、要求された XML データタグごとに 1 つのエントリがコンマで区切られて含まれています。このタイプの出力は、スプレッドシートまたはカスタマイズされたレポートライターへの入力に簡単に流用できます。CSV を指定するための形式の詳細は、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

受信する出力のタイプは、*SMCUSIM* ユーティリティを実行するために JCL 内で定義されたデータセット定義文 (DD) で制御されます。

JCL の例

次に、*SMCUSIM* ユーティリティを実行する JCL の例を示します。

例4.6 SMCUSIM ユーティリティを実行する JCL

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUSIM, PARM='pgmparms'
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=your.sea.linklib
//          DD DISP=SHR, DSN=your.sea.exitlib
//*****
/* The following data sets are input to phase 1 and are optional
//*****
//SMCPARMS DD DISP=SHR, DSN=parmlib_name(parm_member_name)
//SMCCMDS DD DISP=SHR, DSN=cmdlib_name(cmd_member_name)
//*****
/* The following data set is required
//*****
//STDOUT DD DISP=SHR, DSN=your.stdout.dataset
//*****
/* The following data set is input to phase 2 and is required
//*****
//UUIIN DD *
CSV and UUI commands
//*****
/* At least 1 of the following data sets must be specified
//*****
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset, DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset, DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset, DISP=SHR
```

パラメータ

JCL 例では、次の *SMCUSIM* ユーティリティパラメータを *pgmparms* に指定できます。

SSYS(subsystem-name)

SMC サブシステム名を指定します (1 から 4 文字の長さ)。

TAPEplex(name)

UUI コマンドの送信先の SMC TapePlex の名前を指定します。省略した場合、最初に見つかったアクティブな TapePlex が使用されます。

入力コマンドが TapePlex ではなく SMC に直接発行されるよう指定には、*TAPEplex(SMC)* を使用します (*SMC Display Volume* や *Display DRive* コマンドなど)。

XMLCASE

XML および CSV 出力におけるアルファベットのデータフィールドの大文字と小文字を指定します。有効な大文字と小文字の書式は次のとおりです。

- *M* は大文字と小文字の混在を示します。これがデフォルトです。
- *U* は大文字を示します。

XMLDate(format)

XML および CSV 出力でのデータフィールドの書式を指定します。有効な日付書式は次のとおりです。

- *YYYYMONDD*
- *YYYY-MM-DD*
- *YYYY-MON-DD*
- *HEXSTCK* (16 進数文字 *STCK* 書式)

デフォルトの書式は *yyyymondd* です。たとえば、*2005Oct14* です。

NOHDR

オプションで、*STDOUT* および *TEXTOUT* レポートの見出しとページ区切りキャリッジ制御が生成されないよう指定します。*NOHDR* と *LINECNT* は相互に排他的です。

LINECNT

オプションで、*STDOUT* および *TEXTOUT* レポートのページ区切り行数設定を指定します。*LINECNT* と *NOHDR* は相互に排他的です。

nn はページあたりの行数を示します。有効な値は 10 - 99 です。

注:

STDOUT レポート見出しおよびページ区切りの設定は、*EXEC* 文のプログラムパラメータでのみ指定できます。*TEXTOUT* レポートの見出しの設定は、最初に、*EXEC* 文のプログラムパラメータで指定されますが、あとから *UIIN* コマンドストリームで *TEXTOUT UII* 制御文を指定して変更できます。

例:

次の図では、*EXEC* 文のプログラム *PARM='LINECNT(55)'* が、*STDOUT* と *TEXTOUT* の両方の出力に対し、レポートのページ区切りをページあたり 55 行に設定しています。

ただし、*UIIN* コマンドストリームの *UII* コマンド *TEXTOUT NOHDR* は、レポートヘッダーおよびページ区切りを無効にするように、*TEXTOUT* レポートパラメータを変更します。

```
//yourstd JOB card
//STEP EXEC PGM=SMCUSIM,PARM='LINECNT(55)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.linklib
// DD DISP=SHR,DSN=your.sea.exitlib
//SMCPARMS DD DISP=SHR,DSN=parmlib_name(parm_member_name)
//SMCCMDS DD DISP=SHR,DSN=cmdlib_name(cmd_member_name)
//STDOUT DD DISP=SHR,DSN=your.stdout.dataset
//UUIIN DD *
TEXTOUT NOHDR
UUI commands
//CSVOUT DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//XMLOUT DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
//TEXTOUT DD DSN=yourtext.output.dataset,DISP=SHR
```

MAXRC

指定したコマンドのリターンコードを超えたときに、*SMCUSIM* の初期化を終了させるかどうか指定します。*MAXRC* を指定しない場合、*SMCPARMS* や *SMCCMDS* コマンドが失敗したかどうかにはかかわらず、*SMCUSIM* は常に初期化の実行を試みます。これがデフォルトの動作です。

nn はリターンコードの最大許容値を指定します。*SMCPARMS* または *SMCCMDS* データセットから実行された SMC コマンドがこの値を超えた場合、*SMC0236* および *SMC0237* メッセージが生成され、*SMCUSIM* ユーティリティは、*UUIIN DD* からコマンドが読み取られる前に終了します。有効な値は、0、4、8、および 12 です。

注:

- SMC サブシステム環境で使用できるが、*SMCUSIM* 環境では使用できない *CMDDef*、*HTTP*、*LOG*、*Route* などの特定の SMC コマンドは、指定しても *SMCUSIM* では無視され、*MAXRC* 処理に影響を与えません。
- シミュレートした SMC サブシステムの起動の一部として実行されたコマンド (つまり、*SMCPARMS* および *SMCCMDS* データセットから読み取られたコマンド) だけが、*MAXRC* 処理の一部として評価されます。*UUIIN DD* から読み取られるコマンドで、指定した *MAXRC* 値よりも大きなりターンコードになるコマンドは、*SMCUSIM* ユーティリティを自動的に終了しません。

PLEXRC

自動的に発行される *RESYNC* コマンドから返された TapePlexes のステータスに基づいて SMC サブシステムの初期化を終了するかどうか指定します。

PLEXRC を指定していない場合、SMC サブシステムは、*RESYNC* コマンドの結果には関係なく初期化を完了します。これがデフォルトの動作です。

n は *RESYNC* コマンドからのリターンコードの最大許容値を指定します。有効な値は、0 および 4 です。

SMC *RESYNC* コマンドは、SMC がどの定義済み TapePlex と通信できない場合は 8 のリターンコードを、SMC が (すべてではなく) 1 つ以上の定義済み TapePlex と通信できる場合は 4 のリターンコードを設定します。

NOCC

オプションで、プリンターのキャリッジ制御を含めないよう指定します。このオプションを選択した場合、入力されていないページには、指定した *LINECNT* に合わせ空白行が付加されます。

必須データセット定義 (DD) 文

UUIIN および *STDOUT* データセット定義を指定する必要があります。

UUIIN データセット

UUIIN データセットには次の内容を含めることができます。

- SMC UUI コマンド
- HSC UUI コマンド
- VTCS PGMI 要求

ネイティブな SMC UUI コマンドには次のものがあります。

- *Display Drive*
- *Display Volume*
- *POLicy*
- *SIMulate*

サポートされている HSC UUI コマンドおよび VTCS PGMI 要求のリストについては、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

構文規則

次の構文規則が適用されます。

- 入力は 80 バイトのカードイメージにする必要があります。
- 実際のコマンド入力を含むことができるのは、80 バイトのカードイメージの 1 - 72 列のみです。73 - 80 の列は、必要に応じて順序番号として使用できます。
- 1 - 72 列の空白以外の最後の文字が「+」である場合、論理コマンドは次の物理カードでも継続します。
- コメントは「/*」で始まり (列 2 およびそれ以降)、「*/」で終わります。

- 最大の論理コマンド長は 32000 バイトです。

制御文

ユーティリティ制御文を使用すると、*TEXTOUT* 出力のレポートページ区切りが可能になり、後続の SMC、HSC、および VTCS の UII および PGMI コマンドに合わせてターゲットの TapePlex を変更できます。

TEXTOUT

オプションで、*TEXTOUT* 出力のレポートページ区切りパラメータを設定します。エラーが *TEXTOUT* コマンドで発生した場合、正しい *TEXTOUT* コマンドが行われるまで、後続の UII コマンドはすべてバイパスされます。

- *NOHDR* はオプションで、*TEXTOUT* レポートの見出しとページ区切りキャリッジ制御が生成されないよう指定します。*NOHDR* と *LINECNT* は相互に排他的です。
- *LINECNT(nn)* はオプションで、*TEXTOUT* レポートのページ区切り行数設定を指定します。*nn* はページあたりの行数です。有効な値は 10 - 99 です。*LINECNT* と *NOHDR* は相互に排他的です。

注:

- *STDOUT* レポート見出しおよびページ区切りの設定は、*EXEC* 文のプログラムパラメータのみ指定できます。*TEXTOUT* レポートの見出しの設定は、最初に、*EXEC* 文のプログラムパラメータで指定されますが、あとから *UIIIN* コマンドストリームで *TEXTOUT* UII 制御文を指定して変更できます。
- 単一の UII コマンドの前に、複数の *TEXTOUT* 文が入力された場合、最後の *TEXTOUT* 文が *TEXTOUT* レポートのページ区切りを制御します。
- *PLEXDext* および *TEXTOUT* コマンドを CSV コマンドとともに指定して、送信先 TapePlex と、後続の UII コマンドの CSV および *TEXTOUT* 出力特性を変更できます。

STDOUT データセット

STDOUT データセットは、*SMCUSIM* ユーティリティが *UIIIN* 要求ごとの入力および最終完了コードを報告する場所です。

SMCUSIM ユーティリティの CSV 例

次の CSV 例では、指定したシミュレートされるジョブステップに対するテープポリシーの主要ソースの Y/N 値が表示されています。XML タグとその構造の完全なリストについては、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

```

csv field=(jobname,dsname,ifax_matched_policy_flag,      +
ifax_matched_tapereq_flag,ifax_policy_esoteric_flag,    +
ifax_storggrp_esoteric_flag,sms_info_flag,               +
policy_info_flag,tapereq_info_flag,                      +
userexit_info_flag,owning_tapeplex),                    +
break(simulate_request) notitle fixed

```

トレースフォーマットユーティリティ (SMCUGTF)

SMCUGTF ユーティリティは、「コンパクト」形式 (デフォルト形式) で作成された *SMC GTF* 出力を元の *SMC* トレース形式に変換します。

JCL の例

次に、*SMCUGTF* ユーティリティを実行する JCL の例を示します。

例4.7 *SMCUGTF* ユーティリティを実行する JCL

```

// yourstd jobcard
//STEP      EXEC PGM=SMCUGTF
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//GTFIN DD  DSN=your.compact.gtftrace.dsn,DISP=SHR
//GTFOUT DD DSN=your.formatted.gtftrace.dsn,
// DISP=(NEW,CATLG,DELETE),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(space parameters)

```

注:

出力 *GTF* トレースに必要な領域は、*COMPACT* 入力ファイルのサイズの約 6 倍です。

VSM コンソール SMF オフロードユーティリティ (SMCUSMF)

SMC SMCUSMF ユーティリティを使用すると、SMF レコードを VSM コンソール サーバーからオフロードできます。SMF レコードは、次の DCB 属性の z/OS データ セットに置かれます。

- *recfm* - VB
- *lrecl* - 27990
- *blksize* - 27994

これらの HSC/VTCS SMF レコードの詳細は、ELS ドキュメント『*ELS* プログラミング リファレンス』を参照してください。

JCL の例

次の JCL 例では、*SMCUSMF* ユーティリティを実行します。

例4.8 SMCUSMF ユーティリティを実行する JCL

```
//jobname JOB (account),REGION=0M
//S1 EXEC PGM=SMCUSMF,PARM='pgmparms'
//STDOUT DD SYSOUT=*
//SMCSMF DD DISP=SHR,DSN=yoursmf.output.dataset
```

パラメータ

JCL 例では、次の *SMCUSMF* ユーティリティパラメータを *pgmparms* に指定できません。

NOHDR

オプションで、*STDOUT* レポートの見出しとページ区切りキャリッジ制御が生成されるよう指定します。

LINECNT(nn)

オプションで、*STDOUT* レポートのページ区切り行数設定を指定します。

nn はページあたりの行数を示します。有効な値は 10 - 99 です。

SERVer(ssss)

SMF レコードのオフロード元の VSM コンソールサーバーの名前を指定します。

ssss はサーバー名を指定します。指定したサーバーは、VSM コンソール TapePlex のアクティブサーバーである必要があります。*SERVer* は必須パラメータです。

BEGIN(begin-date:begin-time)

SMF レコード作成の期間の開始を指定します。これはサーバーの日付と時間です。

begin-date は、開始日を *yyyymmdd* の形式で表します。

yyyymmdd

開始日です。

TODAY

開始日として *TODAY* を指定します。

YESTERDAY

開始日として、*YESTERDAY* を指定します。

begin-time は、開始時間 (24 時間値) を *hhmmss* の形式で表します。開始時間の許容範囲は、000000 から 235959 です。デフォルト値は 000000 です。

END(end-date:end-time)

オプションで、SMF レコード作成の期間の終わりを指定します。これはサーバーの日付と時間です。

end-date は、終了日を *yyyymmdd* の形式で表します。

yyyymmdd

終了日です。

TODAY

終了日として *TODAY* を指定します。

YESTERDAY

終了日として *YESTERDAY* を指定します。

end-time は、終了時間 (24 時間値) を *hhmmss* の形式で表します。終了時間パラメータの許容範囲は、000000 から 235959 です。デフォルト値は 235959 です。

SMFTYPE(nnn)

オプションで、出力レコードに SMF レコードタイプを指定します。

nnn はレコードタイプを示します。有効な値は 128 から 255 です。デフォルトは 255 です。

必須データセット定義 (DD) 文

次の DD 文が必要になります。

STDOUT

SMCUSMF ユーティリティは *STDOUT* データセットで最終完了コードとエラーメッセージを報告します。

SMCSMF

SMCUSMF ユーティリティは、SMF レコードを *SMCSMF* データセットに置きます。これは可変ブロックファイルです。DCB 属性は次のようにする必要があります。

```
DCB=(RECFM=VB, LRECL=27990, BLKSIZE=27994)
```

SMCUSMF の使用法

VSM コンソールの TapePlex が、2 台のサーバーで定義されており、各サーバーが、*SMCUSMF* の最後の実行以降、その TapePlex のアクティブサーバーとして機能してきた場合、次の手順を実行して、両方のサーバーからすべての SMF レコードを収集する必要があります。

SERVER1 がアクティブで *SERVER2* が非アクティブの場合:

1. *SERVER(SERVER1)* とともに *SMCUSMF* を実行します。
2. *SERVER1* を無効にします。

```
SERVER NAME(SERVER1) DISABLE
```

このコマンドは *SERVER2* をアクティブにします。

3. *SERVER(SERVER2)* とともに *SMCUSMF* を実行します。
4. *SERVER1* を再度有効にします。

SERVER NAME(SERVER1) ENABLE

SERVER2 はアクティブのままですが、*SERVER2* が非アクティブになっている場合は、*SERVER1* がアクティブサーバーになる対象となります。*SERVER1* を (必要に応じて) もう一度アクティブサーバーにするには、*SERVER2* を無効にしてから、*SERVER1* が TapePlex のアクティブサーバーになったあとで有効にします。

第5章 HSC スタンドアロンユーティリティー

この章では、HSC スタンドアロンユーティリティーについて説明します。これらのユーティリティーは、独立したプログラムとして実行されます。

次のユーティリティーがあります。

- ユーティリティー管理者 (*SLUADMIN*)
- *SLICREAT*
- スクラッチ変換ユーティリティー (*SLUCONDB*)

ユーティリティー管理者 (*SLUADMIN*)

SLUADMIN プログラムはバッチジョブとして動作し、ほとんどのユーティリティー機能の初期化処理を制御します。ユーティリティー管理者 (*SLUADMIN*) は、複数のユーティリティーに対するシリアル要求として処理される複数のコマンドを受け入れることができます。ユーティリティー機能の実行に必要なすべての要件が満たされている場合、実際の処理を扱う適切なプログラムに制御が渡されます。

追加の制御文で示されたユーティリティー機能は、前のユーティリティー機能が停止するまで起動せず、制御は *SLUADMIN* プログラムに戻されます。

注意:

制御文の最大長は 32,767 文字です。この制限を超えた場合、無効なユーティリティー制御文であることを示すメッセージ SLS0241I が表示されます。

SLUADMIN の呼び出し

便利のよいように、ほとんどのユーティリティープログラムはパッケージ化され、ユーザーが呼び出す単一のプログラムとして示されます。例外がスクラッチ変換です。ほかのユーティリティー機能はすべて、*SLUADMIN* プログラムと、要求されたユーティリティー機能を呼び出すために必要なユーザー指定のコマンドを使用して、通常のバッチジョブとして呼び出されます。

追加コマンドで示されたユーティリティー機能は、前のユーティリティー機能が停止するまで起動せず、制御は *SLUADMIN* プログラムに返されます。

次に、JCL の一般的な例を示します。これは *SLUADMIN* を実行するために変更できます。この JCL 例で「*utility and CSV commands*」と表示されている箇所には、実行するユーティリティーまたは CSV コマンドを入力してください。

例:

```
SET HOSTID(HSC2) FORHOST(HSCB)
OFFLoad LOGF
SCREdist ACS(01)
```

次の例は、*SLUADMIN* を呼び出す JCL を示します。

例5.1 SLUADMIN を呼び出す JCL

```
//jobname      job (account),programmer,REGION=0M
//S1 EXEC      PGM=SLUADMIN,PARM=MIXED
//STEPLIB      DD DSN=your.sea.linklib,DISP=SHR
//SLSPRINT     DD SYSOUT=A
//SLSIN DD     *
               utility and CSV commands
               .
               .
               .
//*****
//* Optional UI Output Definition Statements *
//*****
//SLSCSV DD DSN=yourcsv.output.dataset,DISP=SHR
//SLSCSVX DD SYSOUT=*
//SLSXML DD DSN=yourxml.output.dataset,DISP=SHR
/*
//
```

注:

すべてのユーティリティー機能について、*JOB* 文で 0 M の領域サイズを指定します。

SLUADMIN 実行パラメータ

次のオプションパラメータを、*SLUADMIN EXEC* 文の *PARM=* に指定できます。

NOHDR

レポートの見出しが印刷されないようにします。このパラメータの影響は、*ACTivities*、*VOLRpt*、*VTVRpt* など、レポート出力を生成するプログラムだけに限られます。

注:

NOHDR と *LINECNT* は相互に排他的です。

NOHDR を指定しない場合、次の情報を含む見出しの印刷がデフォルトとなります。

- レポートの日付/時間
- ページ番号
- ホストソフトウェアバージョン番号
- 実行されたユーティリティー機能の名前

NOPHDR

ページの見出しが印刷されないようにしますが、次のような制御ヘッダーを出力に生成します。

SLS0030I Message ID NNNN Help Info:

または

SLS0041I Command CCCCCC Help Info:

注:

NOPHDR は、*LINECNT* および *NOHDR* と相互に排他的です。

このパラメータは、*Display Cmd* または *Display Message* コマンドを発行して、コマンドのヘルプテキストやメッセージを含んだファイルを作成するときに役立ちます。

MIXED

大文字と小文字を組み合わせてレポートの見出しおよびメッセージをすべて印刷します。デフォルトは大文字です。

LINECNT=nn

SLUADMIN レポートのページあたりの行数を指定します。許可されている値は 10 から 99 で、デフォルトはページあたり 60 行です。

注:

LINECNT と *NOHDR* は相互に排他的です。

SSYS(ssss)

オプションで、*SLUADMIN* ユーティリティーが実行されている HSC サブシステムの名前を指定します。LPAR 上で稼働している HSC サブシステムが *MULT* パラメータを指定しているときに、このパラメータは必須です。

XMLDate(date)

XML および CSV 出力でのデータフィールドの書式を指定します。有効な日付書式は次のとおりです。

- *yyyymondd*
- *yyyy-mm-dd*
- *yyyy-mon-dd*
- *HEXSTCK* (16 進数文字 *STCK* 書式)

デフォルトの書式は *yyyymondd* です。たとえば、*2005Oct14* です。

XMLCase(case)

XML および CSV 出力におけるアルファベットのデータフィールドの大文字と小文字を指定します。有効な大文字と小文字の書式は次のとおりです。

- *M* は大文字と小文字の混在を示します。これがデフォルトです。
- *U* は大文字を示します。

SLUADMIN 定義文

特定の HSC および VTCS コマンドには、追加文が必要になる場合があります。このドキュメントでは、これらの文を適用可能なコマンドとともに説明しています。

一般的な定義文

次の定義文が常に必要です。

- *STEPLIB*

ELS モジュールを含むリンクライブラリを指定します。

- *SLSPRINT*

ユーティリティ出力 (プレーンテキスト) の出力先を指定します。

- *SLSIN*

SLUADMIN に対する入力を指定します (ユーティリティコマンド名およびパラメータ)。

注:

SLSIN には、*SDD* コマンドも含めることができます。詳細は、「[SDD コマンド](#)」を参照してください。

- *SLSOUT*

SLUADMIN 処理メッセージの出力先を指定します。

CDS 定義文

次の CDS 定義文の 1 つ以上が、HSC が非アクティブになっているホストで実行されるユーティリティーコマンドに必要です。これらの文は、プライマリ CDS を指定し、オプションで、セカンダリおよびスタンバイ CDS を指定します。

注:

これらの文は、HSC がアクティブであるホストで実行するコマンドでは省略できます。これらの文を省略した場合、ホスト上のアクティブな HSC で使用されるデータセットがアクセスされます。

SLSCNTL

プライマリ CDS を指定します。HSC が非アクティブであるホスト上で実行されるユーティリティーコマンドでは、この文は必要です。

SLSCNTL2

オプションで、セカンダリ CDS を指定します。

セカンダリ CDS が存在する場合は、切り替えが発生してセカンダリ CDS がアクティブになったら、CDS を並べ替えることによってデータベースの整合性を維持できるように、この文を含めます。

SLSSTBY

オプションで、スタンバイ CDS を指定します。

スタンバイ CDS が存在する場合は、切り替えが発生し、スタンバイ CDS がアクティブになったときに CDS を並べ替えてデータベースの整合性を維持できるように、この文を含めます。

CDS 定義文を指定するときに、次の条件が適用されます。

- 指定する DD 文の数は、*SET TCHNIQE* コマンドで定義される数と同じにする必要があります。*SET TCHNIQE* コマンドを実行すると、定義された DD 文の数は、新しい技法によって暗示される数に等しくなる必要があります。
- プライマリ、セカンダリ、およびスタンバイ CDS バージョンを選択するルールは、HSC サブシステムが使用するものと同じです。CDS 構成の詳細は、『HSC および VTCS の構成』を参照してください。
- 「読み取り専用」であるユーティリティー (たとえば、*VOLRpt*) の場合、単一の DD (*SLSCNTL*) を指定でき、内部名検証も外部名検証も実行されません。

UUI の出力定義文

統合ユーザーインターフェース (UUI) 要求を通じて追加された出力タイプを生成するときに、次の定義文の 1 つ以上が必要です。これらの出力タイプの要求の詳細は、「[SLUADMIN 出力の要求](#)」を参照してください。

SLSCSV

カンマ区切り値 (CSV) 形式でユーティリティー出力の出力先を指定します。

SLSCSVX

CSV の例外の出力先を指定します。

SLSXML

構造化 XML 形式のユーティリティー出力の出力先を指定します。

SLUADMIN 出力の要求

プレーンテキストに加え、*SLUADMIN* は、統合ユーザーインターフェース (UUI) 要求により追加される出力タイプをサポートします。UUI でサポートされるコマンドおよびユーティリティーのリストについては、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

出力タイプは、*SLUADMIN* JCL で定義された DD 文により制御されます。次の出力タイプがあります。

- プレーンテキスト

プレーンテキスト出力は常に生成され、以前のリリースからの変更はありません。出力は、*SLSPRINT* 定義文によって指定されたデータセットに書き込まれます。

- 構造化 XML

この出力タイプはオプションであり、*SLSXML* 定義文が指定されている場合にのみ生成されます。出力は、この文で指定されたデータセットに書き込まれます。

構造化 XML は、XML ヘッダータグ、データタグ、およびデータ要素の内容を含んだ整形 XML データストリームです。すべての UUI 要求の XML タグ名および構造については、『*ELS* プログラミングリファレンス』を参照してください。

- カンマ区切り値 (CSV)

この出力タイプはオプションであり、CSV コマンドと *SLSCSV* 定義文が指定されている場合にのみ生成されます。

CSV 出力はカスタマイズできます。XML データタグ名のテンプレートは、どのデータ値を出力するかを指定するためにユーザーが入力できます。出力データは、CSV 詳細行が後続する単一の CSV ヘッダー行です。

CSV ヘッダー行は、要求された XML データタグ名のリストです。それぞれの名前はカンマで区切られます。それぞれの CSV 詳細行は、指定した固定数のデータ値であり、カンマで区切られます。この種の出力は、スプレッドシートまたはカスタマイズ可能なレポートライターへの入力として簡単に利用できます。

XML 出力の要求

SLXML DD 文が存在する場合、この文は、UI インタフェースをサポートするすべての *SLUADMIN* コマンドに、構造化 XML 出力を与える必要があることを示します。

XML が生成されるときに、各要求の最後に、例外が、専用のヘッダータグ (*<exceptions>*) の下に生成されます。各例外は、*<reason>* タグを使用して報告されます。詳細は、*ELS Programming Reference* を参照してください。

CSV 出力の要求

SLSCSV DD 文が存在する場合、UI インタフェースをサポートするすべての *SLUADMIN* コマンドに、カンマ区切り値 (CSV) 出力が与えられます。

SLSCSVX DD 文が存在する場合、CSV 例外が報告されます。*SLSCSVX* DD 文は、*SLSCSV* DD 文が与えられている場合にのみ有効です。CSV 例外は、CSV コマンドが要求に対して有効な場合にのみ生成されます。

この DD のデフォルトの DCB 情報は、*SLSPRINT*, *LRECL=121*, *RECFM=FB* と同じです。

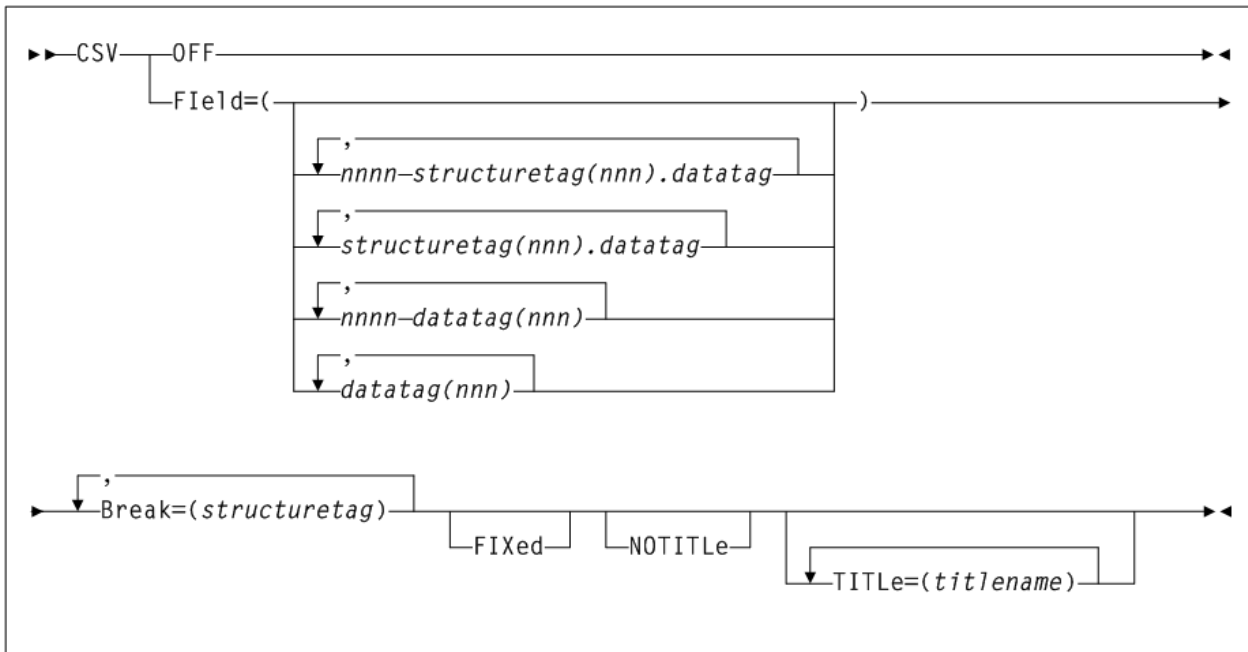
CSV コマンド

CSV コマンドは CSV 出力処理を制御します。

各 CSV コマンドには、カンマで区切られた CSV 要素定義のリストが含まれます。各 CSV 要素定義は、オプションの XML 構造化タグおよびサブスクリプト値とともに XML データタグ名を指定します。ELS XML タグの詳細は、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

構文:

図5.1 CSV コマンド構文

**パラメータ:****OFF**

以降の要求に対する CSV 処理を無効にします。

注:

OFF は、ほかのすべての CSV パラメータと相互に排他的です。

Field

OFF が指定されていない場合は必須です。

- *nnnn-* は、1 から 4 つの数字とそれに続くダッシュから構成されるオプションのフィールド名接頭辞です。フィールド名に「*n(nnn)-*」の接尾辞が付いている場合、フィールドの CSV 出力には常に、指定した数ちょうどの文字が含まれます。数値フィールドは右詰めされ、もっとも左端の桁が切り捨てられます。その他のフィールドは左詰めされ、もっとも右端の文字が切り捨てられます。指定した値が実際の値よりも長い場合、数値フィールドの場合は左側が、その他のフィールドの場合は右側が空白で埋められます。

例:

8-acstatus は *acs_status* 値を 8 文字に切り捨てます。

`12-acstatus` は、`acs_status` 値を空白で埋めて 12 文字にします。

`nnnn` の最大値は 1024 です。「`nnnn-`」の指定は、パラメータ `FIXed` も指定されているときにのみ有効です。

- `structuretag(nnn).datatag` はオプションの XML 構造化タグとデータタグのペアです。XML 構造化タグは、ほかの要素を含むが、内容の値は持たない要素です。ELS XML タグの詳細は、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

XML 構造化タグ/データタグのペアは、複数の構造化タグ内でデータタグが発生する場合にのみ指定してください。たとえば、`DISPLAY LSM` の要求データタグ `free_cell_count` は、LSM の空きセル数の合計が含まれるようにするには構造化タグ `lsm_data` の下で使用し、パネルの空きセル数が含まれるようにするには構造化タグ `panel_data` の下で使用します。`lsm_data.free_cell_count` を指定すると、`lsm_data` 構造化タグからの空きセル数が要求され、`panel_data.free_cell_count` を指定すると、`panel_data` 構造化タグからの空きセル数が要求されます。複数の構造化タグの下で発生するデータタグに対して構造化タグがコーディングされていない場合、生成された XML 内で最初に出現するデータタグが使用されます。

`nnn` は、CSV 出力に含められる複数の XML データ値の数を決定するオプションのサブスクリプトです。

単一の要求の構造化 XML データに同じ名前の複数の XML 構造化要素が含まれるときにのみ、サブスクリプトを指定します。これは、「*Maximum Occurrences*」のラベルが付けられた列が 1 より大きいときはいつでも、`requestXML` の説明で示されます。サブスクリプト値は、構造化タグ名とデータタグ名の両方で指定できます。次に例を示します。

```
CSV FIELD=(mvc_instance(4).volser,+
mvc_instance(4).partition_id(2))
```

12 のフィールドを持つ CSV 出力を作成し、`mvc_instance volser` の 4 つのオカレンスに、最初の MVC `volser` に関連した `partition_id` 値を表す 2 つのフィールドが続き、続いて 2 番目の MVC に関連した `partition_id` 値を表す 2 つのフィールドが続く、というようになります。

- *datatag(nnn)* はオプションの XML データタグです。データタグが、要求内の複数の構造化タグの下にない場合、構造タグ修飾子を指定する必要はありません。

nnn は、CSV 出力に含められる複数の XML データ値の数を決定するオプションのサブスクリプトです。

単一の要求の構造化 XML データに同じ名前の複数の XML 構造化要素が含まれるときにのみ、サブスクリプトを指定します。これは、「*Maximum Occurrences*」のラベルが付けられた列が 1 より大きいときはいつでも、*requestXML* の説明に示されます。

注:

XML タグ名は、大文字と小文字を区別せず、大文字と小文字を任意に組み合わせて指定できます。

BReak

OFF が指定されていない場合は必須です。ブレイクタグは、入力要求について定義された有効な構造化タグである必要があります。ブレイクタグに一致するトレーラタグが出力プロセスで見つかるたびに、新しい CSV レコードが作成されます。有効なブレイクタグの例は次のとおりです。

- *DISPLAY CDS* の場合、*cds_data* または *host_data*
- *VOLRPT* または *Display Volume* の場合、*volume_data*

FIxed

固定形式の CSV 出力を生成します。CSV 出力の各フィールドは、一定数の文字を占めるように空白で埋められます。ユーザーは自分のオプションを使用して、顧客指定の形式のフラットファイルをレポート用に作成できます。

NOTITLe

CSV タイトル行が生成されないように指定します。このキーワードを省略すると、各 CSV 要求の最初の行は、カンマ区切りのタグ名を含むタイトル行になります。

TITLe

TITLe を指定した場合、指定したタイトル名が XML タグ名の代わりにタイトル出力行で使用されます。タイトル名を省略した場合は、*FIELD* パラメータからの指定された XML タグ名がタイトルで使用されます。

JCL の例: CSV 出力:

次の *SLUADMIN* JCL は *MVCRPT* コマンドを実行して、CSV 形式のすべての MVC で使用できるスペースの割合のレポートを作成します。ジョブの実行後、CSV 出力ファイルをスプレッドシートアプリケーションに FTP で転送できます。

この例で使用される構造化タグとデータタグの詳細は、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

例5.2 MVCRPT コマンドの CSV 出力

```
//MVCREPT JOB x,CHRIS,CLASS=A,MSGCLASS=E
//*
//*
//*
//MVCRPT EXEC PGM=SLUADMIN,
// PARM='MIXED,XMLDATE=YYYY-MM-DD'
//STEPLIB DD DSN=your.sea.LINKLIB,DISP=SHR
//SLSCNTL DD DSN=your.sea.CLUSTER.CDS,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SLSCSV DD DISP=(,CATLG),DSN=h1q.MVCREPT.CSV,
// DCB=(RECFM=VB,LRECL=4096,BLKSIZE=32000),
// UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(x,y))
//SLSIN DD *
CSV FIELD=(mvc_data.volser,mvc_data.percent_available)+
BREAK=(mvc_data)+
NOTITLE
MVCRPT
/* /**
//
```

SLUADMIN プログラムのリターンコード

SLUADMIN プログラムは、下記のように、ジョブステップを実行するためのリターンコードを設定します。

各ユーティリティー機能のリターンコードはメッセージに一覧表示されます。0 以外のリターンコードの場合、エラー状況の詳細および説明を示した追加メッセージが一覧表示されます。表示されるメッセージについては、『*ELS メッセージおよびコード*』を参照してください。

SLUADMIN ユーティリティーには次のリターンコードが含まれます。

- 0 は、制御文を通じて要求されたすべてのユーティリティー機能が正常に完了したことを示します。
- 4 は、少なくとも 1 つのユーティリティー機能で異常な状況が発生したが、そのユーティリティー機能または後続のユーティリティー機能の終了は起こらなかったことを示します。
- 8 は、少なくとも 1 つのユーティリティー機能で、そのユーティリティー機能を継続できなくなるエラー状況が発生したが、制御文で表された後続のユーティリティー機能はすべて試みられたことを示します。

- 12 は、ユーティリティー機能の開始を妨げたエラー状況、またはアクティブなユーティリティー機能を終了させ、後続のユーティリティー機能の処理を妨げたエラー状況が検出されたことを示します。

注:

HSC CDS での問題のためにリターンコードが発生した場合は、HSC を安全に初期化できるように、その問題を解決する必要があります。

ユーティリティーコマンドで作成されるレポート

複数のユーティリティーコマンドが実行時にレポートを生成します。これらのレポートはユーティリティー機能に追加されます。次のユーティリティーコマンドがレポートを生成します。

- *LIBGen*
- *ACTivities*
- *AUDit*
- *BACKup*
- *MOVE*
- *VOLRpt*

レポートの見出し

レポートの見出しには次の情報が含まれます。

- レポートの日付/時間
- ページ番号
- ホストソフトウェアバージョン番号
- 実行されたユーティリティー機能の名前

SLICREAT

SLICREAT プログラムは、ライブラリ制御データセットを作成し、確認メッセージでライブラリボリューム容量を表示します。

これらのライブラリ制御データセットは、*SLICREAT* データセット初期化 JCL で指定するデータセット定義に基づいて作成されます。

SLICREAT を使用するには、次の手順を行います。

1. *SLICREAT* プログラムを使用して、データセット初期化 JCL にデータセット定義を作成します。
2. *SLICREAT* プログラムを実行して、ライブラリ制御データセットを作成します。
3. *SLICREAT* プログラムが正常に完了したことを確認し、確認メッセージに表示されたライブラリボリューム容量をメモします。

これらの手順については、次のセクションで説明します。これらは、ライブラリが動作する前に実行する必要があります。

注:

- *SLICREAT* を使用する前に、最初に *LIBGen* マクロを作成し、アセンブルしてリンクする必要があります。詳細は、『*HSC* および *VTCS* の構成』を参照してください。
 - *SLICREAT* を使用して *HSC SLSJRNnn* ジャーナルファイルを再フォーマットできます。詳細は、『*ELS* レガシーインタフェースリファレンス』を参照してください。
-

制御データセット初期化 JCL の作成

ライブラリ制御データセットの定義の作成は、*SLICREAT* という名前のジョブファイルで JCL をコーディングすることにより行われます。

次に、*SLICREAT* プログラムの JCL の例を示します。この例は、メンバー *JCLCRT* として *HSC SAMPLIB* にも含まれています。

例5.3 SLICREAT JCL

```
//SLICREAT JOB (account), 'programmer', CLASS=A
//CREATE EXEC PGM=SLICREAT, CDS CREATE MODULE
// PARM='libgen-load-module-name',
// REGION=OM
//*
//STEPLIB DD DSN=your.sea.linklib, DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=* MESSAGES
//*
//*****
//* LIBRARY PRIMARY CONTROL DATASET (CDS) //
//*****
//SLSCNTL DD DSN=SLS.SLSCNTL, P PRIMARY CDS
// SPACE=(4096, s, , CONTIG, ROUND), REPLACE 's' WITH YOUR
// DISP=(NEW, CATLG, DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
//* LIBRARY SECONDARY CONTROL DATASET (CDS) //
//*****
//SLSCNTL2 DD DSN=SLS.SLSCNTL2, SECONDARY CDS
// SPACE=(4096, s, , CONTIG, ROUND), REPLACE 's' WITH YOUR
// DISP=(NEW, CATLG, DELETE), SPACE CALCULATIONS
// UNIT=SYSDA
//*****
```

```

//*          LIBRARY STANDBY CONTROL DATASET (CDS) //
***** /
/SLSSTBY DD  DSN=SLS.SLSCNTL3,          STANDBY CDS
//          SPACE=(4096,s,,CONTIG,ROUND),  REPLACE 's' WITH YOUR
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),        SPACE CALCULATIONS
//          UNIT=SYSDA
//*****
//*          LIBRARY JOURNAL DATASET (INITIAL) //
*****
//SLSJRN01 DD DSN=SLS.SLSJRN01,          INITIAL JOURNAL
//          SPACE=(4096,u,,CONTIG,ROUND),  REPLACE 'u' WITH YOUR
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),        SPACE CALCULATIONS
//          UNIT=SYSDA
//***** /
/*          LIBRARY JOURNAL DATASET (ALTERNATE) //
*****
//SLSJRN02 DD DSN=SLS.SLSJRN02,          ALTERNATE JOURNAL
//          SPACE=(4096,u,,CONTIG,ROUND),  REPLACE 'u' WITH YOUR
//          DISP=(NEW,CATLG,DELETE),        SPACE CALCULATIONS
//          UNIT=SYSDA
//*****
//*          ONE PAIR OF JOURNALS ARE REQUIRED FOR EACH GENED HOST //
*****
//*

```

DD 文

ライブラリ制御データセットを定義するには、次の JCL DD 文を使用する必要があります。

SYSPRINT

出力メッセージ。

制御データセットを割り当てるときには、次の条件を参照してください。

- DCB 文は指定しないでください。HSC は、必要なブロックサイズ (4K) を定義します。
- データセットは、単一の連続して範囲で割り当てる必要があります。
- SLICREAT プロセスの実行前に、レコードを含む既存のデータセットを CDS に含めないでください。
- 高い I/O アクティビティを生み出すほかの CDS やほかのデータセットと同じボリュームに CDS を置かないことをお勧めします。

SLSCNTL

プライマリライブラリ制御データセット。

これは、HSC 内ですべてのアクティビティを制御し同期するために使用される初期データセットです。これは、自動または手動でデータセットの制御がセカンダリに切り替えられるまで、HSC によって使用されます。

SLSCNTL はまた、*SLICREAT* プロセスも制御します。*SLICREAT* を実行するときに *SLSCNTL* DD 文を含めない場合、次のようになります。

- CDS はフォーマットされません。
- *PARM* 文に含まれている *LIBGEN* ロードモジュールのサイズ要件 (ブロック単位) は、計算されて報告され、ジャーナルフォーマットが試みられます。

SLSCNTL2

プライマリ制御データセットのセカンダリコピー。

これは、*SLIRCVRY* マクロの *TCHNIQE* パラメータが、*SHADOW*、*STANDBY*、*BOTH*、または *ALL* の場合にのみ必要です。

SLSSTBY

スタンバイ制御データセット。

このデータセットは、*SLIRCVRY* マクロの *TCHNIQE* パラメータが *STANDBY* または *ALL* の場合にのみ必要です。スタンバイ制御データセットを指定した場合、セカンダリデータセットが必要になります。このデータセットは、*STBYONLY* 処理にも必要です (「[SLICREAT を使用したスタンバイ CDS のみの作成](#)」を参照)。

SLICREAT プログラムの実行

SLICREAT プログラムを実行して、ライブラリ制御データセットを作成します。

SLICREAT EXEC 文

SLICREAT プログラムを実行するには、次の *EXEC* 文を使用します。

```
EXEC PGM=SLICREAT,PARM=' libgen-load-module-name '
```

PARM= 値は、*LIBGEN* ロードモジュール名を示します。*STEPLIB* 文は、*LIBGEN* ロードモジュールが現在存在している適切なライブラリを指し示している必要があります。

注:

- *SLICREAT* は、リリース *LINKLIB* と同じレベルのマクロでアセンブルされた *LIBGEN* ロードモジュールを必要とします。以前の HSC リリースで作成された *LIBGEN* ロードモジュールは、後のリリースの *SLICREAT* への入力として使用できません。
 - *SLICREAT* (*SLSCNTL*、*SLSCNTL2*、および *SLSSTBY*) によって作成される CDS ファイルは、フォーマットされる前に空のデータセットであることが検証されます。*SLICREAT* がこれらのファイルのいずれかにレコードが含まれていると識別すると、エラーメッセージが表示され、作成プロセスは終了します。このようになった場合は、別のデータセットを指定するか、データセットを削除してから再定義し、*SLICREAT* を再実行してください。
-

SLICREAT プログラムの正常な完了の検証

SLICREAT プログラムが正しく処理された後、ライブラリのステータスと容量を示すメッセージが生成されます。次に例を示します。

```
SLS0557I DATABASE SUCCESSFULLY INITIALIZED; TOTAL CARTRIDGECAPACITY: DDDDDDDDDDD  
VOLUMES
```

カートリッジ容量の計算 - SL8500 および SL3000

メッセージ SLS0557I には、ライブラリのカートリッジ容量の合計が表示されません。SL8500 および SL3000 ライブラリの場合、ライブラリの最大容量ではなくライブラリの実際の容量を確認するために、最初にライブラリをオンラインに変更する必要があります (*Vary ACS* コマンド)。ライブラリをオンラインに変更するまでは、最大容量は *LIBGEN* で定義した数ではなく、HSC で定義できるパネルの最大数に基づきます。

ライブラリをオンラインに変更したあと、*Display Acs* コマンドまたは *Display Lsm* コマンドを発行して、ライブラリの実際の容量を表示します。

SLICREAT を使用したスタンバイ CDS のみの作成

SLICREAT を使用して、追加の CDS を作成できます。以前にスタンバイ CDS なしで HSC をインストールした場合、*SLICREAT* プログラムを実行してこれを作成できます。

この方法は、プライマリ CDS のバックアップを作成しません。追加の CDS をフォーマットし、*CDS Enable* コマンドを使用してアクティブ化できるようにします。

スタンバイ CDS を作成する SLICREAT EXEC 文

スタンバイ CDS を作成するには、*SLICREAT EXEC* 文で *PARM='STBYONLY'* を指定します。

```
EXEC PGM=SLICREAT,PARM='STBYONLY'
```

注:

- *SLICREAT* の *STBYONLY* オプションを実行する前に、プライマリ CDS が必要です。
- スタンバイデータセットをシステムに認識させるには、*PARMLIB* の *CDSDEF* 文で定義する必要があります。

SLICREAT を使用した DASD スペースの計算

SLSCNTL および *SLSJRn* DD 文を指定せずに *SLICREAT* を実行して、CDS に必要な最小限の DASD スペースを算定できます。HSC は、4096 バイトブロック単位でスペースの最小要件を示すメッセージを生成します。*SLICREAT* を実行するときに、これらのデータセットごとに、少なくともこの最小値と同じ大きさのブロック数を指定する必要があります。

注:

複数の CDS (*SLSCNTL2*、*SLSSTBY*) を指定している場合は、定義するときに、すべてのデータセットに同じ容量のスペース (ブロック単位) を割り当てることをお勧めします。

異なるスペース割り当てでデータセットを定義すると、HSC は、最小のデータセットのサイズを使用して、CDS に使用する 4K ブロックの数を算定します。ほかの CDS データセットに余分なスペースがあったとしても、HSC は使用しません。

必要な最小スペース (*SLICREAT* で返される) と最小の CDS コピーのサイズとのスペースの差は、CDS 空きブロックとしてフォーマットされます。

スクラッチ変換ユーティリティ (SLUCONDB)

SLUCONDB プログラムは、CA-1、CA-DYNAM/TLMS、DFSMSrmm、および Zara テープ管理システムから、または SMC *SMCUDBX* ユーティリティによって、クライアントシステムから抽出されたファイルから、スクラッチトランザクションを生成します。

注:

SMCUBDX ユーティリティの詳細は、「[テープ管理抽出ユーティリティ \(SMCUBDX\)](#)」を参照してください。

SLUCONDB は、スタンドアロンユーティリティとして実行でき、SLUADMIN への入力用のスクラッチトランザクションを生成します。また、アクティブな HSC システムのホストで実行でき、SLUCONDB LIBONLY パラメータを使用して、アクティブな HSC システムに直接送信される UUI スクラッチトランザクションを生成できます。クライアント/サーバーシステムでは、SLUCONDB は TAPEPLEX パラメータを使用して、別のホスト上の HSC システムにアクセスして、CDS データを取得し、UUI スクラッチトランザクションを送信できます。

警告:

- SLUCONDB は、ほかの SCRATCH、UNSCRATCH、REPLACEALL アクティビティとともに実行しないでください。
 - SLUCONDB モジュールはすでにソースとして配布されていません。スクラッチ処理を、SLUCONDB でサポートされていないテープ管理システムと同期させる場合は、配布された SLUCONDB テープ管理インタフェースモジュールのいずれかを、SLUDRINF インタフェース形式を使用するように変更してください。
-

入力形式

SLUCONDB は、プログラムパラメータを使用して、呼び出すテープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチンを決定します。これらのルーチンの詳細は、[付録 C 「テープ管理システムインタフェース \(SLUDR*\) ルーチン」](#)を参照してください。

SLUCONDB ユーティリティを実行するときに、JCL EXEC 文で PARM パラメータを使用して、SLUCONDB 入力値を指定できます。次のいずれかの形式を使用できます。

- キーワード形式
- 位置形式

次の点を考慮してください。

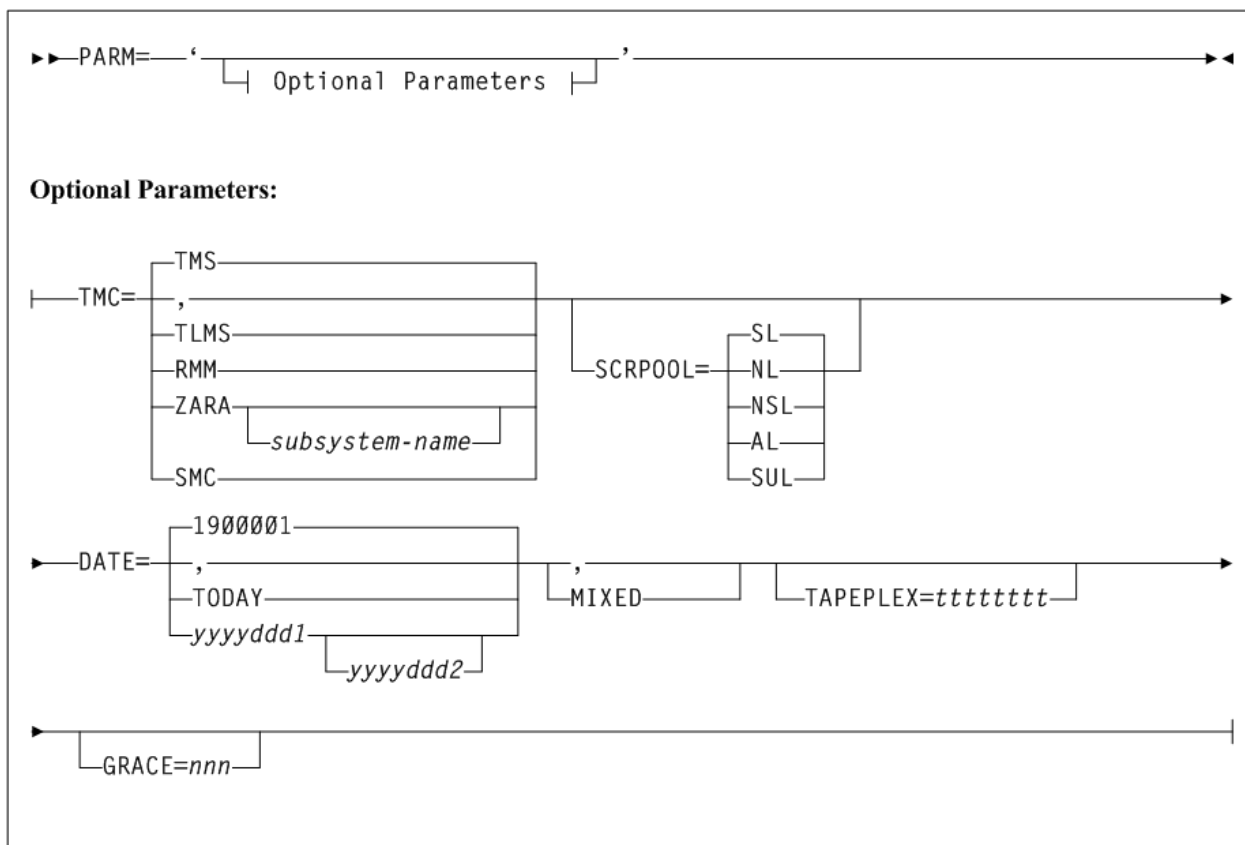
- GRACE パラメータは、キーワード形式を使用した場合にのみ使用できます。
- LIBONLY パラメータは、位置形式を使用した場合にのみ使用できます。

キーワード形式

次のセクションでは、*PARM* パラメータのキーワード形式用の構文およびパラメータについて説明します。

構文

図5.2 SLUCONDB PARM パラメータの構文 (キーワード形式)



パラメータ

キーワード形式を使用する場合は、次の構文規則に従います。

- キーワードと値は、「=」で区切る必要があります (*MIXED* キーワードは値を取らないため除く)。
- キーワード間の余分なカンマは使用できません。たとえば、*PARM='TMC=TMS,,MIXED'* は無効です。

- 重複したキーワードは使用できません。

有効なパラメータは次のとおりです。

PARM=

JCL の *PGM* パラメータで示されているプログラムから、後続のパラメータにアクセスできるように指定します。

PARM のデフォルトは次のとおりです。

- TMS
- すべてのラベルタイプ
- スクラッチの適格性は 1900 年 1 月 1 日から始まり、現在のシステム日に終わる
- 大文字のみ
- スクラッチトランザクションを生成します (直接更新はなし)。

TMC=

オプションで、テープ管理システムを指定します。例:

- *TMS* は、CA-1 テープ管理システム (TMS) を指定します。これがデフォルトです。
- *TLMS* はオプションで、TLMS: CA-DYNAM/TLMS テープ管理システムを指定します。
- *RMM* はオプションで、DFSMSrmm テープ管理システムを指定します。
- *SMC* はオプションで、SMC ユーティリティ *SMCUBX* からの抽出ファイルを指定します。

SMC を指定した場合、ラベルおよび日付パラメータは使用できません。(ラベルおよび日付の選択は、SMC ユーティリティが抽出ファイルを作成するときに実行します)。

- *ZARA* はオプションで、ZARA テープ管理システムを指定します。

subsystem-name はオプションのサブシステム名です。

SCRPOOL=

オプションで、ライブラリが使用するスクラッチプールのラベルタイプを指定します。有効なラベルタイプ値は次のとおりです。

- (*SL*) は標準ラベルを示します (デフォルト)。
- (*NL*) はラベルなしを示します。
- (*NSL*) は非標準ラベルを示します。

- (AL) は ANSI ラベルを示します。
- (SUL) は標準ユーザーラベルを示します。

DATE=

オプションで、ボリュームが TMC でスクラッチ化された日付または日付範囲を示します。

- 1900001 はオプションで、1900 年 1 月 1 日を日付として指定します。これがデフォルトです。
- TODAY はオプションで、現在のシステム日を示します。この日付にスクラッチステータスになったボリュームだけが処理されます。
- yyyyddd1 はオプションで、「開始」日付を指定します。「終了」日付はデフォルトで現在のシステム日になります。指定する日付はすべてユリウス歴表記です。

yyyyddd1 の日から今日の日付までにスクラッチステータスになったすべてのボリュームが処理されます。

- yyyyddd1-yyyyddd2 はオプションで、ボリュームがスクラッチ化する日付範囲を指定します。これらの日付のどちらも、現在のシステム日付よりもあとにすることはできません。

yyyyddd1 の日から yyyyddd2 の日までにスクラッチステータスになったボリュームがすべて処理されます。

MIXED

オプションで、大文字と小文字が混在した表記ですべての見出しとメッセージを印刷するように指定します。

注:

カンマを指定した場合、またはこのキーワードを指定しない場合、システムはデフォルトで大文字になります。

TAPEPLEX=

オプションで、CDS ボリュームを抽出し、UUI スクラッチコマンドを実行するために使用する SMC TapePlex の名前を指定します。

tttttttt は TapePlex 名です。

指定した TapePlex は、SLUCONDB と同じホスト上で稼働しているローカル HSC である場合も、.SMC クライアントサーバー機能からアクセスされる別のホスト上の HSC サブシステムである場合もあります。TAPEPLEX パラメータを指

定するには、*SLUCONDB* ホスト上のアクティブな SMC システムと、TapePlex に対するアクティブな HSC システムが必要であり、APF 許可ライブラリから *SLUCONDB* を実行することが必要になります。

GRACE=

オプションで、スクラッチ適格性に猶予期間 (時間単位) を指定します。猶予期間以下の、*SLUCONDB* 実行の開始後にアクセスされたボリュームは、スクラッチの対象になりません。

nnn は、0 から 999 の 1 から 3 桁の数値で、時間単位で猶予期間を示します。

位置形式

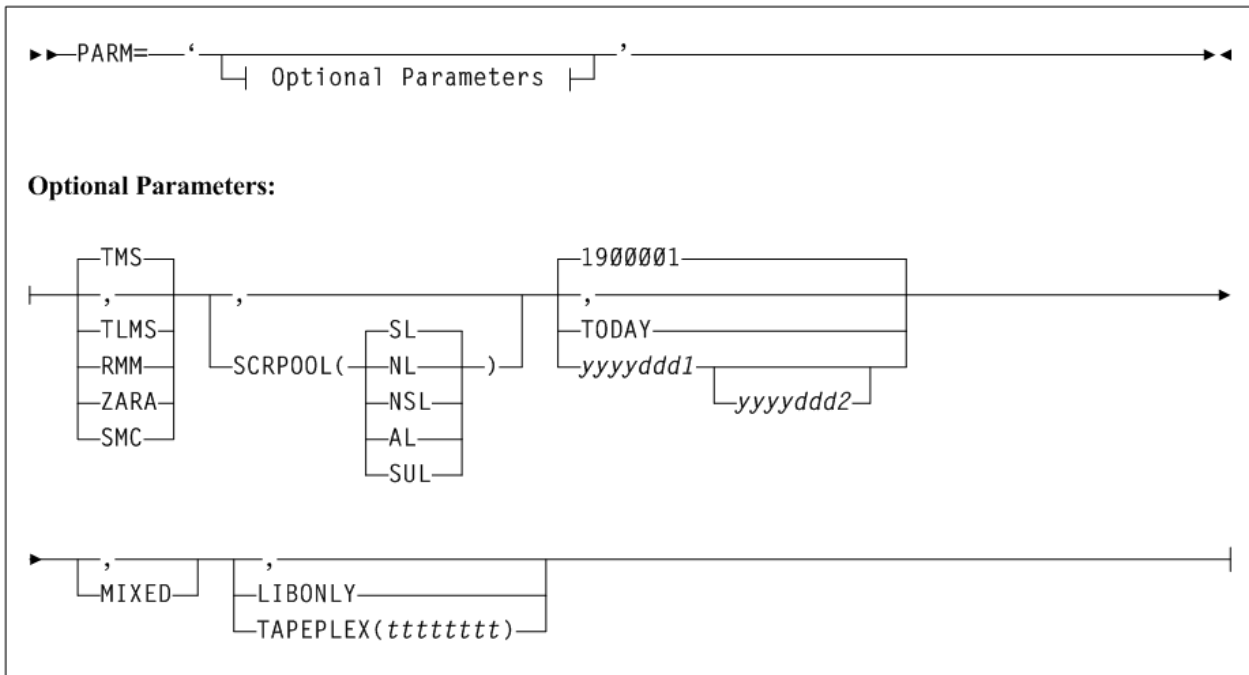
次のセクションでは、*PARM* パラメータの位置形式用の構文およびパラメータについて説明します。

構文

注:

指定した順序でパラメータを入力し、省略したパラメータの代わりにカンマを含める必要があります。

図5.3 SLUCONDB PARM パラメータ構文 (位置形式)



パラメータ

PARM=

JCL の PGM パラメータで示されているプログラムから、後続のパラメータにアクセスできるように指定します。

PARM のデフォルトは次のとおりです。

- TMS
- すべてのラベルタイプ
- スクラッチの適格性は 1900 年 1 月 1 日から始まり、現在のシステム日に終わる
- 大文字のみ
- スクラッチトランザクションを生成します (直接更新はなし)。

PARM のキーワードは位置に関するものです。システムのデフォルトを受け入れる場合は、PARM を指定しないか、「PARM=」をコーディングしないでください。

TMS

オプションで、CA-1 テープ管理システム (TMS) を指定します。これがデフォルトです。

TLMS

オプションで、TLMS: CA-DYNAM/TLMS テープ管理システムを指定します。

RMM

オプションで、DFSMSrmm テープ管理システムを指定します。

ZARA

オプションで、ZARA テープ管理システムを指定します。

SMC

オプションで、SMC ユーティリティ *SMCUBX* からの抽出ファイルを指定します。

SMC を指定した場合、ラベルおよび日付パラメータは使用できません。(ラベルおよび日付の選択は、SMC ユーティリティが抽出ファイルを作成するときに行われます)。

SCRPOOL

オプションで、ライブラリが使用するスクラッチプールのラベルタイプを指定します。有効なラベルタイプ値は次のとおりです。

- (SL) は標準ラベルを示します (デフォルト)。
- (NL) はラベルなしを示します。

- (NSL) は非標準ラベルを示します。
- (AL) は ANSI ラベルを示します。
- (SUL) は標準ユーザーラベルを示します。

日付関連パラメータ

次の日付関連パラメータは、ボリュームが TMC でスクラッチ化した日付または日付範囲を指定します。

1900001

オプションで、日付として 1900 年 1 月 1 日を指定します。これがデフォルトです。

TODAY

オプションで、現在のシステム日を示します。この日付にスクラッチステータスになったボリュームだけが処理されます。

yyyyddd1

オプションで、「開始」日付を示します。「終了」日付はデフォルトで現在のシステム日になります。指定する日付はすべてユリウス歴表記です。

yyyyddd1 の日から今日の日付までにスクラッチステータスになったすべてのボリュームが処理されます。

yyyyddd1-yyyyddd2

オプションで、ボリュームがスクラッチ化される日付範囲を示します。これらの日付のどちらも、現在のシステム日付よりもあとにすることはできません。

yyyyddd1 の日から yyyyddd2 の日までにスクラッチステータスになったボリュームがすべて処理されます。

MIXED

オプションで、大文字と小文字が混在した表記ですべての見出しとメッセージを印刷するように指定します。

注:

カンマを指定した場合、またはこのキーワードを指定しない場合、システムはデフォルトで大文字になります。

LIBONLY

オプションで、UUI インタフェースインタフェースを通じてボリュームがスクラッチステータスになるように指定します。LIBONLY を指定するには、アクティブな HSC が必要であり、APF 許可ライブラリから SLUCONDB を実行することが必要です。

TAPEPLEX

オプションで、CDS ボリュームを抽出し、UI スクラッチコマンドを実行するために使用する SMC TapePlex の名前を指定します。

`tttttttt` は TapePlex 名です。

指定した TapePlex は、*SLUCONDB* と同じホスト上で稼働しているローカル HSC である場合も、.SMC クライアントサーバー機能からアクセスされる別のホスト上の HSC サブシステムである場合もあります。*TAPEPLEX* パラメータを指定するには、*SLUCONDB* ホストでのアクティブな SMC システムと、TapePlex 用のアクティブな HSC システムが必要であり、APF 許可ライブラリから *SLUCONDB* を実行する必要があります。

JCL の要件

次の定義が *SLUCONDB* JCL に適用されます。

SLSTMS

CA-1 TMC、CA-DYNAM/TLMS Volume Master File (VMF)、または *DFSMSrmm* レポート抽出ファイルのいずれかの形式でユーティリティに入力します。この文は必須です。

SLSSOUT

スクラッチ更新ユーティリティ制御文を指定するユーティリティからの出力。*LIBONLY* も *TAPEPLEX* も指定されていない場合に、この文が必要です。

JCL で「*DSN=*」に一時的または永続的データセットを指定する場合、適切な DCB 情報 (つまり *LRECL=72*) を含める必要があります。

SLSPRINT

ユーティリティプログラムからの出力メッセージ。この文は必須です。

注:

スクラッチ変換ユーティリティは、UI を使用して、ボリュームと VTV レコードを CDS から抽出します。UI は、JCL の文からの、またはアクティブな HSC からデータセット情報を取得することによる、CDS への読み取りアクセスを必要とします。アクティブな HSC が同じシステム上で実行している場合は、*SLSCNTL*、*SLSCNTL2*、および *SLSSTBY DD* 文はオプションです。*SLSCNTL*、*SLSCNTL2*、および *SLSSTBY DD* 文は、*LIBONLY* パラメータか *TAPEPLEX* パラメータのどちらかが指定されている場合には許可されません。

SLSCNTL

プライマリ制御データセット。この文はオプションです。

SLSCNTL2

セカンダリ制御データセット。この文はオプションです。

SLSSTBY

スタンバイ制御データセット。この文はオプションです。

JCL の例

次の例は、スクラッチトランザクションの生成と、HSC CDS の直接的な更新の両方について説明しています。

次の例で「*your.sea.smp/e.loadlib*」と呼ばれているライブラリは、ELS のインストール中に生成される *SEALINK* ライブラリを指しています。このライブラリには、TMS インタフェース (*SLUDR**) モジュールが含まれています。これらのモジュールを再アセンブルする場合、このライブラリはリンクエディットの出力です。

注:

UNIT、*SPACE*、および *DCB* パラメータ設定はユーザーが決定します。

例5.4 アクティブな HSC で TMS データベースを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,
//          PARM=('TLMS,,MIXED')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSSOUT DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(NEW,PASS),
//          UNIT=,SPACE=,DCB=
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//STEP2 EXEC PGM=SLUADMIN,COND=(4,LT,STEP1),PARM=MIXED
//SLSIN DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(OLD,DELETE)
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

例5.5 HSC CDS DDname で TMS データベースを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,
//          PARM=('',2009100-2009110,MIXED')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSSOUT DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(NEW,PASS),
//          UNIT=,SPACE=,DCB=
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//SLSCNTL DD DSN=primary.control.dataset,DISP=SHR
//SLSCNTL2 DD DSN=secondary.control.dataset,DISP=SHR
//SLSSTBY DD DSN=standby.control.dataset,DISP=SHR
//*
//STEP2 EXEC PGM=SLUADMIN,COND=(4,LT,STEP1),PARM=MIXED
//SLSIN DD DSN=&&SCUPINPT,DISP=(OLD,DELETE)
```

```
//SLSPRINT DD SYSOUT=A
//
```

例5.6 DFSMSrmm データベースを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=EDGHSKP,PARM='RPTXT,DATEFORM(J)'
//MESSAGE DD DSN=rmm.message.dataset,DISP=SHR
//REPTXT DD DSN=rmm.report.extract,DISP=SHR
//*
//STEP2 EXEC PGM=SLUCONDB,
// PARM=('RMM,,,MIXED,LIBONLY')
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=rmm.report.extract,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

例5.7 SMC 抽出ファイルを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,PARM='SMC,,,MIXED,LIBONLY'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DISP=SHR,DSN=your.smc.extract.file
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

例5.8 SMC からリモート TapePlex までを処理する JCL

```
//JOBSCUP JOB (account),programmer
//STEP1 EXEC PGM=SLUCONDB,
// PARM=',,,MIXED,TAPEPLEX(PRODPLX)'
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=your.sea.smp/e.loadlib
//SLSTMS DD DSN=TMS.MASTER.FILE,DISP=SHR
//SLSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

出力の説明

SLUCONDB 出力には次の内容が含まれます。

- 構文エラーが発生した場合の、入力コマンドと適切なメッセージのリスト
- SLUCONDB プロセスでのエラーに関連付けられたメッセージ
- ボリュームのスクラッチの試行が失敗した結果生じたエラー状況に関連付けられたメッセージ (LIBONLY または TAPEPLEX パラメータを使用)
- スクラッチ入力トランザクション (LIBONLY も TAPEPLEX も指定されていない場合)。

次の例では、LIBONLY も TAPEPLEX も指定しない場合のスクラッチ変換ユーティリティの出力を示しています。

例5.9 スクラッチ変換ユーティリティの出力 (LIBONLY も TAPEPLEX もない場合)

```
StorageTek Enterprise Library Software Scratch Conversion Utility Page 00001
Time 12:15:39 Date 2010-03-31
SLS4723I Volume (VTV) 400021 used after SLUCONDB start or TODATE
SLS0286I 000005 volumes have been selected
SLS0155I Condition code for utility function is 0
```

次の例は、*LIBONLY* または *TAPEPLEX* を指定した場合のスクラッチ変換ユーティリティの出力を示しています。

例5.10 スクラッチ変換ユーティリティの出力 (LIBONLY または TAPEPLEX がある場合)

```
StorageTek Enterprise Library Software Scratch Conversion Utility Page 00001
Time 12:15:39 Date 2010-03-31

SLS2321I Volume A00020 successfully added to VSM as scratch
SLS2321I Volume A00023 successfully added to VSM as scratch
SLS0167I Volume FB2110 successfully added to library as scratch
SLS0167I Volume TIM021 successfully added to library as scratch
SLS2280I Volume 400021 selected after SCRATCH command USETOKN
SLS1312I 000004 volumes successfully scratched
SLS0155I Condition code for utility function is 4
```

第6章 VTCS スタンドアロンユーティリティー

この章では、VTCS スタンドアロンユーティリティーについて説明します。これらのユーティリティーは、共通のユーティリティー管理者プログラム (*SLUADMIN*) を使用して発行されません。

RTV ユーティリティー

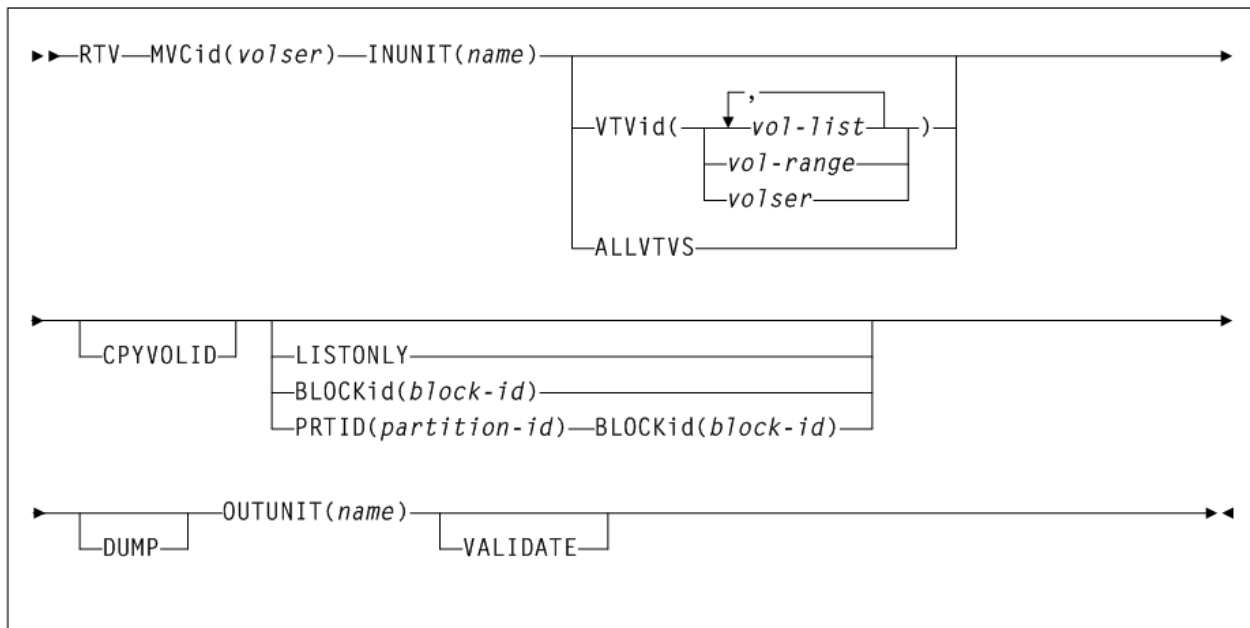
RTV ユーティリティーは、MVC に含まれる VTV をボリューム (実テープボリューム) のデータセットに変換します。このユーティリティーは、*SWSRTV* プログラムを使用して実行するスタンドアロンユーティリティーです。

このユーティリティーを使用する場合の詳細は、『*HSC* および *VTCS* の管理』を参照してください。

構文

図6.1 「RTV ユーティリティーの構文」は、RTV ユーティリティーの構文を示しています。

図6.1 RTV ユーティリティの構文



パラメータ

図6.1「RTV ユーティリティの構文」に示すように、RTV ユーティリティには次のパラメータが含まれます。

MVCid

VTV の実テープバージョンになるボリュームに RTV が変換する VTV を含む MVC を指定します。

volser は MVC *volser* を示します。

INUNIT

入力テープユニットの割り当てに使用する名前を指定します。MSP ユニットアドレス、エソテリック名、または汎用名を指定できます。有効な値は *UNIT= JCL* パラメータの場合と同じです。

name はユニット名を示します。

VTVID

オプションで、変換する 1 つ以上の VTV を指定します。

volser、*vol-range*、または *vol-list* は 1 つ以上の VTV の *volser* を示します。

ALLVTVS

オプションで、指定した MVC 上のすべての VTV の最新のコピーを変換します。つまり、指定した MVC に VTV のコピーが複数ある場合、RTV は VTV の最新のコピーだけを変換します。

注:

VTVid と ALLVTVS は相互に排他的です。

CPYVOLID

オプションで、VTV から出力ボリューム VOL1 レコードに VTV 内部 volser をコピーします。デフォルトでは内部 volser をコピーしません。

注意:

CPYVOLID パラメータは慎重に使用してください。出力テープの volser は、VTV の volser に変更されます。出力テープに外部ラベルがある場合、または出力が別の VTV に送信される場合は、ラベルの不一致が発生し、予測できず望ましくない結果をもたらす可能性があります。

注:

- 出力テープにラベルがない場合、または非標準のテープラベルが付いている場合は、この VTV の圧縮解除に CPYVOLID が自動的に指定され、出力デバイス上に標準ラベルテープが作成されます。
- RTV は、標準または ANSI ラベルで作成された VTV をサポートします。CPYVOLID を指定しない場合、RTV はこれらのラベルタイプを、表6.1「RTV ラベルタイプ」で説明されているように処理します。これは、VOL1 レコードにのみ適用されます。HDR1/HDR2 ラベルは常に、VTV が処理されるごとに、RTV によって VTV からコピーされます。

次の表に、RTV ラベルタイプを一覧表示します。

表6.1 RTV ラベルタイプ

VTV ラベルタイプ	標準ラベル出力	ANSI ラベル出力	ラベルなし出力
標準ラベル	VOL1 ラベルはコピーされません	WTOR が発行されます	VOL1 ラベルがコピーされます
ANSI ラベル	WTOR が発行されます	VOL1 ラベルはコピーされません	VOL1 ラベルがコピーされます

表6.1「RTV ラベルタイプ」で WTOR は次のとおりです。

SWSRTV - Label mismatch - Reply RELABEL, RETRY, or CANCEL

オペレータの応答により次の結果が生じます。

- **RELABEL** は、RTV を圧縮解除し、出力ボリュームの **volser** を上書きするよう指定します。
- **RETRY** は、別の出力ボリュームをマウントし、操作を再試行するよう指定します。
- **CANCEL** は、RTV を圧縮解除するよう指定します。

LISTONLY

オプションで、指定した MVC 上の VTV を一覧表示します (ただし変換はしません)。詳細は、「[RTV LISTONLY の一覧表示](#)」を参照してください。

BLOCKID

オプションで、MVC 上での VTV の開始位置である論理ブロック ID を指定します。

block-id は、論理ブロック ID (8 桁の 16 進数) です。

注:

- **BLOCKID** と **LISTONLY** は相互に排他的です。さらに、**ALLVTVs** パラメータを指定する場合や、VTV のリストまたは範囲を指定した場合は、**BLOCKid** パラメータは無視されます。
- **BLOCKid** 値を指定しない場合、大容量のメディアでは実行時間が非常に長くなる可能性があります。**BLOCKid** は、MVC 上の VTV への高速な位置指定に使用されます。
- 777 ページの「[RTV LISTONLY の一覧表示](#)」に示された **LISTONLY** パラメータは、VTV をボリュームに変換する場合の RTV ユーティリティへの入力として使用できるブロック ID の値を提供します。

PRTID

オプションで、パーティション分割した MVC から回復される VTV のパーティション ID を指定します。

partition-id は、16 進数のパーティション ID です。

注:

- **PRTID** を指定した場合、**BLOCKid** も指定する必要があります。
- **PRTID** と **LISTONLY** は相互に排他的です。さらに、**ALLVTVs** パラメータを指定する場合や、VTV のリストまたは範囲を指定した場合は、**BLOCKid** パラメータは無視されます。

DUMP

RTV が VTV を圧縮解除できない場合に、**S0C3** 異常終了ダンプを生成します。**DUMP** を指定した場合、ダンプを取得する **SYSDUMP DD JCL** 文を作成します。

OUTUNIT

出力テープユニットを割り当てるために使用する名前。MSP ユニットアドレス、エソテリック名、または汎用名を指定できます。有効な値は *UNIT=JCL* パラメータの場合と同じです。このパラメータは、*LISTONLY* を指定していない場合に必須です。

name はユニット名です。

VALIDATE

RTV ユーティリティが、出力テープを作成せずに指定した VTV を正しく処理できるか検証します。

JCL の要件

次に、RTV ユーティリティ JCL の必須またはオプション文を示します。

STEPLIB

RTV モジュールを含むリンクライブラリ (*SEALINK*) を指定します。

SLSPRINT

RTV ユーティリティレポートの出力先を指定します。

SLSIN

SWSRTV プログラムへの入力 (RTV ユーティリティ名およびパラメータ) を指定します。

SYSDUMP

ダンプを取得するオプションの DD。

注:

RTV ユーティリティは、出力ユニットでテープ標準ラベルを書き換え、入力ユニットでラベル情報の位置を指定できる必要があるため、動的割り当ては、テープボリューム上にラベル処理のバイパス機能 (BLP) を呼び出します。この操作を行うには、*SWSRTV* 実行可能コードを含むライブラリが APF 許可されていなければなりません。

RTV ユーティリティレポートメッセージ

RTV レポートには、次のメッセージが表示されます。

Block number too large in compressed data

説明: VTV の処理中、圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Chunked record logic error

説明: VTV のチャンクデータレコードの処理中にエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Decompress invalid length parameter

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Decompress invalid parameter list

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Decompress logic error

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Decompress pointer to work area is zero

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Dynamic allocation error.Reason Code = xxxx-xxxx

説明: *INUNIT* または *OUTUNIT* デバイスの動的な割り当てを試行しているときに、エラーが発生しました。動的割り当て理由コードの説明については、富士通 *MSP* 承認アセンブラサービスガイドを参照してください。

I/O error on input MVC

説明: MVC の読み取り中に I/O エラーが発生しました。以降の処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

I/O error on output volume

説明: 出力 VTV の書き込み中に、I/O エラーが発生しました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート* の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます

Invalid compressed data block read

説明: これは、この VTV の処理中に、無効なデータレコードが見つかったことを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート* の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Invalid VTV page number encountered

説明: VTV の処理中、圧縮されたデータレコードでレコードシーケンスエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート* の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Invalid VTV record encountered

説明: VTV の処理中、圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート* の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

MVC volser # does not match requested volser #

説明: 入力 MVC としてマウントされたボリュームが、*MVCid()* パラメータで要求されたものと一致しませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

MVC record length error

説明: VTV の処理中、圧縮されたデータレコードで長さエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート* の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Incorrect algo byte

説明: VTV の処理中、圧縮されたデータレコードでエラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート*の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

No HDR1 record found for requested VTV

説明: *BLOCKid()* 文による位置指定に従っても、目的の位置に *HDR1* レコードがありませんでした。*BLOCKid* 文を削除して、ユーティリティを再実行してください。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

No HDR1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに *HDR1* レコードがありませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

No UHL1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに *UHL1* レコードがありませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

No VOL1 record found on input MVC

説明: MVC としてマウントされたボリュームに *VOL1* レコードがありませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

NULL input buffer pointer

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート*の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

NULL output buffer pointer

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、*RTV 圧縮解除レポート*の出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Requested VTV not found on MVC

説明: *VTVid()* パラメータで要求された *volser* が MVC で見つかりませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

Spanned length final error

説明: VTV のスパンデータレコードの処理中に、エラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Spanned length intermediate error

説明: VTV のスパンデータレコードの処理中に、エラーが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Unexpected request on input I/O

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。以降の処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

Unexpected end of tape on output volume

説明: 出力 VTV の書き込み中に、テープ終了通知が発生しました。VTV は、単一の出力ボリュームに完全に収める必要があります。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Unexpected request on output I/O

説明: これはプログラムの論理エラーを示します。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

Unexpected tape mark on input MVC

説明: MVC で予想外のテープマークが見つかりました。以降の処理は停止します。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

VTVid range parameter is invalid

説明: VTVid() の指定で無効な範囲の値が見つかりました。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。

VTV logical data check encountered

説明: VTV の処理中、圧縮データレコードでデータチェックインジケータが見つかりました。この VTV の以降の処理は停止します。VTV は、RTV 圧縮解除レポートの出力でマークが付けられます。ユーティリティは、必要に応じてほかの VTV の処理を続けます。

VTV volser # does not match requested volser #

説明: BLOCKid 文による位置指定に従っても、VTV volser は VTVid() パラメータで要求されたものと一致しませんでした。ユーティリティは、リターンコード 12 を返して終了します。BLOCKid 文を削除して、ユーティリティを再実行してください。

RTV LISTONLY の一覧表示

次の例は、LISTONLY パラメータを指定した場合に RTV が生成する一覧表示を示します。

例6.1 RTV LISTONLY の一覧表示

```

SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility          PAGE 0001
TIME 14:28:33          Control Card Image Listing          DATE 12/01/15
RTV MVC(C83107) LISTONLY

SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility          PAGE 0002
TIME 14:28:33          MVC C83107 Contents Report          DATE 12/01/15

VTV      File  Block      <---Created--->          <---Migrated--->          VTRPAGE  VTV
volser   #     ID         Date      Time      Date      Time      Size     Status
VV6825  1     00000000  2015Nov30 12:07:56 2015Nov30 12:15:56 Large
VV6863  2     92005F0F  2015Sep27 12:57:54 2015Sep27 12:59:54 Large
VV6893  3     92005F18  2015Aug18 08:57:26 2015Aug18 08:59:26 Large
VV0403  4     92005F21  2015Aug18 08:57:26 2015Aug18 08:59:26 Large

```

このレポートには、VTV に関する次の情報が一覧表示されます。

- Volser
- MVC 上の論理ファイル番号
- MVC 上のブロック ID
- 作成および移行した時間
- VTRPAGE サイズ - STANDARD または LARGE
- ステータス - Not Current、または空白の場合は VTV は最新です

RTV 圧縮解除の一覧表示

次の例は、*LISTONLY* パラメータを指定しない (つまり、*RTV* を実行して *VTV* をボリュームに変換する) 場合に *RTV* が生成する一覧表示を示しています。

例6.2 RTV 圧縮解除の一覧表示

```
SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility          PAGE 0001
TIME 14:28:33          Control Card Image Listing          DATE 12/01/15
RTV MVC(C8228) VTV(VV6800-VV6900) CPYVOLID
```

```
SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility          PAGE 0002
TIME 14:28:33          MVC C83223 Contents Report          DATE 12/01/15
```

VTV	File	Block	<---Created--->		<---Migrated--->		VTVPAGE	VTV
volser	#	ID	Date	Time	Date	Time	Size	Status
VV6070	1	00000000	2015Nov30	12:07:56	2015Nov30	12:15:56	Large	
VV0874	2	2B001384	2015Sep27	12:57:54	2015Sep27	12:59:54	Large	
VV0772	3	A3002707	2015Aug18	08:57:26	2015Aug18	08:59:26	Large	
VV6828	4	9B002AB9	2015Aug18	08:57:26	2015Aug18	08:59:26	Large	Not current
VV6828	5	9B002AC2	2015Aug18	08:57:26	2015Aug18	08:59:26	Large	
VV6826	6	9B002ACB	2015Aug18	08:57:26	2015Aug18	08:59:26	Large	

```
SWSRTV          (1.0.0)          StorageTek VTCS RTV Utility          PAGE 0003
TIME 14:28:33          MVC C83223 Contents Report          DATE 12/01/15
```

VTV	Mounted	Final	Decompress
volser	Volser	Volser	Status
VV6826	XX0772	VV6826	Successful
VV6828	XX0773	VV6828	Successful

136 ページの図 67 に示された内容フィールドに加え、137 ページの図 68 に示された圧縮解除のリストに *VTV* が一覧表示されます。

- 最初にマウントされた出力ボリュームの *volser*
- 出力ボリュームの最終的な *volser*。 *CPYVOLID* を指定した場合は、最終的な *volser* は *VTV volser* と同一で、それ以外の場合、最終的な *volser* は最初にマウントしたときの出力ボリュームの *volser* と同一になります。
- 圧縮解除のステータス

付録A MEDia、RECtech、および MODEl の値

この付録では、MEDia、RECtech、および MODEl パラメータの値を示します。これらのパラメータにより、トランスポートとメディアの特性を指定できます。それらは、さまざまな VM Client コマンドおよび TMI リクエストで指定されます。

注:

- SL8500 ライブラリは T9840A/B/C/D、T9940B、LTO、SDLT、および T10000A/B/C メディアタイプと記録技法のみをサポートしています。
- SL3000 ライブラリは、T9840C/D、LTO、SDLT、および T10000A/B/C メディアタイプと記録技法のみをサポートしています。
- LTO および SDLT ドライブは MSP 環境でサポートされません。これらのドライブは、HSC によって認識されますが、LibraryStation を使用したオープンシステムクライアントからのみアクセスできます。

メディアタイプ (MEDia)

メディアタイプ、つまり MEDia により、データセットに使用される目的のメディアのタイプを指定できます。次の VM Client コマンドおよび TMI 要求で指定されます。

- MOUNT コマンド
- QDRLIST TMI リクエスト
- QSCRATCH TMI リクエスト
- SELSCR TMI リクエスト

次の表に、有効なメディアタイプについて説明します。

表A.1 メディアタイプ

メディアタイプ	説明
LONGitud	任意の標準または拡張 (ECART) 容量カートリッジを示します。
ZLONGI	標準、拡張 (ECART)、または追加拡張 (ZCART) 容量カートリッジを示します。

メディアタイプ	説明
<i>Standard</i>	標準長、3480 カートリッジを示します。任意の水平方式のドライブ (4480、4490、9490、9490EE) で読み取ることができます。データは、36トラックモードで4490、9490、または9490EEドライブに書き込むことができますが、18トラック (4480) ドライブでは読み取ることができません。同義語には、 <i>CST</i> 、 <i>MEDIA1</i> 、 <i>STD</i> 、 <i>1</i> 、および <i>3480</i> が含まれます。
<i>ECART</i>	3490E、拡張容量カートリッジを示します。36トラックドライブ (4490、9490、9490EE) でのみ使用できます。同義語には、 <i>E</i> 、 <i>ECCST</i> 、 <i>ETAPE</i> 、 <i>Long</i> 、 <i>MEDIA2</i> 、 <i>3490E</i> が含まれます。
<i>ZCART</i>	3490E、追加拡張容量カートリッジを示します。9490EE ドライブでのみ使用できます。 <i>ZCART</i> は <i>Z</i> と短縮できます。
<i>Virtual</i>	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。
<i>HELical</i>	<p>ヘリカルカートリッジを示します。ヘリカルカートリッジは RedWood ドライブでのみ使用できます。次のサブタイプと短縮形はヘリカルカートリッジを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>DD3</i> は任意の <i>DD3A</i>、<i>DD3B</i>、または <i>DD3C</i> ヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3A</i> または <i>A</i> は 10G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3B</i> または <i>B</i> は 25G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 • <i>DD3C</i> または <i>C</i> は 50G バイトメディア容量のヘリカルカートリッジを示します。 <p>外部ラベルの 7 番目の位置は、カートリッジタイプ (つまり、<i>A</i>、<i>B</i>、または <i>C</i>) でエンコードされます。</p>
<i>STK1</i>	任意の T9840 カートリッジを示します。
<i>STK1R</i>	T9840 データカートリッジを示します。外部ラベル内のメディアインジケータは、カートリッジタイプ (<i>R</i>) でエンコードされます。 <i>STK1R</i> は <i>R</i> と短縮できます。

メディアタイプ	説明
	T9840 カートリッジのメディア容量は 20G バイト (T9840A および T9840B)、40G バイト (T9840C)、または 75G バイト (T9840D) です。
STK1U	T9840A、T9840B、または T9840C クリーニングカートリッジを示します。STK1U は U と短縮できます。
STK1Y	T9840D クリーニングカートリッジを示します。STK1Y は Y と短縮できます。
STK2	任意の T9940 カートリッジを示します。
STK2P	T9940 データカートリッジを示します。STK2P は P と短縮できます。
	T9940 カートリッジのメディア容量は 60G バイト (T9940A) または 200G バイト (T9940B) です。
STK2W	T9940 クリーニングカートリッジを示します。STK2W は W と短縮できます。
T10000T1	全容量 500G バイト T10000A または 1T バイト T10000B カートリッジを示します。T10000T1 は T1 と短縮できます。
T10000TS	少ない容量の 120G バイト T10000A または 240G バイト T10000B カートリッジを示します。T10000TS は TS と短縮できます。
T10000CT	T10000A または T10000B クリーニングカートリッジを示します。T10000CT は CT と短縮できます。
T10000T2	全容量 5T バイト T10000C カートリッジを示します。T10000T2 は T2 と短縮できます。
T10000TT	少ない容量の 1T バイト T10000C カートリッジを示します。T10000TT は TT と短縮できます。
T10000CL	T10000A、T10000B、または T10000C クリーニングカートリッジを示します。T10000CL は CL と短縮できます。

注:

- T10000C ドライブは *T10000T1* または *T10000TS* メディアを読み取ることはできますが、そのメディアに書き込むことはできません。
- T10000C ドライブは *T10000T2* または *T10000TT* メディアにのみ書き込むことができます。

MEDia パラメータが指定されていない場合、デフォルトは *RECtech* パラメータの値に基づいて選択されます。次の表に、*MEDia* が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

表A.2 メディアタイプのデフォルト

入力された <i>RECtech</i>	<i>MEDia</i> のデフォルト
<i>18track</i>	<i>Standard</i>
<i>36track</i> 、 <i>36Atrack</i> 、 <i>36Btrack</i>	<i>LONGitud</i>
<i>36Ctrack</i>	<i>ZLONGI</i>
<i>LONGitud</i>	<i>LONGitud</i>
<i>DD3</i> 、 <i>Helical</i>	<i>DD3A</i>
<i>STK1R</i> 、 <i>STK1R34</i> 、 <i>STK1R35</i> 、 <i>STK1RA</i> 、 <i>STK1RA34</i> 、 <i>STK1RA35</i> 、 <i>STK1RB</i> 、 <i>STK1RB34</i> 、 <i>STK1RB35</i> 、 <i>STK1RAB</i> 、 <i>STK1RAB34</i> 、 <i>STK1RAB35</i> 、 <i>STK1RC</i> 、 <i>STK1RC34</i> 、 <i>STK1RC35</i> 、 <i>STK1RD</i> 、 <i>STK1RDE</i> 、 <i>STK1RDN</i> 、 <i>STK1RD34</i> 、 <i>STK1RD35</i> 、 <i>STK1RDE4</i> 、 <i>STK1RDE5</i>	<i>STK1R</i>
<i>STK2P</i> 、 <i>STK2P34</i> 、 <i>STK2P35</i> 、 <i>STK2PA</i> 、 <i>STK2PA34</i> 、 <i>STK2PA35</i> 、 <i>STK2PB</i> 、 <i>STK2PB34</i> 、 <i>STK2PB35</i>	<i>STK2P</i>
<i>T10K</i> 、 <i>T10KN</i> 、 <i>T10KE</i> 、 <i>T10KA</i> 、 <i>T10KAN</i> 、	<i>T10000T1</i>

入力された RECtech	MEDia のデフォルト
---------------	--------------

<p>T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、 T10KC、T10KCN、 T1C34、T1C35、T10KCE、 T1CE34、T1CE35</p>	
---	--

注:

- T10000C ドライブは T10000T1 または T10000TS メディアを読み取ることはできますが、そのメディアに書き込むことはできません。
- T10000C ドライブは T10000T2 または T10000TT メディアにのみ書き込むことができます。

記録技法 (RECtech)

記録技法、つまり *RECtech* により、目的のデータセットについて、テープ面にデータトラックを記録するための方法を指定できます。これは次の VM Client TMI 要求で指定されます。

- *QDRLIST*
- *QSCRATCH*
- *SELSCR*

次の表に、有効な記録技法について説明します。

表A.3 記録技法

記録技法	説明
<i>LONGitud</i>	水平記録方式を使用する任意のデバイスを示します。デバイスには 4480、4490、9490 および 9490EE ドライブが含まれます。
<i>18track</i>	4480 ドライブを示します。
<i>36track</i>	4490、9490、または 9490EE ドライブ (36 トラックモードで記録する任意のデバイス) を示します。
<i>36Atrack</i>	4490 (Silverton) ドライブを示します。
<i>36Btrack</i>	9490 (TimberLine) ドライブを示します。
<i>36Ctrack</i>	9490EE ドライブを示します。
<i>HELical</i>	ヘリカル記録を使用するデバイスを示します。

記録技法	説明
<i>DD3</i>	ヘリカル記録を使用するデバイスを示します。
<i>STK1R</i>	任意の T9840 ドライブを示します。
<i>STK1R34</i>	3490E イメージ T9840 ドライブを示します。
<i>STK1R35</i>	3590 イメージ T9840 ドライブを示します。
<i>STK1RA</i>	任意の T9840A ドライブを示します。
<i>STK1RA34</i>	3490E イメージ T9840A ドライブを示します。
<i>STK1RA35</i>	3590 イメージ T9840A ドライブを示します。
<i>STK1RB</i>	任意の T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RB34</i>	3490E イメージ T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RB35</i>	3590 イメージ T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RAB</i>	任意の T9840A または T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RAB4</i>	3490E イメージ T9840A または T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RAB5</i>	3590 イメージ T9840A または T9840B ドライブを示します。
<i>STK1RC</i>	任意の T9840C ドライブを示します。
<i>STK1RC34</i>	3490E イメージ T9840C ドライブを示します。
<i>STK1RC35</i>	3590 イメージ T9840C ドライブを示します。
<i>STK1RD</i>	任意の T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RDE</i>	暗号化対応 T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RDN</i>	非暗号化対応 T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RD34</i>	非暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RD35</i>	非暗号化対応 3590 イメージ T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RDE4</i>	暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。
<i>STK1RDE5</i>	暗号化対応 3590 イメージ T9840D ドライブを示します。
<i>STK2P</i>	任意の T9940 ドライブを示します。
<i>STK2P34</i>	3490E イメージ T9940 ドライブを示します。
<i>STK2P35</i>	3590 イメージ T9940 ドライブを示します。

記録技法	説明
STK2PA	任意の T9940A ドライブを示します。
STK2PA34	3490E イメージ T9940A ドライブを示します。
STK2PA35	3590 イメージ T9940A ドライブを示します。
STK2PB	任意の T9940B ドライブを示します。
STK2PB34	3490E イメージ T9940B ドライブを示します。
STK2PB35	3590 イメージ T9940B ドライブを示します。
T10K	任意の T10000 ドライブを示します。
T10KN	すべての非暗号化 T10000 ドライブを示します。
T10KE	すべての暗号化 T10000 ドライブを示します。
T10KA	任意の T10000A ドライブを示します。
T10KAN	非暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1A34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1A35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T10KAE	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T10KB	任意の T10000B ドライブを示します。
T10KBN	非暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T1B34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1B35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T10KBE	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T1BE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。

記録技法	説明
<i>T1BE35</i>	暗号化対応 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
<i>T10KC</i>	任意の T10000C ドライブを示します。
<i>T10KCN</i>	非暗号化 3490E または 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>T1C34</i>	非暗号化 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>T1C35</i>	非暗号化 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>T10KCE</i>	暗号化対応 3490E または 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>TICE34</i>	暗号化対応 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>T1CE35</i>	暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
<i>Virtual</i>	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。

RECtech パラメータが指定されていない場合、デフォルトは MEDia パラメータの値に基づいて選択されます。次の表に、RECtech が省略されている場合に使用されるデフォルト値を示します。

表A.4 記録技法のデフォルト

入力された MEDia	RECtech のデフォルト
<i>LONGitud</i>	<i>LONGitud</i>
<i>ZLONGI</i>	<i>LONGitud</i>
<i>Standard</i>	<i>LONGitud</i>
<i>ECART</i>	<i>36track</i>
<i>ZCART</i>	<i>36Ctrack</i>
<i>DD3A、DD3B、DD3C、DD3D</i>	<i>DD3</i>
<i>STKR、STK1U、STKY</i>	<i>STK1R</i>
<i>STK2P、STK2W</i>	<i>STK2P</i>
<i>T10000T1、T10000TS、T10000KL</i>	
<i>T10000CT</i>	<i>T10KA</i> および <i>T10KB</i>
<i>T10000T2、T10000TT</i>	<i>T10KC</i>

入力された MEDia	RECtech のデフォルト
<i>Virtual</i>	<i>Virtual</i>

モデルタイプ (MODEl)

モデルタイプ、つまり *MODEl* により、トランスポート (ドライブ) またはドライブのモデル番号を指定できます。*MODEl* は *RECtech* と同じタイプの情報を提供しますが、ユーザーには記録技法ではなく、トランスポートモデルを指定する方が便利な場合もあります。

注:

- *MODEl* と *RECtech* は相互に排他的です。
- SL8500 ライブラリは、T9840、T9940、および T10000 シリーズドライブに関連付けられたモデルタイプのみをサポートします。
- このパラメータには複数の値を指定できます。それぞれの値はコンマで区切ります。

次の表に、有効なモデルタイプについて説明します。

表A.5 モデルタイプ

モデルタイプ	説明
4480	4480 (18トラック) ドライブを示します。
4490	4490 (36トラック Silverton) ドライブを示します。
9490	9490 (36トラック TimberLine) ドライブを示します。
9490EE	9490EE (36トラック Timberline EE) ドライブを示します。
SD3	SD-3 (RedWood) ドライブを示します。
9840	3490E イメージ T9840A ドライブを示します。
984035	3590 イメージ T9840A ドライブを示します。
T9840B	3490E イメージ T9840B ドライブを示します。
T9840B35	3590 イメージ T9840B ドライブを示します。
T9840C	3490E イメージ T9840C ドライブを示します。
T9840C35	3590 イメージ T9840C ドライブを示します。
T9840D	非暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。

モデルタイプ	説明
T9840D35	非暗号化対応 3590E イメージ T9840D ドライブを示します。
T9840DE	暗号化対応 3490E イメージ T9840D ドライブを示します。
T9840DE5	暗号化対応 3590E イメージ T9840D ドライブを示します。
T9940A	3490E イメージ T9940A ドライブを示します。
T9940A35	3590 イメージ T9940A ドライブを示します。
T9940B	3490E イメージ T9940B ドライブを示します。
T9940B35	3590 イメージ T9940B ドライブを示します。
T1A34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1A35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000A ドライブを示します。
T1AE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000A ドライブを示します。
T1B34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1B35	非暗号化対応 3590E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1BE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000B ドライブを示します。
T1BE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000B ドライブを示します。
T1C34	非暗号化対応 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
T1C35	非暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
T1CE34	暗号化対応 3490E イメージ T10000C ドライブを示します。
T1CE35	暗号化対応 3590 イメージ T10000C ドライブを示します。
Virtual	VTD (仮想テープドライブ) にマウントされた VTV (仮想テープボリューム) を示します。

付録B ライブラリの識別

各 ACS、LSM、および CAP には、LIBGEN の実行中に一意の識別番号が割り当てられます。ELS コマンドおよびユーティリティーでこの番号を使用して、特定の ACSid、LSMid、または CAPid を識別します。

ACSid

各 ACS は、00 - 99 の 2 桁の 10 進数識別子である ACSid (acs-id) で識別されます。

最初の ACS に 00 の識別子が与えられ、2 番目の ACS に 01 の識別子が与えられ、このようにしてすべての ACS に識別子が与えられます。

LSMid

各 LSM は、コロンで区切られた ACSid と LSM 番号から構成される LSMid (lsm-id) で識別されます。LSMid はライブラリのほかのすべての LSM から各 LSM を区別します。

形式は AA:LL です。ここでは:

- AA は、00 - 99 の 2 桁の 10 進数識別子である ACSid です。
- LL は、00 - 99 の 2 桁の 10 進数識別子である LSM 番号です。

CAPid

各ライブラリ CAP は、コロンで区切られた LSMid と CAP 番号から構成される CAPid (cap-id) で識別されます。形式は AA:LL:CC です。ここでは:

- AA:LL は LSMid です。
- CC は、00 - 11 の 2 桁の 10 進数識別子である CAP 番号です。

CAP 番号

有効な CAP 番号は次のとおりです。

- **00**
 - 4410 および 9310 LSM の場合、21 セルの標準 CAP、または右側の 40 セルの拡張 CAP
 - 9740 LSM の場合、固定ラック 14 セルまたは 10 セル取り外し可能マガジン CAP
 - SL3000 LSM の場合、これは 234 セルの AEM CAP です
 - SL8500 LSM の場合、CAP は 13 セルの取り外し可能マガジン 3 つから構成されます。
 - SL8500 LSM の場合、Bulk CAP は 12 セルの取り外し可能マガジン 3 つから構成されます。
- **01**
 - 4410 および 9310 LSM の場合、左側の 40 セルの拡張 CAP
 - SL3000 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 2 つから構成されるオプション CEM CAP です。
 - SL8500 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 3 つから構成されるオプション CAP です。
 - SL8500 LSM の場合、オプション Bulk CAP は 12 セルの取り外し可能マガジン 3 つから構成されます。
- **02**
 - 4410 または 9310 LSM 拡張 CAP の優先 CAP (PCAP)
 - SL3000 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 2 つから構成されるオプション CEM CAP です。
 - SL8500 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 3 つから構成されるオプション CAP です。
- **03、04、05**
 - SL3000 LSM の場合、これらは、13 セルの取り外し可能マガジン 2 つから構成されるオプション CEM/DEM CAP です。
- **06**
 - SL3000 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 2 つから構成される唯一の必須 BDM CAP です。
- **07、08、09、10**
 - SL3000 LSM の場合、これらは、13 セルの取り外し可能マガジン 2 つから構成されるオプション CEM CAP です。

- 11
 - SL3000 LSM の場合、これは、13 セルの取り外し可能マガジン 18 個から構成される右側の AEM CAP です。
 - SL3000 LSM の場合、これは 234 セルの AEM CAP です

パネル、行、列

特定の ELS コマンドおよびユーティリティを使用すると、ライブラリ内のパネル、行、および列を指定できます。

パネル

各パネルリストの要素は、1桁または2桁の10進数で、LSM タイプに固有です。

- LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn
 - 外壁パネルの場合は 0 - 11
 - 内壁パネルの場合は 12 - 19
- LSM モデル 9360 WolfCreek
 - モデル 9360050 の場合は 0 - 2
 - モデル 9360075 の場合は 0 - 3
 - モデル 9360100 の場合は 0 - 4
- LSM モデル 9740 TimberWolf
 - 0 - 2 (パネル 3 は、オプションのセルが存在している場合に含まれます)。
- LSM モデル SL3000 ライブラリ
 - アクセス拡張モジュール (AEM オプション) - パネル 0 - 1 および 22 - 23 はライブラリの両端に配置され、このリリースでは、ライブラリエンドキャップとしてのみ機能します。
 - 基本ドライブモジュール (BDM 必須) - パネル 12 - 13
 - ドライブ拡張モジュール (DEM オプション) - パネル 10 - 11 が BDM の左側に配置されます。
 - カートリッジ拡張モジュール (CEM オプション) - パネル 2 - 9 が BDM またはオプションの DEM の左側に配置されます。
 - カートリッジ拡張モジュール (CEM オプション) - パネル 14 - 21 が BDM の右側に配置されます。

- パーキング拡張モジュール (PEM) - デュアルロボットのみ - パネル番号は、その場所が BDM の右か左かに応じて、置き換えられる CEM と同じパネル番号になります。

注:

SL3000 ライブラリには、完全に構成されたライブラリ上でいちばん左のバックパネル (パネル 0) から始まり、いちばん右のフロントパネル (パネル 23) で終わる静的なパネル番号があります。パネル番号は、唯一の必要なモジュールである BDM (パネル 12 と 13) から始まり、左および右の外側に向けて付けられます。

- LSM モデル SL8500 ライブラリ
 - 基本ライブラリ: 2 - 10
 - 1 つの拡張パネル付き: 2 - 23 (拡張パネルは 8 - 15)
 - 2 つの拡張パネル付き: 2 - 26 (拡張パネルは 8 - 23)
 - 3 つの拡張パネル付き: 2 - 34 (拡張パネルは 8 - 31)
 - 4 つの拡張パネル付き: 2 - 42 (拡張パネルは 8 - 39)
 - 5 つの拡張パネル付き: 2 - 50 (拡張パネルは 8 - 47)

行

各 rowlist の要素は、LSM タイプに固有の 1 桁または 2 桁の 10 進数です。

- LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn
 - 外壁パネルの場合は 0 - 14
 - 内壁パネルの場合は 0 - 5 と 8 - 14。
 - 最大リストは 4 行 (約 100 セル) です。
- LSM モデル 9360 WolfCreek
 - 0 - 41 (すべてのモデル)。最大リストは 20 行 (約 100 セル) です。
- LSM モデル 9740 TimberWolf
 - パネル 0、2、および 3 では 0 - 41
 - パネル 1 では 36 - 41

注:

- パネル 2 の列 3 では、行 28-41 の行エントリのみ指定できます。
 - パネル 3 のセルはオプションです。
-

- LSM モデル SL3000 ライブラリ

- アクセス拡張モジュール - パネル 0 - 1 と 22 - 23 (この初期リリースではセルなし)
- 基本ドライブモジュール (BDM) - パネル 12 (バック)
 - 8 台のドライブが取り付けられた 12 - 47
 - 16 台のドライブが取り付けられた 23 - 47
 - 24 台のドライブが取り付けられた 35 - 47
- 基本ドライブモジュール (BDM) - パネル 13 (フロント)
 - フロントパネルでは 0 - 51
- ドライブ拡張モジュール (DEM) - パネル 10 (バック)
 - 8 台のドライブが取り付けられた場合は 12 - 47 が使用可能
 - 16 台のドライブが取り付けられた場合は 23 - 47 が使用可能
 - 24 台のドライブが取り付けられた場合は 35 - 47 が使用可能
 - 32 台のドライブが取り付けられた場合は使用可能な行はなし
- ドライブ拡張モジュール (DEM) - パネル 11 (フロント)
 - フロントパネルでは 0 - 51 が使用可能
- カートリッジ拡張モジュール (CEM) - すべてのパネル
 - フロントパネルとバックパネルの両方では 0 - 51 が使用可能
- パーキング拡張モジュール (PEM) - すべてのパネル
 - バックパネルとフロントパネルの両方では 0 - 51 が使用可能
- LSM モデル SL8500 ライブラリ
 - 標準パネルでは 0 - 26
 - ショートパネル (パネル 4、6 - 7) では 0 - 12
 - PTP パネル (パネル 5) では 6 - 12

列

各 columnlist の要素は、1 桁または 2 桁の 10 進数で、LSM タイプに固有です。

- LSM モデル 4410 および 9310 PowderHorn
 - 外壁パネルの場合は 0 - 23
 - 内壁パネルの場合は 0 - 19
- LSM モデル 9360 WolfCreek
 - 0 - 5 (すべてのモデル)。

- LSM モデル 9740 TimberWolf
 - パネル 0、2、3 (オプションのセルが存在している場合) では 0 - 3
 - パネル 1 では 0 - 2
- LSM モデル SL3000 ライブラリ
 - アクセス拡張モジュール (AEM) パネル 0 - 1 と 22 - 23
 - › 初期リリースでは使用可能な列はなし
 - 基本ドライブモジュール (BDM) - パネル 12 (バック)
 - › CEM または DEM が BDM の左側に追加されている場合は、0 が使用可能
 - › 8 台のドライブが取り付けられた場合は行 12 - 47 で 1-5 が使用可能
 - › 16 台のドライブが取り付けられた場合は行 23 - 47 で 1-5 が使用可能
 - › 24 台のドライブが取り付けられた場合は行 35 - 47 で 1-5 が使用可能
 - 基本ドライブモジュール (BDM) - パネル 13 (フロント)
 - › BDM の左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - › BDM の右側に拡張がある場合は行 39 - 51 で 5 が使用可能
 - › CAP が取り付けられた場合は行 0 - 38 で 1-3 が使用可能
 - › CAP が取り付けられた場合は行 39 - 51 で 1-4 が使用可能
 - › オプションのウィンドウ/オペレータパネルが取り付けられた場合は行 9 - 16 で 1-3 が使用不可
 - ドライブ拡張モジュール (DEM) - パネル 10 (バック)
 - › BDM の左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - › 8 台のドライブが取り付けられた場合は行 12 - 47 で 1-5 が使用可能
 - › 16 台のドライブが取り付けられた場合は行 23 - 47 で 1-5 が使用可能
 - › 24 台のドライブが取り付けられた場合は行 35 - 47 で 1-5 が使用可能
 - › 32 台のドライブが取り付けられた場合は使用可能な列はなし。
 - ドライブ拡張モジュール (DEM) - パネル 11 (フロント)
 - › DEM の左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - › CAP が取り付けられた場合は行 0 - 38 で 1-3 が使用可能
 - › CAP が取り付けられた場合は行 39 - 51 で 1-5 が使用可能
 - › ウィンドウが取り付けられた場合は行 9 - 16 で 1-3 が使用不可
 - › 標準 DEM パネルでは行 0 - 51 で 1-5 が使用可能
 - カートリッジ拡張モジュール (CEM) - パネル 2、4、6、8 (バック)

- 左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
- 標準 CEM バックパネルでは 1 - 5 が使用可能
- カートリッジ拡張モジュール (CEM) - パネル 3、5、7、9 (フロント)
 - 左側に拡張がある場合は 0 が使用可能
 - CAP が取り付けられた場合は行 0 - 38 で 1-3 が使用可能
 - CAP が取り付けられた場合は行 39 - 51 で 1-4 が使用可能
 - 標準 CEM フロントパネルでは 1 - 4 が使用可能
- カートリッジ拡張モジュール (CEM) - パネル 14、16、18、20 (バック)
 - 標準 CEM バックパネルでは 0 - 5 が使用可能
- カートリッジ拡張モジュール (CEM) - パネル 15、17、19、21 (フロント)
 - CAP が取り付けられた場合は行 0 - 38 で 0 - 3 が使用可能
 - CAP が取り付けられた場合は行 39 - 51 で 0-5 が使用可能
 - 標準 CEM フロントパネルでは 0 - 5 が使用可能
- パーキング拡張モジュール (PEM) - 左側の PEM
 - 2 台目のロボットが取り付けられているバックパネルおよびフロントパネルでは 3 - 5 が使用可能
- パーキング拡張モジュール (PEM) - 右側の PEM
 - 2 台目のロボットが取り付けられているバックパネルおよびフロントパネルでは 0 - 2 が使用可能
- LSM モデル SL8500 ライブラリ
- すべてのパネルタイプで 0 - 1

注:

SL3000 の列はすべて (左から右に) 0-5 の番号が付けられます。

付録C テープ管理システムインタフェース (SLUDR*) ルーチン

この付録では、HSC *SLUCONDB* ユーティリティと SMC *SMCUBX* ユーティリティによって呼び出される TMS (テープ管理システム) インタフェースルーチンについて説明します。これらのユーティリティは、使用されているテープ管理システムに基づいて、適切なルーチンを呼び出します。

ルーチンは、次のものがあります。

- *SLUDRCA1*
- *SLUDRRMM*
- *SLUDRTL*
- *SLUDRSMC*
- *SLUDRZAR*

これらのルーチンは、ELS のインストール中に生成された *SEALINK* ライブラリに含まれています。これらのルーチンから返されるデータは、SMC スクラッチ抽出ファイルのフォーマットに使用されます。

SLUDRCA1

SLUDRCA1 ルーチンは、CA-1 がテープ管理システムとして定義されるときに、A-1 テープ管理カタログ (TMC) を読み取るために呼び出されます。*SLUDRCA1* は、CA-1 マクロを利用して、CA-1 TMC のレイアウトをマッピングします。

CA-1 TMC をマッピングするマクロ名は、リリース 4.9 からリリース 5.0 に変更しました。どちらのマクロも *SLUDRCA1* ルーチンの末尾に配置され、CA-1 リリース 4.9 マクロというコメントが記されています。*SAMPLIB* で提供されている *SLUDRCA1* のバージョンは、CA-1 リリース 5.0 マクロを利用し、このマクロを使用してアセンブルされました。

- CA-1 リリース 4.9 以前を使用している場合は、リリース 5.0 のマクロをコメントアウトし、リリース 4.9 のマクロの列 1 でアスタリスクを削除し、このモジュール

ルを再アセンブルする必要があります。適切な CA-1 マクロライブラリがアセンブル *SYSLIB* 連結で使用されていることを確認してください。

- ローカルの変更を行わずに CA-1 リリース 5.0 を実行した場合、このモジュールは再アセンブルする必要がなく、このモジュールにこれ以上行う必要はありません。ローカルでの変更がある場合は、このモジュールを再アセンブルする必要があります。

SLUDRRMM

DFSMSrmm がテープ管理システムとして定義されている場合、*SLUDRRMM* ルーチンが、*DFSMSrmm* レポート抽出ファイルを読み取るために呼び出されます。*SLUDRRMM* は *DFSMSrmm* *EDGRVEXT* マクロを使用して、レポート抽出ファイルのレイアウトをマッピングします。

抽出ファイルで読み取られるフィールドには次のものがあります。

- *RVTYPE* (レコードタイプ)
- *RVVOLSER* (volser 番号)
- *RVLCDATE* (最終変更日付)
- *RVNAME* (ユニットタイプ)
- *RVSTATUS* (ボリュームステータス)
- *RVEXPDT* (ボリューム有効期限)
- *RVEXPDT0* (ボリュームの元の有効期限)
- *RVLABEL* (ボリュームラベルタイプ)。

SLUDRRMM は抽出を処理し、ボリューム記録情報を *SLUCONDB* に渡し、ここで *SLUADMIN* に入力されるスクラッチカードイメージが構築されます。ボリュームスクラッチステータス (スクラッチ/非スクラッチ) が続いて、抽出ファイルのボリュームレコードごとに CDS で更新されます。

RMM レポートの日付は、ユリウス歴の日付形式にする必要があります (*EDGHSKP* が *PARM 'DATEFORM(J)'* で実行)。RMM レポートに一覧表示される有効期限のないテープは、*SLUDRRMM* によってスキップされます。

SLUDRTLMM

SLUDRTLMM ルーチンは、CA-DYNAM/TLMS がテープ管理システムとして定義されているときに、CA-DYNAM/TLMS ボリュームマスターファイル (VMF) を読み取るた

めに呼び出されます。SLUDRTLTM は、CA-DYNAM/TLMS COPY メンバーを利用して、VMF のレイアウトをマッピングします。

SLUDRTLTM は、TLMS リリース 5.4 を実行している場合や、ローカルでの変更があった場合に、再アセンブルする必要があります。このモジュールを再アセンブルする場合は、適切な CA-DYNAM/TLMS ソースライブラリがアセンブル *SYSLIB* 連結で使用されていることを確認してください。

SLUDRSMC

SLUDRSMC ルーチンは、クライアントテープ管理システムから *SMCUBX* ユーティリティで作成された抽出ファイルを読み取るために呼び出されます。このファイルには、ボリュームシリアル番号と抽出の実行時間を含むレコードが、抽出されたスクラッチボリュームごとに 1 つ含まれます。

実行中、スクラッチ抽出の実行の時間 (GMT 形式) をボリュームの「最後の選択時間」に一致させることにより、正しいスクラッチの同期が確保されます。スクラッチ選択の実行後に選択されたすべてのボリュームは、*SLUCONDB* 処理でスキップされます。

SLUDRZAR

SLUDRZAR ルーチンは、テープ管理システムとして Zara が定義されているときに、アプリケーションプログラミングインタフェース (API) を呼び出して Zara のデータベースを読み取るために呼び出されます。

索引

...

記録技法 (RECtech) 値, 767, 767
構文

ACTivities コマンド, 192
ACTMVCgn コマンド, 196
ALLOCDf コマンド, 71, 203
ALLOcJob コマンド, 78
ARCHive コマンド, 198
BACKup コマンド, 214
CANcel コマンド, 215
CAPPref コマンド, 217
CDs コマンド, 220
CDSCREat コマンド, 222
CDSDAta コマンド, 226
CDSDEF コマンド, 227
CLean コマンド, 230
CMDDef コマンド, 82
COMMPath コマンド, 232
COMMtest コマンド, 83
CONFIg CLINK 文, 237
CONFIg CLUSTER 文, 240
CONFIg GLOBAL 文, 241
CONFIg HOST 文, 251
CONFIg RECLAIM 文, 252
CONFIg RTDpath 文, 255
CONFIg STORMNGR 文, 258
CONFIg TAPEPLEX 文, 259
CONFIg VTD 文, 261
CONFIg VTSS 文, 263
CONFIg コマンド, 235
CONSolid コマンド, 268
DBSERVer コマンド, 271
DEComp コマンド, 272
DELETSCR コマンド, 274
DIRBLD コマンド, 278
DISMOunt コマンド, 86
DISMount コマンド, 279
Display Acs コマンド, 283
Display ACTive コマンド, 284
Display ALI コマンド, 292
Display Cap コマンド, 293
Display CDS コマンド, 296

Display CLink コマンド, 297
Display CLUster コマンド, 301
Display CMD コマンド, 304
Display COMMPath コマンド, 305
Display CONFIG コマンド, 306
Display DRive コマンド, 87
Display DRives コマンド, 309
Display DRIVE_INFO コマンド, 313
Display EXceptns コマンド, 315
Display LINKSto コマンド, 318
Display LMUPDEF コマンド, 320
Display LOCKs コマンド, 320
Display Lsm コマンド, 323
Display Message コマンド, 325
Display MGMTDEF コマンド, 326
Display MIGrate コマンド, 326
Display MNTD コマンド, 330
Display MONitor コマンド, 331
Display MVC コマンド, 332
Display MVCPool コマンド, 339
Display OPTion コマンド, 342
Display PATH コマンド, 343
Display POLicy コマンド, 89
Display Queue コマンド, 345
Display RC コマンド, 90
Display REPlicat コマンド, 347
Display Requests コマンド, 348
Display RTD コマンド, 349
Display SCRAtch コマンド, 354
Display SEN コマンド, 358
Display SERVer コマンド, 92
Display SERVER コマンド, 360
Display SMC コマンド, 93
Display SRVlev コマンド, 361
Display Status コマンド, 362
Display STORCLas コマンド, 363
Display STORMNGR コマンド, 94
Display STORMNgr コマンド, 365
Display TAPEPlex コマンド, 95
Display TASKs コマンド, 367
Display THReshld コマンド, 369
Display Volser コマンド, 372
Display Volume コマンド, 96
Display VOLume_Info コマンド, 375
Display VSCRatch コマンド, 376

Display VTD コマンド, 378
Display VTSS コマンド, 381
Display VTV コマンド, 386
DRAIn コマンド, 390
DRCHKPT コマンド, 391
DRIVemap コマンド, 98
DRMONitr コマンド, 392
DRTEST CREATE コマンド, 396
DRTEST PRIMEprd コマンド, 401
DRTEST RESET コマンド, 403
DRTEST START コマンド, 404
DRTEST STOP コマンド, 405
EEXPORT コマンド, 406
EJect コマンド, 409
ENter コマンド, 415
EXECParm コマンド, 417
EXPORT コマンド, 418
FMTLOG コマンド, 421
Help コマンド, 99
HTTP コマンド, 101
IMPORT コマンド, 422
INITialize コマンド, 426
INVENTORY コマンド, 430
LIBGen コマンド, 433
LIMIT コマンド, 105
LIst コマンド, 108
LMUPATH 制御文, 438
LMUPDEF コマンド, 436
LOG コマンド, 110
LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文, 442
LOGUTIL GENAUDIT 文, 443
LOGUTIL LOCATE_VTV 文, 444
LOGUTIL UNDELETE 文, 445
LOGUTIL コマンド, 440
MEDVERfy コマンド, 447
MERGEcds コマンド, 450
MERGMFST コマンド, 455
METAdata コマンド, 114, 456
MGMTclas 制御文, 460
MGMTDEF コマンド, 459
MIGrate コマンド (フォーマット 1), 494
MIGrate コマンド (フォーマット 2), 496
MIGRSEL 制御文, 471
MIGRVTV 制御文, 474
MNTD コマンド, 497
MODify コマンド, 503
MONitor コマンド, 116
MOunt コマンド, 119
MOUNT コマンド, 508
MOUNTDef コマンド, 121
MOVE コマンド, 511
MSGDef コマンド, 126
MSGJob コマンド, 128
MVCATTR 制御文, 476
MVCDRain コマンド, 514
MVCMAINT コマンド, 517
MVCPLRPT コマンド, 523
MVCRPt コマンド, 529
OFFload コマンド, 539
OPTION TITLE 制御文, 541
OPTion コマンド, 541
POLicy コマンド, 132
POOLPARAM Change 制御文, 620
POOLPARAM 制御文, 609
READ コマンド, 140
RECall コマンド, 545
RECLaim コマンド, 548
RECONcil コマンド, 551
RECOVer コマンド, 557
RELease コマンド, 558
REPLaceall コマンド, 559
RESTore コマンド, 560
RESYNChronize コマンド, 143
Route コマンド, 144
SCRAtch コマンド, 561
SCREdist コマンド, 563
SCRPT コマンド, 566
SENter コマンド, 569
SERVer コマンド, 146
SET CLNPRFX コマンド, 571
SET COMPRFX コマンド, 573
SET DRVHOST コマンド, 576
SET EJCTPAS コマンド, 576
SET EJCTSKP コマンド, 578
SET FREEZE コマンド, 579
SET HOSTID コマンド, 581
SET HSCLEVel コマンド, 582
SET LOGFILE コマンド, 584
SET MAJNAME コマンド, 585
SET MIGOPT コマンド, 586

SET NEWHOST コマンド, 588
SET RMM コマンド, 589
SET SCRLABL コマンド, 590
SET SLIDRIVS コマンド, 592
SET SLISTATN コマンド, 597
SET SMF コマンド, 598
SET TAPEplex コマンド, 599
SET TCHNIQE コマンド, 600
SET VAULT コマンド, 602
SET VAULTVOL コマンド, 605
SET VOLPARM JOIN コマンド, 623
SET VOLPARM UPDATE コマンド, 619
SET VOLPARM コマンド, 607
SIMulate コマンド, 150
SLSMERGE 制御文, 453
SRVlev コマンド, 624
STOPMN コマンド, 625
STORclas 制御文, 478
STORLST 制御文, 485
STORMNGR コマンド, 153
STORSEL 制御文, 486
SWitch コマンド, 627
TAPEplex コマンド, 156
TAPEREQ 制御文, 169
TCPip コマンド, 160
TRace コマンド, 163, 631
TRACELKP コマンド, 633
TREQDef コマンド, 167
UEXIT コマンド, 176, 635
UNITAttr コマンド, 179
UNSCratch コマンド, 637
UNSElect コマンド, 638
USERMsg コマンド, 182
Vary コマンド, 639
Vlew コマンド, 643
VLEMAINT コマンド, 649
VMSG コマンド, 183
VOLPARM Change 制御文, 622
VOLPARM 制御文, 616
VOLPCONV コマンド, 652
VOLRpt コマンド, 653
VTSSLST 制御文, 489
VTSSSEL 制御文, 491
VTVMAINT コマンド, 666
VTVRpt BASIC コマンド, 671

VTVRpt COPIES コマンド, 675
VVAUDIT コマンド, 679
Warn コマンド, 680
XCLIENT コマンド, 186
XUDB コマンド, 188
行の値, 776
識別
 ACSid, 773
 CAPid, 773
 LSMid, 773
手順
 SET CLNPRFX, 572
 SET SLIDRIVS, 596
 SET TCHNIQE, 601
統合ユーザインタフェースユーティリティー
(SMCUUUI), 684
列の値, 777

あ

オプション

 Display コマンド, 280
 DRTEST コマンド, 395
 SET コマンド, 570
 VTVRpt コマンド, 670

か

コマンドインタフェース

 HSC, 64
 SMC, 60
 VTCS, 64

さ

サービスレベル, 68
スクラッチ変換ユーティリティー
(SLUCONDB), 739

た

テープ管理抽出ユーティリティー (SMCUDBX),
704
トレースフォーマットユーティリティー
(SMCUGTF), 719

は

パネルの値, 775

ま

メッセージ

CONSolid レポート, 269

監査レポート, 210

メディアタイプ (MEDIA) 値, 763, 763

や

ユーティリティ

HSC

SLUADMIN, 66, 723

スクラッチ変換ユーティリティ

(SLUCONDB), 739

SMC

POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティリティ (SMCUTRQ), 700

UI シミュレーションユーティリティ (SMCUSIM), 711

VSM コンソール SMF オフロードユーティリティ (SMCUSMF), 719

テープ管理抽出ユーティリティ (SMCUDBX), 704

トレースフォーマットユーティリティ (SMCUGTF), 719

統合ユーザーインタフェースユーティリティ (SMCUUI), 684

VTCS

RTV ユーティリティ, 751

ユーティリティのリターンコードおよびメッセージ、SMC, 684

ら

リターンコード

INVENTORY コマンド, 432

MVCMAINT コマンド, 521

SLUADMIN ユーティリティ, 733

SMC ユーティリティ, 684

VTVMaint コマンド, 669

リモート UI のサポート, 692

レポート

ARCHive (MOVEVTV の指定あり), 201

ARCHive (MOVEVTV の指定なし), 199

DELETSCR, 276

INVENTORY, 432

MEDVERfy, 449

MVCMAINT, 522

MVCPLRPT, 524

MVCRPt, 530

RECONcil, 553

SCRPT, 567

VOLRpt, 662

VTVMaint, 669

VTVRPt (COPIES), 677

VTVRPt (基本), 672

監査, 209

A

ACSid の識別, 773

ACTivities コマンド

JCL の要件, 194

パラメータ, 192

構文, 192

説明, 191

ACTMVCgn コマンド

パラメータ, 196

構文, 196

説明, 195

ACTMVCgn コマンド

JCL の要件, 197

ALLOCDef コマンド

パラメータ, 72

構文, 71

説明, 71

ALLOCJob コマンド

パラメータ, 79

構文, 78

説明, 78

ARCHive コマンド

パラメータ, 198

構文, 198

説明, 198

AUDit コマンド

パラメータ, 204

構文, 203

説明, 202

B

BACKup コマンド

JCL の要件, 215

パラメータ, 214

構文, 214

説明, 214

C

CANcel コマンド

パラメータ, 215

構文, 215

説明, 215

CAPid の識別, 773

CAPPref コマンド

パラメータ, 217

構文, 217

説明, 216

CDs コマンド

パラメータ, 221

構文, 220

説明, 220

CDSCREat コマンド

JCL の要件, 225

パラメータ, 223

構文, 222

説明, 222

CDSData コマンド

パラメータ, 226

構文, 226

説明, 225

CDSDEF コマンド

パラメータ, 228

構文, 227

説明, 227

CLean コマンド

パラメータ, 231

構文, 230

説明, 230

CMDDef コマンド

パラメータ, 82

構文, 82

説明, 82

COMMPath コマンド

パラメータ, 232

構文, 232

説明, 231

COMMtest コマンド

パラメータ, 84

構文, 83

説明, 83

CONFIg コマンド

パラメータ, 235

構文, 235

説明, 234

CONFIg CLINK 文

パラメータ, 238

構文, 237

説明, 237

CONFIg CLUSTER 文

パラメータ, 240

構文, 240

説明, 240

CONFIg GLOBAL 文

パラメータ, 242

構文, 241

説明, 241

CONFIg HOST 文

パラメータ, 251

構文, 251

説明, 250

CONFIg MVCVOL 文, 252

CONFIg RECLAIM 文

パラメータ, 252

構文, 252

説明, 252

CONFIg RTDpath 文

パラメータ, 256

構文, 255

説明, 254

CONFIg STORMNGR 文

パラメータ, 258

構文, 258

説明, 257

CONFIg TAPEPLEX 文

パラメータ, 259

構文, 259

説明, 259

CONFIg VTD 文

パラメータ, 261

構文, 261

説明, 261

CONFIg VTSS 文

パラメータ, 264

構文, 263

説明, 263

CONFIg VTVOl 文, 267

CONSolid コマンド

パラメータ, 268

構文, 268

説明, 268

D

DBSERVer コマンド

パラメータ, 271

構文, 271

説明, 270

DEComp コマンド

パラメータ, 272

構文, 272

説明, 272

DELETSCR コマンド

パラメータ, 275

構文, 274

説明, 274

DIRBLD コマンド

パラメータ, 278

構文, 278

説明, 277

DISMOunt コマンド

パラメータ, 86

構文, 86

説明, 85

DISMOUNT コマンド

パラメータ, 279

構文, 279

説明, 278

Display コマンド

オプション, 280

説明, 280

Display Acs コマンド

パラメータ, 283

構文, 283

説明, 283

Display ACTive コマンド

パラメータ, 284

構文, 284

説明, 284

Display ALl コマンド

パラメータ, 293

構文, 292

説明, 292

Display Cap コマンド

パラメータ, 293

構文, 293

説明, 293

Display CDS コマンド

パラメータ, 296

構文, 296

説明, 296

Display CLink コマンド

パラメータ, 298

構文, 297

説明, 297

Display CLUster コマンド

パラメータ, 301

構文, 301

説明, 300

Display CMD コマンド

パラメータ, 304

構文, 304

説明, 303

Display COMMPath コマンド

パラメータ, 305

構文, 305

説明, 304

Display CONFIG コマンド

パラメータ, 306

構文, 306

説明, 306

Display DRive コマンド

パラメータ, 87

構文, 87

説明, 87

Display DRIVE_INFO コマンド

パラメータ, 313

構文, 313

説明, 312

Display DRives コマンド

パラメータ, 310

構文, 309

説明, 309

Display EXceptns コマンド

パラメータ, 316

構文, 315

説明, 315

Display LINKSto コマンド
パラメータ, 318
構文, 318
説明, 318

Display LMUPDEF コマンド
パラメータ, 320
構文, 320
説明, 320

Display LOCKs コマンド
パラメータ, 321
構文, 320
説明, 320

Display Lsm コマンド
パラメータ, 323
構文, 323
説明, 322

Display Message コマンド
パラメータ, 325
構文, 325
説明, 324

Display MGMTDEF コマンド
パラメータ, 326
構文, 326
説明, 326

Display MIGrate コマンド
パラメータ, 327
構文, 326
説明, 326

Display MNTD コマンド
パラメータ, 330
構文, 330
説明, 330

Display MONitor コマンド
パラメータ, 331
構文, 331
説明, 331

Display MVC コマンド
パラメータ, 332
構文, 332
説明, 332

Display MVCPool コマンド
パラメータ, 339
構文, 339
説明, 338

Display OPTion コマンド
パラメータ, 342
構文, 342
説明, 342

Display PATH コマンド
パラメータ, 343
構文, 343
説明, 343

Display POLicy コマンド
パラメータ, 90
構文, 89
説明, 89

Display Queue コマンド
パラメータ, 346
構文, 345
説明, 345

Display RC コマンド
パラメータ, 91
構文, 90
説明, 90

Display REPlicat コマンド
パラメータ, 347
構文, 347
説明, 346

Display Requests コマンド
パラメータ, 348
構文, 348
説明, 348

Display RTD コマンド
パラメータ, 349
構文, 349
説明, 349

Display SCRAtch コマンド
パラメータ, 354
構文, 354
説明, 353

Display SEN コマンド
パラメータ, 358
構文, 358
説明, 358

Display SERVer コマンド
パラメータ, 92
構文, 92
説明, 92

Display SERVER コマンド
パラメータ, 360

構文, 360
説明, 360

Display SMC コマンド
パラメータ, 93
構文, 93
説明, 93

Display SRVlev コマンド
パラメータ, 361
構文, 361
説明, 361

Display Status コマンド
パラメータ, 362
構文, 362
説明, 362

Display STORCLas コマンド
パラメータ, 363
構文, 363
説明, 363

Display STORMNGR コマンド
パラメータ, 94
構文, 94
説明, 94

Display STORMNgr コマンド
パラメータ, 365
構文, 365
説明, 365

Display TAPEplex コマンド
パラメータ, 95
構文, 95
説明, 95

Display TASKs コマンド
パラメータ, 367
構文, 367
説明, 367

Display THReshld コマンド
パラメータ, 370
構文, 369
説明, 369

Display Volser コマンド
パラメータ, 372
構文, 372
説明, 372

Display Volume コマンド
パラメータ, 97
構文, 96
説明, 96

Display VOLume_Info コマンド
パラメータ, 375
構文, 375
説明, 375

Display VSCRatch コマンド
パラメータ, 376
構文, 376
説明, 376

Display VTD コマンド
パラメータ, 378
構文, 378
説明, 378

Display VTSS コマンド
パラメータ, 381
構文, 381
説明, 381

Display VTV コマンド
パラメータ, 386
構文, 386
説明, 385

DRAin コマンド
パラメータ, 390
構文, 390
説明, 390

DRCHKPT コマンド
パラメータ, 391
構文, 391
説明, 391

DRIVemap コマンド
パラメータ, 98
構文, 98
説明, 97

DRMONitr コマンド
パラメータ, 392
構文, 392
説明, 392

DRTEST コマンド
オプション, 395

DRTEST CREATE コマンド
JCL の要件, 398
パラメータ, 397
構文, 396
説明, 396

DRTEST PRIMEprd コマンド

パラメータ, 401
構文, 401
説明, 400
DRTEST RESET コマンド
パラメータ, 403
構文, 403
説明, 402
DRTEST START コマンド
パラメータ, 404
構文, 404
説明, 404
DRTEST STOP コマンド
パラメータ, 405
構文, 405
説明, 405

E

EEXPORT コマンド
パラメータ, 407
構文, 406
説明, 406
EJect コマンド
パラメータ, 410
構文, 409
説明, 409
ENter コマンド
パラメータ, 415
構文, 415
説明, 415
EXECParm コマンド
パラメータ, 417
構文, 417
説明, 416
EXPORT コマンド
JCL の要件, 420
パラメータ, 419
構文, 418
説明, 418

F

FMTLOG コマンド
JCL の要件, 422
パラメータ, 421
構文, 421
説明, 421

H

Help コマンド
パラメータ, 100
構文, 99
説明, 99
HSC
コマンドインタフェース, 64
サービスレベル, 68
HTTP コマンド
パラメータ, 102
構文, 101
説明, 101

I

IMPORT コマンド
JCL の要件, 425
パラメータ, 423
構文, 422
説明, 422
INITialize コマンド
JCL の要件, 428
パラメータ, 427
構文, 426
説明, 426
INVENTORY コマンド
パラメータ, 430
リターンコード, 432
構文, 430
説明, 429

L

LIBGen コマンド
JCL の要件, 434
パラメータ, 433
構文, 433
説明, 433
LIMIT コマンド
パラメータ, 106
構文, 105
説明, 104
Llst コマンド
パラメータ, 109
構文, 108
説明, 108
LMUPATH 制御文

パラメータ, 438
構文, 438
説明, 438
LMUPDEF コマンド
パラメータ, 436
構文, 436
説明, 436

LOG コマンド
パラメータ, 111
構文, 110
説明, 110

LOGUTIL コマンド
パラメータ, 441
構文, 440
説明, 440

LOGUTIL FOR_LOSTMVC 文
パラメータ, 442
構文, 442
説明, 442

LOGUTIL GENAUDIT 文
パラメータ, 443
構文, 443
説明, 443

LOGUTIL LOCATE_VTV 文
パラメータ, 444
構文, 444
説明, 444

LOGUTIL UNDELETE 文
パラメータ, 446
構文, 445
説明, 445

LSMId の識別, 773

M

MEDVERfy コマンド
パラメータ, 447
構文, 447
説明, 447

MERGEcds コマンド
JCL の要件, 452
パラメータ, 450
構文, 450
説明, 450

MERGMFST コマンド
JCL の要件, 456

パラメータ, 455
構文, 455
説明, 455

METAdata コマンド
パラメータ, 457
構文, 114, 456
説明, 113, 456

MGMTclas 制御文
パラメータ, 461
構文, 460
説明, 460

MGMTDEF コマンド
パラメータ, 459
構文, 459
説明, 458

MIGrate コマンド (フォーマット 1)
パラメータ, 494
構文, 494

MIGrate コマンド (フォーマット 2)
パラメータ, 496
構文, 496

MIGRSEL 制御文
パラメータ, 472
構文, 471
説明, 471

MIGRVTV 制御文
パラメータ, 474
構文, 474
説明, 474

MNTD コマンド
パラメータ, 497
構文, 497
説明, 496

MODEl タイプ (MODEl) 値, 771, 771

MODify コマンド
パラメータ, 504
構文, 503
説明, 502

Modify コマンド、MSP, 61, 65

MONitor コマンド
パラメータ, 116
構文, 116
説明, 115

MOunt コマンド
パラメータ, 119

構文, 119
説明, 119
MOUNT コマンド
 パラメータ, 509
 構文, 508
 説明, 508
MOUNTDef コマンド
 パラメータ, 121
 構文, 121
 説明, 120
MOVE コマンド
 パラメータ, 512
 構文, 511
 説明, 511
MSGDef コマンド
 パラメータ, 126
 構文, 126
 説明, 126
MSGJob コマンド
 パラメータ, 129
 構文, 128
 説明, 128
MVCATTR 制御文
 パラメータ, 476
 構文, 476
 説明, 476
MVCDRain コマンド
 パラメータ, 515
 構文, 514
 説明, 514
MVCMAINT コマンド
 JCL の要件, 521
 パラメータ, 518
 リターンコード, 521
 構文, 517
 説明, 517
MVCPLRPT コマンド
 パラメータ, 523
 構文, 523
 説明, 523
MVCRPt コマンド
 パラメータ, 529
 構文, 529
 説明, 529

O

OFFload コマンド
 JCL の要件, 540
 パラメータ, 539
 構文, 539
 説明, 539
OPTion コマンド
 パラメータ, 542
 構文, 541
 説明, 541
OPTION TITLE 制御文
 パラメータ, 541
 構文, 541
 説明, 540

P

PARMLIB、コマンドの発行, 67
POLicy および TAPEREQ バッチテストユーティ
 リティー (SMCUTRQ), 700
POLicy コマンド
 パラメータ, 134
 構文, 132
 説明, 131
POOLPARM 制御文
 パラメータ, 610
 構文, 609
 説明, 608
POOLPARM Change 制御文
 パラメータ, 621
 構文, 620
 説明, 620

R

READ コマンド
 パラメータ, 140
 構文, 140
 説明, 140
RECall コマンド
 パラメータ, 546
 構文, 545
 説明, 545
RECLaim コマンド
 パラメータ, 548
 構文, 548
 説明, 548

RECONcil コマンド
パラメータ, 551
構文, 551
説明, 550

RECOVer コマンド
パラメータ, 557
構文, 557
説明, 556

RELease コマンド
パラメータ, 558
構文, 558
説明, 558

REPLaceall コマンド
パラメータ, 559
構文, 559
説明, 559

REStore コマンド
JCL の要件, 560
パラメータ, 560
構文, 560
説明, 560

RESYNChronize コマンド
パラメータ, 143
構文, 143
説明, 142

Route コマンド
パラメータ, 144
構文, 144
説明, 144

RTV ユーティリティー
JCL の要件, 755
RTV LISTONLY の一覧表示, 760
RTV 圧縮解除の一覧表示, 761
パラメータ, 752
レポートメッセージ, 755
構文, 751
説明, 751

S

SCRAtch コマンド
パラメータ, 561
構文, 561
説明, 561

SCREdist コマンド
パラメータ, 564

構文, 563
説明, 562

SCRPT コマンド
パラメータ, 567
構文, 566
説明, 566

SDD ユーティリティーコマンド
CONFig の例, 695
EXPORT の例, 698
IMPORT の例, 697
MERGMST の例, 699
パラメータ, 694
構文, 693
説明, 693

SENter コマンド
パラメータ, 569
構文, 569
説明, 569

SERVer コマンド
パラメータ, 146
構文, 146
説明, 145

SET コマンド
オプション, 570

SET コマンド、説明, 569

SET CLNPRFX コマンド
パラメータ, 572
構文, 571
説明, 571

SET COMPRFX コマンド
パラメータ, 573
構文, 573
説明, 573

SET DRVHOST コマンド
パラメータ, 576
構文, 576
説明, 575

SET EJCTPAS コマンド
パラメータ, 577
構文, 576
説明, 576

SET EJCTSKP コマンド
パラメータ, 578
構文, 578
説明, 578

SET FREEZE コマンド
パラメータ, 579
構文, 579
説明, 579

SET HOSTID コマンド
パラメータ, 581
構文, 581
説明, 581

SET HSCLEVel コマンド
パラメータ, 583
構文, 582
説明, 582

SET LOGFILE コマンド
パラメータ, 584
構文, 584
説明, 583

SET MAJNAME コマンド
パラメータ, 585
構文, 585
説明, 585

SET MIGOPT コマンド
パラメータ, 587
構文, 586
説明, 586

SET NEWHOST コマンド
パラメータ, 588
構文, 588
説明, 588

SET RMM コマンド
パラメータ, 589
構文, 589
説明, 589

SET SCRLABL コマンド
パラメータ, 591
構文, 590
説明, 590

SET SLIDRIVS コマンド
パラメータ, 592
構文, 592
説明, 591

SET SLISTATN コマンド
パラメータ, 597
構文, 597
説明, 597

SET SMF コマンド
パラメータ, 599
構文, 598
説明, 598

SET TAPEplex コマンド
パラメータ, 600
構文, 599
説明, 599

SET TCHNIQE コマンド
パラメータ, 601
構文, 600
説明, 600

SET VAULT コマンド
パラメータ, 603
構文, 602
説明, 602

SET VAULTVOL コマンド
パラメータ, 605
構文, 605
説明, 605

SET VOLPARM コマンド
JCL の要件, 608
パラメータ, 607
構文, 607
説明, 606

SET VOLPARM JOIN コマンド
JCL の要件, 623
パラメータ, 623
構文, 623
説明, 623

SET VOLPARM UPDATE コマンド
JCL の要件, 620
パラメータ, 619
構文, 619
説明, 619

SIMulate コマンド
パラメータ, 151
構文, 150
説明, 149

SLICREAT ユーティリティー
DASD スペースの計算, 739
DD 文, 736
JCL, 735
スタンバイ CDS のみの作成, 738
実行, 737
検証, 738

SLSMERGE 制御文
パラメータ, 453
構文, 453
説明, 452

SLUADMIN ユーティリティー
リターンコード, 733, 734
出力, 728
呼び出し, 723
定義文, 726
実行パラメータ, 724
説明, 66, 723

SLUCONDB ユーティリティー, 739

SLUDR* ルーチン, 781

SLUDRCA1 ルーチン, 781

SLUDRRMM ルーチン, 782

SLUDRSMC ルーチン, 783

SLUDRTLML ルーチン, 782

SMC コマンドインタフェース, 60

SMCCMDS データセット, 62

SMCPARMS データセット, 62

SMCUDBX ユーティリティー, 704

SMCUGTF ユーティリティー, 719

SMCUSIM ユーティリティー, 711

SMCUSMF ユーティリティー, 719

SMCUTRQ ユーティリティー, 700

SMCUUUI ユーティリティー, 684

SRVlev コマンド
パラメータ, 624
構文, 624
説明, 624

STOPMN コマンド
パラメータ, 625
構文, 625
説明, 625

STORclas 制御文
パラメータ, 478
構文, 478
説明, 477

STORLST 制御文
パラメータ, 486
構文, 485
説明, 485

STORMNGR コマンド
パラメータ, 154
構文, 153

説明, 153

STORSEL 制御文
パラメータ, 487
構文, 486
説明, 486

SWitch コマンド
パラメータ, 627
構文, 627
説明, 626

T

TAPEplex コマンド
パラメータ, 157
構文, 156
説明, 155

TAPEREQ 制御文
パラメータ, 170
構文, 169
説明, 169

TCPip コマンド
パラメータ, 160
構文, 160
説明, 160

TMS インタフェース (SLUDR*) ルーチン, 781

TRace コマンド
パラメータ, 164, 631
構文, 163, 631
説明, 162, 631

TRACELKP コマンド
パラメータ, 633
構文, 633
説明, 633

TREQDef コマンド
パラメータ, 167
構文, 167
説明, 167

U

UEXIT コマンド
パラメータ, 177, 636
構文, 176, 635
説明, 176, 634

UNITAttr コマンド
パラメータ, 180
構文, 179

説明, 178
UNSCratch コマンド
 パラメータ, 637
 構文, 637
 説明, 637
UNSElect コマンド
 パラメータ, 639
 構文, 638
 説明, 638
USERMsg コマンド
 パラメータ, 182
 構文, 182
 説明, 181
UII (統合ユーザーインタフェース) のサポート,
59
UII シミュレーションユーティリティ
(SMCUSIM), 711

V

Vary コマンド
 パラメータ, 640
 構文, 639
 説明, 639
Vlew コマンド
 パラメータ, 644
 構文, 643
 説明, 643
VLEMAINT コマンド
 パラメータ, 649
 構文, 649
 説明, 649
VMSG コマンド
 パラメータ, 183
 構文, 183
 説明, 183
VOLPARM 制御文
 パラメータ, 617
 構文, 616
 説明, 616
VOLPARM Change 制御文
 パラメータ, 622
 構文, 622
 説明, 621
VOLPCONV コマンド
 JCL の要件, 652
 パラメータ, 652
 構文, 652
 説明, 652
VOLRpt コマンド
 JCL の要件, 662
 パラメータ, 655
 構文, 653
 説明, 653
VSM コンソール SMF オフロードユーティリ
ティ (SMCUSMF), 719
VTCS コマンドインタフェース, 64
VTSSLST 制御文
 パラメータ, 489
 構文, 489
 説明, 488
VTSSSEL 制御文
 パラメータ, 491
 構文, 491
 説明, 490
VTVMAINT コマンド
 パラメータ, 666
 リターンコード, 669
 構文, 666
 説明, 666
VTVRpt コマンド
 オプション, 670
VTVRpt コマンド、説明, 670
VTVRpt BASIC コマンド
 パラメータ, 671
 構文, 671
 説明, 670
VTVRpt COPIES コマンド
 パラメータ, 676
 構文, 675
 説明, 675
VVAUDIT コマンド
 パラメータ, 679
 構文, 679
 説明, 679

W

Warn コマンド
 パラメータ, 681
 構文, 680
 説明, 680

X

XCLIENT コマンド

パラメータ, 186

構文, 186

説明, 185

XUDB コマンド

XUDB データセット, 189

パラメータ, 188

構文, 188

説明, 188